

目 次

総合教育科目

1. 人文科学関係	3
2. 社会科学関係	3
3. 自然科学関係	4
4. 系列外科目	6

語学科目

1. 英語	15
2. ドイツ語	29
3. フランス語	32
4. 中国語	35
5. スペイン語	38
6. イタリア語	41
7. 朝鮮語	42
8. ロシア語	43

専門科目

哲学専攻	45
倫理学専攻	51
哲学・倫理学専攻共通科目	57
美学美術史学専攻	61
日本史学専攻	77
東洋史学専攻	83
西洋史学専攻	89
民族学考古学専攻	95
国文学専攻	99
中国文学専攻	107
英米文学専攻	111
独文学専攻	127
仏文学専攻	135
図書館・情報学専攻	145
社会学専攻	157
心理学専攻	173
教育学専攻	181
人間科学専攻	191

全専攻共通科目	203
---------------	-----

諸研究設置科目

教職課程	227
言語文化研究所特殊講座	228
メディア・コミュニケーション研究所	234
体育研究所設置講座	251
福澤研究センター設置講座	259
外国語教育研究センター設置講座	262
慶應義塾大学在学研修プログラム	265
国際センター設置講座	267
情報処理教育室設置講座	303
知的資産センター設置講座	305
日本語・日本文化教養センター設置講座	307

総合教育科目（系列科目）

人文科学関係

【04】【93】美術（4）

西洋建築様式史

講師 金山 弘 昌

授業科目の内容：

古代から近代にいたる西洋建築史の基礎を理解し、西欧文化についての教養を深めることを目的に、各時代や各地域の建築について、おもに様式の変遷という観点から概説します。また授業ではスライドを使用します。

テキスト：

特に使用しません。プリントを配布します。

参考書：

- ・『カラー版 西洋建築様式史』熊倉洋介・末永航他 美術出版社、1995。
- ・『ヨーロッパ建築史』西田雅嗣編・昭和堂、1998。

【04】【93】歴史（4）

日本中世社会の諸相

講師 池和田 有 紀

授業科目の内容：

中世の人々はどうのような社会に生き、どのような思考を持っていたのでしょうか。

それを探るために、まずは中世史研究の方法について学びます。

講義では、研究の根幹をなす史料の種類や読解方法を解説し、いくつかの史料について読解を実践します。

それらをもとに、最近の研究成果をふまえつつ、日本の中世社会の実像に迫ってみたいと思います。特に、政治と文化の関係を深く探ることになるでしょう。

前近代社会の諸相を学ぶことで、多様な文化への理解が求められる現代社会に対応しうる、柔軟な歴史的思考を目指します。

テキスト：

随時プリントを配布します。

社会科学関係

【04】【93】近代思想史（4）

ドイツ近代社会思想における自由と共同

講師 針 谷 寛

授業科目の内容：

ヨーロッパ社会思想史における「市民社会」概念の変遷を手がかりとしながら、西欧近代社会とその思想の諸問題を検討する。材料としてはカント、ヘーゲル、マルクスなどドイツ近代の思想家の社会理論を重点的に取り上げる予定。これらの理論を扱うに際しては歴史的なコンテキストの中で考察することに努める。

テキスト：

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書：

講義の中で紹介する。

【04】【93】経済学（4）

「経済学はなぜ必要か」 経済学部 教授 山 田 太 門

授業科目の内容：

今日の社会ではほとんど全ての生活が経済取引と関係している。そこで経済とは何かを明らかにするため経済学がどのように形成されているかを説明する。経済学で用いられる用語が一般の言葉とどのように異なるかに注意しながら経済学な基本的な考え方を紹介する。次に経済学が現実の様々な現象を説明するためにどのように応

用されているかを公共経済学を例として解説する。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

授業中に指示する予定。

【04】【93】法学（憲法を含む）（4）

現代社会と法

講師 松 浦 聖 子

授業科目の内容：

社会構造の複雑化、財の流通の加速化により、我々を取り巻く法的環境は極めて多様化している。一人の人間は、国民として、家族として、個人として、または消費者として、あるいは専門家として様々な形で法と関わる。特に、個人が社会と関わる上で避けることのできない「契約」という法的人間関係は、現代社会が直面する諸問題と密接な関連がある。本講義は、法学入門としての基礎知識の理解を徹底するとともに、現代社会に特徴的な法的問題に対する理解を深めることを目標とする。

テキスト：

- ・伊藤正巳・加藤一郎編「現代法学入門」有斐閣双書
- ・コンパクトタイプの六法（2005年度版）

参考書：

- ・碧海純一「法と社会」中公新書
- ・田中成明「法的空間」東京大学出版会

自然科学関係

【04】基礎化学（2）（秋学期）

【93】化学（2）（秋学期）

化学反応がなぜ起こるのか

教授 大 場 茂

授業科目の内容：

周期表をみてわかる通り、この宇宙に存在する元素は高々100種類にしかなしません。そのうち、水素H、炭素C、窒素N、酸素Oなど特定のもの重要な働きをしています。化学物質は単体と化合物とに分類されますが、化合物の基本単位は一般には分子です。分子中の原子は電子を媒介として結合しています。元素はその電子配置の違いにより、それぞれ個性をもっており、それが化学結合や反応性に反映します。この講義の到達ゴールは、化学の基本的な考え方（概念）がわかるようになることです。

テキスト：

講義では毎回プリントを配布します。

【04】【93】人類学（4）

人類の過去・現在・未来

講師 吉 田 俊 爾

授業科目の内容：

今、人類を取り巻く問題をざっと挙げてみても、環境破壊・人口増加・食料不足・人種差別・民族紛争・テロリズムなど、枚挙にいとまがない。残念ながらいずれの問題もいわゆるヒトがつくり出している問題なのである。そして、各問題は有機的に関連し合っている。世界の政治・経済機構、研究・教育機関、宗教組織、そして個人までもがこれらの問題の解決を第一の課題におかずして、その解決は遠くおよびないであろう。人類を取り巻く上記の諸問題を解決できなければ、人類は滅亡に至ることは今や明白である。今日、やっと環境に関する世界会議が開催されるようになった。今後の課題としては、これからの諸問題に対して個人個人が何をしなければならぬか、何ができるかということである。そのためには、まず私達が自分自身を知ることである。そのために生物としてのヒトを探求するのが形質人類学である。授業では、基本的な人体構造の理解を軸として、形質人類学の課題（ヒトの起源と進化、変異、日本人の起源など）、日常のトピックスについて解説します。

テキスト：

片山一道、五百部裕他：「人間史をたどる」 自然人類学入門

朝倉書店

参考書：

- (1) 中原 泉著：歯の人類学 医歯薬出版
- (2) 片山一道著「古人骨は生きている」角川書店
- (3) 竹原直道編，坂下・藤田・松下・下山著：「むし歯の歴史」砂書房

【04】【93】数 学(4)

行動科学における数学 講 師 松 岡 勝 男

授業科目の内容：

数学は、自然科学，工学はもとより，社会科学，人文科学におけるいろいろな現象の解明のための基本的な道具としての役割を果たしている。そこで，テーマとしては，

- (1) 現代数学の最も重要な基礎をなし，哲学や論理学の現代化にも著しい影響を与えている「集合論」
- (2) 確率論をはじめとして，物理学，工学，統計学，制御理論，学習理論，OR など，非常に広汎な分野に現れる「エントロピーとマルコフ連鎖」
- (3) 経済，社会，政治などで現れる競争状態の数学的モデルを扱う「ゲームの理論」

などについて，適宜選択の上，「行動科学における数学」という立場から講義する。

テキスト：

特に指定しません。

【04】生命科学概論(2)(春学期)

【93】生 物 学(2)(春学期)

命の巧みさを探る 個体の統一を図る三つの制御システム

教 授 中 島 陽 子

授業科目の内容：

..... [転んですりむいたところが化膿して腫れて熱を持ってきて，痛い] といった子供時代の思い出を多くの人が持っているのではないのでしょうか。またその痛いという記憶があるから，痛い目にあわないように努める。もし痛みを感じられなかったらどうでしょう。想像したことがありますか。...

ここに述べたような [感じる] [腫れる] [熱がでる] [記憶する] [行動する] [想像する] ことをしながら，私たちは生きています。一見いやな，熱が出たり，痛かったりということも，制御システムとして個体の維持に機能しています。

一方で，すっかり一般にも定着した遺伝情報分子 DNA，これが私たちの生を規定しているとされています。この化学物質のことがわかれば，私たちのことはすっかり理解できるようになるのでしょうか。

この講義では生命を，この情報分子と，私たちが一つの個体としてのハーモニーを保つための制御系；神経系・内分泌系・免疫系の，関係系として捉えた視点で解説をしていこうと考えています。私たちが特別意識することもなく【生きている】ことのおかげで営まれている生命活動が，いかに巧妙なシステムであるかを感じ取ってほしいと願っています。私たちが意識する【自己】の基礎にある，生物学的【自己】へ思いをはせてください。

テキスト：

使用しません

参考書：

[現代生命科学入門] 小比賀・中島著 慶応大学出版 2001年 2,200円

【04】【93】統 計 学(4)

統計的「推定」と「検定」の基礎 教 授 糸 賀 雅 児

授業科目の内容：

テレビ視聴率の買収問題が報道されたとき，関東地区での視聴率が600世帯のモニター調査にもとづいて算出されていることが明らかにされました。本当に600世帯程度の調査で，正確な視聴率が分かるのか疑問に思った人も多いことでしょう。

選挙報道では，投票終了後，開票作業が始まって間もなくして「当選確実」が出たりすることがあります。これは，投票所でのいわゆる「出口調査」にもとづくものなのですが，どうして早々と投票結

果を予測できるのでしょうか。その精度は，はたしてどの程度のものなのでしょう。

こんな日常生活上のトピックを材料にして，統計学におけるものの見方，考え方を説明します。なかでも，「推定」と「検定」の基本的な考え方と手続きを習得することが主な目標です。統計データをコンピュータ処理するための技法について詳しく解説するわけではありませんので，ご注意ください。

テキスト：

P. G. ホーエル著，浅井晃・村上正康訳『初等統計学 原書第4版』培風館，1981年。

系列外科目

【04】【93】基礎情報処理(M)(2)(春学期)

講 師 池 内 淳

授業科目の内容：

Windows，および主要な Windows アプリケーションの操作方法について講義と演習を行います。

基本的に，これまでコンピュータにあまり触れたことのない方々を想定して，パソコンの入門レベルを学習する予定ですが，履修者の方々の経験要望を勘案して，適宜，講義内容の改訂を行います。

テキスト：

とくにありません。教材は講師が準備いたします。

参考書：

必要に応じて，講義中に紹介いたします。

映画演劇論 (春学期)

映画(史)入門

講 師 藤 崎 康

授業科目の内容：

この講座は，「映画演劇論 (秋学期)」とは別個の科目であるが，本講座では，フランスのリュミエール兄弟以来の世界映画史をざっと概説しつつ，古今東西の重要作品をビデオやDVDで紹介する(百聞は一見に如かず・習うより慣れる)。あわせて，「映画の父」D・W・グリフィスが完成させたクローズ・アップ，ロング・ショット，切り返し，移動撮影，アイリス・イン/アウト，カット・バック(並行モンタージュ)などの映画技法を解説しながら，ハリウッド古典映画，ドイツ表現主義，イタリア・ネオレアリズモ，フランス・ヌーヴェルヴァーグ，日本映画の黄金期，中国映画，香港映画，台湾映画，イラン映画，ポルトガル映画などにも微かに言及する。しかし理想的には，「森を見せて森を見せる」のではなく，「森を見せて木を見せる」のでもなく，「木を見せて森を見せる」授業をめざしたい。この場合の森とはむしろ，「映画史」という迷宮であり，木とは1本のフィルムやその断片のことである。

テキスト：

特になし。

参考書：

教室にて指示。

映画演劇論 (秋学期)

世界映画の現在進行形

講 師 藤 崎 康

授業科目の内容：

この講座は，「映画演劇論 (春学期)」とは別個の科目であるが，本講座では原則的に，<映画の現在>に焦点を絞りたい。たとえば中国のジャ・ジャンクー，ニ・イン，台湾のホウ・シャオシェン，エドワード・ヤン，日本の黒沢清(明ではない)，青山真治，アメリカのガス・ヴァン・サント，M・ナイト・シャマラン，クリント・イーストウッド.....等々。しかし今や，フィルム・センターその他のレトロスペクティブ，サイレント作品をはじめとする多くの古典映画のDVD化などによって(「ツタヤ」は世界映画の贅沢なアーカイブだ!)，古い映画/新しい映画という区別が不可能になったことも事実だ。すなわち，時代の文脈から解き放たれた新旧の映画を，ま

さに刻々に生起する<現在>として生きることが、われわれには可能になったのである……。何はともあれ、映画を、今この<事件>として体験しようではないか。時間の許すかぎり、ビデオやDVDで新旧さまざまな映画を紹介したいが、本講座における中心的な問いとは、映画の<(反テレビ的な)面白さ>とは何か、である。

テキスト：

特になし。

参考書：

教室にて指示。

【04】映画演劇論 (2)(春学期)

【93】映画演劇論 (2)(春学期)

戯曲の面白さを知る

講師 佐野 語郎

授業科目の内容：

「劇的なものとは何か。劇的狀況とは…」を考えながら、紀元前の古典劇から現代劇までの代表作数本を対象に、その作品構造を解き明かします。その際、上演された舞台や映画化された作品についてもビデオ上映の機会を設け、より具体的かつ多角的に鑑賞できるようにします。また、創作現場の視点から、映画と演劇のモチーフ・構成・演出の技法の違いを同一の物語を用いて比較対照することでその独自性を考え、さらに、事件史実のドラマ化の例(『アンネの日記』)も紹介します。後半には、戯曲という文学の面白さと実際に演出された作品を深く理解するために、現代劇の名作1本(『夕鶴』)にじっくり取り組み、鑑賞能力を高めます。

テキスト：

講義資料プリントを配布します。文庫本1冊を教材として使用する予定です。

【04】映画演劇論 (2)(秋学期)

【93】映画演劇論 (2)(秋学期)

感動の要因をつかむ

講師 佐野 語郎

授業科目の内容：

優れた舞台や映画を観た時の強い感動はどこから来るのでしょうか？まず何よりも私たち自身の内奥に潜んでいるもの、そして劇作家や映画監督などのエネルギーや精神、さらに両者が共有する時代や社会状況にその源が在るに違いありません。この講義では、観客と創作者との関係にも着目しながら、感動の要因を探っていきます。まず数人の劇作家や演出家・映画監督の仕事を通して、創作の苦闘と喜びに触れ、さらに、日本の古典芸能や外国の名作映画や舞台のいくつかを選び、その魅力を具体的に味わうために、ビデオ鑑賞もします。また、日本演劇学会/演劇教育プロジェクトにおいて発表した「単位制総合高校における演劇の授業」の実践指導内容を紹介します。

テキスト：

講義資料プリントを配布します。

【04】ロシア文学 (4)

【93】ロシア文学 (4)

20世紀のロシア文学概観

講師 沼野 恭子

授業科目の内容：

日露戦争、ロシア革命、スターリン体制下の粛清、第二次世界大戦、ブレジネフの停滞の時代、ペレストロイカ、そしてソ連崩壊激しい政治の嵐が吹き荒れていたロシアの20世紀。そんな中でロシアの作家・詩人たちは、どんな作品を生みだしていたのか。どんな苦悩を抱えていたのか。

歴史に翻弄された文学者たちの生の軌跡をたどり、彼らの主要な作品を紹介しながら、20世紀のロシア文学の意味を考える。

テキスト：

とくになし。適宜、資料を配布します。

参考書：

藤沼貴他『新版 ロシア文学案内』(岩波文庫)800円

【04】アラビア語 (2)

【93】アラビア語 (2)

アラビア語の世界とその文化

講師 師岡カリーマ、エルサムニー

授業科目の内容：

アラビア語で文章を読み、自分を表現する力を付け、アラブ世界の文学や芸術、風俗、人々の生活等、多様な文化について幅広い知識を身に付けてもらう事を目的としています。

テキスト：

特に指定しません。プリントを配付します。

参考書：

- ・「恋するアラブ人」師岡カリーマ エルサムニー著、白水社
- ・「アジア読本/アラブ」大塚和夫編、河出書房新社

【04】アラビア語 (2)

【93】アラビア語 (2)

アラビア語入門

講師 佐藤 健太郎

授業科目の内容：

アラビア語は、中東・北アフリカに広がるアラブ諸国の公用語であると同時に、コーランの言語として全世界のイスラーム教徒にとって特別な意味を持つ言語でもある。この授業では、文字の読み方・書き方からはじめて、アラビア語の初級文法を習得することを目的とする。

テキスト：

佐々木淑子『アラビア語入門』翔文社

その他、適宜プリントを配布する。

参考書：

初回授業時に参考文献表を配布する。

【04】イタリア語中級A(2)

【93】特別イタリア語(2)

講師 堤 康徳

授業科目の内容：

対象は「イタリア語」既習者。あるいは、「初級」または「入門」を履修したのち、使用テキストの未習部分を独習した学生で、読解への意欲があれば履修可能です。

文法の知識をさらに深めること、そしてその知識を活かしながら簡単な文献を講読することを授業の目標とします。

春学期は、検定試験の受験希望者のために、過去の問題集を解きながら中級、上級文法の説明をするつもりです。

テキスト：

プリント

【04】イタリア語中級B(2)

【93】イタリア語(中級)(2)

[春学期]訪問講師 ジョエ、イニャツィオ、

[秋学期]未定

授業科目の内容：

必修科目の「イタリア語」を履修した後、ひきつづきイタリア語との接触を保ち、運用力を維持することを望む学生にふさわしい科目です。

レベルとしては、「初級B」「初級C」に続く会話クラスです。

テキスト：

《ESPRESSO》後半

参考書：

イラストいっぱい!イタリア語単語集(白水社)

【04】イタリア語上級 (2)

【93】イタリア語(上級)(2)

Confronti e lettura (読解と討論)

講師 ビオンディ, マルコ

授業科目の内容:

必修科目の「イタリア語」, 系列外科目の「中級」を履修した者, およびそのレベルの学生が対象です。社会, 文化, 時事問題あるいは文学, 映画, 音楽, 美術など, 毎回異なるテーマのテキストを, まずは読解し, さらに, それに即してイタリア語で討論し, 語彙を増やすとともに, 幅広い領域に及び高度な会話力を身につけることを目指します。

テキスト:

プリント

参考書:

日本語から引く知っておきたいイタリア語(小学館)

【04】英語インテンシブ A(2) (月曜4限/木曜4限)

Intensive Writing 月曜4限 講師 高木 眞佐子

授業科目の内容:

去年9月からアメリカで実施されている TOEFL iBT に対応した, ライティング力重視の新しいスタイルの TOEFL 対策を行います。現行の computer-based-TOEFL を進化させた iBT では, 新しいスタイル(リスニング・リーディングとの融合型)のライティングが導入されるからです。

もちろん, 現行のコンピュータ形式のテストも充分踏まえたいとは考えていますが, 授業ではパラグラフ・ライティングを基本から見直し, ネイティブから見て論理的な文章をどのように構築すれば良いかを重点的に指導します。日本人が犯し易い論理展開の落とし穴などにも対応していくので, どちらのテストを受験するかに関わり無く, TOEFL で通用するライティング力を身につけたいと思っている人に適しています。

テキスト:

適宜コピーを配布します。

参考書:

The Official Guide To The New TOEFL iBT (McGraw-Hill's TOEFL iBT) Educational Testing Service (Unknown) TOEFL テストライティング・ゼミ ザブリンストンレビュー(著)

【04】英語インテンシブ B(2) (月曜4限/木曜4限)

【93】英語インテンシブ (4)

TOEFL リーディング 木曜4限 講師 星 美季

授業科目の内容:

星: 実際に外国で暮らしたり, 英語でコミュニケーションを図ろうとする学生を対象に, ティーム・ティーチングにより「使える英語」の習得を目指します。毎回クラスの前半はアメリカ文化のビデオ教材を使いテスト形式のリスニングを練習します。後半は TOEFL のリーディングが軸になりますが他技能をも伸ばすプラクティスを織り込みながら進める予定です。徐々にインプットの英語とアウトプットの英語の融合を目指します。

テキスト:

『最新アメリカ文化を映す』成美堂 2,100円

【04】英語インテンシブ A(2) (水曜2限/金曜2限)

【93】英語インテンシブ (4)

Intensive English

水曜2限 助教授 スネル, ウィリアム J.

授業科目の内容:

This will be a course in English debating, covering a number of issues relevant to the present day in Japan and the rest of the world. Topics will be given each week, which must be researched before debate activities in the classroom.

テキスト:

No set text is required for this course, but advice regarding how to research the above topics will be provided on a regular basis. Students will need to keep a notebook/file in which to record their research and notes in preparation for debates.

参考書:

Ditto the above, but a good English-Japanese/Japanese-English dictionary will be very useful.

【04】英語インテンシブ B(2) (水曜2限/金曜2限)

【93】英語インテンシブ (4)

Discussing and Writing About Donald Keene's Autobiography

金曜2限 講師 ウェブスター, ダニエル

授業科目の内容:

Donald Keene は, もっとも有名なそしてもっとも優れた日本文学の英訳者と言われています。また, 日本および日本文化を英語圏の人々へ紹介する事でも第一級と呼ばれるうちの一人です。このクラスでは彼の自伝, *On Familiar Terms: To Japan and Back, a Lifetime Across Cultures* を読み, それについて書きディスカッションをします。日本の社会や文化また異文化コミュニケーションについて英語で書いたり話したりする力を向上させたい学生には, 特に興味の持てるクラスになるのではないかと思います。

テキスト:

テキストについては, 第一回目の授業の時にお話します。

【04】古典ギリシア語初級(2)

【93】古典ギリシア語(初級)(2) 講師 小池 和子

授業科目の内容:

古典ギリシア語の初等文法を学びます。

テキスト:

水谷智洋著『古典ギリシア語初歩』(岩波書店)

その他適宜補助プリントを配布。

【04】古典ギリシア語中級(2)

【04】古典ギリシア語文献講読 (2)

【93】古典ギリシア語(中級)(2) 講師 我妻 勇樹

授業科目の内容:

ホメロス『イリアス』より, ヘクトルとアンドロマケの別れ(巻6, 440-96行), ヘクトルの最期(巻22, 21-375行), アキレウスとブリアモス(巻24, 468-676行)等を無理なく読み進めます。

テキスト:

こちらでプリントを配布します。

【04】古典ギリシア語中級(2)

休講

【04】現代ギリシア語初級(2)

【93】現代ギリシア語(初級)(2) 教授 西村 太良

授業科目の内容:

現在ギリシアを中心に使用されている現代ギリシア語を初歩から学んでいく。現代ギリシア語は文法, 語彙の点で古典ギリシア語を基とするが, 発音, 語法において違いも多い。東地中海地域の中世以降の複雑な歴史に興味を持つ人, カザンツァキスやセフェリスなどに代表される近現代ギリシア文学に関心のある人, そして単にギリシアを旅してみたい人にもぜひ学んでほしい。授業はテサロニキ大学の外国人のための現代ギリシア語の教科書を使用して進めていく。語彙がついているので当面, 辞書は必要ない。

テキスト:

「外国人のための現代ギリシア語」(テサロニキ大学)

【04】現代ギリシア語中級(2)

【93】現代ギリシア語(中級)(2)

講師 ヴォルドカ・ゾイー

授業科目の内容:

初級に続いて現代ギリシア語の文法, 読解, 会話を学んでいく。教科書は初級と同じものを使用するが, 随時プリントを配布し, 生きたギリシア語に接する機会を設けていきたい。

テキスト:

「外国人のための現代ギリシア語」(テサロニキ大学)

参考書:

D. N. Starvropoulos: Oxford Greek-English Learners Dictionary (Oxford University Press)

【04】スペイン語中級(2)

【93】スペイン語(中級)(2)

ラテンアメリカの文化と社会 助手(有期) 井 関 睦 美

授業科目の内容:

この授業はスペイン語を修了した学生, もしくはそれと同等の読解力を有する学生を対象とします。これまでに学習した文法や講読の知識を活用しながら, ラテンアメリカに関する理解を深めるとともに, さらなる読解力の向上を目指します。おもな作業は, 中南米の歴史, 文化, 社会などに関するやや難易度の高い新聞・雑誌記事や書籍から抜粋した文章の講読になります。補足教材として, トピックに関連する視聴覚資料も使用していくつもりです。

テキスト:

講師がハンドアウトを用意します。

参考書:

授業中に適宜紹介します。授業には各自, 辞書を持参すること。

【04】中国語上級(2)

【93】中国語(上級)(2)

講師 陳 浩

授業科目の内容:

本講義はビデオ, オーディオ教材を用いて少し高いレベルの中国語会話を学んでいきます。学習者に中国語の社会状況, 文化, 風土, 人情及び中国人の考え方などについて, 中国語で議論出来る能力を身につけ, 中国語の世界を作り, 豊富な表現力を養成したいです。

テキスト:

開講する時学習者のレベルによって決める。

参考書:

なし

【04】中国語会話 A(2)

【93】中国語会話 (2)

講師 趙 暉

授業科目の内容:

テキストは会話中心となっているが, 豊富な語彙と充実した文法内容が織り込まれているので, その特徴を生かして, この講義を受講することによって会話力をより高めると同時に, 作文もより自由に書けるようになることが期待できます。

テキスト:

『話す中国語 北京篇 3』, 『話す中国語 北京篇 4』朝日出版社, 董燕, 遠藤光暁著

参考書:

小学館『中日辞典』(2003年版)(電子辞書の使用も認めます)

【04】中国語会話 B(2)

【93】中国語会話 (2)

講師 蘇 英 霞

授業科目の内容:

本課程以提高学生の漢語听说能力を主, 重点は通過多種形式的听说訓練培养学生运用所学词语及句式, 围绕某一话题进行对话和表达意见的能力。教材拟选用中国天津南开大学出版社出版的准中级汉语会话课本《交流》(上)。具体教学内容与教学进度将根据学生的实际水平及学习要求进行适当调整。

テキスト:

プリントを配布します。

【04】朝鮮語上級

【93】朝鮮語(上級)

教授 野村伸一

授業科目の内容:

本塾文学部設置の「朝鮮語」10単位を終えた程度の学習者を対象とします。

具体的には新聞や論文を自力で読み解けることが前提となります。授業では, 映画をみながら, そのシナリオを読みます。

2006年度は, 郭在容監督作品『僕の彼女を紹介します』を取りあげます。

毎回, 5ページほどの進捗でおこないます。各自, 準備してください。

【04】トルコ語 (2)

【93】トルコ語(2)

初級会話

講師 ヤマンラール, アイドゥン

授業科目の内容:

初級文法を学習しながらトルコ語の初級会話を修得する。

テキスト:

プリントを配布します。

【04】トルコ語 (2)

【93】トルコ語(2)

講師 松井真子

授業科目の内容:

トルコ語の初級文法を学びます。

テキスト:

開講時に配布します。

【04】日本語 A(2)

【93】日本語 (2)

講師 菅野高志

授業科目の内容:

留学生対象の日本語の授業です。

- ・日本語の文章を正確に読み, 内容について議論する練習をします。
- ・発表, 発表用レジュメの作成, レポートの作成をします。

テキスト:

指定しません。講義資料プリントを配布します。

【04】日本語 B(2)

【93】日本語 (2)

留学生のための日本語

講師 戸所久美子

授業科目の内容:

- ・文学部の学生として, 知っておきたい日本の歴史や社会についての知識を身につける。
- ・上記内容の理解, 発表, 討論等を通して, 留学生として必要な日本語能力の習得と向上をめざす。

テキスト:

担当者作成教材

参考書:

授業中, 適宜指示する。

【04】ペルシア語 (2)

【93】ペルシア語(2) 講師 ハギギ, セパンタ

授業科目の内容:

この授業は初めてペルシア語を学ぶ者を対象とし、ペルシア語の文字、発音から入り初歩的なペルシア語会話の習得を目標とします。実用会話ができるようになるには基本的な文法事項の習得も必要であり、授業の前半は文法、後半では会話の練習を考えています。

テキスト:

岡崎正孝著 基礎ペルシア語(大学書林, 4000円)

【04】ラテン語初級(2)

【93】ラテン語(初級)(2) 古典期のラテン語文法学習 講師 平田 真

授業科目の内容:

インド・ヨーロッパ語の一員であると共にロマンス諸語の母体言語でもあるラテン語の基礎文法修得を目標とする。

テキスト:

樋口・藤井共著『詳解ラテン文法』(研究社)

参考書:

逸身喜一郎著『ラテン語のはなし』(大修館書店)

【04】ラテン語中級(2)

【93】ラテン語(中級)(2) 法学部 教授 マクリン, ニール B.

授業科目の内容:

This is an intermediate course, designed to help students already familiar with Latin grammar gain the confidence and skills necessary to master read continuous texts. Materials will be decided at the start of the course, depending on the interests and level of the participants. Students will translate the Latin into Japanese, but must be prepared to have some explanations given in English (or at least, should not be afraid of the teacher's English or of his peculiar Japanese).

【04】ロシア語中級(2)

【93】ロシア語(中級)(2) 講師 佐野 洋子

授業科目の内容:

このクラスはロシア語文法をひととおり終了した(一年間学んだ)方を対象とします。文法を復習しながらテキストを精読していき、ロシア語を正確に読む力をつけていきたいと思います。

テキスト:

プリントを配布します。

参考書:

辞書(できれば博友社, 岩波書店, 研究社のもの)を用意して下さい。

【93】研究情報処理(人文科学)(4)

【93】研究情報処理(社会科学)(4)

休講

【04】【93】人の尊厳(社会と人権)(2)(春学期)

[春] 教授 関場 武
教授 安藤 寿康

授業科目の内容:

われわれを取り巻く国内外の情勢を眺めたとき、今日ほど人の尊厳の基盤が危機に瀕している時代はないのではないだろうか。国際情勢においては民族間の葛藤と危機が、国内には少年犯罪や同和問題、性差別や児童虐待、さまざまなハラスメント、いじめなどの諸問題が、また科学の領域では遺伝子情報や生命操作に絡む倫理的危機が、そしてわが心のうちには自分自身の尊厳を見いだすことができずにさまようわれわれ一人一人の精神的・思想的危機がある。こ

れらは一見別々の問題のようでありながら、実は互いに連動しあっている。この講義は「知識を得る」ための授業ではない。これら多様な問題に自ら立ち向かっておられるさまざまな分野の専門家に毎回登場いただき、自らの経験や問題状況を語っていただく。学生諸君には、これらの問題について考え、さらにはみずからふり返って自分自身の考え方や生き方を問い直すきっかけをつかんでいただくことが、この講義の目的である。

【04】蒐集の科学 (4)

教授 宮坂 敬造

【93】蒐集の科学 (4)

教授 巽 孝之

蒐めるといふ情熱と識知の深層

教授 宇沢 美子

助教授 岡原 正幸

助教授 大串 尚代

授業科目の内容:

私たち人間は何かを集めずにはいられない性をもつようである。有形無形を問わず、人は自分を取り巻く世界から次々と何かを選び出し、手元に留めようとする。意図してこれを行えば、それはすなわち 蒐集 の始まりであろう。

人はなぜ 蒐集 するのだろうか? 精神分析からの着想では、肛門期ということに関連して考察するのであるが、この問題を、精神的な人類進化史という領域で考えてみてもよからう。近年の進化心理学・進化考古学系の諸研究を参照すると、人の心性は新石器時代以降、基本的に変化していないという。彼らは、アルタミラ洞窟の絵などに例証されるごとく、宗教・芸術の萌芽を経てトーテムズムという類比分類体系による世界観を獲得したとみられる。周囲の自然の博物学的直観的理解と周りの人間関係に関する社会的理解、そして物の物理的振る舞いの直観的理解を重ねあわせ、認知的流動による類比的理解を発現させ、それによって人類は、世界観を展開させて、周囲の環界に象徴的に適応する仕方です生きしていくこととなった。蒐集 癖という人間の性が発生したのは、こうした認知的流動による世界観の獲得の手だてと関連しているのであろう。なにかにつかれたように蒐集する人の心的世界に、その人の世界認識の性癖がうかがわれるのは、起源的には、それが新石器時代のトーテムズムの心性に基礎をおいているから、ともみることができないのではないかとはいっても、新石器の人類は狩猟採集で生活していたから、食料の備蓄はほそぼそとは行ったかもしれないが、その日その日の食料獲得で日々事足りていて、蒐集癖の大本にある蓄積癖はそれほど発現されなかったであろう。おそらく、粗放農耕以後の灌漑の発見等による農業革命を経てのち、食料の蓄積・集積の拡張としての蒐集癖が本格的に発達したのではあるまいか。人類史の上では、蒐集癖は、余剰生産物が大規模に発生し、社会が階層化複雑化し、他者を征服して国家を形成し、それにみあう新しい世界観の形成獲得とあいまって強く発現してくると思われる。

世界観形成による適応という観点を発展させれば以下のようにも考えられる。芸術作品、歴史資料、科学標本、あるいは思い出のようなものであれ、それらは蒐集者とそれを取り巻く世界との接点の記録であり、蒐集者が手探りで描き出す世界の似姿となる。そして同時に蒐集者自身とその時代の姿、さらには限界をも映し出すだろう。ルネサンス期イタリアでは、メディチ家を始めとする有力者や教皇達が古典古代の美術品を蒐集し、18-19世紀には西欧列強の権勢のもと、地球上の各所から無数の標本・資料が持ち帰られた。前者が近代ヨーロッパの美意識形成に大きな影響を与えたこと、後者が博物学の興隆を支え、その中からラマルクやダーウィンの進化論が形成されたことは、いずれも良く知られるところである。

以上のように、ルネサンス期から啓蒙主義の時代にかけて世界観の転換・拡大が重なり、それに見合せて、蒐集の情熱がさまざまなかたちで燃え上がった姿が今日たどりうるわけだが、啓蒙主義以前の欧州ですでに包括的蒐集観が内示されていて、しかもそこには、現代のインターネット時代の蒐集観転換の未来展望の指針をも含んでいるという説もある。さかのぼれば、アリストテレスはすでに博物学的な蒐集を行って経験的観察をすすめており、近代に特徴的な蒐集技法や蒐集観の一部の起源はすでに紀元前に認められるともいえる。蒐集にまつわるこうした歴史的タイム・スパンの広がりという問題も含め、蒐集の科学 の研究は、とりもなおさず、蒐集する人間たちと彼らの生きた時代が示した認識座標系を探り、さらには、

これまでの変化と未来への変化の方向を探る、という「蒐めるという情熱と識知の深層」Epistemics of Collecting の研究となるといえよう。

先人の蒐集の成果は、博物館、美術館、図書館といった施設や、辞典、全集、アンソロジー、さらには各種アーカイブなどの形で、私たちの現在を構成し、また規定している。しかしこうしたコレクションも、静止したままではいられない。常に変化を強いられ、また同時に新たな蒐集の形が生み出されているのである。蒐集という営みは、過去にどのようなメカニズムでいかなるヴィジョンを提示してきたのか、その痕跡たる蒐集物は現在にどのような作用を残しているのか、いま行われつつある蒐集はいかなる姿を取りつつあるのか……。歴史、世界のイメージ・記憶の構成としての蒐集とアーカイブ化によって立ち現れる蒐集物の意味連関、その存立機制をどう解き明かすのか……。こうした問いとともに、蒐集する者（主体）と蒐集される物（者／対象）とが分岐する境界面の歴史的形成と変動、蒐集の世界観に底在する内と外の分岐点と文化の顕在性と潜在性をめぐる相補性という問題設定分析軸も重要となろう（蒐集者たちは各人が自分の文化背景を深層として蒐める、といえる点では全体としては深層の共通性を示すであろうが、それにもかかわらず各人の蒐集とその世界観には、内と外の区分、表〔顕在文化〕と裏〔潜在文化〕に関連して、さまざまな多様性が現れると思われる。蒐集者のなかには当該文化社会における逃避や悪趣味、逸脱が特徴となる蒐集に傾く人々も散見されるが、本年度は、潜在文化にかかわる蒐集についても一部焦点をあてる予定）。

私たちのオムニバス講座では、2001年度「幸福の逆説」、2002年度「リスクの誘惑」に引き続き、過去2年間に渡り「情の技法」として情を制御する営みに注目してきた。昨年度は「蒐集の科学」の題で、蒐集とは「情」が「知」と分かちがたく交錯する中で生まれる営為と位置づけ、ルネッサンス期の美術蒐集、メディチ家コレクション、博物学から自然科学への転換、恐竜の蒐集とアメリカ精神史、「未開」の蒐集、骨董や民芸品の蒐集、精神疾患の芸術作品の蒐集、ジャポニズム以降の日本物の蒐集にみる西洋とアメリカ、戦争の時代と美術館、国立図書館の蒐集の論理、インターネットの時代の蒐集と分類・辞書の大改訂、人形・オモチャの蒐集、などの話題を扱ってきた。本年度は、この試みをさらに追求することとするが、とくに物にかぎらず人間に関わる代理物の蒐集、人間の諸経験の蒐集という観点にも広げるなど、扱う蒐集物の範囲を広げ、また、音楽家、実作者、映像資料収集家など、昨年度では扱えなかった分野を広くカバーし、蒐集の科学のかたちとしての結論を出していきたい。

文学部共通講義として組むこの講義の狙いの背景には、専攻横断的な学際的機運と発想とをこの講義にちりばめたいという担当者たちの願いがある。蒐集の科学を構想し考える際に、17専攻所属の学生がそれぞれの専攻の訓練にもとづきながらも、知見を他専攻の領域までひろげ、専攻を超えたもうひとつの共通軸を形成するきっかけとなれればと思う。なお、この講義は、毎回、担当者たちがコーディネーターとして塾内塾外の講師を紹介し、その講師が一回かぎり講義、その後、担当者・学生とともに質疑・討論を行うというオムニバスのかたちで進められる。各講師たちとも事前・事後に討議・意見の交換を行い、次の講義の話題へ担当者たちがフィードバックしていくという過程も、この形式には含まれている。文学部共通講義としておこなう特色を十分考慮し、各回講師の選定は、人文社会科学領域全体にわたってさらには一部自然科学系の講義・発想もとりいれバランスよくおこなえるように5人の担当者の意見をすりあわせて準備をおこなった〔講師の一部をあげれば、作家・井上雅彦氏（オリジナル・アンソロジー小説の蒐集と編集）、民俗学者・小泉凡氏（小泉八雲研究：フォークロアの蒐集と編集）、学芸員・松本品子氏、キュレーター・渡辺葉子氏（美術館関係の蒐集問題）、アニメデザイナー・小倉信也氏（アニメのコンセプトなど製作関係）〕。

参考書：

巽孝之 他 編著『幸福の逆説』（慶應義塾大学出版会、2005）、坂本光他編著『情の技法』（同、2006年）

語 学 科 目

英語

【04】英語 A(2)

【93】英語第 (指定)(2)

リーディングスキル

助教授 辺 見 葉 子

授業科目の内容:

さまざまなジャンル、スタイルの英文を読み、適格な読解力を養成することが目的です。イギリスの General Certificate of Secondary Education という試験準備のための教材を使用します。

テキスト:

Steven Croft, *Revise GCSE: English and English Literature* (Letts Educational, 2005)

参考書:

授業中に随時紹介します。

【04】英語 A(2)

【93】英語第 (指定)(2)

アメリカ環境文学の古典を読む

講 師 黒 崎 真 由 美

授業科目の内容:

アメリカの生物遺伝学者 Rachel Carson (1907-64) の名著 *Silent Spring* (1962) を読みます。この作品は昨今頻りに議論されるようになった環境問題をもっとも早い時期に論じたものです。精読することによって英文の読解力を養成することが第一の目的ですが、同時にエコロジーや地球環境保護の問題を考えたいと思います。

テキスト:

Rachel Carson, *Silent Spring* (英宝社)

【04】英語 A(2)

【93】英語第 (指定)(2)

アメリカ短編小説を読む

助教授 大 串 尚 代

授業科目の内容:

毎回 1 作品ずつ短編小説を読み、内容・ボキャブラリーを確認するとともに、設定、キャラクター、文体、トーン、テーマなど「文学作品」を読み、解釈していくうえでヒントになることについて考察する。作品を読後、受講者には毎回 response paper を提出してもらうことで、さらにその作品に対する理解を促す。関連した映像作品を紹介したり、他作品との比較を行うなど、受講者には積極的に授業に参加してもらいたい。取り上げる作家は Edgar Allan Poe, O. Henry, Ambrose Bierce, Kate Chopin, Langston Hughes, James Thurber, Ray Bradbury, Shirley Jackson, Alice Walker など。

テキスト:

Yvonne Collioud Sisco, *American 24-Karat Gold: 24 Classic American Short Stories*(New York: Longman, 2001)

【04】英語 A(2)

【93】英語第 (指定)(2)

英文読解力の向上を目指す

講 師 有 賀 明 子

授業科目の内容:

中級以上の英文を読み、各種の問題を解くことで読むためのスキルを身につけ、語彙力と読解力の向上を目指すことがこの授業の目的である。

テキストの読み物は、教育、家族、医学倫理、環境問題など多岐の分野にわたり、私たちの知的好奇心を十分に満足させてくれるものである。各章ごとに必須語彙などの小テストを実施し、関連記事が見つければそれを読んで学習の成果を確認したい。

また、季節の行事(ハロウィーン、クリスマスなど)、あるいは注目に値する出来事(昨年度は「マイケル・ジャクソンの裁判」

「黒田清子さんの結婚」「建築物耐震データ偽造」など)に関する英字新聞記事を授業の一部を利用して読む。

テキスト:

Lorraine C. Smith, Nancy Nici Mare, *Topics for Today*, 3rd ed, (Thomson/Heinle)

【04】英語 A(2)

【93】英語第 (指定)(2)

アメリカ短編小説を読む

教 授 宇 沢 美 子

授業科目の内容:

古典から現代まで、アメリカの代表的な作家の短篇作品を読みます。いろいろな文体にふれ、基本的な英語の読解力や理解力をのばすとともに、短編小説の面白さを味わいたい。

テキスト:

Joseph Kelly, ed., *Seagull Reader: Stories* (New York: W.W.Norton, 2001).

【04】英語 A(2)

【93】英語第 (指定)(2)

文化論を読む

講 師 藤 原 雅 子

授業科目の内容:

鏡を巡る英文エッセイ *Reflections on Mirrors* を通読する。人間は古代より鏡に魅了され、その不思議な力に想像力をかきたてられてきた。当エッセイは、神の力を持つ古代の鏡から現代の先端技術を支える鏡まで、様々な鏡の利用のされ方とその文化的・歴史的意味について考察している。

授業では、語彙の強化、内容確認のための英語による Q&A、コメントの発表などを行いながらテキストを総合的に理解することを目指す。また、テキストには鏡を扱った文学作品や芸術作品、そして科学者や哲学者の名などが挙げられているが、それらについても可能な限りの説明を加えていく予定であり、芸術・文化への幅広い理解のきっかけとなれば幸いである。

テキスト:

Lawrence L. Hanson, *Reflections on Mirrors* (北星堂)

参考書:

教場で指示します。

【04】英語 A(2)

月曜 2 限

【93】英語第 (指定)(2)

講 師 千 代 田 友 久

授業科目の内容:

この授業では主に小説を読みたいと思います。英英辞典を丹念にひきながら精読します。辞典は *Oxford Advanced Learner's Dictionary* (第7版) を使用します。授業に必ず持ってきて下さい。英語を正確に読むとともに英英辞典を使いこなすことができるようにしたいと思います。

テキスト:

未定

【04】英語 A(2)

【93】英語第 (指定)(2)

人種を考える の講読

助教授 足 立 健 次

授業科目の内容:

著者はアメリカの高名な文化人類学者ですが、ここに取り上げたテキストは専門的な内容のものではなく、一般向けに書かれた啓蒙書です。決して易しい英文とはいえませんが、これを丹念に読むことが人種問題について考えるための契機になればと思います。

テキスト:

Ashley Montagu, *What We Know About "Race"* (鶴見書店)

【04】英語 A(2) 月曜1限
【93】英語第 (指定)(2) 講師 千代田 友 久

授業科目の内容:

この授業では主にエッセイを読みたいと思います。英英辞典を丹念にひきながら精読します。辞典は *Oxford Advanced Learner's Dictionary* (第7版) を使用します。授業に必ず持ってきて下さい。英語を正確に読むとともに英英辞典を使いこなすことができるようにしたいと思います。

テキスト:

未定

【04】英語 A(2)
【93】英語第 (指定)(2)
BBCドキュメンタリーから学ぶ英語
講師 徳 永 聡 子

授業科目の内容:

空前のヨガブームに象徴されるように、現代社会が抱えるさまざまな諸問題への対処法として自然治癒力が注目され、健康への関心はますます高まっています。本授業では、こうした問題意識からBBCが制作したドキュメンタリーDVDを用い、聞く、話す、読むを中心とした英語力の向上を目指します。1年間の4分の3は教科書を中心に進め、残りの4分の1では各自テーマを決めて英語によるプレゼンを予定しています。普段はあまり聞き慣れないイギリス英語ですし、使われる語彙や聞き取りも最初は難しく感じるかもしれませんが、しかし付録のDVDで自宅学習を繰り返すことで、聴解力、理解力が高まることが期待されます。単に教科書を読み下すだけでなく、そこから自己の問題意識を高め、英語で考える努力がこの授業では求められます。

テキスト:

BBC Documentary Natural Remedies: DVD Video Activity Book (Kirihara Shoten, 2006).

また読み物として適宜プリントも配ります。

参考書:

【04】英語 A(2)
【93】英語第 (指定)(2)
イギリス小説講読 講師 三 馬 志 伸

授業科目の内容:

Wilkie Collins (1824-89) の中篇小説, *Miss or Mrs?* (1871) を講読します。

1860年代、イギリスでは Sensation Novels と呼ばれるミステリ小説が大流行しましたが、『白衣の女』(1860)『月長石』(1868)で有名な Collins はこのジャンルを代表する作家で、この2作以外にも数多くの傑作を残しています。この授業では、サスペンス溢れる中篇 *Miss or Mrs?* という作品を講読し、原文で小説を読むおもしろさを体得してもらいたいと考えています。

テキスト:

Wilkie Collins (Norman Page, Toru Sasaki eds), *Miss or Mrs?, The Haunted Hotel, The Guilty River* (Oxford World's Classics)

参考書:

その都度指示します。

【04】英語 A(2)
【93】英語第 (指定)(2)
『フランケンシュタイン』を読む 講師 藤 原 雅 子

授業科目の内容:

Mary Shelley のゴシック小説 *Frankenstein* を通読する。ストーリーを楽しむとともにアイデンティティ、科学と生命倫理の問題、仏革命の影響など、この作品がはらむ社会/歴史/倫理的意味についても考えたい。小説の語彙は質/量的に日常言語のものとはやや異なるが、物語という「文脈」の中で言葉を覚えることは、英語の使

い手としての感覚を鋭いものにする。内容理解とともに、語力強化のための訓練・英語による Q&A や内容要約を通して基礎的英語力の養成にも充分留意しながら読み進めていく。

テキスト:

Frankenstein (Penguin Classics)

参考書:

廣野由美子『批評理論入門 フランケンシュタイン解剖講義』(中公新書)

【04】英語 A(2)
【93】英語第 (指定)(2)
英文読解 助教授 坂 本 光

授業科目の内容:

論説文を中心に、多様なテキストを読む。文の構成、論理の構成を追いながら、テキストを正確に読み取る練習をする。またテキストの難易度に応じて、速読から熟読まで、柔軟に読み方を選択することも練習する。

テキスト:

原則としてプリントで配布する。スタート時に用いるテキストは Glyn Williams, *Voyages of Delusion: The Search for the Northwest Passage in the Age of Reason* (London: HarperCollins, 2002).

参考書:

文法書、辞典類などについて、必要に応じて初回講義時に紹介する。

【04】英語 A(2)
【93】英語第 (指定)(2)
ジョージ・オーウェルの評論を読む
講師 茂 市 順 子

授業科目の内容:

この授業では、20世紀のイギリス文学を代表するジョージ・オーウェル (George Orwell) によるエッセイを読みたいと思います。「スポーツ精神」「教育」「大衆文化」「メディア」など、様々な題材についてのエッセイを読みこなしながら、イギリスの文化と生活についての知識を深めていきます。

この授業では、主に英文読解力の養成を目指します。これまでに習得した英語力を活かしつつ、歴史的、政治的、文化的背景を踏まえたうえでテキストに書かれた内容を的確に読みこなす訓練をしていきます。

テキスト:

教科書は指定しません。授業内でプリントを配布します。

参考書:

必要に応じて、授業中に随時紹介します。

【04】英語 A(2) 木曜3限/金曜5限
【93】英語第 (指定)(2)
パラグラフ作文 講師 佐 藤 光 重

授業科目の内容:

英語による論文やエッセイなどを作成するのに基礎となる、8種類のパラグラフ (Cause and Effect, Comparison and Contrast, Process and Direction など) の書きかたを練習する。

テキスト:

適宜プリントを配布する。

参考書:

・ Jimbo Hisatake, and Richard B. Murto, eds., *Paragraphs That Communicate* (MacMillan, 1990).
・ John Langan, *College Writing Skills*. 5th ed. (Mcgraw-Hill, 2000).

【04】英語 A(2) 月曜1限
【93】英語第 (指定)(2)
英文の読解力の養成 講師 東 田 敏 夫

授業科目の内容:

人生、文化、コミュニケーション等を題材とした啓蒙的なエッセ

イを講読する。教材は比較的平明な英文（初級～中級程度）で書かれたものを使用する。授業は訳読形式で行うが、単なる英文和訳ではなく、内容理解を主眼とし文脈の流れを把握しながら、英文を速く正確に理解する訓練をする。

テキスト：
未定（現時点）

【04】英語 A(2) 月曜3限/月曜4限
【93】英語第 (指定)(2) 講師 石田名都子

授業科目の内容：

英字新聞や専門紙の記事を主に読みすすんでいきます。言語表現を正確に読みとる他に、paragraph 構成や様々な reading strategies も同時に学びます。取り上げるトピックは、文化、政治経済、環境、福祉、IT、エネルギー、国際協力、スポーツなど多岐にわたり、up-to-date な情報を扱う予定です。reading の他にトピックに関連した listening や writing も行います。これらの比率は reading 関係 70%、listening 20%、writing 10% の予定です。

テキスト：
第1回目の授業時に指示します。新聞・雑誌からの切りぬき等もプリントにて配布予定。

【04】英語 A(2)
【93】英語第 (指定)(2) 講師 大沼由布

授業科目の内容：

マルコ・ポーロ『東方見聞録』の英訳を読みます。また、適宜関連資料（プリントで配布）も読んで行きたいと思えます。

テキスト：
The Travels of Marco Polo, trans. by Ronald Latham (Penguin, 1958)

参考書：
授業中に指示します。

【04】英語 A(2)
【93】英語第 (指定)(2)
人種を考える の講読 助教授 足立健次

授業科目の内容：

著者はアメリカの高名な文化人類学者ですが、ここに取り上げたテキストは専門的な内容のものではなく、一般向けに書かれた啓蒙書です。決して易しい英文とはいえませんが、これを丹念に読むことが人種問題について考えるための契機になればと思います。

テキスト：
Ashley Montagu, *What We Know About "Race"* (鶴見書店)

【04】英語 A(2)
【93】英語第 (指定)(2)
現代イギリスの名作を読む 講師 高津昌宏

授業科目の内容：

John Bayley の *Iris and the Friends* (1999) を読む。Iris とはベイリーの妻であり、卓越した小説家であった Iris Murdoch のことである。彼女は晩年アルツハイマー症にかかり、夫妻は闘病生活を強いられた。その様子はベイリーによって *Iris: A Memoir* (1998) に記録されている。*Iris and the Friends* はその続編であり、ベイリーが妻の陥ったアルツハイマー病の末期の症状にいかに対処し、妻の死後の喪失感にいかに対処し、その悲しみをいかに克服していったかを記述している。*Iris: A Memoir* に劣らぬ感動の書である。

本年度はアルツハイマー病の妻をかかえたベイリーの心境を間に挟みながら、ベイリーが自らの少年時代から青年時代を回顧した3章～6章を読み、ここの有るベイリーの文体に触れていきたい。

テキスト：
John Bayley, *Iris and the Friends* (ABACUS)

参考書：
ジョン・ベイリー『愛のキャラクター』(高津昌宏監訳、南雲堂フェニックス)

【04】英語 A(2) 月曜2限
【93】英語第 (指定)(2)
英文の読解力の養成 講師 東田敏夫

授業科目の内容：

人生、文化、コミュニケーション等を題材とした啓蒙的なエッセイを講読する。教材は比較的平明な英文（初級～中級程度）で書かれたものを使用する。授業は訳読形式で行うが、単なる英文和訳ではなく、内容理解を主眼とし文脈の流れを把握しながら、英文を速く正確に理解する訓練をする。

テキスト：
未定（現時点）

【04】英語 A(2)
【93】英語第 (指定)(2)
英文読解力の養成
(言語学の文献の精読と、幅広いトピックの英文速読)
講師 有光奈美

授業科目の内容：

講義の目的：言語学の文献の精読と、幅広いトピックの英文速読により、英文読解力を養成し、英語による思考力と理解力の向上を図ります。

講義を通して、語用論 (Pragmatics) を中心とした言語学の基礎的知識の習得と、幅広いトピックの英文読解ができるようにします。

言語学の中でも、言語の実際の使用を重んじる語用論を中心に、日常言語と認知のメカニズムも視野に入れ、言語を通して、人間の発話、思考、認識の問題を考察していきます。

語用論を中心とした言語学の基礎的知識を身につけると共に、幅広いトピックの英文を読み、英文読解における精読と速読の力を身につけることが、本講義の目標です。

テキスト：
George Yule, *Pragmatics* (Oxford University Press)
および、プリント配布

参考書：
必要に応じ、授業内で紹介します。

【04】英語 A(2)
【93】英語第 (指定)(2)
Reading American Nature Writing 講師 黒崎真由美

授業科目の内容：

Reading and discussing in English, aiming at understanding the text without translating it into Japanese. It also aims to raise environmental awareness of the students.

テキスト：
Gretel Ehrlich, *The Solace of Open Spaces* (Penguin Books)

【04】英語 A(2)
【93】英語第 (指定)(2)
英文読解力の養成
(言語学の文献の精読と、幅広いトピックの英文速読)
講師 有光奈美

授業科目の内容：

講義の目的：言語学の文献の精読と、幅広いトピックの英文速読により、英文読解力を養成し、英語による思考力と理解力の向上を図ります。

講義を通して、語用論 (Pragmatics) を中心とした言語学の基礎的知識の習得と、幅広いトピックの英文読解ができるようにします。

言語学の中でも、言語の実際の使用を重んじる語用論を中心に、日常言語と認知のメカニズムも視野に入れ、言語を通して、人間の発話、思考、認識の問題を考察していきます。

語用論を中心とした言語学の基礎的知識を身につけると共に、幅広いトピックの英文を読み、英文読解における精読と速読の力を身

につけることが、本講義の目標です。

テキスト：

George Yule, *Pragmatics* (Oxford University Press)

および、プリント配布

参考書：

必要に応じ、授業内で紹介します。

【04】英語 A(2)

【93】英語第 (指定)(2)

English through Performance 講師 徳永聡子

授業科目の内容：

小説や戯曲を読むことは、大江健三郎の言葉を借りるならば「細部の言葉のいちいちにそくして事物の魂を受けとめる」行為に他ならないように思われます。この授業では戯曲や演説、詩を実際に声に出して鑑賞することで、言葉の力、魅力、重みを感じ、理解し、「事物の魂を受けとめる」過程から、英語という言語の習得を目指します。取り上げる作品は受講者の数などで決めたいと思いますが、春学期には著名な作品の抜粋を取り上げ、秋学期にはひとつの作品を実際に演じることなどを考えています。授業の性質上、授業内での積極的な参加が必須となります。

テキスト：

プリント配布予定。

【04】英語 A(2)

【93】英語第 (指定)(2)

講師 立石弘道

授業科目の内容：

日本人と主にアメリカ人を比較して、その相違点を明らかにしている。日本人論である。英文も素直で読みやすく、内容も興味深く、両国民の違いをよく分析している。日本人を知ることのひとつの目標にする。

テキスト：

The Japanese and The Americans (金星堂)

参考書：

授業中に指示する。

【04】英語 A(2)

【93】英語第 (指定)(2)

講師 茂市順子

授業科目の内容：

米国でベストセラーとなった M. Scott Peck の *The Road Less Traveled* を読みたいと思います。日々の生活における身近なテーマを中心に、私たちにとって精神的成長とは何かについて考察したテキストです。

この授業では、これまでに習得した英語力をさらに伸ばしていくような英文読解力の養成を目指します。

言外に込められた意味を的確につかみながら英文を読みこなし、テキストに書かれた内容を批評する能力を培っていきます。

テキスト：

M. Scott Peck, *The Road Less Traveled* (金星堂)

他にも、補助的なテキストをプリントで配布します。

参考書：

必要に応じて、授業中に随時紹介します。

【04】英語 A(2)

【93】英語第 (指定)(2)

講師 立石弘道

授業科目の内容：

日本人と主に西洋人を比較して、その相違点を構造主義的に明らかにした日本人論である。単なる感想文ではなく、研究対象をどのように分析するかというひとつの見本になると思う。

テキスト：

Understanding the Japanese (金星堂)

参考書：

授業中に指示する。

【04】英語 A(2)

【93】英語第 (指定)(2)

言語テストの背景を知る

教授 中村優治

授業科目の内容：

このクラスは、精読、及び速読により英語読解能力を高めることを目的とします。英文テキスト及びプリントによる資料を用いて、言語テストが個人と社会にどのような関わりをもっているのか、言語テストの歴史・背景・の理解を深めつつ、英語読解能力を高めたと思います。

テキスト：

Tim McNamara, *Language Testing* (Oxford University Press 2000)

及びプリント配布

【04】英語 A(2)

木曜3限/金曜5限

【93】英語第 (指定)(2)

パラグラフ作文

講師 佐藤光重

授業科目の内容：

英語による論文やエッセイなどを作成するのに基礎となる、8種類のパラグラフ (Cause and Effect, Comparison and Contrast, Process and Direction など) の書きかたを練習する。

テキスト：

適宜プリントを配布する。

参考書：

・ Jimbo Hisatake and Richard B. Murto, eds., *Paragraphs That Communicate* (MacMillan, 1990).

・ John Langan, *College Writing Skills*. 5th ed. (Mcgraw-Hill, 2000).

【04】英語 B(2)

【93】英語第 (選択)(2)

Think, Write and Discuss in English!

講師 佐藤理佳

授業科目の内容：

'Is your English dead or alive?'

The aim of this class is to help the student enliven his/her English which has been neatly memorized and stored in his/her brain but has not had an opportunity to be practiced in real life yet. We shall try to achieve this aim in a variety of ways, including group discussion, essay writing and speech making.

テキスト：

・ Roland Hindmarsh, ed., *Liar! and Other Modern Stories* (Cambridge University Press, 1979)

・ Additional materials will be provided by the instructor.

【04】英語 B(2)

【93】英語第 (選択)(2)

Interactive Communication

講師 ベデロ, サイモン

授業科目の内容：

Aim, Focus and Methodology

This is an elective course in English communication. The focus of the course is on speaking and listening. The course is designed to help students improve their communication skills by interacting with each other in small groups. The course also involves debate and individual presentations. At the end of the course, students should feel confident to express their views or hold a conversation in English.

The course is activity oriented. Classroom activities are carefully selected to generate a great deal of interaction among fellow students.

テキスト：

The course has no textbook. The instructor will provide materials for class activities.

参考書：

Longman's English-English Dictionary

【04】英語 B(2)

【93】英語第 (選択)(2)

Think, Write and Discuss in English!

講師 佐藤理佳

授業科目の内容:

‘Is your English dead or alive?’

The aim of this class is to help the student enliven his/her English which has been neatly memorized and stored in his/her brain but has not had an opportunity to be practiced in real life yet. We shall try to achieve this aim in a variety of ways, including group discussion, essay writing and speech making.

テキスト:

- Roland Hindmarsh, ed., *Liar! and Other Modern Stories* (Cambridge University Press, 1979)
 - Additional materials will be provided by the instructor.
-

【04】英語 B(2)

【93】英語第 (選択)(2)

English Poetry

講師 ゲーリング, リューベン M.

授業科目の内容:

In this class we will learn one long poem in English and a number of short poems. We shall cover most of the forms of short poetry, including rhymes and limericks.

テキスト:

The text will be handed out by the teacher.

【04】英語 B(2)

【93】英語第 (選択)(2)

Theme Music

講師 ハスケル, デル R.

授業科目の内容:

The focus of this course will be popular music from the 1960s to the 2000s, including rock, folk, pop, rap and reggae. We will be listening to the music of many composers, and studying social, political and cultural themes expressed in their songs. Class activities will include listening, video viewing, discussion, and presenting information and opinions in English. Homework assignments will include background reading about songs and musicians, and completion of worksheet tasks.

We will also be developing presentation skills, including data collection, note taking, worksheet design, and speaking using brief notes. Student presentations each semester will involve working with partners in song selection, worksheet preparation, presenting information and opinions in English, and responding to questions from other students.

テキスト:

Course material will include song worksheets, focussing on reading comprehension, vocabulary explanation, lyrics analysis, and discussion questions. All material will be provided by the course instructor.

参考書:

Website references will be advised in class.

【04】英語 B(2)

【93】英語第 (選択)(2)

Expressing Yourself

講師 ベデロ, サイモン

授業科目の内容:

Aim, Focus and Course Methodology

This course is about expressing oneself in English. The primary focus of the course is on writing and multimedia presentation. The course is aimed at helping students improve the way to formulate and present personal ideas. The course also involves reading and group discussion. At the end of the course, students should feel confident to express their views with logic and clarity.

The course is activity oriented. It follows a step-by-step method whereby students learn and acquire the appropriate skills through prepared samples of writing and other video sketches.

テキスト:

The course uses a variety of sources. The instructor will provide materials for class activities.

参考書:

Longman's English-English dictionary

【04】英語 B(2)

火曜 2限

【93】英語第 (選択)(2)

キリスト教史の講読

講師 石黒太郎

授業科目の内容:

この授業では、簡潔にまとめられたキリスト教の歴史を読みます。教科書の精読を通して、受講生が人文学の英語に慣れることを期待しています。

テキスト:

B. D. Tucker. 『キリスト教史への招待』(弓プレス)

【04】英語 B(2)

【93】英語第 (選択)(2)

TV News を通して英語のスキルを磨く

講師 木村和美

授業科目の内容:

この授業ではアメリカ ABC 放送のニュースを教材として、listening の他に、reading (関連のニュース記事を読む)、speaking (扱ったニュースのトピックについてdiscussionをする)、writing (そのトピックについて、自分の意見を書く)、oral presentation (更にその意見を皆の前で発表する)などの課題に取り組みながら、英語のさまざまなスキルを鍛えることをめざします。また、時事英語を中心とした語彙の強化もはかり、毎授業の初めに、そのための小テストを行います。後期の後半に教科書が終わったら、ニュースの他に映画・インタビュー・スピーチ・歌などさまざまな、生きた英語に触れる機会も設けます。

原則として授業は英語で行い、日本語を媒体とせずに、英語で受信し、英語で考え、英語で発信することを目標とします。

テキスト:

Yamane & Yamane, *ABC World News 8* (金星堂 2006)

プリント(授業中に適宜配布します)

参考書:

授業中に必要に応じて紹介します。

【04】英語 B(2)

【93】英語第 (選択)(2)

International English

講師 ハスケル, デル R.

授業科目の内容:

This course will focus on a variety of topics related to travel and culture developed and developing countries. Students will improve their English communication skills through speaking, listening, reading and writing activities. This course will also enable students to develop audiovisual presentation skills. Presentation activities will include data collection, note taking, worksheet design, speaking and listening skills.

テキスト:

Course material will include worksheets focussing on travel and culture topics, questionnaires, video comprehension, reading comprehension, and discussion activities. All material used in the course will be provided by the course instructor.

参考書:

Website references will be advised in class.

【04】英語 B(2)

【93】英語第 (選択)(2)

Thinking and Talking in English 講師 ラトリッジ, エラ

授業科目の内容:

Every 3 weeks we'll look at a new topic. Classroom activities will include discussion related to the topic, journal writing, and development of thinking skills. Short readings will be assigned as homework. The emphasis of this course will be on small group discussion. By the end of this course, you'll be comfortable speaking at length on a variety of topics, such as "Hair and Identity," "Animals and Humans," "Journeys," and "Tokyo Views."

テキスト:

No textbook; handouts will include stories, essays, etc.

参考書:

None

【04】英語 B(2)

【93】英語第 (選択)(2)

『指輪物語』に関するモノグラフを読む

助教授 辺見葉子

授業科目の内容:

J. R. R. Tolkien の *The Lord of the Rings* に関するモノグラフを読みます(原作とピーター・ジャクソン監督による映画化作品の関係について論じたものなど)。必要に応じて原作や映画スクリプト、関連文献なども読みます。論文の論旨を適確に把握し、まとめる力をつけるのが目的です。

テキスト:

プリント教材を使います(教室で配布)。

参考書:

J. R. R. トールキン 『新版 指輪物語』, 瀬田貞二・田中明子訳, 評論社文庫, 全9巻, 1992年。

その他, 授業中に随時紹介します。

【93】英語第 (選択)(2)

Contemporary Topics to Think About (Reading)

講師 松原美智子

授業科目の内容:

This is a high-intermediate English course in which students will study contemporary topics covering a wide range of interest for all, from social to scientific to humanistic. Although emphasis will be placed on reading, students will also be given an opportunity to practice their listening and speaking skills.

テキスト:

Andrew K. English and Laura Monahon *English, North Star: Reading and Writing* (High Intermediate) 2nd Edition (Longman).

Text may be supplemented with additional material when appropriate.

【04】英語 B(2)

【93】英語第 (選択)(2)

日本の「近代」をめぐる

講師 勝村仁子

授業科目の内容:

海外の日本研究者によって書かれた最近の論文の講読。

日本の近代史をとりあげた文献を読むことにより, 自国の近代史を再認識し, また, 英語で日本を語ることについての認識を深める機会を提供することを目的とする。

テキスト:

論文のコピーを配付する。

参考書:

必要に応じて授業内に紹介の予定。

【04】英語 B(2)

【93】英語第 (選択)(2)

Essays and Stories

講師 高木真佐子

授業科目の内容:

C.S. Lewis による『ナルニア国物語』の抜粋をはじめ, 彼の書いた平易なエッセーや評論を読み, BBC のレクチャーなども味わう。ルイスならではの世界観・宗教観を概観するとともに, 多才な活動を行なった, 二十世紀の特異な文人の姿を明らかにしていく。

テキスト:

C.S. Lewis, *Prince Caspian*. (HarperCollins)

その他, 適宜プリントを配ります。

【04】英語 B(2)

【93】英語第 (選択)(2)

中世の騎士の生活を垣間見てみませんか?

講師 伊藤 壘

授業科目の内容:

英国のコメディ集団「モンティ・パイソン」にいた人物で, 今日では中世アマチュア学者となったテリー・ジョーンズ(Terry Jones)の傑作冒険騎士物語(とはいえ, 主人公は騎士ではありませんが)を読みます。

中世英国, 欧州の生活についての知識を楽しみながら得るとともに, 物語文学を読むとはどういうものを学びます。なお, 授業中では朗読の仕方と合わせて学びますので, 単に意味を解釈するだけでなく, それを自分の声で表現できるようになるのが目的です。

テキスト:

Terry Jones. *The Knight and the Squire* (London: Puffin, 1999)

【04】英語 B(2)

【93】英語第 (選択)(2)

Thinking and Talking in English 講師 ラトリッジ, エラ

授業科目の内容:

Every 3 weeks we'll look at a new topic. Classroom activities will include discussion related to the topic, journal writing, and development of thinking skills. Short readings will be assigned as homework. The emphasis of this course will be on small group discussion. By the end of this course, you'll be comfortable speaking at length on a variety of topics, such as "Hair and Identity," "Animals and Humans," "Journeys," and "Tokyo Views."

テキスト:

No textbook; handouts will include stories, essays, etc.

参考書:

None

【04】英語 B(2)

【93】英語第 (選択)(2)

『ニューヨークタイムズ』の記事を読み, ウッディ・アレンの

映画を味わう

講師 有賀明子

授業科目の内容:

春学期は『ニューヨークタイムズ』から精選した記事12編を読む。「人口, 移民」「美容, 健康」「結婚」「宗教」「麻薬」といった興味深いテーマが洗練された英文で表現されている。CDによる発音確認ののち易しい箇所は要約, 難しい部分は精読し, 各章毎に実施する小テストによって理解度を測り, さらに内容について考えたい。また, 関連の記事を配布し授業中に読む予定。

秋学期はハリウッドとは一線を画する鬼才映画監督ウッディ・アレンの代表作『アニー・ホール』のスクリプトを精読した上で映画を鑑賞する。ニューヨークに住む自意識過剰気味の男女の皮肉とユーモアに富んだ会話はちょっと手ごわいかもしれないが, だからこそ読み応えがあると言える。リーディング中心の授業だが, リスニング, スピーキングも一部取り入れる予定。

また、季節の行事（ハロウィーンなど）、あるいは注目に値する出来事（昨年度は「マイケル・ジャクソンの裁判」「黒田清子さんの結婚」「建築物耐震データ偽造」など）に関する英字新聞記事を授業の一部を利用して読む。

テキスト：

- ・喜多留女、細川祐子 編注 『ニューヨークタイムズで世界を知る』（英宝社、2006年）
- ・Woody Allen 著、吉田信介ほか編著 *Annie Hall*（松柏社、1997年）

【04】英語 B(2)

【93】英語第 (選択)(2)

現代イギリス小説を読む 講師 高津昌宏

授業科目の内容：

John Bayley の小説 *The Red Hat* (1997) を読む。これはベイリーが17世紀オランダの画家フェルメールの「赤い帽子の女」の絵から想を得て書き上げた軽いタッチの中篇小説だが、「ロマン・ノワール」（暗黒小説）とも「間違いの喜劇」とも言える微妙な作風で、自意識過剰な現代人の病理をあぶり出しているようにもみえる。著名な文芸批評家でもあるベイリーの巧みな小説作法を満喫したい。

テキスト：

John Bayley, *The Red Hat* (Welcome Rain Publishers)

参考書：

ジョン・ベイリー 『愛のキャラクター』（高津昌宏監訳、南雲堂フェニックス）

【04】英語 B(2)

【93】英語第 (選択)(2)

絵画の見方の講読 助教授 足立健次

授業科目の内容：

とかく美術作品は、それについての専門的な知識や深い素養がなければ鑑賞できないものと思われがちである。これとは反対の立場から、多くの実例を挙げながら、私たち門外漢にも分かりやすく絵画の世界へと誘ってくれる文章を読みます。

テキスト：

Susan Woodford, *Looking at Pictures* (松柏社)

参考書：

【04】英語 B(2)

【93】英語第 (選択)(2)

TV Newsを通して英語のスキルを磨く 講師 木村和美

授業科目の内容：

この授業ではアメリカ ABC 放送のニュースを教材として、listening の他に、reading（関連のニュース記事を読む）、speaking（扱ったニュースのトピックについてdiscussionをする）、writing（そのトピックについて、自分の意見を書く）、oral presentation（更にもその意見を皆の前で発表する）などの課題に取り組みながら、英語のさまざまなスキルを鍛えることをめざします。また、時事英語を中心とした語彙の強化もはかり、毎授業の初めに、そのための小テストを行います。後期の後半に教科書が終わったら、ニュースの他に映画・インタビュー・スピーチ・歌などさまざまな、生きた英語に触れる機会も設けます。

原則として授業は英語で行い、日本語を媒体とせず、英語で受信し、英語で考え、英語で発信することを目標とします。

テキスト：

- ・Yamane & Yamane, *ABC World News 8* (金星堂 2006)
- ・プリント（授業中に適宜配布します）

参考書：

授業中に必要に応じて紹介します。

【04】英語 B(2)

火曜 4 限

【93】英語第 (選択)(2)

Contemporary Topics to Think About (Listening and Speaking)

講師 松原美智子

授業科目の内容：

This is a high-intermediate English course whose purpose is to improve the students' listening and speaking skills so that they may be better able to express their thoughts in English. Topics chosen will cover a wide range of interest for all, from social to scientific to humanistic.

テキスト：

Tess Ferree and Kim Sanabria, *North Star: Listening and Speaking* (High Intermediate) 2nd Edition (Longman).

Text may be supplemented with additional material when appropriate.

【04】英語 B(2)

火曜 1 限

【93】英語第 (選択)(2)

中世キリスト教説話を読む 講師 石黒太郎

授業科目の内容：

Charles Swan 訳の *Gesta Romanorum* を精読します。語法に注意しながら、中世の物語を味わいます。

テキスト：

Charles Swan, trans., *Gesta Romanorum* (弓プレス)

【04】英語 B(2)

【93】英語第 (選択)(2)

Seeing the World 講師 ゲーリング、リューベン M.

授業科目の内容：

This class focuses on finding information and discussions in English.

Students will work in groups. Each group will choose a country to study. Through research and discussions students will acquire the information about the country of their choice. They will then report on their work to the rest of the class.

【04】英語 B(2)

【93】英語第 (選択)(2)

Intermediate English 講師 ルイス、エイミー R.

授業科目の内容：

This course will focus on helping the student to continue to develop essential, practical skills which will enable him/her to communicate clearly, concisely and confidently in English. The course will stress communication skills.

Working in pairs or small groups, students will complete a variety of guided tasks which will center around a specific skill or skills.

テキスト：

Textural material will be distributed in class.

参考書：

The Penguin Thesaurus

【04】英語 B(2)

【93】英語第 (選択)(2)

Understanding and Using Idioms

講師 ゴーリンジャー、アダム

授業科目の内容：

This course will aim at developing students' understanding of and proficiency in using idiomatic expressions. Based on a selection of target idioms, students will participate in comprehension exercises including weekly quizzes and the composition of original sentences and paragraphs to be presented orally in class. To emphasize communication, students will work together in pairs and small groups,

to compose and practice dialogs, as well as to review and edit each other's writing and homework.

テキスト：

Helen Kalkstein Fragiadakis, *All Clear! Advanced: Idioms & Pronunciation in Context* (Heinle & Heinle, 2002).

【04】英語 B(2)

【93】英語第 (選択)(2)

リーディング

講師 勝村 仁子

授業科目の内容：

通訳の訓練を取り入れたリーディングによって、総合的な読解力をつけることを目的とする。ただし、通訳養成を目的とした授業ではない。

テキスト：

科学、医療、歴史、音楽、美術、時事問題（政治／経済／法律）など幅広い内容のものを学術論文、LSAT（米国ロースクール適性試験）問題集、専門書、新聞・雑誌記事などから抜粋したプリント教材を用いる予定であるが、最終的なテキストの決定については、履修した学生の専攻等を考慮する。

参考書：

必要に応じて授業内に紹介します。

【04】英語 B(2)

【93】英語第 (選択)(2)

外から見た日本

助教授 大串 尚代

授業科目の内容：

テレビ、映画、インターネットなど、さまざまなメディアを通じて情報が行き交う昨今、日本はどのような印象を海外に与えているのだろうか。一昔前のフジヤマ・ゲイシャ・スシ・ハラキリといったイメージは払拭されているのか、いないのか。異文化としての日本を、2005年に出版された二冊のトラベログ（旅行記）を通して学ぶ。Peter Caryの*Wrong about Japan*は、ジャパニメーションの大ファンである息子とともに日本を訪れた、ブッカー賞作家Caryによる旅行記。Karin Mullerの*Japanland*は、日本人家庭とともに過ごしながら日本文化の中の「和」を模索するアメリカ女性の記録。CaryとMullerが描く日本は、自分が知っている日本と同じだろうか、違うだろうか。異文化を描くこと自体に、どのような意義があるのか。二冊の旅行記から浮かび上がる問題点を受講者と共有する。

テキスト：

- ・Peter Cary, *Wrong About Japan: A Father's Journey with His Son* (New York: Random House, 2005)
- ・Muller, Karin. *Japanland, A Year in Search of Wa* (New York: Rodale, 2005)

【04】英語 B(2)

【93】英語第 (選択)(2)

トリスタンとイゾルデ

講師 小路 邦子

授業科目の内容：

ワグナーの楽劇『トリスタンとイゾルデ』や、ジャン・コクトーの『永劫帰郷』（映画邦題『悲恋』）の題材として知られているこの有名な恋物語を、アーサー王文学研究者のリチャード・バーバーが読みやすい現代語に編訳したものを読んで行く。12世紀にプランタジネット朝で記されて以来、現在まで欧米の様々な文化に影響を与えてきた物語である。折しも、『トリスタンとイゾルデ』という映画も公開される。これを機に、余りにも有名でありながら、日本ではあまり知られていないこの物語に触れてみたい。

テキスト：

プリントを配付する。

参考書：

『トリスタン・イゾルデ物語』ベディエ編（岩波文庫）

【04】英語 B(2)

【93】英語第 (選択)(2)

『ホビットの冒険』を読む

講師 伊藤 壺

授業科目の内容：

『ロード・オブ・ザ・リング』の映画でも有名となったホビットについて書かれた最初の物語を講読します。

『ホビットの冒険』は詩的表現も多く、かつ英語の歴史や中世英文学について知らない人が読むとどういうことなのか意味がわからないところも多いので、解説を加えながら読み進めます。

テキスト：

J. R. R. Tolkien. *The Hobbit* (London: HarperCollins, 1999)

参考書：

J. R. R. トールキン著 瀬田貞二訳 『ホビットの冒険』上・下巻（岩波少年文庫，2000）

【04】英語 B(2)

【93】英語第 (選択)(2)

評論を読む

教授 宇沢 美子

授業科目の内容：

やわらかい随筆からかたい批評まで、様々なスタイルの散文を読み、読解力の総合的な向上を目指すことを目標にします。比較的難しい文章は精読を心がけるが、基本的には各エッセーの核となる考え方を把握し、自分なりにまとめ、論じるという練習を積み上げます。二年生以上を対象としますので、最初はゆっくりでも、どんどんとスピードをあげて、多読します。

テキスト：

Joseph Kelly ed., *The Seagull Reader: Essays* (New York: W.W. Norton, 2002).

【04】英語 B(2)

【93】英語第 (選択)(2)

ペーパーバックを読もう

講師 小路 邦子

授業科目の内容：

17世紀オランダの画家ヨハネス・フェルメールの家に奉公に上がり、「真珠の耳飾りの少女」のモデルになった少女の運命を通して、人の情念とフェルメールの絵画の世界に引き込んでくれる美しい小説である。

テキスト：

Tracy Chevalier, *Girl with a Pearl Earring* (HarperCollins Publishers, 1999)

参考書：

【04】英語 B(2)

【93】英語第 (選択)(2)

短編小説を読む

助教授 坂本 光

授業科目の内容：

基礎的な学力を身につけたのち、さらに英語の読解力をつけたければ、簡単な文章を大量に読み散らすことと、出来のよい文章を綿密に読むことの双方が必要である。多読の方は他の機会（新聞、雑誌、ネット上の情報など）にまかせるとして、この授業ですぐれた短編小説を精読する。それによって英文読解力の向上に努めるとともに、卓越した言語表現を理解することの楽しみを実感する一助としたい。また進度に余裕がある場合には、可能な限り発表形式を取り入れる。

テキスト：

T. S. Dorsh, ed., *Charmed Lives Classic English Short Stories*; (Oxford: OUP, 1988) を用いる。これは Nadine Gordimer, H. E. Bates, John Wain, Peter Ustinov, Angus Wilson を始めとする短編小説の名手による作品を収めたもの。

参考書：

文法書、辞典類などについて、必要に応じて初回講義時に紹介する。

【04】英語 上級A(2)

【93】英語上級 (2) 講師 ハスケル, デル R.

授業科目の内容:

In this advanced communication course, we will be discussing a variety of social, cultural and political topics, which will be selected by students at the start of the course. Class activities will include reading and video comprehension, exchanging information and opinions. Student presentations each semester will focus on topics chosen by students using a variety of media, designing worksheets, presenting relevant information and expressing opinions.

テキスト:

Course material will include reading passages, worksheets presenting comprehension and discussion tasks, questionnaires, and audio-visual materials. All materials will be provided by the course instructor.

参考書:

Website references will be advised in class.

【04】英語 上級B(2)

【93】英語上級 (2)
Advanced English 講師 ルイス, エイミー R.

授業科目の内容:

This course provides the more advanced student with the opportunity to reinforce good speech habits, to expand his/her active vocabulary, and to improve his/her ability to express himself/herself clearly and concisely. This will be achieved by a variety of assignments including audio-visual, values clarification, small group discussion and research presentations. Grammar review will be based on the specific needs of the class.

テキスト:

Textual material will be distributed in class.

参考書:

The Penguin Thesaurus

【04】英語 上級C(2)

【93】英語上級 (2)
English Discussion 講師 ラトリッジ, エラ

授業科目の内容:

Topics for discussion will be chosen by the students. Classroom activities will include small group discussion, presentations, video-viewing, thinking skills development, and journal writing. Out of class preparation may include some short reading assignments and research projects. All skills will be used in this class.

テキスト:

no textbook; learning materials will include hand-outs, films, etc.

参考書:

None

【04】英語 上級D(2)

【93】英語上級 (2)
Advanced Discussion on American Multiculturalism
講師 ゴーリンジャー, アダム

授業科目の内容:

The aim of this course is to develop students' awareness for cross-cultural understanding through an examination of diversity and multiculturalism in the United States. Based on a selection of readings, documentaries, and American television programs, we will analyze and discuss issues relating to race, religion, gender, region and class in the United States. Extensive homework preparation will be required as students will be called upon weekly to answer prepared questions and to present their individual interpretations in class. This course is designed for students with advanced speaking and

comprehension abilities in English.

テキスト:

All materials will be provided by the instructor.

【04】英語 上級D(2)

【93】英語上級 (2)
MY VIEW 講師 ベデロ, サイモン

授業科目の内容:

Aim & Focus

This course is about English communication strategies. The course combines the four main skills of English communication. The focus is therefore on reading, writing, speaking and listening. The course is designed to help students improve the way to argue and their views on current global issues. By the end of the year, students will have acquired the skills that are necessary to express personal views with ease, logic and objectivity.

The course involves a lot of discussion. Students will often team up in small groups to maximize speaking opportunities. While topics are selected to help students express themselves freely and generate their interest in global affairs, a particular emphasis will be given to issues related to Africa.

テキスト:

There is no textbook for this course. Various sources will be used. Materials for class activities include, news articles, documentaries, movies and other video clips.

参考書:

A Longman's English-English dictionary

ドイツ語

【04】ドイツ語 A(2)

金曜 5限

【93】ドイツ語第 (2)
「肖像」を読む

講師 三ツ石 祐子

授業科目の内容:

この授業では、ドイツ語の初級文法をひととおり終えた学部の2年生を対象として、平易に書かれた複数の作家による Märchen を読んでいきます。Märchen は元来単に「小さなお話」という意味ですから、ジャンルとしては、カタカナで書かれた「メルヘン」によって連想される昔話・御伽噺・童話とは異なった側面も持っています。では、短編小説と Märchen 「小さなお話」との違いとは一体何なのでしょう？ この Märchen というジャンルの特徴は何でしょうか？ 構造の特性はあるのでしょうか？このようなことを、テキストの訳読・音読・グループワークなどを通じて一緒に考えていきたいと思っています。

テキスト:

開講時に教室で配布します。

参考書:

開講時に教室で指示します。

【04】ドイツ語 B(2)

金曜 2限

【93】ドイツ語第 (2)

ドイツ語に触れる、ドイツ語に慣れる

講師 山田 多恵子

授業科目の内容:

言語運用能力の基本である 聞く, 話す, 読む, 書く を、言語の四技能といいます。ただしこの四技能は相互補完的な関係にあるのであって、それぞれが独立して習得されるものではありません。

この授業では初級 を履修した学生を対象に、さまざまな形でドイツ語に触れ、四技能をバランスよく伸ばしてゆくことを目的とします。まずは春学期に話すことと聞くこととの関係、話し方の基本を扱った上で、中級レベルの読解、表現を扱う秋学期へとつなげてゆきます。

テキストの1課を、約1~2回の授業で扱うつもりです。
テキスト：
大谷弘道『ドイツ語 話し方教室』(三修社), プリント

【04】ドイツ語 C(2) 金曜4限
【93】ドイツ語第(2)
ドイツ理解 講師 渡邊直樹

授業科目の内容：

今日のドイツについて地理、歴史、政治、経済、社会、文化、衣食住等のテーマを通して理解することを目的とします。

受講者全員と協力して実りある授業にするために、またドイツ語読解力が向上するよう努力します。

テキスト：

Typisch Deutsch? ランデスクンデ事始め(郁文堂) 編者 林捷
(予定)

【04】ドイツ語 D(2) 金曜1限
【93】ドイツ語第(2)
読解力をつけましょう。 講師 渡邊徳明

授業科目の内容：

初級文法を学び終えた皆さんと一緒に中級読本を読み進めてゆきます。テキストは『聖者たち("Die Heiligen")』(第三書房)を使います。この教科書は、中世ヨーロッパにおいて広く知られたキリスト教の聖人たちの生涯について書かれた文章を集めたもので、関連する文法事項についての解説と、語彙を増やすための例文も併記されています。キリスト教の聖人たちの物語は、本に綴られたものの他、絵画・版画などにも多く伝わっています。授業では、そのような絵画や版画などについても折に触れ言及してゆきたいと思っています。とはいえ、一般の語学の授業ですから、別段、予備知識は必要ではありません。文法事項の復習をしつつ、語彙を少しずつ増やしながらか、読解の仕方を習得してゆくのがこの授業の目標とするところです。

テキスト：

『聖者たち("Die Heiligen")』(第三書房・平尾浩三編)

参考書：

『必携 ドイツ文法総まとめ』(白水社、中島・平尾・朝倉著)

【04】ドイツ語 E(2) 月曜2限
【93】ドイツ語第(2) 講師 シュミット、ウーテ

授業科目の内容：

日吉で習得したドイツ語を基礎に、単語・会話力のアップを目指します。授業中にさまざまなシチュエーションを想定して、会話のパターンを練習し、それに必要な文法も復習します。言うまでもありませんが、単語を知らないと話せませんので、毎回新しい単語を覚える必要があります。積極的な参加を求めます。宿題も出ます。

テキスト：

未定

【04】ドイツ語 F(2) 金曜3限
【93】ドイツ語第(2)
講師 ループレヒター、ヴァルター

授業科目の内容：

「Konversation」

Auf der Grundlage von landeskundlichen Materialien (Texte, Fotos, Audiokassetten) werden Übungen zur Ausdrucksfähigkeit, zum Hörverstehen und zur Grammatik angeboten. So sollen mit dem Lernen von Sprache zugleich auch Einblicke in die Alltagskultur, in aktuelle Themen und Probleme der deutschsprachigen Länder (Deutschland, Österreich, Schweiz) vermittelt werden.

テキスト：

プリント

【04】ドイツ語 G(2) 水曜3限
【93】ドイツ語第(2)
モーツァルトの『魔笛』 講師 内田俊一

授業科目の内容：

モーツァルトの歌劇『魔笛』(W. A. Mozart: Die Zauberflöte)を簡略なドイツ語にまとめた教科書を読み、あわせてDVDで原作を鑑賞します。

粗筋は簡単な物語に書き直されていますが、主要なアリア、二重唱、合唱は原文のまま掲げられており、場合によっては楽譜も掲載されているので、演奏に合わせて声を出してみてもよいでしょう。

この歌劇の初演は1791年ですが、これはフランス革命の2年後にあたり、啓蒙主義に導かれた時代の潮流は、この作品にも認めることができます。またこの時代のドイツは、音楽ばかりでなく、文学や哲学等の分野においても、文化の絶頂期でした。そのような時代背景についても理解を深めたいと思います。

テキスト：

P. Kapitza / 平井正編『モーツァルト 魔笛』(同学社)

【04】ドイツ語 H(2) 水曜4限
【93】ドイツ語第(2)
ドイツ語の歌を歌ってみよう 講師 内田俊一

授業科目の内容：

ドイツの民謡や簡単な歌曲を鑑賞し、歌詞を原語で読み、できれば歌ってみたいと思います。

ドイツ民謡の歌詞だけを変えて、日本で唱歌として歌われてきたものは、かなりあります。メロディーを聞けば、ああ、あの曲かとわかるでしょう。

また「野ばら」や「菩提樹」、「ローレライ」、シューベルトやブラームスらによる「子守歌」等々のドイツ歌曲は、誰でも知っているでしょう。

そのような歌の数々を、CDやテープ、ビデオ等を使って鑑賞し、ドイツ語の歌詞を読んで味わい、できれば歌ってみることにしたいと思います。取り上げる曲については、なるべく受講者の希望に添いたいと思っています。アンケートをとって、要望のあったものは、可能な限り取り上げるつもりです。

テキスト：

志田他編『ドイツの歌と民謡』(第三書房、1000円)

【04】ドイツ語 I(2) 木曜5限
【93】ドイツ語第(2)
現代ドイツ語で読む中世騎士物語 講師 會田素子

授業科目の内容：

学部一学年時に学んだ文法事項を確認しつつ、リヒャルト・ヴァーグナーの楽劇の原典ともなった中世騎士物語の現代語改編を精読します。作品や資料を通じてヴァーグナーの楽劇や中世ヨーロッパ文化への理解を深めるとともに、現代ドイツ社会との関連性についても論じていきます。

ドイツ語読解能力の向上を目指すとともに、参加者自身が興味の対象を表現出来るようになればと考えています。

テキスト：

『トリスタンとイゾルデ物語』(東洋出版)

参考書：

ヨアヒム・ブムケ『中世の騎士文化』平尾浩三他訳(白水社) プリントを配布します。

【04】ドイツ語 J(2) 月曜1限
【93】ドイツ語第(2)
なぜ金持ちと貧乏人がいるのか 講師 鵜殿博喜

授業科目の内容：

ドイツで高い評価を受けている„Die Kinder-Uni“(子供大学)シリーズの第1巻の中の「なぜ金持ちと貧乏人がいるのか?」を読

む。個人のレベルから国のレベルまで、なぜ富めるものと貧しいものがいるのかという素朴な疑問にさまざまな角度から答えているテキストを読んでいく。

テキスト：

Die Kinder-Uni(dtv)

【04】ドイツ語 K(2) 木曜3限
【93】ドイツ語第 (2) 講師 吉村 創

授業科目の内容：

『エーミールと探偵たち』『点子ちゃんとアントン』『飛ぶ教室』『ふたりのロッセ』など、特に児童文学の分野で有名な作家・詩人エーリヒ・ケストナー (Erich Käestner, 1899-1979) の „Der Kleine Grenzverkehr“ を教科書用に編集したテキストを読むことによって、ドイツ語読解の基礎を身に付けることを目標とします。(この作品は特に児童文学という訳ではありません。) また、この演習で習得したことを、履修者各自の今後の(職業)生活においてどのように活用していくことができるのか、共に考えたいと思います。

テキスト：

Erich Käestner „Der Kleine Grenzverkehr“ (Easy Readers), Atrium Verlag Zürich, 1986年。(1596円)

【04】ドイツ語 L(2) 月曜2限
【93】ドイツ語第 (2) 町の一角の変遷を通して歴史を見る
講師 鶴殿博喜

授業科目の内容：

北ドイツのある架空の町のある街角の700年の歴史を辿りながら、建築の様式、人々の暮らし、街のたたずまいの変化を学んでいく。

テキスト：

「トーアシュトラッセ12景」白水社及び原書 „Torstraße“ の一部

【04】ドイツ語 M(2) 金曜2限
【93】ドイツ語第 (2) 講師 津崎正行

授業科目の内容：

この授業では、初級文法をひととおり学び終えた学生を対象として、ドイツ語で書かれた文章を読みます。主に、現在のドイツや日本に関する時事的なテキストを扱います。

テキスト：

『Neuigkeiten aus Deutschland '05』(朝日出版社)を使用します。11月ごろにはこのテキストを終えることができますので、その後は参加者の興味や関心を考慮してテキストを選びます。

参考書：

必要に応じて紹介します。

【04】ドイツ語 D(初級)(2) 月曜5限
【04】ドイツ語(初級)(2)
【93】ドイツ語(初級)(2) 講師 中村 仁

授業科目の内容：

この授業では、初級文法の学習を通して、やさしいドイツ語の文章を読んだり、書いたり、聴いたり、話したりできるようになることを目標とします。

テキスト：

開講時に指示します。

フランス語

【04】フランス語 A(2) 講師 阿部 静子
【93】フランス語第 A(2) 講師 泉 邦寿
講師 岩崎 洋介
講師 篠原 洋治
講師 高橋 俊幸
講師 鳥居 珠江
講師 松村 剛
講師 真屋 和子
講師 宮崎 康子
助手 築山 和也
助手 岑村 傑

授業科目の内容：

フランス語 A は、全クラス共通教科書を用います。

教材 *Simple comme bonjour* の各課は、会話文・論説文・手紙文などの資料、文法事項のまとめ、練習問題の3部から構成されています。1年次で既に学習した文法事項を定着させつつ、「読解」、「仏作文」、「聞き取り」、「発話」の練習を行って、総合的なフランス語能力を磨いていきます。

また、もう一つの教材として、2005年度文学部フランス語(初級)で用いた文法教科書 *Un, deux, trois* の練習問題 *Trois* のページも活用します。

一年間の学習が終了する頃には、堅実な基盤の上に中級以上の実力が積み上げられて、「もっとフランス語が読め、書けるようになりたい」、「フランス語でさらに積極的に会話してみたい」という、より上級のフランス語習得への意欲が湧いてくるはずです。

テキスト：

Simple comme bonjour (阿南婦美代; 井上富江; コモン・ティエリ 著, 白水社) 各自生協で購入してください。

Un, deux, trois —exercices de français— (齋藤昌三著, 白水社) 2005年度文学部フランス語(初級)使用教科書。1年次でこの教科書を購入していない者は、各自生協で購入してください。

【04】フランス語 B(2)
【93】フランス語第 B(2) 教授 小倉孝誠

授業科目の内容：

初級文法の復習と確認をしながら、現代フランスに関する時事的な文章を読みます。フランス語を学ぶと同時に、フランスとフランス人について基本的な認識をもってもらえる機会になることをめざします。必要に応じて、映像資料を用いて理解の助けとします。

テキスト：

ボームルー編著「ヴァリエテ・フランセーズ2006」(朝日出版社2006年, 1900円) 生協で各自購入のこと。

【04】フランス語 B(2)
【93】フランス語第 B(2) 講師 岩崎 洋介

授業科目の内容：

フランスの様々な分野の新聞、雑誌記事のリライトした文章を読みます。フランスの新聞等を自力で読む為の練習となりましょう。

テキスト：

「ヴァリエテ・フランセーズ2006 やさしい時事フランス語」(朝日出版)

【04】フランス語 B(2)
【93】フランス語第 B(2) 講師 ベリセロ, クリスティアン・アンドレ

授業科目の内容：

Ce cours s'adresse aux élèves qui ont suivi un cours avec un manuel de français niveau 1. Ce cours vous permettra de réviser les

bases de la grammaire que vous avez apprises en première année et de poursuivre votre apprentissage du français. Vous pratiquerez avec ce livre, la conversation, l'écriture et la lecture. Il y a aussi des activités de compréhension orale. Ce livre est aussi fait pour passer les épreuves du DELF A2.

テキスト：

Tandem, niveau 2, Edition Didier

【04】フランス語 B(2)

【93】フランス語第 B(2) 講師 藤村 均

授業科目の内容：

主要な文法事項の修得，読解力の養成，フランスの文化，社会，歴史に関する知識と理解力を身に付けること。

テキスト：

(前期)

- ・フランス地理と歴史の旅
- ・*A la découverte de la France*, Bernard Leurs Hironobu Saito 白水社

フランス語第 B(2)

講読とリスニング 講師 泉 邦寿

授業科目の内容：

文法の確認と練習をしつつ，いろいろな種類のテキスト（歌を含む）を読む予定です。発音，読み方，リスニングの練習も合わせて行います。

テキスト：

はじめはプリントして配布，あとから教科書（未定）を使用の予定。

参考書：

泉 邦寿「フランス語，意味の散策」（大修館書店），泉 邦寿「フランス語の小道」（白水社）ほか。

【04】フランス語 B(2) 水曜 4 限

【93】フランス語第 B(2) 講師 シャルコフ，スヴェトラナ

授業科目の内容：

フランス語の会話と発音

【04】フランス語 B(2)

【93】フランス語第 B(2) 講師 真屋 和子

授業科目の内容：

ヴァトー，モロー，ピカソなどの名画 15 点を素材に，やさしく書かれたテキストを読みます。それぞれの課に対応する文法の要点を説明します。聞き取り，書き取り練習も行い，総合的な基礎力が身につくよう目指します。さらに，絵画作品の背景にも触れ，フランスの文化や歴史への関心が広がるようにします。

テキスト：

Lire des Tableaux 『絵画を読む』オリヴィエ・ビルマン他編（青山社，2004 年，1800 円）

【04】フランス語 B(2)

【93】フランス語第 B(2) 映画のシナリオを題材としてフランス語の日常会話表現を学ぶ 講師 阿部 静子

授業科目の内容：

日常使われているフランス語の会話表現を映画のシナリオを通して学ぶ授業です。

ヌーヴェル・バーグの監督，エリック・ロメル の軽妙洒脱かつ哲学的な会話を中心として，幾つかの映画の中から学習に適したシーンを選んでビデオや DVD で見ながら学習していきます。後期にはそれまでに学んだフランス語の力を発揮する機会として自由な発表の時間を予定しています。

テキスト：

プリントを使用します。

参考書：

特にありませんが 1 年次で使用したテキスト（文法）を毎回持参してください。

【04】フランス語 B(2)

木曜 5 限

【93】フランス語第 B(2) 講師 ボダン，エマニュエル

授業科目の内容：

Dans ce cours d'expression orale, nous aborderons divers aspects de la culture française à partir de documents authentiques variés (chansons, BD, vidéos...)

L'assiduité aux cours est requise.

L'évaluation reposera sur des tests semestriels et sur un contrôle continu.

【04】フランス語 B(2)

【93】フランス語第 B(2)

ヴィクトル・ユゴーの「ノートル＝ダム・ド・パリ」

講師 亀谷 乃里

授業科目の内容：

Christian Beaumelou がロマン主義の作家 V. Hugo(1802-1885) の小説「ノートル＝ダム・ド・パリ」を，初級文法を終えた学生のために平易に書き直したもの（福井芳男註）を読みます。

テキスト：

クリスチャン・ボームルー，福井芳男編著，ヴィクトル・ユゴー「ノートル＝ダム・ド・パリ」朝日出版社，1993，1155 円

【04】フランス語 B(2)

水曜 2 限

【93】フランス語第 B(2) ランボーの生涯と作品を知る 講師 宮崎 康子

授業科目の内容：

17 才で独自の詩法を編み出し，数年後には詩を捨ててアフリカで武器の商人となった天才詩人，ジャン・アルチュール・ランボーの生涯と作品について，易しいフランス語で書かれた説明文をまじえて学びます。

テキスト：

ランボーによるエチュード 篠沢秀夫他著 朝日出版社

参考書：

初回授業時に指示します。

【04】フランス語 D(2)

教授 荻野 安奈

授業科目の内容：

フランス語の初級ですが，ある程度の基礎がある，という前提のもとに，読解力の速習をめざします

テキスト：

le français (斎藤昌之著，白水社)

参考書：

プリント配布

中国語

【04】中国語 B(2)

水曜 3 限，水曜 5 限

【93】中国語第 (選択)(2) 講師 阿部 順子

授業科目の内容：

中国語の文章読解です。テキストの内容は日本で勉強している中国人留学生（大陸，台湾）へのインタビューです。文章読解力がない，また簡体字とともに繁体字を読む練習をします。

同時に，中国人留学生の個人的な状況の一環を知ること，現代

の中国人に対する理解を深められればと思います。

テキスト：

『留学生的的心声』(牧田英二, 楊立明著, 同学社刊)

参考書：

授業時に適宜指示します。

【04】中国語 B(2) 金曜3限, 金曜4限

【93】中国語第 (選択)(2)

中国古典の名作を現代中国語で味読する

講師 平井 徹

授業科目の内容：

初級中国語を一年間学習した既習者を対象とする。一年間の勉強を通して、ある程度まとまった文章を読めるようになることを目標とする。

基礎的文法事項をチェックしながら語彙を増やす一方で、発音にも絶えず留意し、リスニング能力を訓練することにも重点をおきたい。テキスト附属のCDも活用してほしい。

具体的には、私たちにもなじみ深い中国古典文学を平易な現代語にリライトした文章を扱う。文章を丁寧に読解することで、基礎的理解を確実に定着させ、応用力を養うのがねらい。授業中は学生を指名し、読みと和文訳をしてもらう。文脈をしっかりとつかみ、言葉の句切りを意識した読みができるように。

史蹟踏査の経験や、関連する映像資料なども活用して、中国古典に対する広汎な知識が深められる授業にもなるよう心がけたい。作品についての説明もなるべく加えて、読む楽しみを広げたいと思っている。

テキスト：

劉曉雨編・榎本英雄編訳『音読で味わう中国名言故事』(アルク)

参考書：

授業時に適宜紹介する。辞書は今使用しているもので可。

【04】中国語 B(2) 火曜4限, 火曜5限

【93】中国語第 (選択)(2) 講師 高橋 幸吉

授業科目の内容：

一年生で学習した文法事項の定着を図るとともに、より多くの表現と語彙を学習していきます。教科書は会話と読解が交互に載っていますが、本年度は読解を中心に中国語力の向上を目指します。教科書は中国の文化や風土を紹介する内容のもので、これを中心としながら、適宜プリントや映像資料を用いて中国に対する理解を深めたいと思います。

テキスト：

小川郁夫『中国を知るための中国語中級テキスト』(白帝社)

【04】中国語 B(2) 金曜5限

【93】中国語第 (選択)(2) 講師 小沢 千代子

授業科目の内容：

現代中国の諸事情を中国の新聞よりみる。

2005年に報じられた社会、経済、生活、教育、スポーツ面の最新ニュースを題材として、書き言葉の常用文法形式などに注意しながら読解・文法を学ぶ。

テキスト：

『2006年度版 時事中国語の教科書』(朝日出版社) 1900円 + 税。

参考書：

「whyにこたえるはじめての中国語の文法書」相原茂 同学社。

【04】中国語 B(2) 月曜3限

【93】中国語第 (選択)(2) 助手 吉永 壮介

授業科目の内容：

初級で学習した文法事項を確認しつつ、中級で必要な語彙・構文の習得を目指します。読解を中心しつつ、作文・聞き取りの練習も行います。テキスト終了後は、新聞記事等のプリント教材を使用し、読解力のさらなる向上と同時に、現代中国についても理解を深

めてゆくことを目指します。

テキスト：

関根謙 / 陳祖A『中国のひとつとき 初級から中級へ』朝日出版社

【04】中国語 B(2) 金曜3限, 金曜4限

【93】中国語第 (選択)(2)

現代中国語で中国の歴史を読む 講師 平井 徹

授業科目の内容：

初級中国語を一年間学習した既習者を対象とする。一年間の勉強を通して、ある程度まとまった文章を読めるようになることを目標とする。

基礎的文法事項をチェックしながら語彙を増やす一方で、発音にも絶えず留意し、リスニング能力を訓練することにも重点をおきたい。

具体的には、私たちにもなじみ深い『史記』や『三国志演義』の中から、有名なものがたりを平易な現代語にリライトした文章を扱う。文章を丁寧に読解することで、基礎的理解を確実に定着させ、応用力を養うのがねらい。授業中は学生を指名し、読みと和文訳をしてもらう。文脈をしっかりとつかみ、言葉の句切りを意識した読みができるように。

史蹟踏査の経験や、関連する映像資料なども活用して、広汎な知識が深められる授業にもなるよう心がけたい。背景についての説明もなるべく加えて、読む楽しみを広げたいと思っている。

テキスト：

于振領編著『中国歴史故事』(駿河台出版社)

参考書：

授業時に適宜紹介する。辞書は今使用しているもので可。

【04】中国語 B(2) 水曜4限

【93】中国語第 (選択)(2) 講師 伊藤 晋太郎

授業科目の内容：

一年次に学んだ文法や表現法をふまえ、読解を中心とした授業を行ないます。教科書の課文は、いずれも中国人の一般的な生活を紹介する内容です。中国語の勉強と同時に、中国人の生活や習俗についても理解を深めてもらいたいと思います。

また、中国語の歌を紹介したり、受講生の習熟度に応じて補助教材を使用したりする予定です。

テキスト：

荒屋勸・徐迎新『中国人「暮らし」のスケッチ』朝日出版社

【04】中国語 A(2) 金曜5限

【93】中国語第 (指定)(2) 講師 趙 暉

授業科目の内容：

テキストは三段階に分けられて(各課)、会話中心となっています。「STEP 1」は、やや短めの会話で、「STEP 2」はやや難しい応用編で、「STEP 3」は発展編です。充実した文法内容が織り込まれているので、この講義を受講することによって、会話をより高めると同時に、作文もより自由に書けるようになることが、本講義の目標です。

テキスト：

「実用中国語会話」張明傑著 全星堂出版

参考書：

小学館『中日辞典』(2003年版)(電子辞書の使用も認めます)

【04】中国語 A(2) 火曜4限, 火曜5限

【93】中国語第 (指定)(2)

聴聴・写写・背背・誦誦 講師 林原 千晶

授業科目の内容：

本教材は「声を出して読む」ことを基調にしています。

私達は聴解能力を高めようとするとき、「多聴」に努めますが、聴解能力は聞く回数に比例するものではありません。ある文が聞き取れる条件は、その文がネイティブ並みのスピード、イントネーションでもっていえることにあるのです。

私達は初級中国語を学んだ時、ピンインを学び、一つ一つの単語

を正確に発音することには注意を払ってきました。しかし、文章を読むとなると、所謂たどたどしい読み方になってしまいます。初級の段階ではピンインと発音を覚えること、初級文法の理解と運用で精一杯で、音読に割く時間が十分とは言えなかったことにあります。ということは、長い文を読解することは出来ても、聞くのは短文であつても分からないということになりがちです。

文字を読むという「視覚」からのインプット及び文字を書くというアウトプットの回路は、音声で耳で聞くという「聴覚」からのインプット及び音声を口から出すというアウトプットの回路と全く別物です。ですから学習方法も自ずから違ってきます。本教材で学ぶ1時間は目に頼らず、耳と口をフル回転させることを覚悟して下さい。

学習方法を以下に記しておきます。

- 1 先ず録音を2回聞きます。細かいことに拘らず大意を掴んで下さい。
何についての話しなのか二三質問します。
- 2 何回かテープを回します。録音を聞きながら、聴写をしてください。
分からないところはピンインを書き取って辞書で調べなさい。
- 3 答合わせ
- 4 《语法》《说说汉语》
- 5 リピーティング：テープについて一文ずつ復唱します。
- 6 シャドウイング：テープと同時に全文発音していきます。
- 7 次週の宿題：全文の暗誦

テキスト：

毎回プリントを配布します。20ポケットのノートを用意すること。

参考書：

『中国語と近代日本』安藤参太郎 岩波新書

【04】中国語 A(2)	木曜1限, 木曜2限
【93】中国語第 (指定)(2)	
コミュニケーション中国語	講師 費 燕

授業科目の内容：

すでに学んだ文法を復習しながら、中国語の会話、普通の中国人のスピードで話す中国語が聞き取れる練習を中心に授業を進める。会話練習は、学生を主体に毎回与えるテーマに応じて、寸劇を作り、発表する。

授業はできるだけ中国語を使い、最終的にはすべて中国語で行う。一年を通して、会話、聞き取り能力アップを目指すことが本講義の目標。

テキスト：

塚本慶一監修、劉穎著『二年生のコミュニケーション中国語』(白水社 2200円)

参考書：

特に指定なし。必要な資料を随時プリント配布する。

【04】中国語 A(2)	金曜4限
【93】中国語第 (指定)(2)	
	講師 山下 一夫

授業科目の内容：

ビデオ教材を用い、会話表現を学びながら、中国語の運用能力を養ってゆきたいと思えます。

ディクテーションのほか、暗唱や短劇など、口頭での練習も行いますので、授業には積極的な参加が求められます。

テキスト：

相原茂・陳祖A『北京コレクション 初級～中級』朝日出版社

参考書：

山下輝彦『中国語の入門』白水社

【04】中国語 B(2)	木曜5限
【93】中国語第 (選択)(2)	
	講師 吳 敏

授業科目の内容：

中国語の初級学習を終えた学生に対して、会話を中心に授業を行う。中国文化や社会現状に迫りながら、実用的な語彙とセンテンスを増やし、言葉の聞き取る力を育てる。また自分の意思を伝えるた

め、習った文を活用できるように学習を進めたい。これは本講義の目標です。

「生きた」中国語を気楽に学べるように北京で留学している日本人学生の見聞(ノミの市、映画学院あれこれ...)を教科書にする予定。

授業は主として中国語で行う。時には授業内容に応じるビデオを鑑賞。問答法のほか、グループに分けて対話や討論・ロールプレイといった方法を利用して授業の活発化をはかる。

テキスト：

『話す中国語(北京編3)』著者：董燕/遠野光暁 朝日出版社 ¥2500(CD付き)

【04】中国語 B(2)	木曜3限
【93】中国語第 (選択)(2)	
コミュニケーション中国語	講師 松下 淑子

授業科目の内容：

中級中国語の第一歩として、文法システムに沿って応用を展開していく。会話形式のテキストを使用する。既習の文法や文型を復習しながら、新たなフレーズを覚え、中国語の円滑なレベルアップをはかる。

また、中国旅行などを中心に、いろいろな場面設定をして、授業の中で多くのグループ会話を行う予定。活発な授業を行いたいので積極的に質問したり、会話練習に取り組んでほしい。

テキスト：

朝日出版社『北京コレクション』相原茂他

参考書：

授業中に提示

【04】中国語 A(2)	木曜5限
【93】中国語第 (指定)(2)	
	講師 黄 漢青

授業科目の内容：

一年次の学習内容を復習しながら、中級中国語の読解、会話の表現力の習得をめざします。また、自然なスピードの中国語を聞き取る訓練もおこないます。テキストに沿って授業を進めますが、時間のゆるす限り中国事情も紹介します。

テキスト：

洪潔清・劉郷英著『听听说说』(白帝社, 2004年, 2500円)

【04】中国語 上級A(2)	水曜5限
【93】中国語第 (上級)(2)	
	講師 道上 知弘

授業科目の内容：

やや高度な中国語会話のテキストを読みながら「中国語らしい」表現を身につけてゆくことを目指します。会話表現を豊かにするとともに、その骨格となる中国語文法の概念も同時に学んでゆきます。

受講者にはあらかじめ基礎的な文法知識や語彙力が求められます。中級以上の実力があることを前提に授業を進めますので、授業初回時に指定する参考書の中から各自適宜に選んで熟読してください。

テキスト：

潘建華編著『漢語口語習慣用語教程』北京語言大学出版社

参考書：

随時指示します。

【04】中国語 上級B(2)	木曜2限
【93】中国語第 (上級)(2)	
	講師 胡 志昂

授業科目の内容：

中国で話題になった最近の新聞記事や小説などを取りあげて精読する。受講者の読解力の向上と異文化に対する理解を深めるのが目的。

テキスト：

プリントを使う

【04】中国語 D(2) 土曜1限
【04】中国語初級(2)
【93】中国語(初級)(2) 講師 表野和江

授業科目の内容:

初級文法を学習します。覚えた文法を用いて会話・作文の反復練習をおこない、定着を目指します。

テキスト:

『ぼくのせんせい 中国語しゃべるねっと倶楽部』(郭雲輝・朝日出版社)

【04】中国語 上級A(2) 水曜2限
【93】中国語第(上級)(2)
“時事中国語” 教授 山下輝彦

授業科目の内容:

上級レベルを修了し、中国語の会話力、読解力ともかなり上達している学生を対象とする授業である。このような学生でも、ラジオやテレビの中国語が聞き取れない者が多い。マスコミで使っていることばは、時事用語が多く、普通の中国語学習と異なる方法で勉強しなければ身につかないものである。そこで本授業では、時事中国語について勉強する。ただ聞いて理解できるだけでなく、自分の口で言えるように、テーマを選びそれについて中国語でディスカッションし、学習した知識を確実に身につけてもらう。

テキスト:

プリント使用

参考書:

授業の時に指示

【04】中国語 上級B(2) 月曜5限
【93】中国語第(上級)(2)
“作文と翻訳” 講師 蒋文明

授業科目の内容:

この講義は中国語の作文と日本語から中国語への翻訳についての知識とテクニックを学ぶことを目的としている。授業で使われる文章は、日常生活や仕事上の手紙と書簡から、高度な文章力が必要とされるニュース原稿、演説、エッセー、書評、対談、小説まで、広範に涉っている。受講者は各種の練習をこなすことによって、語彙を増やし、文法を強化し、中国語の作文力を高めていくことになる。練習は日本語から中国語への翻訳作業が中心で、その中で二つの言葉の共通点と相違点を見つけながら、比較し、考えることによって、翻訳の基礎知識とテクニックを学んでいく。

テキスト:

プリントを使用

参考書:

講義中に指定

スペイン語

【04】スペイン語 A(2) 金曜5限
【93】スペイン語第(2)
スペインの芸術家たち その生涯と作品
教授 坂田幸子

授業科目の内容:

年間で4人ほど、スペインを代表する芸術家を取り上げ、その伝記や作品解説、あるいは芸術家の生きた時代や社会に関する記述などを読むことによって、読解力の向上をはかる授業です。比較的平易なテキストから、本格的・専門的なテキストに到るまで、種々様々な文章を取り上げます。また、履習者の方には、それぞれ1回ずつ、短い発表をしていただく予定です。

テキスト:

プリント教材を使用

【04】スペイン語 B(2) 金曜4限
【93】スペイン語第(2)
スペインの風土 食文化史の地平から
講師 佐伯朝彩子

授業科目の内容:

しっかりとしたスペイン語力を身につけていただけるようにスペイン語の文章を読む練習をいたします。

スペインの人びとの胃袋を満たし、その食卓に彩りを添えてきた料理や食材にまつわる文章を準備いたしますので、テキストの講読を通じて食文化史の視座からの一つのスペイン理解を目指しましょう。

テキスト:

『スペインの歴史と社会』E.コントレーラス、立石博高、増井実子共著 白水社 (ISBN 4-560-01696-8) ならびにプリント教材

【04】スペイン語 C(2) 月曜4限
【93】スペイン語第(2) 講師 ガルシア、カルロス

授業科目の内容:

あらゆる場面で対応できる会話力をつけることを目的とします。

文法、語彙は一つの道具として学びながら、日常生活における様々な状況においてすばやく、正しく受け答えができるようにします。

また、場面を想定してそれを展開してゆくなかで、会話表現の幅を広げてゆきます。

テキスト:

Nuevo ELE inicial 2, Libro del alumno (Ediciones SM)

【04】スペイン語 D(2) 月曜5限
【93】スペイン語第(2) 講師 ガルシア、カルロス

授業科目の内容:

あらゆる場面で対応できる会話力をつけることを目的とします。

文法、語彙は一つの道具として学びながら、日常生活における様々な状況においてすばやく、正しく受け答えができるようにします。

また、場面を想定してそれを展開してゆくなかで、会話表現の幅を広げてゆきます。

テキスト:

Nuevo ELE inicial 2, Libro del alumno (Ediciones SM)

【04】スペイン語 E(2) 金曜4限
【93】スペイン語第(2)
キューバに学ぶスペイン語 講師 岩村健二郎

授業科目の内容:

キューバの文化、歴史、社会に関するテキスト(文字、音楽、映像)を中心にスペイン語を勉強します。歌謡曲の歌詞を訳してラテンアメリカの文化について考えたり、ラテンアメリカの知識人が自文化をどう論じているかを読んで文化論そのものの意味について考えたりします。映画や新聞記事なども取り上げる予定です。ともあれ語学ですから、初級文法のチェックや復習も適宜行い、中級文法の課題を出すこともあります。必ず一年生の時に使用した教科書と西和辞典を持参してください。

テキスト:

なし(配布するプリントが主です)

参考書:

なし(教室で適宜指示します)

【04】スペイン語 E(2) 月曜4限
【93】スペイン語第(2) 助手(有期) 井関睦美

授業科目の内容:

この授業は、論理的文章の読解力と表現力を高めることを目標に、講読と作文を中心にすすめていきます。これらの作業を通して、スペイン語 日本語、日本語 スペイン語という構文的な置き換えだけでなく、コンテキストを理解し、自分の言葉で説明する訓練をし

ていきます。講読用のテキストには、スペイン語圏や日本の歴史、文化、社会などに関する短い説明文を数多く取り上げる予定です。

テキスト：

講師がハンドアウトを用意します。

参考書：

- ・西和辞書（小学館西和中辞典，白水社現代スペイン語辞典）
- ・和西辞書（白水社，三省堂）

【04】スペイン語 G(2) 金曜 4 限
【93】スペイン語第 (2) 講師 竹下 淳子

授業科目の内容：

この授業は、スペイン語の文法力を伸ばすことを目的とします。

既に学習した文法事項を徹底的に復習，重要事項を確認，補足し，中級レベルに進みます。

毎回，問題集を中心に，なるべく多くの文法練習問題をこなしてゆきます。

また，適宜，簡単な読解問題のプリント等も使って，学んだ文法力を応用してゆく力もつけてゆくと同時に，語彙・成句などの強化も図り，総合的な語学能力の向上も目指します。

成績評価は期末試験の成績のほかに，出席，平常点も考慮したいと思えます。

参考書等については，授業で指示します。

テキスト：

Francisca Castro: *Uso de la gramática española, nivel intermedio*, edelsa. (文法問題集) およびプリント教材

参考書：

初回の授業で指示します

【04】スペイン語 H(2) 月曜 5 限
【93】スペイン語第 (2)
現在のラテンアメリカを理解する鍵を身につける
講師 前田 伸人

授業科目の内容：

この授業は，スペイン語の初級文法を一通り修了した学生を対象に，躍動激しいラテン・アメリカを理解するためのミニマムを歴史的・地理的・社会的に拾うことで，スペイン語の読解力・表現力を固め，中級スペイン語の養成を目標とします。

大きくいって，次の三本を授業の柱とします。一つ目は，新聞・雑誌の記事や放送原稿を読むことで，ラテン・アメリカの社会的変動の現状を学びます。アルゼンチン，ベネズエラ，コロンビア，メキシコ等が焦点です。二つ目は，エッセーを扱うことで，こうした変動の底にある，ラテン・アメリカの歴史的形成について触れます。先住民文化，人種の混雑，汎ラテン・アメリカ主義がポイントとなります。併せて同地域のスペイン語の特徴にも言及します。更に，三つ目には，ラテン・アメリカの持つ自然を概観するつもりです。

変動，変動と言いますが，何が従来と変わっているのか，正直なところ，諸君は疑問を持っている筈です。この授業がラテンアメリカ理解の定点観測点となることを願ってやみません。

テキスト：

毎回プリントを配布いたします。

参考書：

授業中適宜御紹介いたします。

【04】スペイン語 I(2) 金曜 5 限
【93】スペイン語第 (2) 講師 竹下 淳子

授業科目の内容：

この授業では，主にラテンアメリカの文化・習慣・生活・音楽に関する様々なテキストの講読を通して，スペイン語の文法力を伸ばすことを目的とします。

受講生の文法の習熟度に応じて適宜，文法ドリルなどの補助教材を取り入れ，基礎的な文法力の定着，強化を図りながら，中級レベルに進みます。

また，テキストを通して，ラテンアメリカに対する基礎的な知識

を学ぶと同時に，ラテンアメリカ諸国への理解をより深める為に世界遺産の映像等も見てゆきたいと思えます。

テキスト：

毎回授業時にプリントを配布します。

参考書：

初回の授業で指示します。

【04】スペイン語 D(2) 月曜 5 限
【04】スペイン語初級(2)
【93】スペイン語(初級)(2) 講師 敦賀 公子

授業科目の内容：

この授業は，既に初級文法を一通り学習した学生や初めてスペイン語を学ぶ学生を対象として，文法の要点習得に主眼をおき，平易な内容の文章ならば辞書をひきながら訳読できるようになるのを目標とします。スペイン語を既に履修したことのある学生にとっては，文法の総復習となり，また初めて学ぶ学生にとってはスペイン語とスペイン語圏理解の導入となるよう進めていきたいと思えます。

テキスト：

・西川喬著『新スペイン語ゼミナール』(第三書房)

参考書：

宮本博司 著『超入門スペイン語』(大学書林)
『西和辞典』(小学館，白水社他)

イタリア語

【04】イタリア語 A(2)
【04】イタリア語 B(2)
【93】イタリア語第 (2)
[A] 教授 白崎 容子
講師 望月 一史
講師 堤 康徳
[B] [春] 訪問講師 ジョエ，イニャツィオ 未定
[秋] 講師 竹内 マテルダ
講師 ビオンディ，マルコ

授業科目の内容：

[A] 系列では，《Nuovo Passo a Passo》の項目にそって文法を最後まで学んだ後，やさしい文章を読んで書き言葉に慣れるようにします。文法の知識のさらなる充実も図ります。

[B] 系列では会話表現を学びます。

テキスト：

[A] 系列《Nuovo Passo a Passo》《Facciamo esercizi!》(いずれも「イタリア語」で使用)+プリント

[B] 系列《LINEA DIRETTA nuovo 1b》

【04】イタリア語 D(2)
【04】イタリア語初級 A(2)
【93】イタリア語(初級)(2)
速修イタリア語 講師 望月 一史

授業科目の内容：

イタリア語の基本的な表現や文法事項を1年間で学び，この授業を受けることにより，イタリア語のアウトラインはほぼつかめると思えます。なお，イタリア語初級 B または初級 C をあわせて履修するとより効果的です。

テキスト：

白崎容子著「らくらくマスターイタリア語」郁文堂 2200 円

参考書：

ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典 小学館

【04】イタリア語 D(2)	
【04】イタリア語初級B(2)	
【93】イタリア語(初級)(2)	
[春] 訪問講師	ジョエ, イニャツィオ
[秋]	未定

授業科目の内容:

初心者向けの会話クラス。特に春学期は日本語で文法の説明も行いながら授業をすすめます。基礎的な会話表現を身につけるとともに、語彙力の増強をはかります。

テキスト:

《ESPRESSO》

参考書:

- ・イタリア語のABC(白水社)
- ・1からはじめるイタリア語練習(白水社)
- ・イタリア語を学ぶ(PHP新書)
- ・イラストいっぱい!イタリア語単語集(白水社)
- ・日本語から引く知っておきたいイタリア語(小学館)
- ・[辞書]ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典(小学館)

【04】イタリア語 D(2)	
【04】イタリア語初級C(2)	
【93】イタリア語(初級)(2)	
[春] 訪問講師	ピオンディ, マルコ
[秋]	未定

授業科目の内容:

日吉開講の「イタリア語入門」を履修した学生、あるいは初歩的なイタリア語の知識を多少持っている学生を対象とします。レベルとしては初級ですが、文法的な説明よりも実践的な会話練習をより多く行ないます。授業は原則としてイタリア語のみで行われます。

テキスト:

《ESPRESSO》

参考書:

- ・イタリア語のABC(白水社)
- ・1からはじめるイタリア語練習(白水社)
- ・イタリア語を学ぶ(PHP新書)
- ・イラストいっぱい!イタリア語単語集(白水社)
- ・[辞書]ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典(小学館)

朝鮮語

【04】朝鮮語 A(A)(2)	教授	野村伸一
【93】朝鮮語(中級)(2)	講師	崔鶴山
【93】朝鮮語第(2)	講師	李泰文
	講師	崔柄珠

授業科目の内容:

中級レベルのこの授業では1学年に続き、日常的な場面をテーマにした各課のシチュエーションを学習することで、状況に応じた表現方法を習得するとともに、韓国人の会話スタイルについても理解を深めていきます。そのほか、時には映画やドラマ、新聞などを素材にして、生きた韓国語に慣れ、韓国の文化や社会事情に対する理解も高めていきます。

これと関連し、授業では受講生の発表の時間を取るようにします。一週間に二回の授業は、講師は変わっても、同一教材を用いて進めます。各課ごとに小テストをして、達成度をはかります。

出席、応用問題の回答提出と小テストは一年時と同様に重要です。授業進捗の詳細は初回の授業の時にプリントで示します。

テキスト:

慶應義塾外国語学校編『朝鮮語 中級』

【04】朝鮮語 B(2)	金曜5限
【93】朝鮮語(中級)(2)	
【93】朝鮮語第(2)	講師 李泰文

授業科目の内容:

この中級は、1年ほど学習し、基本的な文章体、口語体の読み書きができる人を対象にしています。具体的には、すでに現在・過去・未来といった時制や変則活用、連体形などを一通り習得した皆さんの文型や表現パターンを増やすことを目的としています。

そして、教科書の文型や表現だけではなく、自分の意見や考えを伝えることができるように身につけることを目的としています。

テキスト:

慶應義塾外国語学校のテキスト(中級)

参考書:

油谷幸利他編『朝鮮語辞典』小学館

【04】朝鮮語 D(2)	月曜4限
【04】朝鮮語初級(2)	
【93】朝鮮語(初級)(2)	講師 崔鶴山

授業科目の内容:

日常的に使う韓国語のための基礎文法知識を習得する授業です。まず、発音と文字体系、文の仕組みになれるようにします。「ハングル」という馴染みのない文字を使う韓国語は一見難しく見えますが、文の構造や語順、漢字語などは日本語のそれととてもよく似ているため、特に日本人には意外と早い上達が期待できる言語です。一年間の学習により、自己紹介、日常の簡単なやりとり、日記などの基本的な口頭表現及び文章表現ができるようになります。平常点、出席を重視します。

テキスト:

「はじめての韓国語」崔鶴山著、白水社

ロシア語

【04】ロシア語 A(2)	月曜5限
【93】ロシア語第(2)	講師 金沢大東

授業科目の内容:

初級で学習した語形変化と基礎単語力を足がかりとして、この中級コースでは、文型を扱う。特にロシア語の複文の内の従属複文を重点的に学習する。

テキスト:

《白い金》A. ナコルチェフスキー、金沢大東共著、慶応大学出版

【04】ロシア語 B(2)	木曜5限
【93】ロシア語第(2)	助教授 ナコルチェフスキー、アンドリイ

授業科目の内容:

ロシア語の構文論、標準的な表現手段の学習

テキスト:

ナコルチェフスキー・アンドリイ・金沢大東 「白い金」慶應義塾大学出版会

【04】ロシア語 D(2)	
【04】ロシア語初級(2)	
【93】ロシア語(初級)(2)	講師 佐野洋子

授業科目の内容:

このクラスは初めてロシア語を学ぶ人を対象とし、一年間で初級文法を習得します。最終的には、平易なロシア語のテキストを読む力をつけることを目的とします。

テキスト：

生協購買部にて、コピー冊子を購入して下さい。

参考書：

辞書が必要になりますが、初回の授業で説明します。

専 門 科 目

哲学専攻

必修科目

【04】【93】哲学概論(4)

哲学入門

教授 西脇 与作

哲学はどのようなものかを概説した上で、哲学の主要なテーマについて具体的に説明していく。哲学、倫理学専攻の二年生を対象にし、哲学への入門と考えてほしい。

テキスト:

『現代哲学入門』西脇与作、慶應義塾大学出版会

参考書:

必要に応じて、プリントを配布する。

【04】【93】西洋哲学倫理学史 (4)

Archaeologyとしての哲学

教授 堀江 聡

授業科目の内容:

日本語で独習できる哲学者は省き、初学者にはアクセスしにくい思想家を採り上げる。「拡大された中世哲学」の建て増し部分に重点を置き、なるべく興味ある話題を提供しようと思う。「拡大された」というのは、従来、西洋中世哲学史のなかに含められなかった、或いは触れることができるほど学問が進歩していなかったという意味である。具体的には、フランスの哲学史家として著名なアラン・ド・リベラの枠組みに沿って、東方イスラーム、西方イスラーム、中世ユダヤ思想、ビザンツ帝国の哲学に踏み込んでみる。その基礎となるのが、思想としては紀元3~6世紀の新プラトン主義であり、道具としては、古代ギリシア語、アラビア語、ヘブライ語、ラテン語である。

テキスト:

『プロティノス・ポルピュリオス・プロクロス』(世界の名著15)(田中美知太郎・田之頭安彦・水地宗明訳)、中央公論新社。その他、原典などはコピー配布予定。

参考書:

- ・アラン・ド・リベラ『中世哲学史』(阿部一智・永野潤・永野拓也訳)、新評論、1999年。
- ・『中世思想原典集成11.イスラーム哲学』(竹下政孝 監訳)、平凡社、2000年。
- ・伊東俊太郎『12世紀ルネサンス 西欧世界へのアラビア文明の影響』岩波セミナーブックス42、1993年。
- ・水谷智洋『古典ギリシア語初歩』、岩波書店、1990年。
- ・小脇光男『聖書ヘブライ語文法』、青山社、2001年。
- ・佐々木淑子『アラビア語入門』、青山社、2000年。
- ・内山勝利・中川純男編著『西洋哲学史〔古代・中世編〕』、ミネルヴァ書房、1996年。

【04】【93】西洋哲学倫理学史 (4)

西洋近代の哲学・倫理学

助教授 柘植 尚則

授業科目の内容:

この講義では、西洋近代の哲学・倫理学の歴史を概説する。哲学専攻・倫理学専攻の2年生を主たる対象とし、学生が専門の研究に必要な基礎を習得することを目標とする。受講者は、3・4年生向けに開講される専門科目に備えて、西洋の哲学・倫理学に関する幅広い知識を身につけ、それを自らのテーマに活かせるように努めてもらいたい。

テキスト:

柘植尚則編『西洋哲学史入門 6つの主題』(梓出版社、2006年、2500円)

参考書:

授業の中で紹介する。

【04】【93】論理学入門(4)

講師 弓削 隆一

授業科目の内容:

現代の記号論理学の基礎である、命題論理・述語論理について解説する。具体的内容としては、推論の妥当性を前提・結論の真理条件から規定しようとする方法(意味論)、「証明」の概念に基づいて規定しようとする方法、およびこの両者の関係(完全性定理)についての解説が含まれる。上記の内容の的確な理解のためには問題演習が不可欠なので、通常の講義科目よりは演習に近い授業形式を取ることになると思われる。

テキスト:

授業時にプリントを配布する。

【04】哲学倫理学原典講読(独)(4)

【93】原典講読(独)(2)

教授 小松 光彦

授業科目の内容:

ドイツ語の読解力を養うとともに、哲学的思考法の基本を習得させることに主眼を置いた授業を行う。下記のテキストを使用する。講読する部分をコピーして配布する。

テキスト:

Gernot Böhme, Einführung in die Philosophie, Suhrkamp Taschenbuch 1142, 1994

【04】哲学倫理学原典講読(仏)(4)

【93】原典講読(仏)(2)

教授 岡田 光弘

授業科目の内容:

哲学・思想関係のテキストをフランス語で講読する訓練を行う。内容については初回授業のときに説明する。使用するテキストはプリントして配布する。

テキスト:

プリントして配布

参考書:

授業時に指定

【04】哲学倫理学原典講読(露)(4)

【93】原典講読(露)(2)

教授 谷 寿美

授業科目の内容:

受講者の語学力に応じたテキストを講読する。

受講希望者は必ず初回講義時に出席すること。

テキスト:

語学力に応じて選択する。

【04】【93】科学の哲学(4)

科学哲学入門

教授 西脇 与作

講師 安藤 道夫

授業科目の内容:

春学期は科学の哲学の基本的事柄について説明する。使用するテキストの第一部に相当する部分で、必要に応じてプリントも配布する。プリントの内容は主に古典的世界観に関するものである。

秋学期は各論でテキストの量子力学、進化生物等を中心に説明する。

テキスト:

『科学の哲学』西脇与作、慶應義塾大学出版会、2004

【04】【93】中級論理学(4)

[春]講師 照井 一成

[秋]講師 佐々木 昭則

授業科目の内容:

本講義は、論理学入門をすでに終え、記号を用いた論理推論にある程度慣れ親しんでいる人(あるいは同等の知識を持つ人)を対象にした数理論理学の中級コースです。論理学など学ばずとも、我々はみな多かれ少なかれ論理的に思考し、推論することを知っています。ではなぜことさらに数理論理学を

学ぶのかといえば、この「論理的に思考する」とは一体どういうことなのかを数学的な手法を使って理解するためであると言えるでしょう。そのための第一ステップとして論理学入門で解説されたような論理推論の記号化が必要だったわけです。本講義はそれに続く第二ステップであり、むしろ本題であるといえます。そのようにして記号化された論理推論について数学的に何がいえるのかについて、20世紀の古典的成果を中心に解説していきたくと思います。また、それらの数学的成果が（日常、あるいは科学理論における）論理推論の理解にどのように役立つのかについても検討していきたくと思います。

テキスト：

プリントを配布する（前年度のテキストは <http://research.nii.ac.jp/~terui/class.html> よりダウンロード可能）。

参考書：

- ・小野寛晰，情報科学における論理，日本評論社，1994。
- ・D van Dalen, *Logic and Structure* (3rd ed.), 1997.
- ・A. S. Troelstra and H. Schwichtenberg, *Basic Proof Theory* (2nd ed.), 2000.

【04】【93】知識の哲学（4） 講師 丹治信春

授業科目の内容：

今日、人間に関わる様々な科学（神経科学、認知科学、進化生物学など）が急速に発展してきた結果、そうした科学が提示する「科学的人間観」と、われわれが素朴に持っている「常識的人間観」との間に大きな隔たりが生じ、現代人は整合的な自己理解を失いつつあるように思われる。この授業では、そうした問題を理解するために、人間の認知と行動について、最近の諸科学が示している知見の中からいくつかのトピックスを取り上げ、検討してみたい。

テキスト：

なし。

参考書：

講義の中で適宜指示する。

【04】【93】形而上学（4）

プロティノスの運動論・実体論・人間論

教授 堀江 聡

授業科目の内容：

昨年度のプロティノス範疇論の講義演習は、実体範疇の分析に焦点を絞ったが、今年度は運動範疇、性質範疇（種差の位置づけ如何によって、実体範疇の分析と交差する）へと考察対象を拡大することによって、最終的に人間という実体が何を意味するのか、或いは、人間には実体があるのか等といった問いに対する答えを探してみたい。

テキスト：

希語原典はOCT版をコピーして配布する。昨年度は邦訳に加え、参加者の希望により仏訳を担当するものもいた。

参考書：

Plotino Enneadi VI 1-3 Sui generi dell'essere, a cura di M. I. Parente, Napoli, 1994; R. Chiaradonna, *Sostanza Movimento Analogia, Plotino critico di Aristotele*, Napoli, 2002; C. Evangelou, *Aristotle's Categories & Porphyry*, Leiden/New York/Köln, 1996; S. K. Strange, *Plotinus' Treatise On the Genera of Being*, Austin, 1981; K. Wurm, *Substanz und Qualität*, Berlin/New York, 1973; *Plotin Traité 7-21*, Paris: Flammarion, 2003; *Plotin Traité 53* par G. Aubry; Paris: Cerf, 2004.

【04】【93】現代論理学の諸問題（4） 教授 岡田光弘

講師 浜野正浩

授業科目の内容：

現代論理学の諸問題と修士課程（哲学特殊）との共通線形論理、証明論を中心とした現代論理学的手法の導入と、論理哲学、情報科学等への応用を行う。

又、これと並行して、フッサール論理学、現象学的論理学の検討会も月に1回のペースで組入れる。

テキスト：

プリントして配布

参考書：

授業時に指定

【04】【93】心の哲学（4） [春]講師 室田 憲司

[秋]講師 木原 弘行

〔春学期〕

授業科目の内容：

春学期は、室田が心身関係の諸理論（心身二元論、行動主義、心脳同一説、機能主義など）について概説します。存在論的枠組に注意を払いつつ、心的現象と物的現象との関係について考えていきたくと思います。

テキスト：

特に指定しません。プリントを配布する予定です。

参考書：

必要に応じて授業中に紹介します。

【04】【93】言語の哲学（4）

休講

【04】【93】現象学（4）

教授 齋藤 慶典

授業科目の内容：

フッサール『純粹現象学と現象学的哲学のための諸考案・第1巻』（通称『イデー』、1913年刊）より、その第2編「現象学的基礎考察」を取り上げ、「現象学」という発想がそもそもいかなるものなのか、その可能性と問題点を徹底して洗い出したいと思います。授業は、あらかじめ分担を定められた担当者によるテキスト当該部分のレジュメと問題提起をもとに、参加者全員によるディスカッションを中心に行ないます。テキストは以下の邦訳版を使用し、必要に応じて原著を参照します（ただし、受講者のドイツ語能力を前提にはしません）。

テキスト：

フッサール『イデー - 1』（渡辺二郎訳、みすず書房、1979年）から該当部分ならびにそれにかかわる原注、訳注部分を、各自何らかの仕方でご用意してください。また他に課題図書（「授業の計画」の項参照）として、齋藤慶典『フッサール 起源への哲学』（講談社・選書メチエ、2002年）が必要です。

【04】【93】宗教の哲学（4）

教授 中川 純男

授業科目の内容：

宗教への主体的な関わりを信念や倫理の問題であると考え、形而上学や哲学から追放するのは近世的な理性であるが、この授業においてはこのような近世的理性批判を行う。今年度は神の存在証明を中心に、カントのいう「理論理性」と「実践理性」の相違について検討することから始める。神の存在論証のもつ意味はなにか、それはいかなる意味での論証なのかを古代中世の哲学文献とカントとを比較しながら考える。受講者は授業に主体的に参加するとともに、授業内容についてのレポート提出を求められる。秋学期には提出されたレポートの発表を含めて授業を行う。

テキスト：

もちいない。

参考書：

必要に応じて紹介する。

【04】哲学原典研究（独）（4）

【93】原典研究（独）（4） 教授 堀江 聡

授業科目の内容：

M. Heidegger, *Sein und Zeit*, Tübingen, 2001 (1927) の序論は昨年度読み終えたので、今年度は本論第一部冒頭から丁寧に読んでゆく。

同書の古代中世哲学の下地を浮彫にすることも一つの課題である。

テキスト：

初回に人数を確認のうえ、コピーを配布する。

参考書：

必要に応じて各自、和訳、英訳等用意しておくこと。

【04】哲学原典研究 (仏)(4)

【93】原典研究 (仏)(4) 講師 関根 小 織

授業科目の内容：

西欧哲学を深く理解するには、原書でその思想を理解し考える態度を身につけることは大変重要です。ここではジャック・デリダの代表的著作を精読し、フランス語独自の言葉の機微をつかみながら、現象学がフランス語圏に移入されたことによる変容の問題についても考えてみたいと思っています。

テキスト：

Jacques Derrida, *La voix et le phénomène*, PUF.

参考書：

E. フッサール『論理学研究』『内的時間意識の現象学』みすず書房

【04】哲学原典研究 (英)(4)(秋学期)

【93】原典研究 (英)(4)(秋学期)

パークレー『人知原理論』を読む 教授 飯田 隆

授業科目の内容：

18世紀イギリスの哲学者 George Berkeley (1685-1753) の著書 *A Treatise Concerning the Principles of Human Knowledge* (1710) のいくつかの箇所を読むことを通じて、哲学のテキストを読むということはどういうことを体験してもらいます。テキストの精密な読解と自由な哲学的議論の両方を軸にした授業にしたいと思います。授業期間中に短いレポートを書いてもらい、それを議論の材料にします。

テキスト：

Jonathan Dancy (ed.), *George Berkeley: A Treatise Concerning the Principles of Human Knowledge*. Oxford Philosophical Text

【04】哲学原典研究 (古典)(4)

【93】原典研究 (古典)(4)

ラテン語哲学文献講読 教授 中川 純 男

授業科目の内容：

中世後期から近世初期のラテン語哲学文献を講読する。ラテン語そのものは簡単なので初心者も受講可能である。授業時は、ラテン語の文法書を持参することが望ましい。たとえば、樋口勝彦・藤井昇共著『詳解ラテン文法』研究社、等。前年度に続きデカルト『省察』を講読する予定であるが、受講者の希望も尊重するので、希望するテキストがあればメール等で伝えてほしい。

テキスト：

必要に応じて配布する。

参考書：

必要に応じて紹介する。

【04】哲学研究会 (2)

【04】哲学研究会 (2)

【93】哲学研究会 (2) 教授 斎藤 慶典

授業科目の内容：

広い意味で現象学に関わるテキストを取り上げ、事前に指定された担当者による報告と問題提起、それに基づく全員によるディスカッションを行ないます。夏休みの終わりに授業の一環としてゼミ合宿を行ない、四年生に卒論の中間発表を・三年生にはその特定質問者をつとめていただきます。秋学期には三年生にも各自の問題意識にしたがった発表をしていただき、全員で議論します。また年度末には(例年2月初旬)、提出された卒論に基づく公開の卒論発表会を行ない、ここでも3年生に特定質問者をつとめていただきます。

なお、卒論提出予定者は初回にテーマ登録をしていただきます。この登録のない者は履修を認めませんので注意して下さい。

【04】哲学研究会 (2)

【04】哲学研究会 (2)

【93】哲学研究会 (2)

言語とアラビア文字の魔術性

【ギリシア魔術文書】とイブン・アラビー【メッカ啓示】

教授 堀江 聡

授業科目の内容：

第一に、英訳(と独訳、乃至読める者はギリシア語原典)を用いて『ギリシア魔術文書』の解釈に挑戦してみたい。解釈のための確乎とした方法論はない。参加者各人が独自の視点と技の冴えを發揮して欲しい。長く引いた母音の詠唱、同一文言の反復、意味不明の言葉を含む呪文が挿絵つきで現れ、テキストを見ているだけでも楽しいものである。第二に、イスラーム最大の神秘家イブン・アラビーの名著『メッカ啓示』のなかから、アラビア文字の象徴的神秘的解釈を提示している箇所を抜粋した英訳(乃至仏訳、必要に応じてアラビア語原典も参照する)80頁を講読する。上記二つの課題の時間配分と誰がどの言語を担当するかは、初回に相談して決める。前者は300頁を越えるので、ごく一部を眺めることしかできないが、少なくとも後者は、ゼミ合宿を利用して読み上げることになる。

テキスト：

The Greek Magical Papyri in Translation including the Demotic Spells, ed. H. D. Betz, Chicago, 1996; *Papyri Graecae Magicae. Die griechischen Zauberpapyri I*, hrsg. K. Preisendenz, Stuttgart, 1973² (Leipzig/Berlin, 1928¹); II, 1974² (1931¹); Ibn al-'Arabi, *The Meccan Revelations II*, translated by M. Chodkiewicz & D. Grill, New York, 2004, pp.107-186; *Les illuminations de la Mecque*, Paris, 1988.

参考書：

井筒俊彦『イスラーム哲学の現像』, 岩波新書, 1980年。T. Izutsu, *Language and Magic: Studies in the Magical Function of Speech*, Tokyo: 慶應義塾大学言語文化研究所, 1956年。The Cambridge Companion to Arabic Philosophy, 2005; W. C. Chittick, *The Self-Disclosure of God. Principles of Ibn al-'Arabi's Cosmology*, New York, 1998; id., *The Sufi Path of Knowledge, Ibn al-'Arabi's Metaphysics of Imagination*, New York, 1989; H. Corbin, *L'Imagination créatrice dans le soufisme d'Ibn Arabi*, Paris, 1953.

【04】哲学研究会 (2)

【04】哲学研究会 (2)

【93】哲学研究会 (2) 教授 岡田 光 弘

授業科目の内容：

言葉の理解, 知覚, 論理思考, AI 情報倫理等に関わる学際テーマに対して哲学, 思想, 論理等の観点も含めて議論する。

研究会の詳しい進め方については初回に参加者と話し合って決定する。

テキスト：

プリントして配布する。

参考書：

授業時に指定する

【04】哲学研究会 (2)

【04】哲学研究会 (2)

【93】哲学研究会 (2)

科学の歴史と哲学

教授 西脇 与 作

授業科目の内容：

昨年は Richard Dewitt の Worldviews を読みながら、内容をレポートしてもらい、議論する形で授業がおこなわれた。まだ多くの部分が残っているので今年度も続行したいと思っている。しかし、最初の授業で受講者と相談の上で、変更の可能性もある。

テキスト：

R. Dewitt, *Worldviews*, Blackwell, 2004

【04】哲学研究会 (2)
【04】哲学研究会 (2)
【93】哲学研究会 (2) 教授 中川 純 男

授業科目の内容：

トマス・アキナスの『真理論』をテキストとして分析する。テキストは英訳あるいは邦訳を配布する。秋学期は、三・四年生の研究発表もあわせ行う。

テキスト：

邦訳を配布する。

参考書：

必要に応じて紹介する。

【04】哲学研究会 (2)(秋学期)
【04】哲学研究会 (2)(秋学期)
【93】哲学研究会 (2)(秋学期)

教授 飯田 隆

授業科目の内容：

日常見慣れている事柄のなかに哲学的問題を発見してそれについて議論することは、しばしば言われているほど簡単なことではありません。哲学のすぐれた入門書とは、そうした見方を提供してくれるものです。この授業では、大森荘蔵『流れとよどみ』に収められたいくつものエッセイを、議論の出発点に取って、知識、存在、こころ、言語といったテーマにかかわる哲学的問題を議論したいと思います。

テキスト：

大森荘蔵『流れとよどみ』産業図書

選 択 科 目

【04】【93】印度哲学(4)

インド的「知」の諸相 講師 齋藤 直樹

授業科目の内容：

西暦紀元前5000年ころ南ロシア・黒海北方に定住していた民族の一部が、前1700年ころから移住を開始し、一時数世紀間、西トルキスタン(現在のテヘラン周辺)にとどまったのち、前1300年頃にヒンドークシュ山脈を越えて西北インドに侵入しパンジャーブ地方を占領した。インドまでやってきたものたちはみずからをアーリヤとよんだが、この語はのちに「聖なる」という意味をになうようになる。このアーリヤ人は、リグ・ヴェーダを嚆矢とするおびただしい数の典籍を語りついできたが、その膨大な文献群は、われわれがそれを概観することすら容易にはゆるそうとしない。

この講義においてわれわれは、アーリヤ人を中心とするインドの伝統のなかではぐくまれ、かたちづくられてきた思想の核心をかいま見るべく、その思想史において中心的な役割をになってきたとおもわれる、いくつかの文献の一部を取りあげることになる。予備的にいえば、インド古代の諸文献に現れるさまざまな言説を読み解いていくとき、「聖と俗」「有と無」「遍在と局在」「永遠と瞬間」「精神と物質」などといった、人間の生と死にかかわる、もろもろの重大な対立軸が浮かびあがってくることになるだろう。そして、それらの対立を超越することにこそ、インド的な「知」の目標がさだめられていることがあきらかになってくるであろう。

テキスト：

なし

参考書：

授業中に適宜紹介する。

【04】【93】宗教学(4)

現代社会と宗教 講師 弓山 達也

授業科目の内容：

本講義では「宗教ブーム」「心の時代」と称せられる現代の社会・精神状況に対して、宗教学的なアプローチを試みる。そのために宗

教学、社会学、精神医学などの諸理論を学びつつ、現代宗教の現状を探っていききたい。ポストモダンの社会変動のなかで宗教をとらえつつ、カルト、自分探し、ファンダメンタリズム、女性教祖、スピリチュアリティ、癒しなどの多岐に渡る現象を、その社会的・心理的背景を踏まえながら、扱うこととなる。

テキスト：

未定

参考書：

未定

倫理学専攻

必修科目

【04】【93】倫理学概論(4) 教授 小松光彦

授業科目の内容:

今日、人間生活のさまざまな領域において「倫理」が求められている一方で、学としての倫理学の危機ないし懐疑が広く深く浸透していることもまた事実である。そもそも倫理学の課題は、たんに「生きる」ことでなく「よく生きる」もしくは「よりよく生きる」ことの追求にある。しかしその場合の「よさ」とは、どのようなことを意味しているのであろうか？ここでは人間存在における倫理の問題のそもそもの成立根拠と、西洋思想史、とくに近代における倫理についての学問的探求(「倫理学の基礎づけ」)の企てに対する反省と再検討を通じて、今日倫理の問題に有意義な仕方であプローチする方法を模索する。

テキスト:

特定の教科書は使用しない。適宜資料プリントを配布する。

参考書:

- ・E. フィンク『人間存在の根本現象』千田義光訳、哲書房 1982年。
 - ・U. グッツォーニ『変革する思考』拙訳、慶應義塾大学出版会 2000年。
 - ・U. グッツォーニ『転回』拙訳、慶應義塾大学出版会 2005年。
 - ・中島義道『悪について』岩波書店(岩波新書) 2005年。
- その他、必要に応じて随時指示する。

西洋哲学倫理学史 (4) Archaeologyとしての哲学 教授 堀江 聡

授業科目の内容:

日本語で独習できる哲学者は省き、初学者にはアクセスしにくい思想家を採り上げる。「拡大された中世哲学」の建て増し部分に重点を置き、なるべく興味ある話題を提供しようと思う。「拡大された」というのは、従来、西洋中世哲学史のなかに含められなかった、或いは触れることができるほど学問が進歩していなかったという意味である。具体的には、フランスの哲学史家として著名なアラン・ド・リベラの枠組みに沿って、東方イスラーム、西方イスラーム、中世ユダヤ思想、ビザンツ帝国の哲学に踏み込んでみる。その基礎となるのが、思想としては紀元3~6世紀の新プラトン主義であり、道具としては、古代ギリシア語、アラビア語、ヘブライ語、ラテン語である。

テキスト:

『プロティノス・ポルピュリオス・プロクロス』(世界の名著15)(田中美知太郎・田之頭安彦・水地宗明訳)、中央公論新社。その他、原典などはコピー配布予定。

参考書:

アラン・ド・リベラ『中世哲学史』(阿部一智・永野潤・永野拓也訳)、新評論、1999年。『中世思想原典集成11・イスラーム哲学』(竹下政孝 監訳)、平凡社、2000年。伊東俊太郎『12世紀ルネサンス 西欧世界へのアラビア文明の影響』岩波セミナーブックス42、1993年。水谷智洋『古典ギリシア語初歩』、岩波書店、1990年。小脇光男『聖書ヘブライ語文法』、青山社、2001年。佐々木淑子『アラビア語入門』、青山社、2000年。内山勝利・中川純男編著『西洋哲学史(古代・中世編)』、ミネルヴァ書房、1996年。

【04】【93】西洋哲学倫理学史 (4) 西洋近代の哲学・倫理学 助教授 柘植尚則

授業科目の内容:

この講義では、西洋近代の哲学・倫理学の歴史を概説する。哲学専攻・倫理学専攻の2年生を主たる対象とし、学生が専門の研究に必要な基礎を習得することを目標とする。受講者は、3・4年生向けに開講される専門科目に備えて、西洋の哲学・倫理学に関する幅広い知識を身につけ、それを自らのテーマに活かせるように努めてもらいたい。

テキスト:

柘植尚則編『西洋哲学史入門 6つの主題』(粹出版社、2006年、2500円)

参考書:

授業の中で紹介する。

【04】【93】倫理学の基礎 (2)(春学期) [春]教授 谷 寿美

授業科目の内容:

倫理学的視点の涵養に資するような文献を講読する。

春学期は“中”、“中庸”、“中道”なる理念をめぐる、東西の文化圏のテキストを読み比べる。

テキスト:

プリントにて配布予定。(文庫本を指示する場合もある。)

アリストテレス『ニコマコス倫理学』、『大学・中庸』他。

参考書:

授業時に指示する。

【04】【93】倫理学の基礎 (2)(秋学期) [秋]教授 谷 寿美

授業科目の内容:

秋学期は“智恵”(ソフィア、ホクマー)をめぐる古代ギリシア、ヘブライ、キリスト教の各文化圏のテキストを関連させつつ講読する。

テキスト:

プラトン『饗宴』他、『ヨブ記』、『箴言』、『雅歌』他。

参考書:

授業時に指示する。

【04】倫理学の課題 (2)(春学期) 【93】自然と倫理(2)(春学期) 生命倫理 教授 樽井正義

授業科目の内容:

生命倫理学という学際的領域に、倫理学がどのような貢献ができるのかを検討することが、この時間の課題です。はじめに、この領域が成立する歴史的過程と、そこで確認されてきた倫理的原理、さらにその原理を支える倫理学理論を明らかにします。そのうえで、HIV/AIDSという病気によって提起された倫理的問題に即して、診療と実験における自己決定権、プライバシー権、健康権、コミュニティの利益、公共財などの概念を考察します。

参考書:

- ・赤林朗編:入門・医療倫理 1. 勁草書房 2005
- ・エイズ&ソサエティー研究会議編:エイズを知る. 角川書店 2001.

【93】哲学的人間学(4)

休講

【04】倫理学の課題 (2)(秋学期) 【93】生活と倫理(2) 情報倫理 情報の所有と利用 教授 樽井正義

授業科目の内容:

人間の生活において情報を集積し伝達する手段の変遷によって、つまり活字情報に電子情報が加わることによって、私たちが接する情報の量と質は飛躍的に変化しつつあります。これにともなって、情報に関して倫理的に検討すべき対象も、古典的問題からさらに多様で複雑な問題へと広がっています。この時間では、知識と情報の私的所有に関わる問題(プライバシー、知的所有権)と公的利用に関わる問題(説明責任、情報へのアクセス、公共財)を中心に、倫理問題の所在とこれを整理する倫理的原理とを検討します。

参考書:

越智貢他編、情報倫理学、ナカニシヤ出版 2000

【04】倫理学の課題 (2)(秋学期)
【93】社会と倫理(2)(秋学期)

休講

【04】倫理学の課題 (2)(春学期)
【93】文化と倫理(2)(春学期)

休講

【04】【93】哲学概論(4)
哲学入門 教授 西脇与作

授業科目の内容:

哲学はどのようなものかを概説した上で、哲学の主要なテーマについて具体的に説明していく。哲学、倫理学専攻の二年生を対象にし、哲学への入門と考えてほしい。

テキスト:

『現代哲学入門』西脇与作、慶應義塾大学出版会

参考書:

必要に応じて、プリントを配布する。

【04】【93】日本倫理思想(4)
「ものごのあわれ」と神道 講師 菅野覚明

授業科目の内容:

本居宣長の思想を中心に、歌学と国学の関わり、復古神道の日本神話解釈をめぐる問題などをとりあげる。

テキスト:

特に指定しない。適宜プリントを配布する。

参考書:

講義時にその都度指示する。

【04】【93】東洋倫理思想(4)
中国古代・中世倫理思想史入門 講師 森 由利亚

授業科目の内容:

この授業では古代から10世紀頃に至るまでの中国の倫理思想の歴史的展開を概説します。特に、儒教、道教、中国仏教をはじめとする中国の思想的、宗教的伝統における倫理観について、最も基本的な点を平易に解説します。中国の倫理や哲学、宗教に興味ある方にとっては無論のこと、中国以外の地域における倫理思想に関心のある方に対しても役立つような適切な知識を提供する場にしていくことを目指します。

テキスト:

プリントを配付します。

参考書:

溝口雄三・丸山松幸・池田知久編『中国思想文化事典』東京大学出版会。他は授業中にお示しします。

【04】【93】キリスト教概論(4)
キリスト教の思想内容を聖書的なナラティブ(語り)を通して顧みる。 講師 芳賀力

授業科目の内容:

春学期は創造から墮罪、救済へと至る歴史の展望を扱う。秋学期は現代の倫理的諸問題に対するキリスト教の考え方を扱う。聖書の成り立ちといった基本的な事柄にも触れながら、キリスト教の常識を身につける。

テキスト:

日本聖書協会『新共同訳聖書』

参考書:

芳賀力著『大いなる物語の始まり』教文館、2001年、2000円

【04】哲学倫理学原典講読(独)(4)
【93】原典講読(独)(2) 教授 小松光彦

授業科目の内容:

ドイツ語の読解力を養うとともに、哲学的思考法の基本を習得させることに主眼を置いた授業を行う。下記のテキストを使用する。講読する部分をコピーして配布する。

テキスト:

Gernot Böhme, Einführung in die Philosophie, Suhrkamp Taschenbuch 1142, 1994

【04】哲学倫理学原典講読(仏)(4)
【93】原典講読(仏)(2) 教授 岡田光弘

授業科目の内容:

哲学・思想関係のテキストをフランス語で講読する訓練を行う。内容については初回授業のときに説明する。使用するテキストはプリントして配布する。

テキスト:

プリントして配布

参考書:

授業時に指定

【04】哲学倫理学原典講読(英)(4)
【93】原典講読(英)(2)
近代イギリスのモラリストたち 助教授 柘植尚則

授業科目の内容:

この授業では、近代イギリスのモラリスト(道徳思想家)のうち著名な人物をいくつか取り上げて、その思想を紹介しながら原典(抜粋)を講読する。

テキスト:

プリントを配布する。

参考書:

寺中・大久保編『イギリス哲学の基本問題』(研究社出版、2005年、2300円)

その他、授業の中で紹介する。

【04】倫理学研究会 (3年)(2)
【04】倫理学研究会 (4年)(2)
【93】倫理学研究会 (2)
「カントと現代」 教授 小松光彦

授業科目の内容:

「カントと現代」という問題枠の中で、とくに倫理的な意味で重要であると思われる諸主題をとりあげる。今年度はカント倫理学の核心をなす「定言命法」の概念について、その現代における意義を批判的に検討する。使用文献は下記のとおりであるが、その他にも、現代倫理学関連のものを必要に応じて指示する。本研究会では原典重視と自立的思考との両立を目指すつもりであるが、そのためには履修者諸君の授業への積極的参加が不可欠の条件となるので銘記されたい。

テキスト:

・I.Kant, Grundlegung zur Metaphysik der sitten (1785), Kritik der praktischen Vernunft (1788)

・H.J. Paton, The Categorical Imperative (1947)〔使用箇所のみコピーを配布〕

参考書:

・カントの上記テキストの邦訳。

・H.J. ペイトン『定言命法』杉田聡訳、行路社1986年。

選 択 科 目

【04】倫理学研究会 (3年)(2)

【04】倫理学研究会 (4年)(2)

【93】倫理学研究会 (2)

近代イギリス道徳哲学研究 助教授 柘 植 尚 則

授業科目の内容：

この研究会では近代イギリス道徳哲学について考察する(学生による報告と討論という形で進める)。本年度はヒューム『人間本性論』を取り上げる。

また、この研究会は近代イギリス道徳哲学の個人研究を最終の目標とする。受講者は各自でテーマを決めて思想家を選び、原典を読んで研究し、その成果を研究会で発表して論文を作成する(テーマは自由であるが、思想家については原則として近代イギリスに限る)。なお、必要に応じて個別指導も行う。

テキスト：

初回の授業で指示する。

参考書：

寺中・大久保編『イギリス哲学の基本問題』(研究社出版、2005年、2300円)

その他、授業の中で紹介する。

【04】倫理学研究会 (3年)(2)

【04】倫理学研究会 (4年)(2)

【93】倫理学研究会 (2) 教授 谷 寿 美

授業科目の内容：

全一的世界観を様々な形で示しているロシアの宗教哲学、倫理思想を手がかりとして、多様性の一致、等に関する倫理的諸問題を考える。

テキスト：

Vladimir Soloviev: *La Jastification du Bien* *Essai de philosophie morale* (Aubier, 1939) 英訳, *The Justification of good* (London, 1918) 露語原典 (MockBa, 1897) 他。

参考書：

授業の中で指示する。

【04】倫理学研究会 (3年)(2)

【04】倫理学研究会 (4年)(2)

【93】倫理学研究会 (2) 教授 樽 井 正 義
社会正義 助教授 エアトル、ヴォルフガング

授業科目の内容：

社会正義に関する現代の理論のなかから、大きな影響を与え続けているJohn Rawlsのliberalismとこれを真っ向から批判するRobert Nozicのlibertarianismの立場を春学期に検討する。これらの理論を踏まえて、秋学期には、ジェンダー、市場、南北、異文化、世代に関わる正義の問題から、いくつかの問題を考察する。

テキスト：

Mathew Clayton, Andrew Williams, ed: *Social Justice*. Blackwell Publishers 2004.

【04】倫理学の課題 (2)(春学期)

【93】自然と倫理(2)(春学期)

生命倫理 [春]教授 樽 井 正 義

授業科目の内容：

生命倫理という学際的領域に、倫理学がどのような貢献ができるのかを検討することが、この時間の課題です。はじめに、この領域が成立する歴史的過程と、そこで確認されてきた倫理的原理、さらにその原理を支える倫理学理論を明らかにします。その上で、HIV/AIDSという病気によって提起された倫理的問題に即して、診断と実験における自己決定権、プライバシー権、健康権、コミュニティーの利益、公共財などの概念を考察します。

参考書：

・赤林朗編：入門・医療倫理1. 勁草書房 2005

・エイズ&ソサエティー研究会編：エイズを知る. 角川書店 2001.

【04】倫理学洋書講読(4)

【93】洋書講読(4)

Readings in ethics 助教授 エアトル、ヴォルフガング

授業科目の内容：

We are going to look at a number of passages from core texts of the Western ethical tradition. This course serves a threefold purpose: it is meant (i) to introduce key thinkers and main developments in the history of ethics, (ii) to discuss typical strategies of argumentation both in normative ethics and metaethics which continue to exert their influence to this day, (iii) to provide an opportunity of dealing with these matters in English, although students are strongly encouraged to read the relevant texts in Japanese translation as well (and of course in the original, if possible), since the main emphasis will be put on arguments. The relevant texts will be made available during class; students are asked to familiarise themselves with as many of the topics indicated below as possible before the beginning of the course. Needless to add that none of these issues can be treated in depth, since each deserves a course in its own right. All that can be achieved is being a guide for further thoughts and enquiries.

参考書：

・ Blackburn, Simon: *Being Good. A short introduction to ethics.* Oxford et al.: Oxford University Press 2001. (available in paperback)

・ LaFollette, Hugh (ed.): *The Blackwell Guide to Ethical Theory.* Oxford, Malden (Mass.): Blackwell 2000. (available in paperback)

【04】中国哲学(4)

中国近世哲学史入門

講師 森 由 利 亜

授業科目の内容：

この授業では、10世紀以降の中国思想の歴史を概説します。日本をはじめ東アジア世界にも大きな影響を与えた朱子学と陽明学を中心としつつ、それらと交渉をもつ近世の様々な宗教思想や倫理思想を論じます。さらに近世の思想がどのように中国の「近代」へと継承されていったのかを考えます。

テキスト：

プリント教材を配付します。

参考書：

溝口雄三・丸山松幸・池田知久編『中国思想文化事典』東京大学出版社。他は授業中にお示しします。

哲学・倫理学専攻 共通科目

【04】【93】哲学倫理学特殊(4)

カント哲学の読解と分析 講師 大橋 容一郎

授業科目の内容:

例年通り、近代哲学の原点であるカント哲学の読解と分析を行います。今年は初心に返って『純粹理性批判』を最初から読んでいきます。アприオリな判断論、空間・時間論、超越論的論理学、超越論的演繹などが主要な問題となります。

テキスト:

カント『純粹理性批判』(平凡社ライブラリー、講談社学術文庫、以文社、岩波文庫、岩波版全集、理想社版全集など)なお、ドイツ語原典Immanuel Kant, *Kritik der reinen Vernunft* (アカデミー版、PhB版、ズールカンプ版、レクラム版など)あるいは英訳・仏訳なども持参して、適宜参照することを薦める。

参考書:

高峯一愚『カント純粹理性批判入門』論創社、N.K. スミス『カント純粹理性批判註解』行路社。

【04】【93】哲学倫理学特殊(4)

幸福をめぐる問題 商学部 教授 成田 和信

授業科目の内容:

この授業では、「幸福」をめぐる問題を検討します。まず、Shelly Kagan や Derek Parfit の文献を読むことで、現代の英語圏の哲学においてこの問題がどのように扱われているかを概観し、議論の出発点となる枠組みを獲得します。その後、とりあえずはその枠組みを参考にしながら、アリストテレスと J. S. ミルの幸福論を検討します。次に、Thomas Nagel, Bernard Williams, T. M. Scanlon, Stephen Darwall といった現代の哲学者の文献を読むことで、「幸福」ばかりでなく「生きがい」や「主観的価値」といった周辺概念へも話を拡大し、考察を深めていきます。

テキスト:

資料プリントを配布します。

【04】【93】哲学倫理学特殊(4)

生態学的哲学の展望 講師 河野 哲也

授業科目の内容:

アメリカの知覚心理学者、ジェームズ・J・ギブソンは、エコロジー(生態学)の視点を心理学に導入して、新しい心理学の地平を切り開きました。彼によれば、人間は環境のなかに埋め込まれた存在であり、その身体的・心理的な活動は周囲の環境から切り離されてはありえません。

本講義では、このギブソンの観点を哲学の諸問題に応用し、生態学的哲学の確立を目指します。とくに、「心はどこにあるのか」、「身体と心はどう関係しているのか」、「他者問題」、「動物に心はあるか」、「主体性や意志の自由は存在するか」、「生態学的自己」、「内面は存在するか」、「私はかけがえのない存在と言えるか」、「世界は私の表象か」、「クオリアは神秘的なものか」、「道徳は実在する」といった人間の心にかかわる根本的な問題について考察します。

テキスト:

河野哲也『環境に広がる心』(勁草書房)

参考書:

河野哲也『エコロジカルな心の哲学』(勁草書房) その他の参考書はその都度指定します。

【04】【93】哲学倫理学特殊(4) 講師 高橋 英海

授業科目の内容:

中東で誕生した宗教であるキリスト教とその思想は主にギリシア語とラテン語を介して世界に広まっていったが、中東およびその周

辺にはギリシア語、ラテン語ではなくシリア語、コプト語、アルメニア語、エチオピア語、アラビア語等を媒体として広まっていったキリスト教がある。中でもその時間的、空間的な広がり(西は地中海沿岸から東はインド、中国まで)において最も重要なのはシリア語を媒体とするキリスト教であり、キリスト教の発展の正確な理解にはシリア語文献の研究が欠かせない。また、シリア語およびシリア系キリスト教徒はギリシア哲学・科学のイスラム圏への伝達にも大きな役割を果たしており、哲学史、科学史の分野でもシリア語文献の研究が重要となる。本講ではシリア語が用いられた世界の歴史と文化について概観するとともに、シリア語文献の講読に必要な知識を習得し、受講者の関心に合わせて選んだ文献の講読を試みる。(シリア語はセム語の中では比較的容易な言語であり、18世紀のオリエンタリスタの間ではアラビア語やヘブライ語を学ぶ際にはシリア語から始めるのが適切であるとされていたこともここに付け加えておく)

テキスト:

John F. Healey, *Leshono suryoyo. First Studies in Syriac*, Piscataway (N.J.): Gorgias Press, 2005

その他、受講者の関心を考慮して選定、配布します。

参考書:

授業中に適宜紹介します。

【04】【93】哲学倫理学特殊

あるコギトの系譜 講師 北村 晋

授業科目の内容:

2500年以上にもわたって連綿とその歴史を紡ぎ出してきた西洋の哲学思想は、現在、未曾有の局面を迎えつつあるようにも見える。事実、19世紀末のニーチェによる「神の死」と「ニヒリズムの到来」の宣告に次いで、今世紀に入ると「人間の死」(フーコー)や「哲学の終焉」(ハイデガー)までもが宣せられているのである。ところがその一方で、昨今の思想界では、「ポスト構造主義」「ポストモダン」「ポスト形而上学」といったさまざまなトレンドがファッションのごとくに喧伝されてもいる。このような状況を引き起こした哲学思想における近代とは、いったい何なのか。その近代の極北にあって、われわれは何を考え何を問題にすべきなのだろうか。そもそもロゴス(ことば・論理)の営為たる哲学は、現代において何を問題とするのだろうか。

この授業では、一般にデカルトの「コギト・エルゴ・スム(私は考える、ゆえに私は在る)」という原理とともに始まったとされる西洋近代・現代の哲学思想を、主として「弁証法的媒介の論理」と「現象学的方法」という相反する二つの視座から再考してみたい。その際取り上げるのは、デカルトをはじめとしてカント、ヘーゲル、フッサール、ハイデガー、サルトル、レヴィナス、アンリ、デリダ、マリオンなどの思想家たちである。ただし、これらの思想家の全体像を扱う余裕はないので、実際にはいくつかの個別的テーマに即して検討することになる。

テキスト:

特定のテキストは使用せず、適宜、資料プリントを配布する。

参考書:

- ・D・コリンソン『哲学思想の50人』(青土社)
- ・D・ジャンコー『現代フランス現象学 その神学的転回』(文化書房博文社)

【04】【93】哲学倫理学特殊

インド古典文献学入門 講師 齋藤 直樹

授業科目の内容:

仏教は中国、朝鮮を経由して日本に伝来したが、日本にもたらされた仏典はほとんどすべて中国語に翻訳されたものであった。それらの原典の大部分はサンスクリット語で記されたものである。発祥の地インドにおいてかたちづくられ展開していった仏教にせまるためには、当然のことながら、サンスクリット原典に直接あたることもがもめられる。また、仏教のみならず、インドの多様で豊饒な宗教的思想にかんする知識をえるためにも、サンスクリット語の読解力が不可欠となる。

この授業は、原典講読をつうじてインド古典文献学への案内とな

ることを目指すものである。講読するテキストとして、紀元2世紀から3世紀に活動し、八宗の祖と称されるナーガールジュナ（龍樹）の『中論』を予定している。この典籍は、その後の仏教教理の形成のあらゆる局面に多大な影響をおよぼしたものとみなされている。たとえば、空性という大乘仏教独特の観念に教理的な基盤をあたえた最初の典籍がこれであった。

テキスト：

校訂出版されているサンスクリットテキストとその和訳のコピーを授業中に配布する。

参考書：

辻直四郎『サンスクリット文法』岩波全書

【04】【93】哲学倫理学特殊（4）

ジョルジョ・アガンベンを読む

理工学部 専任講師（有期）W 桑 和 巳

授業科目の内容：

現代イタリアの哲学者ジョルジョ・アガンベンの書いたものを読みます。本来オリジナルはイタリア語ですが、受講するかたのことを考えるとフランス語版での訳読になると思います。『例外状態』(2003)の骨子をなす第1章を読むことにします。フランス語で哲学のテキストを読む力を養い、あわせて政治哲学の現在を知ることを目標としています。

テキスト：

Giorgio Agamben, *Etat d'exception* (Paris: Seuil, 2003).

参考書：

授業中に適宜指示ないし配布します。

【04】【93】哲学倫理学特殊（4）

認識論と科学の知識

講 師 三 浦 謙

授業科目の内容：

伝統的認識論は、知識の基礎付け・正当化を目的とし、近年では整合説・外在主義などの理論的広がりを備えているが、保守的な知識観を保持している。一方、科学の方法論では、既存の信念を革新するための手段を開発してきた。後者が哲学における知識の問題にどのような観点を提供し得るかを考える。

テキスト：

指定しない

参考書：

授業中に紹介

【04】【93】哲学倫理学特殊（4）

モデル論と算術

講 師 照 井 一 成

授業科目の内容：

タルスキ流の意味論では、文の真偽は世界のありように依存して定まる。そのような世界のありようを数学的に抽象化したものがモデルである。本講義は一階述語論理のモデル論の入門である。

サイエンスフィクションや思考実験が、現実ではありえない状況について考えることで現実に対する示唆を与えることがあるように、数学でも、標準とは異なるような状況（例えば無限に大きな“自然数”が存在したり無限に小さな“実数”が存在したりするような状況）について考えることで標準的な数学に対するよりよい理解が得られることがある。モデル論が最も真価を発揮するのはこのような超準モデル、あるいは“数学的フィクション”の場面においてであると言ってもいいだろう。本講義の後半では、この超準モデルの理論に少しだけ立ち入る予定である。

テキスト：

初回に指示する。

参考書：

- ・田中一之（編著）、数学基礎論講義、日本評論社、1997。
- ・K. Doets, *Basic Model Theory*, CSLI-LLI, 1996.
- ・W. Hodges, *A Shorter Model Theory*, Cambridge University Press, 1997.
- ・R. Kaye, *Models of Peano Arithmetic*, Oxford University Press,

1991.

【04】【93】哲学倫理学特殊（4）

証聖者マクシモス『難問集』の翻訳に向けて

教 授 堀 江 聡

授業科目の内容：

舌と右手を切り落とされ殉教した後期ギリシア教父マクシモス・コンフェッソール(580-662)の主著『アンビグア』をギリシア語原典、並びにヨハネス・エリウゲナ(810-871)のラテン語訳で講読する。西洋中世最初の“独創的”哲学体系と称されるエリウゲナ『ペリピュセオン』全5巻を3年間に亘り、主要箇所を抜粋し読んできたが、その壮大な宇宙論にせよ、救済論にせよ、終末における万物復興論にせよ、基本的枠組みをマクシモスから借用しているのではないかという思いが抑え難く湧いてきた。そこで本年度からしばらく、訪れる人として稀なこの東方教父の霊性の泉に静かに釣瓶を落としてみたい。「超越に貫かれた人間」という、はやりの言い回しは、神から発し神へと還る「動き」(キーネーシス)のうちに万有を捉えるマクシモスにこそ、相応しいのかもしれない。

テキスト：

Migne, *Patrologia Graeca* 91, Paris, 1865; Maximi Confessoris *Ambigua ad Iohannem: iuxta Iohannis Scotti Eriugena Latinam interpretationem*, (Corpus Christianorum. Series Graeca 18), ed. E. Jeuneau, Turnhout, 1988.

参考書：

A. Louth, *Maximus the Confessor*, London/New York, 1996; L. Thunberg, *Microcosm and Mediator*, Chicago, 1995; Saint Maxime le Confessor, *Ambigua*, trad. E. Ponsoye, Paris/Suresnes, 1994.

【04】【93】哲学倫理学特殊（4）

近代ユダヤ宗教論

講 師 市 川 裕

授業科目の内容：

人類の宗教史を考えた場合、近代とはどういう時代かという問いを、ユダヤ人社会の激変を主たる題材として、さまざまな分析視点から考察する。個人と共同体の關係に着目して、宗教における所属の問題をidentityの視点から考察するとどうなるか、国家と宗教の問題もその一環で問われることになる。また、近現代に特有の人間観、世界観を考える際に必ず触れねばならない二つの巨大思想、即ち、啓蒙主義とロマン主義、その延長で、科学思想も重要な主題である。日本の近代を世界全体の近代化プロセスの枠組みにおいてみると、どう捉えられるだろうか。

宗教儀礼や美術、歴史的事件などを知るために、できるだけビデオやCDなど視聴覚教材を使いたい。

テキスト：

なし

参考書：

全体の構想は、拙著『ユダヤ教の精神構造』(東大出版会2004)に基づいているが、個別には講義で指示する。

【04】【93】哲学倫理学特殊（4）

ケアの倫理と制度

講 師 川 本 隆 史

授業科目の内容：

心理学者キャロル・ギリガンが話題作『もうひとつの声』(1982年)で「正義の倫理」と対置した「ケアの倫理」。これは「すべての人が他人から応えられ仲間に入れてもらえ、一人ぼっちで置き去りにされ傷つけられるような人はいない」状態を理想とするもので、葛藤状態にある複数の責任と人間關係のネットワークを重視し、「文脈を踏まえた物語的な思考様式」によって目前の苦しみの緩和を図ろうとする。本講義では、ギリガンの問題提起を受けて始まった「正義vsケア」論争を手がかりにしながら、両者の統合を心理的な成熟目標に定めるのではなく、正義を「正しい・まともな」という形容詞に差し戻すことによって、「まともなケア」あるいは「ケアの正しい分かち合い」をサポートする諸制度を構想する理路を探りたいと思う。可能な限り、日本の医療、教育、福祉の諸制度の検討も織り

込むつもりである。

テキスト：

- ・川本隆史編『ケアの社会倫理学 医療・看護・介護・教育をつなぐ』（有斐閣 2005 年）

参考書：

- ・川本隆史『現代倫理学の冒険 社会理論のネットワーキングへ』（創文社 1995 年）
- ・同編岩波新・哲学講義 『共に生きる』（岩波書店 1998 年）

【04】【93】哲学倫理学特殊（原典研究（露））

休講

美学美術史学専攻

必修科目

【04】【93】美学概論(4) 教授 大石昌史

授業科目の内容：

前期(春学期)には、美的体験と(芸術)作品解釈について、カントおよび新カント派、感情移入理論、現象学的美学、存在論的芸術哲学、解釈学における主張を紹介する。後期(秋学期)には、美意識を規定する論理構造、東洋と西洋の美意識の比較、「あはれ」「幽玄」「風雅」等の日本の美意識を特徴づける概念について説明する。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

授業中に指示する。

【04】【93】芸術研究基礎(2) 教授 河合正朝
教授 前田富士男
教授 大石昌史
教授 林温
アートセンター 特別研究助教授(有期) 渡部葉子

授業科目の内容：

この授業は、3年間の専門領域の勉強を開始する2年生に、将来の各自の関心領域の如何を問わず、本専攻学生として必要不可欠な基礎知識、基本的技術を修得してもらう必修科目である。その内容は、以下のような課題にわかれる。専門研究への取り組み方、研究方法、文献の種類と検索、論文作成法。作品資料(絵画・彫刻・工芸)の実際的な調査作業と調査書の作成。作品の時代様式の判別と確認。作品の題材や内容に関するイコノグラフィ(図像学)の理解、作品解釈の方法。「芸術作品とは」、「美しいとは」といった美学的基礎概念の検討。作品の展示や上演に関する実践的知見の習得、など。調査作業時にはクラスを分割して演習形式をとる。

テキスト：

毎時間にプリントを配布する。

参考書：

旧図書館内リザーブブック・コーナー(前田)の本科目該当のもの。

【04】【93】芸術学(2)(春学期)
作品分析の方法(1) 講師 一條和彦

授業科目の内容：

美術作品を解釈する際に用いられる諸方法を概観する。造形芸術作品に対するアプローチとしては、形式分析、内容分析、機能運用論などが考えられるが、本講では特に、形式分析や様式論を扱う。実際の作品に即しながら、具体的に、ヴェルフリン、ヴォリンガー、グリーンバーグなどの方法を検討する。

テキスト：

特になし。

参考書：

必要に応じ、授業中にそのつど指示する。

【04】【93】芸術学(2)(秋学期)
作品分析の方法(2) 講師 一條和彦

授業科目の内容：

春学期にひきつづき、美術作品を解釈する際に用いられる諸方法を概観する。本講では特に、内容分析や機能運用論を扱う。実際の作品に即しながら、具体的に、ヴァールブルク、パノフスキーなどの方法を考察するほか、美術作品に対する社会学的アプローチも検討する。また、美術教育などの側面も重視したい。

テキスト：

特になし。

参考書：

必要に応じ、授業中にそのつど指示する。

【04】美学美術史学原典講読(英)A(2)

【93】原典講読(英)A(2)

特別研究専任講師 加藤明子

授業科目の内容：

英語で著された美術史文献の読解を通じて、美術史学の基本的概念の理解と研究方法の習得をめざします。今年度は、Richard R. Brettell, *Modern Art 1851-1929* から第一部“Realism to Surrealism”を抜粋して読みます。授業は、英語文献の講読と参加者による小発表の二本立てで進めます。小発表のテーマと進め方については、参加者と相談の上、決定します。

テキスト：

Richard R. Brettell, *Modern Art 1851-1929: Capitalism and Representation*. Oxford and New York: Oxford University Press, 1999.

参考書：

授業中に指示します

【04】美学美術史学原典講読(英)B(2)

【93】原典講読(英)B(2) 教授 大石昌史

授業科目の内容：

美学あるいは芸術理論に関する文献の講読を通じて、学問研究の基本的な方法の習得を目的とする。授業形態は、テキストの輪読(翻訳)、注釈的解説、問題点の指摘、それに対する参加者の討論という形をとる。

テキスト：

ガイダンス時に説明する。

【04】美学美術史学原典講読(英)C(2)

【93】原典講読(英)C(2) 教授 遠山公一

授業科目の内容：

今年度は、Evelyn Welch, *Art and Society in Italy 1350-1500* を読む予定。ここでは、次年度からのゼミにおける研究方法、心得を学ぶことが目的である。

テキスト：

Evelyn Welch, *Art and Society in Italy 1350-1500*, Oxford-New York, 1997. この書物の一部を取り上げて講読する予定。最初の授業にコピーを配布する。コピー代を徴収。

参考書：

授業中に指示。

【04】美学美術史学原典講読(英)D(2)

【93】原典講読(英)D(2) 講師 藤井孝一

授業科目の内容：

最近の音楽学研究におけるさまざまな視座について書かれた論文の講読を通して、ポストモダン以降の音楽の有り様について共に考えてもらいたい。同時に、外国語で書かれた音楽関係の文献を読み解くために必要な基礎知識についても折に触れて講義する。また、音楽学の史料に関する基本的な文献にも触れてもらいたいと考えている。

Cook, N. and Everist, M. ed. *Rethinking Music*. New York: Oxford University Press, 1999. (初回授業時に指示する。)

参考書：

- ・東川清一・平野昭編著『音楽キーワード事典』春秋社1988年。
- ・『ポケット音楽事典』音楽之友社1998年。
- ・その他授業中に指示する。

【04】美学美術史学原典講読 (英)E(2)

【93】原典講読 (英)E(2) 助教授 西川 尚 生

授業科目の内容：

西洋音楽史の基本的な文献を読み、音楽史および音楽学の基本的な概念と方法論を学ぶ。春学期は、以下の論文をテキストとし、1780年代末から90年代初頭におけるウィーンの民衆劇場とそこで上演されたジグシュピールについて考えてみたい。David J. Buch, "Der Stein der Weisen, Mozart, and collaborative Singspiels at Emanuel Schikaneder's Theater auf der Wieden, *Mozart-Jahrbuch* 2000, pp.91-126. 秋学期は *The New Grove Dictionary of Music and Musicians*, 2nd ed., London, 2001の重要項目を読み、音楽辞典の使い方についても併せて学習してもらう予定である。

毎回3~4人の履修者にテキストを和訳してもらうが、あらかじめ前の週に分担を決めておくので、あてられた者は訳を準備してくるだけでなく、テキストに出てくる人名、固有名詞、音楽用語について調べておく必要がある。

参考書：

- ・『ポケット音楽辞典』音楽之友社、1998年。
- ・大角欣也『ポケット楽典』音楽之友社、2001年。

【04】美学美術史学原典講読 (英)F(2)

【93】原典講読 (英)F(2) 教授 末吉 雄 二

授業科目の内容：

英語で書かれた西洋美術史関係の論文を読めるようにする。

テキスト：

"Colour in the Work of Leonardo" by Joseph Gantner, *Palette* 32. 1969

参考書：

『レオナルド・ダ・ヴィンチの手記』(上・下) 杉浦明平訳 岩波文庫 青550

【04】美学美術史学原典講読 (伊)(2)

【93】原典講読 (伊)(2)

原語で読むイタリア美術の歴史 講師 金山 弘 昌

授業科目の内容：

イタリア語論文の読解力養成を主目的に、美術史・建築史に関する文献を訳読する。一年間をかけて、少なくとも十数ページの短いテキスト二本程度は読みたい。テキストは未定だが、15-18世紀のイタリア美術に関するものを予定している。なお参考までに、昨年度は以下の文献を読んだ。

- ・C. Pedretti, et al., *Leonardo*, Giunti (Firenze), 1987.
- ・T. Agnati, *Artemisia Gentileschi*, Giunti (Firenze), 2001.

テキスト：

特に指定しない。授業でコピーを配布する。

参考書：

授業で指示する。

【04】美学美術史学原典講読 (独)(2)

【93】原典講読 (独)(2) 教授 前田 富士男

授業科目の内容：

美術史研究のドイツ語論文を読む演習。初級中級文法と芸術学的基礎概念や理論的背景を説明する。講読にとどまらず、参加者による小レポート発表や討論をおこない、少人数によるプロゼミ(初級ゼミ)形式で運営する。1年間で、ドイツ語の美術史論文の読み方を身につけ、基本的概念のニュアンスを理解できるようにしたい。本年のテキストは、現代社会の多様なイメージやメディアにしめる造形芸術の位置を論じる考察。ドイツで出版された最新の「イメージ論」中の論考である。

テキスト：

I. Reichle, *Bildende Kunst*, in: *Bildwissenschaft*, hrsg. v. k. Sachs-Hombach, stw 1751, F.a.M., 2005.

参考書：

『美術史を語る言葉』ほか。

旧図書館内リザーブブック・コーナー(前田)の前田研究会分。

【04】美学美術史学原典講読 (日)(2)

【93】原典講読 (日)(2)

『江戸名所図会』をよむ 講師 樋口 一 貴

授業科目の内容：

江戸時代に出版された地誌である『江戸名所図会』を講読する。同書は、江戸神田の町名主であった斉藤幸雄、幸孝、孝成(月岑)が三代にわたり江戸およびその近郊の名所旧跡を実際に歩いて記述・編集したもので、天保5年(1834)、同7年に刊行された。原文は変体がなで書かれており、テキストはこれをコピーして用いる。本授業では変体がなを読む力を身につけるとともに、その内容を理解することを目的とする。教室での講読にくわえて随時見学会を実施し、テキストに記されていることと現状との相違点を、体験を通じて比較したい。

テキスト：

コピーを配布する。

参考書：

- ・鈴木棠三、朝倉治彦校訂『江戸名所図会』角川書店、1966
- ・市古夏生、鈴木健一校訂『新訂 江戸名所図会』筑摩書店、2000
- ・川田寿『江戸名所図会を読む』(正・続)東京堂出版、1990・1995

【04】美学美術史学原典講読 (仏)(2)

【93】原典講読 (仏)(2) 講師 望月 典 子

授業科目の内容：

フランス語で書かれた美術史に関わる文献を読む演習です。美術史研究に欠かすことのできない、基本的なレファレンス・ブック、展覧会カタログ、カタログ・レゾネ、研究論文、批評、同時代資料など、様々な文体で書かれたテキストを適宜用いながら(主に17世~19世紀前半のフランス美術に関連する文章を取り上げます)。フランス語で文献を読み、内容を理解する力を身に付けます。同時に、卒論に向けて具体的な研究方法と文献の探し方、活用の仕方も学びます。

テキスト：

プリントで配布します。

参考書：

F. Giboulet et M. Mengelle-Barilleau, *La Peinture*, Paris, 1998; J. Thuiller, *Théorie générale de l'histoire de l'art*, Paris, 2003. その他、授業中に指示します。

【04】【93】美学美術史学演習(2)

日本美術史に関する基礎演習 教授 河合 正 朝

講師 矢野 明 子

授業科目の内容：

日本美術史の専門研究を始めるための前段階として、通史的な理解、各時代の基準的作例の把握、作品の見方や記述方法、史資料の読解など、基礎的な知識と技術を身につけることを目的とします。授業は、講義形式と履修者による発表および討議、見学会などを適宜併せて行います。基本的な作品を覚え、自ら問題を設定し、研究対象作品を選定し、研究方法を模索する訓練となるようにします。

テキスト：

各時間に講読資料を配付します。

参考書：

- ・『日本美術全集』全24巻、別冊2巻、講談社、1990~94年。
 - ・『岩波日本美術の流れ』全7巻、岩波書店、1991~93年。
 - ・清水善三ほか編『資料日本美術史』増補改訂、京都松柏社、1997年。
 - ・山根有三ほか監修『原色図典 日本美術史年表』増補改訂第2版、集英社、1997年。
 - ・辻惟雄監修『日本美術史年表：カラー版』美術出版社、2002年。
- その他、授業中に適宜紹介します。

【04】【93】美学美術史学演習(2) 教授 遠山 公一

授業科目の内容：

専門性の高い各論に至る前に必要な西洋美術史の基礎知識(建築・彫刻・絵画)を一通り身につけることを目的とする。ゴシック美術から19世紀近代美術までの通史を、駆け足で見えていくことになる。様式史が基本とはなるが、図像学の知識、図像解釈学の実例、作品の社会的機能やパトロンについてなど社会的コンテクストにおける美術の役割にも言及する。これによって、各時代についての一定の知識と問題意識が得られるはずである。

テキスト：

毎回、プリントを配布する

参考書：

ゴンブリッチ『美術の歩み』美術出版社、高階・三浦編『西洋美術史ハンドブック』新書館、『新潮世界美術事典』、小学館『世界美術大全集』、ジェームズ・ホール『西洋美術解説辞典』河出書房新社など。その他、毎回指定する。

【04】【93】美学美術史学演習(2) 教授 大石 昌史

授業科目の内容：

前期(春学期)には、プラトン、アリストテレス、カント、ヘーゲルの美学・芸術哲学について、後期(秋学期)には、十九世紀以降の心理学的、現象学的、存在論的、解釈学的、記号論的、社会的な美学・芸術哲学について、美学事典、哲学事典等の項目を参照しつつ解説する。

テキスト：

独自に作成したプリントを配布する。

参考書：

授業中に指示する。

【04】【93】美学美術史学演習(2)

音楽学の基礎訓練

教授 三宅 幸夫

授業科目の内容：

本演習では、西洋の芸術音楽を研究する際に避けて通れない作品を具体例として、楽譜を読み解く基礎的な能力を養います。作曲技法や時代様式の把握が主たる目的ですが、さらに音楽をその時代の文化のなかに位置づけることも試みます。音楽の基礎知識(「楽典」程度)を有していることが前提となりますので、これが欠けている受講生は遅くとも連休明けまでに「楽典」を自学自習しておく必要があります。

テキスト：

毎回、楽譜資料のプリントを配布します。

参考書：

授業時に適宜指示します。

【04】【93】東洋美術史概説 A(4)

中世から近世までの日本美術史を概観する

教授 河合 正朝

授業科目の内容：

鎌倉時代から江戸時代までの美術に就いて、絵画を中心に、その時代の特徴を顕著に示す作品を紹介し、解説を加えることで、日本美術史に関する考えかた、美術作品の見方、研究の方法などを、本講義をまじめに聴講した受講者が、基本的に理解できるようにします。絵画に限らず、必要に応じて、彫刻、建築、工芸などにもおよんで論述し、また、外国の美術との関わり、すなわち、中国、朝鮮、西欧の美術と日本の美術の関係や影響についても学びます。

テキスト：

特にありませんが、必要に応じて、参考資料としてのプリントを配布します。但し、プリントが有料になるかもしれませんので、予め受講者はその旨を了解してください。

参考書：

授業のはじめに簡単な参考文献リストを配布します。

【04】【93】東洋美術史概説 B(4)

鎌倉時代絵画の諸相

教授 林

温

授業科目の内容：

鎌倉時代の絵画について、様式論の視点から読み解く。特に仏教絵画の展開を柱に、絵巻や肖像画、水墨画等とも関わらせて、様式的な展開を概説する。

テキスト：

特になし

参考書：

適宜、授業中に指示する

【04】【93】西洋美術史概説 A(4)

イタリア中世・ルネサンスの絵画 教授 末吉 雄二

授業科目の内容：

イタリア絵画、ルネサンスの絵画は「自然から学んだ」ジョットから始まると言われています。しかし、このような「時代区分」は、はたして今日でも有効でしょうか？何がジョットの作品なのかということを含めて、13世紀末から14世紀初頭に活躍したこの画家の実像はかなり不明確ですし、ルネサンス絵画との関係も、論者の「ルネサンス観」に従って、多様な評価があります。「時代区分」と歴史との関係を考えたい。

この授業は、13世紀半ばから14世紀初頭にコムーネを中心として発展した市民社会における美術の役割を考察したい。その観点から、「工房」を含めたジョットおよびシエナ派の画家たちの作品を中心に検討します。以上の「ジョットとその時代の絵画」と比較しつつ、後期の後半にはルネサンスの「遠近法」を特徴とする絵画を鑑賞します。

テキスト：

特に指定しません。授業では参考資料のプリントを配布します。

参考書：

『イタリア・ルネサンスの文化』ブルクハルト著、『ジョットの芸術 スクロヴェーニ礼拝堂壁画を中心として』と『聖痕印刻 ジョットの後期壁画をめぐって』佐々木英也著、中央公論美術出版。『中世末期の図像学』エミール・マール著、国書刊行会。『ルネサンス画人伝』、白水社。そのほか、一般的な美術史として『ルネサンスの春』パノフスキー著、などを参照してほしいし、美術作品の見方を教えるものとして示唆に富む『美術への洞察』オットー・ペヒト、岩波書店。など。貪欲に読書して欲しい。

【04】【93】西洋美術史概説 B(4) 教授 前田 富士男

授業科目の内容：

フランスの印象主義の時代から第二次世界大戦後の1950年代にいたる美術の諸問題を考察する。この時代に、絵画では物語表現や自然主義の否定により、フォーヴ、キュビズム、表現主義、抽象絵画、ダダなどが生まれたほか、彫刻や建築でも現代美術の多様なアスペクトが浮き彫りにされた。自然把握、生命形態、人間表現はじめ、コンポジションの展開、色彩論など、作品に即して問題を検討してゆく。概説の講義なので、作品解釈、美術史学における基本概念も適宜、解説・紹介する。スライド使用。

参考書：

講談社『名画への旅』第19~24巻ほか。旧図書館内リザーブブック・コーナー(前田)の本科目該当のもの。

【04】【93】西洋音楽史概説 A(4)

近代フランス音楽の諸問題

教授 美山 良夫

授業科目の内容：

19世紀のフランス音楽を特徴づける点について下記「授業の計画」に示した視点から検討する。中心はベルリオーズ、フォーレ、ドビュッシーにおくが、文学や絵画などの造型芸術との関連にも言及する。音楽と象徴主義、音楽における印象主義、フランス・ロマン主義文学と音楽、オリエンタリズム、フランスにおけるワーグナー受

容と音楽、音楽批評の問題等が計画中の内容である。

参考書：

講義内で指示する。

【04】【93】西洋音楽史概説 B(4)

ワーグナー《ラインの黄金》 教授 三宅 幸夫

授業科目の内容：

リヒルト・ワーグナー(1813 - 1883)の舞台祝祭劇《ニーベルングの指輪》4部作から、今年度は序夜《ラインの黄金》を主たる対象として、台本と音楽の関係を読み解き、音楽が音楽外の思想・文学・美術・演劇等といかに関わっているかを明らかにします。

テキスト：

ワーグナー《ラインの黄金》(日本ワーグナー協会監修, 1992年, 白水社)

参考書：

授業時に適宜指示します。

【04】【93】美学特殊 A(4)

美学における基礎概念の研究 講師 佐々木 健一

授業科目の内容：

参考書に挙げてある『美学辞典』の内容を発展させる形で、美学上の基礎概念を講ずる。すなわちこの本でとり上げていない重要概念を毎回1つずつ取り上げる。近現代の美学史の展望と芸術の状況についての理解を深めることを狙いとす。

参考書：

佐々木健一『美学辞典』東京大学出版会

【04】【93】美学特殊 B(4)

画像のナラトロジー 講師 西村 清和

授業科目の内容：

ことばとイメージ(想像的イメージ, 画像, 映像)の関係をめぐる議論は, 古典的な格言「詩は絵のごとく」や近代のレッシング『ラオコン』に見られるようにさまざまである。さまざまな視覚メディアがあらたな文化環境となりつつある現代にとって, この古典的な問題は再考を要する。昨年度の講義では, 歴史画をあつかったが, 今年度は小説の映画化や小説と挿絵, またマンガにおけることばとイメージの関係を, 画像のナラトロジー分析をつうじて明らかにしたい。

テキスト：

特になし

参考書：

授業中に指示する

【04】【93】美学特殊 C(4)

ことばのあやの美学 講師 松尾 大

授業科目の内容：

レトリック(修辞学)の中心主題であるフィギュール(文彩, 言葉のあや)について学びます。先ず、『レトリック事典』(2006年刊行予定)をベースにフィギュールの各々の種類について説明します。次に, この書に用いられていない用例資料(コピー配布)で演習的授業をします。用例は古今東西の文学が中心ですが, それ以外の種類の文章も扱います。

この二つが授業の中心ですが, 随時他のトピック, 授業方式も取り上げます。また, 応用レトリックとして画像などの, 言語以外の領域の表現も取り上げます。

特に予備知識は必要としません。フィギュールの説明には, 修辞学や言語学, 文藝理論や論理学などの知識が使われていますが, それらは授業の進行に従って身に付くことと思います。

テキスト：

- ・『レトリック事典』(2006年刊行予定)
- ・その他の資料はコピー配布

【04】【93】美学特殊 D(4)

現代美術論 講師 村山 康男

授業科目の内容：

現代芸術(美術)の多様な展開を概観し, その根底にある美学思想を明らかにする。とりあえず, 3つの主題から始める。第1は芸術家と自然との関わり, 第2は芸術家の自我のあり方, 第3は, 芸術家と社会とのかかわりである。18世紀に成立した伝統的美学が, 作品の自律的価値, 美的価値に強調を置くのに対して, 現代では, 作品の社会的効用やコミュニケーションを重視している傾向が強い。個人の営みとしての芸術から社会活動, プロジェクトとしての芸術への移行が, この授業の中心的なテーマとなる。

テキスト：

プリント類はこちらで用意し, 随時配布する。

参考書：

授業時に随時指摘する。

【04】【93】美学特殊 E(4)

演劇学概説 理工学部 教授 小菅 隼人

授業科目の内容：

《演劇論および演技論》

本講義では, “演劇は, 演技によってイベント化されるドラマである”という基本認識にたつて, 演劇をめぐる諸問題を「ドラマ性」, 「イベント性」, 「演技術」を常に視野に入れつつ講義します。春学期は演劇の基本4要素(俳優, 観客, 戯曲, 劇場), アリストテレスの基本概念の確認に続いて, 戯曲論および観客論について講義します。秋学期は演技術の歴史の変遷を中心に, 演技論について講義します。

テキスト：

プリント配布

参考書：

授業内で指示します

【04】【93】美術史特殊 A(4)

平安後期の彫刻と宗教文化 名誉教授 紺野 敏文

授業科目の内容：

今年度は9世紀後半から12世紀にいたる日本彫刻史上の展開をテーマに講義します。それ以前の仏教彫刻が古典としての天平彫刻に集成されましたが, これを継いで強烈的な密教的表現と意図を盛った9世紀前半の木彫像が形成されました。9世紀後半以降は中央及び地方寺院の展開のなかで, いっそう多様な唐来の密教図像に基づく造像がなされるとともに, 日本の土壌で解釈された多面的な造像がなされました。その例に, 仏教と習合した神像彫刻も初めて現れます。さらに, 天台系に著しい密教と浄土教及び法華経の思想信仰が結び美術が展開します。そして真言系もこれに対応しながら独自性を強調しますが, 12世紀後半に入ると和様化した耽美的ともいえる平安彫刻を革新する大胆な造形的試みが起こります。その内在的要因を考察する必要がありますが, これを一挙に進展させた政治的社会的動乱の以前に, 自覚的な芸術家としての仏師が登場します。このように, 宗教美術の面からは, もっとも生産的かつ豊饒な時代が平安時代中・後期であったといえます。余裕があれば, その彫像の伝統を鎌倉彫刻がどこを, どのように変革したのかに触れたいと思います。この史的展開のなかで, いくつかの課題や論点をとり挙げて講義しますが, 注目すべき彫刻作品はいうまでもなく, 作家(仏師), 僧侶, 施主やこれに関わる仏教絵画, 神道美術, 建築・庭園に及んで述べるつもりです。

参考書：

- ・紺野敏文『日本彫刻史の視座』中央公論美術出版 04年
- ・岩佐光晴『平安前期の彫刻』(『日本の美術457』至文堂 04年)
- ・伊東史朗『平安時代後期の彫刻』(『日本の美術458』至文堂 04年)
- ・水野敬三郎監修『日本仏像史』美術出版 01年
- ・その他 日本美術全集(講談社ほか), 各種展覧会図録等

【04】【93】美術史特殊 B (4)建築の歴史 政策・メディア研究科 教授 三宅理一

授業科目の内容：

広く「建築」全般を理解するため、建築に関わるさまざまな領域について横断的に講義を行う。建築を理解するためには、時系列で建築の変遷を追う建築史的理解、構造や設備などの技術的な仕組みを知るための工法的理解、都市の成り立ちと実態を掌握するための都市史・都市論的理解、環境との関わりを論ずるための環境論的理解など、さまざまな視点からのアプローチなどがあるが、まずはみずからの眼と身体で建築空間を楽しみ、体験的に理解する姿勢が必要である。春学期は人と建築の関わりの中でももっとも根源的な「住まい」の問題をメインテーマに、「家」の社会的意味や空間的構造、歴史的な系譜、近代の集住の問題などを論じていく。秋学期は遺産学と地域マネジメント、アートとの関わりを軸にさまざまな分野や対象に応じて講義を行う。レポートを何回か提出し、その都度、議論を行う。また、授業に平行して各地で行われている展覧会やイベントを訪れ、また実際の建築を訪れる機会を設ける。また夏季休暇などを利用して、海外等の建築を訪れることも理解をおおいに助ける。

テキスト：

授業中に指示する。

参考書：

授業中に指示する。

【04】【93】美術史特殊 C (4)祭壇画研究 教授 遠山公一

授業科目の内容：

祭壇画とは文字通り祭壇を飾る絵画のことであるが、イタリア・ゴシック、ルネサンス絵画の代表的な作品の大部分は、壁画を除けば、祭壇画である。その祭壇画は、14世紀初頭に多翼祭壇画という複数のパネルをつなぎ合わせた複合的な絵画として成立したが、遠近法がもたらされた15世紀初期ルネサンスの時代に一面形式の祭壇画へと変化していった。それは絵画が四角いという今日の常識へとつながる。この講義では、祭壇画の変化を、その形式や主題や機能の面から見ていく。平たく言うならば、作者別にどのように作られたのかをみるために様式の変化を観察するのではなく、むしろ何のため、どこのため、誰のために作られたのかという関心に従って絵画を見ていくことになる。従って、宗教的な決まり事やパトロンなどへの目配りが大切になる。特に後半に両面に絵が描かれた両面祭壇画という特殊な祭壇画に注目してみたい。

テキスト：

特になし

参考書：

授業中に指示する

【04】【93】美術史特殊 D (4)印象派から現代へ 講師 宮崎克己

授業科目の内容：

二つの視点を意識しながら講義を進めます。第一に、印象派を当時(19世紀後半)の芸術的・社会的環境の中に置きなおし、われわれとの間の「歴史的な距離」を確認します。第二に、現代日本のわれわれにとって印象派とは何なのかという問題意識でこれをとらえなおし、われわれにとっての印象派への「親近感」の内容を確認します。受講する学生には、実際に美術館で印象派の作品に触れてもらい、おのおのにとっての「印象派」をレポートに書いてもらいます。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

- ・『印象派とその時代-モネからセザンヌへ』(美術出版社, 2002年)
- ・ルービン著『印象派』(岩波 世界の美術, 2002年)

【04】【93】美術史特殊 E (4)江戸浮世絵の世界 講師 内藤正人

授業科目の内容：

江戸時代の絵画のうち、浮世絵について論じる。

浮世絵とは、十九世紀以降の欧米世界にあまねく知れわたった、日本近世期の絵画・版画作品のことである。西洋絵画では風俗画に相当するとされるこの浮世絵の研究については、明治期以降の欧米や日本でおこなわれてはきたが、残念ながらその蓄積はいまだしの感がある。たとえば、歌麿や北斎といった著名な浮世絵師でも、版画や版本、それに肉筆画をも含めた総作品目録(カタログレゾネ)の底本ができてはならず、基礎的な研究は今後によくが委ねられている。さらに、従来の浮世絵研究では、多分に趣味的な言説も多く含まれていたことの反省も多い。

こうした視点からすれば、浮世絵研究とは、まさに未開の豊穡なる沃野であると評することができるだろう。今後もさまざまな学問的アプローチが可能な所以である。

本講義では、まず前期は著名な浮世絵師ひとりを選んでとりあげ、その人と作品について考察する。ついで後期は、最新の浮世絵研究におけるトピックスのなかから興味深いテーマを選んで、深く掘り下げていく予定である。

テキスト：

授業時に指示する

参考書：

『浮世絵の歴史』, 小林忠監修, 美術出版社, 1998, 2500円

【04】【93】美術史特殊 F (4)仏教の図像学 講師 田中公明

授業科目の内容：

近年、彫刻や絵画の神々や人物の姿に込められた象徴的意味を読みとる「図像学」が学界で注目を集めている。ところが世界でも屈指の高度な象徴体系を有する仏教の図像学は、大学の講義でも、ほとんど取り上げられることがなかった。本講義では仏教図像の象徴体系を、仏教の故国インドに遡って考察するとともに、インドの仏教美術を継承した周辺地域、日本の仏教美術の源流であるシルク・ロード、中国、朝鮮半島の作品も視野に入れつつ、アジア全域に亘る文化交流の歴史を明らかにしてゆきたい。

参考書：

田中公明『両界曼荼羅の誕生』(春秋社) 2300円。

購入は強制しませんが、大学生協で購入できます。

【04】【93】美術史特殊 G (4)美術と先端技術 講師 布山毅

授業科目の内容：

美術分野の研究やプロジェクトにおける、デジタルメディアの利用方法の解説と、実践的な技術の習得。「対象をいかにアーカイブ化するか?」という視点と、「コンセプトやアイデアをいかに他者に伝えるか?」という二つの視点から、デジタルメディアの活用方法をつくりながら考えてゆく。また、美術と先端技術の境界領域におけるさまざまな事例を紹介し、それらの意味と可能性についてディスカッションを行う。

テキスト：

特になし

参考書：

授業の中で紹介

【04】【93】美術史特殊 H (4)スペイン美術 講師 木下亮

授業科目の内容：

春学科は、東京都美術館で開催される「プラド美術館展」の出品作品を取り上げながら、16世紀から19世紀初頭のスペイン美術史を概観し、さらに他のヨーロッパ美術との影響関係について検討し

ていきます。

秋学期は、プラド美術館の創設とそのコレクション拡充の歴史と、19世紀・20世紀のスペイン近現代美術の展開について考察していきます。

テキスト：

特になし

参考書：

- ・ジャニス・A・トムリンソン『ゴヤとその時代』昭和堂、2002、¥3,800
- ・「プラド美術館展」カタログ、東京都美術館・読売新聞社、2006年3月刊行予定

【04】【93】美術史特殊 K (4)

【春】やきもの見方 [春] 講師 荒川 正 明

【秋】近代工芸論 西洋と日本 [秋] 講師 金子 賢 治

授業科目の内容：

〔春学期〕

日本の豊かなやきもの文化を知っていただくつもりである。単に知識としてではなく、やきものに表現された造形から、何かを積極的に読み込んでいく訓練をしていきたい。日本人の独特の美意識が、やきものという素材を通じて立ち上ってくると思われる。

〔秋学期〕

単なる手工業として出発した近代工芸が、モダンデザインの理論と実践、近代的な意味での個人作家的工芸制作へと発展的に展開していく歴史と、そのなかから出てきた西洋近代の美術概念とは異なる日本の工芸制作理論を考察する。特に陶芸を中心に取り上げ、近代的な意味での個人作家的工芸制作、言い換えると純粋美術を構成する概念としての絵画、彫刻と同じように工芸制作を行う歴史と理論を、その発生時期である大正後半から昭和初期、そして戦後、現代へと跡付ける。

テキスト：

〔春〕『やきもの見方』(角川選書) 荒川正明著

〔秋〕「近代工芸案内 東京国立近代美術館工芸館所蔵品を中心として」、2005年3月、東京国立近代美術館

参考書：

〔秋〕「現代陶芸の造形志向」、2001年12月、阿部出版

【04】【93】美術史特殊 J (4)

〔春学期〕ギリシア美術の展開 陶器画・絵画を中心として

〔秋学期〕古代ギリシアのブロンズ彫刻

[春] 講師 平 山 東 子

[秋] 講師 羽 田 康 一

授業科目の内容：

〔春学期〕

ギリシア美術は常々、西洋美術の源流、あるいは古典として位置づけられているにもかかわらず、現存する古代ギリシア絵画の数はごく限られ、作例も断片的なものが多い。そこでギリシア絵画を知るためには、古代文献や後代のローマ絵画のほか、遺例の豊富なギリシア陶器を学ぶことが不可欠となる。古代ギリシアの人々はとりわけ、陶器のうえに神話場面や英雄伝説、当時の日常生活場面など、人物をテーマとした絵画的主題を描くことを好んでいたからである。むしろ、ギリシア陶器を知ることは、ギリシア絵画を理解するためにのみ有益なわけではない。生活に密着したギリシア陶器に描かれた絵画は、当時の公的な芸術作品からは容易にうかがえない古代ギリシアに生きた人々の暮らしや情感を伝えるきわめて興味深い画像資料でもある。本授業では古代アテナイで制作された「アッティカ陶器」を中心として、当時の政治、社会背景をふまえながらギリシア陶器、ならびにギリシア絵画の展開をさぐる。

〔秋学期〕

南イタリア・リアーチェ沖で1972年に発見された二体のブロンズ彫刻「リアーチェの戦士 AB」は、数ある古代ギリシア文化圏の大型ブロンズ彫刻の中でも最高傑作との呼び声が高い。本講では、古代ブロンズの製作工程と、他の主要作品についての知見を交えながら、この作品について講師が構築した推論を論理的に述べる。ギリシア美術史の頂点をなす前五世紀の代表的な彫刻家フェイディアースと

ポリュクレイトスの諸作品(男性像・女性像)について詳細に論じる機会でもある。

テキスト：

〔春学期〕

特に指定しません。

〔秋学期〕

羽田『リアーチェの戦士像』(2006年秋刊行予定)

参考書：

〔春学期〕

授業中に適宜指示します。

〔秋学期〕

・羽田『古代地中海世界の大型ブロンズ彫刻』(2003年、国立国会図書館・東京大学総合図書館蔵)

・Claude Rolley, *La sculpture grecque, 1: Des origines au milieu du V^e siècle*, Paris 1994; 2: *La période classique*, Paris 1999; 3: *La période hellénistique*, 近刊。

・Paolo Moreno, *Scultura ellenistica, I-II*, Roma 1994.

【04】【93】美術史特殊 K (4)

日本美術史における絵画と工芸

[通年] 教授 河 合 正 朝

[春] 講師 室 瀬 和 美

[秋] 講師 吉 岡 明 美

授業科目の内容：

現在わたしたちが使っている「美術」という語は、1873年にウィーンで開催された万国博覧会への参加を機会に、日本で使われるようになった、ヨーロッパからもたらされた翻訳語であることが、近年の研究によって明らかにされています。絵画、彫刻、工芸などという概念もまた、明治政府の殖産興業や当時の教育政策のなかで行われた制度的な分離によって生まれた語であるとされます。これは、絵画や彫刻を純粋美術とし、工芸をそれより下位の応用美術とする西洋の芸術論に従うものですが、日本では元来そうした区分といったものは、明確であったとは言えません。日本美術は、伝統的に日常生活のなかで、飾られることでその機能を果たしてきたため、ことさらに絵画と工芸を区別する必要がなかったのです。この授業では、この点に注目し、絵画および工芸の諸分野においてそれぞれに研究を専門とする講師が、相互にその技法や表現、機能や美的性格などに就いて解説し、分析を行うことで、新たな視点から日本美術の諸特徴について考え、学んでいきます。

テキスト：

必要な場合は、授業中に配布します。

参考書：

授業中に適時紹介します。

【04】【93】音楽史特殊 A (4)

モーツァルトとウィーン音楽文化

助教授 西 川 尚 生

授業科目の内容：

今年、生誕250年を迎えた作曲家、W. A. モーツァルトのウィーン時代(1781~91)について考える。前回のメモリアル・イヤーであった1991年以降、モーツァルト研究はさまざまな分野で大きな進展を遂げたが、本講義ではそうした新しい研究成果を紹介しながら、1780年代から90年代初頭のウィーン音楽文化とモーツァルトの創作との関わりについて考察してみたい。ウィーン宮廷劇場の上演システムと演目の変化、1780年代の公開演奏会の組織、楽譜出版社と写譜工房、「同好騎士協会」の設立など、モーツァルトの創作をとりまいていたウィーン音楽環境に毎回スポットを当てるが、とくに2人の皇帝(ヨーゼフ2世、レーオポルト2世)とその文化政策がモーツァルトの活動にどのような影響を与えたのか、という点は、年間を通じての中心テーマとなるだろう。年間の授業計画を以下に記したが、若干変更になる可能性もあるので、履修希望者は初回授業に出席してもらいたい。

テキスト：

西川尚生『モーツァルト』音楽之友社、2005年。

【04】【93】音楽史特殊 B (4)バロック時代のイタリア音楽 講師 今谷和徳

授業科目の内容：

17, 18 世紀のバロック時代のイタリア音楽について概観する。ヨーロッパの音楽は、一般にバッハから始まるとされることが多いが、それは誤りで、実際には中世の時代から音楽活動は行なわれてきた。17 世紀になると新しいバロックの音楽がイタリアで展開されはじめ、やがてその影響がバッハにも及んでゆくのである。ここではその時期のイタリア音楽を、当時の政治的、宗教的、社会的な背景を踏まえながら眺めてゆきたい。

テキスト：

使用しない。

参考書：

開講時に紹介する。

【04】【93】音楽史特殊 C (4)20 世紀および 21 世紀の音楽 講師 岡部真一郎

授業科目の内容：

本講義では、20 世紀、および 21 世紀の音楽を様々な角度から考察します。本年度春学期は、特に、20 世紀音楽の一つの集約点であったともいべきアントン・フォン・ヴェーベルンの音楽を参照点として、同時代音楽の諸相を読み解いて行きます。秋学期は、現代のオペラをテーマに諸問題を扱います。

テキスト：

岡部真一郎著『ヴェーベルン』(春秋社)

参考書：

授業時に随時、指示します。

【04】【93】音楽史特殊 D (4)

R. シューマンを通して見るロマン主義様式

講師 平野 昭

授業科目の内容：

2006 年は R. シューマンの没後 150 年に当たる。ポスト・ベートーヴェン時代の 19 世紀ドイツ・ロマン主義の音楽様式をシューマンの音楽作品及び彼の創刊した『新音楽時報』における評論活動、音楽研究などを通して見てゆく。ピアノ作品時代、「歌曲の年」「室内楽の年」「管弦楽の年」といった集中的創作の意味するものや彼の追求した「詩的な時代」という理想の本質が何であったかを考える。

テキスト：

特に使わない。可能な限り、各講義時にレジュメを配布。

参考書：

講義内でその都度紹介する。

【04】【93】音楽史特殊 E (4)日本近代音楽の転換点 講師 千葉優子

授業科目の内容：

明治以後の日本の音楽状況について、非西洋音楽圏における近代化という視点で捉え、その背景にある社会的状況も含めて考察する。現在、日本人の多くが西洋音楽あるいはそのイデオロムによる音楽を身近なものとし、自国の伝統的な音楽に違和感を持っているが、こうした状況が生成される上での転換点となったのが、大正から昭和初期である。そこで、この時期に重点をおき、特に、宮城道雄と山田耕筰という後世に多大な影響を与えた二人の作曲家については作品分析も含めて詳しく検討する。また宮城が示した方向性は中国や韓国における音楽の近代化の一つのモデルともなったので、この点についても触れる。授業はできるだけ CD やビデオ等で実例を示しつつ立体的に検証する。

テキスト：

適宜コピーを配布します。

参考書：

授業内で指示します。

【04】美学美術史学研究会 (2)**【04】美学美術史学研究会 (2)****【93】美学美術史学研究会 (2)**教授 大石昌史

授業科目の内容：

美ならびに芸術一般に関する原理的研究を主題とする研究会。個々の作品解釈や作家研究ではなく、芸術思想・芸術理論の研究を行う。それ故、哲学者(美学者)や芸術理論家の著作が研究対象の中心となる。

授業形態は、講読および討論演習の形をとり、問題提起となるテキストや参加者の口頭発表に対して、全員で討論する。

【04】美学美術史学研究会 (2)**【04】美学美術史学研究会 (2)****【93】美学美術史学研究会 (2)**

西洋美術史研究

教授 末吉雄二

授業科目の内容：

3 年の研究会 () は年間レポート、4 年の研究会 () は卒業論文の作成を目指して、各人が自分の問題を発見し、問題を追及する。研究した結果を論文としてまとめるのはもちろんですが、研究会ではそのプロセスを参加者全員が協力して、議論し、作業して身につけてゆくことが重要です。最初のうちは教師が提示する具体的な課題に対して、研究の成果を発表する練習。ついで、各人の問題の選択・設定に関して発表し、質疑応答する。これらの発表を通じて美術史研究の課題と方法を学びます。

テキスト：

なし

参考書：

なし 課題や発表に関連する著書や文献に関しては授業時に指示。

【04】美学美術史学研究会 (2)**【04】美学美術史学研究会 (2)****【93】美学美術史学研究会 (2)**教授 林 温

授業科目の内容：

本年は代表的な美術史論文を批判的に読み込みながら、具体的な美術史学の方法を学習する。研究対象を鎌倉時代の代表的な画派とされる「宅間派」とし、先ず宅間勝賢について取り上げる。授業は参加学生と研究計画を立て、学生による分担課題についての研究発表を軸に進める。なお、卒業論文を作成する者には個別指導を行い、適宜発表してもらおう。

テキスト：

授業中に提示する。

参考書：

授業中に提示する。

【04】美学美術史学研究会 (2)**【04】美学美術史学研究会 (2)****【93】美学美術史学研究会 (2)**

音楽学の方法論

教授 三宅幸夫

授業科目の内容：

本演習は、音楽学で卒業論文を書くための研究会です。論文の題目は自由ですが、基礎的や方法論を身につけるためには、批判に値する先行研究がある分野が望ましいと思います。また必要な場合は、卒業論文の個別指導もおこないます。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

授業時に適宜指示します。

-
- 【04】美学美術史学研究会 (2)
 - 【04】美学美術史学研究会 (2)
 - 【93】美学美術史学研究会 (2)

教授 前田 富士男

授業科目の内容：

近現代の芸術論・芸術史研究を中心に、卒業論文の指導をおこなう。春学期は4年生の、秋学期は3年生の口頭発表と討論によって授業を進める。秋学期は統一テーマを設け、参加者と相談のうえ各自の発表内容を決める。レポートやグループ発表、美術館見学を随時おこなう。

参考書：

- 『美術史を語る言葉』ほか。
 - 旧図書館内リザーブブック・コーナー(前田)の本科目該当のもの。
-

- 【04】美学美術史学研究会 (2)
 - 【04】美学美術史学研究会 (2)
 - 【93】美学美術史学研究会 (2)
- 演劇学/演劇史 理工学部 教授 小菅 隼人
-

授業科目の内容：

上演芸術のうち、特に演劇を対象とする研究会。演劇芸術の境界内であれば、各自の関心による対象・テーマの自由度を最大限に認めます。演劇上演の実践に携わる諸君の参加を歓迎しますが、アカデミズムの立場から演劇研究を志す学生諸君のための研究会ですから、資料調査・資料批判・論文作成のための地道な作業を覚悟して参加して下さい。本研究会においては、参加者による報告と討論を通して、問題点を明確にしてゆく作業の積み重ねを授業の中心にします。1回程度、一緒に観劇をします。

テキスト：

- ・『ベスト・プレイズ』(白凰社、2000)。
- ・ジョゼフ・ジバルディ、原田敬一監修、『MLA 英語論文の手引き(第5版)』(北星堂、2002)。

参考書：

授業中指示します。

- 【04】美学美術史学研究会 (2)
- 【04】美学美術史学研究会 (2)
- 【93】美学美術史学研究会 (2)

教授 遠山 公一

授業科目の内容：

卒業論文のために必要な知識や方法を学ぶ。担当者の専門は、ルネサンス美術の特に絵画と彫刻であるが、なるべく専門にとらわれずに指導を行いたい。卒業論文のために発表を4年生だけでなく全員に課す。また、作品のディスクリプション、参考文献表を全員に提出してもらうほか、3年生には学期末にレポートを出してもらう。

テキスト：

授業中にプリントを配布

参考書：

授業中に指示

- 【04】美学美術史学研究会 (2)
- 【04】美学美術史学研究会 (2)
- 【93】美学美術史学研究会 (2)

教授 美山 良夫

授業科目の内容：

音楽および音楽をともなった舞台芸術諸分野(オペラ、バレエなど)を対象とする研究会。内容が多岐にわたるため、自発的に多くのジャンルについて関心をもち体験を重ねる努力が必要。また上演芸術の研究資料はわが国では検索入手が困難であることも多く、相当の時間と熱意が欠かせない。

春学期は論文の購読を最初におこなう。次に4年生が卒業論文の

概要と研究計画を発表する。3年生は2ないし数名によるグループ研究を課し、発表をおこなう。秋学期は、夏休みに中に進めた3年生の個人発表が主体になる。その間に4年生の卒論発表がある。

発表に関しては、全員がコメントし、調査研究の対象や方法について討論する。そのなかで、自分の研究に資する情報や課題の明確化を進める。個々の発表やグループ研究に関しては、個人面談を経たのちにレジュメの作成を課している。そのなかで卒業論文作成のポイントを習得することが求められる。また共通の問題に関してはレポートを課すことがある。

参考書：

- ウェンジェル『音楽の文章術』春秋社 1994
-

- 【04】美学美術史学研究会 (2)
- 【04】美学美術史学研究会 (2)
- 【93】美学美術史学研究会 (2)

教授 河合 正朝

授業科目の内容：

主として日本を含む東アジアの美術史に関心をもつ履修者に対して、その見方や研究の方法などについて、基本能力を身につけることが出来るようになることがこの授業の目的です。そして卒業論文をその成果とします。

- 【04】美学美術史学研究会 (2)
- 【04】美学美術史学研究会 (2)
- 【93】美学美術史学研究会 (2)

助教授 西川 尚生

授業科目の内容：

西洋音楽を対象とする研究会。音楽研究に必要な調査・研究の方法を学ぶとともに、卒業論文作成のための個別指導を行なう。

具体的には、履修者による口頭発表が中心となる。履修者数によって変わる可能性もあるが、基本的に4年生には卒業論文に即したテーマで春学期と秋学期に各1回、3年生には秋学期に1回の発表をしてもらう予定である。これらの発表を元に、学生間で討論を重ねることで、音楽作品へのさまざまなアプローチの方法を学んでもらうので、履修者には積極的に発言することが求められる。毎回発表の前には、必ず指導教授の個人面接を受け、研究テーマや楽譜・文書資料の検索・収集の手順について相談してもらいたい。

参考書：

- ・R. J. ウィンジェル(宮沢淳一ほか訳)『音楽の文章術』春秋社、1994年。
 - ・U. エーコ(谷口勇訳)『論文作法』而立書房、1991年。
- そのほか授業の中で指示する。
-

- 【04】アート・マネジメント(4)
- 【93】アート・マネジメント(4)
- 【93】芸術運営論(アート・マネジメント)(4)

教授 美山 良夫

全専攻共通科目「アート・マネジメント」を参照

- 【04】アート・プロデュース(4)
- 【93】アート・プロデュース(4)
- 【93】芸術運営論(アート・プロデュース)(4)

教授 美山 良夫

全専攻共通科目「アート・プロデュース」を参照

日本史学専攻

必修科目

【04】【93】史学概論(4) 教授 神田 順 司

西洋史学専攻参照

【04】【93】日本史概説 (4)
流通・交通からみた中世日本 助教授 中 島 圭 一

授業科目の内容:

12～16世紀の日本は、さまざまな権力が分立し、大規模な戦乱も度々起こる一方、全国的な物資の流通が発達し、人々の往来も盛んになった時代でした。本講義では、列島内外を行き交うモノや人の動きを史料に基づいて確かめながら、背景にある政治や社会・文化のあり方を考えていきます。

テキスト:

特にありません。プリントを配布します。

参考書:

授業中に適宜提示します。

【04】日本史概説 (4)
【93】日本史概説 (4) 教授 柳 田 利 夫

授業科目の内容:

現代と切れ目なく繋がっている近代という時代の特徴を、政治史や経済史を縦系に、社会史、文化史、思想史を横系にしつつ考えてゆきたいと思っています。講義では、個別具体的な出来事を素材に、研究史の紹介や要約にとどまることなく、同時代の原史料を実際に読みすすめることを通じて、考察してみたいと思っています。

【04】【93】古文書学(4)
中世の文献史料の読み方・扱い方 講師 西 岡 芳 文

授業科目の内容:

「古文書」を中心として、中世史の素材となる文献史料の読み方と扱い方を講義します。

近世以降の古文書に比べると、中世の古文書は数も少なく、博物館などに行かないと見られないのが普通です。書体が定型化した近世以降の古文書と異なり、中世のくずし字は難読なものが多いうえに、見慣れない用語や様式が用いられているため、まるで外国語を見るような感じがするかも知れません。そのような古文書を歴史の素材とするためには、さまざまな知識と、くずし字を解読する技術が必要です。本講義では、できるだけ実践的に、中世の文献史料を解読・処理するための技術を指導いたします。

テキスト:

必要な古文書図版などは講義中に配布する予定です。

参考書:

- ・佐藤進一著『〔新版〕古文書学入門』(法政大学出版局, 1997年刊)
- ・日本歴史学会編『概説古文書学』(吉川弘文館, 1983年刊)
- ・伊木寿一著『古文書学』(慶應義塾大学出版会)
- ・『日本中世史研究事典』第四章・特論「日本中世史 史料の手引」(東京堂出版, 1995年刊。215～227頁)

【04】【93】古文書学(4)
近代文書の読み方・扱い方 教授 井 奥 成 彦

授業科目の内容:

多種多様な近代文書の大まかな体系をまず示し、その中から研究によく用いられるものをピックアップして、読み方・扱い方・史料としてのメリットと限界などを解説してゆく。なお近代史研究においては、狭義の「文書」のみならず、帳簿や日記など記録類の占める比重が大きいので、それらも併せて見てゆく。

テキスト:

特に用いない。

参考書:

随時紹介する。

【04】【93】日本史特殊(4) 教授 長谷山 彰

授業科目の内容:

7世紀以降の日本古代国家の法と制度について講義する。我が国における律令法の成立とその背景を探ると共に中国律令法に対する日本律令法の特色を明らかにしたい。又裁判制度を中心に律令法運用の実態を検討する。

テキスト:

特に指定しない。

参考書:

- ・牧 英正・藤原 明久『日本法制史』(青林書院新社)
- ・利光 三津夫・長谷山 彰『新裁判の歴史』(成文堂)
- ・長谷山 彰『日本古代の法と裁判』(創文社)
- ・早川庄八『律令国家』(小学館『日本の歴史』)

【04】【93】日本史特殊(4)
古代の神々の世界を探る 教授 三 宅 和 朗

授業科目の内容:

古代の神々の世界を自然・神・人間の三極構造を前提に検討していく。その際、具体的な史料をもとに、とくに神々と古代の人々が出会う現場を復元して、古代的な心性に可能な限り迫っていきたい。春学期では、神や自然が人間に発する光、人間が神・自然へ発する光を中心に論ずる。秋学期では、神祭りの行われた日時を手がかりにする。

参考書:

益田勝実『秘儀の島』(筑摩書房)

【04】【93】日本史特殊(4)
モンゴル襲来と鎌倉幕府 講師 W 橋 典 幸

授業科目の内容:

13世紀後半のモンゴル襲来は、当時の政治・社会・文化など多方面に大きな影響を与えた。関係史料も、古文書にとどまらず多様である。これらについて、鎌倉幕府史を軸に解説を加える。

テキスト:

なし。講義資料プリントを適宜配布します。

参考書:

なし。

【04】【93】日本史特殊(4)
地域史研究のフロンティア 比較地域史の試み
講師 中 村 尚 史

授業科目の内容:

日本の近代化(=工業化)の過程における「地方の活力」の重要性に着目し、比較地域史という方法を導入することで、日本近代史を地方の視点から再構築することを目指します。講義内容は社会経済史にとどまらず、政治史や教育史の要素を含みます。

テキスト:

授業の最初に文献リストを配布します。

【04】【93】日本史特殊(4)
七世紀の王権と都城 講師 仁 藤 敦 史

授業科目の内容:

七世紀の古代史を王権と都城成立の諸段階として再構成して講義する。時代は継体・欽明期までを前史として、推古期から大化期、天智期、天武・持統期の四期に大きく区分し、近年の聖徳太子論、女帝論、大化改新論、大藤原京論など、論争的な内容を紹介したうえで、私見を述べる。大化前代における古代史史料の扱い方にも言及する。

テキスト：

適宜プリントを配布するが、『日本書紀』をしばしば使用する。

参考書：

仁藤敦史『古代王権と都城』吉川弘文館、1998年

【04】【93】日本史特殊（4）

資料の新しい見方 講師 W 橋 裕 次

授業科目の内容：

歴史研究の対象となるさまざまな史料を、「もの」としてとらえ、その形態・材質・伝来などから、情報を引き出す方法を、テーマごとに解説する。また文献資料の古文書や典籍については、料紙の科学的分析などの最新の研究成果を紹介し、今後の課題にも言及する。授業は、具体的に画像を示しながら、講義形式で進めていく。

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

【04】【93】日本史特殊（4）

日本史の中の普遍，19世紀東アジアの国際関係
講師 三 谷 博

授業科目の内容：

日本の学問には、今まで、西洋で創られた言葉や考え方を「普遍」と見なして輸入するか、それを拒んで日本を「特殊」とし、そこに閉じこもるか、二つのタイプがあった。しかし、日本の経験から「普遍」を考えることはできないだろうか。この講義の前半では、デモクラシー、ナショナリズム、革命など、いくつかの重要なトピックスを取上げ、日本の経験に含まれる謎を手がかりに、それを他の国や地域と比較しながら、普遍的に通用するような分析用語や考え方を提示してみたい。それは、世界の他地域をより良く理解するためにも役立つはずである。

後半は、19世紀の日本をめぐる国際関係を、当時の日本・中国・朝鮮などの基本史料を取上げ、それを熟読しつつ、考えたい。

テキスト：

三谷 博『明治維新を考える』有志舎（5月刊行予定）

【04】【93】日本史特殊（4）

キリシタン史 助教授 浅 見 雅 一

授業科目の内容：

昨年度に引き続き、キリシタン時代の偶像崇拜について、インド、日本、中国における対応の相違を検討したい。中国では、偶像崇拜をめぐる問題は典礼論争という形に発展しているため、これについては特に詳しく見ていきたいと思う。本年度は、史料論についても扱う予定である。

参考書：

授業中に適宜紹介する。

【04】日本史史料講読 A（2） [春] 教授 田 代 和 生

【04】日本史史料講読 B（2） [春] 助教授 中 島 圭 一

【93】原典講読 A（2） [秋] 教授 三 宅 和 朗

【93】原典講読 B（2） [秋] 教授 井 奥 成 彦

授業科目の内容：

古代・中世・近世・近代の史料（刊本）の講読と、史料解読のための基本ツールの利用法を修得する。

テキスト：

授業の際に配布する。

参考書：

授業の際に指示する。

【04】【93】日本史演習（2）

近世古文書講読（初級クラス） 講師 原 淳一郎

授業科目の内容：

近世古文書講読の初級クラスである。初めは「ひらがな」の読み

方からはいり、漢字交じりの平易な文章からさらに難度の高いものへと進んでいく。史料はできるだけ書体の異なったものを選び、初心者が古文書に慣れることに主眼をおきたい。この間、解読辞典のひき方を指導し、さらに近世史への関心を深めるために、講読史料と関連するテーマについての、討論や発表もあわせておこなう。第一回目の授業でテキストの配布と使用辞書の説明等を行なうので、受講希望者は必ず出席すること。

テキスト：

授業中にプリントを配布する。

参考書：

辞書：『くずし字解読辞典』（東京堂出版）、『くずし字用例辞典』（東京堂出版）

【04】【93】日本史演習（2）

講師 丸 島 和 洋

授業科目の内容：

中世史料の講読演習である。中世史料はくずし字で書かれている上、独特の文体が用いられており、解読には地道な修練が必要とされる。授業では古文書の写真版を用い、基礎的な講読／読解能力を身に付けることを目的とする。テキストは授業時に配付する形をとるため、受講者には初回からの出席をお願いしたい。

テキスト：

授業時にコピー史料を配布する。

参考書：

『くずし字用例辞典』（東京堂出版）、佐藤進一『古文書学入門』（法政大学出版会）

【04】【93】日本史演習（2）

近世古文書講読（上級クラス） 教授 田 代 和 生

授業科目の内容：

近世古文書講読の上級クラスである。この授業を履修する者は、すでに古文書講読の初級クラスの単位を修得するか、あるいは同程度の講読能力を有する者に限られる。講読史料は、歴史研究のための興味ある特定のテーマから選び、生の史料の分析・活用方法なども指導する。

テキスト：

授業中にプリントを配付する。

参考書：

『図録古文書入門事典』（若尾俊平編著、柏書房）

【04】【93】日本史演習（2）

教授 長 谷 山 彰

授業科目の内容：

弘仁・貞観・延喜の三代の格を集大成した『類聚三代格』を講読する。特に巻19禁制事に収められた格を対象として、京内外で起こるさまざまな社会事象について律令国家がどのような対応を示したのかを明らかにすると共に、政策決定の背景について考察してみたい。

テキスト：

新訂増補国史大系『類聚三代格』（コピーを配布する）

参考書：

・日本思想大系『律令』（岩波書店）
・『国史大系書目解題』上（吉川弘文館）

【04】【93】日本史演習（2）

近代文書解読 講師 吉 岡 拓

授業科目の内容：

近代の公文書、私文書、雑誌類を主なテキストとして、文書解読能力の基礎（くずし字判読の基礎力）を身につけることを目指す。

授業の進め方としては、まず変体仮名の学習を行い、あわせて主要な部首のくずれ方についても学びながら、徐々に漢字を中心とする学習へと入っていく。

テキスト：

授業時に適宜指示、配布。

参考書：

辞書：『くずし字用例辞典』『くずし字解説辞典』（共に東京堂出版）

【04】【93】日本史演習（2） 教授 三宅和朗
『日本三代実録』を読む 講師 村上史郎

授業科目の内容：

『日本三代実録』は六国史の最後に編纂されたものです。本史料を講読することで、9世紀後半を中心に平安時代前期の政治・対外関係・社会・文化などの実像を探ると共に、古代史史料の基礎的読解力を受講者に身につけてもらうことを目標にしています。

テキスト：

新訂増補国史大系『日本三代実録』（吉川弘文館）但し、コピーを配布します。

参考書：

・武田祐吉・佐藤謙三訳『訓読日本三代実録』（臨川書店）

・笹山晴生『日本古代史年表 上』（東京堂出版）

この他、読解に必要な辞典類、関連史料、研究文献などは授業中に適宜紹介します。

【04】【93】日本史演習（2） 講師 堀 和 孝

授業科目の内容：

本講義は、明治期の史料の読解能力を養成することを目標とする。テキストには、竹越与三郎著『新日本史 上・中』（民友社、1891、92年）を用いる。

テキスト：

原本のコピーを配布する。

参考書：

・『明治文学全集 77 明治史論集（一）』（筑摩書房、1965年）

・竹越与三郎著・西田毅校注『新日本史（上）（下）』（岩波書店、2005年）

【04】【93】日本史演習（2）
近世対外関係史 助教授 浅見 雅 一

授業科目の内容：

近世史料の講読を行なう。

テキスト：

受講者と相談のうえで決めたい。

【04】【93】日本史演習（2）
室町期の荘園制と地域社会 講師 湯 浅 治 久

授業科目の内容：

日本中世史の研究方法を身につけることができます。具体的には、室町時代の東海地域のまとまった荘園史料を徹底的に読み、あわせて現在の研究状況を関連論文から学びます。折にふれて、フィールド・ワーク（現地調査）の演習もこころみつつもります。

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書：

歴史学研究会・日本史研究会編『日本史講座』4・5（2004年刊）、榎原雅治編『日本の時代史 11 一揆の時代』（2003年刊）など。

【04】日本史研究会 （A）（2）
【04】日本史研究会 （A）（2）
【93】日本史研究会 ・ （2） 教授 柳 田 利 夫

授業科目の内容：

近代日本史に関する文献講読と卒業論文指導

【04】日本史研究会 （B）（2）
【04】日本史研究会 （B）（2）
【93】日本史研究会 ・ （2） 教授 田 代 和 生

授業科目の内容：

この研究会の目的は、江戸時代の政治・経済・文化など多方面にわたる課題と取り組みながら、近世史研究を行なうための基礎能力を養うことにある。具体的な研究方法としては、年度ごとの共通テーマ（今年度は「近世社会史」）を設定し、グループでの発表・討論を中心に、専門文献や史料への接近の仕方、あるいはそれらの評価・活用法などを学ぶ。またこれと並行して、四年生の卒業論文指導、三年生の個別テーマのレポート作成指導を行なう。なお三年生は、近世古文書講読の初級クラス（日本史演習）を必ず履修すること。

テキスト：

磯田道史『武士の家計簿』（新潮社、2003年）

参考書：

磯田道史『近世大名家臣団の社会構造』（東京大学出版会 2003年）

【04】日本史研究会 （C）（2）
【04】日本史研究会 （C）（2）
【93】日本史研究会 ・ （2） 教授 三 宅 和 朗

授業科目の内容：

4年生については卒業論文作成の指導を行なう。3年生については春学期に史料の講読を行い、古代社会像を具体的に検討する予定である。

【04】日本史研究会 （D）（2）
【04】日本史研究会 （D）（2）
【93】日本史研究会 ・ （2） 教授 長 谷 山 彰

授業科目の内容：

4年生については卒業論文の指導を行う。

3年生も各自のテーマについて報告を予定しているが、そのほかに共通のテーマを決めて史料の講読も行いたい。

テキスト：

適宜コピー史料を配布する。

【04】日本史研究会 （F）（2）
【04】日本史研究会 （F）（2）
【93】日本史研究会 ・ （2） 助教授 浅 見 雅 一

授業科目の内容：

中世末期から近世にかけての対外関係史を中心としたテーマで、参加者には卒業論文を視野に入れながら各自の関心に沿った研究報告をしてもらう。それと同時に、対外関係史に関する研究論文を参加者と一緒に読み、それを素材としてひとつのテーマについて自由に議論することも考えている。

【04】日本史研究会 （E）（2）
【04】日本史研究会 （E）（2）
【93】日本史研究会 ・ （2） 助教授 中 島 圭 一

授業科目の内容：

中世史料の講読に、適宜、各自のテーマに基づく報告を交えながら、研究と論文執筆の能力を養ってもらいます。

テキスト：

初回の授業で提示します。

【04】日本史研究会 （G）（2）
【04】日本史研究会 （G）（2）
【93】日本史研究会 ・ （2） 教授 井 奥 成 彦

授業科目の内容：

日本近代史に関する文献・史料講読、自由研究発表、史料調査。

このうち史料調査は、教室での授業とは別に、合宿形式で行う。

テキスト：

初回の授業時に話し合って決める。

参考書：

随時紹介する。

【04】日本史洋書講読（2）

【93】洋書講読（2）

日本文化の伝統と海外の日系文化 講師 小嶋 茂

授業科目の内容：

最初に日本文化史に関する洋書（英語）を読み、自分たちの文化の伝統について学び、それが海外の日系社会でどのように受け継がれているかを日系人に関するエッセイや様々な資料をとおして探ります。海外の日系社会に、実は日本以上に日本の伝統が生きている姿を感じ取れる講座にします。

テキスト：

講座資料プリントを配布します。

参考書：

初回の授業で提示します。

- Kato, Shuichi: *JAPAN Spirit & Form*, Rutland, Vermont & Tokyo, CHARLES E. TUTTLE COMPANY, 1994.
- Asakawa, Gil: *Being Japanese American*, Berkeley, Stone Bridge Press, 2004.
- Befu, Harumi & Guichard-Anguis, Sylvie: *Globalizing Japan Ethnography of the Japanese presence in Asia, Europe, and America*, New York, Routledge Curzon, 2003.

東洋史学専攻

必修科目

【04】【93】史学概論(4) 教授 神田 順 司

西洋史学専攻参照

【04】東洋史研究入門(2) 教授 坂本 勉
【93】原典講読(2) 教授 山本 英史
東洋史研究入門 教授 吉原 和男
教授 桐本 東太
助教授 長谷部 史彦
商学部 教授 湯川 武

授業科目の内容:

東洋史ほど問目が広く、かつ奥行き深い分野は少ないのではないだろうか。それだけにどの地域、どの時代、いかなる方法で歴史を学んでいくかについて思い悩んでいる人も多いはずである。こうしたことを考慮して設けたのがこの授業である。原則としてゼミを持つ教員が担当し、オムニバス形式ですすめられていくが、その蘊蓄を傾けた話のなかから将来の道をさぐるよすがを見つけてもらいたい。講義は、以下のように東アジアから西のイスラーム世界へ、時代は古い方から新しい方へという順で組み立てられている。

東洋史の『組み立て方』

一般に「東洋史」の名前でくられる時代と空間は、想像を絶する深みと広がりをもっているが、本講ではその中から、私の力がおよぶ領域を選択し、「東洋史」に取り組む際の研究方法を具体的に説明しようと思う。こちらがある事例の解析法を示し、それにならって学生諸君に他の事例を同じ視点から分析するとどのようになるかを考えてもらう、といった授業の進め方を予定している。(桐本東太)

中国近世近代史研究法

中国の近世近代史を中心に なぜ中国の歴史を学ぶのか、中国近世近代史研究の過去と現在、中国近世近代史のための史料、実践:史料読解 歴史はどのように作られるのか、という4つのテーマで講じる。(山本英史)

華僑華人の研究史

日本における中国移民の研究についての主要文献を紹介しながら、アジア移民研究における方法と課題を論じる。(吉原和男)

イスラーム世界史研究法

イスラーム世界史の研究法についての基本的な説明からはじめ、続いてイブン・パトゥータ著『大旅行記』(家島彦一訳、平凡社東洋文庫)の部分的な講読を試みることで、学生諸君をイスラーム世界史研究へと誘うことにしたい。(長谷部史彦)

イスラーム文化史入門

イスラームとイスラーム文化の歴史をテーマとする。イスラームという宗教と、その価値観に基づいて形成されたイスラーム文化・文明を理解するためのもっとも基本的な知見を得る目的で、井筒俊彦博士の著作の中から『イスラーム文化』(岩波書店)などをテキストとして使いたい。(湯川武)

日本からイスラーム世界の歴史を考える

外国史の研究は、日本との関係をつねに意識していないとその興味・関心を持続させることがなかなかむずかしい。こうしたことを考慮してこのオムニバスの授業ではヴィジュアルな映像資料も活用しながら日本とイスラーム世界との関係について話し、中東イスラーム世界について考えていく目を養っていききたい。

【04】東洋史講読 B(2) 教授 吉原 和男
アジア系アメリカ人の歴史

授業科目の内容:

19世紀以降にアジアからアメリカ大陸へ移住・移民した人々の歴史を概説した英文テキストを使用する。

中国人は華僑や華人としてよく知られ、また日本人は日系人として知られるが、他に韓国、南アジア、東南アジアからさまざまな理由と背景をもって北米や南米に移住した人々がいる。グローバルな人の移動を環太平洋地域に注目して考える授業である。

テキスト:

未定

参考書:

- ・ロナルド・タカキ, 富田訳『多文化社会アメリカの歴史』明石書店, 1995年
- ・Monique Avakian, Atlas of American History. Checkmark Books. 2002

【04】東洋史講読 C(2) 講師 W 村 武 幸
東洋史(中国)史料の講読

授業科目の内容:

漢文史料を読むことで、史料に慣れ、その内容を理解するための基礎作りを目標とします。最初は短文を中心に読み下しや返り点などのついた漢文を読んで慣れ、次に良く知られなじみある史書や諸子百家の名場面を取り上げて内容をつかむ練習をします。秋学期には、実際に中国の正史をとりあげて輪読していきます。実際に読むものについては履習者の意見も取り入れたいと思います。その他、史料を読む上で知っておくと便利な、当時の状況に関する知識も出来るだけ紹介する予定です。漢字であるだけに少し慣れてくれば、史料内容をつかむのはそれほど困難ではありません。多少のまちがいはつきもの、とにかく読み、内容を把握する練習を重ねたいと思います。

テキスト:

こちらから適宜配布します。

参考書:

特に指定はありません。

【04】東洋史講読 D(2) 講師 廖 赤 陽
「気」で読み解く「東洋史」

授業科目の内容:

理性と感性の乖離、こころと身体の対峙、人間と自然の緊張関係など、「近代・西洋」を基準に作られた現代社会が抱えている矛盾と問題を読み解くには、「伝統・東洋」の智慧との対話が欠かせない。

この授業では、「気」で東アジア史を読み解くことを試み、戦国時代から現代に至るまでの「気功」の歴史並びに「気」の思想と実践を原典に沿って体系的に学ぶ。これに併せて、東アジアにおける易、陰陽、五行、八卦、風水の思想、及び中国医学、養生学、武術などの身体文化を広く紹介し、整体(ホリスティック)思想のルーツを辿る。

テキスト:

未定

参考書:

- ・廖赤陽『気功の思想と実践』春秋社, 1999年
- ・同『実践気功健康法』春秋社, 2004年

【04】東洋史講読 E(2) 講師 佐藤 健太郎
アラブ史関連文獻講読

授業科目の内容:

アラブ世界にかかわる英語文献を講読する。前半は学術論文を、後半はアラビア語史料の英訳を題材とする予定である。この授業を通して、各自が自分の興味関心にしたがって独力で文献を読み進められるようになることを目的とする。

テキスト:

初回授業時に配布する。

参考書:

初回授業時に参考文献表を配布する。

【04】東洋史講読 A(2) 講師 石丸 由美
近代オスマン社会の変容

授業科目の内容:

19世紀オスマン帝国は政治、社会システムを始め、思想、文化の

世界においても大きな変革の時代であった。こうした変化の様子を、日本語及び英語による文献講読を通して概観する。

テキスト：
初回授業時に提示します。

【04】【93】東洋史概説 (4)
中国古代史概説 教授 桐本 東太

授業科目の内容：
中国史の初原の時期である謎の夏王朝から殷・周・春秋史について主として文献史学の立場にたちながら、最近の出土資料にも配慮して授業を進める。

テキスト：
なし
参考書：
適宜指示する。

【04】【93】東洋史概説 (4)
中国近世近代史 教授 山本 英史

授業科目の内容：
この講義では中国の歴史全体を「伝統の形成・発展・変容」という観点から論じていきます。この講義を通して過去から現在に至るまでの中国の苦悩の歴史の一端に触れていただければ幸いです。

テキスト：
山本英史『現代中国の履歴書』慶應義塾大学出版会 2003年
参考書：
尾形勇・岸本美緒『中国史』山川出版社 1998年

【04】【93】東洋史概説 (4)
宗教・民族からみるイスラーム世界史 教授 坂本 勉

授業科目の内容：
イスラーム世界とは多様な民族とエスニック集団からなる広大な歴史的世界である。宗教的にもイスラームのみならずそれと兄弟関係にあるセム的一神教たるユダヤ、キリスト教を内に含みつつ共存をはかってきたところである。この講義ではこうしたイスラーム世界の多様性と複合性を春学期においてはアラブ、トルコ系諸民族の15世紀あたりまでの歴史を軸に焦点をしばらくながら話をしていく。ついで秋学期では16世紀から近代の時期にかけてのオスマン帝国の歴史を例にトルコ、アラブ、バルカンの人びとがいかにして民族の意識をもつようになってきたのか、その文化的、政治的ナショナリズムの過程について国際関係を視野に入れながら考えていくことにしたい。他専攻、他学部の学生でも理解できるようなだけかみくだいて話すつもりである。また、政治史に偏らずに社会史、文化史にも重点をおいていく。イスラーム世界についての知識はこれからますますグローバル化する国際社会で生きていく上で絶対に必要な分野であると思われる。志のある学生を歓迎したい。

テキスト：
とくに指定せず。春秋それぞれの学期に一回ずつまとまった文献目録を配布。

【04】【93】東洋史特殊 B (4)
中世・近世のアラブ地域とヨーロッパ 助教授 長谷部 史彦

授業科目の内容：
「レコンキスタ」や十字軍運動がはじまる西暦11世紀からナポレオンのエジプト遠征・占領(1798～1801年)に至るまでの中世・近世的を絞って、特にシリア、エジプト、紅海、ペルシア湾に注目しながら、アラブ地域・ヨーロッパ関係の歴史的展開について考える。可能な限り多様な視角を設定し、両世界の対立、葛藤、外交、文化交流、越境的な人の移動の諸相などを明らかにしてゆきたい。

テキスト：
なし

参考書：
佐藤次高編『西アジア史 アラブ』山川出版社、2002年

【04】【93】東洋史特殊 C (4)
イランの映画と社会 講師 鈴木 均

授業科目の内容：
イラン映画の名作(ビデオ)を、春学期・秋学期それぞれ2本ずつ選んで現代イラン社会との関わりを考えつつ鑑賞する。今年度はイラン社会についての講義も併せて行なうことにする。取り上げる映画は基本的に字幕付きのものを選び、最初の授業において出席者と相談する。

参考書：
授業中に適宜指示する。

【04】【93】東洋史特殊 D (4)
オスマン帝国史 講師 鈴木 董

授業科目の内容：
13世紀末より18世紀末に至る前近代のオスマン帝国の歴史を多面的に概観する。そのなかで、世界史の中でのイスラーム世界とオスマン帝国の位置づけに常に注意を払い、西洋中心史観の見直しも試みたい。但し、本年度の講義においては、重点を13世紀末から16世紀末に至る前期オスマン帝国における古典的体制の形成と発展の過程の検討におくこととした。

参考書：
教科書は用いない。しかし、下記の書物を必読参考書とする。必ず読むこと。
鈴木董『オスマン帝国 イスラーム世界の柔らかな専制』講談社現代新書、1992年

【04】【93】東洋史特殊 E (4)
前近代のイスラーム世界における移動と交流の諸相 講師 栗山 保之

授業科目の内容：
アラビア半島を中心とする西アジアはその周囲を地中海、ペルシャ湾、紅海、インド洋といった多くの海洋によって取り囲まれており、そのためイスラーム勃興の前後から、この西アジアでは、これら的大洋を媒体として、商人や学者などのさまざまな階層・職層に属する人びとが広域的な移動と交流を活発におこない、イスラーム史の展開に大きな影響を与えてきました。そこで本講義では、この西アジア・イスラーム世界における人びとの移動と交流の諸相について講義してゆきたいと考えております。検討対象とする時代は、イスラームがアラビア半島に誕生してから、ポルトガルがインド洋に出現した15世紀末までとし、対象地域は西アジアを中心に、地中海沿岸、東アフリカ、ペルシャ湾岸、インド西岸、東南アジア、東アジアなどを取り上げようと、考えております。

テキスト：
特にありません。
参考書：
特にありません。必要に応じて紹介します。

【04】【93】東洋史特殊 G (4)
休講

【04】【93】東洋史特殊 F (4)
休講

【04】【93】東洋史特殊 H (4)
近代中国の国家建設と社会の変化 講師 田中 比呂志

授業科目の内容：
本講義は、20世紀初等に欧米や日本にならって近代化を達成しよ

うとした中国を素材とし、その過程を追跡する中で日中関係や、現代中国の推し進める近代化の問題を考察するための視座を養うことを目的とする。立憲制や地方自治を、当時の中国人等はどのようにとらえて理解していたのか、それらを導入しようとした結果、国家や社会のシステムはどのように変化していくことになったのかを考察し、現代中国とのつながりを考えてみたい。

テキスト：

特に指定しません。講義用のプリントを配布します。

参考書：

授業時に随時紹介します。

【04】【93】東洋史特殊 I (4)

休講

【04】【93】東洋史特殊 J (4)

世界の華人社会の比較考察 講師 山下 清海

授業科目の内容：

中国から世界各地に移住して行った華人が、移住先でどのような社会を形成し、そこでどのような生活様式を展開してきたかについて、東南アジア・北アフリカ・ヨーロッパ・オセアニアなどの具体的事例を比較しながら考察します。

とくに華人が形成したチャイナタウンの各地における地域的特色とその要因について解説します。

また、日本国内の事例や、中国の「僑郷」(華僑の故郷)についても取り上げます。

本講義では、地理学的な視点も加えて、「地域を視る目」を養うことにも重点を置いています。

テキスト：

山下清海著「チャイナタウン 世界に広がる華人ネットワーク」(丸善, 2000年, 2300円)

参考書：

- ・山下清海著「東南アジアのチャイナタウン」(古今書院, 1987年, 1890円)
- ・山下清海著「シンガポールの華人社会」(大明堂, 1988年)
- ・山下清海著「東南アジア華人社会と中国僑郷 華人・チャイナタウンの人文地理学的考察」(古今書院, 2002年, 6825円)
- ・山下清海編「華人社会がわかる本」(明石書店, 2005年, 2100円)

【04】【93】東洋史特殊 K (4)

環太平洋地域における華人社会の歴史と社会組織
教授 吉原 和男

授業科目の内容：

東南アジア諸国とりわけ中国系住民の人口が多いタイ、マレーシア、さらに北米に注目して、コミュニティ形成の歴史を概観した後、華僑・華人団体の発達史と社会的機能について考察する。現地調査によって入手した資料を用いて事例分析する。スライドとビデオを使用した補足説明を数回おこなう。

テキスト：

特になし。

参考書：

初回の講義で参考文献リストを配付する。

【04】【93】東洋史特殊 A (4)

東南アジア史の諸問題
言語文化研究所 助教授 嶋尾 稔

授業科目の内容：

東南アジアの歴史について様々な視座から実証的に検討する。マクロなスケールで地域世界の成り立ちを考える一方で、ムラの世界まで降りて具体的に人々の実践に迫ってみる。

前半は、東南アジア全体に関わる概論的な問題を取り扱う。「自然環境」「国家・政体」「外文明」など。後半は、ベトナム史に焦点を当てる。「農業・農村から見た歴史」「儒教をめぐる問題(葬礼、女

性問題)」「病い・医療」など。

テキスト：

特に指定しません。講義中に資料プリントを配布します。

参考書：

上智大学アジア文化研究所編『新版・入門東南アジア研究』(めこん, 1999年)

【04】東洋史研究会 A(3年)(2)

【04】東洋史研究会 A(4年)(2)

【93】東洋史研究会 (2)

中国近世・近代史研究の方法と課題

教授 山本 英史

授業科目の内容：

この研究会は、受講者にとっては中国史 特に文献を史料として用いた10世紀以降の政治史および社会経済史 についての研究を行うための基礎能力を養うことに、また特に4年生にとっては卒業論文作成の準備をすることに目的があります。

本年度は上記の目的に沿い、前期は3年生を中心とする自分に関心がある自由なテーマにもとづく報告をひとりずつ行ってもらいそれを批判・討論していくという形態で進めます。また、後期は4年生を中心に卒業論文の中間報告とその検討を行います。

参考書：

- ・山根幸夫編『中国史研究入門』(増補改訂版)山川出版社, 1995年。
- ・小島晋治・並木頼寿編『近代中国研究案内』岩波書店, 1993年。
- ・『世界歴史大系・中国史』4 明清, 山川出版社, 1999年。
- ・山本英史編『伝統中国の地域像』慶應義塾大学出版会, 2000年。

【04】東洋史研究会 B(3年)(2)

【04】東洋史研究会 B(4年)(2)

【93】東洋史研究会 (2)

イスラーム社会史への途 教授 坂本 勉

授業科目の内容：

まず最初に共通のテキストとして生活観にあふれた社会史、文化史について扱う本と一緒に読んでいながら中東イスラーム世界についての認識を深めていきたい。これが済んだ後、出席者にそれぞれ自由課題を与え、その結果をレジュメにして発表していくという形式で授業をすすめていくことにする。このゼミに出席する者は、まず自分が何をやるようとしているのか、徹底的に考えてほしい。そして、しかるのちにやるべき事柄にかんする周到なビブリオグラフィをつくりそれにもとづく意欲的な発表を期待する。

テキスト：

初回の授業で指示する。

【04】東洋史研究会 C(3年)(2)

【04】東洋史研究会 C(4年)(2)

【93】東洋史研究会 (2)

商学部 教授 湯川 武

授業科目の内容：

本研究会は、中東、広くはイスラーム世界の歴史と文化という枠内で、卒業論文を書こうとする学生を対象とする。授業の目的は、まず第一に中東およびイスラーム世界の歴史や文化についての知識と理解を広げ深めることにある。そして第二に、その学習を通じて、自らテーマを選択し、調べ、整理・分析し、卒業論文にまとめる、というプロセスを学ぶことにある。その過程で発表を繰り返すことにより、プレゼンテーション能力を高めることも含まれる。

卒業論文は「論文」であるから、それなりの内容と形式をきちんと備えていなければならない。その準備の過程を通じて、中東やイスラーム世界について、より幅広く、より深く学ぶことができることを期待する。

テキスト：

特に指定しない

参考書：

初回の授業で参考文献リストを配布する

選 択 科 目

【04】東洋史研究会 D(3年)(2)

【04】東洋史研究会 D(4年)(2)

イスラーム社会史研究 助教授 長谷部 史 彦

授業科目の内容：

19世紀までの中東・イスラーム世界について、社会史、文化史、政治史の視点から考え、演習形式で学んでゆきたい。本年度は地中海世界とインド洋世界に注目し、まず日本語の関連文献を少し講読してから、英語文献に進みたい。また、これと並行して、卒業論文の作成に向けた自由研究の報告とディスカッションを行なう。

テキスト：

初回の授業で履修者と相談の上、決定する。

参考書：

- ・佐藤次高編『西アジア史 アラブ』山川出版社、2002年
- ・永田雄三編『西アジア史 イラン・トルコ』山川出版社、2003年

【04】東洋史研究会 E(3年)(2)

【04】東洋史研究会 E(4年)(2)

【93】東洋史研究会 ・ (2)

中国人ならびにアジア人の国際移動

教授 吉原 和 男

授業科目の内容：

- (1) アジアにおける、あるいはアジアから他地域への国際人口移動の歴史人類学的研究を行う。中国人だけではなく、日本人、韓国人、タイ人、マレー人、ビルマ人、インド人なども視野に入れて比較研究する。移民の故郷、移民に関する法制、プロセス、適応と文化変容、エスニシティなどについて総合的に考える。たとえば、グローバリゼーション、トランスナショナルイズム、華僑華人、チャイナタウン、移民の宗教、外国人労働者、難民などがキーワードである。

- (2) 中国の近・現代史において中国人の国際移動と関連する事象の研究

- (3) 北米、ヨーロッパ、東南アジア、オーストラリアそして日本などにおける中国系以外のアジア移民の研究。

テキスト：

- ・岩波講座文化人類学第7巻『移動の民族誌』岩波書店、1996年
- ・岩波講座世界歴史第19巻『移動と移民』岩波書店、1999年
- ・五十嵐武士編『アメリカの多民族体制』東京大学出版会、2000年
- ・吉原ほか編『血縁の再構築：東アジアにおける父系出自と同姓結合』風響社、2000年
- ・吉原ほか編『アジア移民のエスニシティと宗教』風響社、2001年
- ・吉原ほか編『拡大する中国世界と文化創造』弘文堂、2002年

【04】東洋史研究会 F(3年)(2)

【04】東洋史研究会 F(4年)(2)

【93】東洋史研究会 ・ (2)

中国古代史の諸問題

教授 桐 本 東 太

授業科目の内容：

中国古代史で卒論を書きたいと思っている人の研究会。特定のテキストを選んで講読したり、学生諸君に発表してもらったりしながら授業を進めたい。

テキスト：

なし

参考書：

適宜指示する

【04】【93】東洋史演習 B(2)

地中海世界における異文化交流 オスマン朝期を中心に

講師 宮 武 志 郎

授業科目の内容：

地中海世界は常に様々な文化の邂逅と融合の歴史を繰り返して来た。その様子を様々な文献を読み、解説を加えながら理解することを目的とする。また、現代の国際情勢の変化に関連する歴史的考察も適宜行う予定である。

テキスト：

適宜プリントとして配布する。

参考書：

授業中に指示する。

【04】【93】東洋史演習 A(2)

点石齋画報講読

教授 山 本 英 史

授業科目の内容：

本講義では20世紀初に上海で刊行された絵入り新聞である点石齋画報を講読する。20世紀初に中国の人々がどんなことを考えていたかを知るのによい史料であり、インテンシブ漢文をきたえるにもよいテキストである。漢文読解にみがきをかけた人は東洋史専攻か否かを問わず是非受講してほしい。

テキスト：

点石齋画報(コピーを配布する)

【04】【93】東洋史演習 C(2)

アラビア語史料講読入門

助教授 長谷部 史 彦

授業科目の内容：

アラビア語の初級文法を「一応学んだ」人を対象として、アラビア語で書かれた史料や研究文献の読解に向けた基礎的なトレーニングを行なう。母音記号の付いていないアラビア語の文章は読んだことがないという場合でも、語学学習の意欲があり、アラブ地域の歴史に興味があれば歓迎する。また並行して、英文の『イスラーム百科事典』などを利用し、アラビア語史料やアラブの歴史家についても幅広く学んでゆきたい。

テキスト：

適宜プリントを配布する。

参考書：

授業で紹介する。

【04】【93】洋書講読 A(2)

休講

【04】【93】洋書講読 B(2)

休講

【04】【93】洋書講読 C(2)

休講

【04】【93】洋書講読 D(2)

休講

【04】【93】洋書講読 E(2)

休講

西洋史学専攻

必修科目

【04】【93】史学概論(4) 教授 神田 順 司

授業科目の内容：

歴史の「事実」とは何か。それは揺るぎなき真実として発見されるのか、それとも歴史家の解釈によって作られるのか。そしてもし歴史家によって作られるとすれば、その「事実」認識の客観性はいったいどこに求められるのか。歴史の個別研究から一步退いて、歴史がどのように認識されるのかを考えてみる時、我々は様々な理論上の問題に直面する。本講義では、そうした歴史学における認識論の諸問題を取り上げ、それらを実証研究との連関において考察する。

テキスト：

E. H. カー、『歴史とは何か』岩波新書

参考書：

授業の中で指示する。

【04】西洋史学原典講読(2)

【93】原典講読(2) 助教授 神 崎 忠 昭

授業科目の内容：

Alison Brown, *The Renaissance*, London, Longman, 1988, 130p.

参考書：

授業において、その都度指示します。

履修者へのコメント：

初歩の入門書を1冊読み上げることで「自信」をつけて下さい。

【04】西洋史学原典講読(2)

【93】原典講読(2) 教授 吉 武 憲 司

授業科目の内容：

David Walker, *The Normans in Britain* (Oxford, 1995) を講読します。

参考書：

R.H.C. デーヴィス『ノルマン人』(刀水書房 1981年)

【04】西洋史学原典講読(2)

【93】原典講読(2) 教授 清 水 祐 司

授業科目の内容：

西洋史研究に不可欠な洋書の読み方を指導する授業です。テキストの講読を通じて、辞書・辞典・事典等の使い方等になれ、洋書を理解するためには語学力はもとより、その洋書に直接・間接に関わる十分な知識(場合によっては学説史に関わる知識までも含みます)がなければ読みこなせないことを認識してもらうことが目標です。

テキスト：

G. Clark, *Early Modern Europe from about 1450 to about 1720*, London, 1966.

参考書：

授業中に適時紹介します。

【04】【93】西洋史演習(独)(2) 教授 神田 順 司

授業科目の内容：

ドイツ近代史に関するドイツ語テキストの講読を通してドイツ近代の基本的性格を学ぶ。

テキスト：

Rürup, Reinhard, *Deutschland im 19. Jahrhundert 1815-1871*. (Deutsche Geschichte, hrsg. von J. Leuschner, Bd.8) Göttingen 1984.

【04】【93】西洋史演習(仏)(2)

フランス語文献講読 講師 前 田 更 子

授業科目の内容：

19~20世紀ヨーロッパ社会・政治・文化に関するフランス語文献を講読します。

テキスト：

コピーを配布します。

参考書：

辞書を指定します。大修館『新スタンダード仏和辞典』

【04】【93】西洋史演習(伊)(2) 講師 三 森 のぞみ

授業科目の内容：

中世・ルネサンス期のイタリア史に関する文献を講読します。

テキスト：

プリントを配布します。

参考書：

授業中に適宜紹介します。

【04】【93】西洋史演習(西)(2)

スペイン近現代史の史料を読む 助教授 山 道 佳 子

授業科目の内容：

春学期には19世紀初頭の社会風俗や政治事件を描写した文学作品であるブランコ・ホワイト著『スペインからの手紙』、秋学期には20世紀の独裁者フランコ將軍の手紙(解説付き)を読んでいきます。性格の違う史料を読むことを通し、実際にスペイン語の史料を使ってスペイン史の勉強ができるようになるための基礎的な訓練を行います。

テキスト：

プリントを配布する。なお各自が使用している辞書を毎回持参すること。

参考書：

授業中に指示する。

【04】【93】西洋史演習(露)(2)

ロシア史に関するロシア語文献の講読

講師 田 辺 三千広

授業科目の内容：

ロシア史に関するロシア語文献の講読を行います。今年度前期は、
．．．．． (15世紀から16世紀への転換期におけるロシア)を、後期は、
．．．．． (古代からのロシア史)をテキストとして使用します。

【04】【93】西洋史概説(4)

西ヨーロッパ世界の形成と発展 教授 吉 武 憲 司

授業科目の内容：

この授業では、一般に5世紀から15世紀までとされる中世の西ヨーロッパ世界を扱います。西ヨーロッパなるものは、中世以前には存在しませんでした。それは、古代の地中海的統一世界が、イスラム圏・ビザンツ圏・西方カトリック圏に分裂する中で誕生しました。中世とは、まさに西ヨーロッパ世界が形成された時代に他ならず、さらにその後の発展の基礎となる様々な要素が確立された時代です。授業では、この点を明らかにするために、重要なトピックを取り上げて、いろいろな観点からこの発展をみていきます。

参考書：

春学期：山本茂他『西洋の歴史(古代・中世編)』(ミネルヴァ書房 1988年)

秋学期：キング『中世のイギリス』(慶応義塾大学出版会 2006年刊行予定)

【04】【93】西洋史概説 (4) 教授 清水 祐 司

授業科目の内容:

近代前期 (early modern) の歴史を概観します。しかし、一般的な概説のように、諸事件を総花的に時系列に従って述べることはしません。近代前期全般を理解するうえでぜひ認識しておいてもらいたいと思ういくつかの事柄についてお話しします。

なお、できるだけたくさん関連の文献を読んでもらうことも、この授業の重要な目標です。

テキスト:

特になし。

参考書:

「読書リスト」を配布します。

【04】【93】西洋史概説 (4)

スペインから見たヨーロッパ近現代史

助教授 山 道 佳 子

授業科目の内容:

18世紀後半の啓蒙主義改革から、20世紀のフランコ独裁までのスペイン史を軸として、スペインという窓から見たヨーロッパ近現代史を概説します。各学期に4つ程度のテーマを設定し、それぞれのテーマに関して、スペイン史の基礎知識・他のヨーロッパ諸国との比較および関係・現在の歴史研究で注目されている視点や研究方法について講義します。それを通して、ヨーロッパにとって近代とは何か(春学期)、近代化の矛盾を受けて歴史はどのように展開したか(秋学期)を理解することを目標とします。

テキスト:

特に指定しない。講義資料はプリントを配布、あるいはネットで公開する。

参考書:

授業中に紹介する。

【04】【93】西洋史特殊 A (4)

1920年代の欧米諸国

講師 原 信 芳

授業科目の内容:

第一次世界大戦とロシア革命によって古き良きヨーロッパは終わりを告げる。1920年代は、大量生産、大量消費を特長とする大衆社会状況が進行した。この影響は政治、経済、文化あらゆる面におよんだ。その意味で1920年代は、現代史の出発点と言える。本講義は20年代の西ヨーロッパとアメリカ合衆国をとりあげ、現代史の意味を考えることを目標とする。全体として具体的授業内容は、経済を主、政治を従とするつもりである。したがって西洋史概説的知識は、あらかじめ持っていて欲しい。

テキスト:

一冊のテキストにしぼりません。講義の進行に応じてその都度、参考文献を指示します。とりあえず概説的なものとして、木村靖二『世界大戦と現代文化の開幕』(中央公論社)

参考書:

岩田規久男『インフレとデフレ』(講談社現代新書)『マクロ経済学を学ぶ』(ちくま新書)

【04】【93】西洋史特殊 B (4) 講師 北 田 よ志子

授業科目の内容:

16世紀後半から17世紀のスペインを、思想、宗教を通して考察します。政治から宗教まで広範な分野に関して多数の著作を残した文筆家を中心において、そこから視野を広げ、当時の社会の諸局面を見ていきます。

テキスト:

特に指定しません。必要に応じて授業で配付します。

【04】【93】西洋史特殊 C (4)

16Cドイツとスイスの宗教改革運動について

講師 野々瀬 浩 司

授業科目の内容:

16C初のドイツとスイスの歴史を中心に講義する。まず、当時の時代的背景について概観し、その次にルター、ツヴィングリ、ミュンツァー、再洗礼派などの神学思想に関して、カトリックと比較して、言及する。夏休み以後は、社会的な視点から、その思想がどのような形で受容され、どの階層に受け入れられ、どのような影響を社会や歴史に与えたのかについて、説明する。通時的な事件史よりも、共時的な社会史や思想史的な叙述になるので、ある程度内容上は難しいテーマとなるであろう。イギリスやフランスの宗教改革史については、あまり言及しない。

テキスト:

なし

授業中に資料を配布する。

参考書:

- ・野々瀬浩司『ドイツ農民戦争と宗教改革』(慶大出版会)
- ・ブリックレ『ドイツの宗教改革』(教文館)
- ・メラー『帝国都市と宗教改革』(教文館)
- ・渡辺伸『宗教改革と社会』(京大出版会)

【04】【93】西洋史特殊 D (4)

東欧とロシアの宗教と社会

講師 黒 川 知 文

授業科目の内容:

東欧、特にロシアの宗教と社会について歴史的に考察する。春学期には、東欧とロシアのユダヤ史について、秋学期にはロシア正教史について扱う。歴史映画や記録フィルムも上映する。

テキスト:

- ・拙著『ロシア社会とユダヤ人』(ヨルダン社、2003年)
- ・『ロシア・キリスト教史』(教文館、1999年)

参考書:

拙著『ユダヤ人迫害史』(教文館、1997年)

【04】【93】西洋史特殊 E (4)

Thucydides and Greek History

法学部 教授 マクリン、ニール B.

授業科目の内容:

We shall read the Histories of Thucydides, using a Japanese translation, and examine the questions that arise from this work concerning both the history of classical Greece and Thucydides' own purposes as an author. The class will be based on a close reading of the text, and will be student-led: that is, each week pairs of students will be each assigned a particular topic based on a particular part of the text, arguing for and against a particular interpretation of this; they must then research their position, and try to persuade the class to accept their conclusions the following week. These debates will be conducted in Japanese, but the teacher's comments will often be in English.

テキスト:

トゥークュディデース戦史; 久保正彰(翻訳); 岩波文庫 3 volumes

【04】【93】西洋史特殊 F (4)

近代フランスの国家と社会

講師 前 田 更 子

授業科目の内容:

18~20世紀のフランスを多角的に考察することを目的とします。前期は、概説的知識、通史の整理をした上で、近年の研究状況・成果をいくつかのトピックに沿って提示します。フランスを中心に話を進めますが、ヨーロッパ諸国の状況との比較の視点は忘れないようにします。後期は当該期フランスの、とくに文化的側面を教育・宗教問題を軸に論じる予定です。

テキスト：

テキストはありません。

参考書：

講義の進行にあわせて、随時、提示します。

【04】【93】西洋史特殊 G (4)

中世盛期・後期における情報文化 講師 赤江 雄一

授業科目の内容：

本講義の中心をなすトピックは、13世紀から15世紀の托鉢修道会の説教である。フランスコホ・ドミニコ会を代表とする托鉢修道会は、パリ大学を頂点とし地方の末端の修道院を底辺とする教育システムの整備、説教者を支援する様々なジャンルの著作の著述・大量筆写、多数の訓練された説教者の養成を通じて、言説の均質的大量流布を可能にしていた。この意味で、説教は15世紀中葉における活版印刷術導入に先立つ中世のマス・メディアだった。これを修道院文化、読書、写本の作成・筆写、図書館、説教執筆形式、ラテン語と俗語、声と文字、聞くことと理解などの様々な側面から検討することにより、また、その他の同時代の事象を検討することにより、中世盛期から後期における情報文化とコミュニケーションの問題を考察する。教科書は特に指定しないが、参考文献は必要に応じて講義の際に指示する。

【04】【93】西洋史特殊 H (4)

アメリカ合衆国のネイティヴィズム, 19世紀中期～20世紀初頭
講師 綾辺 昌朋

授業科目の内容：

John Higham, *Stangers in the Land: Patterns of American Nativism, 1860-1925* (New Brunswick: Rutgers University Press, 2002) を読みながら、合衆国のネイティヴィズムについて考えてゆきます。一応、上記のテキストを用いますが、この科目は「原典講読」的ではなく、必要に応じて講義を行うこととなります。ネイティヴィズムは「排外主義」などと訳されますが、単なる「外国人嫌い」や「人種・民族・宗教差別主義」とは異なります。授業では、Higham の定義するネイティヴィズムを理解し、それがいかにして合衆国内で表出されたかを具体例を通して学びます。

テキスト：

上記。できるかぎり、最新版を入手して下さい。インターネット (amazon.co.jp など) で3千円程度で購入できます。それが困難な場合は担当者に相談して下さい。

【04】【93】西洋史特殊 I (4)

東欧史 講師 川名 隆史

授業科目の内容：

ポーランドを中心に、東欧の歴史から興味深い(と思われる)様々なトピックを拾い出して解説して行きます。東欧は西欧の辺境でもなければ、得地のしれない異界でもありません。東と西の世界が様々な形で交流し合い、混淆して出来上がった独特の雰囲気を持った世界です。本講義では、宗教、民族、政治、その他多様な観点から、この東欧の歴史をひも解いてゆくつもりです。

テキスト：

特定のテキストは使用しません。最低限必要な材料は、配布するか Web 上に公開します。

参考書：

基本的に東欧に関する書物はすべて参考書と考えてください。その他必要があれば講義中に示します。

【04】【93】西洋史特殊 J (4)

私 発見とピエティスムス 講師 森 涼子

授業科目の内容：

今日われわれをとりまく多くの概念がそうであるように、私 という概念もまた時代とともに形成されてきたものである。現代人があたりまえだと考えている私、すなわち行動の主体、感情の主体

としての自己とは、歴史的にみて比較的新しい概念であり、18世紀の啓蒙主義の時代に一般的に広まったとされている。この歴史的生成物としての私については近年ドイツ語圏歴史人類学研究者のあいだで関心が高まっており、最近の研究では「近代の私 はピエティスムス運動において初めて目にみえる形をとるようになった」と評されている。本講義では近世ドイツにおけるピエティスムス運動の中で私 という主体がどのように発見され、成長していくのか、またその背景にはどのような時代体験があったのかを、一次史料にそくして明らかにしていきたい。

テキスト：

特に指定しない。参考資料は順次配布する。

参考書：

授業中に挙げる。

【04】西洋史研究会 (A)(3年)(2)

【04】西洋史研究会 (A)(4年)(2)

【93】西洋史研究会 (2) 教授 神田 順司

授業科目の内容：

1848年までのマルクスの思想発展を取り上げ、それを同時代のコンテクストに沿って歴史的批判的に考察する。研究会では下記文献の講読を前提に、関連テーマについての学生諸君の自主的研究にもとづいた報告が中心となる。三月前期の政治状況や社会問題、思想家集団や職人の結社などについて、できるだけ多面的に考察し、そのような歴史的社会的、思想史的ならびに運動史的文脈の中で、マルクスの思想的発展を位置づけ、その思想の虚構性と現実性について共に考えてゆきたい。

テキスト：

Shlomo Avineri, *The Social and Political Thought of Karl Marx*, Cambridge, London, New York: Cambridge University Press 1968.

参考書：

- ・良知 力『マルクスと批判者群像』平凡社 1971.
 - ・良知 力『資料ドイツ初期社会主義 義人同盟とヘーゲル左派』平凡社 1974.
 - ・神田順司「解説」、良知、広松編『ヘーゲル左派論叢』第2巻、御茶の水書房 2006年所収。
- 他の参考文献については、授業のなかで指示する。

【04】西洋史研究会 (B)(4年)(2)

【93】西洋史研究会 (2) 教授 清水 祐司

授業科目の内容：

(4年生)3年生の時の蓄積を踏まえて、発表や個別指導により卒業論文を執筆する。それと平行して近代を扱った英語文献を講読します。

テキスト：

J. Morrill(ed.), *The Impact of English Civil War*, London, 1991.

参考書：

最初の授業の時に「文献リスト」を配布します。

【04】西洋史研究会 (C)(3年)(2)

【04】西洋史研究会 (C)(4年)(2)

【93】西洋史研究会 (2) 助教授 神崎 忠昭

授業科目の内容：

よりよい卒業論文が書けることを目的にします。3年生には、テーマを絞って、文献検索のイロハを習い、「読むこと」を学び、発表することを経験してもらいます。それらを基礎にして、4年生には卒業論文を仕上げてもらいます。「青春のモニュメント」になるような卒業論文を期待しています。

【04】西洋史研究会 (D)(3年)(2)

【04】西洋史研究会 (D)(4年)(2)

【93】西洋史研究会 (2)

休講

-
- 【04】西洋史研究会 (E)(3年)(2)
【04】西洋史研究会 (E)(4年)(2)
【93】西洋史研究会 ・ (2) 教授 吉 武 憲 司
-

授業科目の内容：

授業中に Leah Shopkow, *History and Community: Norman Historical Writing in the Eleventh and Twelfth Centuries* (Washington, D.C., 1997) を講読しつつ、個人的に卒業論文作成のための指導を行います。

参考書：

R.H.C. デーヴィス 『ノルマン人』(刀水書房 1981年)

- 【04】西洋史研究会 (F)(3年)(2)
【04】西洋史研究会 (F)(4年)(2)
【93】西洋史研究会 ・ (2)
北米アメリカ史を中心とするリサーチ・セミナー
教授 大 森 雄 太 郎
-

授業科目の内容：

北米アメリカ史を中心とする、西洋史学専攻・学部上級のリサーチ・セミナーです。セミナー・マネージメントは下記のとおりです。

- 1) 徹底的にリサーチ・セミナーであって、いわゆる「文献講読」は行いません。ゼミから「文献講読」的な要素を完全に排除します。この点が他のゼミとは違っているので注意して下さい。なお、いわゆる「サブゼミ」も行いません。
- 2) メンバー各自が自分の扱う問題(テーマ)で書いて来るペーパーと、そのペーパーについてのディスカッションによって、セミナーの時間が成り立ちます。各自が自分に固有の勉強を持つことと、ディスカッションでの発言を通じて、他のメンバーの勉強にも貢献することが要求されます。他のメンバーのペーパーを事前に読んでいることを前提に、セミナーはいきなりディスカッションから始まります。
- 3) (2)のペーパーを書くための下作業として、3年生には各自の扱う問題での文献リストの提出を義務づけます。3年生の1月に、このリストに基づいて個別の口頭試験を行います。
- 4) (2)のディスカッションを支える方策として、他のメンバーのペーパーに対するコメントの提出を義務づけます。この点での最低限の義務は、全ペーパーの約四分の一程度に対してコメントを書く事です。コメントは事前にペーパー著者と大森に送ることになっております。E-メールを利用します。
- 5) 成績評価基準は前もって大森が示します。この点は完全にガラス張りです。従って、成績はメンバー各自が選び取るものになります(その意味では鏡張り)。更に、学事センターに成績を提出する前に、成績評価案をメンバーに示して、クレームを受け付けます。クレームが正当であれば、成績が変わります。なお、出欠はとりません。本来なすべきことの外見だけで、なんらかの成績が保証されるのは合理的ではないと考えるからです。

テキスト：

ありません。

参考書：

一定のものはありません。

- 【04】西洋史研究会 (G)(3年)(2)
近代ヨーロッパ政治文化史(スペインと周辺諸国)
助教授 山 道 佳 子
-

授業科目の内容：

春学期には近代ヨーロッパ政治文化史を学ぶ上での基本文献の購読を行います。

秋学期には各自の卒論のテーマ決定に向けて、個別テーマによる報告とそれをもとにした議論を中心に進めます。

テキスト：

開講時に履修者と相談の上決定する

参考書：

授業中に指示する

民族学考古学専攻

必修科目

【04】【93】民族学考古学特殊 A (4)

休講

【04】【93】民族学考古学特殊 B (4)

休講

【04】【93】民族学考古学特殊 C (4)

紅海地域の考古学

講師 徳永里砂

授業科目の内容：

アラビア半島とエジプトを中心に、紅海地域の紀元前1千年紀初頭から初期イスラーム時代を考古学的視点から概観する。中近東における考古学的研究の方法と調査法の具体例を示すことがこの授業の目的である。毎回、画像を用い、ヴィジュアルな形で授業を進める。

講義は地域毎（例：南アラビア、エジプト・東部砂漠、シナイ半島）に進める。それぞれの歴史を他地域との関連を踏まえつつ考古学的に概観した後、研究史と近年の研究動向を紹介する。中近東の考古資料には、膨大な数の碑文史料が含まれ、それらは歴史研究の中で重要な役割を果たしている。よって、碑文史料を用いた研究については、特に詳しく取り上げることとする。

また、考古学はフィールドワークを通じて、調査地の現代社会と密接なかかわりを持つ分野である。本講義では、研究を行うにあたって理解しておくべき中東地域の現状についても触れる予定である。

テキスト：

使用しない。

参考書：

講義にて適宜紹介する。

【04】【93】民族学考古学特殊 D (4) 助教授 佐藤孝雄

動物考古学概論

講師 姉崎智子

授業科目の内容：

遺跡から出土する動物遺体から過去の人々の活動や行為、心性を読み解く「動物考古学 (Zooarchaeology)」の方法論を概説する。主に前期を資料の採集や同定・分析法の説明に、後期をそれらを経て展開される個別・具体的な調査・研究事例の紹介に当てたい。

講義に際しては、実物を含めた標本資料と画像を数多く提示し、また時折、実習的な内容を盛り込むことも考えている。とすれば、「ゴミ扱い」されかねない骨や貝殻も、扱い次第では貴重な文化財となり得る。この点を理解してもらうことが本講義の狙いである。

テキスト：

使用しない。

参考書：

講義中に適宜指示する。

【04】【93】民族学考古学特殊 E (4)

歴史人類学的景観史の構築とジオ・アーケオロジーの可能性

助教授 山口 徹

授業科目の内容：

オセアニア（南太平洋）の島々はしばしば「楽園」として語られる。しかし、今見るその景観は、島に備わる自然の営力と、人間の到来以降数千年のあいだに加えられてきた人為的変換の産物である。講義ではオセアニアの島嶼世界を紹介しながら、自然と人間の狭間ともいえるこうした現象の具体例に焦点をあててゆく。また、考古学・自然地理学・地形学・民族誌・人文主義地理学の多分野に渡る成果や議論を通して、「生態史」の視点から空間・場所・景観といったテーマにアプローチしたい。

参考書：

講義にて適宜指示する。

【04】【93】民族学考古学特殊 F (4)

比べ考える

斯道文庫 助教授 大沼晴暉

授業科目の内容：

日本の民俗学の中で、一見傍流に見える南方熊楠・渋沢敬三・山中共古の著作を取上げ、皆さんにレポートしてもらいながら、民俗・博物の諸問題や面白さを考えてゆこうと思います。その前にガイドンとして、日本の民俗学の歴史について話すつもりです。

また継続して宮本常一「民俗学への旅」を読んでゆきます。

【04】【93】民族学考古学特殊 G (4)

縄文時代・弥生時代資料の分析方法

助教授 安藤広道

授業科目の内容：

主に慶應義塾所蔵資料を用いて、縄文時代・弥生時代の土器や石器などの基礎的な分析方法を解説する。

テキスト：

使用しない。

参考書：

必要に応じて講義の中で紹介する。

【04】【93】民族学考古学特殊 H (4)

遺跡・遺物の社会史

助教授(有期) 櫻井準也

授業科目の内容：

遺跡や遺物に関する記述は古代の文献から存在する。近世以降、遺跡や遺物に関する記述は急激に増加するが、同時に遺物が寺社に祀られたり、遺跡や遺物が土地の伝説と結びつく現象も生じている。そして、近代考古学成立以降も遺跡や遺物は考古学の研究対象であるだけでなく、陵墓問題、観光や村おこしへの利用など常に社会的存在である。本講義では、当時の社会と遺跡・遺物の関係を先史時代から現代までたどりながら、遺跡・遺物と社会の関係について考えていきたい。

授業は基本的に講義形式で行うが、履修者の人数等によって文献講読や現地調査を行うことも考えている。

テキスト：

使用しない

参考書：

授業内で指示する

【04】【93】民族学考古学特殊 I (4)

歴史考古学と物質文化研究

講師 朽木 量

授業科目の内容：

近年、物質文化への注目が高まっている。本講義では人文・社会科学と比較しながら理論考古学及び歴史考古学の流れを理解し、それらを物質文化研究という新たな形に発展させていきたいと考えている。より具体的なテーマとしては、近現代考古学や欧米の Material Culture Studies を取りあげ、モノと人の関わりを多角的に論じていく。モノから生活文化をいかに読むかという問題は考古学・民俗学・民族学・民具学・社会学など様々な学問で論じられてきた。本講義ではこうした諸学の成果を踏まえつつ、我々の身の回りのモノ（植木鉢やランプなどの生活財、家の構造など）の実態を具体的に検討する。とすれば定式化しがちな考古学や民俗学の解釈を物質文化研究という形で「脱構築」していきたいと考えている。また、文化財の活用とそれに基づく地域の文化政策のあり方についても触れる。

テキスト：

特に指定しない

参考書：

詳細なリストを初回授業時に提示する

【04】【93】民族学考古学特殊 J(4)

古代メソポタミアの言語と歴史 講師 依田 泉

授業科目の内容：

古代西アジアのメソポタミアに焦点を当て、歴史を概観した後に、その地域から出土した文字資料を中心として、その性格と内容を検討する。予定として、次の分野を扱う。

- 1) 楔形文字の成立
- 2) 行政経済文書
- 3) 裁判記録と「法律集(または、法典)」
- 4) 文学テキスト
- 5) 支配者による碑文と「歴史書」
- 6) その他の楔形文字資料

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

参考となる書籍および論文については、随時提示する。

【04】【93】民族学考古学特殊 K(4)「変化」の研究法：中南米の歴史と文化を通して
助手(有期) 井 関 睦 美

授業科目の内容：

中南米の歴史には、一般に先スペイン期(マヤ、アステカ、インカ文明など)、スペインとその他ヨーロッパ諸国による植民地時代、独立後～現代という、大きく分けて3つの時代区分があります。本講義では、先スペイン期と植民地時代をおもなフィールドとし、さまざまな文化・社会現象や制度など(例：宗教、政治、交易、生産・消費活動)における歴史的な変化を考察していきます。近年の認知科学に関連する分野では、「変化」とは、人々がいかにか歴史や環境を経験し消費してきたかということの現われである、という考え方があります。そして人々の経験や消費は、言語、図像、物質文化、祝祭などの表現媒体を通して分析できると考えられます。このような方法論に基づき、具体的な事例における「人々の経験と変化の過程」というものに焦点を当てながら、中南米の歴史と文化について考えていきたいと思えます。

参考書：

授業内に適宜指示します。

【04】【93】史学概論(4)

教授 神田 順 司

西洋史学専攻参照

【04】民族学考古学原典講読(2)**【93】原典講読(2)** [春] 助教授 佐藤 孝 雄
[秋] 助教授 山口 徹

授業科目の内容：

主に、考古学の基本に関わる英文の文献を講読する。学術英語を読みこなせるよう英語力の向上をはかるとともに、考古学・民族学の基本概念について日英両語で理解できるようになることを目指す。履修者全員が毎回の分を読んだ上で授業に臨んでもらう。中型以上の辞書を座右に用意すること。

テキスト：

授業内において指示する

参考書：

授業内において指示する

【04】【93】民族学考古学実習(2)助教授 佐藤 孝 雄
助教授 山口 徹
助教授 安藤 広 道

授業科目の内容：

民族学考古学の研究に必要な不可欠な物質資料の記録、取り扱いの実際を室内外で体験してもらおう。欠席・遅刻は許されない。また、な

るべく2年時に履修を済ませること。

【04】【93】考古学(4)

教授 阿部 祥 人

授業科目の内容：

考古学の基礎的な講義を行う。

特に、日本列島における先史考古学な研究の流れや特殊性に触れる。また、自然界におけるヒトの歴史の研究という視点から、この分野の研究の枠組みや方法について述べる。

テキスト：

鈴木公雄「考古学入門」東京大学出版会

【04】【93】民族学(4)

助教授 山口 徹

授業科目の内容：

民族学は、人間や文化の総合的な理解を求める学問である。前期は、民族学と関連諸学とのつながりに目配りしながら、文化研究における「歴史」の取り扱いについて複数のアプローチを解説する。次いで後期は、さまざまな事象の背後にある「目に見えないもの」への視座として「文化の諸理論」を解説する。

参考書：

講義にて適宜指示する。

【04】人類学概論(4)**【93】人類学(4)**

人類進化学概説

教授 高山 博

授業科目の内容：

ヒト(Homo sapiens)の進化について、実際の標本(骨格標本、化石模型、生体など)を用いて考えてゆく。講義は隔年で、「人体各器官から見たヒトの成り立ち」と、「化石人類の発見史から見たヒトの進化」とを行っている。本年度は、後者の「化石人類の発見史から見たヒトの進化」をテーマに講義を進める。化石人類(遺骨・遺物)の発見を歴史的に概観しながら、化石とその進化的な解釈について比較・検討していく。霊長目ヒト(科・属・種)の生物学的位置と特異性について学ぶ講義としたい。

テキスト：

指定しません。

参考書：

指定しません。適宜プリントを配布します。

【04】【93】民族学考古学研究法(4)[春] 助教授 山口 徹
[秋] 助教授 安藤 広 道

授業科目の内容：

〔春学期〕(山口担当)

文化研究におけるフィールドワークの方法論はB. マリノフスキーにはじまる。現地に長期間滞在し、そこに生きる人々の生活に密着しながら調査を進める参与観察法である。ところが、歴史科学のフィールドは、ものごとが起きるまさにその現場ではない。遺跡や遺物といった過去の文化を対象とする考古学は、その痕跡を残した過去の人々との直接的なコミュニケーションを望めないものである。それゆえに、ケンブリッジ大学の高名な考古学者I. ホダーは、「移植ゴテのひとかきから我われの解釈が始まる」と注意をうながす。考古学のフィールドワークに従事するものは、独断的な解釈に陥らないよう文化人類学以上に注意を払わなければならないということだ。

そのためには、発掘現場だけでなく、その現場を取り囲む広い範囲に足を運び、地形や動植物相の観察、古環境を復元するための自然科学的分析、史料の活用、現在そこに生きる人びととの対話を通して、さまざまな情報を蓄積していかなければならない。こうして初めて、自らの研究対象を解釈するための「分厚いコンテキスト」が手に入るのである。本講座では、そのプラクティスとして、三田キャンパス空間を対象にした観察と対話の調査を実施し、歴史科学のためのフィールドワーク方法論を受講生とともに構築していきたい。また塾内外で活躍する多様な分野の「フィールドワーカーたち」を招

聘し、その力仕事ぶりをうかがう回を設ける予定である。

〔秋学期〕(安藤担当)

我々の身の周りは、過去の人々の諸活動の物質的痕跡に溢れている。これらは、広い意味で考古学的な資料とすることができるものである。この講義では、こうした過去の情報をもつ物質的痕跡を見つけ出し、その分析・考察を行うことで、考古学の基本的な方法を学んでもらいたいと考えている。併せて、現代社会において、こうした過去の物質的痕跡や「歴史」の存在を認識することの意義についても考えて欲しい。

テキスト：

使用しない。

参考書：

〔春学期〕

適宜，紹介する。

〔秋学期〕

- ・鈴木公雄 1988 『考古学入門』東京大学出版会
- ・鈴木公雄 2005 『考古学はどんな学問か』東京大学出版会

【04】民族学考古学研究会 (A)(3年)(2)

【04】民族学考古学研究会 (A)(4年)(2)

【93】民族学考古学研究会 ・ (2)

教授 阿部祥人

授業科目の内容：

4年生に関しては卒業論文の指導を行う。3年生以下については、各自の目ざす専門分野で特に注目すべき内容や興味のある分析方法などを含む最近の論文を取り上げてもらい、それに対するコメント等を土台として演習を行う。

【04】民族学考古学研究会 (B)(3年)(2)

【04】民族学考古学研究会 (B)(4年)(2)

【93】民族学考古学研究会 ・ (2)

助教授 山口 徹

授業科目の内容：

卒業論文に向けた実践的な研究指導を軸に据える。受講生にとって文化研究にかかわる多様なテーマの設定が可能だが、研究会における議論のための共通基盤として、フィールドワーク、ブックワーク、調査報告、歴史研究の要素が各人に求められる。報告に際しては、フィールドで自らが記録した写真等の映像資料を提示することが望ましい。

【04】民族学考古学研究会 (C)(3年)(2)

【04】民族学考古学研究会 (C)(4年)(2)

【93】民族学考古学研究会 ・ (2)

助教授 佐藤孝雄

授業科目の内容：

4年生に対しては卒業論文作成に向けての指導を行う。3年生以下の諸君には、卒業論文で扱うテーマを絞り込んでもらうために、それぞれ関心の分野の先行研究を整理・批判する作業を課す。履修者には順次、自らの調査・研究成果を報告してもらう。また、毎回各人の発表を受け、皆で討論を行う形をとるので、積極的な発言を期待する。

【04】民族学考古学研究会 (D)(3年)(2)

【04】民族学考古学研究会 (D)(4年)(2)

【93】民族学考古学研究会 ・ (2)

休講

【04】民族学考古学研究会 (E)(3年)(2)

【04】民族学考古学研究会 (E)(4年)(2)

【93】民族学考古学研究会 ・ (2)

助教授 安藤 広道

授業科目の内容：

2年生：それぞれの興味・関心を考慮した課題を与える。1年間そ

の課題に取り組み、成果を発表してもらう。

3年生：それぞれの興味・関心に基づき、卒論を視野に入れた課題を自ら設定して取り組み、やはり成果発表をしてもらう。

4年生：主に卒業論文の指導をする。

テキスト：

使用しない。

参考書：

必要に応じて講義の中で紹介する。

国文学専攻

必修科目

【04】国語学 (2)(春学期)

【93】国語学 A (2)(春学期)

日本語の文字・表記

講師 屋名池 誠

授業科目の内容：

日本語の文字・表記は世界的に見て、もっとも複雑な部類に属するといえます。

本授業では、多様性に富んだ日本語の実態を検討してゆくことを通して、人類の言語における文字の位置・役割という本質的な問題を考える手がかりをえることをめざします。

前期は、日本語を例として文字・表記の一般的な問題を概観します。

テキスト：

使用しません。

参考書：

- ・樺島忠夫『日本の文字』(岩波新書 品切)
- ・屋名池誠『横書き登場』(岩波新書)

【04】国語学 (2)(秋学期)

【93】国語学 B (2)(秋学期)

日本語の文字・表記

講師 屋名池 誠

授業科目の内容：

日本語の文字・表記は世界的に見て、もっとも複雑な部類に属するといえます。

本授業では、多様性に富んだ日本語の実態を検討してゆくことを通して、人類の言語における文字の位置・役割という本質的な問題を考える手がかりをえることをめざします。

後期は、前期に学んだことをふまえ、日本語の文字・表記の各論をあつかいます。

テキスト：

使用しません。

参考書：

- ・樺島忠夫『日本の文字』(岩波新書 品切)
- ・屋名池誠『横書き登場』(岩波新書)

【04】【93】国文学 (4)

『源氏物語』第一部の世界

講師 原岡 文子

授業科目の内容：

『源氏物語』の正篇第一部の世界について、その方法、表現、思想をめぐって考察します。具体的には、若紫の巻を中心に、紫の上との出会い、光源氏の人生の始発の構造にまず注目しながら、物語世界の奥行きを顧み、その魅力の一端を読み解く予定です。

テキスト：

玉上琢弥訳注『源氏物語』(角川ソフィア文庫)

参考書：

阿部秋生他校注『源氏物語』(新編日本古典文学全集(小学館))など。

【04】【93】国文学 (4)

日本芸能の発生と展開

講師 伊藤 好英

授業科目の内容：

折口信夫の芸能学の理論を通じて、日本とその周辺の国々の芸能をめぐる民俗現象を比較・考察する。講義の柱は次の通り。

折口信夫の芸能学がどのような特徴を持っているものであるかを考える。

折口の「まれびと」と「よりしろ」の理論を理解し、日本の芸能民俗の中にその現象を具体的に探る。

近隣諸国である韓国・中国の民俗の中に「まれびと」と「よりしろ」の現象を具体的に探る。

テキスト：

特に定めず、配布資料を活用する。

参考書：

折口信夫『日本芸能史六講』(講談社学術文庫)、折口信夫『古代研究』(中公クラシック、中央公論新社)

【04】【93】国文学 (4)

催馬楽は歩く

教授 藤原 茂樹

授業科目の内容：

催馬楽は、遠く明日香時代や奈良の頃の人々の感情を伝えて平安に至る。もともと庶民の口遊んでいた歌が、いつのまにが、雅楽曲に乗せて、気がつくやと天皇の御前で音楽の名人たちやのど自慢の「声よき人」(源氏物語明石巻)「唱歌の人」(若葉)の愛好する歌へと変化した。見えない記録をさがしながらの歌の旅。

テキスト：

古典大系 古代歌謡集(事前に購入しなくともよい)

参考書：

『歌謡』(角川書店)新編日本古典文学全集『神楽催馬楽梁塵称抄』

【04】【93】国文学 (4)

説話集の世界

教授 岩松 研吉郎

授業科目の内容：

鎌倉期の小説話集『今物語』を通読して、他の説話集はもとより、和歌・連歌・物語・説経等と交錯する、その文芸世界のしくみ・しかけの特徴をみてゆく。

テキスト：

三木紀人(訳注)『今物語』(講談社学術文庫)

参考書：

上記テキスト参照の他、講義の中で逐次しめす。

【04】【93】国文学 (4)

阿仏尼の作品を読む

講師 田 淵 句美子

授業科目の内容：

鎌倉期の歌人である阿仏尼(安嘉門院四条)の作品を講読する。

物語的な日記である『うたたね』、娘への手紙である『乳母のふみ』、鎌倉への旅などを記す『十六夜日記』、及び和歌作品を読んで、鎌倉期の女房の文学と意識について考え、新たな読みと文学史的位置づけを試みる。

テキスト：

『阿佛尼全集 増補版』築瀬一雄編、風間書房、2520円

参考書：

講義中に指示する。

【04】【93】国文学 (4)

物語の成長

教授 石川 透

授業科目の内容：

春学期には、日本の物語作品の大きな特徴である「物語の成長」について講義し、秋学期には、その具体的な検討として、慶応義塾図書館が所蔵する御伽草子を活字本で講読し、挿絵を鑑賞する。

テキスト：

授業時に指示する。

参考書：

授業時に指示する。

【04】【93】国文学 (4)

教授 川村 晃生

授業科目の内容：

人はどう生きたか、そして私たちはどう生きるか。かつて日本人はどう生きたのだろうか。また私たちは、それから何を学ぶことができるのだろうか。この講義では、日本の文学者(古典、近代問わず)を中心として、さまざまな生のありようや思想を学び、この混迷の時代を生きる私たちの指標を探してみたい。話題はいきおい、過度に工

業化し、文明化した近・現代社会や、戦争と無関係ではいられなくなった現代的状況への批判にも及ぶので、しばしば文学の域を脱することがあるが、あらかじめ了解させられたい。また講義は、講者のみによって成立するのではなく、受講者の意志をも反映させたいと考える立場に立つので、一年間の講義計画の見通しは全く立っていない。

テキスト：

プリントを配布する。

参考書：

必要に応じてふれる。

【04】【93】国文学 (4)

ジェンダー、セクシュアリティの日本近代文学

講師 小平 麻衣子

授業科目の内容：

近代小説とジェンダー規範は、どのような関係をとっているのだろうか。ジェンダー論は、抑圧された女性の救出だけを目的としているわけではない。ジェンダー交差的なパフォーマンスや、最近のガールズラブ小説にも似たサブカルチャーなどにも目を配りながら、ジェンダー、セクシュアリティの規範の形成過程や、批判の可能性について論じる。あわせて、近代小説を分析する際の基本的な方法についても学ぶ。

テキスト：

太宰治「女生徒」(新潮文庫)、川端康成「古都」(新潮文庫)、他は授業中に指示する。

参考書：

授業内に指示する。

【04】【93】国文学 (4)

遊里と芸文

講師 渡辺 憲司

授業科目の内容：

江戸時代の遊里は、江戸の文化の基層であった。そこに生まれた文化は、時代の先端文化であり、庶民の憧憬でもあった。又一方、その暴力的な構造は、人権を抑圧し多くの悲惨な状況を生み出した。遊里の状況を直視しながら、そこに生まれた文化を、殊に江戸小説(仮名草子・浮世草子・洒落本・黄表紙・人情本)などとの関連から見ていきたい。

テキスト：

授業時プリントで配布。

参考書：

- ・『江戸文学 33号 特集江戸文学と遊里』(ペリかん社・2005年・監修 渡辺憲司)
- ・『江戸三〇〇年 吉原のしきたり』(青春出版社・2004年・監修 渡辺憲司)
- ・『江戸いろざと図譜』(ちくま文庫・2004年・筑摩書房)

【04】【93】国文学 (4)

森鷗外 vs. 夏目漱石

教授 松村 友視

授業科目の内容：

二大文豪として併称される森鷗外と夏目漱石は、ともにヨーロッパ留学体験をもち、学者でありつつ作家としても高度な達成を示した点など、類似点が少ない一方、西洋近代への認識や同時代社会との位相の違いなど、相違点も顕著である。類似と相違の両面において、両者の間には近代日本の抱える本質的な問題が横たわっていると一言してもよい。

本講義では、いくつかの観点から両者を相互反照的にとらえかえすことで、それぞれの文学世界の位相や、時代との関わりとその意味を考察する。その意味で、ここに言う「vs.」(versus)は、単純な比較論や優劣論を意味しない。

テキスト：

コピー資料を配布する

参考書：

講義中に示す

【04】【93】国文学

教授 佐藤 道生

授業科目の内容：

『和漢朗詠集』は平安時代中期、藤原公任によって編纂された上下二巻から成る詩歌のアンソロジーである。日本の伝統的美意識を具現する書として近代に至るまで広く愛読された。授業では本書の内包する様々な問題(例えば項目の立て方、依拠資料、書式など)について詳細に考察を加え、新たな視点から文学史上の位置づけを試みたい。

テキスト：

こちらで用意する。

参考書：

教室で適宜指示する。

【04】【93】国文学 (4)

「坊っちゃん」研究

講師 宗像 和重

授業科目の内容：

夏目漱石の「坊っちゃん」を取りあげる。この小説は、近代文学の入門書としてよく知られているが、それだけに一般には、子供むけの他愛ないユーモア小説と見られていないだろうか。しかしこの小説には、登場する人物像はもとより、語り手や作中時間の問題、いわゆるモデル問題、また肉筆原稿と活字印刷の問題など、近代の文学テクストを読み解くための手がかりが凝縮されている。それらを検討していくことで、近代文学研究のさまざまな方法を考えていきたい。

テキスト：

教室で指示します。

参考書：

教室で指示します。

【04】【93】国文学 (4)

休講

【04】【93】国文学 (4)

休講

【04】【93】国文学 (4)

休講

【04】国文学史 (2)(春学期)

【93】国文学史 A (2)(春学期)

環境文学史

教授 川村 晃生

授業科目の内容：

古典文学から近代文学に至る各時代の文学作品は、おのずとそれぞれの時代の自然環境を、意識的にまた無意識的に映し出している。そうした文学作品の内容に触れつつ、また、現代社会が抱える環境問題自体にも触れたいし、さらに受講者の意志を反映させるような形で講義をすすめていきたいので、年間の講義計画の見通しは、全く立っていない。

テキスト：

なし

参考書：

必要に応じてふれる。

【04】国文学史 (2)(秋学期)

【93】国文学史 B (2)(秋学期)

教授 川村 晃生

授業科目の内容：

国文学史 A (春学期)の続きです。

テキスト：

なし

参考書：
必要に応じてふれる。

【04】国文学史 (2)(秋学期)

【93】国文学史 C (2)(秋学期)

日本文学の黎明

教授 藤原茂樹

授業科目の内容：

古事記(中・下巻)を主として読み、物語にかかわる他文献を併読しながら、古代文学の起こりと展開の様相を一瞥する。

テキスト：

市販されている『古事記』のいずれか一冊。(岩波古典文学大系・岩波文庫・小学館新編日本古典文学全集・新潮日本古典集成など)

参考書：

古事記事典

【04】国文学史 (2)(春学期)

【93】国文学史 D (2)(春学期)

近代文学の成立とその背景

教授 松村友視

授業科目の内容：

明治以降の急激な近代化を様々なレベルで反映することによって成立した近代文学は、同時代のありようと密接に関わる錯綜した性格をもっている。このような観点に立ち、同時代の社会状況・文化状況との関わりを視野に入れながら、近代文学成立の経緯とその意味を考える。

テキスト：

コピー資料を配布する。

参考書：

講義中に示す。

【04】国文学史 (2)(春学期)

【93】国文学史 E (2)(春学期)

風流(フリウ)の文芸史

教授 岩松研吉郎

授業科目の内容：

ムラとミヤコの共同体的文芸から都市社会のそれへの移行が中世文芸の世界だ。その出発と展開を、「風流=ミサラ・ミヤビ」が変容して、「風流=フリウ」の確立にいたる過程でみてゆく。あわせて、江戸期以降の「風流=フウリュウ」について簡略にのべる。

テキスト：

講義の中で逐次しめす。一部は資料コピーをくばる。

参考書：

講義の中であげてゆく。

【04】国文学史 (2)(秋学期)

【93】国文学史 F (2)(秋学期)

菅原道真と天神の文芸史

教授 岩松研吉郎

授業科目の内容：

古代後期から中世、江戸期まで、菅原道真=天神は、文人、怨霊、神(仏)として、多様にいきつづけてきた。詩文・和歌・説話・縁起・舞台芸能等々に、この「英雄」がどうあらわれるかを通観し、中世を中心とした信仰と文芸の歴史の一面をのべる。

テキスト：

講義の中で逐次しめす。一部は資料コピーをくばる。

参考書：

講義の中であげてゆく。

【04】【93】国文学演習 (2)

万葉歌の素材と信仰の研究

教授 藤原茂樹

授業科目の内容：

万葉歌から歌の素材をひとつ選び、扱われ方の類型や特徴を見出し、その属性にまつわる文学性や信仰的性格を見極める。

テキスト：

授業内指示。(一例『萬葉集』塙書房。新編日本古典文学全集『万葉集』など)

参考書：

池田弥三郎『日本文学の素材』『日本人の心の傾き』

【04】【93】国文学演習 (2)

室町物語講読

教授 石川透

授業科目の内容：

約四百編現存する室町物語(御伽草子)、あるいは、その周辺の作品のうち、二編以上の作品を、影印版で講読する。

テキスト：

最初の授業時に指示する

【04】【93】国文学演習 (2)

中世文学評論読解

教授 岩松研吉郎

授業科目の内容：

近代以前の文学批評・文芸論は、和歌についてとりわけ蓄積されてきた。いわゆる「歌学」「歌論」である。これを丁寧によみとくことは、古典文芸とその場の理解のためだけでなく、古典研究法の体得にも有益な筈だ。そこで、歌学・歌論史の概観をおこなった上で、具体的に数種のテキストから適宜の章段をえらんで、調査・分析・発表・討論をゼミナール形式ですすめる。

テキスト：

逐次影印等を配布する。(今年度は院政期の歌合数種の和歌・難陳・判からよんでいって、『無名抄』『後鳥羽院口伝』等を参照してすすめる)

参考書：

初回に指示する。

【04】【93】国文学演習 (2)

教授 川村晃生

授業科目の内容：

自然環境・戦争と平和・人権と差別など、現代社会が抱える諸問題を対象として、日本文学その他を考察資料に用いる。演習の進め方については、開講時に相談したいが、それまでにテーマを考えておいてほしい。

テキスト：

なし

参考書：

必要に応じてふれる。

【04】【93】国文学演習 (2)

夏目漱石『三四郎』の注釈と分析

教授 松村友視

授業科目の内容：

夏目漱石『三四郎』(明治42年)を対象に取りあげ、詳細な注釈作業や、同時代の文化状況・社会状況の調査・考察を通じて、作品を総合的に分析する。具体的には、担当グループごとの共同作業によって、本文校異・注釈・事実関係の調査・先行研究の整理・総合分析を行う。

テキスト：

岩波文庫『三四郎』

参考書：

開講時に示す。

【04】【93】国文学演習 (2)

教授 佐藤道生

授業科目の内容：

『詩序集』(宮内庁書陵部蔵。平安後期の詩序四十六篇を収める)を講読する。詩序は詩宴開催の趣旨を叙べる文体であり、その多くは大学寮の紀伝道に学んだ者が執筆した。絢爛たる四六駢儷文によって書かれ、詩宴に於いては詩の披講に先立って読み上げられた。当時の公家日記や説話集やに關しても明らかのように、その出来映え

によっては文人としての名声が得られる絶好の機会であったから、序者は自らの持てる出来得るかぎり駆使してその執筆に当たった。詩序はまさに王朝漢文学の真髄と言っても言い過ぎではない。授業では履修者の会読というかたちで本書を読み進め、詩序の文学的意義を考察する。

テキスト：
こちらで用意する。

参考書：
教室で適宜指示する。

【04】【93】国語学演習（2）
（春学期）節用集の世界（秋学期）近現代国語辞典の諸相
教授 関場 武

授業科目の内容：
春学期は、江戸～明治時代にかけて大流行した用字用語辞典「節用集」を取り上げ、その成立や内容、流伝の様相を具に眺め、周辺の辞書・字典類との関係を探る。秋学期は、明治初期の辞典類から入り、前代の辞書や西欧の辞典の影響を考察するとともに、「言海」に始まる近代辞書の系譜を探る。

テキスト：
原本や翻刻本より採ったコピーを適宜使用。

参考書：
その都度適宜紹介する。

【04】【93】国文学研究会（2）
古代人の心とことばの研究 教授 藤原茂樹

授業科目の内容：
古代の文学・民俗

テキスト：
秘儀の島・古代研究（第1回目の授業で指示）

参考書：
池田弥三郎著作集

【04】【93】国文学研究会（2） 教授 川村晃生

授業科目の内容：
古典文学、近代文学の別を問わず、文学作品の中に見られる自然環境、人権・差別、戦争・平和といった、いわば人間や社会の根本的な問題をとり上げ、そうした問題に先人たちがどう関わってきたか、またそれについて私たちが何を考えるべきなのか、といった点を中心的なテーマとして論文を書かれることに共感します。

【04】【93】国文学研究会（2） 教授 佐藤道生

授業科目の内容：
卒業論文指導。諸芸道を含め、古典文化に関わるテーマで執筆しようとする者を対象とする。論文指導は授業時間外に個別に行ない、授業では文献資料の調査方法について教授する。

【04】【93】国文学研究会（2）
卒業論文ゼミナール・日本中世文学
教授 岩松研吉郎

授業科目の内容：
院政期から、鎌倉・南北朝・室町時代まで、つまり中世の諸作家・諸テキスト・諸テーマについて論文をかこうとおもう学生のための研究会であるが、近現代等のテーマでも、言語文化としての分析をおこなうものならかわまない。
はじめの時間に、すでによんだテキスト、参考文献の提示・報告をもとめるから準備しておくこと。
なお、論文の作成のための指導は、何回かの発表・討論をのぞき、原則として時間外の面接です。授業時間には、中世のテキストひとつないし数篇の全部または一部を演習形式で、学年末までよみすすめる（何をよむかは、参加者の希望をきいてきめる）。夏の合宿

では、他にもひとつテキストをよむ。

【04】【93】国文学研究会（2）
卒業論文指導 教授 石川 透

授業科目の内容：
古典文学を中心に論文を書こうとする者を対象とする。これら以外では、絵巻物等の絵画資料と文学との関わり、昔話等の伝承資料と文学との関わり、古典と現代文化との関わり、等の異文化と文学との接点について書こうとする者も対象とする。

【04】【93】国文学研究会（2） 教授 関場 武

授業科目の内容：
卒業論文作成指導。学生諸君が自己の責任に於いて選択したテーマに関する論文について、助言と指導を行う。担当者の守備範囲は、本来、中世・近世文芸、児童文学、日本語学であるが、近年専ら行っている辞書史の研究がそうであるように、時代や分野には拘泥しない。広く日本語・日本文化に関わるものであるならば、都市論であろうとオペラ・オペレッタ・ミュージカル、比較文化、漫画、挿絵、服飾、食物、本草、科学史であろうと、真面目に取り組んでくれるのなら、こだわらない。但し最新の文芸理論、それに古代学・折口流については、指導できるほど読み切れたり理解できたりしていないので、ご遠慮願いたい。

【04】【93】国文学研究会（2）
近・現代の文学・文化を対象とする卒業論文指導
教授 松村友視

授業科目の内容：
テーマの決定、資料調査、参考文献の整理、研究方法の選択、論の構築等、卒業論文作成にいたるまでの基本的な手続きについて、各自のテーマ方法を相互に検討しながら学んでいく場としたい。

【04】国文学原典講読（A）（2）〔春〕教授 藤原茂樹
【93】原典講読 A（2）〔秋〕教授 佐藤道生

〔春学期〕 万葉集講読

授業科目の内容：
万葉集巻十六の歌について調べてみる。ことばや歌の意味や託されているこころもちを理解できるように、辞書や注釈書を調べて、見解をもてるようにする。

テキスト：
授業内で指示

〔秋学期〕

授業科目の内容：
平安・鎌倉期の文学作品をいくつか取り上げ、古写本を用いて講読する。毎回、翻字の小テストを行うことは例年どおり。

テキスト：
授業内指示
参考書：
授業内指示

【04】国文学原典講読（B）（2）〔春〕教授 佐藤道生
【93】原典講読 B（2）〔秋〕教授 松村友視

〔春学期〕

授業科目の内容：
平安・鎌倉期の文学作品をいくつか取り上げ、古写本を用いて講読する。毎回、翻字の小テストを行うことは例年どおり。

テキスト：
授業内指示
参考書：
授業内指示

選 択 科 目

〔秋学期〕 芥川龍之介の短編小説

授業科目の内容：

芥川龍之介の短編小説に詳細な注釈・分析をほどこす作業を通じて、文学研究の基本的な方法・手続きを確認する。対象作品および担当分担については開講時に指示・決定する。

テキスト：

開講時に指示する。

参考書：

開講時に示す。

【04】国文学原典講読 C(2) [春] 教授 松村友視

【93】原典講読 C(2) [秋] 教授 石川透

〔春学期〕 芥川龍之介の短編小説

授業科目の内容：

芥川龍之介の短編小説に詳細な注釈・分析をほどこす作業を通じて、文学研究の基本的な方法・手続きを確認する。対象作品および担当分担については開講時に指示・決定する。

テキスト：

開講時に指示する。

参考書：

開講時に示す。

〔秋学期〕 短編室町物語講読

授業科目の内容：

室町物語（御伽草子）は、室町時代から江戸時代前期に制作された物語の総称である。そのうちいくつかの作品を取り上げ、写本が刊本かを影印版で講読する。

テキスト：

最初の授業時に指示する

【04】国文学原典講読(D)(2) [春] 教授 石川透

【93】原典講読 D(2) [秋] 教授 藤原茂樹

〔春学期〕 短編室町物語講読

授業科目の内容：

室町物語（御伽草子）は、室町時代から江戸時代前期に制作された物語の総称である。そのうちいくつかの作品を取り上げ、写本が刊本かを影印版で講読する。

テキスト：

最初の授業時に指示する

〔秋学期〕 万葉集の歌を調べる

授業科目の内容：

万葉集巻十六の歌について調べてみる。ことばや歌の意味や託されているところもちを理解できるように、辞書や注釈書を調べて、見解をもてるようにする。

テキスト：

授業内で指示

【04】漢文講読 (2)

【93】漢文講読(国文)(2) 教授 佐藤道生

授業科目の内容：

漢語文献を読解するために必要な基礎知識を修得することを目的とする。漢語文法と漢文訓読法とについて講義する。

テキスト：

こちらで用意する。

参考書：

教室で適宜指示する。

【04】【93】日本語学 (2)(春学期)

国際センター 専任講師 岬 里美

授業科目の内容：

日本語の母語話者である我々が外国語として日本語を教えることには、予想以上の困難が存在している。本講義では日本語学の概説を通じて、母語を外国語の視点から客観化する作業を紹介し、後期の「日本語教授法」への導入としたい。

テキスト：

開講時に指示する

【04】【93】日本語学 (2)(春学期)

国際センター 教授 松岡 弘

授業科目の内容：

「日本語学」における「日本語」とは一般的には現代日本語を指します。それは日本人であれば自らの母語として自然に、また無意識のうちに習得するものですが、外国人の場合は、それを外国語として(母語ではない第二言語として)意識的に、かつ体系的に学習することになります。

担当者がかわる 日本語教育 という専門分野は、こうした外国人日本語学習者を念頭におき、現代日本語をいわば「外国語」として眺め、分析し、整理して、それらを「日本語教育文法」あるいは「日本語文型文法」として体系化してきています。

本講義では、「日本語学」あるいは「日本語教育学」がとらえてきた日本語の様々な姿や特質を、狭義の文法に限定せず、社会的文脈や言語政策などからも見つめなおして考えたいと思います。

なお、日本語・日本語の文法を、このような外国語、教育、文型といった相のもとにとらえることは、これまでに多くの傑出した文法学者(たとえば、山田孝雄、松下大三郎、三上章、寺村秀夫、林四郎など)が行なってきたことなので、これらの先人の思想や理論をも随時紹介するつもりです。

テキスト：

特に指定しません。随時コピーで配布します。

参考書：

『開かれた日本語教育の扉』、そのほか授業時に紹介します。

【04】【93】日本語教授法 (2)(秋学期)

国際センター 教授 野沢素子

授業科目の内容：

日本語を母語としない日本語学習者に対する初級文法項目とその教授法を概観する。

テキスト：

担当者作成教材(コピーにて配布)

参考書：

授業時に指示

【04】【93】日本語教授法 (2)(秋学期)

国際センター 教授 松岡 弘

授業科目の内容：

日本語教育とは、日本語を母語としない学習者に対して行われる日本語の教育のことである。日本語教育を行う場合、国語教育(日本語を母語とする者に対する教育)とは異なる視点が必要となる。本講義では、外国語教授法の歴史と日本語教授法の歴史を概観し、さらに主要な教授法による文法の扱い方を通じて、国語教育の視点とは異なる日本語文法の教育方法を学ぶ。

テキスト：

『ここからはじまる日本語教育』ひつじ書房、その他、随時コピーにて配布の予定。

参考書：

『開かれた日本語教育の扉』スリーエーネットワーク。そのほか授

業時に指示する。

【04】【93】日本語文法(2)

現代日本語文法概説

講師 屋名池 誠

授業科目の内容：

高校までに習った伝統的な国文法をはなれて、新しい立場から、現代日本語の文法現象を考えます。身のまわりのありふれた表現の中にも、精密で整った規則性が存在することに目をひらき、母語を客観視できる力を養うことを目標とします。

テキスト：

使用しません。

参考書：

『基礎日本語文法』(くろしお出版)

【04】【93】仏教学概論(4)

休講

中国文学専攻

必修科目

【04】【93】中国語学概論(4)

中国語という言語についての概説 教授 山下輝彦

授業科目の内容:

声調言語である中国語は、シナチベット語族に属し、皆さんが勉強してきた英語や日本語とかなり異なる性質を持つ言語です。この授業では、中国語の音韻、文法、語彙の三つの面について概説します。音韻については、現代語の音韻体系のみならず、中国語の音韻の歴史についても触れたいと思っています。

参考書:

藤堂明保・相原茂『新訂中国語概論』1985年大修館書店

履修者へのコメント:

出席を重視します。

【04】【93】中国語学特殊(4)

中国語の世界 講師 小松 嵐

授業科目の内容:

人口13億にのぼる中国は、世界人口の約四分の一を占め、世界で4人に一人は中国語を話しているわけですが、なぜ中国語はワールドランゲージになれないのでしょうか？悠久なる歴史や文化を有する中国、その入り組んでいる言語世界の事情について紹介し、基礎的な理論、知識を身につけさせたいと思います。

テキスト:

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書:

藤堂明保『新訂中国語概論』(大修館書店)

【04】【93】中国文学史(4)

中国古典文学の概説と作品選読 教授 八木章好

授業科目の内容:

先秦から清代に至るまでの中国古典文学を詩・文・小説・戯曲に分けて、各ジャンルの主要な項目を時代順に概説する。概説に加えて、代表的な個々の作品を原典で読む。取り上げる項目は以下の通り。

- | | |
|--------------|---------------|
| (1) 詩経 | (11) 宋代以降の詩 |
| (2) 楚辞 | (12) 論語 |
| (3) 漢代の詩 | (13) 孟子・荀子 |
| (4) 魏晋の詩 | (14) 老子・荘子 |
| (5) 陶淵明 | (15) 史記 |
| (6) 南北朝の詩 | (16) 十八史略 |
| (7) 初唐・盛唐の詩 | (17) 辞賦・駢文・古文 |
| (8) 李白 | (18) 文言小説 |
| (9) 杜甫 | (19) 白話小説 |
| (10) 中唐・晩唐の詩 | (20) 戯曲 |

テキスト:

八木章好編著『中国古典文学二十講』(白帝社, 2003年)

【04】中国文学史(4)

【93】近代中国文学(中国文学史(A))(4)

助教授 杉野元子

授業科目の内容:

前期は清末から中華人民共和国建国以前までの時期、後期は建国以後から現在までの時期を対象として、主だった文学者の経歴や作品、文学思潮や論争などについて講義する。

テキスト:

中国文芸研究会編『図説中国20世紀文学』(白帝社)

【04】【93】中国文学特殊(4)

中国古典白話神怪小説研究 講師 山下 一夫

授業科目の内容:

中国の古典白話神怪小説について取り上げます。この分野は、『西遊記』は別として、多くが「文学的価値が低い」とされ、あまり研究がなされてきませんでした。しかし、民間における受容の広さや、風俗習慣や民間信仰との関わりの大きさを考えると、決して無視できない存在であるばかりか、中国の宗教や芸能について考える上で非常に重要な領域であるといえます。講義は、前期は神怪小説という分野全体について検討し、また後期は個別の作品についてその問題点を考えていきます。

テキスト:

プリントを配布します。

参考書:

講義で紹介します。

【04】中国語表現演習(2)

【93】中国語古典演習(A)(中国語表現演習)(2)

講師 松下淑子

授業科目の内容:

ある話題について自分の意思や見解を自由自在に述べることを練習する。コトバのみならず中国文化にも多く触れていく。テキストの日中文化に関する中国語エッセイを聞き、それについて議論を展開していく。またテーマを決め、討論会を行う予定。

ヒアリングと会話を中心とする授業なので積極的に発言したり、質問したり、討論に参加してほしい。

テキスト:

『小点心』NHK出版 陳淑梅著

参考書:

授業中に提示

【04】中国語表現演習(2)

【93】中国古典演習(B)(中国語表現演習)(2)

講師 蘇 英霞

授業科目の内容:

本课程以培养学生的汉语听说能力为主,重点在于通过多种形式的听说训练帮助学生熟练掌握汉语的常用词汇,基本句式以及中国人惯用的口语表达方法,培养学生熟练运用所学词语及句式进行对话和简单的成段表达的能力。教材拟选用由北京语言大学出版社的基础汉语会话课本《汉语口语速成入门篇》(下)。具体教学内容与教学进度将根据学生的实际水平及学习要求进行适当调整。

テキスト:

プリントを配布します。

【04】中国語表現演習(2)

【93】中国語学演習(中国語表現演習)(2)

講師 蘇 英霞

授業科目の内容:

本课程以提高学生的汉语听说能力为主,重点在于通过多种形式的听说训练培养学生运用所学词语,句式及语段进行介绍,讨论,辩论等的成段表达能力。并在语言学习的同时帮助学生了解中国人的生活及社会情况。教材拟选用由日本金星堂出版的『中国語中級読本テキスト「今日の中国トピック12」』。具体教学内容与教学进度将根据学生的实际水平及学习要求进行适当调整。

テキスト:

プリント

【04】中国語表現演習 (2)
【93】中国語学演習 (中国語表現演習)(2)
中国語研究文献講読 教授 山下輝彦

授業科目の内容:

中国語の特質や言語と文化との関わりを理解する上で必要と思われる中国語の文献を講読します。今年度は、前期は音韻論に関する文献を、後期は、文法や中国語の本質について書かれた文献を読みます。順番と範囲を決めて、一人ずつ当ててやってもらいます。

テキスト:

- ・董同和『漢語音韻学』1972年 台湾書局
- ・趙元任『語言問題』1980年 商務印書館

【04】中国文学演習 (2)
【93】原典講読 (中国文学演習)(2)
中国古典詩を読む 教授 渋谷誉一郎

授業科目の内容:

中国古典詩の基本知識を習得することを目的として、有名作品を選んで精読します。春学期は中国語による注釈、現代語訳、解説、鑑賞の付された作品のプリント教材を用いて講読します。今年度は、『詩経』、『楽府』、陶淵明、陳子昂、杜甫、李白、王維、李商隱、杜牧等の作品を読む予定です。秋学期は各自が適当な作品を選び、語句の解釈、翻訳、鑑賞等を発表してもらいます。また、年間を通じて隔週ごとに中国文学関連書の書評、夏期休暇には中国古典詩史の基礎術語についてのレポートを課題として提出してもらいます。課題についての詳細は最初の授業時に伝えます。

テキスト:

プリント教材。開講時に配布します。

参考書:

- 松枝茂夫『中国名詩選』(上・中・下)岩波文庫。
- 受講者は開講時に入手しておいてください。その他の参考書や工具書等は随時紹介します。

【04】中国文学演習 (2)
【93】原典講読 (中国文学演習)(2)
斯道文庫 助教授 高橋 智

授業科目の内容:

「論語」の講読を行います。

テキスト:

授業時に指示

参考書:

授業時に指示

【04】中国文学演習 (2)
【93】中国古典演習 (A)(中国文学演習)(2)
助手 吉永壮介

授業科目の内容:

中国の古典小説は、文語体で書かれた文言小説と、口語体に近い白話小説とに大別できます。当演習では、明代に成立した白話小説『三国志演義』から幾つかの場面を選んで精読し、白話小説の特質について考えます。

本文の読解を中心としつつ、史書『三国志』『資治通鑑』や『三国志平話』等、三国志物語の形成にあずかった先行文献も参照し、文体や内容の相違について検討します。辞書や工具書の紹介も随時行います。また、月1回のペースで古典小説関連書の書評やレポート等の課題を提出してもらおう予定です。

テキスト:

プリント教材を配布します。

参考書:

初回の授業で提示します。

【04】中国文学演習 (2)
【93】中国古典演習 (B)(中国文学演習)(2)
講師 岡 晴夫

授業科目の内容:

中国の古典小説・散文のなかから適宜選んで講読する。

テキスト:

プリント使用。

【04】中国文学演習 (2)
【93】中国古典演習 (A)(中国文学演習)(2)
教授 関根 謙

授業科目の内容:

中国当代の作品から、全体主義的社会を拒否して「個」の尊厳を迫及した小説を取り上げ、精読する。

今年度は昨年にひきつづき、史鉄生の『記憶與印象』を読み進める。

テキスト:

史鉄生著『記憶與印象』(北京出版社,2004,北京)

参考書:

季刊「中国現代小説」

【04】中国文学演習 (2)
【93】中国古典演習 (B)(中国文学演習)(2)
経済学部 専任講師 根岸 宗一郎

授業科目の内容:

1920年代の周作人のエッセイを中心に講読する。五四新文化運動以降の周作人の世界観・文化観を読み取り、検討しながら進めていく。主に扱うのは周作人の散文集『自己的園地』所収作品である。

【04】中国語学研究会 (1)(春学期)
【04】中国語学研究会 (1)(秋学期)
【93】中国語学研究会 (3年)(2) 教授 山下輝彦

授業科目の内容:

中国語という言語について様々な角度からその特質を検討し、次にあげるテーマの中で各々が興味あるものを選択し、さらに理解を深め研究することを希望する場合、資料収集の方法、文献の扱い方などについて指導する。

- (1) 文法。現代文法、歴史文法、日中対照研究など
- (2) 語彙(外来語など)の特徴や文化と関係の深い問題など
- (3) 音声。特に現代語の発音の諸問題
- (4) 方言。豊かな中国の方言に関する諸問題

【04】中国語学研究会 (1)(春学期)
【04】中国語学研究会 (1)(秋学期)
【93】中国語学研究会 (4年)(2) 教授 山下輝彦

授業科目の内容:

中国語学研究会 , を参照

【04】中国古典文学研究会 (A)(B)(C)(3年)(1)(春学期)
【04】中国古典文学研究会 (A)(B)(C)(3年)(1)(秋学期)
【93】中国古典文学研究会 (3年)(2)

教授 八木章好
教授 渋谷誉一郎
助手 吉永壮介

授業科目の内容:

中国古典文学を学ぶ者を対象とした研究会。学生による研究発表と討論を主とし、兼ねて卒業論文指導を行う。

【04】中国古典文学研究会 (A) (B) (C) (4年) (1) (春学期)
【04】中国古典文学研究会 (A) (B) (C) (4年) (1) (秋学期)
【93】中国古典文学研究会 (4年) (2)
教授 八木章好
教授 渋谷誉一郎
助手 吉永壮介

授業科目の内容：

中国古典文学研究会 ， を参照

【04】中国現代文学研究会 (A) (B) (C) (3年) (1) (春学期)
【04】中国現代文学研究会 (A) (B) (C) (3年) (1) (秋学期)
【93】中国現代文学研究会 (3年) (2)
教授 関根謙
助教授 杉野元子

授業科目の内容：

20世紀の中国文化について多角的に検討する。
小説・詩歌・戯曲などの文学作品を中心とする。
中国に関するものであれば、映像芸術や舞台芸術などの文化現象一般も対象に含める。
授業を通じて口頭発表の仕方、論文作成などを学ぶ。

【04】中国現代文学研究会 (A) (B) (C) (4年) (1) (春学期)
【04】中国現代文学研究会 (A) (B) (C) (4年) (1) (秋学期)
【93】中国現代文学研究会 (4年) (2)
教授 関根謙
助教授 杉野元子

授業科目の内容：

中国現代文学研究会 ， を参照

英米文学専攻

必修科目

【04】【93】英語史(4)

教授 スカヒル, ジョン・デミエン

授業科目の内容:

A knowledge of the history of English is important for understanding the vocabulary, grammar and pronunciation of Present-Day English. The course will begin by considering the varieties of English found around the world today, and their historical relationships. This will lead to a survey of the history of Modern English, back to the time of Shakespeare. In Semester Two the lectures will look at the earlier stages of the language and its origins: Middle and Old English, and the Germanic and Indo-European Language families.

テキスト:

David Crystal, *A History of the English Language* (Seibido)

【04】英文学史(4)

[春] 教授 W 宮利行

【93】英文学史(4)

[秋] 教授 河内恵子

[春学期]

授業科目の内容:

主に英米文学専攻の2年生を対象に、春学期は中期から17世紀までの英文学の歴史の流れを追う。できるだけヴィジュアルな資料を用いて、立体的な講義を心がけたい。

テキスト:

Abrams, M. H, et al., eds., *The Norton Anthology of English Literature* Vols. 1 & 2, 8th ed., New York: Norton, 2005. (教室で販売する)

参考書:

教室で指示する。

[秋学期]

授業科目の内容:

18世紀から現代までのイギリスの社会や文化を理解したうえで、文学史を把握してほしい。

テキスト:

Abrams, M. H, et al., eds., *The Norton Anthology of English Literature* Vols. 1 & 2, 8th ed., New York: Norton, 2005. (教室で販売する)

参考書:

教室で指示する

【04】米文学史(4)

【93】米文学史(4)

教授 巽 孝之

授業科目の内容:

ピューリタン植民地時代からポストモダニズム文学の時代へ至る「アメリカ文学史の常識」をふまえながら、その準拠枠からはこぼれ落ちかねない多様な「非常識の文学史」をも考察していく。

テキスト:

・Peter High, *An Outline of American Literature* (Longman, 1986)
・George McMichael, ed., *Concise Anthology of American Literature* (Upper Saddle River: Prentice Hall, 2001).

参考書:

巽孝之『アメリカ文学史 駆動する物語の時空間』(慶應義塾大学出版会, 2003年)

【04】【93】現代英語学(4)

教授 唐須教光

授業科目の内容:

現代英語の諸相について講義する。

一般言語学の枠組で英語の共時態をとり扱います。

テキスト:

Akmajian et al. *Linguistics*. 2nd ed. MIT Press.

電子掲示板(私のホームページ)に示してあります。

参考書:

授業時に指示します。

【04】英語英米文学基礎講読 A(2)

【93】原典講読 A(2) 教授 スカヒル, ジョン・デミエン

【04】英語英米文学基礎講読 B(2)

【93】原典講読 B(2) 教授 W 宮利行

【04】英語英米文学基礎講読 C(2)

【93】原典講読 C(2) 教授 唐須教光

【04】英語英米文学基礎講読 D(2)

【93】原典講読 D(2) 教授 河内恵子

【04】英語英米文学基礎講読 E(2)

【93】原典講読 E(2) 教授 巽 孝之

【04】英語英米文学基礎講読 F(2)

【93】原典講読 F(2) 教授 松田隆美

【04】英語英米文学基礎講読 G(2)

【93】原典講読 G(2) 助教授 大串尚代

授業科目の内容:

3年生において、各学生は各々が専門とする研究会や特別演習クラスに所属するが、いずれの分野においても英語文献を読むことは研究の基本である。「英語英米文学基礎講読」は基礎的な文献を正確に読み、その内容を分析しうる能力を養うための演習科目である。担当者によって扱うテキストは異なるが、その授業目的は同一である。尚、共通テストが実施される。

【04】【93】古代中世英語学(4)

教授 松田隆美

授業科目の内容:

この講義の目的は、Old English, Middle English のテキストに実際に触れることで、イギリス中世の文学とその思想的背景について具体的に学ぶことである。春学期には、Old English への導入をするとともに、アングロ・サクソン期のイギリス文学についてテキストを実際に読みつつ解説する。秋学期には、Middle English の特徴を説明し、チョーサーなどの作品を通じて、中世後期イギリスの文学とその背景について、さまざまな角度から考察する。

テキスト:

春学期は主にプリントを使用。秋学期は、Geoffrey Chaucer, *The Canterbury Tales*, Norton Critical Edition (2005) を使用する予定。

【04】【93】英語音声学(4)

教授 スカヒル, ジョン・デミエン

授業科目の内容:

This course will introduce the fundamental concepts of phonetics and phonology, and analyse the vowels, consonants, stress, rhythm and intonation of English.

テキスト:

ピーター・ローチ著『英語音声学・音韻論』(大修館書店)

【04】【93】英語学演習 A(2)

書誌学研究とは何か~中世からシェイクスピアまで~

商学部 教授 英 知明

授業科目の内容:

文学作品を「物理的な存在としての書物」として捉え、その誕生や印刷工程、出版や流通を研究対象とする「書誌学(Bibliography)」への入門編。中世の目も眩む色彩鮮やかな手書きの写本時代から、手動印刷機の誕生を経て、作品が出版物として文芸の世界へと普及していくエリザベス朝までを扱う。特に作者原稿が劇場用台本へと姿を変え、最終的に書物として出版されるに至ったシェイクスピア時代の演劇作品を中心に、書誌学研究の理論と実践、及び問題点を考察する。論文、研究書の講読とともに、履修者による個人発表も

予定している。書物への愛情と精緻な学問への関心を持ち、積極的に授業に取り組む学生を歓迎。

テキスト：

授業時に配布、または指示する。

【04】【93】英語学演習 B (2)

Elementary Old English

教授 スカヒル, ジョン・デミエン

授業科目の内容：

Students will learn the elements of Old English, and read simple texts against the background of Anglo-Saxon culture.

テキスト：

Peter S. Baker, *Introduction to Old English* (Blackwell)

【04】【93】英語学演習 C (2)

言語の認知科学

法学部 教授 辻 幸夫

授業科目の内容：

今年度は、言語学と脳科学の対話から入り、言語の認知科学について考察したい。まずは下記テキストを最初の数回で読み、その後、学生諸君の興味に応じて下記のテーマを中心に議論し考察していきたい。テキストをその都度、追加していきます。

(1) 言語をなぜ使えるのか (神経心理学的, 認知心理学的, 言語心理学的視点)

(2) 言語をなぜ使うのか (社会言語学的, 人類言語学的視点)

(3) 言語はなぜ今こうなっているのか (認知言語学的視点)

英語学に限らず、言語学一般に興味のある学生にとって、言語の認知科学入門になるような演習にしたい。

テキスト：

山鳥重・辻幸夫 著『心とことばの脳科学』(大修館書店, 2006)

参考書：

- ・山鳥重『ヒトはなぜことばを使えるか』(講談社, 1998)
- ・辻幸夫 編『ことばの認知科学事典』(大修館書店, 2001年)
- ・辻幸夫 編『認知言語学キーワード事典』(研究社, 2002年)
- ・辻幸夫 編『認知言語学への招待』(大修館書店, 2003年)

【04】【93】英語学演習 D (2)

社会言語学

講師 阿部 圭子

授業科目の内容：

Gumperz によって提唱された相互作用社会言語学は「言語と社会の相関を見るマクロ社会言語学」と「個人レベルのコミュニケーションからその関係性を分析するミクロ社会言語学」の融合を唱えている。

本講ではこの Gumperz の視点から文化の異なる人々(国, 民俗, 人種その他性別, 年代, 職業などの下位概念も含む)のミスコミュニケーションの要因をその背景となる社会や文化とのかかわりにおいて考察する。

テキスト：

Gumperz, John J. *Language and Social Identity*. CUP.

参考書：

- ・唐須教光(編)『英語学文献解題 言語学』(研究社, 2000)
- ・小池生夫(編)『応用言語学事典』(研究社, 2003)
- ・John Gumperz (著) 井上逸兵 他 訳『認知と相互行為の社会言語学 ディスコース・ストラテジー』(松柏社, 2004)

【04】【93】英語学演習 E (2)

コーパス文体論

講師 奥 聡一郎

授業科目の内容：

文体論・コーパス言語学の基礎を学び、文学テキストの分析を実際に行う。

テキスト：

特に定めない。以下の文献の抜粋を使用する。

参考書：

- ・斎藤兆史著「英語の作法」(東京大学出版会, 2000)

・斎藤・赤野・中村編「改訂新版英語コーパス言語学 基礎と実践」(研究社, 2004)

【04】【93】英語学演習 F (2)

英語(外国語)教授法概論

講師 平賀 優子

授業科目の内容：

様々な外国語教授法について、基礎的な知識をつけることが本コースの目標です。授業はすべて学生によるプレゼンテーション(ロールプレイ)とディスカッション形式で行います。

参考書：

初回の授業で文献リストを配布します。

【04】【93】英語学演習 G (2)

CREATIVE WRITING: "Written from the Heart"

講師 ドネガン, パトリシア

授業科目の内容：

COURSE: (20 students) A workshop course in creative writing (poetry/prose) taught by a published American writer/poet. Practice English rhythms & feel the sacred, passionate power of words. Get in touch with feelings & let your inner voice out. Read love poems, haiku, haibun (prose & haiku), imagist poetry, long beat poetry, poetry series, journal & poetic prose and mini-stories. Using these as samples, we will write our memories, dreams & visions. We will share our work after feed-back from the teacher. Feast on your creativity! Materials for the class provided: bring only an English to English dictionary, pen & paper & an open heart.

テキスト：

NO TEXT

【04】【93】英語学演習 H (2)

隷属言語から帝国言語へ

講師 吉野 利弘

授業科目の内容：

辺地の一地方の土着語にすぎなかった英語の国内的には国語化、対外的には帝国の言語化はどのような歴史的、文化的、社会的状況下に展開したのか、それにより、Modern English はどのような特質を備えるに至ったのか、さらにそれを支える英語学はどのように生じ、どのような identity を備えるに至ったか、そこにはどのような問題が内在するかなどを日本語の国語化を参考にしながら考える。

テキスト：

未定

参考書：

開講時に教室で呈示。

Dick Leith. *A Social History of English*. 2nd ed. Routledge, 1997 or more recent ed. (生協扱い)

【04】【93】英文学演習 A (2)

【04】英文学特別演習 (3年)(2)

【04】英文学特別演習 (4年)(2)

【93】英文学特別演習 (2)

シェイクスピアの悲劇

教授 W 宮利行

授業科目の内容：

Shakespeare, *Macbeth* の解釈と朗読。

テキスト：

研究社の最新版(大場建治編)

【04】【93】英文学演習 B (2)

【04】英文学特別演習 (3年)(2)

【04】英文学特別演習 (4年)(2)

【93】英文学特別演習 (2)

モダニズム小説とは？ Ford Madox Ford の世界

教授 河内 恵子

授業科目の内容：

20世紀の最高傑作のひとつといわれる *The Good Soldier* を読む。
激しい恋愛を描くこの作品を通して、小説のナラティブ、第一次世界大戦、モダニズムといった問題を考えてみたい。

テキスト：

Ford M. Ford, *The Good Soldier*. New York: Norton, 1995

参考書：

教室で指示する。

【04】【93】英文学演習 C (2)

【04】英文学特別演習 (3年)(2)

【04】英文学特別演習 (4年)(2)

【93】英文学特別演習 (2)

イギリス・ルネサンスの詩の世界 教授 松田 隆美

授業科目の内容：

Spenser, Shakespeare, Donne, Marvell, Milton など、16 - 17 世紀を代表する詩人の短詩を精読することで、ルネッサンス期の詩の主題的特徴、詩的コンベンション、視覚芸術との密接な関連などについて考察する。

テキスト：

Norton Anthology of English Literature, vol. 1. 及びプリント。

【04】【93】英文学演習 D (2)

18世紀英文学を通じて、近・現代の出発点を確認する

講師 原田 範行

授業科目の内容：

イギリス 18 世紀の文学作品の精読・演習を通じて、まず、当時の英文学作品の原典を正確に読みこなせる実力を培うこと、そしてその上で、文学研究の基本的な方法や論点を整理し、作品解釈の可能性についての思考力を養ってもらうことが本演習の目標です。18 世紀は、詩、小説、伝記、批評などのさまざまな文学ジャンルが変化、分化、確立してくる時期であり、また印刷出版文化（ジャーナリズムや著作権論争を含む）が今日の相貌を帯び始める時期でもありますから、履修者の皆さんは、本演習を通じて、英語力の向上とともに、近・現代文学と文化の出発点を確認することができると思います。本年度は小説発生期の最重要作品の一つであるサミュエル・リチャードソンの『パメラ』を取り上げます。

テキスト：

Samuel Richardson, *Pamela* を教材とします。使用する版については、開講時に指示します。

参考書：

開講時に詳しく説明します。

【04】【93】英文学演習 E (2)

20世紀の英国詩を読む

講師 阿部 公彦

授業科目の内容：

この授業では英詩を読む心構えや、英詩について考えたり、語ったりするコツについて学びます。扱うのは授業一回で一編のペース。これまで英詩を読んだことがない人でも参加できるように、比較的わかりやすい作品をとりあげ、詩を読むときにはどのあたりに注意を払うべきなのか、どこに興味すべきか、一日の何時頃読むと都合がいいのか(？)、といった泥臭い話題にも触れられればと思っています。

今年を対象を 20 世紀の英国の詩とし、夏学期は主に第二次大戦前、冬学期は大戦後の詩人を扱います。なるべく多くの詩人をカバーし、自分と相性のいい作品と出会って欲しいと思いますので、ひとりの

詩人につき 1 編から 2 編を読む、ということになるでしょう。

20 世紀の前半にはいろいろな意味で派手で国際的な詩人が多く現れたのに対し、20 世紀の後半は地域密着型で、いかにもイギリス的な詩人が多く出ました。その辺の比較もできればと思います。

テキスト：

ハンドアウトを配布します。

参考書：

授業時に知らせます。

【04】【93】英文学演習 F (2)

講師 小林 宣子

授業科目の内容：

中世から初期近代にかけて書かれた様々な短詩を、その背景となる文学的伝統や作品が生み出された当時の歴史的状況などを考察しながら原文で精読します。短詩と一口に言っても、その種類は作者不詳の中世詩歌（宗教詩もしくは恋愛詩）、中世後期のバラード、「嘆きの歌」、ソネットなど多岐にわたります。それぞれの詩の形式的特徴を理解したうえで、どのような文学的伝統に則って書かれているのか、どのような形で流布したのか、いかなる意味を伝え、いかなる情緒を表現しているのか、どのような社会的役割を果たしているのか、どのような政治的意図がその裏に隠されているのかなど、二次資料を用いながら多角的な視点から解釈を試みます。

テキスト：

Chaucer to Spenser: An Anthology of Writings in English, 1375 - 1575, edited by Derek Pearsall (Blackwell, 1999) 等から必要箇所（原文テキストおよび注釈）を抜粋してプリントで配布します。

参考書：

授業内に指示します。

【04】【93】英文学演習 G (2)

初めて読むシェイクスピア

講師 井出 新

授業科目の内容：

この演習では前・後期を通して『ハムレット』を講読し、シェイクスピア等のエリザベス朝の台本を読むための基礎力習得を目指します。テキストは本文校訂と学問的注釈がきちんと施されたものを選ぶので、本文は勿論、注釈についても丁寧に目を通してもらう予定です。

テキスト：

G. R. Hibbard, ed. *Hamlet* (Oxford Univ. Pr., 1987)

参考書：

演習時に随時紹介します。

【04】【93】英文学演習 H (2)

オペラと文学様式の関係

助教授 高橋 宣也

授業科目の内容：

イギリスの批評家 Conrad による、オペラと文学の諸形式 演劇、小説、詩など との影響関係を論じたテキストを扱います。19 世紀に頂点を極めたオペラというジャンルが、文学 作品とどう関わり、協働したり、敵対したりしたかを挑発的に論じたものです（例えば「オペラは演劇よりも小説に近い」など）。ヨーロッパ文芸の深みを覗き込むことになるでしょう。

テキスト：

Peter Conrad, *Romantic Opera and Literary Form* (Berkeley: University of California Press, 1977)

【04】【93】英文学演習 I (2)

モダニズムと精神分析のインターフェイス

講師 遠藤 不比人

授業科目の内容：

第一次大戦後のイギリスにおいて同時に一挙に生産性を増した二つの言説、モダニズム文学と精神分析のインターフェイスを考察します。担当者による最新の研究動向の紹介のあと、Virginia Woolf, Katherine Mansfield, T. S. Eliot, Melanie Klein らのテキストを精読し、そこで同時多発的に主題化される人間の根源的な攻撃性とセク

シュアリティとの恐るべき混交（後にラカンがそれを「享楽」と呼んだ）を検討します。9.11以降ラカン派精神分析があらためて今日注目する、暴力＝セクシュアリティという問題が大戦後の言説空間において極めて先鋭な形で露出する様を歴史的＝テクスト的に体験しましょう。同時に精神分析の基礎的な理論の修得も目指します。

テキスト：
担当者が用意します。

参考書：
講義中複数を紹介いたします。

【04】【93】英文学演習 J (2)

Angela Carter and folk tales

講師 生駒夏美

授業科目の内容：

巧みな語りと独特のユーモア満載のアンジェラ・カーターの短編小説を精読し、現代文学を読む際に必要となる批評技術の取得を目指します。

テキスト：
Angela Carter 作 *The Bloody Chamber* と *Saints and Strangers*

【04】【93】英文学演習 K (2)

変身物語を読む

助教授 坂本光

授業科目の内容：

今年度は Bram Stoker による *Dracula* (1897) を基本テキストとして、19世紀から現在にいたるまでに書かれた変身の物語について考える。

人間が別の何かへと姿を変える物語は、神話の時代から枚挙に暇がない。これらはいずれも人間がみずからの内にある暗闇に恐怖し、その恐怖に手探りで形を与えようとした試みの結果だろう。この演習では、Stoker の作品が書かれた 19 世紀後半を手始めに、そうした試みがそれぞれの時代・環境においてどのように行われたかを検討したい。

テキスト：
Bram Stoker, *Dracula: Authoritative Text, Contexts, Reviews and Reactions, Dramatic and Film Variations, Criticism* (New York: Norton, 1997)

参考書：
丹治愛『ドラキュラの世紀末 ヴィクトリア朝外国恐怖症の文化研究』（東京大学出版会、1997）

【04】【93】英文学演習 L (2)

ナルニア国物語を書いた C. S. ルイス

講師 高木真佐子

授業科目の内容：

多彩な顔を持った C. S. ルイスの宗教観に迫ることを主眼とします。古典文学を修め、オックスフォードで長年教鞭を執っていたルイスですが、その作品は『ナルニア国物語』に留まらず幅広いジャンルにまたがっており、背後には独特の宗教観、文学観、そして傑出した才能があったことが分かります。

授業では便宜上、次のような 4 つの視点からルイスをとらえてみたいと考えています。詩作 古典文学研究 フィクション 宗教観。それぞれを代表するような作品の抜粋を読み、最終的には彼を貫く哲学はなんだったのかという問題に迫ってゆきたいと思えます。

テキスト：
The Screwtape Letters: With Screwtape Proposes a Toast C. S. Lewis

参考書：
・『ナルニア国ものがたり』全 7 冊セット C. S. ルイス著、瀬田 貞二訳
・『喜びのおとずれ C. S. ルイス自叙伝』ちくま文庫 C. S. ルイス著、早乙女 忠訳、中村 邦生訳
・『子どもたちへの手紙』C. S. ルイス著、ライル・W・ドーセット、マージョリー・L・ミード [編] 中村妙子訳

【04】【93】米文学演習 A (2)

【04】米文学特別演習 (3年)(2)

【04】米文学特別演習 (4年)(2)

【93】米文学特別演習 (2)

アメリカン・ルネッサンスの文学 教授 巽 孝之

授業科目の内容：

アメリカン・ルネッサンスはアメリカ文学思想史上、最初の黄金時代であった。その代表的文学者の作品群を 1 年間かけて読む。

テキスト：
George McMichael, ed., *Concise Anthology of American Literature* (Upper Saddle River: Prentice Hall, 2001). その他追って指示する。

参考書：
・ David Reynolds, *Beneath the American Renaissance* (1988; Cambridge: Harvard UP, 1989)
・ 巽孝之『ニュー・アメリカニズム』（青土社、1995 年）
・ 同『アメリカン・ソドム』（研究社、2001 年）

【04】【93】米文学演習 B (2)

19 世紀アメリカ詩

商学部 助教授 朝比奈

緑

授業科目の内容：

春学期には、「Emily Dickinson と他の 19 世紀女性詩人」を比較しながら精読する。秋学期には、「Walt Whitman と 超絶主義 の詩人たち」をとりあげる。19 世紀の歴史・文化のなかでの位置づけを考えるとともに、詩のこぼの魅力をくみとっていききたい。また現代においてこれらの詩人たちがどのように読まれているのか、主な批評も考察する。

テキスト：
・ *Poetry of the American Renaissance: A Diverse Anthology from the Romantic Period*. Ed. Paul Kane. New York: George Braziller, 1995.
・ *Romantic Women Poets* 武田雅子他編、英宝社

参考書：
授業時にリストを配布する。
『色のない虹 対訳エミリー・ディキンソン詩集』野田寿訳編、ふみくら書房

【04】【93】米文学演習 C (2)

翻訳実技演習

講師 嶋田洋一

授業科目の内容：

フィクションおよびノンフィクション作品の英日翻訳を実際に体験してもらい、英語読解力と日本語表現力の向上を目指します。

テキスト：
毎回コピーを配布します。

【04】【93】米文学演習 D (2)

19 世紀アメリカ女性文学

助教授 大串尚代

授業科目の内容：

アメリカン・ルネッサンスとしてアメリカ文学が開花した 19 世紀は、同時に女性文学がさかんに出版された時代でもあった。現代の文学史では、Hawthorne, Poe, Melville, Emerson などの男性作家の影に追いやられたかのような女性作家たちは、19 世紀当時はその隆盛をねたんだ Hawthorne をして“America is now wholly given over to a damned mob of scribbling woman”と言わしめたほどの人気を誇っていた。本講座ではアメリカ 19 世紀女性文学と、その背景となった黒人解放・女性解放運動、南北戦争などの歴史的・文化的背景を学ぶ。Catherine Maria Sedgwick, Lydia Maria Child, Margaret Fuller, Fanny Fern, Louisa May Alcott, Sojourner Truth, Harriet Beecher Stowe, Rebecca Harding Davis, Frances E. W. Harper, Kate Chopin らの作品を扱う予定。また、フェミニズム文学批評家らによるエッセイを読み、女性文学を考察する方法論も同時に学ぶ。

テキスト：
Killcup, Karen L. *Nineteenth-Century American Women Writers: An*

【04】【93】米文学演習 E (2)

American Realism and Naturalism

講師 松川 祐子

授業科目の内容:

南北戦争終結から第一次世界大戦にアメリカが参戦するまでの間に活躍した作家の短編小説を読み、ディスカッションを通じて解釈を深めます。リアリズム文学や自然主義文学を通して、この時代に目まぐるしく変化していくアメリカを作家たちはどのように捉え、人種、民族、階級、ジェンダー、宗教、教育、地方やセクシュアリティなどの問題を作品で扱いながらどのように社会を批判したかを考察します。テキスト:

Nagel, James, and Tom Quirk, eds. *The Portable American Realism Reader*. New York: Penguin, 1997 を教室で販売します。そのほかに評論、エッセイ、短編小説等のプリントを授業中に配付します。

参考書:

授業中に紹介します。

【04】【93】米文学演習 F (2)

コトバが立ち上がる時

講師 村上 由見子

授業科目の内容:

活字として書かれた戯曲から、言葉がどのように「立ち上がる」のか、演劇のビデオも見ていながら、その醍醐味を味わっていきます。翻訳だけにとどまらず、役作り、舞台の意味なども考え、戯曲の楽しさと面白さを体験してみます。テキスト:

コピー教材として各自購入の予定。

【04】【93】米文学演習 G (2)

アメリカン・ゴシック

講師 渡部 桃子

授業科目の内容:

アメリカ文学において重要なジャンルの一つであるゴシック小説(短編小説を含む)を読む。それぞれの時代でアメリカ人は、何を恐れていたかを、時代背景をふまえながら探っていきたい。そのことによって、アメリカ文化についての理解をさらに深めていくことをめざす。テキスト:

プリントで配布

参考書:

初回の授業で提示

【04】【93】米文学演習 H (2)**【04】米文学特別演習 (3年)(2)****【04】米文学特別演習 (4年)(2)****【93】米文学特別演習 (2)**

記憶の中のベトナム戦争 法学部 教授 鈴木 透

授業科目の内容:

2005年、ベトナム戦争終結から30年の節目にあたり、様々なベトナム戦争論が新たに発表されました。ベトナム戦争は、超大国アメリカにとっての初めての挫折であったと同時に、20世紀後半のアメリカの大きな転換点となりましたが、ある意味でその後現在にいたるまでのアメリカの歩みは、ベトナム戦争とそれによって生じた事態をどう乗り越えるかをめぐる試行錯誤の連続であったともいえます。それだけに、ベトナム戦争の記憶と向き合うことは、現代アメリカにとって避けて通れない作業であり、それは現代アメリカにおける文化表現のあり方に少なからぬ影響を与えてきたと見ることができます。そこで、この授業では、ベトナム戦争をめぐる記憶をアメリカ社会がどう表現しようとしてきたのか、文学、映画、美術、博物館展示、記念碑など様々な事例を領域横断的かつ具体的に検討し、ベトナム戦争の記憶を表現することが、現代アメリカ文化をどう方向づけてきているのかを考えていきます。テキスト:

多岐にわたるので開講時に指示します。

参考書:

- ・鈴木透『実験国家アメリカの履歴書：社会・文化・歴史にみる統合と多元化の軌跡』(慶應義塾大学出版会, 2003)
- ・近藤光雄, 鈴木透 他『記憶を紡ぐアメリカ：分裂の危機を超えて』(慶應義塾大学出版会, 2005)

【04】【93】米文学演習 (2)

サリンジャーとその後のアメリカ小説

講師 麻生 享志

授業科目の内容:

前期: サリンジャーの代表作、*The Catcher in the Rye* を通読しながら、冷戦期のアメリカ小説の特質について検討する。*The Catcher* の他、関連するサリンジャーの初期短編も併わせて読む予定。

後期: 1960年代以降に書かれた短編を読みながら、サリンジャー以降のアメリカ文学、とりわけ「ポストモダニズム」文学のあり方を理解する。クーヴァー、パーセルミ、ソング、オースター等の作品を扱う予定。

テキスト:

J.D.Salinger, *The Catcher in the Rye* (Penguin).

他にプリントを配布。

参考書:

開講時に指示する。

【04】英語学研究会 (3年)**【04】英語学研究会 (4年)****【93】英語学研究会 (2)**

教授 スカヒル, ジョン・デミエン

授業科目の内容:

This seminar will look at variation in English and its implications for language learning.

【04】英語学研究会 (3年)(2)**【04】英語学研究会 (4年)(2)****【93】英語学研究会 (2)** 教授 唐須 教光

授業科目の内容:

英語学・言語学に関する卒業論文指導

テキスト:

特になし

【04】英語学特別演習 (3年)(2)**【04】英語学特別演習 (4年)(2)****【93】英語学特別演習 (2)***The Human Condition* 教授 アーマー, アンドルー J.

授業科目の内容:

This course is for third- and fourth-year students majoring in British/American literature and related fields. There are no special restrictions on subject choice, but all instruction and discussion will be in English so students should have some confidence in both speaking and writing English. Fourth-year students are required to undertake a special research project in partial fulfilment of the requirements for a B. A. degree.

テキスト:

Students will be presented with materials in class or via a website (www.armour.cc/zemi.htm).

【04】英語学特別演習 (3年)(2)**【04】英語学特別演習 (4年)(2)****【93】英語学特別演習 (2)** 教授 唐須 教光

授業科目の内容:

英語の運用のスキルの訓練

テキスト：
特になし
参考書：
特になし（授業時に指示する）

【04】英語学特別演習 (3年)(2)
【04】英語学特別演習 (4年)(2)
【93】英語学特別演習 (2)
Old English 教授 スカヒル, ジョン・デミエン

授業科目の内容：
This course will introduce Old English language and read a variety of texts. Each student will give two presentations on the culture of Anglo-Saxon England.
参考書：
Peter S. Baker, *Introduction to Old English* (Blackwell)

【04】英文学研究会 (3年)(2)
【04】英文学研究会 (4年)(2)
【93】英文学研究会 (2) 教授 松田 隆美

授業科目の内容：
イギリス文学に関する卒業論文を英語で執筆する学生を対象として、研究発表を主体とした論文指導を行う。授業計画については、学期毎にプリントおよびHPで知らせる。

【04】英文学研究会 (3年)(2)
【04】英文学研究会 (4年)(2)
【93】英文学研究会 (2)
卒業論文指導 教授 W 宮 利 行

授業科目の内容：
英文学・イギリス文化関係で卒業論文を執筆するか卒業制作を行う学生のためのゼミナール演習
テキスト：
・『MLA 英語論文の書き方』最新版, 北星堂
・Rick Gekoski, *Tolkien's Gown*, 2004

【04】英文学研究会 (3年)(2)
【04】英文学研究会 (4年)(2)
【93】英文学研究会 (2)
イギリス文学(18世紀~現代) 教授 河内 恵子

授業科目の内容：
18世紀から現代にいたるイギリス文学に関連する卒業論文を提出する学生のためのゼミナール演習。
参考書：
教室で指示する。

【04】米文学研究会 (3年)(2)
【04】米文学研究会 (4年)(2)
【93】米文学研究会 (2) 教授 巽 孝之

授業科目の内容：
春学期はアメリカ文学研究の基礎理論修得に費し、4年の卒業制作経過報告に重点を置く。
秋学期より3年の卒業制作準備段階に入る。英語圏学術誌を含め少なからぬ文献を読むことになるため、相当の覚悟が必要。
テキスト：
・Jonathan Culler, *Literary Theory*
参考書：
・巽孝之 & 渡部桃子編『物語のゆらめき アメリカン・ナラティブの意識史』(南雲堂, 1998年)
・ジョナサン・カラー『文学理論』(岩波書店, 2003年)ほか『MLA 英語論文の手引』など。

【04】米文学研究会 (3年)(2)
【04】米文学研究会 (4年)(2)
【93】米文学研究会 (2)
法学部 教授 鈴木 透

授業科目の内容：
アメリカ文学/アメリカ文化研究に関する卒業論文を書く予定の学生を対象とする研究会です。授業では、卒業論文の指導のほか、著名な研究書・注目すべき論考をテキストに用いて、アメリカ文学研究が蓄積してきた方法や問題意識を、昨今のカルチュラル・スタディーズと接させながら、広く社会現象・文化現象の解釈に応用すること
総合的なアメリカ研究という観点から、既存の学問的枠組みにとられない、領域横断的なアメリカ研究のあり方を考えることの二点を中心に勉強します。

今年度のテキストとしては、Scott C. Zenman と Michael A. Amundson 編の *Atomic Culture: How We Learned to Stop Worrying and Love the Bomb* (2004) を取り上げます。本書は、現代アメリカの文化・社会が核とともにある存在であるという点において、旧来の文化・社会と一線を画すものにとらえらるとともに、そうした大量破壊兵器の存在に対してなぜ人々は平気でいられたようになったのか、大衆文化を中心とした言説装置がそこにどう介在しているのかを分析したものです。現代アメリカの文化・社会が置かれた状況の側面を考える上で示唆に富む内容といえるでしょう。

テキスト：
Zenman, Scott C., and Michael A. Amundson, *Atomic Culture: How We Learned to Stop Worrying and Love the Bomb* (Boulder: University Press of Colorado, 2004)
参考書：
鈴木透『実験国家アメリカの履歴書：社会・文化・歴史にみる統合と多元化の軌跡』(慶應義塾大学出版会, 2003)

選 択 科 目

【04】【93】英語学 A (4)
英米系言語学からコミュニケーションの学としての社会言語学へ
法学部 教授 井上 逸兵

授業科目の内容：
英米系の言語学の諸知見を概観する。後半はそれを議論の土台として、「自律性」を旨とするそれらの言語研究からある意味で逸脱した形で発展してきた語用論、社会言語学等の系譜を学びながら、いわゆる「コミュニケーション」とよばれる諸現象に対する言語学、英語学的アプローチの意義を考える。

テキスト：
なし
参考書：
・ジョン・ガンパーズ『認知と相互行為の社会言語学』(松柏社)
・井上逸兵『伝わるしくみと異文化間コミュニケーション』(南雲堂)
・井上逸兵『ことばの生態系 コミュニケーションは何でできているか』(慶應義塾大学出版会)
その他、授業中に指示する。

【04】【93】英語学 B (4)
社会言語学 講師 阿部 圭子

授業科目の内容：
本講では社会言語学の起源と定義、研究方法、変異研究、言語行動、社会的ステレオタイプ、多言語主義、相互作用社会言語学、言語と文化などに関する諸論文を取り上げ考察する。

テキスト：
Coupland, Nikolas, and Adam Jaworski (eds.). *Sociolinguistics: A Reader and Coursebook*. (Palgrave. 1997)

参考書：

- ・ Ronald Wardhaugh 著 『社会言語学入門』(リーベル出版, 1994)
- ・ 小池生夫(編) 『応用言語学事典』(研究社, 2003)

【04】【93】英語学 C(4)

社会言語学入門 講師 平賀優子

授業科目の内容：

1つの言語には、性別・年齢・地域・社会的地位等の要因により、様々な変異(バラエティー)が存在します。また、その言語が話される場面・状況や、話し相手によっても影響を受けます。本講義では、このような言語と社会の関わりについて、基礎的な知識を身に付けることを目標とします。はじめて社会言語学を学ぶ人のための概論です。

参考書：

初回の授業で文献リストを配布します。

【04】【93】英語学 D(4)

英語(学)の発達と Englishness の確立 講師 吉野利弘

授業科目の内容：

Modern English の基本的特質は cosmopolitan vocabulary, inflectional simplicity, natural gender といわれる。このような特質を英語が獲得するには、どのような歴史的、文化的、社会的状況がかかわるのかを考える。併せて、辺地の一地方の土着語にすぎなかった English の国語化、帝国言語化とそれを支えるイデオロギーとはどのようなものか考える。

テキスト：

未定

参考書：

- ・ Dick Leith. *A Social History of English*, 2nd ed. Routledge, 1997. or more recent ed.
- ・ N.F.Blake. *A History of the English Language*. Routledge, 1996 他

【04】【93】英語学 E(4)

Oxford English Dictionary を使って英語史を知る 講師 小池剛史

授業科目の内容：

Oxford English Dictionary(=OED)を使いこなし、英語の歴史を学びます。OED には、単語の意味の歴史、単語の綴り、さらに発音の歴史、屈折変化形の歴史、また英語の文法の歴史などの情報を得ることが出来ます。OED を使いこなせるようになりましょう。またこの辞書を使いこなせるようになるために必要な知識を、講義を通して学んでいきます。

テキスト：

Oxford English Dictionary (授業に必要な箇所をプリント配布します)

参考書：

授業で随時紹介します。

【04】【93】英語学 F(4)

英文法再入門 講師 奥聡一郎

授業科目の内容：

最新の記述文法書の精読を通して、これまで学んできた英文法の全体像の見直しを目標とする。英文法の確認という観点から Exercises の提出と専門用語について小テスト(平常点)を毎回行うので欠席と遅刻はしないこと。

テキスト：

Huddleston & Pullum. (Cambridge UP, 2005) *A Student's Introduction to English Grammar*.

参考書：

Huddleston & Pullum. (2002) *The Cambridge Grammar of the English Language*.

【04】【93】英語学 G(4)

比喩から認知意味論へ 法学部 教授 辻幸夫

授業科目の内容：

比喩とカテゴリー化、心象と概念形成というような認知的方法を切り口に、人はどのように意味を作り上げていくのか、言語学や心理学、あるいは脳科学で得られた知見などをもとに考察します。あわせて、これから英語学や言語学を勉強する学生の皆さんへの「意味論」への導入を目論みます。当面は、認知的比喩研究の古典となっている下記テキストの最新版(2003)を題材として批判的検討を行い、比喩の基本的な考え方を整理します。授業時に使う文献やテーマについては学生諸君とも相談しながら随時追加していき、意味論の諸相に展開させていきたいと思ひます。

テキスト：

G. Lakoff & M. Johnson. (1980), 2003. *Metaphors We Live By*. Univ. of Chicago Press.

参考書：

- ・ 池上嘉彦 『英語の意味』(大修館書店, 1996)
- ・ 山梨正明 『比喩と理解』(東大出版会, 1988)
- ・ 瀬戸賢一 『よくわかる比喩』(研究社, 2005)
- ・ 辻幸夫 編 『認知言語学キーワード事典』(研究社, 2002)
- ・ 辻幸夫 編 『認知言語学への招待』(大修館書店, 2003)

【04】【93】英文学 A(4)

Jane Austen 著 *Northanger Abbey* を読む 講師 草光俊雄

授業科目の内容：

Austen の *Northanger Abbey* は、想像力たくましい若々しい主人公キャサリン・モーランドの成長と恋愛を、ファッショナブルな保養地バースでの社交会から恋の相手のお屋敷ノーサンガー・アベイへと舞台を移しながら、同時代の世相を風刺的に描きだした作品です。物語を味わうと同時に 18, 19 世紀のイギリス社会について考えてみたいと思ひます。

テキスト：

Jane Austen, *Northanger Abbey* (Penguin Classics)

参考書：

The Cambridge Companion to Jane Austen (eds. Edward Copeland and Juliet McMaster)

【04】【93】英文学 B(4)

『指輪物語』と『ロード・オブ・ザ・リング』の背景を探る 講師 伊藤 壺

授業科目の内容：

映画『ロード・オブ・ザ・リング』の原作(*The Lord of the Rings*: 邦題『指輪物語』)は、現在のファンタジーの隆盛を生んだ作品ですが、その影響や作品の背景について、多くは知られていません。トルキンの著した他の著作の解説も含めて、映画では見られないトルキン作品の真の理解を行います。

授業は講読を主体とし、解説する形で講師による講義も行います。

テキスト：

Tom Shippey. *J. R. R. Tolkien: Author of the Century* (London: Harper Collins, 2001)

参考書：

Tom Shippey. *The Road to Middle-Earth*. Rev. ed. (London: Harper Collins, 2005)

【04】【93】英文学 C(4)

支配と階層を描く女性作家 講師 中村哲子

授業科目の内容：

アングロ・アイリッシュの作家である Maria Edgeworth (1768 - 1849) と Sydney Owenson (1776 - 1859) ,さらにイングランド的な世界を描いた Jane Austen (1775 - 1817) に焦点を合わせ、18 世紀末か

ら 19 世紀初頭にかけての女性作家の文学世界を歴史的、社会的状況を踏まえて解き明かします。フランス革命やブリテンのアイランド併合を経験した社会変革期に、政治的な支配関係と階層の問題が女性作家によってどのように描かれたのかは興味深い問題といえます。

授業では、各作家の代表作に目を向けてその作品への理解を深めるとともに、作品にかかわる個別事項（アイランド土地問題、グランド・ツアー、小説の語りの形態など）についても幅広く触れ、作品を手がかりとしてこの時代を歴史的、社会的、文化的に学んでいきます。作品に直接触れることが文学を学ぶ基本であるため、学生には Castle Rackrent（地域小説の代表作）を読んでもらい、重要な批評論文にも触れる機会を作ります。

テキスト：

Maria Edgeworth, *Castle Rackrent*, Oxford World's Classics (Oxford: Oxford University Press, 1995). <購入に関しては授業で指示する。>

参考書：

マライア・エッジワース『ラックレント城』大嶋磨起・大嶋浩訳 開文社出版 2001 年

【04】【93】英文学 D (4)

二十世紀イギリス詩演習 講師 富士川 義之

授業科目の内容：

二十世紀イギリス詩のアンソロジーを読む。トーマス・ハーディ、W. B. イエイツ、T. S. エリオット、D. H. ロレンス、W. H. オーデンなどの代表作を精読しながら、二十世紀イギリス詩の歴史を概観するとともに、詩の面白さ、魅力を少しでも伝えられるような授業にしたいと考えている。

テキスト：

Modern English Poetry: A Selection (開文社)

参考書：

随時指示する。

【04】【93】英文学 E (4)

書物史から見た英文学 「書物の敵」と「書物愛」
教授 W 宮利行
三田の英米文学専攻の専任教員ほか

授業科目の内容：

昨今アメリカを中心に、書物の社会史ともいべき書物史が盛んとなり、例えばペンシルヴァニア州立大学には書物史学部が誕生し、書物史学会 (SHARP) や初期書物学会は定期的に国際会議を主催、研究所の数も増大の一途である。

そこで今回、三田の英米文学専攻の教員を中心として、英米文学における書物史をオムニバスで展開することとした。なお、デジタル書物学に関心のある諸君は HUMI プロジェクトのメンバーによる「英文学」もあわせて履修することをお奨めしたい。

参考書：

教室で適宜指示します。

【04】【93】英文学 F (4)

アーサー王物語の魅力 教授 W 宮利行

授業科目の内容：

アーサー王伝説の起源と発展、現代における受容の諸相を、歴史、文学、音楽、美術、映画などを通して多角的に扱う。

テキスト：

▽宮利行『アーサー王物語の魅力』秀文インターナショナル

参考書：

▽宮利行『アーサー王 歴史と伝説』東京書籍、『アーサー王伝説万華鏡』新中央公論社

【04】【93】英文学 G (4)

Oscar Wilde とイギリス世紀末文学

教授 河内 恵子

授業科目の内容：

華麗でありながら暗く、残酷な面を内包していたイギリス 19 世紀末文学の本質を Oscar Wilde の作品を通して考察してみたい。美しい英語で書かれた短編小説をさまざまなアスペクト（デカダンス、ゴシック性、ホモセクシュアリズム etc.）から検討し、その後、他のジャンルへと考察をひろげていきたい。

テキスト：

開講時に指示する。

参考書：

河内恵子『深淵の旅人たち』慶應義塾大学出版会：2004

【04】【93】英文学 H (4)

イギリス文学と絵画

教授 松田 隆美

授業科目の内容：

ルネサンス期には詩と絵画を姉妹芸術とみなす伝統が存在したが、文学と絵画はしばしば題材やモチーフを共有し、また書物においてテキストと挿し絵は相互補完的な関係を保ってきた。この講義では、中世から 19 世紀のイギリス文学を対象として、文学と絵画（写真を含む）との主題の共有、作品中に登場する美術品の役割、書物（中世写本を含む）における挿し絵とテキストの関係、図像学的アプローチの文学研究への有効性など、さまざまなトピックについて考える。文学と絵画との比較研究のための方法論を学ぶことを目的とするため、授業は講義と与えられた課題についての受講者による報告とで構成される。

テキスト：

主にプリントを配布。

【04】【93】英文学 (4)

HUMI プロジェクトのデジタル情報処理

教授 W 宮利行

教授 松田 隆美

教授 アーマー、アンドルー

DMC 特別研究助教授 榎村 雅章

授業科目の内容：

本講座は、人文科学分野における情報処理の基本手法を、実習を通じて修得できることを目的としている。思想、芸術、文学、歴史などの分野における網羅的な専門情報を収集して整理・分析し、わかりやすい形で公開することは、文学部が社会から要請されている活動であるという認識のもとに、実際 HUMI プロジェクトで貴重書を対象としてそうした活動を続けている担当者らが、西洋の書物史や英文学の分野で具体的な課題を設定して、人文科学的な基礎知識や技術背景に関する講義、ディスカッション、パソコンやデジタル画像入力機器などを用いたデジタル・コンテンツの製作実習、発表会（プレゼンテーション）などさまざまな形での授業によって、実践的に指導を進めていく。

実習は次のような内容で行う予定である。

- ・ワープロを用いたテキスト（文章）情報の整理や、持論の展開（Microsoft Word や Adobe Acrobat を使用）
 - ・デジタル画像やグラフィックと、専用ツールを用いたオンスクリーン・プレゼンテーション（Adobe Photoshop や Microsoft PowerPoint などを使用）
 - ・データベースソフトを用いた情報のより高度な整理や、Web コンテンツの制作とインターネットを利用した公開（Filemaker Pro や Web ページ制作ソフトを使用）
- という意欲を持つ諸君の参加を期待する。

【04】【93】米文学 A (4)アメリカ文学における宗教と倫理 講師 佐藤 光重

授業科目の内容：

春学期は 17～18 世紀、植民地時代におけるピューリタン文学を解説する。

秋学期は主として H. D. Thoreau の *Walden* (初版 1854 年、邦訳『森の生活』) を読み進め、代表的な自然文学者 (Gilbert White, Rachel Carson, Aldo Leopold, Anne M. Lindbergh など) を適宜取り上げる。

時間が許せば、近年話題を集めるエコ・ツーリズムや観光論、レジャー論などを通してアメリカ文学における自然・環境の諸問題を考えたい。

テキスト：

H. D. Thoreau, *Walden* (Dover 版)

参考書：

- ・ Lorraine Anderson, et al. eds., *Literature and the Environment* (Addison Wesley-Longman, 1999) .
- ・ Gilles Gun, ed., *Early American Writing* (Penguin, 1994) .
- ・ Perry Miller, *Errand into the Wilderness* (Harvard UP, 1956) (邦訳『ウィルダネスへの使命』向井照彦訳, 英宝社, 2002 年)
- ・ 伊藤詔子『よみがえるソロー ネイチャーライティングとアメリカ社会』(柏書房, 1998 年)

【04】【93】米文学 B (4)Mark Twain と Toni Morrison のスレイヴ・ナラティブを読む 講師 白川 恵子

授業科目の内容：

本授業では、奴隷の母親による子供に対する犯罪物語について考察する。具体的には、前期は、Mark Twain の *Pudd'nhead Wilson and Those Extraordinary Twins* を、後期は、Toni Morrison の *Beloved* に焦点を当てる。世紀転換期に書かれた白人男性作家作品と 1980 年代の黒人女性作家による slave narrative を通読することによって、両者における奴隷制表象、犯罪の悲劇の差異について考える。*Pudd'nhead Wilson* に付加された *Those Extraordinary Twins* は、奴隷制とシャム双生児の身体的レトリックの相関を提示し、フリークス論への接続やエドガー・アラン・ポウ、およびトウエイン自身の他作品との比較も可能となるだろう。また母親による子殺しを描く *Beloved* の考察に際しては、ストウやコンデ作品のみならず、他の奴隷体験記との比較検討も射程に入れる予定。時間が許せば批評や図版・映像なども導入したい。

テキスト：

(前期) Mark Twain, *Pudd'nhead Wilson and Those Extraordinary Twins*. 1894. NY: Modern Library, 2002.(後期) Toni Morrison, *Beloved*. 1987. NY: Vintage, 2002

参考書：

- ・ Mark Twain, *The Prince and The Pauper*.
 - ・ Edgar Allan Poe, *Complete Tales and Poems*
 - ・ Darin Strauss, *Chang and Eng*.
 - ・ Harriet Beecher Stowe, *Uncle Tom's Cabin*.
 - ・ Maryse Conde, *I Tituba, Black Witch of Salem*.
 - ・ Sherley Ann Williams, *Dessa Rose*.
 - ・ Harriet Jacobs, *Incidents in the Life of a Slave Girl, Written by Herself* など
- その他参考資料、批評等は、適宜配布する。

【04】【93】米文学 C (4)オリエンタリズム再考 講師 村上 由見子

授業科目の内容：

今再び「オリエンタリズム」を考え、私たちを取り巻く状況を併せて考えていきます。サイードの著書をテキストにし、授業では特に「アラブ・ムスリムをめぐる表象」について、文学、絵画、写真、ハリウッド映画など欧米の表象史から具体的に検証していく予定です。

す。私たちの知らないアラブ・ムスリムを探る機会とし、夏休みのレポートは個人のテーマを深めるのを目的とした上で、学んだことを広く共有していく場としましょう。

テキスト：

エドワード・W・サイード『オリエンタリズム(上)(下)』(平凡社ライブラリー、各 1500 円)

【04】【93】米文学 D (4)

ピューリタニズムとアメリカン・ナラティブ

講師 難波 雅紀

授業科目の内容：

17 世紀ニューイングランドに根付いたピューリタニズムが、後のアメリカ文化の形成にどう関わっていったか考えます。ピューリタニズムの神学を理解した上で、その宗教言説が精神的自叙伝という文学ジャンルに変容していく経緯を中心に考察します。

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書：

(松柏社, 1999)

【04】【93】米文学 E (4)

ハリウッド映画

講師 渡部 桃子

授業科目の内容：

アメリカ文化のある部分を確実に表象しているとされるハリウッド映画の歴史をたどり、またハリウッド映画についての評論をいくつか読んでいく。ハリウッド映画を「見る / 読む」1 つの方法を学ぶこともめざしていきたい。授業で取り上げる作品は、授業時間外に見ておくことが望ましい。なお、授業の後半はディスカッションの時間とする。

テキスト：

プリントで配布。

参考書：

初回の授業で提示。

【04】【93】米文学 F (4)

アメリカ音楽文化史

講師 大和田 俊之

授業科目の内容：

植民地時代の音楽文化からブルースやジャズの誕生を経て、ヒップホップなどの成立にいたるアメリカ音楽史を社会や政治との関わりにおいて概観する。春学期は講義を中心とし、それぞれのジャンルの起源を系譜学的に考察する。秋学期は、アメリカ音楽史に関する主要な論文を読むことで、学術的分析の手法の習得を目指す。

テキスト：

適宜指示する。

参考書：

適宜指す。

【04】【93】アカデミック・ライティング A (2)

Academic Writing A

助教授 スネル, ウィリアム J.

授業科目の内容：

The aim of this course is to introduce and develop skills in academic written English for students who are required to complete their graduation thesis in that language.

テキスト：

A. Armour, 河内恵子, 松田隆美, W. Snell『アカデミックライティング応用編 文学・文化研究の英語論文作成法』慶應義塾大学出版会 発行年: 1999 年 本体価格: 2,000 円 .

In addition to this text, photocopied materials will be used.

参考書：

To be announced at an early stage in the course.

【04】【93】アカデミック・ライティング B (2)

助手 W 橋 勇

授業科目の内容：

アカデミックな論文の目的は、論理的な文章で読者を納得させることです。しかしこれを効率的に執筆するためには、ただ注意深く書けばよいというものでもなく、多くの場合いくつかの手続きが必要となります。このクラスでは論文や研究発表をどのように構想し構成するか、主として技術的な面から指導してゆく予定です。

テキスト：

ジョセフ・ジバルディ『MLA 英語論文の手引』第6版（北星堂書店，2005年）

参考書：

授業中に適宜指示します。

【04】【93】アカデミック・ライティング C (2)

講師 松川 祐子

授業科目の内容：

どのようにして自分の意見を明確な英語で文章にして読み手を説得するのかを勉強し、練習します。与えられたテーマについての自分の意見や主張を探るためのアイデア引き出し方法から始めます。その次に意見と分析方法を示す thesis statement の書き方、段落の構造、論理の組み立て方、conclusion の書き方等を学びます。その他には読者説得術、引用方法や参考文献リストの作成法、自分のライティングの手直し方法なども取り上げます。授業は、ディスカッションに加え、個人及びグループでの作業が行われます。

テキスト：

未定。（履修者と相談の上、適切なものを選び、教室で販売します）

参考書：

授業中に紹介します。

【04】【93】アカデミック・ライティング D (2)

助教授 大串 尚代

授業科目の内容：

英語で論文・発表原稿を書くための基礎的なスキルを身につけることを目的とする。パラグラフ・ライティングからはじめ、論文を書くための準備段階であるリサーチ方法、論の立て方、ドラフトの作成・推敲、注釈・ビブリオグラフィの付け方などを学ぶ。

テキスト：

Gibaldi, Joseph. *MLA Handbook for Writers of Research Papers*. 6th ed. New York: MLA, 2003.

【04】【93】アカデミック・ライティング E (2)

論文を英語で書く 講師 狩野 みき

授業科目の内容：

英語で論文を書くためのクラスです。英語論文の構成のあり方や、論文を書く上でのルールの習得に重点を置きますので、ある程度の英語力のある人のみ受講して下さい。各々、ある程度の長さのエッセーを毎回提出してもらい、皆でその内容を詳しく検討し、どうすればよりよいものができるかを考えていきます。

【93】英文学史 (4)

休講

【93】米文学史 (4)

休講

独文学専攻

必修科目

【04】テキスト研究中級(2) 金曜1限

【93】作品研究 (2)
ドイツ語テキスト解説の手引き 教授 大宮 勲一郎

授業科目の内容:

初級文法をひととおり履修した履修者を対象に、内容のあるドイツ語のテキストを読む練習をする。はじめはゆっくり、徐々にスピードを上げて読んでゆきたい。テキストは Adalbert Stifter (1805-68) の短編集 Bunte Steine (1853) の Vorrede, Einleitung および Bergkristall (1845) を用いる。

文法事項の説明も時に行う。

テキスト:

A.S.: Bergkristall (dtv) を使用する予定。

【04】テキスト研究上級 A(2) 火曜4限

【93】作品研究 (2)
ヴォルフガング・ボルヒェルト研究
教授 柴田 陽弘

授業科目の内容:

「Wolfgang Borchert (1921 - 1947) その生, その死」

ドイツを代表する反戦作家ボルヒェルトの珠玉の詩と作品を精読しながらその精神世界を考える。

テキスト:

Wolfgang Borchert: Das Gesamtwerk. Hamburg 1949

参考書:

Peter Rühmkorf: Wolfgang Borchert. Reinbeck bei Hamburg 1961 etc.

【04】テキスト研究上級 B(2) 火曜3限

【93】作品研究 (2)
読みの技術を磨く 教授 和泉 雅人

授業科目の内容:

この授業の目的は、ドイツ語読解能力をあげることにあります。参加者のレベルは問いませんが、文法を「一通りはやった」人なら大丈夫です。「一通りやった」というのは、一年間文法だの読解だの会話だのを習ったが、定冠詞の変化をすぐ言えといわれてもあやしい、指示代名詞といわれてもさっぱりわからない、接続法はなにかを接続するためのテクニックだと思っている、ような人のことを指します。さらに独文や他専攻、他大学の大学院をドイツ語で受験したいという動機づけのある人は歓迎します。授業は予習が前提なので、予習しない人は受講しないように。授業では解釈の誤りを機械的にびしびし指摘しますが、こちらに他意はなく、また個人的に怒っているわけでもないので、そういう指摘を受けても平気な人は歓迎です。学生は間違いを指摘される権利があり、教師は指摘する義務があるから、指摘しているわけで、いちいち学生の個人的な感情につきあってはいただけませんので、間違いを指摘されると落ち込む、という人にはお勧めできない授業です。とにかく半年間あるいは一年間でドイツ語の実力をアップしたいという人にはお勧めです。発表もあります。なにを読むかという材料は未定です。現在のところ大学院の入試問題、小説、論文などを考えています。いずれにせよ実践的知識の習得をめざしたいと思います。

テキスト:

資料はコピーで配布します。この授業を履修しない人は資料を受け取らないでください。

参考書:

開講時に指示するほか、HP 上にも掲載する

【04】ドイツ語作文初級(2) 木曜3限

【93】ドイツ語表現演習 (初級作文)(2)
Schreiben für Anfänger
訪問講師(招聘) ドゥッペルータカヤマ, メヒティルド

授業科目の内容:

In diesem Kurs lernen die Teilnehmer, kurze Texte (E-Mails, Reportagen, kleine Geschichten) zu schreiben. Am Ende des Jahres werden wir eine Zeitschrift veröffentlichen.

テキスト:

プリントを配布します。

【04】ドイツ語作文中級(2) 月曜3限

【93】ドイツ語表現演習 (中級作文)(2)
講師 シュミット, ウーテ

授業科目の内容:

ドイツ語の表現力のアップを目指し、小テキスト作成の練習をします。Zentrale Mittelstufenprüfung のときに試験の一部としてプライベートな手紙・オフィシャルな手紙・読者の意見・小レポートを書くことが要求されます。このテキストの種類を作成するための書き方や表現も練習します。ネタになるドイツ語のテキスト・グラフ・表などはドイツの新聞やインターネットから取りますので、時事ドイツ語に役立ちます。テキストを書くことはどうしても時間がかかりますのでテキストの作成は宿題となります。テキストの長さは長い場合 A4 1 枚までです。提出した宿題は評価します。試験はありません。

In diesem Kurs soll das Verfassen von kurzen Texten geübt, wie sie z. B. auch bei der Zentralen Mittelstufenprüfung des Goethe-Instituts verlangt werden. Textformen sind dabei persönlicher Brief, offizieller Brief, Leserbrief oder Referat, worin Sie Ihre Meinung ausdrücken oder einen bestimmten Sachverhalt darstellen müssen. Die dazu notwendigen Formen bzw. Redewendungen werden im Unterricht vermittelt und geübt. Als Material werden aktuelle Texte aus Zeitungen oder dem Internet verwendet. Eine schriftliche Abschlußprüfung mache ich nicht, aber die Teilnehmer müssen als Hausaufgabe Texte erstellen, die ich dann bewerte. Keine Angst, die Texte müssen nicht lang sein (bis A4 1 Seite).

テキスト:

コピー

参考書:

なし

【04】コミュニケーション・ドイツ語中級 A(2) 火曜3限

【93】ドイツ語表現演習 A(初級会話)(2)
Konversation für fortgeschrittene Anfänger
訪問講師(招聘) ドゥッペルータカヤマ, メヒティルド

授業科目の内容:

ドイツ語を一通り学習した学生のためのドイツ語会話。

日常生活に必要なドイツ語を覚えて、様々なテーマについて自分の意見をドイツ語で表現できるようになるのが目的です。

テキスト:

Projekte (同学社, 2005 年, 2,500円)

【04】コミュニケーション・ドイツ語中級 B(2) 木曜2限

【93】ドイツ語表現演習 B(初級会話)(2)
Konversation für fortgeschrittene Anfänger
訪問講師(招聘) ドゥッペルータカヤマ, メヒティルド

授業科目の内容:

ドイツ語を一通り学習した学生のためのドイツ語会話。

テキスト:

Projekte (同学社, 2005 年, 2,500円)

【04】コミュニケーション・ドイツ語上級 A (2) 木曜 2 限

【93】ドイツ語表現演習 A (2)

Konversation und Aufsatz für Fortgeschrittene

教授 フュルンケース, ヨーゼフ

授業科目の内容:

Ziel der Übung ist die mündliche und schriftliche Kommunikations-
schulung. Ausgehend vom Hörverständnis und Lesevermögen sollen
die Sprechfähigkeiten und Schreibfertigkeiten der Teilnehmer
verbessert werden.

Durch den produktiven und reproduktiven Umgang mit aktuellen
Themen und Texten aus Deutschland sollen auch die Diskursformen
der deutschen Bildungssprache, wie sie in Presse und Medien
erscheinen, nähergebracht werden. Thematische Anregungen von
seiten der Teilnehmer sind willkommen.

テキスト:

Ausgangstexte werden als Kopien vor dem / im Unterricht verteilt.

【04】コミュニケーション・ドイツ語上級 B (2) 火曜 2 限

【93】ドイツ語表現演習 B (中級会話) (2)

Konversation für die Mittelstufe

訪問講師 (招聘) ドゥッペルータカヤマ, メヒティルド

授業科目の内容:

In diesem Kurs soll Deutsch hören und sprechen geübt werden.
Auf der Grundlage der Video-Serie "Hauptstraße 117" werden
Themen aus dem Alltag in Deutschland behandelt.

テキスト:

プリントを配布します。

参考書:

【04】ドイツ文法研究 (2) 火曜 4 限

【93】ドイツ語学演習 (2)

中級文法を学ぶ 経済学部 教授 中山 純

授業科目の内容:

ドイツ語を正しく理解したり使ったりするためには、初歩的な変
化規則を練習しただけでは十分ではありません。話法や態の選択、時
称の使い方、複合前置詞、品詞の転換などを含む造語の知識など、
初級文法では扱いきれていない項目がたくさんあります。

この授業ではさまざまな練習を通して、初級文法で教わった事
からの定着を図り、さらに一步上の語学力の習得を目指します。

テキスト:

プリントを配布します。

参考書:

授業中に指示します。

【04】ドイツ文学史 (4) 金曜 3 限

【93】ドイツ文学史 (4)

文学史と文化史 教授 和泉雅人

授業科目の内容:

この授業ではドイツ文学史を中心に講義しますが、文化史、思想
史、建築史、絵画史、技術史その他にも目配りを忘れないようにし
たいと思っています。文学史はドイツ史の知識があって初めて理解
できますから、最初はドイツ史の簡単な復習をおこないます。また
随時ドイツ史へ言及して、現在扱っているテーマがどの歴史的位
置にあるのかを意識するようにしましょう。

文学史を縦軸にして、それを交差する形で上記の文化的以下のト
ピックを扱っていきます。面白そうな現象に出会ったら、それを逃
さず、少し立ち止まって観察してみることにします。文学史は古代・
中世から始まりますが、現代までいきたいと考えています。広く浅
くという感じになるのではと思います。

参加者には小さなテーマ (たとえば「職匠歌」など) についての
簡単な 3 分間レフェラートをしてもらいます。また可能であればグ

ループ学習の試みもしてみたいと思っています。

授業はパワーポイントを使用しながら行ないます。図版やできれ
ば AV も使用したいと考えています。100 のテキストより一枚の画像
で理解できることは多いです。しかし画像では理解できないこと、テ
キストによってしか理解できないことも多いので、バランスよく材
料を提示していきたいと思います。

テキスト:

毎回資料を配布します。

参考書:

開講時に指示するほか、HP 上にも掲載する

【04】ドイツ文化史 (4) 水曜 5 限

【93】ドイツの文学と中世 (4)

ドイツ中世の文学と思想 講師 香田 芳樹

授業科目の内容:

この授業は、中世ドイツを代表する文学作品を、従来とは違った
文化史的な視点から解説していくことを目的としています。とくに
中世を「脱神話化の時代」と位置づけ、作家たちが民族固有の神話
的素材をどのように文学へと作りかえていったかをみていきます。ま
たそれと平行して、現代の芸術作品 (ファンタジー文学・音楽・演
劇) に中世の英雄叙事詩、恋愛叙情詩、神秘思想が与えた影響につ
いても考察します。できるだけ多くの原典 (翻訳) に当たり、映像
資料も使って、ヨーロッパ文化に今も息づく意識の古層に迫りたい
と思います。

テキスト:

講義資料のプリントを配布します。

参考書:

ヨアヒム・ブムケ『中世の騎士文化』(平尾浩三他訳)

【04】ドイツ語学研究 (4) 月曜 2 限

【93】ドイツ語学 (4)

教授 中山 豊

授業科目の内容:

現代ドイツ語の文法体系を概観し、既習の文法知識を確固とした
ものにすることを目的とします。演習を伴う講義ですから参加者
には積極的な関与を期待します。

テキスト:

プリント

参考書:

教室で指示します。

【04】メディア研究 (4) 火曜 3 限

【93】ドイツの文学と現代 (4)

Kulturnation oder Nationalstaat? Die deutsche Frage im Spiegel
der deutschen Literatur

教授 フュルンケース, ヨーゼフ

授業科目の内容:

"Deutschland? Aber wo liegt es? Ich weiß das Land nicht zu fin-
den. Wo das gelehrte beginnt, hört das politische auf." Die Frage nach
"Deutschland", die Goethe und Schiller 1796 in der gemeinsamen
Epigramm-Sammlung der "Xenien" so prägnant formulierten, hat seit-
her in immer neuen Variationen die wechselvolle deutsche
Geschichte begleitet. Europäische Nachbarn, z.B. Frankreich und
England, haben den Deutschen wiederholt ein teils zu schwaches
(Vielstaaterei, Föderalismus, Kosmopolitismus), teils zu starkes
(Nationalismus, Militarismus, Mystizismus) Nationalbewußtsein
vorgeworfen. Deutsche Dichter und Denker, Schriftsteller und
Publizisten sind ihrerseits im Versuch der Selbstvergewisserung bis
heute nicht müde geworden, (selbstpreisende oder selbstkritische)
Antworten auf die deutsche Frage zu finden: Kulturnation oder
Nationalstaat?

Um die Frage im Spiegel der deutschen Literatur zu konkretisieren,
werden (kürzere) Texte ab dem 18. Jahrhundert ausgewählt: von u.a.
Goethe, Schiller, Hölderlin, Fichte über Heine, Nietzsche, Thomas

Mann, Brecht, Ernst Jünger bis zu Grass, Martin Walser, Botho Strauß.

テキスト：

Zur Einführung empfohlen: Deutschland! Deutschland? Texte aus 500 Jahren von Martin Luther bis Günter Grass. Herausgegeben von H. L. Arnold, Fischer Taschenbuch Verlag Nr. 15480, Frankfurt am Main 2002. Texte und Materialien werden als Kopien zur Verfügung gestellt, weitere Literatur wird zu Beginn angegeben.

【04】ゲーテ時代研究 (4) 月曜 3 限
【93】スイス・オーストリアの文学と社会 (4)
グリム・メルヘン研究 教授 柴田 陽 弘

授業科目の内容：

「メルヘンの文化史」
たくさん映画を鑑賞しつつ、グリムとその時代、グリムの影響、メルヘンの文化史を論じます。

(1) グリム時代の文化史 (2) グリムの仕事とその遺産 (3) グリム・メルヘンの風景 (5) メルヘンの子どもたち (6) 赤頭巾ちゃん (7) いばら姫 (8) 白雪姫 (9) 眠れる森の美女 (10) 魔女と魔法 (11) 美女と野獣 (12) ディズニーとグリム etc.

テキスト：

春学期：柴田陽弘編著『風景論の研究』(慶應義塾大学出版会, 2006年)

秋学期：柴田陽弘編著『文学の子どもたち』(慶應義塾大学出版会, 2004年)

参考書：

- ・『ミッキー・マウス ディズニーとドイツ』(柴田陽弘監訳, 現代思潮新社 2002)
- ・『啓蒙主義事典』(柴田陽弘監訳, 現代思潮新社 2006)
- ・『自然と文学』(柴田陽弘編著, 慶應義塾大学出版会 2004年)
- ・『恋の研究』(柴田陽弘編著, 慶應義塾大学出版会 2005年) etc.

【04】ドイツ文化研究 (4) 月曜 4 限
【93】ドイツ文化論 (4)
シンデレラ研究 教授 柴田 陽 弘

授業科目の内容：

「シンデレラの恋」の研究。
たくさんメルヘン映画やファンタジー映画、とりわけ「シンデレラ」映画を鑑賞しながら、その構造・登場人物・風景・主題など多方面から分析考察する女性論。シンデレラ症候群からみる「恋」の研究。恋愛映画による「恋の考現学」です。

テキスト：

春学期：柴田陽弘編著『恋の研究』(慶應義塾大学出版会, 2005年)

秋学期：柴田陽弘編著『文学の子どもたち』(慶應義塾大学出版会, 2004年)

参考書：

- ・柴田陽弘監訳『ミッキー・マウス ディズニーとドイツ』(現代思潮新社, 2002年)
- ・柴田陽弘編著『自然と文学』(慶應義塾大学出版会, 2004年)
- ・柴田陽弘編著『風景論の研究』(慶應義塾大学出版会, 2006年) etc.

【04】ドイツ文化研究 (4) 水曜 2 限
【93】ドイツの文学と近代 (4)
ヤーコプ・ブルクハルトを読む 助教授 糸川 麻里生

授業科目の内容：

19世紀スイスの歴史家ヤーコプ・ブルクハルトは、その独自の歴史把握と文化史観で、ニーチェなどにも深い影響を与えた思想家でもありました。文明史の大きな曲がり角を通過しようとしている現代人にとっても、さまざまな認識、洞察を与えてくれる存在です。「文明史」、「文化論」とは何かを考えつつ、ブルクハルトの文章を少しずつ読んでみたいと思います。

テキスト：

- ・『ヤーコプ・ブルクハルト ちくま学芸文庫』(カール・レーヴィット著 筑摩書房)
- ドイツ語テキストはコピーで配布。

参考書：

- ・『ブルクハルト Century Books 人と思想』(西村貞二著 清水書院)
- ・『比較文化論の試み 講談社学芸文庫』(山本七平著 講談社)

【04】ドイツ文化研究 (4) 火曜 2 限
【93】ドイツの文学と近代 (4) 教授 和泉 雅人

授業科目の内容：

現在のところはまだ決定できていませんが、以下のテーマのうちから前期後期それぞれひとつを(あるいは全部を)扱う予定です。決定次第、私の研究室横の掲示板に掲示するほか、HP上にも記載します。人数が少ない場合(10人以下)はゼミ形式にしたいと思いません。ゼミ形式の場合、ドイツ語の知識(一年生終了程度)は必須です。また発表もしてもらいます。

- 1) ロマン派絵画への解釈の試み
- 2) 庭園論
- 3) 空間論
- 4) 塔の系譜学
- 5) ペガサスと天馬論
- 6) 満州の都市ユートピア戦争

テキスト：

毎回資料を配付します。

参考書：

開講時に指示するほか、HP上にも掲載する

【04】ドイツ文学研究入門 (4) 水曜 1 限
【93】ドイツの文学理論 (4)
文学の諸理論 教授 大宮 勘一郎

授業科目の内容：

文学の理論と呼ばれるものは数々あるが、文学ないし文芸作品がやまず書かれ続けている限り、それについての理論も、必然的に浮き沈みや変動に晒されざるをえない。とりわけ近代文学の動向と理論の動向は、後者が前者の自意識の所産であるだけに、切っても切れない関係にある。とはいえ、世の雲行きによって、昔の理論が甦ることもある。本授業は、文学理論のあれこれを歴史的に概観し(前期)、20世紀の文学作品と文学理論の関係を具体的な作品テキストにそって考えてみたい。

参考書：

授業内で指示します。

【04】現代ドイツ研究 (4) 木曜 4 限
【93】ドイツ文学史 (4)
現代ドイツ文学の「ユーモア」 助教授 糸川 麻里生

授業科目の内容：

「人類の将来に希望などどうやったらもてるんだ？」と叫びたくなる昨今ですが、現代ドイツ文学また映画の中には、「笑い」や「ユーモア」が重要なモチーフや味付けとして登場してくることがまれではありません。1990年代以降のドイツ語圏作家たちがひねり出した文章の中に、「ユーモア」を見つけ出して、味わってみましょう。

テキスト：

コピーで配布します。

参考書：

教室で適宜指示します。

【04】現代ドイツ研究入門(4) 金曜 5 限

【93】ドイツの歴史と社会(4)

ドラマにみられるドイツ社会 / 社会における「演出」

助教授 平田 栄一朗

授業科目の内容:

演劇および演劇学的なモチーフと方法論をもとにドイツのさまざまな社会現象を検証することで、社会を分析する学問的方法を会得することを本講義の目的としています。春学期では19世紀中葉から現在にいたる戯曲を素材として、ドイツ近代化の歴史の変遷をたどります。また舞台映像を見てもらい、取り上げる作品の理解も深めてもらいます。秋学期では現代ドイツ社会にみられる演出的作爲の事例を演劇社会学的なアプローチで論じます。

参考書:

Herbert Wilems, Martin Jurga (Hrsg.): *Inszenierungsgesellschaft* (Westdeutscher Verlag)

【04】ドイツ語学文学ゼミナール (2) 月曜 5 限

【93】ドイツ語学文学研究会 (2)

メルヘン研究 / ファンタジー研究 教授 柴田 陽 弘

授業科目の内容:

エンデの『はてしない物語』を精読する。

ファンタジー映画 / メルヘン映画を鑑賞し分析する。

ファンタジーの要素、構造、本質について考察する。

テキスト:

Michael Ende: *Die unendliche Geschichte*. München 2001

参考書:

エンデ全集(岩波書店) etc.

【04】ドイツ語学文学ゼミナール (2) 水曜 2 限

【93】ドイツ語学文学研究会 (2)

化ける狐と騙す狐 狐のフォークロア

教授 和泉 雅 人

授業科目の内容:

今年度は動物表象論の一環として、狐の化身表象を扱います。日本の狐は化けるが西洋の狐は化けられない、ということの原因をどこに求めればいいのか。その化身の分岐線はおそらくインドか中近東あたりに引かれるだろうが、それを特定すること、そして化身と文化型との関連について考察してみることで、これがゼミの目的です。

資料は開講時に配布しますが、これは80頁あり、そのうちの30頁は図版です。残りの50頁を読むわけですが、これには図版がやたらと入っています。しかし、ドイツ語の量は多いです。

ゼミの中では各狐表象について発表をしてもらいます。田舎のある人は郷土に残っている狐にまつわる伝説、民話、言い伝え、ほら話などをしてもらえると大変ありがたいです。

テキスト:

開講時に資料を配布しますが、履修しない人は資料を受け取らないでください。履修しないが資料は必要だという人は自分でコピーするか、実費(1000円から3000円くらい)を支払って受け取ってください。

参考書:

開講時に指示するほか、HP上にも掲載する

【04】ドイツ語学文学ゼミナール (2) 火曜 5 限

【93】ドイツ語学文学研究会 (2)

Wladimir Kaminer: "Russendisko. Roman"(2000)

教授 フュルンケース, ヨーゼフ

授業科目の内容:

Wladimir Kaminer, 1967 in Moskau geboren und seit 1990 in Berlin lebend, ist in den letzten Jahren zu einem der gefragtesten Autoren Deutschlands geworden. Besonders sein autobiographisch geprägter Berlin-Roman "Russendisko" erfreut sich großer Beliebtheit.

Entsprechend dem Motto "Nie etwas ausdenken, sondern dem Leben vertrauen" erzählt Kaminer in schnörkelloser (deutscher!) Sprache und mit lakonischem Humor banale Geschichten aus dem multikulturellen Dickicht der deutschen Hauptstadt, wo Menschen verschiedener Herkunft - nebeneinander, miteinander, gegeneinander - ihren Alltag zu meistern suchen. So stellt das Buch zugleich einen literarischen Reiseführer ganz besonderer Art in Berlins Kulturszene dar.

Das gründliche Lesen des Textes soll zu sachlichem Kommentar und methodisch gesicherter Interpretation veranlassen.

テキスト:

Wladimir Kaminer: *Russendisko. Roman*, Verlag Goldman Manhattan, München 2002.

Kopien werden auf Wunsch zur Verfügung gestellt.

【04】ドイツ語学文学ゼミナール (2) 木曜 5 限

【93】ドイツ語学文学研究会 () (2)

パフォーマンス美学の理論と分析 助教授 平田 栄一朗

授業科目の内容:

1980年前後に隆盛を極めたパフォーマンスはここ数年ドイツおよびヨーロッパの劇場でふたたび活気づいています。なかでもグザヴィエ・ルロア、アラン・プラテル、リミニ・プロトコル、ベルリン・HAU 劇場などがパフォーマンスの新しい地平を劇場の内外で拓きつつあります。当ゼミナールは、これらの新しい試みと歴史的なパフォーマンスを分析する理論と実践に慣れることで、パフォーマンス美学のありようを把握することを目指します。春学期はエリカ・フィッシャー＝リヒテの『パフォーマンス美学』を輪読し、理論と分析方法の基礎固めを行います。秋学期では、春学期に学んだ理論を個々のパフォーマンス上演に援用し、上演分析を行います。

テキスト:

Erika Fischer-Lichte: *Ästhetik des Performativen*. (Suhrkamp Verlag)

参考書:

京都造形大学発行『舞台芸術 8 パフォーマンスの地政学』, Anthony Howell: *The Analysis of Performance Art* (Harwood Academic Publishers)

【04】ドイツ語学文学ゼミナール (2) 木曜 4 限

【93】ドイツ語学文学研究会 () (2)

カフカを読む 教授 大宮 勲一郎

授業科目の内容:

フランツ・カフカのテキスト群は、20世紀のドイツ文学を、さらにはあらゆる現代文学を考える上で避けて通れないものである。しかし、それらと向き合うためには、読者の側に求められることがいくつもある。解釈の自由が得られるのは、この条件を一旦満たした上でのことである。この授業では、予め幾つかの短いテキストを選び、皆でまずドイツ語原文を輪読する。そのうえで考える作業を皆で行う。

テキスト:

Franz Kafka: *In der Strafkolonie; Das Urteil; Der Landarzt; Der Bau u.a.* (コピーにて配布)

参考書:

各種邦訳

【04】ドイツ語学文学ゼミナール (2) 金曜 4 限

【93】ドイツ語学文学研究会 () (2)

ゲーテの『ファウスト』入門 助教授 桑 川 麻里生

授業科目の内容:

巨人ゲーテのライフ・ワークとも言うべき『ファウスト』を、1年間のゼミナールだけで読みこなせるはずありませんが、この複雑極まりない大作にどのような切り口で挑みかかる方法があるのか、そのいくつかだけでも体験してみましょう。なぜゲーテがこの作品に50年近くもこだわり続けたのか、それを予感的にでも感じることができたら、ひとつの財産となると思います。

テキスト：

- ・『「ファウスト第1部」を読む』(柴田翔著・白水社)
- ・『「ファウスト第2部」を読む』(柴田翔著・白水社)
- ・『ファウスト ちくま文庫・森鷗外全集 11』(筑摩書房)

参考書：

教室で適宜指示します。

【04】ドイツ語学文学ゼミナール (2) 水曜2限

【93】ドイツ語学文学研究会()(2)

教授 中山 豊

授業科目の内容：

ドイツ語学で卒論を作成する専攻生を対象とします。音韻論，形態論，統語論，意味論などのドイツ語学の核となる領域について概観しつつ，参加者の関心や希望に応じて特殊なテーマについても考えていきたいと思えます。

テキスト：

プリント

参考書：

- ・ Bußmann, H. (Hg.) (2002): *Lexikon der Sprachwissenschaft*. 3., aktual. u. erw. Aufl. Stuttgart: Kröner.
- ・ Glück, H. (Hg.) (2002): *Metzler-Lexikon Sprache*. 2. Aufl. Stuttgart: Metzler.
- ・ 萩野葦平 他編 (2005)：ドイツ語史小辞典，同学社

仏文学専攻

必修科目

【04】フランスの文化と歴史 (2)(春学期)

【04】フランスの文化と歴史 (2)(秋学期)

【93】フランスの文化と歴史(4)

フランスの過去と現在をよりよく知るために

教授 小倉孝誠

授業科目の内容:

フランスの文化、歴史、社会について、過去から現代までを概観する授業です。どのような分野であれフランスに興味がある、フランスのことを勉強している(あるいはしたい)という人のために、フランスに関する一通りの知識を身につけてもらうことを目的とします。必要に応じてビデオ、DVD、絵画、映画などを見ます。

テキスト:

プリントを配布します。

参考書:

都立大学フランス文学研究室編『フランスを知る』(法政大学出版局, 2003年)

【04】フランス語学演習 (X)(1)(春学期)

【04】フランス語学演習 (X)(1)(秋学期)

【93】フランス語学演習 (X)(2)

フランス語リーディング

助手 築山和也

授業科目の内容:

1年生で学習した文法項目を再確認しながら、まずはフランス語の講読に慣れることが目標となります。春学期はジョルジュ・シムノンの小説をフランス語学習者向けにリライトした平易な読み物を教材とします。秋学期は新聞・雑誌の記事や評論文など、それよりも少し高度な内容の文章にも取り組むつもりです。

テキスト:

〔春学期〕Georges Simenon, *Maigret et la grande perche*, CLE international, 2004.

〔秋学期〕プリントを配布

参考書:

教室で指示します。

【04】フランス語学演習 (Y)(1)(春学期)

【04】フランス語学演習 (Y)(1)(秋学期)

【93】フランス語学演習 (Y)(2)

教授 荻野安奈

授業科目の内容:

19世紀、20世紀の文学作品を中心にフランス語を通して「和文和訳」力を養います。なぜ和文和訳か、首をひねるところから始めましょう。(なおフランス文学のみならず、他国文学の和訳も用います。)

テキスト:

プリント使用

【04】フランス語学演習 (Z)(1)(春学期)

【04】フランス語学演習 (Z)(1)(秋学期)

【93】フランス語学演習 (Z)(2)

2年目の仏文法とリーディング 教授 宮林寛

授業科目の内容:

「仏検」3級・2級レベルに対応する実用フランス語を身につけるとともに、読解力の向上をめざす演習です。

テキスト:

〔春学期〕久松健一 Atout (駿河台出版社)

〔秋学期〕プリント使用。

【04】フランス語表現演習 (X)(1)(春学期)

【04】フランス語表現演習 (X)(1)(秋学期)

【93】フランス語表現演習 (X)(2)

教授 片木智年

授業科目の内容:

〔春学期〕実用フランス語の基礎づくりを目的にした演習です。急がば回れで、1年次に習ったはずの知識の徹底から始めます。動詞変化の自動化、基礎語彙の知識、聞き取り能力なくしては、当然のことですがコミュニケーションもままなりません。現代フランスの映像、ポップスなどの紹介にも努めて、息抜きのできるようにはいたしますが、学生諸氏の積極的参加と努力が要求されます。

〔秋学期〕前期でえた知識をさらに発展させます。

テキスト:

プリント

【04】フランス語表現演習 (Y)(1)(春学期)

【04】フランス語表現演習 (Y)(1)(秋学期)

【93】フランス語表現演習 (Y)(2)

助教授 喜田浩平

授業科目の内容:

フランス語を書く能力を高める授業です。和文仏訳ではなく、フランス語で考えながら自由に文章が書けるようになることが目的です。

テキスト:

教室で指示します。

参考書:

・『ラルース・やさしい仏辞典 NIVEAU 1』『ラルース・やさしい仏辞典 NIVEAU 2』駿河台出版社
・松原秀治、松原秀一『フランス語らしく書く』白水社
・原田早苗(他)『コレクション・フランス語7 書く』白水社
・クロード・ロベルジュ(他)『21世紀フランス語表現辞典』駿河台出版社

【04】フランス語表現演習 (Z)(1)(春学期)

【04】フランス語表現演習 (Z)(1)(秋学期)

【93】フランス語表現演習 (Z)(2)

フランス語のライティング練習 教授 鷲見洋一

授業科目の内容:

日吉で学んできた初等文法を活かして、フランス語で書く練習をします。いわゆる和文仏訳ではなく、所定のテーマについて直接フランス語で考え、作文できるようになることが目的です。決して難しいことはありません。フランスの子供が身の回りの事柄について、見よう見まねで喋ったり書いたりするのと同じです。

毎時間、単独で、あるいはグループ作業で、教科書や辞書に助けられながら、やさしいライティングのこつを学習します。

テキスト:

L'Immeuble, Hachette, 1996

参考書:

若干の辞書を紹介します。しかし、新学期に慌てて揃える必要はありません。

【04】フランス語表現演習 (X)(1)(春学期)

【04】フランス語表現演習 (X)(1)(秋学期)

【93】フランス語表現演習 (X)(2)

講師 ボダン, エマニュエル

授業科目の内容:

Dans ce cours d'expression orale, nous aborderons divers aspects de la culture française à partir de documents authentiques variés (chansons, BD, vidéos...)

L'assiduité aux cours est requise

L'évaluation reposera sur des tests semestriels et sur un contrôle

略 3) プルトン, バタイユ, マルロー, ブランショ, サルトルら当時の文学者の作品に見る社会的事件に対する彼らの反応, 彼らにとっての「書くこと」が持つ社会的意義の検討 4) ナンシー, ブランショ, デリダらによる「共同体」を巡る論考に照らしたバタイユ, カイヨワらの社会理論の解釈。

テキスト:

授業中にプリントを配布します。

参考書:

ジャン=ポール・サルトル「壁」, 「嘔吐」, 「文学とは何か」人文書院。ジュルジュ・バタイユ「文学と悪」ちくま学芸文庫, 「内的体験」現代思潮社, モーリス・ブランショ「焔の文学」現代思潮社, 「明かしえぬ共同体」朝日出版, ジャン=リュック・ナンシー「無為の共同体」朝日出版, フランス文学講座 5「思想」大修館, La France des années 30, Serges Berstein, Armand Colin

【04】フランス語学 (2)(春学期)

【04】フランス語学 (2)(秋学期)

【93】フランス語学(4) 助教授 喜田浩平

授業科目の内容:

フランス語を言語学的に研究するための入門的授業です。一般言語学の様々な方法論, 操作概念などをフランス語の具体例をあげながら紹介します。

テキスト:

プリントを配布します。

参考書:

教室で指示します。

【04】フランス語学演習 A(1)(春学期)

【04】フランス語学演習 A(1)(秋学期)

【93】フランス語学演習 A(2)
作家のラヴレターを読む 教授 小倉孝誠

授業科目の内容:

恋文(ラヴレター)は書くのも, 受け取るのも胸がときめくもの。現代の若者はE-メールや携帯メールで愛を告白したり, 恋心を伝えたりするのですが, かつてであれば手紙がそのための重要な手段でした。この授業では主に19, 20世紀の作家が書いた恋文(情熱的な恋文, せつない恋文, 醒めた恋文, 別れの手紙などいろいろです)を, 注のついた教科書版で読んでいきます。昨年度と同じテキストですが, 昨年度終えなかったページを読みますので, 繰り返しではありません。また時間に余裕があれば, 文学作品の中に出てくる恋文, 恋文に関する評論も取り上げる予定です。

テキスト:

『恋文』(小倉孝誠・小倉和子編)第三書房。生協で各自購入のこと。

授業の計画:

演習ですから毎回3名ほどが当番となり, 輪番制で授業を進めていきます。

【04】フランス語学演習 A(1)(春学期)

【04】フランス語学演習 A(1)(秋学期)

【93】フランス語学演習 A(2)
書き言葉と話し言葉 教授 川口順二

授業科目の内容:

教科書は現代フランスの生活文化をテーマとした文章で, 話し言葉の表現も入っています。書き言葉だけではなく, 話し言葉にも少し慣れてもらいたいと思っています。発音にも注意します。

テキスト:

倉方秀憲, T. Troude 著『ルールデュタン』(早美出版社), プリント

参考書:

教室で指示します。

【04】フランス語学演習 A(1)(春学期)

【04】フランス語学演習 A(1)(秋学期)

【93】フランス語学演習 A(2)

INITIATION A L'ANALYSE DE TEXTES LITTÉRAIRES

訪問助教授 ブランクール, ヴァンサン

[春学期]

授業科目の内容:

Le cours a pour but de se familiariser avec le vocabulaire de l'analyse littéraire, et avec les méthodes du commentaire de texte en français: étude de la structure, du vocabulaire, des procédés stylistiques, etc. Il s'appuiera sur des extraits de romans et des poèmes des XIX^{ème} et XX^{ème} siècles. L'analyse de chaque texte sera suivie d'exercices systématiques (lecture à haute voix, questions), devant aboutir à l'élaboration d'un court commentaire en français.

テキスト:

Textes distribués en classe

[秋学期] Lecture de textes journalistiques et littéraires

授業科目の内容:

Dans ce cours, les étudiants auront l'occasion de lire des textes littéraires et journalistiques. Ces textes feront l'objet d'une étude qui privilégiera l'aspect linguistique et qui sera accompagnée d'exercices permettant la maîtrise des expressions et des constructions nouvelles.

Les textes journalistiques seront l'occasion d'une initiation aux techniques de l'argumentation.

テキスト:

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書:

なし

【04】フランス語表現演習 A(1)(春学期)

【04】フランス語表現演習 A(1)(春学期)

【93】フランス語表現演習 A(2)
講師 シャルコフ, スヴェトラナ

授業科目の内容:

会話と発表を行う。(発表は年2回)

コミュニケーションスキルを上げるため。

テキスト

授業内で指示する

【04】フランス語表現演習 B(2)(春学期)

【04】フランス語表現演習 B(2)(春学期)

【93】フランス語表現演習 B(2)(春学期集中)
教授 片木智年

授業科目の内容:

専門コースに分類されていますが, 二年生のうちに集中的に力をつけたい学生を想定した「二年次インテンシヴ」科目です(もちろん, 基礎を徹底的に復習したい上級生も履修可能)。

演習は前期集中で週2回, 現時点では水3・木3を予定しています。

ヒアリングの集中訓練と同時に, 基礎語彙, 動詞変化, 基本構文を反射的に使えることを目的とした練習をします。宿題も毎回出ます。音楽や映像資料, マルチメディア教材を取り入れますが, 基本的には千本ノックのような演習です。目的意識がなければ辛いです。04 学則の適用学生は片方だけの履修も可能ですが, 効果は文字通り半減するおそれがあります。

【04】フランス語表現演習	A(1)(春学期)
【04】フランス語表現演習	A(1)(秋学期)
【93】フランス語表現演習	A(2)
LECTURE ET REDACTION	
訪問助教授 ブランクール, ヴァンサン	

〔春学期〕
 授業科目の内容：
 A partir d'articles de journaux et de textes littéraires, le cours proposera un entraînement systématique à la lecture et à la rédaction en français. Chaque extrait sera accompagné d'exercices d'écriture (dictée, questions, production de textes d'imagination).
 テキスト：
 Textes distribués en cours.

〔秋学期〕 Étude de textes littéraires
 授業科目の内容：
 Le cours sera consacré à l'étude de textes littéraires tirés de la littérature française du XIXème et XXème siècles. Les textes seront choisis dans les domaines romanesque, théâtral et poétique. Nous mettrons en évidence les différents procédés techniques utilisés par les auteurs (techniques de la description, question du point de vue, champs lexicaux, procédés stylistiques, formes poétiques...). Par ailleurs, des travaux d'écriture mettant en pratique les techniques observées seront proposés aux étudiants de façon régulière.
 テキスト：
 特に指定しません。講義資料プリントを配布します。
 参考書：
 なし

【04】フランス語表現演習	B(1)(春学期)
【04】フランス語表現演習	B(1)(秋学期)
【93】フランス語表現演習	B(2)
中級仏作文 教授 宮林 寛	

授業科目の内容：
 できるだけ身近なテーマを選び(たとえば住居, 学生生活, 交通手段など), 最初からフランス語で発想して書くことをめざします。
 テキスト：
 最初の授業で指示します。
 参考書：
 仏辞典

【04】フランス文学演習	A(1)(春学期)
【04】フランス文学演習	A(1)(秋学期)
【93】フランス文学演習	A(2)
教授 荻野 安奈	

授業科目の内容：
 フランス文学史を援護射撃するための授業です。文庫本で入手可能な各時代のテキストをがが読みましょう。
 テキスト：
 「ロランの歌」(有永弘人訳, 岩波文庫), カミュ「異邦人」(窪田啓作訳, 新潮文庫) 他

【04】フランス文学演習	B(1)(春学期)
【04】フランス文学演習	B(1)(秋学期)
【93】フランス文学演習	B(2)
中世フランス文学入門 講師 松村 剛	

授業科目の内容：
 〔春学期〕
 中世フランス文学の多様なジャンルの中から, アレゴリー文学, アーサー王物語, 武勲詩といったジャンルにふれます。
 〔秋学期〕
 春学期の継続として, 叙情詩, 年代記, 宗教文学といったジャン

ルに接することになります。
 テキスト：
 Albert HENRY, Chrestomathie de la littérature en ancien français (Francke, 1994)

【04】フランス文学演習	A(1)(春学期)
【04】フランス文学演習	A(1)(秋学期)
【93】フランス文学演習	A(2)
犯罪はいかにして文学となりうるか	
助手 岑村 傑	

授業科目の内容：
 文学作品のなかに犯罪を犯す登場人物を探すことは、難しいことではありません。本演習では、なぜその人物たちが犯罪を犯さなければならなかったのか、作家は犯罪者を通して人間や世界のどのような秘密を開示しようとしたのかを、考察します。
 演習授業ですから、講義のみの授業にはなりません。フランス文学読解の実践力を養うことも授業の大きな目的として、訳文作成、要約、論述などの訓練を授業時に多く行います。
 テキスト：
 授業時にプリントで配布します。
 参考書：
 授業時に適宜紹介し、必要に応じてプリントを配布します。

【04】フランス文学演習	B(1)(春学期)
【04】フランス文学演習	B(1)(秋学期)
【93】フランス文学演習	B(2)
モデルニテと現代芸術の危機 講師 細貝 健司	

授業科目の内容：
 「フランス文学演習」という本講義の目的は、その性質上、知識を得ることよりも、むしろ、得た知識を学術論文として結実させる方法を習得することにあります。ですから、単に講義を聴きたいと思っている人に本講義は適しません。
 授業のテーマは、モデルニテ(modernité)という概念の発生とその発達を辿ることを通じ、文学を含めた現代芸術を「危機」と捉える思想の系譜を概観することにあります。そして、現代芸術の「危機」とは、実は、個人の嗜好が多様化し、それを「芸術」により社会全体の嗜好へと共約することがもはや不可能となりつつあることに対する危機、すなわち、モデルニテというパラダイム自体の危機のことであることを明らかにしたいと思えます。ですから、なぜ芸術は常に新しくなければならないのか、とか、なぜ芸術は大衆の嗜好を代弁する必要があるのか、などと漠然と考えていた人には、疑問が解消されることになるかもしれません。

授業は3~4回でひとまとまりとなるよう構成しますので、その区切りごとに担当者が課題を提出し、受講者に小論文を書いてもらいます。そのときに、受講者は、感想文などではなく、学術的な形式に則った小論文を書くよう求められます。ここで、受講者は、芸術(文学や思想も含む)についての論文は、芸術とはむしろ対極にある、極めて厳格な規則を課せられた知的営為であることを学ぶことになるでしょう。

テキスト：
 毎回、テーマに沿ったテキストの抜粋をプリントして配ります。
 参考書：
 ・Henri MESCHONNIC, Modernité Modernité (Gallimard, collection Folio/Essais).
 ・Antoine COMPAGNON, Les cinq paradoxes de la modernité (Édition du Seuil, 1990).

【04】フランス文学演習	A(1)(春学期)
【04】フランス文学演習	A(1)(秋学期)
【93】フランス文学演習	A(2)
象徴派から現代詩へ 講師 秋元 幸人	

授業科目の内容：
 マラルメ以降現代詩に至る詩作品の紹介と精読。履修者は、担当

の度毎に A4 2~3 枚のレジュメを用意して発表する。

テキスト：

毎回コピーにて配布。

参考書：

『新版フランス文学史』(白水社),『世界名詩集大成』フランス篇 4 冊(平凡社)

【04】フランス文学演習 B(1)(春学期)

【04】フランス文学演習 B(1)(秋学期)

【93】フランス文学演習 B(2)

「悪の華」を読む 講師 高橋 俊 幸

授業科目の内容：

昨年度に引き続いて、ボードレールの「悪の華」を読みます。

受講者は毎回予習が求められます。授業中に、フランス詩の読み方、作詩法についても触れます。昨年度取り上げなかった詩を中心に行いますので、昨年度の履修者が(自由科目として)履修することも可能です。

テキスト：

ボードレール「悪の華」抄 第三書房

【04】フランス語学文学研究会 (1)(春学期)

【04】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)

【04】フランス語学文学研究会 (1)(春学期)

【04】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)

【93】フランス語学文学研究会(2)

【93】フランス語学文学研究会(選択必修)(2)

教授 川 口 順 二

授業科目の内容：

フランス語とフランス文化の研究会です。フランス語の冠詞の用法などの文法から、話し言葉の特徴、若者ことば、英語に入ったフランス語とフランス語に入った英語、識字問題など社会と言語の関係、またフランス語教育の問題まで、フランス語に関わることなら何でも扱います。また文化については、中世の文化・歴史などもカバーします。

【04】フランス語学文学研究会 (1)(春学期)

【04】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)

【04】フランス語学文学研究会 (1)(春学期)

【04】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)

【93】フランス語学文学研究会(2)

【93】フランス語学文学研究会(選択必修)(2)

教授 宮 林 寛

授業科目の内容：

この授業の目標はただ一つ。とにかく卒論を仕上げること。

履修者全員が自分で考え、卒論の完成にたどり着くまで温かく(?)見守りたいと思います。近代詩、20世紀後半の文学・思想、映画、絵画などに関心のある学生を歓迎します。

テキスト：

プリント使用。

参考書：

授業中に指示します。

【04】フランス語学文学研究会 (1)(春学期)

【04】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)

【04】フランス語学文学研究会 (1)(春学期)

【04】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)

【93】フランス語学文学研究会(2)

【93】フランス語学文学研究会(選択必修)(2)

教授 鷲 見 洋 一

授業科目の内容：

担当者が専門とする 18 世紀フランス文学・思想のほか、広く社会史や文化史の領域、あるいは現代アートなどの試みについて、突

っ込んだ調査や研究を進めたい学生のためのゼミ。どんなテーマでも驚かないが、唯一の条件は決してフランス語を逃げないこと。

テキスト：

特になし

参考書：

特になし

【04】フランス語学文学研究会 (1)(春学期)

【04】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)

【04】フランス語学文学研究会 (1)(春学期)

【04】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)

【93】フランス語学文学研究会(2)

【93】フランス語学文学研究会(選択必修)(2)

教授 小 倉 孝 誠

授業科目の内容：

近代(とくに 19 世紀から 20 世紀前半)の文学と文化史を学びたい人のためのゼミです。文学はそれが書かれた時代と社会を映し出すという側面をもっているため、文学(とりわけ小説)をつづじて歴史、社会、文化を全体的に読み解こうというのがねらいです。身体、ジェンダー、メディア、歴史、風景、絵画と文学などの問題を考えていきますが、受講生には各自の関心におうじて自由にテーマを見つけてもらいたいと思います。ときにビデオ、DVDなどの映像資料を用いている予定です。

テキスト：

プリントを配布

参考書：

都立大学仏文研究室編『フランスを知る』(法政大学出版社 2003 年)これ以外は授業時に指示する。

【04】フランス語学文学研究会 (1)(春学期)

【04】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)

【04】フランス語学文学研究会 (1)(春学期)

【04】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)

【93】フランス語学文学研究会(2)

【93】フランス語学文学研究会(選択必修)(2)

教授 荻 野 安 奈

授業科目の内容：

春学期は各人がテーマを持ち寄って読んだり考えたり。

個人的には「フランシス・ポンジュはオタクか?」、「デュラスと殺人」、「なぜドストエフスキーの仏訳は気持ち悪いのか」等いくつかのテーマをあためています。

秋学期は卒論の書き方中心となります。

テキスト：

プリント使用

【04】フランス語学文学研究会 (1)(春学期)

【04】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)

【04】フランス語学文学研究会 (1)(春学期)

【04】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)

【93】フランス語学文学研究会(2)

【93】フランス語学文学研究会(選択必修)(2)

助教授 喜 田 浩 平

授業科目の内容：

主に言語の運用に関する様々な問題をフランス語を中心に考える研究会です。例えば次のようなテーマを扱います。

- ・ 接続詞や副詞の語用論的側面の分析
- ・ 非文学的テキスト(広告、新聞、雑誌、笑い話など)の分析
- ・ 文体論、レトリック

また言語についての思想、哲学的考察も対象とします。

テキスト：

プリントを配布します。

参考書：

授業中に指示します。

-
- 【04】フランス語学文学研究会 (1)(春学期)
【04】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)
【04】フランス語学文学研究会 (1)(春学期)
【04】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)
【93】フランス語学文学研究会(2)
【93】フランス語学文学研究会(選択必修)(2)

19世紀後半から20世紀の文学や芸術にわたる文化

教授 牛場 暁 夫

授業科目の内容：

まず、この時代の文化をなんらかのテキストを使って概観します。しかし一方では、各自がその後に行なうことになる発表のヒントになるような個別の知識を、研究会の教室の内外においても与えてゆきたい。オフィス・アワーを設けて、学生を指導することも検討中。また、後半には始めることになる発表においても、それにたいする反応が十分に引き出せるように工夫をこらしてゆきたい。

-
- 【04】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期集中)
【04】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期集中)
【04】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期集中)
【04】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期集中)
【93】フランス語学文学研究会(2)(秋学期集中)
【93】フランス語学文学研究会(選択必修)(2)(秋学期集中)

研究と論文へのイニシエーション 教授 片木 智 年

授業科目の内容：

わたくしの現在の関心からいって、以下の分野に興味をもつ方は特に歓迎いたしますが、実際には様々な学生諸君をメンバーとした研究会です。

(1)演劇的なもの、役者論、マルチメディア芸術、メディアと文化摩擦

(2)16世紀末から17世紀にかけてのテキストと歴史

(3)民話、民間伝承、おとぎばなし、妖精譚、幽霊譚

なお、就職活動・留学に配慮し、本ゼミは後期集中で週2回開かれます。

-
- 【04】フランス語学文学研究会 (1)(春学期)
【04】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)
【04】フランス語学文学研究会 (1)(春学期)
【04】フランス語学文学研究会 (1)(秋学期)
【93】フランス語学文学研究会(2)
【93】フランス語学文学研究会(選択必修)(2)

20世紀フランス文学と思想 助教授 市 川 崇

授業科目の内容：

20世紀フランスの文学、思想、批評の問題に関心のある学生を対象とした研究会です。私自身はジョルジュ・パタイユの思想、社会理論、文学作品を主な研究の対象としていますが、30年代のフランス社会・文化研究に関心のある履修者も歓迎します。他方ブランシヨ、サルトル、デリダらによる「書くこと」を巡っての論考への関心を受講者全員が共有し、活発な議論の場を持ちたいと願っています。テキスト：

授業中にプリントを配布します。

参考書：

ジャン＝ポール・サルトル「文学とは何か」人文書院。ジュルジュ・パタイユ「文学と悪」ちくま学芸文庫、「内的体験」現代思潮社、モーリス・ブランシヨ「焔の文学」現代思潮社、「明かしえぬ共同体」朝日出版、ジャン＝リュック・ナンシー「無為の共同体」朝日出版、ジャック・デリダ「エクリチュールと差異」法政大学出版

【04】【93】図書館・情報学基礎(2)(春学期)

名誉教授 細野 公男

授業科目の内容:

図書館・情報学分野の基本的な概念・考え方について解説するとともに、近年話題になっているトピックを取り上げてその特徴を紹介します。

参考書:

情報社会を理解するためのキーワード(培風館)

【04】図書館・情報学原典購読(A)(B)(C)(2)

【93】原典購読(A)(B)(C)(2)

(A) 助手 安形 麻里

(B) 講師 越塚 美加

(C) 講師 須賀 千絵

授業科目の内容:

各クラス少人数で、図書館・情報学分野におけるトピックをとりあげた英語文献を購読します。図書館・情報学分野の基礎的な用語や概念の理解と、専門的な文献を読みこなせる英語力の習得を目指します。基本的に、毎回履修者が発表を行い、適宜必要な補足を行う形で授業を進めていきます。

(A)(B)(C)の3クラスでは、同じテキストを使い、ほぼ同じ進度で授業を進めます。試験も共通問題です。各クラスへの振り分けは4月の専攻別ガイダンスの時に発表しますので、各自確認のうえ、必ず指示されたクラスを履修してください。また、専攻別ガイダンスの時に初回のテキスト(下記の1)を配布しますので、初回の授業までに予習してきてください。

履修は原則として図書館・情報学専攻の学生に限ります。

テキスト:

- 1) McCue, Jim. History is rewritten. The Times. 2001/3/7, p.8-9.
- 2) Rieh, Soo Young. "Cognitive Authority". Theories of Information Behavior. Fisher, Karen E.; Erdelez, Sanda; McKechnie, Lynne (E. F.) ed. Medford, N. J., Published for the American Society for Information Science and Technology by Information Today, 2005, p. 83-87.
- 3) Dervin, Brenda. "What methodology does to theory: Sense-making methodology as exemplar". Theories of Information Behavior. Fisher, Karen E.; Erdelez, Sanda; McKechnie, Lynne (E. F.) ed. Medford, N. J., Published for the American Society for Information Science and Technology by Information Today, 2005, p.25-29.

これ以降の文献に関しては、授業において指示します。

【04】【93】情報サービス基礎(2)(春学期)

社会における図書館の存在意義とその役割

教授 糸賀 雅児

授業科目の内容:

この科目は、原則として図書館・情報学専攻2年生の必修科目であり、基礎科目の一つとして各種の図書館における情報サービスの概要と意義を学びます。そして、秋学期に開講される「情報サービス基礎」と一体となって、3年次以降に設置される図書館コースへの入門科目となるように位置づけられています。

テキスト:

授業の進行に応じて、読むべき文献を順次指定しますので、事前に読んできてください。

参考書:

- ・千野信浩『図書館を使い倒す!』(新潮新書), 2005年
- ・井上真琴『図書館に訊け!』(ちくま新書) 筑摩書房, 2004年
- ・菅谷明子『未来をつくる図書館 ニューヨークからの報告』(岩波

新書) 岩波書店, 2003年

- ・辻 由美『図書館であそぼう』(講談社現代新書) 講談社, 1999年
- ・まちの図書館でしらべる編集委員会『まちの図書館でしらべる』 柏書房, 2002年

【04】【93】情報サービス基礎(2)(秋学期)

教授(有期) 三浦 逸雄

授業科目の内容:

本科目は「情報サービス基礎」を踏まえた図書館情報学全体への入門的役割を果たす科目として位置づけられる。図書館及びその他の情報サービス提供機関をひとつの社会的システムとして捉え、記録された情報・知識の生産・流通、選択・収集、組織・蓄積、提供・利用システムといった広いコンテキストにおいて図書館・情報サービスの諸問題を論じる。

テキスト:

授業においてプリント資料を適宜配布する。

参考書:

最初の授業で参考文献を指示する。

【04】【93】情報検索基礎(2)(秋学期)

教授 岸田 和明

授業科目の内容:

情報と情報システム、情報検索の過程、検索手法、検索の仕組み、検索評価、データベース、索引、情報検索関連用語、さらに図書館目録、分類など書誌コントロールについての基礎的理解を得ることを目的とした授業内容です。

テキスト:

授業時にプリントを適宜、配布します。

参考書:

情報科学技術協会編『情報検索の基礎知識』2003

【04】【93】情報検索基礎(A)(B)(C)(2)(春学期)

(A) 教授 岸田 和明

(B) 講師 石田 栄美

(C) 講師 中島 玲子

授業科目の内容:

図書館・情報学の研究に必要な基本技能であるコンピュータの操作及び倫理について習熟することを目標として、各種アプリケーションとネットワークの利用を中心に講義と演習を並行して行います。

【04】【93】情報メディア基礎(2)(秋学期)

情報メディアに関する基礎 教授 倉田 敬子

授業科目の内容:

図書、雑誌、新聞等の印刷メディアを中心に、情報メディアの特性、生産・流通のプロセスについて概説します。電子メディアに關しても、印刷メディアとの比較を通して触れます。毎回、プリントを配布し、それに基づき授業を進めます。

【04】【93】情報メディア基礎(A)(B)(C)(2)(春学期)

(A) 教授 田村 俊作

(B) 講師 菅野 育子

(C) 講師 杉江 典子

授業科目の内容:

目録、書誌、索引とかたちで実現されている資料組織の基本的考え方を学ぶため、目録、主要な書誌・索引類、書誌データベース、参考図書の概説を行うと共に、それらを使った基本的な資料探索の方法の修得を目指します。

参考書:

長澤雅男・石黒祐子『情報源としてのレファレンスブックス 新版』日本図書館協会 2004

【04】【93】図書館・情報学研究法(2)(秋学期)

教授 田村俊作
教授 糸賀雅児
教授 倉田敬子
教授 岸田和明
教授(有期) 三浦逸雄
助教授 原田隆史

授業科目の内容:

この研究会は文学部図書館・情報学専攻3年生を対象として開講されます。7月ごろ各自の希望をきいた上で上記の各担当者への割振を行います。

各研究会の内容については春学期中に別途ガイダンスが行われる予定です。

【04】【93】図書館・情報学研究会(B)(2)

教授 糸賀雅児

授業科目の内容:

卒業論文の執筆に向けて、テーマの選択, 研究の進め方, 論文執筆の技術的な助言などを, 逐次行っていきます。

【04】【93】図書館・情報学研究会(C)(2)

研究会 教授 倉田敬子

授業科目の内容:

情報メディアによって実現される情報の生産, 流通, 利用に関わる諸現象をテーマとする卒業論文指導を行います。

【04】【93】図書館・情報学研究会(D)(2)

休講

【04】【93】図書館・情報学研究会(E)(2)

教授 田村俊作

授業科目の内容:

図書館におけるレファレンス・サービスやその他の利用者サービス, 図書館史などの図書館に係わる問題, 読書・情報探索行動など図書館利用者・利用に関連する諸問題をテーマとする学生のための卒論指導を行う。

【04】【93】図書館・情報学研究会(F)(2)

助教授 原田隆史

授業科目の内容:

卒業論文の指導のための研究会です。テーマの設定, 調査・実験, 論文執筆といった卒業論文の作成の各過程での助言を行っていきます。情報検索や情報システムに関わるテーマを中心と考えていますが, 学生諸君の興味にできるだけ応じたいと思っています。

選 択 科 目

【04】【93】図書館概論(2)(秋学期)

情報サービス提供のための図書館運営のあり方
名誉教授 高山正也

授業科目の内容:

図書館とは一つの社会的な組織であり, その組織は「ヒト」, 「モノ」, 「カネ」といった多くの要素や資源の適切な結合により機能し, 存続し, 発展します。存在するコミュニティーに提供されるサービスは検索ベースの情報サービスの中核となる図書館サービスであり, この図書館サービスは人類社会の知的文化的基盤をなすものです。このような図書館が永続し, 絶えざる発展を目指すために, その組

織の運営とその結果としての図書館サービスが現代社会においてどのようにあるべきかについて講義したいと考えます。

テキスト:

高山正也編, 改訂図書館経営論. 樹村房, 2004, 184 p.

参考書:

Buckland, M. K, 図書館・情報サービスの理論. 高山正也訳. 勁草書房, 1990, 324 p.

【04】【93】図書館の計画と経営(2)(春学期)

教授(有期) 三浦逸雄

授業科目の内容:

利用者の多種多様な要求に応じて情報や資料を提供する機関の中で, 特に図書館に焦点をあて, その使命や役割を遂行するための経営管理の機能と役割について基本的な理解を目指す。講義においては大学図書館および公共図書館を中心に管理運営, 計画策定, 人的資源, 財政といった側面を取り上げる。実際に図書館の管理者による話を聞く機会も設けたい。

テキスト:

授業においてプリント資料を適宜配布する。

参考書:

授業で適宜指示する。

【04】【93】コミュニケーション史(2)(春学期)

挿絵・図版によるコミュニケーションを中心に
講師 武者小路 信和

授業科目の内容:

情報を伝えるうえで, ことばによる伝達だけでなく, 図像による伝達も重要な役割を果たしています。この授業では, 科学書・図鑑の挿絵・図版および使用された印刷技法などを歴史的にたどることによって, 主に学術コミュニケーションのなかで図像が果たしてきた役割について解説します。

テキスト:

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書:

その都度, 授業時に紹介します。

【04】【93】図書館資料論(2)(春学期)

教授(有期) 三浦逸雄

授業科目の内容:

図書館のコレクション形成・管理の視点から資料の生産・流通, 選択・収集, コレクション評価・保存などを一つのプロセスとして捉えて講義をすすめる。また現在, 情報技術の進展に伴って急速に増大している電子情報源(あるいは電子図書館)についてもコレクション形成・管理およびアクセス提供の側面から取り上げる。

テキスト:

三浦逸雄・根本彰著『コレクションの形成と管理』雄山閣1999年(再版)

参考書:

三浦逸雄・野末俊比古編『専門資料論』日本図書館協会 2005年, その他の関連文献は授業で適宜指示する。

【04】【93】資料組織論(2)(春学期)

講師 石田 栄美

授業科目の内容:

図書館目録の意義と全体像, それに仕組みの理解

1. 図書館目録の位置づけ
2. 書誌コントロールからみた目録
3. 図書館目録の構成と考え方(目録規則)
4. 主題と目録(分類と件名)
5. 図書館目録作成の仕組み(書誌ユーティリティとMARC)

【04】【93】レファレンス・サービス論(2)(春学期)

教授 田村俊作

授業科目の内容:

図書館のレファレンス・サービスについて、理論と実際を学ぶ。レファレンス・サービスの基本的な考え方、歴史、サービス内容、技術を概観する。講義で得た知識をもとに、レファレンス・サービスの実態の分析を各人が試みる。また、講義と並行して、事例問題によって、問題発生から解決までの調査法の実際を演習し、それを通して調査手順の一般化を試みる。

参考書:

- ・長澤雅男『レファレンス・サービス』丸善 1995
- ・伊藤松彦編『新図書館学教育資料集成 4: 参考業務』教育史料出版会 1989
- ・阪田蓉子編『新編図書館学教育資料集成 4: 情報サービス論 補訂版』教育史料出版会 2003

【04】【93】図書館実習(2)

図書館・情報学におけるインターンシップ科目

教授 系賀雅児
教授 岸田和明

授業科目の内容:

図書館・情報学専攻の学生で、司書資格を取得し、図書館への就職を希望する者のみを対象としたインターンシップ科目です。インターンシップとは「学生が自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」とされています。したがって、この科目では各種の図書館や資料室、メディアセンター等においてインターンとして実務を経験することになります。

実習ガイダンスを3回開催(第1回は4月13日)しますので、履修者はすべてのガイダンスに必ず出席してください。

【04】【93】図書館活動論(公共図書館)(2)(秋学期)

公共図書館の活動・サービス・法制度

教授 系賀雅児

授業科目の内容:

「地域の情報拠点」「生涯学習の拠点」としての公共図書館の活動やサービス、そしてそれらを支える法制や基準、政策などを学びます。なお、事例集やスライド、ビデオを教材として併用することで、国内外の公立図書館活動の実態について理解が深まるよう配慮します。

テキスト:

『図書館による町村ルネサンス Lプラン21』日本図書館協会、2001年

参考書:
文部省『2005年の図書館像 地域電子図書館の実現に向けて』2000年 (http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/12/12/001260.htm)

【04】【93】図書館活動論(大学図書館)(2)(秋学期)

講師 酒井由紀子

授業科目の内容:

大学図書館の運営と実務に関する基礎的知識を扱います。

参考書:

- ・岩猿敏生、大城善盛、浅野次郎、大学図書館の管理と運営。東京、日本図書館協会、1992。247 p.
- ・逸村裕、竹内比呂也編。変わりゆく大学図書館。東京、勁草書房、2005。232 p.
- ・Budd, J. M. The academic library. Englewood, Libraries Unlimited, 1998. 372 p.
- ・Brophy, Peter. The academic library. 2nd ed. London, Library Association, 2005. 233 p.

【04】【93】図書館活動論(学校図書館)(2)(秋学期)

講師 高鷲忠美

授業科目の内容:

学校図書館には、単に「読書センター」としてでなく「学習情報センター」として機能することが期待されている。単なる読書指導のための機関でなく、生涯学習者である子どもたちに一生身につけ活用してもらいたい「情報リテラシー」と「読書力」を学校教育の中で授業と密接に連携して展開するか、という「学習情報センター」として運営するかに重点をおいて説明する。

学校経営の中核に学校図書館を位置づけ、学校内の組織に学校図書館をくまなく組み込み、全ての教員がほとんどの授業で学校図書館を活用している鶴岡市立朝陽第一小学校の学校図書活動を、詳細に述べることにより、学校図書館の理念と実際を紹介する。

テキスト:

『こうすれば子どもが育つ学校が変わる: 学校図書館活用ハンドブック』山形県鶴岡市立朝陽第一小学校編著 高鷲忠美解説 国土社、2003

参考書:
『学校経営と学校図書館』古賀節子編 樹村房、2002

【04】【93】図書館活動論(国立国会図書館)(2)(秋学期)

講師 平野美恵子

授業科目の内容:

国立国会図書館は、昭和23年に立法院のもとに設立されたわが国の国立図書館である。近年では、国際子ども図書館と関西館の開館を契機に、三館体制で多岐にわたる国立図書館としての活動を行っている。

その設立の経緯を含めて、主な活動を紹介します。

テキスト:

授業において資料を配布する。

【04】【93】児童資料論(2)(秋学期)

講師 汐崎順子

授業科目の内容:

図書館における「児童資料」とは“心身ともに発達途上にある「子ども」を読者対象とした図書等の資料”として定義づけられます。従って児童資料は、個々の子どもの能力や興味に対応する形で存在し、その内容や分野は多岐に渡っています。子ども時代の読書はそれぞれの人格形成に深く関わるものであり、子どもに本を手渡す立場である児童図書館員には、その仕事の前提として各種の児童資料に精通していることが求められます。

本講義は子どもに本を提供する最も基本的な機関である公立図書館における児童サービスを中心に、様々な分野の児童資料を実際に数多く紹介し、一次資料そのものの特性と内容をより実質的に理解すること、子どもと本を結びつける効果的な方法について学ぶことを目指します。

さらに2000年の子ども読書年以降の子どもの読書環境等についても言及し、今後の児童サービスの問題や課題を考えていくことも目標とします。

テキスト:

授業時に適宜参考資料を配布します。

参考書:

中多泰子・宍戸宏・汐崎順子共著『改訂版 児童サービス論』樹村房(2004)

【04】【93】情報メディア概説(2)(秋学期)

情報・知識の共有

教授 倉田敬子

講師 池谷のぞみ

授業科目の内容:

社会において人々がいかに情報や知識を蓄積し、共有しているかを、「組織における情報共有」と「コミュニケーションの電子化」を二つの切り口として、理論的にまた実際に現象面から考える。

【04】【93】情報メディア概説 (2)(春学期)

情報メディアを考える基本的枠組みとメディアの変遷
教授 倉田 敬子

授業科目の内容:

社会の中で人間は情報メディアを通して情報を生産し、流通させ、利用するという考え方に立ち、次の3つの観点から情報メディアを総合的に考えます。

- (1) 物理的属性(技術的側面)
- (2) 社会的制度, 機能
- (3) 情報メディアを通じて語られるディスコース

参考書:

授業時に参考文献リストを配布します。

【04】【93】情報メディアの構造と分析 (2)(秋学期)

情報メディアの構造と分析方法 教授 倉田 敬子

授業科目の内容:

情報メディアは、独自の物理的・技術的特性および社会的場としての機能を持ち、さらにそのメディアに特定のな方法で情報を伝達しています。個々の情報メディアが固有に持つその形式的・構造的な特性についてまとめるとともに、その特性を具体的に分析する方法を概説します。具体的には「新聞および新聞記事」と「写真」と「マンガ」を扱います。分析方法の概説の後、実際に新聞記事やそのレイアウト、写真やマンガ作品を分析してもらいます。

【04】【93】情報メディアの構造と分析 (2)(春学期)

情報メディアの機能 講師 菅野 育子

授業科目の内容:

情報メディアの機能に関する基礎的な知識を学ぶために、学術情報だけでなく一般社会における情報の流通に係る各種情報メディアについて概説します。

具体的には、新聞(新聞記事)、雑誌(雑誌記事)、図書、特許資料、絵画(美術作品)などを取り上げ、その特徴を概観します。

さらに、各情報メディアの分析を行ないながら、分析結果からどのような情報を得ることができるのかについて議論します。

テキスト:

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

【04】【93】情報認識の基礎(2)(春学期)

人間にとって快適な情報環境をデザインするために
教授 糸賀 雅児

授業科目の内容:

現代社会には情報が洪水のようにあふれていると言われますが、あふれているのは単に電気的な信号や物理的な記号だけではないのでしょうか?

いまあなたが手にしているこの「講義要綱」にしても、たくさんの情報が載っているように見えますが、よく考えてみると、炭素と水素の化合物である紙の上に、ところどころ黒いインクのシミで何かが描かれているだけにすぎません。それを前にして、あれこれ悩んだりしているのは、ある意味ではきわめて不思議な現象なのです。

人間が信号や記号を入手し、利用し、理解してはじめて、そうしたモノたちは意味を持った情報になります。そう考えると、情報の存在と人間の存在の間には相互作用がはたらくことになります。では、人間にとって記号と情報、メディアの相互関係は、どのように捉えたらよいのでしょうか。さらには、メッセージの意味はどこから生まれてくるのでしょうか、同じメッセージを受け取っても人によって異なった情報を受け取るのはなぜでしょうか、小説や絵画、音楽は本当に情報と呼べるのでしょうか、……?

この科目では、こうした人間の情報認識に関わる基本的な問題を提起しながら、学生とともにヒューマンサイズの情報を扱うための本質的な視点を探っていきます。こうした過程を経て、これからの時代にふさわしい、人間の情報環境デザインができる人間を育てた

いと考えています。

ですから、単なる note-taking や教科書の理解よりも、常識に対する批判的なまざしと深い思索、そして何よりもディスカッションへの積極的参加が求められます。

テキスト:

授業の進行に応じて、読むべき文献を順次指定しますので、事前に読んできてください。事前に読んでこないことには、ディスカッションへ積極的に参加できません。1回の授業で論点を2つずつ、それも事前に示していく予定です。

・池上嘉彦『記号論への招待』(岩波新書)岩波書店、1984年

参考書:

- ・加藤雅人『意味を生み出す記号システム 情報哲学試論』世界思想社、2005年
 - ・渡辺保史『情報デザイン入門』(平凡社新書)平凡社、2001年
 - ・西垣 通『聖なるヴァーチャル・リアリティ』岩波書店、1995年
 - ・西垣 通『こころの情報学』筑摩書房、1999年
-

【04】【93】情報メディア特殊 (本)(2)(秋学期)

「モノ」としての書物がもつ表現可能性
講師 武者小路 信和

授業科目の内容:

私たちは本を読んでいるとき、印刷された文章の意味だけを読みとっている訳ではなく、意識してるか否かは別にして、書体、文字組み、紙質、造本構造などからも同時に「読みとっている」はずです。この授業では、物理的な「モノ」としての書物がもつ表現可能性について、タイポグラフィ、ブック・デザイン、造本構造などの面から解説します。

テキスト:

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書:

その都度、授業時に紹介します。

【04】【93】情報メディア特殊 (電子媒体)(2)(春学期)

WWWの情報発信とメタデータの応用
講師 神崎 正英

授業科目の内容:

WWWの普及によって、誰もがかつて無い規模の情報にアクセスできるようになったものの、その中から本当に必要な情報を見つけだすのは簡単ではありません。また一方で、モバイル、ユビキタス、音声メディアなど利用者の環境の多様化が進むにもかかわらず、特定の対象しか考慮しないコンテンツが氾濫し、有益な情報活用の妨げになっています。

WWWが本来目指していた、異なる環境での情報共有、さらにマシンの力を利用した効率的で的確な情報探索・活用のためには、コンテンツ記述の基本をふまえ、適切なメタデータを用意することが重要になってきます。この講座では、こうした観点で、WWWの基礎からRDFによるメタデータの記述方法とその応用までを取り上げます。

テキスト:

授業資料はウェブ上で配布します。

参考書:

神崎正英『セマンティック・ウェブのためのRDF/OWL入門』(森北出版)

【04】【93】情報メディア特殊 (社会と情報)(2)(秋学期)

講師 中村 功

授業科目の内容:

近年携帯電話やインターネットが急速に発達してきたが、こうしたメディアがどのように利用され、どのような影響を与えているのかを実証的に捉えようとするのが情報行動論である。本講義では情報行動論の観点から社会とメディアの関係について考える。

テキスト:

未定

【04】【93】情報メディア特殊 (科学コミュニケーション)
(2)(春学期)

科学コミュニケーション 教授 倉田敬子
講師 三根慎二

授業科目の内容:

科学コミュニケーションは、送り手も受け手も研究者という閉鎖的な集団内におけるコミュニケーションであり、一般のコミュニケーションとは異なる特性を持っています。ここでは研究者達が科学研究という社会的行為を、科学コミュニケーションを通じていかに実現させているかを検討します。特に現在、科学コミュニケーションにおいては、「電子化」が非常に注目されています。電子化によって、従来の科学コミュニケーションのあり方が、根本的に変容する可能性があるためです。電子化については、いまだ全貌が見えたとはいいがたい状況ではありますが、技術の電子化がいかなる社会的変化を引き起こしているのか、最新の事例をできるだけ交えながら検討していきます。

テキスト:

倉田敬子編著『電子メディアは研究を変えるのか』勁草書房 2000
参考書:
授業中に適宜指示します。

【04】【93】情報検索概説 (2)(春学期)

教授 岸田和明

授業科目の内容:

この講義は情報検索に関する基本的なことから概説することを目的とし、図書や雑誌論文を収録したデータベースに対する検索を実現・実行するための伝統的な手法を中心に、基礎・中級レベルの内容を解説しています。さらに、このようないわゆるテキスト検索の特徴をよりよく理解するために、関係データベースを利用したデータ管理・検索の方法についても学びます。また、最近のインターネットのサーチエンジンでは、伝統的な検索方式とは異なる原理が使用されており、これについても説明します。

テキスト:

授業時にプリントを適宜、配布します。

参考書:

岸田和明『情報検索の理論と技術』勁草書房 1998

【04】【93】情報検索概説 (2)(春学期)

助教授 原田隆史

授業科目の内容:

情報検索に関わる様々なトピックについて解説します。具体的には、通信技術、データ構造、アルゴリズム、マルチメディア情報検索、WWW サーチエンジン、暗号技術、XML などについての基礎・中級レベルの解説を行います。また、コンピュータやネットワークに関わる最近の技術動向についても説明します。講義を主体としますが、演習も適宜組み合わせる予定です。

テキスト:

特に指定しません。必要に応じて資料プリントを配布します。

参考書:

・北研二、津田和彦、獅々堀正幹『情報検索アルゴリズム』共立出版
・Calishain, Dornfest 著、山名監訳『Google hacks プロが使うテクニック&ツール 100 選』オライリー・ジャパン
・中村正三郎『新版インターネットを使いこなそう』岩波ジュニア新書

【04】【93】情報検索システム(2)(秋学期)

助手 安形麻理

授業科目の内容:

書誌データベースの作成と資料およびテキストのデジタル化を中心に情報検索システムを扱います。具体的には、データベースと情報検索システムの基本的な問題から、簡単な文字処理や、データベ

ースソフトを用いた書誌データベース、画像・テキストアーカイブを作成する演習を行います。

テキスト:

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

【04】【93】情報検索研究(2)(秋学期)

教授 岸田和明

授業科目の内容:

インターネットの発達や電子文書の増加に伴って、情報検索の研究はますます盛んになっています。この講義では、情報検索の基礎的な理論を解説するとともに、情報検索およびその関連領域における研究の動向・特徴・方法について考えていきます。授業の前半部分では、情報検索の理論における基本的なものをその初歩的な事項から説明します。これらの基礎的な知識に基づいて、後半では、現在進められている情報検索研究の動向・特徴・方法、あるいはその研究課題について解説し、さらに、関連領域として、テキスト処理に関する問題・技法について紹介します。

テキスト:

授業時にプリントを適宜、配布します。

参考書:

岸田和明『情報検索の理論と技術』勁草書房 1998

【04】【93】情報探索行動(2)(秋学期)

教授 田村俊作

授業科目の内容:

人々がどんなときに、どのようにして情報を求めるのか、それがこの講義のテーマである。人々が情報を求める社会的文脈および情報探索の過程についての検討を中心に、情報リテラシーや探索のスキル等について考えてみる。

テキスト:

特に使用しない。適宜プリントを配布する。

参考書:

・Varlejs, J. ed. 『情報の要求と探索』勁草書房 1993
・田村俊作編『情報探索と情報利用』勁草書房 2001
・Case, D.O. Looking for Information. Academic Press, 2002
・Fisher, K. E. et al., ed Theories of Information Behavior. Information Today, 2005

【04】【93】データベース検索(2)(春学期)

講師 安形 輝

授業科目の内容:

卒業論文や各種レポートなどを作成していくなかで、過去の研究を参照するために、各種のデータベースを検索していく必要があります。この授業では、自分でデータベース検索を行うことができる知識と技術の習得を目的とします。パソコン教室で有料データベース検索サービスやインターネット上の情報検索サービスを使った実習を行います。

テキスト:

特に指定しません

参考書:

特に指定しません

【04】【93】情報処理技術(2)(春学期)

助教授 原田隆史

授業科目の内容:

図書館・情報学分野の学習や研究に必要な基礎技術であるコンピュータの操作を習熟することを目標とし、例題をもとに学習します。講義に加えて、PC を用いた演習を行い、単なる知識だけではなく実践的な能力を身につけることを目指します。

テキスト:

特に指定しません。必要に応じて資料プリントを配布します。

【04】【93】自然言語処理の基礎(2)(春学期)

教授 岸田和明

授業科目の内容:

情報の検索・分類・抽出・要約を効果的かつ効率的におこなうための自然言語処理の理論や技法の基礎を学ぶことがこの講義の目標です。例えば、大規模な文献データベースを効果的に検索するには、検索質問や各文献の標題・抄録(または全文)に対する的確な解析が必要ですが、これにはさまざまな自然言語処理の技法を応用することができます。この講義では、このような目的で文献のテキストを解析するための統計的な方法や、形態素分析・構文解析・意味解析・文脈解析の方法を解説します。さらには、テキストの自動分類、テキストからの情報の自動抽出、テキストの自動要約などにも焦点を当て、そのなかでどのように自然言語処理の方法(統計的方法を含む)が活用されているのかを学んでいきます。なお、講義においては、統計学や言語学などのごく初歩的な知識から解説していくので、これらについての予備的な知識がなくとも受講することは可能です。

テキスト:

授業時にプリントを適宜、配布します。

参考書:

長尾真編『自然言語処理』岩波書店 1996(岩波講座ソフトウェア 15)

【04】【93】画像・映像処理の基礎(2)(秋学期)

休講

【04】【93】書誌学(東洋)(2)(秋学期)

古書・古地図・絵画資料を読む 講師 白石 克

授業科目の内容:

毎時間、日本・東洋の古書・古地図・絵画を直接手にとり、その特性を探求します。

こうした資料類の整理方法をも考察します。

古文書を身近にすることも、講義の目標の一つです。

参考書:

- ・『図書学辞典(汲古書院)』長澤規矩也著
 - ・『日本古刊本図録(三田メディアセンター)』拙稿
-

【04】【93】書誌学(西洋)(2)(春学期)

助手 安形麻理

授業科目の内容:

物理的な「モノ」としての書物の研究および文献伝達の研究である、分析書誌学(analytical bibliography)の基礎について概説します。西洋の印刷本を主な対象として、書物の形態、材料、活字、挿絵、製本などの特徴と、本造りの各工程を説明します。さらに、そうした造本工程によって意図的・非意図的に生じる本文の異同についても取り上げます。授業中に、実例として慶應義塾大学図書館所蔵の貴重書の実物やデジタル画像、活字などの「モノ」の回覧や、ビデオ鑑賞を行って、理解の助けとします。

テキスト:

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書:

授業に持って来たり買ったりする必要はありませんが、できれば適宜参照してください。

- ・Carter, John. 西洋書誌学入門. 横山千晶訳. 東京, 図書出版社, 1994, 428 p. (こちらは残念ながら品切れ中です)
 - ・高野彰. 洋書の話(増補版). 東京, 丸善, 1995, 225 p.
-

【04】【93】図書館・情報学特殊(A)(2)(春学期)

休講

【04】【93】社会学概論(4)	教授 藤田 弘夫
	教授 浜 日出夫
	助教授 岡原 正幸
	助教授 長尾 真理
教職課程センター 助教授	竹林 英樹

授業科目の内容：

見えない社会を見るためのレッスン(浜)

1. 電車のなかで社会学(1)
2. 電車のなかで社会学(2)
3. 電車のなかで社会学(3)
4. 電車のなかで社会学(4)
5. まとめ

社会的不平等・差別論(他者を見ること, 自己を見ること)(岡原)

1. 制度として「見る」社会学/制度としての社会学
2. 調査することの倫理性(観察と介入)
3. 新しい潮流(障害学/ゲイ・スタディーズ/ポストコロナリズムなど)の立ち位置
4. スティグマの社会学
5. ワークショップ

都市・国家・公共性(藤田)

1. 近代化と都市化
2. 都市の比較社会学
3. 伝統国家と近代国家
4. 公共性の比較社会学
5. まとめ

発達と教育の社会学(竹村)

1. 教育拡大の理論(1)
2. 教育拡大の理論(2)
3. 学歴社会学
4. 発達と社会化

現代社会と医療(長尾)

1. 患者の権利
2. 先端医療(1)
3. 先端医療(2)
4. 科学技術と人間
5. まとめ

テキスト：

各担当者が指示します。

参考書：

ギデンズ『社会学』而立書房 他

【04】【93】社会心理学概論(4)

個人と個人, 個人と集団, 個人と社会の関係および集合行動について論じる 教授 榊 博文

授業科目の内容：

まず, 社会心理学の対象と方法, 歴史, 心理学的社会心理学, 社会学的社会心理学について触れ, 対人認知, 対人魅力, 社会的態度, 集団と個人, 社会的相互作用, 集団の構造と機能, 流行, デマ, パニック, マスコミ(広告)の効果など集合現象等の, 社会心理学の分野における主要な概念や理論, 及び個々の実証的研究を講義する。

更に, 「説得」, 集合現象の一部である「普及」, それを説明する「異文化間屈折」理論, 「再発明」概念, 「あらかじめ屈折」理論等についても言及する。

テキスト：

- ・青池・榊編著「現代社会心理学」慶應大学出版会
- ・榊博文「説得と影響 交渉のための社会心理学」ブレーン出版

参考書：

適時指示する。

【04】【93】文化人類学概論(4)(春学期集中)

教授 鈴木 正崇

授業科目の内容：

文化人類学(民族学)の基本的な概念や考え方について述べる概論である。最初に文化や民族の概念について検討し, 主要な学説や重要な人類学者の学説の検討を行って, 各論に入る。個別の主題としては, 親族, ジェンダー, 宗教, 経済, 開発などを取り上げる。日本民俗学への目配りもする。一・二限連続の前期集中の講義なので履修に注意すること。

参考書：

- ・関一敏・大塚和夫編『宗教学人類学入門』弘文堂, 2004。
- ・『文化人類学文献事典』弘文堂, 2004。
- ・山下晋司・船曳建夫編『文化人類学キーワード』有斐閣, 1997。
- ・綾部恒雄編『文化人類学最新述語 100』弘文堂, 2002。
- ・『岩波講座 文化人類学』全 13 巻, 岩波書店, 1997~1998。

【04】【93】社会学史(4)

教授 藤田 弘夫
教授 浜 日出夫
助教授 岡原 正幸
助教授 長尾 真理

授業科目の内容：

19世紀の社会と社会学(藤田)

1. 社会概念化と社会学の誕生 社会主義・社会科学・社会学
2. 社会思想と社会の概念 社会有機体説とマルクス
3. 社会調査と社会の概念 ブース, ル・プレー, ゲテス
4. 日本における欧米の社会思想の受容
5. (付論) アンソニー・ギデンズとイギリス社会学

デュルケム, ウェーバー, ジンメル(浜)

1. 1890年代の世代
2. 理解社会学 M. ウェーバー
3. 社会学主義 E. デュルケム
4. 形式社会学 G. ジンメル
5. 官僚制・アノミー・文化の悲劇

フランクフルト学派・ルーマン(長尾)

1. 批判理論の成立 M. ホルクハイマー W. ベンヤミン
2. 近代合理性の行方 Th. アドルノ H. マルクレーゼ E. フロム
3. 批判的理性とコミュニケーション J. ハーバース
4. 社会秩序とシステム N. ルーマン
5. 精神医学は社会科学に何をもたらしたか。

象徴的相互作用論・ブルデュー(岡原)

1. シカゴ学派と自我論 クーリー, トマス, ミード
2. 象徴的相互作用論 現実構成・レイベリング・参与観察
3. ゴフマン 印象管理・自己呈示・アイデンティティの政治
4. ブルデュー 文化資本・象徴暴力・ホモアカデミクス
5. 現代思想と社会学 フーコー, イリイチ, サイド

参考書：

- ・コリンズ『社会学の歴史』有斐閣
- ・那須寿編『クロニクル社会学』有斐閣

【04】【93】社会調査(2) [春] 教授 青池 真一
[秋] 講師 李 光 鎬

[春学期]

授業科目の内容：

春学期においては, 社会調査についての基本的認識, 理論と調査, 統計的調査法と事例研究法, そしてサンプリング, 調査票, インタビュー, 尺度などのデータ収集にかかわる諸技法について演習をまじえて授業していく。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：
特に指定しません。

〔秋学期〕
授業科目の内容：

後期の授業では、収集されたデータに対する集計・分析技法について、一部演習を交えながら講義を行う。

テキスト：
特に指定しない

参考書：
授業中に示す

【04】【93】社会調査（2）
フィールドワーク演習 助教授 榎尾直樹

授業科目の内容：

本講義は、社会調査の中でも聞き書きや参与観察を主たる方法とする質的調査の実習を行う。しかし、みんなで野外調査に出かけることはできないので、授業の中で実習を行う。全部で14の実習を予定している。

テキスト：
・渡辺康磨『セルフカウンセリング』ミネルヴァ書房、1993年
・伊藤・榎尾・弓山編『スピリチュアリティの社会学』世界思想社、2004年
参考書：
・好井裕明他編『フィールドワークの経験』せりか書房
・榎尾直樹編『スピリチュアリティを生きる』、せりか書房、2002年
その他授業の中で適宜指示する。

【04】【93】医療社会学論（4）
現代社会と医療 助教授 長尾真理

授業科目の内容：

今日、先端医療技術は、バイオテクノロジーや情報処理技術の発達に支えられ、飛躍的な発展を遂げている。しかし同時に、生命の誕生や死をめぐる問題を含め、従来の社会通念からは予測できない多くの難問が引き起こされている。また、先進諸国での高齢化問題は、「医療資源の運用と配分」とも絡んで深刻さを増している。講義では、こうした現代医療に関わる様々な問題を取り上げ検討する。また、秋学期には、各々の問題関心に基づくグループ・ワーク、研究発表を行う。受講者は、以上の講義形式を了承のうえ受講すること。

テキスト：
講義資料・プリントを配布する。

参考書：
・岩波講座 現代社会学 14『病と医療の社会学』岩波書店 1996年
・進藤・黒田編『医療社会学を学ぶ人のために』世界思想社 1999年
・加藤・加茂編『生命倫理学を学ぶ人のために』世界思想社 1998年
・市野川容孝編『生命倫理学とは何か』平凡社

【04】【93】家族・親族論（4） 講師 岡田あおい

授業科目の内容：

今日、少子高齢化、晩婚化・未婚化、夫婦別姓、児童虐待、育児ノイローゼ、離婚、老親介護など、家族に関わる社会問題が噴出しつつある。今、家族に何が起きているのだろうか。

本講義は、家族社会学の基本理論を整理し、現代日本におけるさまざまな家族問題にアプローチすることを目的とする。

前期は、主に家族社会学の基本理論、家族史研究および歴史人口学の基本的な視点、研究方法について解説し、受講者に家族社会学・家族史研究の考え方と研究方法の基本的な理解をはかりたい。

後期は「結婚」をキータームとし、人口学やジェンダー論の支店も紹介しながら、具体的な家族問題について考察する。

テキスト：
なし
参考書：
その都度指示する

【04】【93】教育社会学（4）

休講

【04】【93】現代社会学論（4）
感情社会学と自己表現 助教授 岡原正幸

授業科目の内容：

僕たち、「僕たち」なる集合的な呼称を使用することの政治性は問題にすべきだが、僕たちが生きている「場」についての「語り口」はいくつもあるだろう。

【目的】「現代社会」を感情社会学的に記述・分析すること...、およびこの作業（感情社会学という営み、感情社会学者というアイデンティティ構築）それ自体を再帰的に捉え返し、「ポストモダン」「ポストコロニアリズム」「フェミニズム」「主体の消失と復帰」「表象・代弁の危機」「構築主義」といった主題系の中で自己批判と自己超越をめざすこと...、この二つを参加者に理解してもらうのが基本の目的ですが、同時に、この二つの相矛盾する姿をまさに僕自身が参加者に具象的に表現することで、終幕では「他の人について（社会）科学的に語る」事のクライシスを提起したいと思います。

【内容】春学期では、感情社会学概論（以下に掲載）を講義します。感情社会学の歴史、基本的視座や諸概念、社会的事象への感情社会学的な接近などをオーソドックスに講じます。秋学期では、参加者にも「感情的社会学」「実験的、自伝的、フィクション的、マルチメディア的」な自己フィールドワークとその表現を試みてもらいます。そのため初回授業より秋学期開始まで、各人に「感情日記」（毎月一回、各回1000字以上の日記を計6回）をつけてもらいます。また、「知」は論理的言語の集合体である以上に、ひとつの身体表現でもあること、このことに留意していきたいと思います。

テキスト：

・岡原・山田・安川・石川『感情の社会学 エモーション・コンシャスな時代』世界思想社
・岡原正幸『ホモ・アフェクトス 感情社会学的に自己表現する』世界思想社

参考書：

・安積・岡原・尾中・立岩『生の技法』藤原書店
・S. ネッケル（岡原訳）『地位と羞恥 社会的不平等の象徴的再生産』法政大学出版局
・Ellis/Bochner(ed) Composing Ethnography: Alternative Forms of Qualitative Writing. Altamira
・A. ホックシールド（石川訳）『管理される心 感情が商品になるとき』世界思想社

【04】【93】コミュニケーション学（4）
教授 青池慎一

授業科目の内容：

この講義は、基本的社会過程であるコミュニケーション過程について分析・解明していくものである。まず、いままで展開してきた基本的なコミュニケーション・モデルについて検討し、コミュニケーション過程やそれにかかわりあう構成要素や変数についての基礎的理解をふかめていく。

その上で現代社会において具体的に進行しているコミュニケーションの諸過程、例えばマス・コミュニケーションやインターパーソナル・コミュニケーションをとり上げ分析していく。

マス・コミュニケーションに関しては、限定効果論、強力効果論への回帰といった問題が、インターパーソナル・コミュニケーションに関してはオピニオン・リーダー論、ネットワーク分析、mediatedなインターパーソナル・コミュニケーションといった問題が扱われていくであろう。オンラインによるコミュニケーションの問題も検討していきたい。

テキスト：
特に指定しません。

参考書：
授業時に適宜指示します。

【04】【93】宗教社会学(4)
スピリチュアリティの社会学 助教授 櫻尾直樹

授業科目の内容:

宗教社会学は、宗教の社会的機能や役割といった宗教と社会との関係性や、「宗教社会」、つまり宗教的コミュニティの実態、および社会の宗教的次元を明らかにする学問である。本講義では、授業中の実習によって、宗教性/スピリチュアリティに関する諸概念を参加者各自が構築するとともに、世界のいくつかの地域の「宗教的現象」を映したビデオを観て、その諸概念を検討するとともに、宗教性/スピリチュアリティの実存的諸問題について理解を深めることを目的としている。

テキスト:

- ・櫻尾直樹編『スピリチュアリティを生きる』せりか書房, 2002年
- ・櫻尾直樹他編『スピリチュアリティの社会学』世界思想社, 2004年

参考書:

- ・井上順孝編『現代日本の宗教社会学』世界思想社,
 - ・井上順孝他編『宗教学を学ぶ』有斐閣,
 - ・橋爪大三郎『世界がわかる宗教社会学入門』筑摩書房,
 - ・島園進『現代救済宗教論』青弓社,
 - ・島園進『精神世界のゆくえ』東京堂出版など。
- その他は授業の中で適宜指示する。

【04】【93】対人影響論(4)
对人的影響(インターパーソナル・コミュニケーション)だけでなく、社会的影響(集団・マスコミ・広告コミュニケーション)についても扱う。 教授 榊博文

授業科目の内容:

説得的コミュニケーションの効果に関する講義をおこなう。説得的コミュニケーションの効果に関する研究は独自の研究の系譜を持っており、その流れに基づいて授業をすすめていく。

まず、説得効果を規定する諸要因、具体的には、説得者の信憑性、類似性、魅力、フットインザドア・テクニク、ドアインザフェイス・テクニク、ローボール・テクニク、EAPHテクニク、恐怖説得、赤頭巾テクニク、ブーメラン説得法、場所換法、催眠オークションテクニク、限定性の原理、報恩性の限理、同調性の原理、強制的承諾法、役割演技法、心理療法(カウンセリング)の応用テクニク、サブリミナル知覚、その他の多くの説得・影響テクニク、及びこれらのテクニクの有効性を説明をする諸理論を紹介する。またマスコミ効果、広告、宣伝、大衆操作などの問題も扱う。その過程で、従来の諸研究によって既に明らかにされている部分と、未だ解明されていない部分を十分理解する。

毎回討議時間を設けるので、受講者は積極的に討議に参加することを期待する。

「説得」はあらゆる人々にとって必要不可欠であり、この講義が学問的知識の習得のためだけでなく、日常生活においても有用であることを確信している。

テキスト:

- ・榊博文『説得と影響 交渉のための社会心理学』ブレーン出版。
- ・榊博文他『日本列島カルト汚染 何故そこまで騙される? 勧誘と説得の社会心理学』ブレーン出版。

参考書:

適時、提示する。

【04】【93】知識社会学(4)
記憶と歴史の社会学 教授 浜日出夫

授業科目の内容:

人間にとって過去とはなんであるのか、社会にとって歴史とはなんであるのか、人間と時間のかかわり、社会と歴史のかかわりについて社会学的に考察する。春学期は人間と時間の関係について理論的に考察する。秋学期は博物館の展示などを題材として、社会と歴史のかかわりについて具体的に検討する。

テキスト:

なし

参考書:

講義時間内に紹介する。

【04】【93】都市社会学(4) 教授 藤田弘夫

授業科目の内容:

都市は言語とともに、人間が創り出したもっとも複雑で偉大な作品である。都市は人間が生み出した最大の便益を、最小の空間に納めるよう文明の産物を凝縮し、時蔵して伝達しようとしたものである。この点で、都市は人びとにとって、未来に向けて汲み尽くすことができないほどの「意味」が記号化されている“小宇宙”なのである。

都市はさまざまな秩序を隠し持っている。本講義は社会の多様な姿を都市に焦点をあてて析出するとともに、都市の社会学的分析について基本的な力を身につけることを目的としています。

テキスト:

藤田博夫・浦野正樹編『都市社会とリスク』東信堂 2005年

参考書:

藤田弘夫『奥井復太郎 都市社会学と生活論の創始者』東信堂 2000年

【04】【93】日本社会論(4)

休講

【04】【93】比較文化論(4) 教授 鈴木正崇

授業科目の内容:

南アジアでのフィールドワークの成果を中心として民族・宗教・国家の問題を考える。対象地域はスリランカとインドで、1970年代から歩き続けてきた成果に基づいた事例研究を主体とする。極めてミクロな事例を通じて普遍性に至る道筋を求める人に履修を勧める。出席を重視する。

テキスト:

杉本良男編『アジア読本 スリランカ』河出書房新社, 1998。小西正捷編『アジア読本 インド』河出書房新社, 1997。

参考書:

鈴木正崇『スリランカの宗教と社会』春秋社。金子量重・坂田貞二・鈴木正崇編『ラーマヤナの宇宙』春秋社, 1998。

【04】【93】普及学(4) 教授 青池慎一

授業科目の内容:

あらゆる時代や社会において普遍的に存在しているコミュニケーション・プロセスの一つがイノベーションの普及である。イノベーション(新製品, 新しいスタイル, 新知識など)が発明, 創造され, その源泉やエージェントから人々に送り出され普及している。そして, 人々の生活や社会, 文化はイノベーションの普及によって変容していくのである。いうまでもなく送り出されたイノベーションの全てが普及していくものではないが, このようなイノベーション普及過程がどのようなものであり, いかなる要因がかかわっているかを明らかにしていくものである。

テキスト:

特に指定しません。

参考書:

授業時に適宜示します。

【04】【93】文化社会学(4) 教授 藤田弘夫

授業科目の内容:

本講義の目的は、われわれが社会生活のなかで生み出すとともに、その社会生活を背後から秩序づけている文化の多様な形態を析出することである。この作業を通じて、文化社会学のダイナミックな分析と論理を教授できればと考えています。

テキスト：

藤田弘夫・西原和久編『現代人の社会学入門』（増補版）有斐閣
2000年

参考書：

藤田弘夫『都市の論理』中公新書 1151 番 1993年

【04】【93】社会学特殊 (4)

都市の歴史的環境論 講師 川西 崇行

授業科目の内容：

現在、景気刺激の一策「都市再生」のかけ声の下、巨大再開発事業が次々に起こされている。そのため容積（床面積）の詰め物としての超高層ビル群が随所に出現し、都市の容貌が一変する気配すらある。マスコミ上には商業的な言説しか立ち現れていないが、果たして最近の巨大開発は都市・東京にとって一体「何者」なのか。

都市の景観・風致 歴史的環境は、都市をかたちづくる様々な「力」の合成物として立ち現れ、その国の社会風土や精神性を顕す index であるということがいえよう。本講義では、我が国の都市を形作ってきた経緯、欧米諸都市の風景計画、実際の我が国諸都市の景観など題材に、都市の風景の意味やさまざまな文脈について考えてみたい。

テキスト：

教科書は特に使用しない。以下の参考書は適宜参考にされたい。

必要な文献・資料は、必要に応じてその都度指示する。

参考書：

- ・西村幸夫『都市保全計画』東京大学出版会 2004年
- ・片桐新自『歴史的環境の社会学』新曜社 2000年
- ・藤田弘夫『都市と文化の比較社会学』東京大学出版会 2003年
- ・竹内佐和子編『都市デザイン』（日本の産業システム8）NTT出版 2003

【04】【93】社会学特殊 (4)

フランス社会学で考える現代の諸問題 講師 佐藤 典子

授業科目の内容：

ブルデューは、日常性の中にこそ、支配や権力の問題が潜んでいると指摘しました。本講義では、ブルデューをはじめとしたフランスの社会学者や思想家などの理論をたどりながら、家族や移民の問題、医療・看護などの人々の暮らしに密接なかかわりのある事例について考えます。

テキスト：

開講時に指示します

参考書：

荻野昌弘編『日仏社会学叢書第3巻 ブルデュー社会学への挑戦』恒星社厚生閣 2005年

【04】【93】社会学特殊 (4)

社会福祉学入門 講師 田澤 あけみ

授業科目の内容：

かつて社会福祉は社会事業と呼ばれ対象を社会的弱者に限定し、経済的救済が中心であった。第二次世界大戦後の社会変化は社会福祉概念にも大きな変化をもたらし、理想的には福祉ニーズのあるすべての人々が生涯を通じて社会参加、自己実現を達成できることを目指す社会的施策や専門サービスとなった。さらに20世紀末の「ポスト福祉国家」以降にはエコロジーやエスニシティ、ジェンダー概念を入れたコミュニティ基盤の「福祉」のあり方が模索されている。

本講義では広くこれらの現代社会における社会福祉の意義・とらえ方を踏まえ社会福祉学全体の特質やその機能を理解することを目的とする。とくにわれわれを取り巻く生活問題の存在形態やその広がりへの洞察を深める手がかりとする。

参考書：

『社会福祉小六法』2006年版（ミネルヴァ書房）他

【04】【93】社会学特殊 (4)

東アジアの風水思想と環境観 講師 渡邊 欣雄

授業科目の内容：

こんにちの環境観には、生活に根ざした環境観のひとつ、「風水」があることを理解したい。とりあげる地域は主として東アジアである。前近代にも「環境科学」が存在したこと。それはこんにちの「科学」とは全く異なる「風水思想」であった。そして前近代の「風水思想」の発信地点の一つとして、東アジアがあった。そのような「風水思想」が近代以降には「環境思想」となって、いまなお生活に生かされている。このような環境観を理解することが、「生活者」のためにある「環境観」である。こんにちの日本では、「風水」を占術だとして誤解する傾向があるが、歴史は決してそうではなかった。本講義は、このような風水思想の全貌に迫る。

テキスト：

テキストは用いない。主としてプリントや映像（写真やビデオ）を用いる。

参考書：

渡邊欣雄著『風水思想と東アジア』（人文書院、1990）、渡邊欣雄著『風水 気の景観地理学』（人文書院、1994）、渡邊・三浦編『風水論集』（凱風社、1994）、渡邊欣雄著『風水の社会人類学』（風響社、2001）、渡邊欣雄編『風水の歴史と現代』（アジア遊学47号、勉誠出版、2003）

【04】【93】社会学特殊 (4)

宮崎アニメから考える現代社会の諸問題 講師 正木 晃

授業科目の内容：

この講義では、「風の谷のナウシカ」・「ハウルの動く城」・「千と千尋の神隠し」などの宮崎アニメを中心に、そこに象徴的に表現されている現代社会のさまざまな問題を考えていきます。キーワードは、自然と人間（アニミズム）・生と死・人間の条件（脳・魂・身体）を設定しています。

また、現代社会の実相を正しく把握するためには精神医学的な知見が欠かせません。そこで、ごく初歩的ではあっても、知っておきたい精神医学上の知識と情報を提供したいと考えています。

そして問題をただ単に指摘するだけでなく、解決に導く可能性をはらむ視点やコンセプトを伝統的な智恵、とりわけ宗教的な智恵から学ぼうと思います。私が開発した「マンダラ塗り絵」を使って、自分の内面をのぞくことも試みます。

テキスト：

正木晃『お化けと森の宗教学』（春秋社、2002年、1890円）

参考書：

- ・正木晃『立派な死』（文藝春秋社、2005年、1860円）
- ・正木晃『マンダラ塗り絵』（春秋社、2006年、1890円）

【04】【93】社会学特殊 (4)

演劇の人類学 講師 宮尾 慈良

授業科目の内容：

演劇が果たして来た役割を理解するために、民族社会で演劇がどのような機能を持ってきたかを人類学の視点から考える。前期はインド演劇の芸術論『ティヤシャーストラ』を読みながら、演劇構造、舞台空間、演出法、身体表現などをサンスクリット演劇と舞踊から考える。なお比較演劇の視点から、インド演劇理論書と日本の『風姿花伝』（能）と比較する。後期はバリ、カンボジア、中国、韓国、日本などに伝承される宮廷舞踊、民族舞踊を通して、人類はなぜ踊るのかを考える。

テキスト：

授業時はじめに指示。

参考書：

宮尾慈良『アジア演劇人類学の世界』三一書房、『アジア舞踊の人類学』PARCO出版、『宇宙を映す身体』新書館、『アジアの芸術論』勉誠社など。

- ・ Bhara Muni “Natyasastra” trans. by Ghosh
- ・ Pronko “Theater East and West” University of California Press
- ・ Rachel Van M. Baumer, James Brandon “Sanskrit Drama in Performance” Hawaii University Press

【04】【93】社会学特殊 (4)
企画創出法 講師 山川 悟

授業科目の内容：

- ・ 実務の現場で実践されている創造性開発技法・プランニングメソッドを体験してもらうことにより、企画書作成の基礎を学びます。
- ・ 生活者の情報行動・消費行動の具体的な事例を採り上げ、社会的知見から考察・分析を行います。また、グループワークを通じ、コンシューマインサイトに基いた企画立案作業を実践してもらいます。
- ・ 以上を通じ、創造的なマーケティングプランニングスキルを取得することが本講義の狙いです。

テキスト：

特に指定しません。講義プリントを配布します

参考書：

「コンテンツマーケティング～物語型商品の市場法則を探る」(同文館, 2004年, ¥2400)

【04】【93】社会学特殊 (4)
地域社会とイエ・ムラの現代史 講師 原山 浩介

授業科目の内容：

本講義では、地域社会、それもとりわけ農村社会の近代化過程を、理論と実態の推移の両面から捉えていく。

農村社会に関する理論枠組みとして、「イエ・ムラ論」がある。これは、農村社会を理解するために蓄積されたものであると同時に、とりわけ太平洋戦争後、日本の社会をどう捉え、方向づけるのかという問題関心に支えられて議論された。「イエ・ムラ論」を捉えなおすことは、とりもなおさず、戦後の日本社会をどのように方向づけるのか、あるいは日本社会そのものをどう理解するのかという当時の議論を見直す作業でもある。これら観点を基底にしながらか、「イエ・ムラ論」の講義を進めていく。

また本講義では、地域社会、とりわけ農村社会の現代史も扱う。戦後の農村社会の変容、そこで起こった様々な出来事や社会運動をめぐり、今に至るまでの同時代史を細解きながら、地域社会の形成過程を垣間見ようと考えている。

「現代史」への関心が、今日的な問題を解きほぐそうとする問題意識に支えられることが多い。この講義で扱う事柄は、必ずしも今日の話ではないが、今日の地域社会のありようを理解するための糸口を探る、ひとつの試みである。

テキスト：

講義資料を適宜配布する。

【04】【93】社会学特殊 (4)
メディアとジェンダー 講師 小玉 美意子

授業科目の内容：

男女ともに生きやすい社会を作る上でのジェンダー問題をメディアとの関連の中で考察します。

メディアの中で表現される女性・男性のステレオタイプを分析し、ジェンダーバイアスを考えます。さらに、それを生み出す社会およびメディアの構造に言及し、問題点をさぐります。メディアがジェンダーの固定化につながるのか、あるいは変革につながるのか、メディアのあり方と関連づけながら考察していきます。

テキスト：

未定

参考書：

- ・ 小玉美意子『新版ジャーナリズムの女性観』学文社
- ・ 小玉美意子編著『美女のイメージ』世界思想社
- ・ 村松泰子編訳『新しいコミュニケーションとの出会い』垣内出版
- ・ 加藤春恵子他編『女性とメディア』世界思想社

【04】【93】社会学特殊 (4)
現代広告論 講師 遠藤 彰郎

授業科目の内容：

広告は、色々な人々が創意工夫をして発展してきました。関連する学問領域も多岐にわたり、マーケティング論、メディア論、コミュニケーション論をはじめ経営学、経済学、社会心理学、社会学、政治学、法学などと連携しながら、新たな領域を切り開いています。本講は現代社会と同期しながら発展している広告の最前線を通して、時代を読み解くリテラシーの向上を図ります。

テキスト：

授業時にプリントを配布します。

参考書：

藤竹暁編著『図説 日本のマスメディア[第2版]』(NHKブックス, 2005年)

【04】【93】社会学特殊 (4)
中国および中国人を知る 講師 西園寺 一 晃

授業科目の内容：

多くの問題をかかえながらも成長を続ける中国・そしてそこで生きる13億人の人々。その人々の思想意識とライフスタイル、およびその変化について考えます。政治・経済・文化・マスメディアと国民・民族意識、消費者意識と消費革命、若者と流行・グローバル化と対日感情など、さまざまな面から検討を加えより実像に迫りたいと思います。21世紀は米中の時代となるでしょう。日中経済の相互依存関係も深化し続けるでしょう。私たちは中国人との交流・交渉を避けて通ることはできなくなります。そのために役立つような授業内容にしたいと思います。

テキスト：

必要に応じて講義資料を配布します。

参考書：

未定・必要に応じて指定します。

【04】【93】社会学特殊 (4) 講師 鈴木 智之

授業科目の内容：

本年度は、「文学を社会学する」と題して、「文化的・言語的実践の編成」と「社会的現実」の成り立ちについて検討していきます。まず前期は、「文学」と「社会学」の関係について、「文学作品(テキスト)」を対象とする社会学、「文学制度(場)」を対象とする社会学、「社会言説としての文学」を対象とする社会学、「文学」を通して「社会」を見る社会学のそれぞれについて検討し、さらに文学言説そのものの成立を検討しながら、これをそのまま社会学の考察に連続させていく可能性を考えていきましょう。後期は、前期の「方法的」考察を踏まえて、具体的な「テキスト」「現象」「言説」の分析に向かう予定です。

テキスト：

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

参考書：

J. デュボア『探偵小説あるいはモデルニテ』法政大学出版局、『現実を語る小説家たち』法政大学出版局

【04】【93】社会学特講 (2)(秋学期)
データ分析の概要と実践 講師 荒 和志

授業科目の内容：

調査や実験などの観測データをグラフ化し、データがもつ傾向や性質を、ある程度まで把握することができる。さらに、統計解析の理論にもとづいたデータ処理をおこなうことによって、探索的に傾向を理解し、確率的に結果の解釈や予測を導くことができる。ここでは、主に統計解析専用ソフトウェア SPSS を使ったコンピュータ実習を通じて、体験的に統計解析の基本を学習すると共に、各専門分野で SPSS を用いた統計解析手法を充分活用でき、処理結果に対して正しい評価ができるような応用力を養うことを目標としている。

講義では、データの整理、ファイルの取り扱い、度数分布表（調査データ集計）、基礎統計量（平均値、分散値、標準偏差など）、各種グラフの作成、t検定、カイ二乗検定、相関係数とその検定、分散分析など、および多変量解析（因子分析、重回帰分析、主成分分析、数量化理論1,2,3,4類、判別分析）など具体的にデータを使用し紹介する。また、表計算ソフトのEXCEL統計に関しても、その特徴や使用方法を含めて紹介する。

テキスト：

講義資料は共有ディレクトリよりダウンロードできます。

【04】【93】社会学特講（秋学期）

民族音楽学 講師 勝村 仁子

授業科目の内容：

「声によっておこなわれるパフォーマンス」を取り上げる。声はいうまでもなく豊かな「楽器」（=発音体）であるが、通常の「楽器」と異なる特質として、言語メッセージを担う発音体であるという点があげられる。本講義では世界に広く分布する「叙事詩語り」や、日本の「ごぜうた」など基本的に楽譜を持たない「演唱芸能」をとりあげ、そのパフォーマンスを社会的・文化的に成立させている背景を考察する。

「言語を持たない民族がないように、音楽を持たない民族はない」と言われるほど音楽は多様であり、人間の文化にとって本質的なものであるが、本講義ではそうした普遍的な音楽を、文化の違いを越えた視点から捉える機会を提供することを目的とする。なお導入として、最初の数回の講義で、「民族音楽学」について概説を行う。

テキスト：

特に使用しません。

参考書：

必要に応じて授業内に紹介します。

【04】【93】社会学特講（2）（春学期）

柳田国男研究 講師 岩田 重則

授業科目の内容：

担当者の専門が民俗学なので、柳田国男の学問と思想を、多様な角度から明らかにする。

テキスト：

授業中指示する。

参考書：

同上

【04】【93】社会学特講（2）（春学期）

現代アフリカ世界への人類学的アプローチ 講師 坂本 邦彦

授業科目の内容：

文化人類学・社会人類学の研究のなかで蓄積されてきた民族誌のなかから主にアフリカをフィールドとするものを取りあげ、文化のコンテクストにそってさまざまなものの考え方を理解していくとはどういうことかを考えていく。これを通じて、多元的様相を呈している現代世界を読み解くための人類学的発想法に触れていきたい。

講義の中心はアフリカに関係することになるが、アフリカに限らずどこかでフィールドワークをやってみたいと考えている学生の受講を期待する。視聴覚資料をできるだけ使用していく予定である。

テキスト：

使用せず。講義資料プリントを配布。

参考書：

- ・川田順造編著『アフリカ入門』（新書館、1999年、2400円）
- ・宮本正興編著『新書アフリカ史』（講談社、1997年、1400円）

【04】【93】社会学特講（2）（秋学期）

民族音楽 講師 山本 宏子

授業科目の内容：

世界のさまざまな地域・民族の音楽から、社会と文化の相互関係を学ぶ。

テキスト：

プリントを配布

参考書：

山本宏子『日本の太鼓、アジアの太鼓』（青弓社2002、1600円）

【04】【93】社会学特講（2）（春学期）

ナショナリズムの社会学 講師 大谷 栄一

授業科目の内容：

グローバル化した現代世界において、ナショナリズムをめぐる問題や紛争が頻発している。日本社会においても、新しい歴史教科書や靖国問題、教育基本法と日本国憲法の「改正」をめぐる動向に見られるように、「国民」や「国家」のあり方が再審に付されている。

この講義では、現代日本社会で生起している問題群と現代日本に密接に関係している<アジア>をめぐる問題群を取り上げ、「ナショナリズム」と「多文化主義」という視点からアプローチすることで、現代日本における人々の共同性や関係性、日本社会と<アジア>との関係性について検討することにした。

テキスト：

なし。毎回、資料を配布する。

参考書：

授業中に指示する。

社会学特講（2）（秋学期）

家族・親族研究の基礎 講師 吉野 晃

授業科目の内容：

この授業は、文化人類学における家族・親族研究の基礎的な知識と見方を習得することを目的とし、そのための講義とトレーニングを行う。もう少し具体的にいえば、文化人類学の専門論文の、少なくとも家族・親族組織に関する部分は十分に理解できるレベルの能力を受講生各自が身につけることを目的とする。そのためには、講義のほかに専門論文や民族誌の読解が不可欠であり、それを授業を通じて行ってゆく。

産業化が進んだ社会でも、家族や親族といった関係は民俗社会の社会組織の骨格となっている。人間が出生後に文化を習得するのは、まず家族・親族の中においてである。文化の身体化の現場は、そのような集団や組織である。いわば家族・親族といった民俗社会の組織は文化習得の鋳型であるが、この鋳型自体が文化の産物でもあるため、常に変化する。さらに、こうした組織は大幅な多様性を示している。本講義では、この厄介な、人類の多様な家族・親族組織を分析するための基本的な概念と調査・分析・研究の方法を説明する。家族とか親族組織といった話題は、難しそうな漢字用語やカタカナ用語が頻出し、且つやの親族関係図が複雑そうで、取っつきにくい印象があるようだが、そのようなことはない。順を追って理解してゆけば、非常に分かりやすい分野でもある。

講義のほかに、課題論文を予め読んで、質問・コメントを提出して貰う宿題を課し、その質問・コメントに基づく解説やディスカッションも併せて行う。社会組織についての知識・視点・分析のトレーニングを行うとともに、専門論文の読み方と、論文・レポートの書き方のトレーニングも兼ねる。受講生の学習歴や研究関心の在り方などを最初に聴取し、それに合わせて課題を設定して、無理なく課題をこなせるように工夫してゆくつもりである。

テキスト：

特に指定無し。授業中にプリントを配布する。

参考書：

- ・原ひろ子（編）『家族の文化誌：さまざまなカタチと変化』弘文堂
- ・綾部恒雄（編）『女の文化人類学』弘文堂
- ・綾部恒雄（編）『女の民族誌1：アジア篇』弘文堂
- ・綾部恒雄（編）『女の民族誌2：欧・米・中東・アフリカ・オセアニア篇』弘文堂
- ・フォックス、R.『親族と婚姻：社会人類学入門』思索社
- ・前田成文『東南アジアの組織原理』勁草書房
- ・村武精一『家族の社会人類学』弘文堂
- ・伊藤亜人ほか（編）『現代の社会人類学1：親族と社会の構造』東京大学出版会

- ・清水昭俊『家・身体・社会：家族の社会人類学』弘文堂
- ・清水昭俊(編)『家族の自然と文化』弘文堂
- ・福井勝義(編)『近所づきあいの風景：つながりを再考する』昭和堂
- ・吉原一男・鈴木正崇・末成道男(編)『血縁の再構築：東アジアにおける父系出自と同姓結合』風響社
- ・レヴィ=ストロース, C.『親族の基本構造』青弓社
- ・田中雅一・中谷文美(編)『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
この他多数。あって授業中に指示する。

選 択 科 目

【04】【93】社会学研究会 (3年)(2)

【04】【93】社会学研究会 (4年)(2)

休講

【04】【93】社会学研究会 (3年)(2)

【04】【93】社会学研究会 (4年)(2)

K-Bros.

助教授 榎尾直樹

授業科目の内容：

本研究会は文化人類学や宗教社会学をベースとしたスピリチュアリティの社会科学の領域で研究を行う。ここでいうスピリチュアリティとは、「自分を越えた何かのかとつながっている感覚、あるいはその何かの自分が自分の中で働いている感覚」を意味する。現代社会の共同性のあり方をいっしょに考え、実践しよう。

テキスト：

榎尾直樹他編『スピリチュアリティの社会学』せりか書房, 2002年
その他は授業の中で適宜指示する。

参考書：

授業の中で適宜指示する。

【04】【93】社会学研究会 (3年)(2)

助教授 岡原正幸

講師 岡田あおい

授業科目の内容：

本研究会は、家族および家の理論の理解を深め、わが国における現代社会の諸問題を家族、および家の視点から分析、考察することを中心的テーマとする。

テキスト：

その都度指示する。

【04】【93】社会学研究会 (4年)(2)

助教授 岡原正幸

講師 岡田あおい

授業科目の内容：

本研究会は、家族および家の理論の理解を深め、わが国における現代社会の諸問題を家族、および家の視点から分析、考察することを中心的テーマとする。

テキスト：

その都度指示する。

【04】【93】社会学研究会 (3年)(2)

【04】【93】社会学研究会 (4年)(2)

現代社会とこころをめぐる諸問題 助教授 長尾真理

授業科目の内容：

現代社会は、心理的・社会的なストレス要因にあふれている。これらの中には深刻な心的障害を引き起こすケースも少なくない。このように、現代人が日常生活の中で避けることのできないこころの問題を取り上げ、多角的に検討することがこの研究会の中心テーマである。

秋学期以降は、受講者の研究テーマ別にグループ・ワークを行い、

更に卒業論文の完成をめざして指導する。

受講者には明確な問題意識と共に、自らの研究テーマに主体的に取り組む姿勢が望まれる。

【04】【93】社会学研究会 (3年)(2)

教育社会学研究

教職課程センター 助教授 竹村英樹

授業科目の内容：

3年生の研究会は、教育に関する社会学的研究を行なう。本年度は「階層と教育」をテーマとする。まずは、文献研究を中心に進めるが、各自が関心ある研究テーマを見つけ、フィールドを持ち、4年時の卒業論文執筆に向けてスタートができるように、支援していきたい。理論的研究と経験的研究をバランスよく取り上げ、教室だけの勉強にとどまらず、各種の見学・観察を取り入れ、進めていきたい。また、共同研究を課し、三田祭で発表する。三田祭終了後は、社会学の古典を講読する。

テキスト：

別途指示します。

参考書：

別途指示します。

【04】【93】社会学研究会 (4年)(2)

卒業論文指導 教職課程センター 助教授 竹村英樹

授業科目の内容：

12月までに最低4回の発表を行なう。

【04】【93】社会学研究会 (3年)(2)

【04】【93】社会学研究会 (4年)(2)

《アート》と《社会学》

助教授 岡原正幸

授業科目の内容：

team Oka による実験的社会プロジェクトあるいは社会彫刻の実践です。ゼミのWEB, <http://oka.web.infoseek.co.jp> を参考にしてください。

社会学研究会 (3年)

教授 野村伸一

授業科目の内容：

東アジアの地域研究をめざします。しかし、これは講義の場ではなく、各自が地域と問題を設定して最後に、卒業論文という作品を生み出すための場です。

主として基層文化とそれを取り巻く社会を考えることを勤めます。できれば、日本だけに限定せず、中国、台湾、南島、朝鮮半島など、日本の周辺地域に自分の思考の拠点を構築することが必要です。従来の比較文化研究の陥穽に注意してください。すなわちみずからは動かず(日本を中心としたままで)「日本との比較」という座標軸を立てるだけでは視点の限界があります。東アジアという枠組の中で、「日本を比較の素材」として考える思考こそが求められているといえるでしょう。そのためには現地言語文化のなかにみずから飛び込む気概が必要です。そこで得た感動なり、衝撃こそが地域研究の出発点です。そして、研究の深まりなどとはいっても、多くはそのことの追究に過ぎないものです。

日本における東アジアの文化研究は、従来、朝鮮、琉球、台湾、中国の各地方というように縦割りの領域を設定し(その専門家となることをめざし)、他との関連をあまり考慮せずにきた傾向があります。こうしたやり方は成果はあがるけれども弊害も多い。隣接地域に対する興味、関心が失せていくことが最大の欠点です。

それは問題意識の設定の仕方によって変更しうるものです。東アジアの歴史のなかで基層文化あるいは民衆文化などを考えれば、互いに関連が生じざるを得ません。そのため、視野は必然的に広がるはずですが、どこに拠点を置くかは最終的には個人の作業ですが、大海への船出に当たっての羅針盤作りは共同作業のほうが効果的です。この研究会はそのような場となるはずですが。

【04】【93】社会学研究会 (4年)(2)
教授 野村伸一

授業科目の内容:

卒業論文に向けた個々人の研究発表, 報告を中心にします。二週間に一度ほどの発表となります。発表後には, 探求の方向, 焦点の定め方などについて質問し, また, こちらから意見を述べます。同時に論文の章立て, 体裁(引用の仕方, 注記)について, 話し合います。

参考書:

各人の発表に応じて提示しますが, 基本的には, 自分で探し, 一覧表を作ることがだいじです。論文作成の第一歩であると同時に, これをいかに充実させていけるかが, 問われます。納得のいく論文に向けて, 充実した参考文献表を持つようにしてください。

【04】【93】社会学研究会 (3年)(2)
教授 青池慎一

授業科目の内容:

3年生は, まず第一に今日のコミュニケーション研究の発展をふまえつつ, コミュニケーション研究の基礎的理論をしっかりと学習する。その上で現代社会におけるさまざまなコミュニケーション上の問題に対する実証的研究を行う能力を高めていく。

テキスト:

適宜示していく。

参考書:

適宜示していく。

【04】【93】社会学研究会 (4年)(2)
教授 青池慎一

授業科目の内容:

4年生は, 3年生における研究活動の成果をふまえ, より専門的研究を行い卒業論文を完成させる。

テキスト:

適宜示していく。

参考書:

適宜示していく。

【04】【93】社会学研究会 (3年)(2)
【04】【93】社会学研究会 (4年)(2)
記憶の社会学 教授 浜日出夫

授業科目の内容:

(1) 共通テーマ

今年度の共通テーマは「記憶」である。

(2) サブゼミ

3~4のサブゼミを設け, 共同研究を行なう。

(3) 個人研究

自分のテーマについて各自研究を行ない, 3年生はゼミ論文(12000字以上), 4年生は卒業論文(40000字以上)を作成する。

テキスト:

開講時に指示する。

参考書:

講義時間内に紹介する。

【04】【93】社会学研究会 (3年)(2)
【04】【93】社会学研究会 (4年)(2)
教授 鈴木正崇

授業科目の内容:

文化人類学を専門とするゼミである。宗教学や日本研究(民俗学を主体とする)も取り込んで構成する。半期ごとに特定の主題を設定して, 専門書や論文を報告し討論を行なう。4年生は数度の間際発表を行い卒業論文作成の指導を行なう。

【04】【93】社会学研究会 (3年)(2)
【04】【93】社会学研究会 (4年)(2)
教授 藤田弘夫

授業科目の内容:

都市の社会学理論面での研究を進めるとともに, 古本の町として有名な神田神保町とイギリスのヘイ・オン・ワイの比較研究を行います。

今年の研究会の進め方については, すでに詳しく説明しておりますので, ここでは繰り返して説明いたしません。出席者は研究会との両方を登録してください。一方は必修, もう一方は自由科目です。

テキスト:

- ・植田和弘他編『公共空間としての都市』岩波書店 2005年
- ・藤田弘夫『都市と文明の比較社会学 環境・リスク・公共性』東京大学出版会 2003
- ・藤田弘夫他編『都市社会学』有斐閣 1999年

参考書:

- ・R. ブース(東訳)『本国の王様』創元社 2001年
- ・川成洋編『世界の古書店』丸善ライブラリー 1994年他
- ・『神田神保町古本屋散歩』毎日新聞社ムック 2004年。

【04】社会学原典講読(英)(2)
【93】原典講読(英)(2) 講師 仙田幸子

授業科目の内容:

本講義では英語で書かれた社会心理学の初歩的な入門書を講読する。学術論文を英語で読む能力の養成と社会心理学のエッセンスの理解を目的とする。

テキスト:

初回の授業で提示する。

参考書:

- ・社会心理学小辞典(古畑和孝, 岡隆編, 有斐閣, 2002),
- ・社会心理学用語辞典(吉森護ほか編集, 北大路書房, 1995)など

【04】社会学原典講読(英)(2)
【93】原典講読(英)(2) 講師 田中正隆

授業科目の内容:

社会学, 人類学関連の論稿を輪読してゆく。テーマは90年代以降, 現在にいたるまで活発に議論が交わされている, 地域社会(周辺社会)における近代性 modernity やグローバル化 globalization をめぐる問題である。特にアフリカを対象としては, いわゆる妖術と近代という表題のもと, 伝統性と政治, 経済, 法制度, 教育などの近大システムとの葛藤に関して続々と論文集が刊行されている。本講座ではモダニティ, グローバル化, 周辺社会, 市民社会といったキーワードに関心を持つ方の参加を, 専門領域を越えて広く歓迎したい。取り上げる論稿は, Wallerstein (I. ウォーラストイン), Bech (U. ベック), Tzin (A. ツイン), van Binsbergen (ピンスパーゲン), Pels (ペル)らの論文の予定。

【04】社会学原典講読(英)(2)
【93】原典講読(英)(2)
社会学の社会学 講師 佐藤典子

授業科目の内容:

ブルデューの知の足跡をたどり, 内外に彼がもたらした遺産を振り返りながら, 今後, フランス社会学が彼の亡き後どのように変化していくのか, その著作や彼について論じている英語圏の論文(ポール・ラビノウやエドワード・グラント・アンドリュウなどを取り上げる)を読みながら考えてみたいと思います。ブルデューの専門は多岐にわたり, その提示する概念は汎用性が高いといわれますが, 彼が示す事例について一つずつ押さえながら個々の履修者の関心に結びつけて考えていきたいと思います。

テキスト:

開講時に指示します。

参考書：

『日仏社会学叢書第3巻』荻野昌弘他編 2005年 恒星社厚生閣

【04】社会学洋書講読(英)(2)

【93】洋書講読(英)(2) 助教授 長尾 真理

授業科目の内容：

英語の学術文献を直接読み解くことによって、英文の読解力向上と、的確な論旨の把握をめざす。講義では、あらかじめ割り当てられた担当部分を訳出・要約する。テキスト等については、初回の講義で指示する。

【04】社会学原典講読(独)(2)

【93】原典講読(独)(2)

ドイツ語圏における社会学分野の著作を日本語で読む

助教授 岡原 正幸

授業科目の内容：

【目的】社会学およびその周辺領域に関するドイツ語圏の古典/原典を、翻訳文献をつかって緻密に読解します。学術的内容の日本語による理解を至上とし、その限りで場合によってドイツ語原語についての解説を行います。

【内容】ドイツ語圏のみならず、社会学にとっても古典として必須文献であるような書物、たとえば、マルクス、ヴェーバー、ジンメル等の文献を読み進めたいと思います。文献の選択に際しては翻訳本の手に入れやすさも考慮します。

昨年は、『苦悩する人間』(V. フランクフル)と『人間の将来とバイオエシックス』(J. ハーバマス)を読みました。

【04】社会学洋書講読(仏)(2)

【93】洋書講読(仏)(2)

パリ・モザイク

助教授 榎尾 直樹

授業科目の内容：

本授業は、社会学、人類学に関するフランス語文献の講読を通して、1 フランス語文献の読解の能力の向上、2 フランス語圏の社会学・人類学に関する基本的知識の獲得、3 フランス語圏の社会学・人類学の近年の動向に関する情報の獲得、の3点を目的としている。テキスト：

Michel Pincon & Monique Pincon-Charlot, Paris Mosaic, Caimann-Levy, 2001

参考書：

授業の中で適宜指示する

【04】【93】知覚心理学 (4)

知覚心理学の基礎

教授 増田 直 衛

授業科目の内容:

知覚心理学における基本的な概念, 方法論, 事実を紹介しながら, 心理学としての知覚研究を理解することにある。

供覧実験や, AV 機器をできるだけ多く用いて, 知覚心理学における具体的な事実を体験しながら理解を得られるようにしたい。

テキスト:

授業で使用するパワーポイントは印刷して配布します。

参考書:

その都度紹介するが, 一般的に参考になるものを以下にあげる。

- ・大山 正 (編)「講座心理学 4 知覚」東京大学出版会
- ・柿崎祐一・牧野達郎 (編)「心理学 1 知覚・認知」有斐閣
- ・松田隆夫 (著)「知覚心理学の基礎」培風館

【04】【93】発達心理学 (4)

発達科学の基礎と臨床

教授 山 本 淳 一

授業科目の内容:

(1) 発達心理学と発達臨床についての広範囲の知識を得ることを目的とする。まず, 「理論」および, それを支えている「事実(実験, 観察, 事例)」を理解していく。

(2) ヒトの心的機能の発達を生み出している要因を, 「環境と個体の相互作用」という観点から詳細に検討する。知覚, 運動, 音声, 言語, 認知, 社会的行動, 動機づけ, 情動, などの発達を分析していく。そのことで, 発達科学 (developmental science) という領域への展開を探っていく。

(3) 発達過程の中で子どもたちがもつ様々な問題に対して, その原因を「環境と個体の相互作用」という観点から考究する。発達臨床の現場での事例を詳細に分析していくことで, 具体的な支援方法を検討していく。

テキスト:

バターワース, G. & ハリス, M. 「発達心理学の基本を学ぶ」ミネルヴァ書房

参考書:

「発達心理学辞典」ミネルヴァ書房

【04】【93】行動分析学 (4)

行動の科学的制御とは

教授 坂 上 貴 之

授業科目の内容:

行動分析学 (behavior analysis) の方法論の特徴と概念的枠組み, および実験的行動分析によって明らかにされた実験的事実とそれをめぐる最近の理論的展望を中心に講義を行う。

テキスト:

メイザー (著 磯ら (訳))メイザーの学習と行動 日本語第 2 版 二瓶社

参考書:

- ・広田ら (著)「心理学が描くリスクの世界 行動的意志決定入門」慶應義塾大学出版会
- ・佐藤 (著)「行動理論への招待」大修館書店
- ・レイノルズ (著) 浅野 (訳)「オペラント心理学入門」サイエンス社
- ・小川 (監)「行動心理ハンドブック」培風館
- ・スキナー (著) 岩本 (監訳)「人間と社会の省察」勁草書房
- ・スキナー (著) 河合ら (訳)「科学と人間行動」二瓶社

【04】【93】認知心理学 (4)[春] 助教 梅 田 聡
[秋] 教授 伊 東 裕 司

〔春学期〕

認知心理学の基礎

授業科目の内容:

本講義では, 1 年を通して, 認知心理学の考え方, および研究方法の理解を目指し, 認知のさまざまな視点からの研究に焦点を当てる。春学期は, 人間の記憶と感情をテーマとし, それぞれの概念や研究成果について, やや専門的な視点から概観する。

テキスト:

指定しません。

参考書:

授業中に紹介します。

〔秋学期〕

認知心理学の基礎と応用

授業科目の内容:

秋学期は, 基本的な研究領域のうち春学期に触れなかったものを紹介し, ついで認知心理学の応用的な研究, 特に目撃者の記憶に関する研究, 広告やブランドに関する記憶に関する研究について論じる。

テキスト:

市川, 伊東 (編)。(1996). 認知心理学を知る. プレーン出版

参考書:

別途授業中に紹介します

【04】【93】生物心理学 (4)[春] 教授 渡 辺 茂
[秋] 教授 小 嶋 祥 三

〔春学期〕

授業科目の内容:

生物心理学では心を 1) 神経系の機能として, 2) 進化の産物として, 捉えます。そのため最初の何時間かは神経科学の基礎を学びます。その後, 前期は主として動物に関する講義を行います。このなかで, 聴覚に関することがらと運動系に関することがらは後期に学ぶこととして前記ではほとんど取り上げません。

参考書:

Carlson "Physiology of Behavior"・Rosenzweig et al. "Biological Psychology"・渡辺茂「ヒト型脳とトリ型脳」

〔秋学期〕

授業科目の内容:

秋学期には, ヒトの脳の研究が中心になる。機能脳画像や脳損傷の研究を通して, 認知機能と脳との関係を理解することを目指す。

テキスト:

なし。

参考書:

Gazzaniga et al., Cognitive Neuroscience (2nd ed.) Norton, 2002

【04】【93】心理測定論 (2)(春学期)

「心」の数値化の考え方と方法 教授 伊 東 裕 司

授業科目の内容:

心理学で用いられる測定の中で, 心理的側面を直接数値化する方法について学ぶ。測定の対象としては, 感覚, 知能, 好ましさ, 記憶, などを取り上げるが, 測定方法はこれら以外の対象についても応用可能なものである。

【04】【93】心理学史 (2)(春学期)

教授 渡 辺 茂

授業科目の内容:

心理学には長い過去と短い歴史がある, というのが心理学史の講義の枕の定番であるが, 僕に可能な範囲で過去についても言及したい。とはいっても, やはり実験心理学の成立を中心に, 1960 年くらいまでの心理学の歴史を勉強することになる。できる限り原典の一部を読んで一次資料から歴史を考えてみたい。実験利学としての

心理学の勉強と歴史科学としての心理学史の勉強は大変異質なもので、僕自身歴史科学の正規教育を受けていないが、これまた僕のできる範囲で単なる学説の変遷ではなく、歴史科学としての心理学史の授業を目指してみたい。

参考書：

最初に一覧表を渡します。

【04】【93】心理統計(4) 助手 大森 貴 秀

授業科目の内容：

心理学実験や調査に最低限必要と考えられる統計学の論理、技法を習得することを目標とします。春学期は記述統計、秋学期は推測統計を中心に授業を進めていく予定です。

テキスト：

山内光哉 1998 心理・教育のための統計法 第2版,サイエンス社 2500円

参考書：

授業内で随時紹介します。

【04】心理学原典講読(2) [春] 助教授 梅田 聡
【93】原典講読(2) [秋] 教授 伊東 裕 司

<春学期>

授業科目の内容：

心理学研究を進める上で最低限必要とされる専門用語の基礎知識や論文構成の理解などを目的として、英語で書かれた文献を精読する。春学期は、専門書を通して、心理学に特有な表現などに関する理解を深める。

テキスト：

初回授業時に指定する。

<秋学期>

授業科目の内容：

秋学期には、心理学の実験論文を題材として、必要な情報をすばやく獲得する読み方、および論理展開を正確に追いかける、内容の深い理解を目指す読み方の両方を身につけることを目標とする。

【04】心理学実験 (2) 助教授 梅田 聡
【04】心理学実験 (2) 助手 大森 貴 秀
【93】心理学実験 (4) 講師 石井 拓
講師 伊澤 栄 一
講師 菅佐原 洋

授業科目の内容：

心理学の基礎的な実験法と実験心理学で研究された基礎的事実についての実験実習を行う。この授業は実験心理学の根幹をなし、且つ卒業実験を行うため為に必須の知識・技術の習得を計るものであるから、受講者はそれなりの覚悟を持って授業に臨みたい。心理学専攻の学生以外は履修できない。

【04】【93】心理学研究会 (2)
知覚の心理学 教授 増田 直 衛

授業科目の内容：

知覚心理学研究における基本的考え方を身につけることを目的とする。

参考書：

- ・柿崎祐一「心理学的知覚論序説」培風館
- ・Goldstein, E. B. Sensation and Perception. Brooks/Cole Publishing Company
- ・Fineman, M. The Inquisitive Eye. Oxford University Press.

【04】【93】心理学研究会 (2)
発達心理学の研究 教授 山本 淳 一

授業科目の内容：

(1) 発達心理学に関する広い範囲での基礎知識を得るために、まず日本語で書かれたテキストを読み、発表し、討議する。その際、特

に学術的なレポートの作成、プレゼンテーション、ディスカッションの方法を学んでいく。

(2) 実験的手法を用いた発達研究、および発達(障害)臨床研究の英語論文を読み、自らの研究に生かせるように、それぞれの研究のレビュー、手続、結果の解析方法、を詳細に検討していく。

(3) 実際に、子どもたちの発達評価の実習を行う。また、子どもたちを対象にした実験を計画、実施し、その成果を発表し、検討する。

テキスト：

資料を配布します。

参考書：

資料を配布します。

【04】【93】心理学研究会 (2) 教授 坂上 貴 之

授業科目の内容：

実験的行動分析を中心とした論文の発表と、それについての議論を中心に展開する。この授業を受講する者は、心理学研究会 を続けて受講することが求められる。

テキスト：

Iversen, I.H., & Lattal, K.A. (Eds.) (1991). Experimental analysis of behavior. (vol.1 & 2). Amsterdam: Elsevier.

履修者へのコメント：

学部3年生を対象とした、心理学専攻の必修専門教育科目。行動分析学 を履修していること。

【04】【93】心理学研究会 (2) 教授 渡辺 茂

授業科目の内容：

実験データの分析を通じて、1) 文献検索、2) 研究目的、3) 実験計画、4) 実験技法、5) データ解析、6) 論文のまとめ方を学ぶ

【04】【93】心理学研究会 (2)
人間の認知・記憶研究 教授 伊東 裕 司

授業科目の内容：

人間の認知・記憶に関する最近の文献を読み、討論する。受講者は各自リサーチクエスチョンを設定し、文献を検索し読み、その内容を他の受講者に紹介し、討論をリードすることを求められる。

【04】【93】心理学研究会 (2) 教授 小嶋 祥 三

授業科目の内容：

ヒトを対象とした認知精神科学の基礎を作ることを目指す。主に近赤外分光法(NIRS, 光トポグラフィ)の測定法を習得し、予備的な研究を行う。卒業研究のテーマの指導を行う。

【04】【93】心理学研究会 (2)
知覚の心理学 教授 増田 直 衛

授業科目の内容：

受講生の卒論テーマを中心とした研究論文を精読し、知覚心理学研究としての問題の所在を確かめる。

【04】【93】心理学研究会 (2)
発達心理学の研究 教授 山本 淳 一

授業科目の内容：

発達心理学の卒業論文作成のための研究のデザイン発表、中間報告を行い、討議する。また、テーマに関連する論文をレビューし、研究テーマに関する最新の研究動向の発表も行う。

テキスト：

資料を配布します。

参考書：

資料を配布します。

【04】【93】心理学研究会 (2) 教授 坂上 貴之

授業科目の内容：

卒業論文の完成を目指し、関連する論文の発表、ならびに研究経過の報告をする。この授業を受講する者は、心理学研究会と続けて受講することが求められる。

【04】【93】心理学研究会 (2) 教授 渡辺 茂

授業科目の内容：

前期はテキストの講読、後期は雑誌論文の講読を行う。

テキスト：

相談の上決定する。

【04】【93】心理学研究会 (2)

人間の認知・記憶研究の実践 教授 伊東 裕司

授業科目の内容：

人間の認知・記憶に関する最近の文献を読み、自分自身の研究テーマと関連付けて討論する。各受講者の卒業論文の研究について、随時進行状況を報告し、全員で討論を行う。

【04】【93】心理学研究会 (2) 教授 小嶋 祥三

授業科目の内容：

卒業論文の実験、とりまとめの指導を中心に行う。

テキスト：

特になし

参考書：

特になし

選 択 科 目

【04】心理学特殊 (4)

【93】心理学特殊 (4)

行動薬理学(こころとくすり) 講師 高田 孝二

授業科目の内容：

行動薬理学は、薬物の作用機序をヒトや動物の行動を通して捉えようとする一方、薬物効果を通して脳の機能(こころのはたらき)を探る学問領域です。こころのはたらきに影響を与える物質(向精神物質)は治療薬として広く用いられているほか、酒などの嗜好品を介して日常的に摂取され、また乱用など社会問題を生じるものもあります。さらに、われわれは向精神物質を含め、毎日様々な化学物質にさらされており、これら化学物質が生体機能に様々な影響を与えることや、母体を介して次世代の機能にも影響しうることが知られています。本講義ではこれらについて、最新の知見を含め、解説します。

テキスト：

講義資料プリントを配布します。

【04】心理学特殊 B(2)(秋学期)

【93】心理学特殊 (2)(秋学期)

色彩心理学；色とは何か、その働きは

法学部 教授 鈴木 恒男

授業科目の内容：

色とは何か、非常に身近で、これほど答えに難しいテーマはない。この色に関する、考え方の変遷、現在の問題を、生理学、心理学、測色学から扱うが、主に心理学的な立場で解説する。その色彩心理学の問題を、感覚、知覚、認知の問題として解説し、更に色の効用までも論じる。

テキスト：

使用しない。

参考書：

随時、授業で紹介する。

【04】【93】知覚心理学 B(2)(秋学期)

講師 境 敦史

授業科目の内容：

20世紀を代表する二人の知覚心理学者、J. J. ギブソンとH. ヘルソンの理論について、その哲学的・歴史的背景にふれながら解説する。

参考書：

境 敦史・曾我重司・小松英海著『ギブソン心理学の核心』(勁草書房)

【04】【93】発達心理学 B(2)(春学期)

乳幼児期の運動と認知の発達 講師 松澤 正子

授業科目の内容：

乳幼児期における認知の発達とその生物学的な基礎について、特に運動発達と認知発達のダイナミックな関係にさまざまな角度から焦点を当てて講義する。神経系の成熟という生物学的な要因を基盤とした運動と認知の発達メカニズムについて理解することを目的とする。キーワードとして、注意機能、協調運動、脳機能、ダイナミカル・システム、比較認知、自己認知をあげておく。

テキスト：

特に指定しない。(必要に応じて講義資料を配布します。)

参考書：

授業中に紹介します。

【04】【93】行動分析学 B(2)(春学期)

人間の実験的行動分析 講師 小野 浩一

授業科目の内容：

行動分析学における行動の原理は、基本的に生物種の違いを超えたものである。従って、論文にはしばしば動物を被験体とした研究と人間を対象とした研究が並んでいる。しかしながら、動物の行動と人間の行動が多くの面で異なっていることも確かである。

本講義では、実験的行動分析学と呼ばれる領域について解説するが、その主な内容としては、(1)人間行動の特徴、(2)人間行動を実験的に研究する方法、(3)特に人間において発達している言語、社会、文化に関する行動分析的アプローチ、などが中心となる。

テキスト：

小野浩一著『行動の基礎=豊かな人間理解のために』培風館(2005年)

参考書：

授業の中で適宜紹介する。

【04】【93】認知心理学 B(2)(春学期)

司法における認知心理学的諸問題 教授 伊東 裕司

授業科目の内容：

犯罪の捜査や裁判においては、人間の認知的な側面がさまざまな形でかかわりを持ってくる。この授業では、司法における認知的な問題に対して、認知心理学的な研究がどのようにしてどのような解決を提供しているか、しうるのかについて論じる。具体的な問題としては、目撃者の記憶の正確さ、目撃証言の信頼性に関する問題、裁判員の思考や判断に関する問題を中心に取り上げるが、嘘の検出、自白の信頼性の問題などにも簡単に触れる。

参考書：

・伊東・仲(編)特集 司法における心理学的問題。心理学評論 48(4), 2005.

・一瀬・巖島・仲・浜田(編)目撃証言の研究。北大路書房。

・Sporer・Malpass・Koenken(編)箱田・伊東(監訳)目撃者の心理学。ブレーン出版。

【04】【93】生物心理学 B(2)(秋学期)
講師 山崎由美子

授業科目の内容：

比較認知神経科学的研究から得られた、さまざまな認知過程についての実験結果を学びます。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

特に指定しません。

【04】【93】数理心理学(2)(秋学期)
心理現象の数理解析 環境情報学部 教授 渡辺利夫

授業科目の内容：

数理心理学は、数理モデルを構成することによって、心理現象を説明しようとする分野である。本講義では、学習、記憶、性格、知覚の分野をもとに数理モデルがどのように構成され、そして数理モデル構成によってどのようなことがわかっていくのかについて考えてゆく。

テキスト：

なし

参考書：

渡辺利夫著 フレッシュマンから大学院生までのデータ解析・R言語 ナカニシヤ出版 2005

【04】【93】パーソナリティ理論概説(4)
パーソナリティの主要理論：構造・形成・変容
講師 越川房子

授業科目の内容：

心理学では、その人らしい振舞い方、考え方、感じ方をパーソナリティとよんでいる。心理学の諸理論はあなたのパーソナリティをどのように記述するだろうか？

本講では、主要なパーソナリティ理論について概説するとともに、パーソナリティの諸側面を査定する方法を紹介する。また、パーソナリティの変容についても考察する。

テキスト：

特になし

参考書：

・詫摩武俊監修 青木孝悦・杉山憲司・二宮克美・越川房子・佐藤達哉編集企画 「性格心理学ハンドブック」 福村出版 1998
・詫摩武俊・鈴木乙史・清水弘司・松井豊編 性格の変容と文化 2000

【04】【93】言語障害臨床(4)
失語とその治療について 講師 武田克彦

授業科目の内容：

脳の大まかな仕組み、脳の病気などについて解説します。

脳を研究する方法、脳が病気になって生じる様々な症状について学びます。

言語によるコミュニケーションの障害である失語、失語の分類、言語を司る脳のメカニズムについて述べます。失語に対するリハビリテーションについて解説します。

テキスト：

講義資料プリントを配布します。

参考書：

ベッドサイドの神経心理学・武田克彦著・中外医学社・¥3150

教育学専攻

必修科目

【04】【93】教育学概論(4) [春]教授 舟山 俊 明
[秋]教授 山本 正 身

本講義の目的とするところは、これから教育学専攻学生として教育学研究に進みゆく諸君、ならびに教職教養科目ないしは専門選択科目のひとつとして教育学を履修しようとする諸君に対して、「教育問題の科学としての教育学」という考え方、そしてその基礎となる「教育学的な視座」を理解してもらうことを目的として、教育学研究への導入を行うところにあります。その意味で教育学の全領域をカバーする「体系」ないし「構造」を提示することに主眼がおかれているのではなく、いわゆる「入門講義」を展開するものです。

[春学期]

授業科目の内容：

「狭義の近代教育学」は、一般に「教育の世紀」と言われる18世紀に成立したとされています。そしてその際の教育学とは、「教育術」や「教育論」であって、いわゆる「教育科学」ではありませんでした。そしてそこでの教育学的思索は、「どのようにして子どもを善くすることができるのか」という技術的・実践的関心に即したもので、その意味では「教授学」的関心が教育学の中核を形成していたことは言うまでもありません。しかし、それはルソーやカントに見られるように、決して既存の社会への子どもの適応化・組み込みに教育の目標があったわけではなく、むしろ彼らの考察は既存社会に対しては批判的な観点に立った、距離を置いた姿勢と結びついています。すなわち、教育理論の構築においては技術学のメタ理論として「善さとは何か」という反省的思索がセットとなっています。「教育の自律 Autonomie」ないし「教育学の自律性」と言われる事柄は、こうした背景をもつわけです。現在もまた狭義の教育学は、この伝統、すなわち「善さへの省察を内包した技術学」という伝統を引いているはずです。

しかし現代の教育学研究は、上述した「狭義の教育学」を大幅に超えて、一般的な「社会化研究」の一環に組み込まれた社会科学のひとつとして考えられるようになりました。その際の中心的な推進役が、主として実験心理学や認知科学に依拠した「教育心理学」と実証的な「教育社会学」であったことは明瞭です。科学化への動きは、時代の要請でもあって止められませんが、問題は、こうした流れの中でややもすると「狭義の教育学」の持っていた「子どもを善くする」「善くするとはどういうことか」「そもそも善さとは何か」といった関心や問い、これをはずしては教育学的な思索ではなくなってしまう問いがどこかに消えてしまい、「教育=社会化」という論理と、それを前提とした「効率化」の論理で何の疑いもなく進行してしまう事態にあります。ですから、私たちはまずはこうした問題を改めて考えるところから教育学的思索を始める必要があるわけです。

春学期のテーマは「教育」という視座の知識社会学的ならびに認識論的構造についてです。

テキスト：

田中克佳『教育学』（慶應義塾大学通信教育テキスト）慶應義塾大学出版会 1993

参考書：

授業の中で適宜指示します。

[秋学期]

「人間主義」の関心からとらえられた教育学の理論と構造

授業科目の内容：

「教育」や「教育学」をどう論ずるかについては様々な立場や関心があり得る。実際、今日までの教育学研究の諸蓄積や諸成果をもってしても、そこに「定式」と呼ぶに足るだけの理論的枠組みが確乎たるものとして用意されているわけではない。それゆえ、秋学期においては、とくに「人間のため」（とりえずこの言葉に対置される

べき言葉として「国家のため」や「社会のため」というものを想定しておいてもらいたい。あるいはある意味では「個人のため」という表現もこれと対置され得る）という関心を優先的関心とするときに、教育学の理論や構造がどのようなものとして立ち現れてくるか、という問題意識に立って講義を展開してみることにする。

その際、講義担当者が「人間主義」の教育学のモデルに据えるものは、村井実（1922～）の教育学理論である。換言すれば、秋学期の講義は徹頭徹尾村井教育学にこだわり、その祖述に努め、その理論的体系や理論構造のもつ意味を受講者とともに吟味する姿勢を貫きたいと考えている。

しかし、ではなぜ担当者はかくも村井教育学にこだわるのか。それは何よりも、ともすれば「あれか、これか」の対立構造（例えば、「文化の伝達」と「個性の伸張」、「努力指向」と「興味指向」、あるいは「集団主義」と「個人主義」といった）の一方に与しがちな教育理論とは距離を保ちながら、その対立構造を克服するための展望を最も鮮明な形で提示し、しかもその提示の仕方を「人間のため」という立場からの精密かつ周到な推論と論証を通して組み立てた教育学者こそが村井実に他ならないからである。さらに、この「人間主義」に立脚して、ともすれば政治や経済の下請けと見なされがちな教育という営みについてその固有の意味を問い、あるいは倫理学や社会学・心理学などに従属させられがちな教育学についてその学的自律性の問題を真正面から引き受けた稀少な教育学者が村井実に他ならないからである。

したがって、受講者には、村井実によって自覚された教育と教育学の自律的課題を自らの学的課題として追体験し、それを主体的に問い直し、その新たな展望を探るための力量を身に付けてもらうことを期待する。そのような学修のプロセスを提供することこそ、担当者が講義のねらいとするところのものである。

テキスト：

毎回プリント資料を用意する。

参考書：

- ・村井実『教育の再興』講談社、1975年（『村井実著作集』第二巻、小学館、1987年、所収）
- ・村井実『教育学入門（上）（下）』講談社、1976年（『村井実著作集』第一巻、小学館、1988年、所収）
- ・村井実『新・教育学のすすめ』小学館、1978年（『村井実著作集』第五巻、小学館、1988年、所収）
- ・村井実『子どもの再発見』小学館、1982年（同上、所収）
- ・村井実『人間と教育の根源を問う』小学館、1994年。
- ・田中克佳『教育学』（慶應義塾大学通信教育教材）慶應義塾大学出版会、1993年。

【04】教育学原典講読(2)

【93】原典講読(2)

教授 真壁 宏 幹

授業科目の内容：

教育哲学、教育思想史に関する英語テキストを読んでいます。

テキスト：

初回の授業時に決定します。

【04】教育学原典講読(2)

【93】原典講読(2)

助手 山梨 あ や

授業科目の内容：

教育史に関する英語文献を読みます。

テキストを正確に読み、著者の意図を把握した上で、討論を行います。

テキスト：

初回の授業時に指定します。

【04】教育学原典講読(2)

【93】原典講読(2)

講師 中 邑 啓 子

授業科目の内容：

様々な心理学の分野（発達心理学、認知心理学、社会心理学、臨床心理学、カウンセリングなど）から教育に関連する英語文献を選択し、発表形式で講読する。現在の心理学の基礎となる必読文献に

加え、最近書かれた心理学を変えている新しい文献を読む。英語の論文を正確に訳読し、心理学の論文構成や専門用語についての基礎知識を得る。論文内容についての討論を通し、教育心理学に対する関心を高め、理解を深める。

テキスト：

特に指定しない。講義資料プリントを配布する。

【04】教育学原典講読(2)	教授 安藤 寿康
【93】原典講読(2)	講師 敷島 千鶴

授業科目の内容：

教育心理学の英語文献を講読する。英語で書かれた学術論文から最新の情報を得ることは、教育心理学の研究を進めていく上で必須といえる。そのための準備として、テキストを正確に読みこなし、心理学の論文構成や専門表現についての基礎知識を得ることをめざす。加えて、論文内容についての討論を通し、教育心理学研究における最新トピックへの理解を深める。

テキスト：

初回に指定する。

参考書：

初回の授業で提示する。

【04】【93】教育史(4)	教授 山本 正身
日本の「近代教育」を考える	

授業科目の内容：

「教育」を広く人間の成長を促す働きかけとしてとらえるならば、学校を中心として行われている組織的・計画的な教育は教育全体の一部にすぎず、またその歴史も人類史の中のほんの僅かな期間に認められるだけのものであるにすぎない。だが、今日において教育は学校教育を中心に展開され、学校の問題を抜きに教育を語ることはあり得ないような状況にさえなっている。

本講義では、この学校を中心とする組織的・計画的な教育を国家が主導し、またそれを国家的規模において展開しているものものを「近代教育」としてとらえ、この「近代教育」をめぐる諸問題を日本の事例を通して考察する。その際、考察の主要なポイントは、「近代教育」はいかなる理由によって、またいかなる経過を通して教育の中心として君臨するようになったのか、「近代教育」の制度的、思想的特質とは何であるのか、またその特質は広義の教育全般の中にどう位置づけられるものなのか、「近代教育」を克服するための教育上の視点にはどのようなものがあり得るのか、またその視点からとらえられた教育とはどのようなものとして構想され得るのか、の三点に向けられることになる。

この三点は、それだけに着目するならば、教育史というよりもむしろ教育思想もしくは教育哲学の分野での分析視点であるように見えるかもしれない。だが、本講義はこの三点をとくに歴史的な関心に立って論じようとするものであり、そこに本講義が「教育史」を名乗る所以がある。

それゆえ、本講義は教育を題材として史資料の精密な解読に基づく実証研究の成果を紹介することを主たる目的とするものではない。あるいは、日本の歴史の中に探られた教育に関する事実そのものの確実な把握を受講者に求めることを主眼とするものでもない。受講者には、組織的・計画的な教育、すなわち「積極的に教えることによって人間を形成しようとする」教育をもって唯一絶対の教育と見なす発想を相対化し、それを克服するための視点を確保することを目指して、日本教育史の事例に思想的格闘を挑まれることを期待したい。

テキスト：

特に指定しない。講義の際、資料プリントを配布する。

参考書：

- ・田中克佳『教育史』慶應義塾大学通信教育教材 慶應通信、1982年。
- ・辻本雅史『「学び」の復権』角川書店、1999年。
- ・村井実『近代日本の教育と政治』東洋館出版、2000年。

【04】【93】教育学史(4)	教授 真壁 宏幹
-----------------	----------

授業科目の内容：

この講義では「西洋教育思想史」および「西洋教育学史」を扱います。教育や学校の現実の歴史は、ここで紹介する思想や理論の歴史と完全に一致するものではないので、一年間実践と関係ない概念的思想史・学問史を話していると見られてしまうかもしれません。これは、半分当たっていますが、半分違います。というのも、現実で「教育問題」が生じた時、人はまずそれを考えてみなければなりません。その時、ここで紹介する思想や理論、とりわけそこで使われている術語などが、いわば「思考の道具」として強力に議論の磁場を形成し、更には実践の輪郭にも影響を与えるからなのです(たとえばルソーの教育思想)。近代ヨーロッパの人間形成をめぐる諸表象やディスクリプスを社会的文化的文脈のなかで歴史的に考察することとは、ヨーロッパの教育の「現実」をよりよく見るための不可欠な回り道だと言えます。更には、この教育の影響を受けてきた近代以降の日本教育の特徴を知覚し、かつ現在日本で教育が論じられる時に作用している表象構造を明らかにする方法のひとつだとも言えます。ですから、この講義は、我々が教育を論じる時、無意識的意識的に参照している「地図」の構造を、いわば「現地」を歩く前または歩きながら解き明かそうという試みであると言い換えてもよいでしょう。

【04】【93】比較教育学(4)	教授 松浦 良充
世界の教育/教育という世界	

授業科目の内容：

「教育」は、個別的で具体性の強い活動である。したがって、教育現象を理論化(一般化)しようとする作業には大きな困難が伴う。それどころか、捉え方によっては、教育を一般化・法則化すること自体が大きな矛盾である、と言えるかもしれない。

ただたとえ完璧な客観化が不可能だとしても、教育にかかわる現象や問題を、学問的により正確に把握し検討するための有効な手段はないのか。その一つが、「比較」の方法である。他の文化や社会・国家あるいは時代(歴史)における教育と比較することで、私たちが現在直面している教育にかかわる現象や問題を「相対化」し、これまで「あたりまえ」と思いこんできたことを見直すための視座を獲得することができるはずである。とりわけ国際化・グローバル化が指摘される現代では、教育は、他のさまざまな文化や社会・国家からの影響を受けながら、相互に変貌してきている。その意味では、日本の「教育」のなりたちそのものが「比較教育」的なダイナミクスの産物である。

この授業では、こうした背景をふまえて、比較研究の手法による「教育」の再検討の作業をさまざまな角度から試みる。世界の教育を知ることによって、教育の世界の特徴と可能性および限界を考えよう。

春学期では、「比較教育学の方法」を知ること重点を置いて、比較教育学の基礎的諸理論・方法論を検討する。それを通して、西洋近代に発生した「教育」がグローバル化するプロセスを、主として日本を事例として考えることになるであろう。

秋学期には「比較教育学の問題圏」というテーマのもとで、教育に関する各問題領域を国際比較の観点から検討したり、地域別の教育現象の特徴に関して議論する。その際、履修者の発表と討論を中心に進める。個々の事例研究を通して、日本の教育を「相対化」する視点を身につけることができるだろう。

なお、<テキスト><参考書><授業の計画><履修者へのコメント><成績評価方法><質問相談>の各事項については、以下のWeb Siteに掲載する(「授業(塾内)」のページ)。

<http://matsusemi.huu.ac.jp>

【04】【93】教育心理学概論(4)	教授 安藤 寿康
--------------------	----------

授業科目の内容：

人間の成長に関連するさまざまな心理学的に基本となる知見や研究方法論を紹介する。特に個人差と発達に焦点を当て、生命科学との関連を重視した心理学的教育学を描きたい。

【04】教育学演習 (3年)(2)
【04】教育学演習 (4年)(2)
【93】教育学演習 ・ (2) 教授 舟山俊明

授業科目の内容：

本年度のテーマは「教育理論の知識論的基礎に関する分析」。近代教育理論を知識論や認識論の観点から考察することを目指します。授業の当初は、テーマに関連し入門的な講義を行いますが、その後は参加者各自の報告と討議を中心にします。各自が具体的なテーマを設定し、それに関して文献を調査し、報告し、最終的にレポートを作成することになります。

参考書：

授業のなかで適宜指示する。

【04】教育学演習 (3年)(2)
【04】教育学演習 (4年)(2)
【93】教育学演習 ・ (2) 教授 安藤寿康

授業科目の内容：

各自の関心に従いテーマを設定して心理学的な実証研究を行い、すぐれた卒業論文を作成することを最終的な目的とします。そのために内外のさまざまな文献（特に英語で書かれたもの）にあたり、担当者および他の演習履修者と活発なディスカッションを行い、実験や調査、フィールド・リサーチなどによって一次資料を収集します。履修者はこうした活動を通じて自分の問題意識を深め、その過程で人間の発達と教育に関して証拠に基づいて (evidence based) 論理的・科学的に考えることを学んでほしいと思います。

【04】教育学演習 (3年)(2)
【04】教育学演習 (4年)(2)
【93】教育学演習 ・ (2)
言語の認知科学 言語文化研究所 教授 大津由紀雄

授業科目の内容：

言語の認知科学について、文献を読んだり、議論したりする。どの文献を取り上げるかは未定である。言語教育や科学教育に関する担当者の考えについても議論する。議論好き、あるいは、議論好きになりたい学生をとくに歓迎する。

第一回目の講義の際に、このコースの運営の仕方などについてくわしい説明をするので、受講予定者は必ず出席のこと。やむをえない理由で都合で出席できない場合は、必ず事前に担当者に連絡のこと。

テキスト：

第1回目講義時に提示する。

参考書：

第1回目講義時に提示する。

【04】教育学演習 (3年)(2)
【04】教育学演習 (4年)(2)
【93】教育学演習 ・ (2)
美的経験と人間形成 教授 真壁宏幹

授業科目の内容：

「美的経験」と人間形成に関わる古典や実践をとりあげる。

グループ発表と議論を中心に進めていく予定。

テキスト：

S.K.ランガー『シンボルの哲学』(春学期)

ニーチェ『悲劇の誕生』(秋学期)

参考書：

佐藤学/今井康雄編『子どもたちの想像力を育む』(東京大学出版会, 2004)

【04】教育学演習 (3年)(2)
【04】教育学演習 (4年)(2)
【93】教育学演習 ・ (2) 教授 松浦良充

授業科目の内容：

この演習は、教育問題を国際・異文化間比較の観点から研究することを目的とする。教育事象や教育システムの成立要因や構造を、「比較」の手法を用いて捉えることによって、各自にとって〈あたりまえ〉となっている「教育」概念を相対化する視座や研究態度を習得することをめざす。

なお、〈テキスト〉〈参考書〉〈授業の計画〉〈履修者へのコメント〉〈成績評価方法〉〈質問相談〉の各事項については、以下のWeb Siteに掲載する(「学部ゼミ」のページ)。

<http://matsusemi.huu.cc>

【04】教育学演習 (3年)(2)
【04】教育学演習 (4年)(2)
【93】教育学演習 ・ (2)
教育史研究の技法を学ぶ 教授 山本正身

授業科目の内容：

本演習は、日本の歴史(近世以降)の中からある教育上のテーマを探り出し、そのテーマに関わる研究を協同で推進することを主要な活動としている。

今年度のテーマは、「日本における『保守主義』の教育思想」というようなものを考えている。ここでいう「保守主義」の意味内容は必ずしも明白ではないが、さしあたって、日本の歴史的文化・伝統(これもまた相当に幅広い概念であるが)を格段に尊重し、それを土台として教育の在り方を論ずるような立場のことを想定しておいてもらいたい。その上で、この「保守主義」の主張がどのような思想内容や構造を有しているのか、それらがいかなる歴史・社会的文脈の中で形成されてきたのか、それらの主張に共通する認識もしくは論拠とはどのようなものか、それらの主張の教育史的意味をどのように評価することができるのか、などの諸点について検討を加えていきたいと考えている。なお、研究の方法・分担やスケジュールなど詳しいことは参加者と相談の上、決定するつもりである。

本共同研究は、必ずしも当該テーマに関する高度に専門的な実証研究の作業を参加者に求めるわけではない。むしろ、教育史研究における最も基本的な作業過程を参加者ひとり一人に体験してもらい、教育史研究技法の基礎を身につけてもらうことを目指している。ただし、最も基本的な作業であるということは、事を簡単に済ませられることを意味するものではない。地道な労力を要する作業を着実に積み重ねていく忍耐強さと誠実さが絶えず求められる、ということをとくに強調しておきたい。

それゆえ、成績評価において最も重視されるのは共同研究に取り組む態度であり、共同研究への貢献度ということになる。その前提として出席が重視されるのはいうまでもない。

なお、共同研究の成果は小冊子もしくはCDにて参加者全員に配布する。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

授業時に適宜指示する。

【04】教育学演習 (2)
【04】教育学演習 (2)
【93】教育学演習 ・ (2)
教職課程センター 教授 鹿毛雅治

授業科目の内容：

教育心理学に関する内外の文献を講読し、討論します。基本的に発表形式で進めていく予定です。使用する文献については、履修者諸君と相談しながら決めていきたいと思っています。

常に教育的な問題関心を抱きながら、自らの研究対象を選び取りつつ、それに対する探究を協同的に深めていこうとする姿勢を履修

者諸君に期待しています。

【04】教育学研究会 (2)
【04】教育学研究会 (2)
【93】教育学研究会 ・ (2) 教授 安藤 寿康

授業科目の内容：

教育学演習とあわせて、卒論指導を行います。

【04】教育学研究会 (2)
【04】教育学研究会 (2)
【93】教育学研究会 ・ (2)
言語の認知科学 言語文化研究所 教授 大津 由紀雄

授業科目の内容：

卒業論文の準備作業および作成指導を行う。言語理論、言語獲得(第一言語、第二言語)、言語理解、言語の脳科学、言語教育(母語教育、外国語教育)、科学教育、認知発達などに関心を持つ、意欲的な学生を歓迎する。

第一回目の講義の際に、このコースの運営の仕方などについてくわしい説明をするので、受講予定者は必ず出席のこと。やむをえない理由で都合で出席できない場合は、必ず事前に担当者に連絡のこと。

テキスト：

第1回目講義時に提示する。

参考書：

第1回目講義時に提示する。

【04】教育学研究会 (2)
【04】教育学研究会 (2)
【93】教育学研究会 ・ (2) 教授 眞壁 宏幹

授業科目の内容：

卒論の個人中間発表を中心に進めていきます。

【04】教育学研究会 (2)
【04】教育学研究会 (2)
【93】教育学研究会 ・ (2) 教授 舟山 俊明

授業科目の内容：

卒業論文指導。3年生は年度末にレポート(400字×50以上)を、4年生には卒論(400字×100以上)を提出するための様々な準備指導を行います。参加者には各自の作業につき年に2回の報告をしてもらい、相互に検討を行います。

【04】教育学研究会 (2)
【04】教育学研究会 (2)
【93】教育学研究会 ・ (2)
卒業論文指導(日本教育史) 教授 山本 正身

授業科目の内容：

卒業論文作成に向けての指導を行う。

本研究会として卒業論文作成の要件としていることは、少なくとも、研究テーマに客観的意義が認められる(単に主観的に「知りたい」というだけではだめ)、当該分野の先行研究調査が十分になされている、当該分野の研究課題(未だに明らかにされていないことは何か)を指摘することができている、研究において独自の視点や論点(内容や方法にまで独自性があれば申し分ない)が提示されている、表現や記述が論理的かつ体系的になされている、の五点である。参加者には、最低限、春・秋学期二度の研究報告と、二度のレポート提出が課せられる。

なお、本研究会は、日本教育史、日本教育思想史に関心のある学生の参加を歓迎するが、広く日本の教育問題を考えたいと希望する学生も受け入れる。ただし、研究方法はあくまでも文献研究を中心とするものに限られる(いわゆる調査研究や実験研究の指導はできない)ことを付言しておく。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

授業時に適宜指示する。

【04】教育学研究会 (2)
【04】教育学研究会 (2)
【93】教育学研究会 ・ (2) 教授 松浦 良充

授業科目の内容：

卒業論文の完成を最終目標とする。論文作成に必要な、テーマ設定の方法、先行研究の検討の仕方、資料の検索・収集・整理・批判、論拠や根拠および証拠にもとづいた議論の展開など、(比較)教育学研究の基礎的手法について学ぶ。具体的には、グループによる共同プロジェクト研究および各自の個人研究の報告と相互検討・討論を行う。

教育の国際・異文化間比較研究、多文化状況における教育問題、大学・高等教育研究、英米語圏における教育の現状および歴史研究、比較教育思想(史)研究のいずれかの領域に関心のある学生を対象とする。

なお、<テキスト><参考書><授業の計画><履修者へのコメント><成績評価方法><質問相談>の各事項については、以下のWeb Siteに掲載する(「学部ゼミ」のページ)。

<http://matsusemi.huu.cc>

【04】教育学研究会 (2)
【04】教育学研究会 (2)
【93】教育学研究会 ・ (2)
教職課程センター 教授 鹿毛 雅治

授業科目の内容：

卒業論文に向けての指導を行います。具体的には、自らの研究テーマを設定し、先行研究を調べ、適切な研究方法を選択し、結果を分析、考察する一連のプロセスについて、履修者全員が適宜、報告し、相互に意見交換、討論することが中心になります。

【04】【93】教育学特殊 (4) [春] 講師 杉下文子
[秋] 教授 舟山 俊明

[春学期]

ルネサンス人文主義におけるレトリックと人間形成

授業科目の内容：

ルネサンス人文主義において「ことばの知識」と「ものの知識」は、それぞれ、如何なるものとして考えられていたのでしょうか。レトリックの素養を重視したユマニストたちの人間形成観とその方法観を検討することを通じて、「西洋」近代以前の教育思想の意義を探ります。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

エウジェニオ・ガレン『ルネサンスの教育 人間と学芸との革新』近藤恒一訳、知泉書院、2002年。

[秋学期]

授業科目の内容：

「教養の歴史社会学」というテーマで19世紀後半から20世紀初頭のヨーロッパ社会、とりわけドイツにおける「Bildung 教養」観の変遷およびその制度化過程を、人文科学史(精神科学史)一般ならびに当時の精神史や社会史を背景にして考察します。授業は講義と聴講者によるレポートと適宜織り交ぜて展開します。

テキスト：

授業内で適宜指示する。

参考書：

授業内で適宜指示する。

【04】【93】教育学特殊 (4) [春] 講師 榊原彩子
[秋] 講師 安治陽子

〔春学期〕

授業科目の内容：

認知心理学の中で大きなテーマである「創造性」について、講義、演習をおこなう。創造性の定義から、創造的な思考の特徴や技法、さらに、美術や音楽といった芸術を理解する心の働きについて、具体的な研究実例を交えながら、先行理論を紹介していきたい。

基本的に講義形式であるが、創造性に関する認知課題や芸術心理に関する模擬実験を体験するような、演習的内容ももりこむ予定である。テキストは用いず、適宜プリントを配布する。

テキスト：

特に指定なし。

参考書：

授業時間内に適宜指示する。

〔秋学期〕

授業科目の内容：

社会情緒の発達について、乳幼児期を中心に概説する。人は、他者との関係を経験しながら生きている。そしてそこには様々な情緒が深く関与している。人生の最早期から、他者との関係性がどのように構築されるのか、そこで人はどのような社会的発達を遂げていくのか、またその中で自己はどのように発達するのか、情動（感情）はどのような役割を持ち、いかに発達するのか、といった内容について、発達心理学の知見を紹介する。

テキストは指定しないが、適宜参考文献を紹介し、プリントを配布する。

テキスト：

特に指定しない

参考書：

適宜授業中に紹介する。

【04】【93】教育学特殊 (4) [春] 助手 山梨あや
[秋] 講師 渡辺 弘

〔春学期〕近代日本における読書行為と教育

授業科目の内容：

本講義では、読書という行為が近代日本の教育にどのように位置付けられていったのかを考察します。

読書は学校教育の普及、印刷技術の向上、メディアの発達に根差したものであり、この意味において近代化の所産の一つであるといえます。さらに読書は教育と同様、人々が新たな知識や価値観と出会う契機となるものでした。

1900（明治30）年代以降、読書の人間形成作用に対する関心が高まりを見せ、読書は「教育」の範疇にあるものとして捉えられるようになります。読書行為は、学校教育、さらには社会教育の成立と密接に関わりながら普及して行きました。本講義では読書行為の普及という視点から、近代日本の教育やその問題を歴史的に問い直したいと考えています。

テキスト：

講義時に適宜指示します。

参考書：

講義時に適宜指示します。

〔秋学期〕日本における人間教育の探究

授業科目の内容：

本講義では、次の三点を中心に日本における教育思想の歴史的な特徴と今後の課題について、下記のテキスト『人間教育の探究』を用いて学生諸君と議論しながら考えていく。

1. 日本におけるこれまでの人間観・形成観 江戸時代から現代
2. さまざまな人物の人間教育論
3. 現代日本における学校教育をめぐる課題

テキスト：

渡邊弘著『人間教育の探究』（東洋館出版社、2006年）

参考書：

- ・渡邊弘編著『援助教育の系譜』（川島書店、1997年）
- ・渡邊弘著『俳諧教師小林一茶の研究』（東洋館出版社、2006年）

【04】【93】教育学特殊 (4)

アメリカ公教育理念と政策

講師 長嶺 宏作

授業科目の内容：

本講義の目的は、アメリカの教育政策を支える理念を理解し、具体的な政策を考察することにある。この考察を通して、アメリカの教育についての一般的な理解を深めるとともに、教育問題を分析する視野を広げたい。

テキスト：

講義資料を配布します。

参考書：

随時、紹介する。

【04】【93】教育学特殊 (4) [春] 講師 広石 英記

[秋] 講師 山内 淳子

〔春学期〕教育の見立てなおし

授業科目の内容：

「教育」を善きものとして語り、教育問題を「教育」の不備ととらえる従来の教育言説は、どこまでリアルに現実の事態やそれを生起させている状況に迫っているのでしょうか？教育学的まなざしだけで枠付けられてしまう言説（現在の教育様式が自明視される言説）には限界があります。

この講義においては、従来の「教育という意味連関」に様々な諸概念（社会構成主義・相互作用・類型的同化作用・自己目的的行為・出来事・意味生成の自由なカリキュラム・協働という学び）という差異を挿入することによって、教育という意味連関の興行きや幅を自覚的に揺らし、「教育」を異化することが目論まれています。

この見立ての変容によって、私たちは、初めて新たな意味での「教育」を見つめる地平に立つことができるのではないだろうかという見込みを持っているからです。本講義は、私たちが無意識的に抱え込んでいる「教育」や「子ども」といったイメージ（像）を相対化できる様々な解読法を検討することによって、講義参加者の教育や子どもに対する既定の概念を再構成してみるヒントを共に考えていくことを目的としています。

テキスト：

適宜、参考になるプリントを配布します。

参考書：

『経験の意味世界をひらく 教育にとって経験とは何か』市村尚久他編著 2003 東信堂

〔秋学期〕ナラティブとしての子ども、ナラティブとしての幼児教育

授業科目の内容：

春学期に「教育の見立てなおし」を経験した履修者の皆さんと、秋学期には、特に「幼児教育」に焦点をあて、その営みを様々な切り口から分節化し語ることで、幼児教育のアクチュアリティにせまっていきたいと思えます。

経験主義对本質主義の議論からみても、義務教育前の幼児教育現場は、学習指導要領等、いわゆる伝達すべきもののしびりが少なく、経験主義的な教育を思う存分試みていくことのできる魅力的な場です。いわば、日々が総合学習の時間であり、人生の最初の時期に、子どもたちが自分なりに観察したり、探求したり、発見したり、工夫したり、表現したり等、学ぶ楽しさを経験できるという意味では、幼児教育は非常に重要でやりがいのあるものです。

しかしながら、今日の幼児教育現場では、ときに「子どもの目が輝いていた」等が評価基準となるなど、教師たちは子どもや幼児教育について語るすべを十分に持ち合わせていないというのが実態です。

では、どのようにしたら、私たちは、子どもという存在の、また幼児教育という営みの、これまで見落としてきたもの、見えずにきたものを可視化し、語り得なかったものを語っていくことのできるのでしょうか。対象をかえ、切り口をかえ、着眼点をかえ、手法をかえながら、様々な幼児教育のアクチュアリティにアプローチして

選 択 科 目

いきたいと思います。本講義では、こうした意図から、幼児教育の構造、幼児教育の臨床論、幼児教育者の専門職化論、幼児教育のカリキュラム論などを論じていきます。

幼児教育に焦点をあてたこれらの試みによって、幼児教育のみならず、教育という営みそのものに何かしら新たなまなざしを向けることができると考えています。

テキスト：

適宜プリントを配布します。

参考書：

講義内に適宜紹介します。

【04】【93】教育学特殊 (4)

言語教育の諸問題 言語文化研究所 教授 大津 由紀雄

授業科目の内容：

学習英文法について多角的に検討する。受講者は毎回かなりの量の作業を求められる。言語学・教育学・心理学などの知識は前提としない。本コースは本年度のみ開講する。受講希望者は必ず第一回目の講義に出席のこと。やむをえない都合で出席できない場合は、必ず事前に担当者に連絡のこと。

テキスト：

文献リストを第1回講義にて配布する。

参考書：

文献リストを第1回講義にて配布する。

【04】【93】教育学特殊 (4) 講師 田中 克佳

授業科目の内容：

近世日本教育史研究 洋学教育史を中心に：

近世日本（江戸時代）の代表的学問類型の呼称として儒学・国学とならんで洋学というものがある。それは、南蛮学・蘭学・洋学その他の西洋学術の個別時代的な呼称を包含する類型の呼称であるが、この洋学の伝来、移入、教授・学習などを日本近世教育史研究の関心に立って論述を試みる。

（洋学教育史研究の基本文献『蘭学事始』の履修者全員による会読も試みる予定。）

テキスト：

特に指定しません。

【04】【93】教育学特殊 (4)

アメリカ合衆国大学史 講師 坂本 辰朗

授業科目の内容：

本年度の教育学特殊はアメリカ大学史を取り上げる。1636年のハーバード大学の成立から19世紀末の「ユニバシティの時代」へ、さらには、世界の center of excellence へと、アメリカの大学は350年余の歴史の中で大きく変貌する中、日本を含む各国の高等教育へ理念的にも制度的にも大きな影響をあたえてきた。本コースでは、比較教育史的な視点をも含め、アメリカにおける higher learning の歴史を辿ってゆくことにしたい。前期では、17世紀中葉からほぼ第二次大戦後にいたるまでのアメリカ合衆国大学史を見てゆく。後期では、アメリカ合衆国大学史に表れたいくつかのテーマを問題研究というかたちで検討してゆく。

なお、このコースでは、講義と同時に、履修者によるプレゼンテーションを併用してゆく。家庭学習の時間が必要であり、安易な履修はつつしんでほしい。

テキスト：

John R. Thelin. *A History of American Higher Education*. (Johns Hopkins University Press, 2004). を使用するが、ハンドアウトを配布する。

参考書：

レファレンスリストを配布する。

【04】教育学文献講読 (4)

【93】文献講読 (4) 教授 真壁 宏幹

授業科目の内容：

ナチス抵抗運動グループ「白バラ」に関するドイツ語文献を講読する予定です。

テキスト：

初回にコピーを渡します。

【04】教育学文献講読 (4)

【93】文献講読 (4) 教授 大村 彰道

授業科目の内容：

心理学、認知心理学の最近の研究をやさしく紹介する諸論文（英文）を輪読し、討論する。

テキスト：

Kassin, S. & Briggs, K.H(Eds.) *Current Directions in Introductory Psychology*, Prentice-Hall, 2005 (ISBN 0-13-152367-8)

The American Psychological Society, *Current Directions in Cognitive Science*, Prentice-Hall, 2005 (ISBN 0-13-191991-1)

参考書：

森敏昭・中條和光（編）「認知心理学キーワード」有斐閣、2005

【04】教育学文献講読 (4)

【93】文献講読 (4) 講師 吉野 剛弘

授業科目の内容：

この授業では、日本教育史に関心をもつ学生を対象に、日本教育史に関わるさまざまな史料の講読を通して、日本教育史に関する見識を深めていくとともに、各種史料を読み進めていく能力を培うことにする。

どのような史料を取り上げるかということについては、基本的には受講者の希望に応じていくことにしたい。しかし、特に要求がないという場合は、初等教育から社会教育にいたるまでのさまざまな教育改革が議論された臨時教育会議（1917 19）の議事録の集成である『資料 臨時教育会議』を読み進めていくことを考えている。上記史料は活字体であるので、旧漢字・旧かなづかいに慣れていない初学者でも、辞書をひきつつ読めば何とか読みこなすことは可能である。時間的、能力的に余力がある、あるいは受講者の希望があれば、一次史料（手書きによるもの）を読む機会も設け、実際の教育史研究の現場を体感することも試みたい。

テキスト：

授業で講読する史料はコピーしたものを配布する。

参考書：

必要に応じて適宜指示する。

【04】【93】教育測定実験 (4) 教授 安藤 寿康

講師 小林 琢哉

講師[春] 大泉 郷子

講師[秋] 小川 万理子

授業科目の内容：

この講義は、教育科学研究を実証的に行なうための方法を習得することを目的とします。

講義内容は、1. 教育心理学の検査の理論・方法、2. 実験・調査の2つから成り立っています。具体的には、心理検査や質問紙調査法の理論的背景および実施の仕方、実施後のレポートの作成法を学びます。また、実験および調査の結果をコンピュータ（SPSS, Excel等）により統計的に分析する実習を行います。

テキスト：

特にありません。

参考書：

適宜、講義中に指定します。

【04】【93】教育研究法 (2)(春学期)
心理教育統計法の基礎 講師 山口陽弘

授業科目の内容：

代表値、散布度などの、ある集団を記述する際に必要な、記述統計学の基礎を完全に身につけてもらいます。それらを基本とした上で、推測統計学の基礎である、t検定などの検定理論を学習することを本講義の目標とします。

テキスト：

服部環 + 海保博之「Q & A 心理データ解析」福村出版

参考書：

- ・山口陽弘「試験にでる心理学 心理測定・統計編」北大路書房
- ・吉田寿夫「本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本」北大路書房。

【04】【93】教育研究法 (2)(秋学期)
心理教育統計法の応用 講師 山口陽弘

授業科目の内容：

前期で学習したことを踏まえて、様々な検定法や分散分析、多変量解析（因子分析）の基礎について解説します。

前期での学習進度に応じて、後期の進度も変わります。

テキスト：

山口陽弘「試験にでる心理学 心理測定・統計編」北大路書房

参考書：

吉田寿夫「本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本」北大路書房。

人間科学専攻

必修科目

【04】人間科学基礎(2)(春学期) 教授 鹿又伸夫
助教授 織田輝哉
助手 北中淳子

授業科目の内容:

個別科学にやがて関わっていく2年生の基礎科目として、総合的思索を学ぶ科目とします。人間を理解し研究する、という学問的思索の営みは長い歴史をもっていますが、社会学などの社会科学や心理学、人類学などの諸研究が志された端緒は、近代へと変化する時代にみられます。宗教と科学が分離し、科学や技術の進展と呼応した産業化によって大きな社会変化が起こり、それとともに人々の価値観が変化・再構成されてきました。そうした近代化以降の変貌をとらえるために、新しい認識方法と研究方法が必要になりました。人間を取り巻く諸環境の変化、そして人々の行動や人間観の変化は、人間の特質や行動を理解・説明するための認識基盤つまり研究パラダイムの変化を余儀なくさせてきました。この科目では、人間諸科学におけるそうした認識基盤について、社会学、心理学、人類学などの立場から論じます。

【04】【93】人間科学研究法基礎(2)(秋学期)
助教授 織田輝哉

授業科目の内容:

人間をその諸活動から総合的に理解しようとするれば、研究手法に依りて異なる相を見せる人間像を統合する努力が不可欠である。現実の人間行動・人間性に対する洞察は、この複数の視点からの分析を統合する過程を通じて可能になる。

したがって、人間科学における研究法とは、それに依拠すれば自動的に研究が進行する便利な手順集ではない。問題解決のためのさまざまな種であり、ひな形である。人間科学を専攻する者は自らの関心・問題認識に応じてそれらを組み合わせ、改変し新たな研究スタイルを産み出しながら、戦略的に研究を進めていかねばならない。

本講義では、これへ向けての履修者の具体的研究の出発点を整備したい。そのために、現代のわれわれの生活を分析する上で有効であろうと思われるいくつかの概念や枠組みについて、また、資料分析技法の基礎概念について学んでもらう。授業は、講義とグループ討議・実習を組み合わせで行う。履修者が課題に関する討議に積極的に参加することで、単に知識や技術の習得に終わることなく、それらに具体的なイメージを持ち、手法の特質や限界・相対性を理解した上で、自分の問題意識の整理に役立てられるようになることを目的とする。

参考書:

随時紹介する

【04】【93】人間科学諸領域(2)(春学期)
助手 北中淳子

授業科目の内容:

この授業では、現代社会における「心の病」について多角的な視点から考察する。

第一に「心の病」の歴史的形成をたどり、近代社会において正常・異常の境界線がどのように引きなおされ、精神病として心理学・精神医学の対象となったのかを考える。

第二に、現代社会のさまざまな「心の病」(鬱、ひきこもり、摂食障害、人格障害、自殺等)をとりあげ、個人病理の次元を超えた文化現象としてどのように理解できるのかを探る。また、治療を受け、医学的視点を内面化することによって、実際に人々の経験がどのように変容していくのかについても考察する。「心の病」の分析を通じて、個人・社会・文化の異なるレベルから総合人間科学的に考えることの面白さを学んでもらいたい。

この科目は、第2学年次に履修することを原則とする。

テキスト:

医療人類学会編『文化現象としての医療』メディカ出版 1992年

【04】【93】人間科学諸領域(2)(春学期)
教授 三井宏隆

授業科目の内容:

現代社会が直面する諸問題のなかから、(イ)文化を巡る問題、(ロ)身体とアイデンティティを巡る問題の2つを順次取りあげ、近年の研究動向を社会心理学の立場から紹介する。「学問的研究とは、どういうものか」を、授業のなかで、実感していただきたい。

テキスト:

- ・三井宏隆「比較文化の心理学」(ナカニシヤ出版, 2005年, 2200円)
- ・三井宏隆「ボディ・セルフ・アイデンティティ・セクシュアリティの心理学」(ナカニシヤ出版, 2003年, 2200円)

【04】【93】人間科学諸領域(2)(春学期)
教授 鹿又伸夫

授業科目の内容:

人間と社会、つまり人間の相互影響過程の集積としての社会現象について、どのように理解して説明したら良いのか、社会科学とくに社会学の立場からの基本的な考え方を学んでいく。

この科目は、第2学年次に履修することを原則とする。

参考書:

授業で指示する。

【04】【93】人間科学諸領域(2)(秋学期)
教授 宮坂敬造

授業科目の内容:

四つの人間科学諸領域コースのなかのひとつとして、文化要因に係わる人間行動と価値観、文化的相互作用・象徴表現行動と言説・心理特性を扱う。これらに關係する諸問題群を理論的・経験観察的・言説分析的にとらえる基本的見方を検討する。文化心理人類学、文化心理学、文化精神医学などにまたがる学際的統合的接近、全体人間科学的理解への基本姿勢を解説する。講義の流れとしては以下となるが、半年コースのかたちなので、一部をとりあげながら全体を示唆するというやりかたになる。

(1) 序論 グローバリズム状況下、変革期にある現代社会・世界の問題群と学問の關係、(2) パラダイムと方法論 比較法、構造的動態理解、(3) エスノセントリズムと「異文化」、(4) 非言語的文化的コミュニケーション・認知と文化、(5) 経済と文化 越境する移民動態、(6) 社会組織と文化、(7) 文化的自己とアイデンティティ、(8) 宗教と医療、(9) 多文化社会とエスニシティ・適応をめぐる医療人類学的問題、(10) 芸術と文化。

参考文献等は講義時にも指示するが、三田哲学会雑誌『別冊・文献案内』2004年版に、旧コース名「人間科学諸領域D」を詳しく掲載してあるので参照してほしい。また、面接調査法に関しても、同書の人間科学専攻の欄に、文献もふくめて解説したので参照してほしい。学期なかばに一回ももちかえりの宿題提出の課題(レポート用紙数枚程度:HPにも掲示予定、基本用語理解度を問う小テストなどがあり、その意味で100人以上の履修者がいる講義とはいえ結果的に平常点が重視される性格の科目である。講義のほか、番外の補講として、土曜日等の時間帯に、「映像をとらえてみる文化の分析」と題して、稀少な価値をもつ映画鑑賞の教養講座機会を二回程度もうける予定。

【04】【93】人間科学研究法(データ解析)(4)(春学期集中)
教授 鹿又伸夫

授業科目の内容:

この科目では、社会調査研究の方法、とくに調査票(質問紙)調査について習得する。社会調査の諸方法、標本抽出、カテゴリー変数の分析方法、量的変数の分析方法を扱う。この科目は実習的におこなう。自分で作成した調査票のデータまたは公開されている社会

調査データを使用し、統計ソフト SPSS をもちいて実際にデータ処理および統計分析をおこなう。また、その結果について、プレゼンテーションおよびレポート提出してもらう。

参考書：

- ・盛山和夫『社会調査法入門』有斐閣(2,300円)
- ・馬場浩也『SPSSで学ぶ統計分析入門』東洋経済新報社(2,800円)

【04】【93】人間科学研究法(観察・実験)(4)(秋学期集中)
教授 三井宏隆

授業科目の内容：

特定のテーマのもとに、観察・実験などを行い、実際にデータを収集し、分析する。卒業論文の予行演習を兼ねたものである。

テキスト：

三井宏隆「データのとり方・まとめ方」(垣内出版,1992年,1900円)

参考書：

三井宏隆「実験・調査の考え方」(小林出版,1991年,1500円)

【04】【93】人間科学研究法(計量と解析)(4)
助教授 織田輝哉

授業科目の内容：

この授業では、主として社会学的研究で必要となるコンピュータの使い方、データの取り扱い方を身につけることを目標とする。具体的な内容は次のようなものを予定している。

- ・表計算ソフトの使い方
- ・社会調査の基礎
- ・統計処理の基礎
- ・データ処理とプレゼンテーション
- ・簡単なシミュレーション

なお、授業の性格上出席は必須であり、また人数も制限する場合があります。詳しくは初回の授業で説明する

テキスト：

- ・西平重喜『統計調査法』培風館
- ・馬場浩也『SPSSで学ぶ統計分析入門』東洋経済新報社

【04】【93】人間科学演習(文献講読)(2)(春学期集中)
英語論文を読む
教授 三井宏隆

授業科目の内容：

英語論文の講読を通して、心理学関連の学術用語の理解、さらには心理学的な物の見方、考え方、さらには研究の仕方を習得する。

テキスト：

三井宏隆・中島崇幸(編)「キーワード検索による社会心理学研究案内」(ナカニシヤ出版,2002年,1700円)

参考書：

三井宏隆・中島崇幸(編)「キーワード検索による心理学研究案内」(ナカニシヤ出版,2001年,1800円)

【04】【93】人間科学特殊(現代家族論)(4)
【93】現代家族論(4)
教授 渡辺秀樹

授業科目の内容：

現代家族の構造と変容について講義をする。
現代家族に社会学からアプローチすることが目的。

参考書：

- ・渡辺秀樹ほか編『現代家族の構造と変容』(東京大学出版会,2004)
- ・渡辺秀樹編『現代日本の社会意識：家族・子ども・ジェンダー』(慶応義塾大学出版会,2005)

【04】人間科学特殊(キャリア発達論)(4)(春学期集中)
【93】人間科学特論(キャリア発達論)(4)(春学期集中)
キャリア発達/キャリア・デザイン/ライフコース/意味構築
教授 南 隆 男

授業科目の内容：

キャリアって、わかりやすく言えば、“それぞれの人生！”のことです。あなたは、ところで、どういうイキサツで、「今、慶應義塾大学に居る」んですか？「慶應義塾大学を卒業なさったら、どうするつもり」でいますか？そういう質問にかかわるアレヤコレヤを集中的に論究・考究してみようというのがこの授業科目の目的であり目標です。

少子高齢化/成果実績主義/フリーターまたニート/行財政改革...と現今のわが国はタイヘンですよね。そんななかで、私たちひとりびとりのカケガエのない「人生」は、どのように展開し構築されていくんでしょう。時代とのカラミをも鋭く意識しながら、一緒に、マジに、考えてみます。

とって、各人の「キャリア・カウンセリング」や「自己分析」やら、また「就職ガイダンス」の授業じゃありませんよ。そういうことがらの基底(構造と条件)を総合的に分析してみましょう！

テキスト：

授業の最初に「文献リスト」を配布します。

参考書：

各回授業のその都度に紹介または配布します。

【04】人間科学特殊(キャリア発達論)(4)(秋学期集中)
【93】人間科学特論(キャリア発達論)(4)(秋学期集中)
生まれ、生き、死ぬ/自己受容/他者理解
教授 南 隆 男

授業科目の内容：

春学期での『キャリア発達論』を踏まえて、より具体的な問題群(の、いくつか)へと迫ろう...と念います。

ちなみに、この授業は、春学期の『キャリア発達論』を履修済みの諸君のみが参画可能な授業となります。

今現在(平成17年12月時点)では、『メンタリング/メンターシップ』と呼ばれつつある現象を主に、それに関連する現象と対比させつつ、深く論究してみようかと考えています。

参画の学生諸君ひとりひとりも、自己の問題・関心を、授業のなかで次第に絞り、それについて考究したその内容をプレゼンテーションする、といったことも考えています。

時間が許せば、“社会人”のゲスト・スピーカーのかたがたにも参画いただき、話しを伺うつもりです。

【04】【93】人間科学特殊(精神分析学)(2)(秋学期)
【93】精神分析学(2)(秋学期)
精神分析学の基本 医学部 専任講師 白波瀬 丈一郎

授業科目の内容：

精神分析学の基本的な概念を理解できるようにします。

テキスト：

講義資料プリントはwebサイト <http://md-sira.infoseek.ne.jp/psychoanalysis> よりダウンロードできます。

参考書：

精神分析セミナー ~

【04】人間科学特論(芸術と人間)(2)(春学期)
【93】人間科学特論(芸術と人間)(2)(春学期)
世紀転換期の文化論とジャパニズム
講師 田中秀隆

授業科目の内容：

本年度は、英文出版100年を迎えた岡倉天心『茶の本』を、二十世紀初頭の芸術文化論として読み直す。福沢諭吉『文明論の概略』

に代表されるように明治初頭は文明論の時代であった。西洋の文明を目的とすることが定位置して後、内村鑑三『代表的日本人』、新渡戸稲造『武士道』、岡倉天心『茶の本』といった英文文化論が出現する。100年前のアメリカのジャパニズムは、フランク・ロイド・ライトなどへ刺激を与えつつも、一般的なレベルでの日本文化受容が、「サムライ」に「ゲイシャ」に偏り勝ちであったとを手がかりに、現代日本にも通底する課題を再発見してみたいと考えている。

テキスト：

『茶の本』岡倉天心・浅野晃訳（バイリンガルブック）講談社インターナショナル

参考書：

- ・子安宣邦『福沢諭吉『文明論の概略』精読』岩波書店
- ・ケビン・ニュート『フランク・ロイド・ライトと日本文化』鹿島出版会

【04】人間科学特殊（現代日本人のライフスタイル）(2)(春学期)

【93】人間科学特論（現代日本人のライフスタイル）(2)(春学期)
講師 林 光

授業科目の内容：

企業が生活者とコミュニケーションを図ろうとするとき、生活者の価値観やライフスタイルなどを把握していれば有効なコミュニケーションを果たすことが出来る。広告コミュニケーションも、いまや一方的な情報発信ではこと足らず、マルチな手段と多角的な内容が求められている。生活者研究を20年続けてきた立場から、生活者把握の多様な方法とその分析手段から表現方法まで、具体的な例を交えながら考察していきたい。

テキスト：

特になし

参考書：

特になし

【04】人間科学特殊（現代日本人のライフスタイル）(2)(秋学期)

【93】人間科学特論（現代日本人のライフスタイル）(2)(秋学期)
ライフスタイルの多様化 講師 本庄 美佳

授業科目の内容：

本講義では、女性の社会進出によるライフスタイルの変容と、若い世代のライフスタイルの動向に焦点を当てて、ライフスタイルの多様化について考えてます。就職・結婚・出産・育児など若い世代のライフスタイルに大きな影響を与えるトピックについて、子どもを育てつつ、両立支援関連の業務もしている自分自身の経験も生かし、さまざまな素材を提供していきたいと思えます。また、そういうライフスタイルの多様化がもたらす、社会全体の変化の潮流も一緒に考えたいと思えます。

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書：

特に指定しません。講義の際に随時紹介します。

【04】人間科学特殊（コミュニティ心理学）(4)

【93】コミュニティ心理学（4） 講師 久田 満

授業科目の内容：

コミュニティ心理学は、伝統的臨床心理学に対するアンチテーゼとして誕生した。わが国では臨床心理学の下位分野として位置づけられてはいるが、近年欧米では、独立した1分野として、産業・組織心理学、公衆衛生学、精神腫瘍学、医療人類学等との連携を深めながら、その地位を確立しつつある。この授業では、「一つの見方」としてのコミュニティ・アプローチの実践例をできるだけ多く紹介し、このアプローチのわが国における応用可能性について論議したい。取り上げる例は、スクールカウンセリング、企業の風土改革、ドメスティック・バイオレンス、ホスピス病棟での終末期医療、大都市虚弱老人への介入戦略などである。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

授業中に適宜、紹介する。

【04】人間科学特殊（社会システム論）(2)(春学期)

【93】社会システム論（2）(春学期)
相互連関のシステムとしての社会 講師 杉野 勇

授業科目の内容：

行為・予期・規範・制度などの相互連関を重視しつつ、様々な社会学的テーマをオムニバス形式で学習し、社会学の基本的な考え方を習得する。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

授業中適宜紹介する。

【04】人間科学特殊（精神病理学）(2)(秋学期)

【93】精神病理学（2）(秋学期)
精神医学の基礎 講師 古茶 大樹

授業科目の内容：

精神病理学・精神症候学を中心に、精神医学の基礎について学びます。

テキスト：

特に指定しません。講義プリントを配布します。

参考書：

濱田秀伯著「精神症候学」弘文堂 ￥8,000-

【04】人間科学特殊（都市生活と景観）(2)(春学期)

【93】人間科学特論（都市生活と景観）(2)(春学期)
自然・人間・都市（人間と自然との相互作用としての景観について） 講師 高山 啓子

授業科目の内容：

「都市の時代」といわれる現代において「景観」は大変重要な課題となっているが、人間にとって景観は、文明の発展、社会の形成などの面で、大変重要な意味を持っていた。

景観建築(Landscape Architecture)、景観計画(Landscape Planning)、景観工学(Landscape Engineering)など景観にかかわる学問は、自然科学、社会・人文科学、芸術、工学などさまざまな分野と関連した「境界領域」(interdisciplinary field)の学問であり、総合的あるいは包括的(holistic)分野として注目されている。現代の世界は、高度な文明の発達段階にあるものの、私たちの住む都市の環境に目をやると、このような文明が私たちの幸福や福祉の増進にかならずしも貢献しているとは限らないということに気づく。「景観とは何か」、「人間はどのようにして景観を造ってきたか」、「未来の景観づくりはどうあるべきか」について人間と環境との相互作用としての景観という視点から、欧米などの都市景観の変遷、東京都内のフィールドスタディなどを行いながら都市の環境・景観について実践的に学び、考えていく。

テキスト：

アーバンエコシステム（自然と共生する都市）：A. スパーン著、高山啓子訳、(環境コミュニケーションズ刊 4,300円)

参考書：

- ・ヒューマニティ&エンヴァイロメント：I. G. シモンズ著、高山啓子監訳、信山者サイテック刊。
- ・I. マックハーグ著、下川辺淳監訳、デザインウィズネイチャー。
- ・I. マックハーグ：共生への哲学、緑の読本 Vol.56 環境コミュニケーションズ刊。他（授業の進行に合わせて紹介）

【04】人間科学特殊(都市生活と景観)(2)(秋学期)

【93】人間科学特論(都市生活と景観)(2)(秋学期)

21世紀の景観創造と新たなライフスタイルの構築

自然との共生,快適性,歴史性・文化性に配慮した都市環境の創造

講師 高山啓子

授業科目の内容:

現在の都市景観は,さまざまな気候風土を舞台とした人間と自然との相互作用の結果であるが,文明のパラダイムが大きく変化中,都市景観形成の思想,目標の見直しが迫られている。このような状況下での都市環境ならびに景観形成のあり方について,水と緑など都市の自然環境,市街地,郊外,近郊の田園及び自然地域の景観の保全と形成など,具体的な事例を取り上げながら,時間・空間など様々な角度から考えていく。さらに,これとともに社会・文化的環境と景観,安全性・健康性・快適性と景観などについて,新しい都市づくりの視点を取り上げて検討する。テーマ:「都市の森と広場」「市街地」「郊外」「都市近郊林」など。2回程度のフィールドスタディ(大名庭園,都市再開発など)を実施する予定。後半4回は,ゼミ形式で。

テキスト:

ヒューマニティ&エンヴァイロメント:I.G.シモンズ著,高山啓子監訳環境コミュニケーションズ刊

参考書:

社会文化史に見る都市の自然と公園緑地(連載)「緑の読本」:高山啓子著,環境コミュニケーションズ刊 Vol 49, 51, 52, 53, 55, 57, 58, 60, 61。アーバンエコシステム(自然と共生する都市):A.スパーン著,高山啓子訳,環境コミュニケーションズ刊。The Language of Landscape:A.W.Spirn著,イェール大学出版会ほか

【04】人間科学特殊(パーソナリティ研究)(4)

【93】パーソナリティ研究(4)

パーソナリティ心理学の理論と方法 講師 岩熊史朗

授業科目の内容:

われわれは,家族や知人のそれぞれを他の誰とも違う唯一無二の個人として認知し,それぞれの“人となり”を多少なりとも理解した上で生活をともにしています。このような個人の「人となり」「個性」「性格」などは,心理学において「パーソナリティ」という概念のもとに研究されてきました。この講義では,パーソナリティに関する主要な理論,研究方法,診断・評価技法を概観し,パーソナリティを把握するための視点についての理解を深めます。また,「人間が人間を理解する」ということの意味についても,社会心理学的な視点あるいは認識論的な視点から言及していく予定です。

テキスト:

指定しません。

適宜ハンドアウトを配布します。

参考書:

- ・本明寛(編)性格心理学新講座1 性格の理論(金子書房,1989年)
- ・杉山憲司・堀毛一也(編集)性各研究の技法(福村出版,1999年)
- ・クラウエ, B. (堀毛一也編訳)「社会的状況とパーソナリティ」(北大路書房,1996年)
- ・ミッセル, W. (詫摩武俊監訳)「パーソナリティの理論 状況主義的アプローチ」(誠信書房,1992年)
- ・パー, V. (田中一彦訳)「社会的構築主義への招待 言説分析とは何か」(川島書店,1997年)

【04】人間科学特殊(比較文化関係論)(4)

【93】比較文化関係論(4)

「文化を比較する」ということ 講師 中村 淳

授業科目の内容:

「比較文化」は,きわめて日常的な行為である。他人のふるまいを自己と比較した際に感じる違和感は,社会に生きるわれわれの誰にとっても身近なものである。と同時に,その行為の本質について突き詰めようとすると思わぬ困難にもぶつかる。違和感の正体はなんなのか?「われわれ」と「かれら」の差異はどこにあるのか?それ

はどのような文脈で「文化」に帰結するのか?

以上のような問題関心を,講師のバックグラウンドである文化人類学・民俗学の視点から切り分け,整理しながら,「文化」と「比較」という概念について解説・検討してゆく。文化人類学ないし民俗学に関する基本的な知識を持っていることは,講義理解に役立つが必須ではない。

テキスト:

授業中に適宜指示する。講義で配布するプリントは,下記授業用ホームページ上に掲載する。

【04】人間科学特殊(スポーツメディア論)(秋学期)(2)

【93】人間科学特論(スポーツメディア論)(秋学期)(2)

講師 篠田潤子

授業科目の内容:

マスメディアはプロ・スポーツの発展に貢献してきました。しかし同時に,マスメディアと選手,ファン,企業との間にはさまざまな軋轢も生じています。この講義は,プロ・スポーツとメディアについて,具体的な事例から,多角的な視点での理解を深めることを目的とします。その上で,実際にマスメディアの現場や,スポーツビジネスの現場で活躍されている方の話を直接伺う機会を設けます。

テキスト:

最初の授業で提示します。

参考書:

授業中に適宜紹介します。

【04】人間科学特殊(スポーツ社会心理学)(春学期)(2)

【93】人間科学特論(スポーツ社会心理学)(春学期)(2)

講師 篠田潤子

授業科目の内容:

スポーツを研究する学問領域は広範囲に及びます。この講義は,「スポーツ社会心理学」の立場から,スポーツを通して現代社会の有り様を考察することを目的としています。

テキスト:

最初の授業で紹介します。

参考書:

三井宏隆・篠田潤子「スポーツ・テレビ・ファンの心理学」ナカニシヤ出版

【04】人間科学特殊(米国の多民族社会と文化)(4)

【93】人間科学特論(米国の多民族社会と文化)(4)

米国におけるアフリカ系およびカリブ系アメリカ人の表現文化にみる多文化的状況 講師 三吉美加

授業科目の内容:

米国において「黒人」とされる人びとを対象に,彼/女らの表現文化にみる社会的文化的多様性を理解しながら,エスニシティや人種に関する問題を考察していきます。

テキスト:

資料プリントを配布します。

【04】人間科学特殊(臨床心理学)(4)

【93】臨床心理学(4)

個人援助と家族援助の視点から 講師 若島孔文

授業科目の内容:

臨床心理学の中でもとりわけ心理援助と問題解消のためのアプローチについて論じる。具体的に事例を提示し,心理援助とは何であるのかを学んでいただく。心理援助の視点から人間について学び,また,他の学問領域のパラダイム(例えば社会学・言語学など)から臨床心理学的援助について解説を加える。

テキスト:

若島孔文 2004 脱学習のプリーフセラピー(金子書房)

【04】人間科学特殊（組織行動論）(4)(春学期集中)

【93】人間科学特論（組織行動論）(4)(春学期集中)

組織の中の人間行動／組織行動論／組織心理学

講師 田中研一郎

教授 南 隆 男

授業科目の内容：

みなさんのほとんどのかたが、大学を卒業後は、何らかの「組織」に所属されて、そこで「働く」生活に入ることでしょう。この授業では、「組織」とは何か？「組織に所属し働く」とはどういうことか？について集中的に考究を加えていきます。いくつかのキーワードを並べてみれば：モチベーション、コミュニケーション、リーダーシップ、意思決定、組織におけるコンフリクト（解決）、組織における公平と公正、組織変革、キャリア・デザインといった事項にわたって考えていくこととなるはずです。

テキスト：

外島 裕・田中研一郎（編著）『産業・組織心理学エッセンシャルズ』（ナカニシヤ出版）

南 隆男ほか（著）『組織・職務と人間行動 人間尊重と効率との統合』（ぎょうせい）

参考書：

授業のその都度、紹介します。

【04】人間科学特殊（組織行動論）(4)(秋学期集中)

【93】人間科学特論（組織行動論）(4)(秋学期集中)

組織の中の人間行動／人的資源管理論／産業・人事心理学

講師 外島 裕

教授 南 隆 男

授業科目の内容：

この授業は、春学期での『組織行動論』での学習・理解事項をベースとして、組織の中で働き、かつ、生きている、「人間の実相また諸問題」へと迫って行きます。

考究しようと考えている問題群を並べてみると：個人の進路選択／就職、組織の人材の募集・選抜・採用・配置、職務適性と能力・スキル、職務行動の評価／能力の査定、人材マネジメント／人事制度、キャリアの発達と開発、といった事項が検討されていくはずで。

テキスト：

外島 裕・田中研一郎（編著）『産業・組織心理学エッセンシャルズ』（ナカニシヤ出版）

南 隆男ほか（著）『組織・職務と人間行動 人間尊重と効率との統合』（ぎょうせい）

参考書：

各回講義のその都度に紹介します。

【04】人間科学卒業研究（2）(秋学期)

【93】人間科学特論（卒業研究）(2)(秋学期)

教授 鹿又伸夫

助教授 織田輝哉

授業科目の内容：

この科目は、コースA（「人間科学研究会」の履修と卒業論文提出」を卒業要件としないコース）を選択した人間科学専攻4年生の必修科目である。

具体的な内容・評価の基準等を説明するので、第1回目の授業に必ず出席すること。また、この科目に関する掲示は必ず確認すること。

【04】【93】人間科学研究会（2）教授 南 隆 男

授業科目の内容：

わたくしの担当するこの「研究会」は、旧来の「学問の区分け」上の用語に照らせば、広くは「行動科学」と呼ばれていた領域、より限定的には「社会行動論」「組織行動論」「ライフコース論／生涯キ

ャリア発達論」（その「中核的」イシューのひとつでもある「セックス・セクシュアリティ」をも含みます）と呼ばれる研究領域をカバーするべく「位置付けられて」います。ですが、そのなかで、どのような事象・問題を具体的にとりあげるかは、履修する学生諸君の意向・興味・関心との関係もあり、「これを」というふうには、現時点（2005年12月時点）では、決めていません。「決めている」のは、『研究会』を、教師のわたくしを含めて、「われ疑う、ゆえに、われ在り」の『時空間』へと、がんばって近づけて行こう！ということ。

蛇足ですが：よっぽど気をつけないと（教師はもちろんだが学生の諸君も気張らないと）「研究会」（“ゼミ”）って呼ばれる授業は「アタマもダレて来てカラダもナエてくるだけの“ナレアイ”時空間」に成りがちだ。ゆえに、共に頑張りヤルコトをやり抜きましょう！いつもの通り、一年間の「研究会」活動を通して、三年生は「自己の研究課題」を明確にしてゆくことに、四年生は「卒業論文」を完成させることに、努力を傾注・集中させていきます。

【04】【93】人間科学研究会（2）教授 南 隆 男

授業科目の内容：

人間科学研究会（南）と、基本的には同じ、です。

この「研究会」のほうは、四年生用「卒業論文」完成への対応・指導ということですが、三年生諸君も同席し、“つき合い”ます。

【04】【93】人間科学研究会（2）教授 三井宏隆

授業科目の内容：

研究会は、ゼミの4年生が履修する卒論コースである。

履修者は、各自の研究テーマに基づいて卒論をまとめることになるが、年度の途中で何回かの中間発表を求められる。

テキスト：

三井宏隆ほか「心理学・卒論マニュアル」（垣内出版、1999年、1600円）

【04】【93】人間科学研究会（2）教授 渡辺秀樹

授業科目の内容：

基本的には、家族・教育・ジェンダーを主要テーマとする研究会

【04】【93】人間科学研究会（2）教授 宮坂敬造

授業科目の内容：

人間科学としての比較文化研究（文化人類学・心理人類学・記号論・医療人類学・20世紀末のパラダイムのゆらぎを念頭に置きながら）に関係した諸問題を扱い、ゼミ討論し、問題の見つけ方、発想の立て方、記号・分析総合の方法の一部を相互に訓練する。ある文化における小規模集団の象徴行動やそれが表象されたものをどう観察収集するのか、それに基づいてその文化の価値観、心情、アイデンティティを社会関係と関連させながらどう理解していくか「人々の言行を観察する」と言ったが、それは「観察者」と「観察される人々」の間に進んでいく関係性に条件づけられるのではないか（更にいえば、社会経済的關係にも影響されながら前者後者の文化同士を背負った間文化的關係の場の中で互いに接触しているそのことを考えねばならぬのでは？）。このような問題意識を中心にもち、また構造論・現象学的視点・全体システム論の立場をからませた視点と、相互作用分析（象徴的コミュニケーション分析）、文化テクスト・ディスクール内容分析の方法意識を背景に置く。具体的には、比較文化に関連するサブテーマ（他者のイメージ・異文化理解・文化とアイデンティティ・文化と認知・感情・危機と通過儀礼・危機における象徴的行動・文化摩擦・文化と精神病理・身振りや空間の象徴的意味・芸能・絵画・舞踏と文化・サブカルチャー・大衆文化・小規模社会・ポスト現代の多民族複合社会・医療人類学など）等の問題領域の一部を取り上げてゆく。参考書はその都度指示。

【04】【93】人間科学研究会 (2) 教授 宮坂 敬造

授業科目の内容:

人間科学研究会 (宮坂担当)と、基本的には共通の内容ですが、春学期は主として英語文献を使いながら報告・討論の訓練をおこないます。

さらに、この「研究会」は、四年生の卒論の構想、中間展開、完成にむけて、随時、発表・討論・指導もあわせておこないます。三年生は自身の三年生論文の展開・完成への参考にするため、「研究会」も同時に履修すること。

【04】【93】人間科学研究会 (2) 教授 鹿又 伸夫

授業科目の内容:

この研究会では、現代社会の変動について社会学の立場から検討する。本年度は、とくに社会的な不平等にかかわる諸問題を取りあげる。具体的には、高学歴化と学歴社会論、女性の就業とジェンダー格差、所得などの経済的格差などを取りあげる。

テキスト:

授業で指示する。

【04】【93】人間科学研究会 (2) 教授 鹿又 伸夫

授業科目の内容:

この研究会では、現代社会の変動について社会学の立場から検討する。本年度は、とくに社会的な不平等にかかわる諸問題を取りあげる。具体的には、高学歴化と学歴社会論、女性の就業とジェンダー格差、所得などの経済的格差などを取りあげる。

テキスト:

授業で指示する。

【04】【93】人間科学研究会 (2) 助教授 織田 輝哉

授業科目の内容:

この研究会では、社会的な視点から、人間にかかわる様々な事象を分析的・科学的にとらえていく方法を身につけていくことを、ゆるやかな目標として設定しておきたいと思う。

研究会では、社会学における合理的選択アプローチの基礎と応用について、社会的行為理論・ゲーム理論・社会ジレンマ研究・ミクロ・マクロ問題・秩序問題・社会的公正研究等の課題を取り上げながら学習していく。

研究会では、各自の卒業論文に向けての研究を、発表し、議論をする。

また、社会学の基礎的な文献について、定期的な読書課題を与える。

【04】【93】人間科学研究会 (2) 助教授 織田 輝哉

授業科目の内容:

この研究会では、社会的な視点から、人間にかかわる様々な事象を分析的・科学的にとらえていく方法を身につけていくことを、ゆるやかな目標として設定しておきたいと思う。

研究会では、社会学における合理的選択アプローチの基礎と応用について、社会的行為理論・ゲーム理論・社会ジレンマ研究・ミクロ・マクロ問題・秩序問題・社会的公正研究等の課題を取り上げながら学習していく。

研究会では、各自の卒業論文に向けての研究を、発表し、議論をする。

また、社会学の基礎的な文献について、定期的な読書課題を与える。

【04】【93】人間科学研究会 (2) 助手 北中 淳子

授業科目の内容:

この研究会では、現代社会における健康と病(特に「こころの病」)に関連した事象を、医療人類学的視点から分析していく。前半では医療人類学の基本的な文献を取り上げ、その報告と討論を中心に行

う。後半では、各自が選んだテーマについて文献・フィールド調査を行い、発表・討論を重ねていきたい。

テキスト:

授業で指示する

【04】【93】人間科学研究会 (2) 助手 北中 淳子

授業科目の内容:

この研究会では、医療人類学の最先端の研究からより専門的な論文をとりあげ、その報告と討論を中心に行う。後半は、卒業論文研究の発表を中心に進める予定である。

【04】【93】人間科学研究会 (2)

身体文化論 理工学部 教授 石井 達朗

授業科目の内容:

1) セクシュアリティ 2) 身体 3) パフォーマンスという大枠のテーマから、ゼミ参加者は自分が関心のある具体的な研究テーマを設定し、探求する。ゼミは発表と討論により進行する。ゼミは互いの研究テーマを交換し、自由に意見を言いあう生き生きとした場でありたい。研究テーマの例として、以下のようなものが考えられる。

- 1) セクシュアリティ: トランスジェンダーの文化、ゲイ・レズビアンズム
- 2) 身体: 刺青、身体変工、化粧、ファッション、去勢、フェミニズムと身体論
- 3) パフォーマンス: 舞踊論、演技論、非言語コミュニケーション、パフォーマンスアート

テキスト:

共通のテキストはない。各人が自分の研究にとって良いテキスト、役に立つ情報、適切な方法論とは何かを探求するために、時間を費やしてほしい。

参考書:

- ・石井達朗『異装のセクシュアリティ』『サーカスのフィルモロジー』(以上、新宿書房)
- ・石井達朗『アウラを放つ闇』(バルコ出版)
- ・石井達朗『男装論』『アジア、旅と身体のコスモス』『ポリセクシュアル・ラブ』『アクロバットとダンス』(以上、青弓社)
- ・ラリィ・マキャフリィ『アヴァン・ポップ』(筑摩書房)
- ・ジュディス・パトラー『ジェンダー・トラブル』(青土社)
- ・市川雅『行為と肉体』(田端書店)、『シリーズ 性を問う』全5巻 専修大学出版局
- ・雑誌『化粧文化』

【04】【93】人間科学研究会 (2)

身体文化論 理工学部 教授 石井 達朗

授業科目の内容:

卒業論文の計画と作成が主な作業である。以下の内容は、研究会と同じである。

1) セクシュアリティ 2) 身体 3) パフォーマンスという大枠のテーマから、ゼミ参加者は自分が関心のある具体的な研究テーマを設定し、探求する。ゼミは発表と討論により進行する。ゼミは互いの研究テーマを交換し、自由に意見を言いあう生き生きとした場でありたい。研究テーマの例として、以下のようなものが考えられる。

- 1) セクシュアリティ: トランスジェンダーの文化、ゲイ・レズビアンズム
- 2) 身体: 刺青、身体変工、化粧、ファッション、去勢、フェミニズムと身体論
- 3) パフォーマンス: 舞踊論、演技論、非言語コミュニケーション、パフォーマンスアート

テキスト:

共通のテキストはない。各人が自分の研究にとって良いテキスト、役に立つ情報、適切な方法論とは何かを探求するために、時間を費やしてほしい。

参考書:

- ・石井達朗『異装のセクシュアリティ』『サーカスのフィルモロジー』

(以上, 新宿書房)

- ・石井達朗『アウラを放つ闇』(パルコ出版)
- ・石井達朗『男装論』『アジア, 旅と身体のコスモス』『ポリセクシュアル・ラヴ』『アクロバットとダンス』(以上, 青弓社)
- ・ラリィ・マキャフリィ『アヴァン・ポップ』(筑摩書房)
- ・ジュディス・パトラー『ジェンダー・トラブル』(青土社)
- ・市川雅『行為と肉体』(田端書店), 『シリーズ 性を問う』全5巻 専修大学出版局
- ・雑誌『化粧文化』

【04】【93】人間科学研究会 (2)

メディア・コミュニケーション研究所教授 萩原 滋

授業科目の内容:

本研究会では, 2年間の研究活動を通じて各自が選んだテーマの理解を深め, その成果を卒業論文に結実させることを目的としている。春学期に社会心理学のテキストを講読して基礎的な知識を習得した後, 秋学期には各自が関心のあるテーマを選んで, 関連する文献を選んで発表を繰り返し, それに関する議論を通じて卒業論文の準備を進める。

テキスト:

社会心理学のテキストを指定する

参考書:

研究法に関する文献を指定する

【04】【93】人間科学研究会 (2)

メディア・コミュニケーション研究所教授 萩原 滋

授業科目の内容:

本研究会では, 2年間の研究活動を通じて各自が選んだテーマの理解を深め, その成果を卒業論文に結実させることを目的としている。春学期には, 3年生を中心に社会心理学のテキストを講読することになるが, 4年生は, 昨年度からの研究テーマを掘り下げて, 卒業論文制作の準備を具体的に進め, 適宜, 進行状況を発表する。

テキスト:

社会心理学のテキストを指定する

参考書:

研究法に関する文献を指定する

【93】組織行動研究(4)

休講

【93】対人行動学(4)

休講

【93】人間科学諸領域 A(4)

休講

【93】人間科学諸領域 B(4)

休講

【93】人間科学諸領域 C(4)

休講

【93】人間科学諸領域 D(4)

休講

【93】人間 - 環境系論(4)

休講

【93】人間関係学(4)

休講

【93】文化と精神病理(4)

休講

【93】ライフコース研究(4)

休講

全専攻共通科目

現在、文学部は5学科17専攻を擁する。そのため、そのいずれかに所属する学生諸君はともすれば狭い専門分野にとらわれて、知識や学問に対する広い展望を見失いがちである。そうした不足を補い、学生諸君がより自由で柔軟な知的態度を身につけることができるようにと文学部が考え設置したのが全専攻共通科目である。特定の専攻分野に属さないもの、あるテーマを専攻横断的に扱うもの、諸種の語学、記念・寄附講座として設置されているものなど内容は多岐にわたるが、この多様と混沌にこそ、ある意味では文学部の真骨頂があり、さらには人間そのものの本質があると言えるのではないだろうか。学生諸君はどうかアンテナの数を増やし、感度を高めて、これらの科目の中からこれはというような発見や出会いや感動を拾い出していだきたいと思う。

【04】教育学概論(学芸員)(2)(秋学期)

【93】教育学概論(学芸員コース)(2)(秋学期)

おとなの学びについて考える 講師 村越純子

授業科目の内容:

国際化・高齢社会におけるおとなの学びについて考えていきます。海外のU3Aの動きなどを紹介しながら、今後の日本の教育課題について考えていきます。

テキスト:

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書:

授業中に紹介します。

【04】【93】生涯学習概論(2)(秋学期)

生涯学習を拓く 講師 白石克己

授業科目の内容:

生涯にわたる学習をライフワイド(生活)、ライフタイム(一生涯)、ライフウェイ(生き方)という三つの視点で分析できる。

生涯にわたる学習機会を通学方式、遠隔方式、寄宿方式、広場方式に分け、その支援のあり方がわかる。

生涯にわたる発達を青少年期、成人期、高齢期に分け、その特徴に応じた支援のあり方がわかる。

生涯にわたって「善く生きる」ための支援のあり方がわかる

テキスト:

白石克己編著『生涯学習を拓く』ぎょうせい 2001

参考書:

- ・白石克己著『生涯学習と通信教育』玉川大学出版部 1990
- ・白石克己編著『生涯学習論 自立と共生』実務教育出版 1997
- ・白石克己編著『ITで広がる学びの世界』ぎょうせい 2001

【04】【93】視聴覚教育メディア論(2)(秋学期)

画像ドキュメンテーションからメディア・リテラシーまで
講師 波多野宏之

授業科目の内容:

本講義では、写真、ビデオ、CD-ROM等の視聴覚資料を見て感じることを重要視する。まず情報伝達手段、視聴覚資料・機材の歴史と現状を概観した後、画像の収集から利用に至る一連の過程、すなわち画像ドキュメンテーションの主要課題について検討する。第一に写真を中心とした画像資料の管理から画像データベースの構築に至る諸問題、Visual Resourcesキュレーターの任務を考える。第二に画像の記述や分類、インターネットなどによる画像へのアクセス、デジタル画像の複製・表示や知的財産権について考察する。第三に画像情報の利用を容易にする画像索引からビジュアル・カルチャーの分析に至る方法としての画像の諸問題を考え、音声情報・音声メディアについての考察、メディアの理解と活用を図るメディア・リテラシーの検討でまとめとする。

テキスト:

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書:

- ・波多野宏之『画像ドキュメンテーションの世界』(第2刷)勁草書房, 1995
- ・波多野宏之編著『デジタル技術とミュージアム』勉誠出版, 2002

【04】博物館学(4)

講師 渡辺妙子

【04】【93】博物館学(4)

講師 坪井則子

授業科目の内容:

博物館の基礎的理解力をつけるのがこの講座の目的です。バーチャルな世界が蔓延している現代、実物を見たり触れたりして、体験できる施設が博物館です。人類は有史以来自然から「もの」の本質を学び、人類に必要な諸々の「もの」を作ってきました。「ものづくり」は人に叡智をもたらしました。今、「ものづくり」は大きな転換期を迎えています。私たち地球人はどこへ行くのか、振り返ることにより未来が見えてくるでしょう。博物館・美術館の社会的意義を実践的立場から解き明かしていきます。

東京は国公立・私立の各種博物館・美術館が林立しています。ほぼ週一回、テーマに沿って博物館・美術館を見学し、レポートを提出することになります。

【04】【93】博物館学実習 A(3) 教授 阿部祥人

【93】博物館学実習 A(3) 助教授(有期) 櫻井準也

講師 西田宏子

授業科目の内容:

博物館の学芸員の資格を得ようとする人のために置かれた博物館学講座の必修科目である。将来、学芸員として要求される博物館業務に関する知識、資料の扱い方などを現物を用いて実習を行う。従って、既に博物館学の講義を履修していることが望ましい。実習は毎時間連続した内容であるため、欠席はもちろん、遅刻も絶対にしないことが要求される。

なお、この講義は履修者の調整を行い、博物館学実習Aを履修する者と同Cを履修する者に分ける。この振り分けの詳細な説明は4月の最初の授業で行うため、希望者はこれに必ず出席すること。そこで振り分けられた者以外は履修は認められない。

【04】【93】博物館学実習 B(3) 助教授 山口 徹

【93】博物館学実習 B(3) 助教授(有期) 櫻井準也

講師 西田宏子

授業科目の内容:

博物館の学芸員の資格を得ようとする人のために置かれた博物館学講座の必修科目である。将来、学芸員として要求される博物館業務に関する知識、資料の扱い方などを現物を用いて実習を行う。従って、既に博物館学の講義を履修していることが望ましい。実習は毎時間連続した内容であるため、欠席はもちろん、遅刻も絶対にしないことが要求される。

なお、この講義は履修者の調整を行い、博物館学実習Bを履修する者と同Dを履修する者に分ける。この振り分けの詳細な説明は4月の最初の授業で行うため、希望者はこれに必ず出席すること。そこで振り分けられた者以外は履修は認められない。

【04】【93】博物館学実習 C(3)

【93】博物館学実習 C(3) 助教授 山口 徹
助教授(有期) 櫻井 準也
講師 西田 宏子

授業科目の内容：
博物館学実習 A に同じ

【04】【93】博物館学実習 D(3) 助教授 佐藤 孝雄

【93】博物館学実習 D(3) 助教授 安藤 広道
助教授(有期) 櫻井 準也
講師 西田 宏子

授業科目の内容：
博物館学実習 B に同じ

【04】【93】博物館学実習 A(3) 教授 前田 富士男

アートセンター 特別研究助教授(有期) 渡部 葉子
講師 名児 耶明
講師 平塚 泰三
講師 吉岡 明美

授業科目の内容：
博物館学の学芸員の資格を得ようとする人のために置かれた博物館学講座の必修科目である。将来、学芸員として要求される博物館・美術館業務に関する知識、資料の扱い方など現物の美術品を用いて実習を行う。

なお、この博物館実習 A・B は、平成 16 年度より開設され、本年度の新 2 年生および 3 年生の必修科目となる。平成 15 年度以前に 2 年生に進級した者は履修する必要がない。この博物館学実習 は、履修者の調整を行い、A を履修する者と B を履修する者に分ける。博物館学実習 と同 履修の仕方や振り分けの説明は、4 月の最初の授業で行うので、希望者はこれに必ず出席すること。そこで振り分けられた者以外の履修は認められない。

参考書：
・『美術館と語る』日比野秀男編著、ペリかん社、1999 年。
・『現代美術館学』並木誠士・吉中充代・米屋優、昭和堂、1999 年。
・『版画の技法と表現』町田市立国際版画美術館編、改訂版、町田市立国際版画美術館、1991 年。
・K. ニコラウス『絵画学入門』黒江・大原訳、美術出版社、1985 年。

【04】【93】博物館学実習 B(3) 教授 河合 正朝

アートセンター 特別研究助教授(有期) 渡部 葉子
講師 名児 耶明
講師 平塚 泰三
講師 吉岡 明美

授業科目の内容：
博物館学の学芸員の資格を得ようとする人のために置かれた博物館学講座の必修科目である。将来、学芸員として要求される博物館・美術館業務に関する知識、資料の扱い方など現物の美術品を用いて実習を行う。

なお、この博物館実習 A・B は、平成 16 年度より開設され、本年度に新 2 年生となった者からのみ必修科目となる。平成 15 年度以前に 2 年生に進級した者は履修する必要がない。この博物館学実習 は、履修者の調整を行い、A を履修する者と B を履修する者に分ける。博物館学実習 と同 履修の仕方や振り分けの説明は、4 月の最初の授業で行うので、希望者はこれに必ず出席すること。そこで振り分けられた者以外の履修は認められない。

参考書：
・『美術館と語る』日比野秀男編著、ペリかん社、1999 年。
・『現代美術館学』並木誠士・吉中充代・米屋優、昭和堂、1999 年。
・『版画の技法と表現』町田市立国際版画美術館編、改訂版、町田市立国際版画美術館、1991 年。
・K. ニコラウス『絵画学入門』黒江・大原訳、美術出版社、1985 年。

【04】【93】博物館学特殊 (資料論・有形)(4)

助教授(有期) 櫻井 準也

授業科目の内容：
考古資料や民族資料を中心に、博物館資料の性質や特性を理解してもらおうとともに、資料の収集法や登録・管理法・理化学的分析法について解説する。また、その結果をいかに企画や展示に生かしてゆくか実例をあげながら説明する。

1. 博物館資料の分類
2. 博物館資料の収集と管理
3. 博物館資料の分析法
4. 博物館資料の企画・展示

参考書：
必要に応じて指示する。適宜プリントを配布する。

【04】【93】博物館学特殊 (資料情報処理)(4)

助教授(有期) 櫻井 準也

授業科目の内容：
博物館学芸員として習得すべき調査法、グラフや統計資料を用いた表現法、それに伴う基礎的な統計処理の方法について概説する。また、博物館におけるデータベースやマルチメディアの利用状況について解説する。

1. 調査と統計処理
2. 博物館とデータベース
3. 博物館におけるマルチメディアの利用

参考書：
必要に応じて指示する。適宜プリントを配布する。

【04】【93】博物館学特殊 (展示・普及)(4)

講師 足立 拓朗

授業科目の内容：
考古学系博物館学の展示に関する以下の技術を解説。

1. 作品(発掘出土品・美術・工芸品)の展示ケースへの配置・設置
2. 作品の梱包・開梱、運搬
3. 解説パネルや図版パネルの作成・設置
4. 報告書・展示図録の作成
5. ポスター・チラシの作成
6. 企画展示の作業工程
7. 博物館広報活動
8. 講演会・展示解説の実施
9. 小中学校の課題学習との連携
10. 地域博物館としての活動

テキスト：
必要があれば授業中に指示

参考書：
『新版博物館学講座 9 博物館展示法』雄山閣出版。

【04】【93】博物館学特殊 (企画・運営・教育)(4)

[春] 講師 平野 千枝子
[秋] 講師 平塚 泰三

[春] 現代社会のなかの美術館
授業科目の内容：
展覧会活動と教育普及活動を中心に、主として近現代美術に関する事例を具体的に考察します。また、現代の美術館をとりまく環境の変化を分析し、これに対応する理念と実践を考えます。

参考書：
伊藤寿朗『市民のなかの博物館』吉川弘文館、1993 年。

[秋]
授業科目の内容：
美術館・博物館の設立の理念や活動の諸相を具体的事例に基づいて検討します。
常設展・企画展などの展示活動と教育普及活動に関しては、東洋・日本の古美術の事例を採り上げて考察します。

また、学芸員にとって必須の技能である作品記述の基本を身につけてもらうため、作品の種類別に解説例を示し、その書き方のポイントを学びます。

参考書：

並木誠士・吉中充代・米屋優編『現代美術館学』昭和堂 1998年

【04】【93】漢文講読 (2)

伝記や批評を読み、唐詩について考える

講師 今原和正

授業科目の内容：

すでに英語を学んでいる皆さんにとって、漢文の語法はそれほど難しいものではありません。漢文読解の難しさは、ひとつひとつの語の意味を吟味することにあります。授業では、返り点のうってない文章に「語釈」を付け、それにもとづいて文意を読みとり、自分で返り点をうつ練習をします。また、あわせて唐詩全般についての知識を身につけるとともに、通説にとらわれずに詩の解釈をするおもしろさを味わってもらおうと思っています。伝記資料としては「全唐詩小伝」、批評資料としては「唐詩鏡」の評語が主となります。とりあげる作品は初唐から晩唐までの比較的有名なものとししました。

テキスト：

講義資料プリントを配布します。

【04】【93】漢文講読 (2)

講師 伊藤晋太郎

授業科目の内容：

思想・歴史・小説・エッセイなど様々なジャンルの文章から何篇かを選び、精読します。受講者数にもよりますが、なるべく受講者参加型の演習形式で授業を進めたいと考えています。

テキスト：

プリントを使用します。

【04】【93】応用情報処理 (テキスト処理)(2)(秋学期)

講師 中島玲子

授業科目の内容：

我々の日常生活において、PCや携帯電話などで文字を読み書きすることはもはや当たり前のことである。しかしその仕組みや、より有効な処理方法については意外と理解されていない。この授業では、コンピュータおよびインターネットで扱うテキスト、つまり文字列についての様々な問題を扱い、コンピュータで文字を扱うとはどういうことかについて理解を深める。その上でPerlプログラミングの基礎を含め、テキスト処理の方法やツールについて概説し、受講生諸君のレポートや卒論の作成にも役立てられるような文字列処理の基礎を、演習を通して習得することを目標とする。前半は文字コードおよびフォント、漢字コード、特殊文字や文字化けなどのさまざまな問題について学び、後半は各種のアプリケーションソフトやツールを用いた文字列処理、単語の切り出しや出現頻度の集計、分析などを行う。ほぼ毎回課題を出題する。

受講者は「基礎情報処理」を履修済みであることを前提とする。Windowsおよびメールソフトの基本操作に習熟していないと授業への参加は困難である。WordやExcelなどのアプリケーションソフトの使い方を学ぶ講義ではないので注意すること。

テキスト：

オンラインで資料配布

参考書：

- ・深沢千尋『文字コード「超」研究』ラトルズ, 2003.
 - ・林竜生ほか『インターネット時代の文字コード』共立出版, 2002.
- その他授業中に適宜紹介

【04】【93】応用情報処理 (Excel)(2)(秋学期)

Excelを使ったデータ処理とWordを使った論文作成

講師 新居雅行

授業科目の内容：

基礎情報処理を履修したレベルの学生を対象に、データ処理や論文作成につながる表計算ソフトやワープロ利用について説明します。特に、Excelを利用したデータ処理や統計的な処理について、全体の7

割近くの時間を割く予定です。Excelについての基本的なワークシート作成ができることと、統計の知識を前提とします。Excelの基本操作の復習、データの扱いの基本、関数を利用した統計処理、グラフ作成、相関、検定について説明します。また、応用的な事例としてアンケートの集計やシミュレーションのようなものも扱います。ワープロは論文を書くということに絞って操作方法等を説明します。ワープロや表計算の基本操作ができ、統計についてある程度は知っているか勉強をする意志があることが望ましいでしょう。

テキスト：

Webページで用意します。

参考書：

講義中に示します。

【04】【93】応用情報処理 (情報社会の光と影)(2)(春学期)

助教授 原田隆史

DMC 教授 福原美三

講師 中村正三郎

授業科目の内容：

IT(情報技術)の革新は、社会・経済環境に大きな影響を及ぼしてきました。情報のデジタル化がもたらす情報流通の高速化によって、あらたな産業が生まれ、情報の使い方で社会が動く時代になってきたのです。特に、最近ではバイオテクノロジー、ナノテクノロジーなどの新しい技術もみだされ、我々の社会に大きなインパクトを与え続けています。この講義では、これらの技術の光と影の両面に焦点をあて、我々の社会のこれからについて考えていきます。

テキスト：

必要に応じて、適宜文献を指定したり、プリントを配布します。

【04】【93】応用情報処理 (情報技術)(2)(秋学期)

コンピュータとネットワークの仕組みを理解する

理工学研究科 特別研究助手 森山 剛

授業科目の内容：

コンピュータやネットワークを問題なく使用できている時は、必ずしもその中で何が起きているかを知る必要はありません。しかし、一旦問題が生じてそれらが使えなくなった時、仕組みを理解していなければお手上げです。これはこういう仕組みだからこうすれば良い、といった問題解決能力は、仕組みの理解から始まります。そしてその問題解決能力こそ、実世界で頻繁に求められる能力なのです。本講義では、コンピュータとネットワークの動作と仕組みを理解し、幅広い知識を身に付けさせることを目的とします。

テキスト：

授業で配布します。

参考書：

授業で適宜指示します。

【04】【93】応用情報処理 (プログラム言語)(2)(秋学期)

Javaによるプログラミングの基礎

講師 新居雅行

授業科目の内容：

コンピュータを動かすために必要なソフトウェアを作成することをプログラミングと呼んでいます。この講義では、Javaという言語を使ってソフトウェアを作成する方法を解説します。パソコンについての基本的な知識や、ファイルの作成や一般的な操作ができるという前提で、講義を進めます。また、インターネットを含むネットワーク利用についての基本知識もあるものとして解説を行ないます。特にテキストファイルを含めた、ファイル処理については、きちんと理解した上で受講してください。ただし、プログラミングそのものについては、初歩から解説します。

まず、プログラミングの概念と、知っておきたいことをまとめます。そして、プログラミングに必要なパソコンの操作を説明します。その後、実際にいろいろなプログラムを作成するといった流れで講義を進めます。テキストは以下のものを利用しますが、Webページでのレジュメや補足も利用します。

テキスト：

Webページで用意します。

参考書：
講義中に示します。

【04】【93】応用情報処理 (ネットワーク技術)(2)(春学期)
講師 林 貞孝

授業科目の内容：

ネットワークについて、その基盤技術から順を追ってインターネットの基本技術であるTCP/IPやネットワークサービス、ネットワークセキュリティについて学びます。

参考書：
参考文献については授業時に適宜紹介します

【04】【93】応用情報処理 (WWW技術)(2)(秋学期)
講師 安形 輝

授業科目の内容：

この授業では、膨大な情報量を背景として急速に普及してきたメディアであるWorld Wide Web(以下ウェブ)における、サーバ側のさまざまな知識と技術について、演習を通じながら取得することを目的としています。ただし、膨大なウェブサーバ側の技術について限られた時間のなかで扱うのは困難であるため、個人あるいはグループごとに、実際のウェブサービスを作成し、運用する演習を行います。そのなかで、ウェブに関する知識や技術を自ら積極的に学んでいくことを期待します

テキスト：
特に指定しません。

参考書：
特に指定しません。

【04】【93】情報と職業(2)(秋学期)
助教授 原田 隆史

授業科目の内容：

現在の企業活動では「情報」が重要な役割を果たしていると言われる。これは、いわゆる「情報産業」において重要であるだけでなく、すべての産業分野において「情報」を効果的に利用することが必要不可欠となってきたのです。この科目では、情報産業に従事される方を中心に、各種の産業で「情報」を取り扱っておられる方々をお呼びして、「情報化」の実態をお話していただきます。

実際に塾外から招く講師の方々は、未定ですが、2005年度は横浜銀行、ソニー、松下電器産業(株)ハーティネス、NTTレゾナント、日経BP、角川書店、三菱総合研究所、などの方々においていただきました。

テキスト：
特に指定しません。必要に応じて、適宜プリントを配布します。

【04】【93】情報と倫理 (2)(秋学期)

休講

【04】中国語会話特殊 (2)
【93】中国語会話 (2)
広東語初級 講師 八木 麗 媚

授業科目の内容：

発音、会話を中心に広東語の基礎を学びます。基本的な文法事項を習得し、簡単な日常会話ができることを目標とします。

テキスト：
初回の授業で指示します。

【04】中国語会話特殊 (2)
【93】中国語会話 (2)
D南語(台湾語) 講師 小松 嵐

授業科目の内容：

入門・初心者向けのD南語(台湾語)会話クラスです。「D」は福建省の古名で、D地方東南部に分布する言語はD南語と称されます。同系のD南語が福建省外及び東南アジア、台湾にも分

布しております。台湾では住民の60%以上がD南語を話すことができることから、台湾第二の公用語とも言われます。本授業はD南語の音声体系をはじめ、教会ローマ字表記法及び簡単な日常会話をおぼえ、D南語のことわざや歌も取り入れたいと思います。

テキスト：
樋口靖『台湾語会話』(東方書店)

【04】【93】西洋古典学(4) 教授 西村 太良

授業科目の内容：

「オデュッセイアとその周辺」
「イリアス」と並び称されるホメロスの叙事詩の翻訳を読みながら、その周辺のさまざまな問題、例えばトロイア伝説の地方性、西ギリシアの古代地理、叙事詩としての構成、航海をめぐる伝承、オデュッセウスの評価、説話文学、冥界くだり、ホメロス社会の女性などをトピックとして取り上げていく。

テキスト：
主としてプリントを配布。

参考書：
その都度、授業中に紹介。

【04】西洋古典研究会(2) 教授 西村 太良
法学部教授 マクリン、ニール
経済学部助教授 パティー、ロジャー

授業科目の内容：

「西洋古代学の諸問題」
ギリシア・ローマの文化を歴史、文学、宗教、美術、地理など様々な分野を総合する視点から考えていくことを目的とする研究会。3人の担当者からの問題設定に対して受講者の側から積極的に議論に参加していくことが望まれる。受講者の希望や関心にも応えていきたい。

テキスト：
主としてプリントを配布。

参考書：
その都度、授業中に紹介。

【04】古典ギリシア語文献講読 (2)
【93】古典ギリシア語(上級)(2) 講師 小池 和子

授業科目の内容：

- ・散文で書かれた作品を読みます。
- ・扱う作品は出席者の要望に応じて決めたいと思いますが、候補としては以下のような作品を考えています。
 - ・クセノポーン『ヘレーニカ』
 - ・ブルータルコス『対比列伝』より「アントーニウス伝」
 - ・リュージアース 第xii弁論『エラステネース告発』

テキスト：
こちらで用意します。

【04】現代ギリシア語文献講読 (2)
【93】現代ギリシア語(上級)(2) 講師 ヴォルドカ・ゾイ

授業科目の内容：

現代ギリシア語の文章を読みながら、文法的な説明を加え、ギリシアの文化についての理解を深めることを目的とする。

テキスト：
受講者の希望と関心に添って決める。

参考書：
D.N.Stavropoulos: *Oxford Greek-English Learner's Dictionary* (Oxford UP)

【04】ラテン語文献講読 (2)
【93】ラテン語(上級)(2) 講師 平田 真

授業科目の内容：

初等文法を終えた人のための原典講読クラス。年度によって、散

文が詩文を読む。

散文の場合は、キケロ、カエサル、タキトゥス等から、詩文の場合は、オウィディウス等から一作品を選んで原典講読。本年は、散文、タキトゥスを予定。

テキスト：

テキストはこちらで用意する。

参考書：

久保正彰著『OVIDIANA ギリシア・ローマ神話の周辺』(青土社)

【04】ロシア語文献講読(2)

助教授 ナコルチェフスキー、アンドリイ

授業科目の内容：

専攻科目に関連するロシア語の文章の講読

テキスト：

未定

【04】【93】イタリア文学演習(2) 教授 白崎 容子

授業科目の内容：

まずはイタリア文学史の概要を把握することを目指します。イタリア語原文と日本語訳を併用しながら、作品そのものにも部分的にふれていきます。また、狭義の「文学」にこだわらず、映画や音楽・美術の分野もなるべく視野におさめながら授業をすすめる予定です。

テキスト：

プリント

参考書：

- ・『イタリア文学史』東京大学出版会
- ・『カルヴィーノの文学講義』朝日新聞社
- ・I. カルヴィーノ『なぜ古典を読むのか』みすず書房

【04】【93】スペイン語圏文化研究(2)

現代スペイン文化 教授 坂田 幸子

授業科目の内容：

20世紀初頭から現在に至るまでのスペインを主な対象とし、社会と文化に関する豊富な資料に接し、それらを比較・検討する作業を通じて、現代のスペインで進行しつつある文化的事象について考え、理解を深めます。

【04】【93】ライフサイエンス(4)

休講

【04】【93】自然科学研究会(2)

先端生命技術を考える 教授 中島 陽子

授業科目の内容：

生命科学の成果は、医療技術として私たちの生活に直結するようになりました。オーダーメイド医療という言葉もきこえてきます。しかし、それを喜ばしいこととだけでは済ませられない側面もあります。子どものできないカップルは「どうして不妊治療を受けないの」という外野の声に、悩みは一層つものことになるでしょう。[それを望む人がいて、それに応える技術があるとき、関係ない第三者がとやかく言うことはできない。自己決定に任せるべきだ]という考え方があります。現在の日本で自己決定権は本来の意味で機能しているのでしょうか。果たして自己決定権にすべてを託してよいのでしょうか。たとえば生まれてくる子の質を選ぶことも可能になっています。これが広く行われるようになると、そのような社会は「個人に選択を委ねた優性政策」をとっているということもできます。

このような先端生命技術をどのように受け止めていったらよいのか？自己決定権の意味するものは何なのか？そこに社会としての規範は必要ないのか？など、先端生命技術について生命科学の視点から勉強するとともに、私自身が考え悩んでいるテーマについて、一緒に考えていく予定です。

テキスト：

使用しません

参考書：

- ・『現代生命科学入門』小比賀正敬・中島陽子(慶応大学出版)2001(生命科学の基礎知識紹介として)
- ・『優生学と人間社会』米本昌平他(講談社現代新書)2000
- ・『脳死と臓器移植の医療人類学』マーガレット・ロック(みすず書房)2004
- ・『自己決定権は幻想である』小松美彦(洋泉社)2004 そのほか適宜紹介します

【04】【93】自然科学研究会(2) 教授 高山 博

授業科目の内容：

人類学(自然人類学,化石人類学),進化学(形態レベル),自然史分野に関わる卒論補助または卒論作成に役立つような演習形式の講義。初年度なので,具体的には人類学,進化学の基礎知識の習得,基礎的文献の探索と講読を行う予定。

テキスト：

指定しません。

参考書：

指定しません。

【04】【93】自然科学研究会(2) 教授 高山 博

授業科目の内容：

人類学(自然人類学,化石人類学),進化学(形態レベル),自然史分野に関わる卒論補助または卒論作成に役立つような演習形式の講義。自然科学研究会 既習者および学部4年生のために開講するので,人類学,進化学の方法論,研究成果等の吟味,検証を通じて報告・論文作成の一助としたい。

テキスト：

指定しません。

参考書：

指定しません。

【04】【93】自然科学研究会(2)

化学物質と人間社会との関わり 教授 大場 茂

授業科目の内容：

物質の概念あるいは化学物質に関連した問題を研究します。課題として取上げるテーマは履修者の希望にそって設定しますが,例えば次のような分野が考えられます。科学史における転機とその時代背景,化学物質と環境問題,自然科学でまだ未解決な問題など。

テキスト：

必要に応じてプリントコピーを配布します。

【04】【93】カウンセリング概論(4)

講師 平野 学

授業科目の内容：

心の時代と言われる現代,カウンセリングは様々な点から注目されている。本講では先ず(1)カウンセリングがどのようなものなのか,歴史的な流れも踏まえつつ,具体的にお話しした後(2)その訓練手法としてよく用いられている“ロールプレイ”も交えて,話を聴く練習を若干試みたい。そして(3)実際に病院や保健所,学生相談,教育相談等でカウンセラー(臨床心理士)として働いている方々,及び精神科医やHIV・エイズ関係者,脱カルト関係者等もゲストとしてお招きし,現場に即したカウンセリングのあり方や資格・訓練等の問題についても考えてみたい(VTRやスライドも多く使用したい)。尚,全体を通し“臨床心理学入門”といった趣きもあろうが,受講者自身が自らを見つめ,各々の成長に役立つ時間になるような心がけたい。同時に,カウンセリングという視点から現代社会のあり方や人間としての生き方等についても考えるきっかけとしたい。

テキスト：

乾 吉佑・平野 学編『臨床心理士になるには』(ペリかん社)

参考書：

- ・河合隼雄『カウンセリングを語る(上・下)』『カウンセリングを考える(上・下)』(共に創元社)『心理療法序説』(岩波書店)

- ・佐治守夫他編『カウンセリングを学ぶ』(東京大学出版会)
- ・小此木啓吾他編『精神分析セミナー(巻)精神療法の基礎』(岩崎学術出版社)

【04】【93】カウンセリングワークショップ(4)
講師 平野 学

授業科目の内容:

現代社会にあっては、知的なものが重視・評価されやすく、何かとアタマでっかちになりやすい風潮がある。我々自身も、とかく自らの心や身体、そして体験をぞんざいにして過ごしがちではなからうか。ここではこうした認識のもと、『カウンセリング概論』単位取得者(状況によっては履修中の者も認める可能性あり)に限定して、実習や体験学習を中心とするワークショップを行いたい。具体的には(1)カウンセリングの実際をデモンストレーションやVTRで見たり、小グループに分かれてロールプレイを行いつつ、じっくり自由な討議を重ねたい(ロールプレイの逐語記録の詳細な検討も試みたい)。加えて(2)自己理解を深めるための様々なエクササイズ(描画、感受性訓練、心理アセスメント、ヨーガ、サイコドラマ、箱庭、コラージュ他)を体験してもらおう中、自らをバランス良く高めるきっかけを提供したい。本講は内容的にカウンセラーや臨床心理士、福祉職、教師等、人とかかわる仕事に関心を有する学生諸君向けのものとなるが、それ以外の諸君にとっても“対人コミュニケーション”のあり方を、学び考えるきっかけにしてもらえたらと思っている。

参考書:

- ・佐治守夫他編『カウンセリングを学ぶ』(東京大学出版会)
- ・乾 吉佑・平野 学編『臨床心理士になるには』(ペリかん社)

【04】【93】名著研究(独)(2) 講師 針谷 寛

授業科目の内容:

1830~40年代ドイツの初期社会主義の理論的文献を読む。テキストは受講希望者と会ってから決めるが、今年度は K. Marx, Ökonomisch-philosophische Manuskripte を所有概念を軸にして読む予定。一方ではカント、ヘーゲルなど近代社会理論の所有論、他方ではヴァイトリングやヘスなどの初期社会主義理論の所有論と比較しながらその歴史的、理論的特殊性を見ていきたい。

そこで使われている言葉がその時代の中でもっていた意味を手繰りながら読むことに留意する。

【04】【93】名著研究(仏)(2)

休講

【04】【93】比較文学(4)

休講

【04】比較文学(2)(春学期)

【04】比較文学(2)(秋学期)

【93】比較文学(4) 講師 菅原 克也

授業科目の内容:

比較文学的アプローチに親しんでもらうため、春学期は理論的な枠組みについて、秋学期には具体的な影響研究について講義する。

[春学期] 小説はどのように書かれているか

小説を、その思想やメッセージの側からではなく、「かたち」の側から読んでゆくどのようなことが分かるか、あるいは、小説とはどのような書かれ方をしているか、ということを考える。テキストの構造に着目する様々な批評理論を参照しつつ、具体的な小説作品を「かたち」の面から読み解いてみる。主に英米文学と日本文学から例を引く。

[秋学期] 俳句はいかにして世界文学となったか

明治期以降、日本の詩歌が欧米にどのように紹介され、どのように理解されたかを、実証的受容研究の立場から紹介する。とりわけ注目すべきは、日本の俳諧/俳句がいかにして欧米に受け入れられ、やがて haikai / haiku として世界文学の一ジャンルとなり

えたかという問題である。欧米文学の受容研究の蓄積の厚い日本の比較文学研究において、これは影響・受容の方向がまったく逆となる興味深い例である。

テキスト:

適宜、プリントを配布する。

参考書:

- ・George Hughes, *Reading Novels*. Vanderbilt Press, 2002. (春学期)
- ・Earl Miner, *The Japanese Tradition in British and American Literature*. Princeton University Press, 1958.

【04】演劇の歴史(2)(春学期)

日本演劇の歴史〔春学期〕 教授 石川 透

[春学期]

授業科目の内容:

現在、世界各地には、さまざまな種類の演劇が伝えられ、演じられている。しかし、これまでの歴史の中で、埋もれてしまい、現在演じられていない演劇も数多く存在している。本講義では、それらを含めた日本の古典の作品を取り上げ、いかに作られ、いかに受け継がれたのかを、現存する演劇や資料と関わらせて考えてみたい。

【04】演劇の歴史(2)(秋学期)

西洋演劇の流れ 理工学部 助教授 小菅 隼人

授業科目の内容:

演劇の世界では日々新しい上演が生み出されつつ、同時に、各地域に過去の文化的財産として戯曲や上演伝統が残されています。しかし、どのようなものであっても劇が演じられる時は、常に、目の前に繰り広げられるイベントとして「観客」は舞台の構成要素となります。劇場には、戯曲と俳優と観客が常に同時に存在しているのです。また、演劇においては、言語芸術の要素が舞踊・音楽・美術の要素と半ば整然と、半ば乱雑に混じりつつ総合芸術となります。したがって、演劇史は劇文学の歴史であると同時に、上演と鑑賞の歴史ともなります。この考え方に立って、秋学期の講義では、主として西洋演劇の流れを言語や地域の枠に限定せず、総合的に扱います。演劇のドラマとしての側面は、映画・テレビ・オペラ・ミュージカルなど様々な芸術と理念を共有するはずですし、パフォーマンスとしての側面は政治・経済・法律・社会・スポーツにおいても見出せるでしょう。その意味では、演劇を知ることは、世界の見方を知ることでもあります。狭い意味での演劇に限らず、広く演劇的な現象に興味を持つ学生諸君の受講を歓迎します。

テキスト:

プリントを配布します。

参考書:

講義中指示します。

【93】演劇史(4)

休講

【04】英書講読(A)(2)

【93】洋書講読(A)(2)

戦場のメリークリスマス の講読 助教授 足立 健次

授業科目の内容:

南アフリカ生まれの英国籍作家 Laurens van der Post (1906~1996) の作品を読みます。その著作活動は、主として彼が生まれ育ったアフリカの大地、第二次世界大戦中の日本軍捕虜としての体験、さらには心理学者カール・ユングとの出会いによって支えられていると言えます。その中から今回は映画「戦場のクリスマス」の原作を取り上げ、第二部を読む予定です。

テキスト:

Laurens van der Post, *The Seed and the Sower* (Penguin Books)

【04】英書講読 (B)(2)

【93】洋書講読 (B)(2)

イギリス演劇の台本を読む 助教授 高橋 宣也

授業科目の内容：

20世紀を代表する劇作家バーナード・ショーの代表作 Saint Joan を読みます。聖ジョウンとはジャンヌ・ダルクのこと。彼女の栄光と悲劇を機知に溢れた台詞でたどる歴史物語です。台本とはいっても、俗な口語ではなく、吟味された言い回しや皮肉などに満ちた、味読に足るテキストです。

テキスト：

George Bernard Shaw, Saint Joan (金星堂)

【04】論文フランス語(初級)(2)

【93】論文フランス語入門(初級)(2)

教授 牛場 暁夫

授業科目の内容：

フランス語によって書かれた文章の特徴は、「明晰にして簡潔」とも言われますが、フランス語的な論理にはやく慣れてもらうようにします。しかし、はじめはやはり基礎的な訓練からはじめなくてはならないでしょう。語学で一番重要なのは、なんといっても基礎だからです。また、日本語とは異なる論理に慣れるように、頭を柔らかくして教室に来てください。また、息のながい、じっくりとした頭の体操ができるようにして、教室に来てください。

【04】論文フランス語(中級)(2)

【93】論文フランス語入門(中級)(2)

読解のフランス語 教授 川口 順二

授業科目の内容：

初級文法を終えた学習者を対象として、実際のテキストの読解をします。

テキスト：

プリントで配布します。

【04】【93】比較精神史(4)

英語によるディスカッション 教授 宇沢 美子
助教授 エアトル, ヴォルフガング
助手 北中 淳子
助手 W 橋 勇

授業科目の内容：

授業では英語のみを用いますが、帰国子女ではない学生を対象とします。自分たちの問題意識を英語で表明し(プレゼンテーション)、討論を行なうことによって、英語の能力を鍛えることを目指します。必ずしも英語が得意でなくても、英語の運用と英語による意見の発信に関心のある方の参加を期待します。哲学、人間科学、アメリカ文学、イギリス文学を専門とする各教員が、それぞれ関心のあるテーマを設定するので、種々の問題について多角的に考えるよい機会となるでしょう。

テキスト：

授業のガイダンス時に指定します。

【04】【93】環境問題と大学(2)(秋学期)

環境学・平和学 教授 川村 晃生

授業科目の内容：

近年、地球環境は劣化の一途をたどり、しかもその好転の兆しは全く見えない。環境問題は、自然科学のみならず、政治や経済といった社会科学、また人間の精神に関わる人文科学など、様々な分野からのアプローチが可能であり、またそれらを統合することによって解決の道も探り得るようになる。この講義では、塾内外のそれぞれの分野で環境問題に関心を寄せる講師陣が、正面から環境問題に考察を加え、大学が環境問題にどう取り組んだらよいかについて、議論を深める。講義は聞いて考えてもらうことを主眼とするの

で、成績を平常点で付ける。

一方、近年アフガニスタン、イラクなど、世界規模の戦争が多発している。今年度からは、環境問題とともに戦争や平和の問題を講座の対象としたい。戦争の現状認識を深めると同時に平和を希求する手がかりにしていきたい。

テキスト：

なし

参考書：

『環境学事始め』(慶応義塾大学出版会 2400円+税), 『自然と文学』(慶応義塾大学出版会 3000円+税)

【04】【93】イタリア語文献講読(2)

教授 白崎 容子

授業科目の内容：

さまざまな分野の文献をテキストに、読解力を高めることを目指します。

対象は、必修語学「イタリア語」を履修した3,4年生、系列外科目「イタリア語中級」履修者およびそれに準ずる学生です。「初級」で文法を学んだばかりの学生でも、たとえば他のロマンス系言語の知識やイタリア語読解への熱意と気力を備えていれば、受講可能です。

テキスト：

開講時に教室で指示します。

【93】日本演劇論(4)

休講

【04】【93】文章と表現(4)

文学の現場からの報告 講師 加藤 宗哉

授業科目の内容：

プロの文章とアマチュアの文章には違いがある。プロの書き手たちは暗黙の約束ごとに従って文章を書いている。その約束ごとを本講では説明する。文章は才能で書くのではなくテクニックで書く。具体的には「漢語・和語・外来語の使い分け」「オノマトペ・常套語・記号の危険性」に始まり、「いかに書き隠すか」まで、文学の現場でつねに問われる問題を紹介したい。

テキスト：

コピーを配布します

参考書：

・季刊文芸誌「三田文学」
・「三田文学名作選」

【93】ロシア語(上級)(2)

講師 金沢 大東

授業科目の内容：

日本人に不得意な《移動の動詞》の用法、数詞の格変化、副動詞、形動詞の作り方と用法を中心に授業を行う。

テキスト：

ロシア語教程 (東京ロシア語学院, 1999年, 1800円)

【93】ロシア語(特級)(2)

講師 金沢 大東

〔春学期〕

授業科目の内容：

上級よりも幾分複雑で高度な内容の、口頭での露文和訳、和文露訳、及びロシア語作文を行う。

テキスト：

プリント

言語学関係講座について

本塾文学部には、現在のところ言語学専攻科はないが、文学部共通科目の枠内で、以下のように、言語学関係の科目が設置されている。それは、講座の種類・質・講師陣といった角度からみて、他大学の言語学専攻科に十分に匹敵する（あるいは、それ以上に充実した）内容をもっているといえる。したがって、専攻の如何にかかわらず、言語学に関心をもつ学生は、これらの講座を履修することによって、言語学の専門的な知識を身につけることができるであろう。なお、ここでいう「言語学」は、言語の諸相をあるがままに記述することばかりでなく、「なぜ言語はかくあるのか」という問いに対する解答を与える説明的理論（例えば生成文法理論）の構築をも目標としている学問であることを強調しておきたい。それは言語をめぐる隣接諸科学（心理学、哲学、論理学、コンピュータ・サイエンス、認知科学など）と密接にかかわりをもつものであり、その意味で学問に対する現代的要請に応えるものである。言語学関係の講座は次のようなカリキュラムのもとに構成されている。

・日吉設置講座：いずれも言語科学入門の役割を果たしている

「言語」(通年)[文]

「言語学Ⅰ」(春学期)[文・経・商 共通]

「言語学Ⅱ」(春学期)[文・経・商 共通]

・三田設置講座

2年次での履修が望ましい

3,4年次での履修が望ましい

言語学概論Ⅰ
言語学概論Ⅱ
言語学概論Ⅲ

言語学特殊
(原典講読)

言語学特殊Ⅰ
(生成文法初級)

言語学特殊Ⅱ
(記述言語学)

言語学特殊Ⅲ
(生成文法中級)

言語学特殊Ⅳ
(意味論・語用論)

言語学特殊Ⅴ
(形態論)

言語学特殊Ⅵ
(音韻論)

言語学特殊Ⅶ
(言語心理学)

言語学特殊Ⅷ
(生成文法上級)

なお、言語学関連科目として、英文学、仏文学、国文学、独文学、中国文学の各専攻科目に設置されている個別言語の研究（たとえば、英語学、フランス語学、国語学など）、および、哲学専攻科の「哲学倫理学特殊Ⅳ」(言語哲学)などもあわせて履修されたい。言語学に関して、履修上の問題をはじめ、さまざまな問題が生じた際には、遠慮なく以下の講座の担当者に相談されたい。

【04】【93】言語学概論 (4)
言語学への招待 経済学部 助教授 星 浩 司

授業科目の内容:

この授業では、我々人間を人間たらしめている重要な属性の一つである「言語」とは何かという問題を科学的に考えていく。具体的には、「言語」とは何かという根本的問題から出発し、自然言語に共通して観察される諸特徴を概観した後、各論へと進んでいく。各論では、音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論等の基礎を学んでいく。全体を通じて、是非、科学的言語観を理解してもらいたい。

テキスト:

星 浩司 著「言語学への扉」(慶應義塾大学出版会, 近刊)

参考書:

井上和子, 原田かづ子, 阿部泰明 共著「生成言語学入門」(大修館書店, 1999)
大津由紀雄 他 編著「言語研究入門: 生成文法を学ぶ人のために」(研究社, 2002)

【04】【93】言語学概論 (4)
生成文法理論入門 講師 外池 滋生

授業科目の内容:

この授業は、1) 英語という言語を題材に(そして折々に日本語の対応する事実を補いながら)生成文法理論の枠組みを概観すること、2) それと同時に生成文法による言語研究の背後にある、言語観、人間観、経験科学としての言語学のあり方などについて、時には生成文法とは立場をことにするアプローチとの対比において、考察することの二つを目指します。

テキスト:

Andrew Radford 著, 外池滋生 監訳『新版入門ミニマリスト統語論』(研究社)

参考書:

安藤貞雄・小野隆啓 著『生成文法用語辞典』(大修館), 原口庄輔・中村捷 著『チョムスキー理論辞典』(研究社)

【04】【93】言語学概論 (4)
ことばの仕組みとことばの発達
経済学部 助教授 松岡 和美

授業科目の内容:

このクラスは初学者を対象に、言語学では「言語の何を」「どう扱うのか」についておおまかな理解が得られるように構成されている。前期クラスでは、言語の研究のツールとして提案されている概念や方法論を紹介し、それがもたらす新しい知見を、世界の様々な言語データの分析を通して理解することを目的とする。後期クラスでは、前期クラスの内容を踏まえて、母語の発達過程と言語理論との関係についての知見を広める。各学期末試験においては、知識だけではなく、授業で扱った考え方をういてデータや問題を「どう説明するか」という能力の評価に重点を置いた設問が課される。主な内容: 語彙論、音声学、音韻論、統語論、意味論、語用論、社会言語学、歴史言語学、脳と言語、母語の獲得、手話学、バイリンガリズム他。前年度の授業評価結果やコメントは授業支援用 HP 参照のこと。

テキスト:

『ことばの科学ハンドブック』郡司隆男・西垣内泰介 編著, 研究社
三田メディアセンターリザーブブック(図書館旧館3階)に配架予定の資料を予習文献として使用する。

参考書:

順次, 授業支援用ホームページ(URL 後述)に掲載。

【04】【93】言語学特殊 (4)
生成文法入門 言語文化研究所 教授 大津 由紀雄

授業科目の内容:

生成文法と呼ばれる認知科学理論の基本的考え方について講じたあと、現代英語を主たる対象として言語分析の訓練を行なう。現代

英語を対象とするのは、客体化しやすい外国語であり、かつ、受講者のほとんどの者になじみが深い言語であるからである。現代英語についての知識は中学校卒業程度でよい。

【04】【93】言語学特殊 (4)
東南アジアの言語
言語文化研究所 教授 三上 直光

授業科目の内容:

東南アジア諸言語の諸相を一般的な見地から観察、分析する。取り上げるテーマとしては、系統と分布、文字、音韻・形態・統語などの特徴、言語と文化、言語問題、言語政策などを予定している。授業は、講義と履修者の発表を交えながら進めていく。

テキスト:

特に指定しない。

参考書:

その都度指示する。

【04】【93】言語学特殊 (4) 講師 内堀 朝子

授業科目の内容:

生成文法研究は、近年、ミニマリスト・プログラムと呼ばれる研究プログラムの下で進められてきた。それによると、人間の脳内にはいわば言語器官とも言うべき独立した機構が存在すると考えられ、特に、その機構には、言語使用を可能にするために言語以外の領域(例えば、音声の調音・知覚に関わる領域など)から必然的に課される条件を最適な形で満たしながら、文を原則的には無限にかつ最も経済的に、生成し得る仕組みが備わっているとされる。本講義では、このような言語器官としての言語の諸特性を明らかにすることを目的とした最近の生成文法理論の枠組みについて、詳しく取上げる。

テキスト:

開講時に指示する。

参考書:

開講時に指示する。

【04】【93】言語学特殊 (4)
日本語の意味論と語用論 講師 西山 佑司

授業科目の内容:

言語学的に重要な日本語の構文について、意味論的・語用論的観点から考察する。まず、文中に登場する名詞句の意味と解釈の問題を、とくに指示性・非指示性という観点から論じる。次に「象は鼻が長い」「カキ料理は広島が本場だ」「辞書は新しいのが良い」「主役は君だ」「君が主役だ」「父が買ったのは、これだ」「花が咲くのは7月頃だ」といった日本語学でしばしば論じられてきた構文をとりあげ、従来の分析の問題点を指摘する。「非飽和名詞句」や「変項名詞句の非指示性」という観点からこれらの構文にたいする再分析を試み、「ハ」と「ガ」の区別に関する新しい分析を提示する。この講義を通して、現代言語学における意味論と語用論の位置付けをも説明する。

テキスト:

西山佑司『日本語名詞句の意味論と語用論 指示的名詞句と非指示的名詞句』(ひつじ書房 2003年)

【04】【93】言語学特殊 (4)
格と一致の形態統語論 講師 デ・シェン, プレント

授業科目の内容:

類型学的に多様ないくつかの言語における格と一致の形態論的パターンを見てから、自然言語の階層的な句構造の説明にもなる統語論上の計算の一側面として、格表示と一致がどのように扱われるかを調べる。主なトピックは(1)節の構造(VPの存在および構成素の概念; TおよびCの存在, TPとCP, 補部と指定部); (2)名詞句の構造(DPとしての名詞句, DPとTPの平行性); (3)意味役割(どのような意味役割が存在するか, 意味役割が構造的に決定するという仮説); (4)VP構造(作用域に関する主語の曖昧性および

び VP 内主語の仮説；二重他動詞節の構造および小さい v)；(5) 融合操作(マージ)(融合操作と句構造の構築，融合の引金としての選択素性)；(6)一致操作(同一操作の2側面としての格表示と一致，解釈可能と解釈不可能な一致素性，解釈不可能である構造格の素性，プローブとゴールの関係，移動と EPP 素性，DP における一致操作)

テキスト：

教材は教室で配布される。

【04】【93】言語学特殊 (4)

音声と音韻

講師 本間 猛

授業科目の内容：

日本語と英語の音声構造と音韻構造の相違点および共通点を探ることを通して，音声学・音韻論の基本概念を学ぶ。また，分析方法の基礎を理解し，応用できることを目指す。言語研究における音声・音韻の研究の位置付けを概観した後，言語音の産出のしくみを学ぶ。さらに，音素，音節，モーラ，語アクセント，文アクセント，リズム，イントネーションなどの音韻現象とその理論的側面について考察する。また，最近の理論である最適性理論 (Optimality Theory) についても解説する。

授業方法：講義にて基礎的な知識や基本概念を扱い，さらに，練習問題で理解を深めるようにする。

テキスト：

窪園晴夫著 日英語対照による英語学演習シリーズ『音声学・音韻論』くろしお出版

参考書：

- ・窪園晴夫著『語形成と音韻構造』くろしお出版
- ・窪園晴夫・太田聡著『音韻構造とアクセント』研究社
- ・窪園晴夫・本間猛著『音節とモーラ』研究社

【04】【93】言語学特殊 (4)

言語心理学

講師 磯部 美和

授業科目の内容：

本講義では，子どもがどのようにして，わずか数年のうちに抽象的で複雑な母語を身につけるのかという問題を取り上げる。具体的には，生得的にヒトの脳に内在すると仮定されている言語の知識について解説し，英語・日本語の獲得を中心に様々な言語獲得研究の成果を概観し，議論していく。

テキスト：

特に指定しない。適宜プリントを配布する。

参考書：

適宜指示する。

【04】【93】言語学特殊 (4)(秋学期集中)

生成文法上級 言語文化研究所 助教授 北原 久嗣

授業科目の内容：

ミニマリスト・プログラムが提供する研究上の指針には，(記述的装置のクラスを最小限にするよう求める)「最小設計」指針，及び(演算の操作上の複雑性を縮小するよう求める)「単純演算」指針と呼ぶものがあるが，本講義では，「単純演算」指針に幾分焦点をおき，操作上の複雑性の縮小と言語のミニマリスト的設計の問題を考えてみたい。具体的には，これら二つの指針に関係する基本概念及び指導仮説を検証し，徹底した派生主義の観点から，操作上の複雑性を縮小する提案の再定式化を試みる。

テキスト：

開講時に指示する。

参考書：

開講時に指示する。

【04】【93】言語学特殊 (4)

日英語比較統語論

講師 外池 滋生

授業科目の内容：

英語と日本語の特に節構造，つまり文の構造を比較します。比較するには共通の土俵がなければなりませんから，共通の基盤として生成文法理論を用います。まず英語と日本語を比較する上で必要な最小限の言語理論を学んで，その上で英語，日本語の節構造についての標準的な分析を概観し，そのような事実が生成文法理論，とくに普遍文法理論の中でどのように捉えられているかを見ます。

テキスト：

西垣内泰介・石居康男 著『英語から日本語を見る』(研究社)

参考書：

Andrew Radford 著，外池滋生 監訳『入門ミニマリスト統語論』(研究社)，『生成文法用語辞典』(大修館)，『チョムスキー理論辞典』(研究社)

遠山記念音楽学講座について

1985年、音楽評論家で(財)日本近代音楽館(元遠山音楽財団)理事長であるとともに、東京文化会館館長、新国立劇場副理事長などを歴任された遠山一行氏から、当時の遠山音楽財団附属図書館に蒐集された中世・ルネサンス、現代の音楽に関する資料が寄贈された。資料には、図書ばかりでなく楽譜、レコード、マイクロフィルム等が含まれ、慶應義塾図書館(旧館)で「遠山音楽文庫」の名のもとに公開されている。また遠山記念音楽研究基金も慶應義塾に寄贈された。それを記念して開講されたのがこの講座である。

欧米においては、音楽学は総合大学で研究教育されており、遠山氏の寄贈は、我が国においても音楽学の研究教育が総合大学を中心におこなわれるべきとの信念にもとづいたものであった。氏は、慶應義塾こそそれに最もふさわしい大学であると判断された。遠山音楽文庫の開設によって、我が国の総合大学のなかで最大の音楽資料を有することになった慶應義塾は、音楽学に関する講座を充実するために、本講座を設置した。美学美術史学専攻には、すでに西洋音楽史を中心にした一連の講座が開設されているが、それを拡充するものであるとともに、音楽学および関連諸学を専門とするための基礎的スキル獲得のための内容も盛り込まれている。

【04】【93】音楽学 (4)

音楽分析入門

講師 小鍛冶 邦 隆

授業科目の内容：

通年でバッハ《シンフォニア》を用いて、音楽分析と音楽理論の基礎を学ぶ。

テキスト：

小鍛冶邦隆他著 バッハ シンフォニア 分析と演奏の手引き
(ショパン社刊)

【04】【93】音楽学 (4)

音楽研究入門 = さまざまな領域と文献・資料

音楽関連情報検索の実習

助教授 西 川 尚 生

商学部 助教授 佐 藤 望

経済学部 助教授 石 井 明

講師 石 多 正 男

授業科目の内容：

音楽で卒業論文を書こうと考える人のための(1)音楽研究のさまざまな領域と研究方法の包括的な紹介、(2)西洋音楽史を中心にした個別領域の事例紹介と研究の現在、(3)資料・文献検索の実際(実習ふくむ)を軸にしています。これまで音楽学について学んだことがないひと履修可能ですが、そのジャンルはともあれ音楽で卒論を書くことを視野にいれている人に限定します。受講の際の注意、詳細内容などは初回の授業で説明しますが、欠席者は受講ができません。

参考書：

日吉メディアセンター編『情報リテラシー入門』慶應義塾出版会、2002。

文化財科学

昭和 54 年財団法人松永記念館は、慶應義塾に文化財研究の振興と普及を計る目的で、松永記念文化財研究基金を寄贈された。本講座は、その主旨を記念し、義塾における文化財研究の普及と発達に資するために、昭和 62 年度より開設されたものである。

【04】【93】文化財科学 (4)

文化財資料を科学の目で見る 講師 富 沢 威

授業科目の内容：

考古遺物や美術資料の化学組成の特徴や、製造の歴史や技法について講義する。また、最近の研究で得られた成果である鉛同位体分析について紹介する。授業では、自然科学の手法を応用する際の背景となる考え方や原理、適用範囲や留意点などについて述べる。

テキスト：

テキストは、特に指定しない。

参考書：

授業の際に紹介する。

【04】【93】文化財科学 (4)

文化財資料を科学の目で見る 講師 富 沢 威

授業科目の内容：

年代測定法や DNA 解析法、アイソトープ食性解析法など、最近の進歩のなかから得られた成果について紹介する。

授業では、自然科学の手法を応用する際の背景となる考え方や原理、適用範囲や留意点などについても述べる。

テキスト：

テキストは特に指定しない。

参考書：

授業の際に紹介する。

芸術と文明

戦後の我が国で、学問の学際化の必要が叫ばれて久しい。

中世ヨーロッパの大学では、基本的な三学（trivium すなわち文法、修辞、論理 trivial という英語の形容詞はここから生まれた）と四学（quadrivium すなわち算術、音楽、幾何学、天文学）を修得すれば、修士号（Magister Artium：現在の M.A.）が与えられた。ところが現代では、学問が「総合から分析へ」と各方面に進歩した結果、領域の専門家とそれによる狭隘化をもたらした。今日では、本塾の文学部を例にとっても、学問は17の専攻に分かれ、専攻内ですらそれぞれの専門分野がより細分化している。そのため、中世のヨーロッパの知識人の目には、学生も教員も狭苦しいタコ壺の中で喘いでいるように見えるかもしれない現状を呈していることも事実であろう。

この閉鎖性を打破する試みがかなり以前から行われてきたことは確かである。比較 学と名付けられた学問の誕生もそのひとつといえよう。また文学部でも、大学の外から一流講師を招いて、「現代芸術」「詩学」と銘打った講座が設けられて来た。本講座も同様の試みとして、学問の名称にこだわることなく、文学部共通の専門科目として、設置されている。文学部の専任教員を中心に、場合によってはテーマを絞り、しかも扱う分野としては文学、歴史、音楽、美術、映画などの人文学（いや必要に応じて社会科学や自然科学の助けをも借りて）を縦横にクロスオーバーする主題を取り上げることが狙いである。

学問を総合的に見直すことが求められる今、「芸術と文明」という大きな枠組の設置には、少しでも学生、教員双方の視野を広げられればという願いが込められている。

【04】芸術の現在

教授 前田 富士男
理工学部 助教授 熊倉 敬聡

授業科目の内容：

基本テーマは、「21世紀的ライフ・リテラシーを求めて」です。われわれの感性や生活世界は、ますますグローバル化する超情報資本主義に覆われつつありますが、そうした状況に全面的に優されることなく、またある意味では、その何がしかの恩恵に浴しつつも、「もう一つの」ライフ・スタイルを、根源的な生のデザイン＝アートという視点から検討します。その際に、ライフ・リテラシーの探究を非西洋的知の復権、身体知の称揚、「喜捨」の経済学、という観点から行う予定です。前田富士男が導入部を担当し、以後を熊倉敬聡が担当します。

以下の思想家、作家たちを扱う予定です：フランシスコ・ヴァレラ、ジル・ドゥルーズ/フェリックス・ガタリ、ルドルフ・シュタイナー、ミシェル・ド・セルトー、グレゴリー・ベイトソン、ミヒャエル・エンデ、ジョルジュ・バタイユ、鈴木大拙、井筒俊彦、野口三千三、大澤真幸、中沢新一など。

参考書：

- フランシスコ・ヴァレラ他『身体化された心』（工作舎）
- 大澤真幸『文明の内なる衝突』（NHK ブックス）
- 中沢新一『愛と経済のロゴス』（講談社選書メチエ）
- 同『対称性人類学』（同）
- 鈴木大拙『禅』（ちくま文庫）
- ジョルジュ・バタイユ『呪われた部分』（ちくま学芸文庫）
- 井筒俊彦『意識と本質』（岩波文庫）
- グレゴリー・ベイトソン『精神と自然』（新思索社）
- ジル・ドゥルーズ/フェリックス・ガタリ『アンチ・オランダ・ブス』（河出書房新社）
- ルドルフ・シュタイナー『シュタイナー経済学講座』（筑摩書房）
- H・マトウラーナ/F・バレーラ『知恵の樹』（ちくま学芸文庫）
- ミヒャエル・エンデ『エンデの遺言』（日本放送出版協会）
- ミシェル・ド・セルトー『日常の実践のポイエティック』（国文社）
- 野口三千三『原初生命体としての人間』（岩波現代文庫）
- 熊倉敬聡『美学特殊 C』（慶應義塾大学出版会）

【04】芸術と文明（2）

【04】【93】芸術の現在（4）

【93】芸術と文明（2）

休講

久保田万太郎記念講座

本講座は、慶應義塾の生んだ大文学者、故久保田万太郎がその全著作権を本塾に寄贈されたことを記念して、文学部に設置された科目である。目的とするところは、従来のアカデミズムの枠にとらわれぬ、きわめて自由な発想のもとに、塾生諸君のなかに文学芸術への情熱の火を点ずることである。

それゆえ、本講座の講師には、制度としての大学内の学究にとどまらぬ、幅広い文学・芸術諸分野の第一級の有識者が、伝統的に選定されてきたのだった。本講座は「詩学」と「現代芸術」の二科目にわかれていて、前者は斯界の最高峰、後者は斯界の中堅有力者が担当する建前となっていたが、現在ではこの区分はかならずしも厳密に守られていない。従ってこれら両科目の名称はかなり便宜的なものとして解していただきたい。

幸いにして、本講座は義塾内外のまことに輝かしいお名前をお迎えしつつつけてきた。その一部をあげるだけで、本講座の伝統の重みを塾生諸君に理解してもらえらると思う。本講座は制度上は文学部に設置されているけれども、真に文学芸術を愛する塾生であるならば、在籍する学部は問うところではない。昭和三九年度第一回の講師として佐藤春夫が登壇して以来、西脇順三郎、土岐善磨、小泉信三、高橋誠一郎、河上徹太郎、山本健吉、河盛好蔵、吉川幸次郎、五所平之助、等々、わが国において文学芸術界や思想界の最高をきわめた、ほんとうにまぶしいような高名が大山脈のごとく連なっていることに、諸君は気づくだろう。塾生諸君の熱心な受講を期待してやまない。

【04】現代芸術 (2)(春学期)

【93】現代芸術 (2)(春学期)

芸術と大衆，アートとサブカルチャー

講師 千住 明

授業科目の内容：

クリエイティブの現場から音楽を中心に、先人達の足跡や、今現在生まれる文化、芸術を幅広く考える。芸術と大衆，アートとサブカルチャーがサブテーマである。

テキスト：

特に指定しません。講義資料必要な場合はプリント致します。

参考書：

特に指定しません。

【04】現代芸術 (2)(秋学期) 講師 林 えり子

【93】現代芸術 (2)(秋学期) 講師 加藤 幸子

〔林〕

授業科目の内容：江戸川柳とその周辺

江戸川柳を入口にして、さまざまな文芸がはぐくまれた江戸という時代、江戸の人々と暮らしなどを学んでもらいます。江戸学は国際人として活躍する場合の一大知識です。

テキスト：

講義資料プリントを配布します。

参考書：

各授業の折に提示します。

〔加藤〕

授業科目の内容：文学の中の自然

どんなに文明が発達し、文化が変容しても、人は自然から離れることはできない生物です。であれば、人が生み出したさまざまな文学も、その時代の自然環境や作者の自然観を反映しているはず。地球上の自然が未曾有の危機に面している今、そのような視点から小説や詩やノンフィクションを見なおせば、文学が環境問題と交差するスリリングな授業になるでしょう。

具体的には自然への糸口が見出しやすいいくつかの作品を通して語り、議論をしたいと思っています。

(例)「龍潭譚」・泉鏡花

「赤い蠟燭と人魚」・小川未明

「アイヌ神謡集」・知里幸恵

「日本奥地紀行」・イザベラ・バード

「アフリカの日々」・アイザック・ディナーセン

「沼地のある森を抜けて」・梨木香歩

その他・・・

【04】詩学 (2)(春学期)

【93】詩学 (2)(春学期)

近・現代の日本の詩

講師 高橋 順子

授業科目の内容：

近現代の日本語の文章表現の中で、もっとも先鋭的で、問題意識と実験性をはらみ、時には時代を先取りし、新しい言語芸術を目指すものが詩です。しかしその一方で、自分を救うために、日常の平易な言葉で詩を書いてきた女性たちもいます。実作者の立場から詩のいろいろな相を見ていきたいと思います。

テキスト：

「現代日本女性詩人 85」高橋順子編著（新書館）

参考書：

「日本の名詩を読みかえす」高橋順子編・解説（いそっぷ社）

【04】詩学 (2)(秋学期) 講師 車谷 長吉

【93】詩学 (2)(秋学期) 講師 林 望

〔車谷 長吉〕 文学の基本・文学とは何か。

授業科目の内容：

文学の生魅(いきすだま)とは何か、について、明治、大正、昭和の作品に側して語る。

テキスト：

車谷長吉「文士の魂」(新潮社)、車谷長吉「文士の生魅^{いきすだま}」(新潮社)

参考書：

西脇順三郎「詩学」(筑摩書房)

〔林 望〕日本歌曲における詩について

授業科目の内容：

歌曲は、「詩を歌う装置」である。しかし乍ら、作曲家における、また演奏家における、その解釈は往々にして曲解または、理解不十分なことが多い。ここに、和歌、俗謡等の伝統をふまえながら、日本歌曲にうたわれている詩のいくつかをとり上げて、徹底的に分析を試みる。

適宜、演奏音源を聴き、楽譜を読みなどし乍ら進める。

テキスト：

プリント等配布。

参考書：

授業時に指示。

文学部アート・マネジメント講座 DNP 基金

福沢諭吉は、「国光発於美術」と書いたことがある。国の光は芸術によって発するというわけである。現在、日本では芸術が大量に消費されている。だが、自由な創造活動をとりにくく状況は厳しい。この矛盾を解決して、芸術創造を社会に解放してゆくためには、アーティスト、行政、企業、そして大学などの教育研究機関が、新しいパートナーシップを構築しなくてはならない。そのなかから、新しいアート・シーンを築き、本当に価値のあるものを後世に残すことを、実践的に考えるのが、この講座の目標である。

そのために、講師の他に、芸術とかかわりながら、各セクターで多くの問題を抱えつつも第一線で活躍中の人々がゲストとして登場、いま現在の問題を語る。それは講師との討論に発展することもある。

この種の講座が日本の大学に開設されたのは、慶應義塾が最初である。平成3年、本講座が開講されるや、企業、行政等も含め多くの人がこの講座に強い関心を寄せた。なかでも大日本印刷株式会社(DNP)は、慶應義塾におけるアート・マネジメントの研究と教育の発展のために「慶應義塾大学文学部アート・マネジメント講座 DNP 基金」を寄贈された。本講座はこの基金を活用して運営されている。

履修しようとするものは、最初の授業時に年間授業計画、レポート、受講についての詳しい説明をおこなうので必ず出席すること。

【04】【93】アート・マネジメント(4)

【93】芸術運営論(アート・マネジメント)(4)

教授 美山良夫

授業科目の内容:

展示系のアートを軸にしたアート・マネジメントの概説。以下の4つのフレームで構成される。履修上の諸注意は、最初の授業時に配布するので、それらをふまえて履修登録を検討すること。

第1部: 変貌する文化装置: 制度としての「美術館」と脱美術館文化展示の多様な様態(日本および欧米における多様な文化展示とその目的)、美術館という「制度」の成立、空間の文化装置化: その多様な仕掛け(オルタナティブ・スペースなど)

第2部: 美術品の流通と交流

美術品の特性と画廊の仕事、最近の美術市場・美術館の問題点、オークションの仕組みと社会的役割、アート・フェアの役割・仕組み、古美術品の流通システムなど

第3部: 美術展の企画と諸制度

美術をめぐる文化政策、芸術支援(企業による事例の紹介と基本的な考え方)、美術展の企画から開催まで、美術品と著作権、保険

第4部: 美術をめぐる活動のひろがり市民

美術館の活動のひろがり 研究・情報・修復・美術館教育・ボランティア、市民による活動事例

テキスト:

「アート・マネジメント入門」(慶応大学出版会)

参考書:

「美術から都市へ」(鹿島出版会)

【04】【93】アート・プロデュース(4)

【93】芸術運営論(アート・プロデュース)(4)

教授 美山良夫

授業科目の内容:

上演系のアートを軸にしたアート・マネジメントの概説。以下の4つのフレームで構成される。履修上の諸注意は、最初の授業時に配布するので、それらをふまえて履修登録を検討すること。

第1部: 変貌する文化装置: 制度としての「劇場」と脱劇場

日本のホール その歴史と現状、劇場運営の基本、空間の文化装置化: その多様な仕掛けなど

第2部: 文化装置のマネジメント

公立ホールの運営、民間のホール運営、劇団の運営とマーケティング(劇団「四季」を例に)、舞台芸術の国際交流

第3部: 芸術及び芸術家(団体)をめぐる制度と支援

日本の文化政策と芸術支援・概説、財団の芸術支援とその課題、舞台芸術の市場規模と今後、イベントと保険

第4部: 上演芸術をめぐる活動のひろがり市民

企画づくりの実際: コンサート・ホールを例に、アートとNPO、ボランティアなど

テキスト:

「アート・マネジメント入門」(慶応大学出版会)

極東証券寄附講座

本年度は極東証券の寄附により、以下の2科目が開講されることになった。

【04】【93】翻訳の世界(2)(秋学期)

翻訳, 言語遊戯の世界 教授 関場 武

授業科目の内容:

ある語種の言語で表された文章の内容を他の語種の言語に置き換えるということ, すなわち「翻訳」は, 様々な場で日常茶飯事に行われているが, 誤訳・愚訳により思わぬ誤解・思い違いが生じたりすることがある。笑い話で済むうちはよいが, 仲違い・絶交にまで発展することもある。一方, 定評ある「名訳」や原文に忠実な翻訳も多々ある。本年度は, その翻訳の諸相を具体例を示しながら紹介し, 翻訳のあり方, 様々な言語遊戯の姿を考察して行く予定である。

テキスト:

コピー等を適宜使用。

参考書:

その都度適宜紹介する。

【04】【93】古文書の世界(2)(春学期)

教授 関場 武

授業科目の内容:

人文科学, 社会科学の学問研究に於いては, 各種文献・資料の取り扱いが重要な位置を占める。本講座では, 様々な文献・文書類を使用し研究をされ, その取り扱いに習熟しておられる専門家の方々をお招きして, その蘊奥を語っていただくとともに, 場合によっては実物を使い, その取り扱い方の実演・実習も行いたいと考えている。

テキスト:

原本や影印版等を適宜使用する。

参考書:

必要に応じて適宜紹介する。

教 職 課 程

中学あるいは高校の教員免許状を取得しようとする場合、教職課程を履修することになりますが、学生諸君は教職課程センターにおいて、教職課程登録の手続きをしなければなりません。教員免許状取得を志す学生は、学事日程表「教職課程ガイダンス」に必ず出席してください。その際教職課程の履修案内等を配布します。

学事日程表の「教職課程ガイダンス」および「教育実習事前指導」以外に、教員免許状を取得するためには諸ガイダンスや説明があり本人が必ず出席しなければなりません。「教職課程履修案内」には、日程その他について詳しく記載されていますから必ず読んでください。

また、ガイダンス日程・場所・時間・教職諸行事等については、西校舎中央入口右側手前の「教職課程掲示板」の掲示にも常時注意してください。

言語文化研究所特殊講座

言語文化研究所特殊講座は三田に設置されています。

平成 18 年度言語文化研究所特殊講座

科目名	教員名	単位数
サンスクリット (初級)	土田龍太郎	通年 2 単位
サンスクリット (中級)	土田龍太郎	
アラビア語 (基礎)	榮谷温子	
アラビア語 (現代文講読)	榮谷温子	
アラビア語 (古典)	岩見 隆	
アラビア語文献講読	岩見 隆	
ヴェトナム語 (初級)	嶋尾 稔	
ヴェトナム語 (中級)	嶋尾 稔	
ヴェトナム語文献講読	嶋尾 稔	
ペルシア語 (初級)	関 喜房	
ペルシア語 (中級)	岩見 隆	
タイ語 (初級)	三上直光	
タイ語 (中級)	ポンシー, ライト	
トルコ語 (初級)	ヤマンラール, アイドゥン	
トルコ語 (中級)	ヤマンラール, アイドゥン	
朝鮮語文献講読	野村伸一	
カンボジア語 (初級)	三上直光	
ヘブライ語 (初級)	笈川博一	
ヘブライ語 (中級)	笈川博一	
古代エジプト語 (初級)	笈川博一	
古代エジプト語 (中級)	笈川博一	
アッカド語 (初級)	高井啓介	
アッカド語 (中級)	高井啓介	

サンスクリット (初級)

言語文化研究所 講師 土田 龍太郎

授業科目の内容:

サンスクリット語入門の講義である。ほぼ一年かけて、サンスクリット語文法体系のあらましを修得することを目的とする。

参加者は、練習問題の予習が必要となる。

テキスト:

- ・ヤン・ホンダ著 鎧淳 訳「サンスクリット語初等文法(春秋社)
- ・辻 直四郎著「サンスクリット文法」(岩波書店)

授業の計画:

- ・サンスクリット語とはなにか
- ・アオリスト活用
- ・子音と母音
- ・完了活用
- ・名詞変化の基礎
- ・その他の動詞形
- ・動詞変化の基礎
- ・複合語等
- ・母音曲用
- ・子音曲用
- ・動詞現在組織
- ・動詞未来及受動変化

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

サンスクリット (中級)

言語文化研究所 講師 土田 龍太郎

授業科目の内容:

サンスクリット語の初歩をすでに一通り取得したもののための授業である。

テキスト:

参加者の希望で決める。

授業の計画:

サンスクリット では、参加者と相談して決めたテキストを講読、文化史宗教史の事項と文法解説を行う。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

アラビア語 (基礎)

言語文化研究所 講師 榮谷 温子

授業科目の内容:

正則アラビア語(フスハー)のアラビア文字の読み方、綴り方からはじめ、一年間で基礎文法を習得することを目的とします。また正則アラビア語による簡単な日常会話フレーズも練習します。

テキスト:

佐々木淑子著『アラビア語入門』(翔文社, 2004年, 1905円)
必要に応じてプリントや練習問題を配布します。

参考書:

参考書 David Cowan, An Introduction to Modern Literary Arabic (Cambridge University Press)

授業の計画:

- 第1回 第6回 アラビア文字のつづり方, 名詞の性・格・複数, 人称代名詞と前置詞
- 第7回 第13回 指示代名詞・形容詞・疑問詞および名詞文の構造
- 第14回 第20回 動詞完了形・未完了形および受動態・分詞・動名詞・場所名詞
- 第21回 第26回 不規則動詞および派生形

履修者へのコメント:

毎回宿題を出します。アラビア語の文法はテキストでの独習のみでは理解がむずかしい部分が多々あります。一回でも授業を欠席すると継続が困難になります。毎回の出席を心がけてください。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

アラビア語 (現代文講読)

言語文化研究所 講師 榮谷 温子

授業科目の内容:

基礎文法の習得を終えた人を対象として現代文の講読を行います。講読を通して、アラビア語の基本的な文章構造の理解、さらには母音記号などの補助記号がついていない文章にたいする読解力の養成を目的とします。

テキスト:

プリントを配布します。

辞書は、Hans Wehr, A Dictionary of Modern Written Arabic-Englishを使用します。

参考書:

- ・佐々木淑子著『アラビア語入門』(翔文社, 2004年, 1905円)
- ・David Cowan, An Introduction to Modern Literary Arabic (Cambridge University Press)

授業の計画:

初回には、辞書や文法書、授業の進め方を説明をします。最初は母音記号のついた平易な文章からはじめます。その過程で既習の基礎文法や辞書による単語の調べ方を再確認していきます。順次程度の高い文章の講読をしていき、最終的には母音記号のついていない文章を、自らの文法知識を用いて読解できるようにしたいと思います。

第1週 第6週 母音記号がついた平易な短い文章(名詩文・動詞文)の講読。

第7週 第13週 母音記号がついた長い文章を講読。

第14週 第26週 要所のみ母音記号がついた文章から、最終的には母音記号がつかない文章の講読。

履修者へのコメント:

文法の復習を繰り返しながら文章をよみます。辞書と文法書を必ずもってきてください。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

アラビア語 (古典)

アラビア語講読 言語文化研究所 講師 岩見 隆

授業科目の内容:

母音符号のついていない普通のアラビア語テキストを読めるようになるための演習です。文法の知識をテキスト読みにどう生かすかを課題としてやります。

テキスト:

Brünnow-Fischer: Arabische Chrestomathie
プリントで配ります

参考書:

井筒俊彦: アラビア語入門, 慶應出版社 1950.

授業の計画:

最初の日には、参考書や辞書の紹介などガイダンスをやります。

春学期の間は母音符号が全部ついているテキストを読みます。秋学期から少しずつ白文に近いものを読み始め学年末には全くの白文を読むようにしようと思います。

なお、受講者は毎時必ず自分の勉強した文法書を持参して下さい。常に文法との対比でテキスト読みを進めてゆくつもりです。

履修者へのコメント:

少くとも規則動詞原型の完了, 未完了の変化は完全に頭へたたきこんでくること。文字も満足に読めないなどは論外です。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価(出席者は毎回必ずあてます。テストがわりです。)

アラビア語文献講読

アラビア語演習 言語文化研究所 講師 岩見 隆

授業科目の内容：

アラビア語の定評ある古典の中、平易な散文（叙事の文）をあたりまえに読めるようになることを目指します。

テキスト：

受講者と相談して決めます。

参考書：

Wright: Arabic grammar. Cambridge Univ. Press, 1962

授業の計画：

第1回はガイダンスで、参考文献、辞書の使い分けのやり方などを話します。

2回目以降はもっぱらテキスト読みに専念します。

なお、対象が古典ですから、単に文法的に調べるだけでは問題が解決しない場合が多々あります。そういう時に何を調べるかというようなことも考えてゆきたいと思います。

履修者へのコメント：

初等文法の諸規則や用語に慣れておくことが必要です。動詞変化の基本をマスターしていること。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席者は毎回必ずあてますから、そのつもりで来て下さい。）

ベトナム語（初級）

言語文化研究所 助教授 嶋尾 稔

授業科目の内容：

ベトナム語を基礎から学ぶ。発音、綴り字、初級文法、簡単な会話力の習得を目指す。

テキスト：

『ベトナム語入門』（慶應外国語学校）

参考書：

富田健次『ベトナム語 はじめの一歩まえ』（DHC, 2001年）

授業の計画：

初回のガイダンスで知らせる。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価（時々小テストを行う。）

ベトナム語（中級）

言語文化研究所 助教授 嶋尾 稔

授業科目の内容：

変更なし

初級ベトナム語を学び終えた人を対象に文献講読を行う。最初は簡単なものから始めるが、受講者のレベル・要望に応じて、雑誌・新聞などの記事などを読んでいくことにしたい。

テキスト：

初回到受講者と相談して決める。

参考書：

小高泰・Nguyen Thi Mai Hoa『会話で覚えるベトナム語 666』（東洋書店, 2005年）

履修者へのコメント：

ベトナム関係のウェブサイト上の、ベトナム語の辞典、テキスト、新聞の中から便利で有益なものを随時紹介してゆきたい。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

ベトナム語文献講読

言語文化研究所 助教授 嶋尾 稔

授業科目の内容：

ベトナム語で書かれたベトナムの歴史や文化に関する文章を広く読んでゆく。

テキスト：

初回到受講者と相談して決める。

参考書：

富田健次『ベトナム語の世界：ベトナム語基本文典』（大学書林, 2000年）

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

ペルシア語（初級）

ペルシア語文法 言語文化研究所 講師 関 喜房

授業科目の内容：

現代ペルシア語文法を全くの初歩から講義します。教科書の文法が終わり次第、易しい文章を読むつもりです。その際、文法書には記されていない文法上の例外事項などについて詳しく説明するつもりです。

テキスト：

岡崎正孝著『基礎ペルシア語』（大学書林）

参考書：

黒柳恒男著『ペルシア語の話』大学書林

授業の計画：

講義計画は以下の通りです。

- 1- ガイダンス
- 2- 文字の習得
- 3- 教科書を用いた文法の学習（計16回）
- 4- 易しい現代文を読む練習（計7回）
- 5- テスト

履修者へのコメント：

教科書の練習問題を必ず予習すること。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
 - ・平常点：出席状況および授業態度による評価
-

ペルシア語（中級）

ペルシア語講読 言語文化研究所 講師 岩見 隆

授業科目の内容：

ペルシア語の文の流れをつかみとれるように、平易なペルシア語散文をできるだけたくさん読みます。

テキスト：

受講する人と相談して決めます。

参考書：

Lambton: Persian grammar. Cambridge Univ. Press, 1974

授業の計画：

最初の日にテキストを相談して決めるなどガイダンスをやります。2回目以後はひたすらテキストを読みませう。

履修者へのコメント：

文法は理解しているものと考えてやりませう。だから動詞の変化など慣れておいて下さい。発音にはとくに気をつけて下さい。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席者は毎回あてますから、毎回テストを受けているようなものだと思って来て下さい。）

タイ語 (初級)

言語文化研究所 教授 三上直光

授業科目の内容:

タイ語入門講座。発音、文字の読み書き、初級文法、基本表現の修得を目標とします。

テキスト:

開講時に指示します。

授業の計画:

春学期の前半に発音と文字の読み書きを終え、後半から初級文法と基本表現の学習に移ります。

履修者へのコメント:

活気のある授業にしましょう。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

授業中・授業後に受け付けます。

タイ語 (中級)

言語文化研究所 講師 ポンシー・ライト

授業科目の内容:

タイの小学校2年生の教科書より短編ストーリーを用いて、タイ語の運用能力向上を目指します。

テキスト:

プリント使用。

授業の計画:

前期は文章表現と読解力、後期は会話表現と聞き取りに重点を置きます。

履修者へのコメント:

あらかじめ単語の意味を調べてきて下さい

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

トルコ語 (初級)

トルコ語初級

言語文化研究所 講師 ヤマンルール、アイドゥン

授業科目の内容:

トルコ共和国の現代トルコ語初級文法を講義します。基礎的な文法事項を学習しますが、簡単な講読も行います。

テキスト:

プリント使用

授業の計画:

- 第1 - 2回 トルコ語の特色、母音・子音の調和。
- 第3 - 7回 “～は～です”の構文、助詞(格)、副詞、形容詞
- 第8 - 13回 動詞(現在・単純過去・超越などの時制)
- 第14 - 17回 動詞(伝聞過去・未来などの時制と複合時制)
- 第18 - 21回 分詞
- 第22 - 24回 動名詞
- 第25 - 26回 条件文、仮定法など

以上は初級文法の主要な学習事項と予定です。授業の進行に応じて順番などが変わるので、一応の目安と考えてください。

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

トルコ語 (中級)

トルコ語中級

言語文化研究所 講師 ヤマンルール、アイドゥン

授業科目の内容:

初級文法を学んだ人を対象に講読を行います。文法事項の復習にも重点を置くつもりです。

テキスト:

プリント使用

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

朝鮮語文献購読

文学部 教授 野村伸一

授業科目の内容:

大韓民国という国家、社会の歴史と現状を知るためのテキストを講読します。

今日「韓流」というマスコミにより流布された一種の流行現象に興味を抱く人は多く、皆さんのなかにもそうした人はいるでしょう。そのこと自体はきっかけとしてはいいことです。しかし、それにまつわる言説だけをみても、決して内面的な理解には到達し得ないでしょう。

すべて、ものごとには、来歴と「いうにいわれぬこと」があるものです。朝鮮民族にとって、それはどういうものであったのか。それを知らない限り、日本と朝鮮半島は時流の往来をくり返すばかりではないでしょう。

テキスト:

韓洪九『大韓民国史 03』、ハンギョレ新聞社、2005年。各自、韓国書籍を扱う書店(例、三中堂、高麗書林)もしくはソウルの大型書店に注文して入手してください。

参考書:

- ・韓洪九著、高崎宗司監訳『韓洪九の韓国現代史 韓国とはどういう国か』、平凡社、2003年
- ・同『韓洪九の韓国現代史 2 負の歴史から何を学ぶのか』、平凡社、2005年
- *上記の翻訳書は韓洪九『大韓民国史 01』、『大韓民国史 02』に相当します。

<http://web.hc.keio.ac.jp/~shnomura/shohvou1.html> に書評を掲載しました。

授業の計画:

毎回、原文で4、5頁の講読をします。受講者は翻訳してきてください。

履修者へのコメント:

受講者は朝鮮語を読む準備ができていることが前提となります。口頭での会話能力は必要ありません。ひとまず日本語にした上で、なお、それをよく吟味してみてください。なかなか日本語にならないところ、明らかに違うとおもえる表現に出会うことがたいせつです。

この授業に関連することからは随時、<http://web.hc.keio.ac.jp/~shnomura/kougi.html> に掲載します。

またインターネットハンギョレ <http://h21.hani.co.kr/> には『ハンギョレ 21』があり、ここに韓洪九氏の連載コラムがあります。上記の著書はこれを編集したものです。そこでは、現実に生起する諸問題が歴史的な視点で興味深く論じられています。三八六世代を含めた韓国の中堅世代の視点、意見が適確に反映されているものとして、理解する必要があります。

成績評価方法:

出席すること、翻訳結果を学期末に提出することで評価します。

カンボジア語 (初級)

言語文化研究所 教授 三 上 直 光

授業科目の内容:

カンボジア語入門講座。発音, 文字の読み書き, 初級文法, 基本表現の習得を目標とします。

テキスト:

開講時に指示します。

授業の計画:

春学期の前半に発音と文字の読み書きを終え, 後半から初級文法と基本表現の学習に移ります。

履修者へのコメント:

活気のある授業にしましょう。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

授業中・授業後に受け付けます。

ヘブライ語 (初級)

言語文化研究所 講師 笈 川 博 一

授業科目の内容:

旧約聖書ヘブライ語の初歩。まったくの初心者想定している。

テキスト:

テキストは比較的繰り返しの多い創世記を用いるが, プリントを授業で配布する。

参考書:

英語ないしドイツ語による辞書(¥2500~¥10000)が必要となるが, それについては授業で案内する。

授業の計画:

まとめて文法をやることはしない。最初からテキストを読みつつ, 出てくる文法的現象をそのたびに解説する。1年終了するころには, 辞書の助けを借りて散文をある程度自由に読めるようになっているのが目標である。進度は学生諸君の準備次第である。

履修者へのコメント:

週2時間程度の予習が必要となる。

成績評価方法:

試験の結果による評価

質問・相談:

質問, 相談があれば, hirokazu@oikawa42.com に連絡すること。

ヘブライ語 (中級)

言語文化研究所 講師 笈 川 博 一

授業科目の内容:

旧約聖書サムエル記の講読。

テキスト:

テキストはプリントを授業で配布する。

参考書:

英語ないしドイツ語による辞書(¥2500~¥10000)が必要となるが, それについては授業で案内する。

授業の計画:

初級でプラクティカルに習得した文法を体系的に復習する。さらにヘブライ語の理解を深め, 散文は自由に読めるようにする。後期には詩文にも挑戦したい。

履修者へのコメント:

週2時間程度の予習が必要となる。

成績評価方法:

試験の結果による評価

質問・相談:

質問, 相談があれば, hirokazu@oikawa42.com に連絡すること。

古代エジプト語 (初級)

言語文化研究所 講師 笈 川 博 一

授業科目の内容:

文法体系が比較的よく分かっている後期エジプト語の初歩。まったくの初心者想定している。

テキスト:

テキストは「ヴェナモン」を用いるが, プリントを授業で配布する。

参考書:

5月ごろから辞書(約¥9000)が必要となるが, それについては授業で案内する。

授業の計画:

まとめて文法をやることはしない。最初からテキストを読みつつ, 出てくる文法的現象をそのたびに解説する。1年終了するころには, 後期エジプト語を辞書の助けを借りてある程度自由に読めるようになっているのが目標である。進度は学生諸君の準備次第である。

履修者へのコメント:

週2時間程度の予習が必要となる。

成績評価方法:

試験の結果による評価

質問・相談:

質問, 相談があれば, hirokazu@oikawa42.com に連絡すること。

古代エジプト語 (中級)

言語文化研究所 講師 笈 川 博 一

授業科目の内容:

中期エジプト語の初歩。

テキスト:

テキストは「難破した水夫」であるが, プリントを授業で配布する。

参考書:

辞書は Raymond O. Faulkner "A Concise Dictionary of Middle Egyptian" Oxford (Amazon JP で ¥3542), あるいはその日本語訳が必要となる。

授業の計画:

初級でやった後期エジプト語と対比しつつ, より困難な中期エジプト語を学ぶ。進度は学生諸君の準備次第である。

履修者へのコメント:

週2時間程度の予習が必要となる。

成績評価方法:

試験の結果による評価

質問・相談:

質問, 相談があれば, hirokazu@oikawa42.com に連絡すること。

アッカド語 (初級)

言語文化研究所 講師 高 井 啓 介

授業科目の内容:

アッカド語を学ぶ際の基礎となる古バビロニア方言 (Old Babylonian) の初級文法及び文字表記システムの修得を目的とします。下記に指定した教科書を使いますが, 足りないところは適宜プリントによって補っていく予定です。文法事項を学び進めながら, アッカド語が記されるときに使われた楔形文字のうち主要なものを覚えていきます。秋学期以降には, ハムラビ法典など著名な作品の雰囲気にも触れていきたいと考えています。

テキスト:

Richard Caplice, *Introduction to Akkadian* (Biblical Institute Press)

参考書:

開講時に指示します。

授業の計画:

以下のようなスケジュールを予定していますが, 授業の進み具合に応じて変更することもあります

前後期を通じて

1. ガイダンス
2. アッカド語及びその文字表記システムの概観
3. 音韻論
4. 名詞（計三回）　　コンストラクト形を中心に
5. 動詞 G 語幹（計五回，語根の判別，変化，叙法など）とその派生形
6. 動詞 D 語幹とその派生形（計三回）
7. 動詞 S 語幹とその派生形（計三回）
8. 動詞 N 語幹とその派生形（計三回）
9. アッカド文学の概観
10. ハンムラビ法典，イシュタルの冥界下りなど　　テキストを読みつつ文法事項を確認します（計五回）

履修者へのコメント：

古代メソポタミアの文化，歴史，宗教についても適宜紹介していくつもりです。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

必要があれば lampbreaking@ybb.ne.jp まで連絡してください。

アッカド語　（中級）

言語文化研究所 講師 高井啓介

授業科目の内容：

アッカド語の初級文法を一通り学んだ人を対象に文献講読を行います。文法事項を再度確認しながら，簡単なものからはじめていろいろなジャンルのテキストを読んでいくことにします。具体的なテキストは受講者と相談して選びます。

テキスト：

テキストはプリントを準備します。

授業の計画：

講義計画

読むテキストについては，初回に受講者と相談の上決定するつもりですが，以下のような内容のテキストを取り上げることになるでしょう。

前期：王碑文，書簡，法律文書，契約文書など（計十三回）

後期：神話・叙事詩，祈り文学，占い文書など（計十三回）

履修者へのコメント：

楔形文字を読み解いて行く面白さを味わっていただきたいです。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

必要があれば lampbreaking@ybb.ne.jp まで連絡してください。

メディア・コミュニケーション研究所の研究生諸君に

メディアコム研究所所長（法学部教授） 関根政美

メディア・コミュニケーション研究所（Institute for Media and Communications Research）は、昭和21年（1946年）に産声を上げた新聞研究室を母体とする歴史の長い研究所です。新聞研究室は、後に新聞研究所と名称を改め、平成8年（1996年）に50回目の誕生日を迎えました。まさに、研究所は日本の戦後とともに歩んできたこととなります。新聞研究所は、第二次世界大戦前と戦争中、新聞報道を中心とする日本のマスメディアが軍国主義に迎合した報道姿勢をとったことを憂いた連合軍占領軍が、戦後の民主化に新聞を中心とする言論報道機関の果たす役割の大きさを考慮して、その役割の遂行に貢献しうる人材の育成とともに、マス・メディア研究を行いうる研究機関の設置を幾つかの日本の大学に求めました。選ばれた大学の一つが慶應義塾であり、後に法学部の学部長になった米山桂三教授に研究所の運営が任されることになったというのがその発端であると、伝えられております。

既述の通り、当初、新聞研究所は新聞研究室として出発しましたが、後に研究機能の重視を目的に研究所に名称を改めました。かつては、新聞を実際に発行して実習授業を盛んに行っていました（当時発行された新聞はマイクロフィルム化されていますので読もうと思えば読めます）、今日では実習的な側面よりは研究生（新聞研究所に入所した学生はこう呼ばれます）にはマス・メディアおよびマス・コミュニケーション研究の基礎的教育を行い、専任教員を中心として基礎的な研究に力を入れてきました。メディア業界からは、すぐに陳腐になりやすいテクニカルな知識や技術のみを身に付けた人間よりは、基礎的な知識や思考能力そして人間関係能力に裏打ちされ、しっかりとした考えと独創的な発想力をもつ人材が求められており、そうした要求に沿った教育と、各種メディア・コミュニケーション産業にとり有益な研究成果を提供することに新聞研究所は力を入れてきました。

しかし、時代は急速に変わりつつあります。戦後50年の情報通信技術の革新の動きは目覚ましく、新聞研究所がスタートした頃の報道機関といえば活字メディアが中核で、ラジオがそれに多少付け加わっているだけでした。その後、テレビ放送が本格化しメディアの中核は電気通信・放送へと移行して行きました。近年では地上波だけではなく、衛星放送・衛星通信、ケーブルテレビなど多面的かつグローバルにコミュニケーションが展開する時代になってきました。また、インターネットを中核とし、マルチメディアの展開が叫ばれ、コンピュータ・メディアの時代へと大きく変化し、新聞、ラジオ・テレビの融合現象も注目されるようになりました。と同時に、かつては一方的な伝達を中心であったものが、コンピュータ・メディアの発達により双方向的なものとなると同時に、その情報通信範囲もパーソナルなレベルからグローバルなレベルへと拡大化し、コミュニケーション能力の著しい発展と質的な変化は驚くべきものとなりました。また、多チャンネル時代を迎え、放送内容も多様なものになり、アイデアや創造力がメディア業界に働く人々に要求される度合いも格段に高くなりました。

こうなってくると、新聞研究所という名称はさすがに古めかしさを感じさせるようになったため、平成8年（1996年）には、研究所50年の記念式典を行い翌平成9年度より名称を変更いたしました。それが、メディア・コミュニケーション研究所出発の経緯です。新しいメディアの発展による新しいコミュニケーションの時代に合致した名称に変更したというわけです。もっとも、メディア・コミュニケーションの形態・技術は変化しても、報道ジャーナリズムの健全な発達のため、つまり、民主主義的で自由で公正なる報道を行うための前途有為な人材育成の目的はそのままです。そして、そのための少人数精鋭教育のためのカリキュラム変更も行いました。研究生には、報道ジャーナリズムやマス・コミュニケーション研究の基本を学び、新しいメディア（とくにコンピュータ・メディア）をある程度理解した上に自由に使いこなせるだけの能力も身に付けて欲しいと思っています。そのために、平成11年10月より、この方面のメディア・リテラシー向上を求めて、「メディア・ワークショップルーム（MWR）」を開設しました（本格的稼働は平成12年4月より）。インターネット放送もはじめました。今では大学生になるまでに、インターネットに十分習熟した学生も増え、より高度なメディア・リテラシーが期待できるので、インターネット放送やオンライン・新聞を盛んにしたいと思っています。

1996年秋に新聞研究所は記念式典を実施し、その際に新しい名称を与え新たなスタートを切りました。基本的な研究所の研究生教育とメディア・コミュニケーション研究は変わりませんが、新たな名称のもとに生まれ変わった研究所の次の50年の発展が大変期待されます。なお、現在のスタッフは所長、専任および兼任所員、事務職員総勢でも10名に満たない小さな研究所ですが、非常勤講師の諸先生のご協力を得て研究生150名（2～4年生）の教育を行っております。本年入所される研究生を含め現在の研究生は、新たな歴史を刻む当事者となります。研究所が大きな成果を生むために大いに頑張ってもらいたいと思います。

最後に、メディア・コミュニケーション研究所は、平成18年、つまり、今年ですが、改称して10年目の記念の年を迎えることになりました。名称を変えてあっという間に10年が経ちました。その間のインターネットの普及と展開はめざましく、在来メディアをインターネット会社が買収しようという騒ぎが日本でも発生するようになりました。今後もそうした激動の10年がくり返されると思います。規模は小さいけれど、綱町三田会（修了生の同窓会）というOB・OG組織の皆さんの協力を得て、さらなる発展をめざしたいと思います。

カリキュラム

1. 設置科目について

研究所には、基礎科目、研究会、特殊研究、基礎演習の4つの講義群がある。

このうち、基礎科目は研究生以外（2年生以上）でも履修可能なオープン科目となっている。但し、2年生以上で、三田設置科目を含めて履修可能であるが、学部によっては履修できない場合もあるので、学部履修要項等で確認すること。また、学部での単位の取扱いは、学部履修要項を熟読すること。

- ・基礎科目（オープン科目）

メディア・コミュニケーション研究に必要な基礎的知識を提供する講義群。

- ・研究会（研究生のみ対象）

研究所における学習の中心となる科目で、2年生より履修できる。

- ・特殊研究（研究生のみ対象）

少人数の講義で、実務家を中心とした特殊講義と大学教員による特殊研究がある。

- ・基礎演習（研究生のみ対象）

メディア・コミュニケーション関連分野の調査方法の学習を目的とした講義群。

2. 研究生制度

研究所には研究生制度がある。研究生制度は、メディア・コミュニケーションの研究、あるいは将来マス・メディアへの就職を希望するものに総合的な教育を行い、同時に研究の場を与えるために設けられている。

例年12月中旬に行われる入所選考に合格し、研究生となることを許可された者は、修了までに合計28単位以上取得しなければならない。所定の単位を取得した研究生には修了証書が与えられる。各学部の授業科目で研究所が認めたものは修了単位に含めることができるが、それでも一般の塾生より余分な科目を履修しなければならず、それだけ余力のあることが入所の条件といえる。

(1) 入所説明会（入所申込書配布）11月中旬三田、日吉、藤沢の各キャンパスで行う。これについては掲示する。

(2) 入所試験（選考）12月中旬三田で行う。

3. 修了単位について

研究生が研究所の課程を修了するためには、以下の各群から所定の単位を合計28単位以上取得しなければならない。

・基礎科目	10 単位以上
・研究会	8 単位以上
・特殊研究	4 単位以上
・基礎演習	2 単位以上
合計	28 単位以上

2～4年春学期までに研究会 ～ を順番に履修し6単位以上取得する。4年秋学期には必ず研究会（論文指導）を履修すること。すなわち、研究会 ～ と研究会 は全員が履修するが、研究会 と は必修ではない。

3～4年では原則として同一研究会を履修すること。

平成 18 年度慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所科目一覧

* 基礎科目（オープン科目）研究生以外も履修可能

設置場所	科目名	単位数	講師
三田設置科目	マス・コミュニケーション論 ・（法学部併設）	春 2 / 秋 2	大石 裕
三田設置科目	マス・コミュニケーション発達史 ・（法学部併設）	春 2 / 秋 2	鈴木 雄雅
三田設置科目	国際コミュニケーション論 ・（法学部併設）	春 2 / 秋 2	伊藤 英一
三田設置科目	メディア社会論（法学部併設）	秋 2	藤田 真文
三田設置科目	メディア法制 ・	春 2 / 秋 2	佐々木秀智
三田設置科目	ジャーナリズム論 ・	春 2 / 秋 2	伊藤 高史
三田設置科目	世論 ・	春 2 / 秋 2	小川 恒夫
三田設置科目	情報行動論	春 2	川浦 康至
三田設置科目	異文化間コミュニケーション	秋 2	浅井亜紀子
三田設置科目	メディア文化論 ・	春 2 / 秋 2	岩淵 功一
三田設置科目	メディア産業と政策	春 2	菅谷 実
三田設置科目	メディア産業と政策	秋 2	宿南達志郎
三田設置科目	情報産業論 ・	春 2 / 秋 2	宿南達志郎
三田設置科目	ジャーナリズム総合講座 ・	春 2 / 秋 2	荒田・萩原・伊藤高
日吉設置科目	マス・コミュニケーション論（法学部併設）	春 2	川端 美樹
日吉設置科目	社会心理学 ・（法学部併設）	春 2 / 秋 2	萩原 滋

* 研究会（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	研究会（ ～ ）	春 2 / 秋 2	萩原 滋
三田設置科目	研究会（ ～ ）	春 2 / 秋 2	菅谷 実
三田設置科目	研究会（ ～ ）	春 2 / 秋 2	宿南達志郎
三田設置科目	研究会（ ～ ）	春 2 / 秋 2	金山 智子
三田設置科目	研究会（ ～ ）	春 2 / 秋 2	小川 葉子
三田設置科目	研究会（ ～ ）	春 2 / 秋 2	伊藤 陽一
三田設置科目	研究会（ ～ ）	春 2 / 秋 2	大石 裕
三田設置科目	研究会（ ～ ）	春 2 / 秋 2	金 正勲

* 特殊研究（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	放送特殊講義 ・	春 2 / 秋 2	安倍 宏行
三田設置科目	新聞特殊講義 ・	春 2 / 秋 2	木村 良一
三田設置科目	広告特殊講義 ・	春 2 / 秋 2	吉田 望
三田設置科目	メディア特殊講義	秋 2	工藤 卓男
三田設置科目	メディア特殊講義	秋 2	嶋 信彦
三田設置科目	特殊研究 ・（日本の近代化とマス・メディア）	春 2 / 秋 2	小川 浩一
三田設置科目	特殊研究 ・（市民とメディア）	春 2 / 秋 2	金山 智子
三田設置科目	メディア産業実習 ・	春 2 / 秋 2	宿南・金山・菅谷・小川

* 基礎演習（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	時事英語 ・	春 2 / 秋 2	高須賀茂文
三田設置科目	文章作法 ・	春 2 / 秋 2	升野 龍男
三田設置科目	メディア・コミュニケーション実習 ・	春 2 / 秋 2	金山 智子
三田設置科目	映像コンテンツ制作 ・	春 2 / 秋 2	金山 勉
三田設置科目	メディア・ネットワーク実習 ・	春 2 / 秋 2	田辺 浩介
日吉設置科目	電子ネットワーク調査法	秋 2	菅谷 実
日吉設置科目	時事英語 ・	春 2 / 秋 2	蓮実 潔
日吉設置科目	文章作法 ・	春 2 / 秋 2	浜村 寿紀

【基礎科目】

マス・コミュニケーション論 (春)

マス・コミュニケーションと政治 大石 裕

授業科目の内容：

本講義は、マス・コミュニケーションと政治をめぐる諸問題について講義する。基本的な概念や理論・モデルの説明が中心となるが、具体的事例に言及しながら講義を進めることにしたい。その際、ニュースの政治的機能が中心となる。

テキスト：

- ・大石裕『コミュニケーション研究』慶應義塾大学出版会
- ・大石裕ほか『現代ニュース論』有斐閣

参考書：

- ・マッコームズほか『ニュース・メディアと世論』関西大学出版部
- ・大石裕『政治コミュニケーション』勁草書房

授業の計画：

- 1回 コミュニケーションの類型
- 2-3回 大衆社会モデル：弾丸効果モデル
- 4-5回 限定効果モデル
- 6-7回 強力効果モデル
- 8-9回 強力影響・機能モデル
- 10回 批判モデル
- 11-12回 ジャーナリズム論再考

履修者へのコメント：

時事問題、とくにジャーナリズムにかかわる問題に関して、随時解説を行うので、受講者は新聞・テレビにつねに問題意識をもって接していることが望ましい。

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価
- ・レポートによる評価

マス・コミュニケーション論 (秋)

ジャーナリズムとメディア言説 大石 裕

授業科目の内容：

ジャーナリズムに関する理論的考察（ニュース論や客観報道論など）、言説分析によるニュース分析、メディア・イベントとメディア言説、に関して講義する。

テキスト：

大石裕『ジャーナリズムとメディア言説』（勁草書房）

参考書：

- ・大石裕ほか『現代ニュース論』有斐閣
- ・鶴木真編『客観報道』成文堂
- ・大石裕『政治コミュニケーション』勁草書房

授業の計画：

- 1-2回 マス・コミュニケーション論の中のジャーナリズム論
- 3回 アジェンダ設定メディアとしての新聞
- 4回 日本のジャーナリズム論の理論的課題
- 5-6回 ニュース分析の視点
- 7-8回 客観報道論再考
- 9-10回 集合的記憶とマス・メディア
- 11-12回 メディア・イベントの政治学

履修者へのコメント：

時事問題、とくにジャーナリズムにかかわる問題に関して、随時解説を行うので、受講者は新聞・テレビにつねに問題意識をもって接することが望ましい。

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価
- ・レポートによる評価

マス・コミュニケーション発達史 (春)

日本の近代化とジャーナリズム 鈴木 雄 雅

授業科目の内容：

ジャーナリズムの発展について概説する。文字の誕生から紙、印刷などの複製技術の出現、通信、交通手段の発展が、ジャーナリズムの形式を規定していく状況を眺める。さらに幕末日本に新聞、雑誌が出現してから近代新聞が成長し、その過程でジャーナリズムの機能がどのように近代日本の社会発展と関わりあってきたかを考察する。授業スケジュール・参考文献類については、最初の講義時に発表。

授業サイト URL

<http://pweb.sophia.ac.jp/~s-yuga/keio/guide06.html>

テキスト：

春原昭彦『日本新聞通史 [四訂]』（新泉社、2003）

参考書：

宮地正人『国際政治下の近代日本』（山川出版社）ほか。講義時に紹介する

授業の計画：

1. 幕末期から明治初期：瓦版、新聞紙、近代化とメディア、開港場に新聞、英字紙の発達、幕末新聞の特色
2. 慶応4年（明治元年）の新聞紙、日刊紙の登場：明治のコミュニケーション革命
3. 明治初期の新聞界：奨励策と新聞弾圧、小新聞の登場、自由民権運動の勃興と言論機関
4. 明治14年の政変と新聞の政党化：民権派新聞と新聞の脱政党化
5. 明治の新聞人：日清戦争、日露戦争と新聞界
6. 資本主義の成立と商業新聞の成立（新聞の企業化）
7. 政治的キャンペーンとマス・メディアの成立：ラジオの出現と出版・雑誌界の動き
8. 戦時統制への過程、軍の干渉と新聞人の抵抗、製紙会社、通信社の統合
9. 情報局の成立、統制法規の制定、新聞社の統合、戦時下の新聞
10. 敗戦と占領下の新聞、独立回復と復興への歩み
11. 戦後の新聞界の新しい動き（言論性、販売、広告界の変化、技術革新とその対応）
12. テレビ、週刊誌の出現によるメディアの多様化
13. 現代の変化とジャーナリズムの役割

履修者へのコメント：

日本の近代史についてある程度の知識が必要（高校程度の日本史、世界史）

成績評価方法：

学期末試験・出席状況・授業態度などの総合質問・相談：

授業中ならびに授業後、Eメール

マス・コミュニケーション発達史 (秋)

イギリスのジャーナリズム 鈴木 雄 雅

授業科目の内容：

ジャーナリズム揺籃の地といわれるヨーロッパ地域のマス・メディアについて学ぶ。外国のマス・メディアを学ぶ基礎的知識・オリエンテーションののち、イギリス・ジャーナリズムの歴史、現状、問題点を探る。

適時、ヨーロッパのマス・メディア、ジャーナリズムの問題をとりあげるが、国際的なマス・メディア産業の動態分析やジャーナリズム研究にとどまらず、その形成過程に多大な影響を及ぼす政治体制や社会構造の変化にも注目する。さらに、常に日本の状況と比較しながら、現代ヨーロッパのマス・メディアの構造と機能を研究する。授業スケジュール・参考文献類については、最初の講義時に発表。

授業サイト URL

<http://pweb.sophia.ac.jp/~s-yuga/keio/guide06.html>

テキスト：

とくに指定しない。適時指示する。

参考書：

Euromedia Research Group, The Media in Europe: The Euromedia Handbook London: Sage,2004.

授業の計画：

以下の項目について、2 回程度の講義を行う予定。

1. オリエンテーション ヨーロッパのマス・メディア
2. イギリスのジャーナリズム (1) ジャーナリズムの発生
日刊紙出現までの英国新聞界の発達過程を概観し、「言論の自由」の概念を考える。
3. イギリスのジャーナリズム (2) ジャーナリズムの近代化
大衆紙の登場とジャーナリズムの変容
4. イギリスのジャーナリズム (3) 20 世紀のメディア・パロンの登場
5. イギリスのジャーナリズム (4) 戦後のイギリス・ジャーナリズム界
放送の出現とジャーナリズムの衰退
6. イギリスのジャーナリズム (5) 現代ジャーナリズムの抱える諸問題
1980 年代以降のジャーナリズムの変化

履修者へのコメント：

英国通史ほか英国社会・文化史の基礎知識が必要です。

成績評価方法：

学期末試験・出席状況・授業態度などの総合評価

質問・相談：

授業中ならびに授業後、E メール

国際コミュニケーション論 (春)

グローバル化とコミュニケーション

伊藤 英一

授業科目の内容：

自分自身との対話、友達や家族との会話、といったコミュニケーションでも、もどかしく感じることはありませんか？ コミュニケーションの重要性を切実に感じているにしても、円滑なコミュニケーションは至難の業です。ましてや、「文化や言語の異なる人々とのコミュニケーションなんて」と、一歩後退したくなるかも知れません。しかし、山頂から見晴るかす眺望が麓からの見た風景とは違うように、視点をかえてこそ理解できることもあるのではないのでしょうか。この講義では、あたかも、『星』になった諸君が、丸い地球を見下ろしながら、その地球を巡るコミュニケーションを考察できるような場を提供します。

テキスト：

適宜、案内します。

参考書：

- ・福澤諭吉；『西洋事情』（慶應義塾大学出版会）
- ・伊藤英一；『マルチメディアの新世紀』（丸善）
- ・Daya Kishan Thussu; “International Communication” (Arinold)

授業の計画：

1. 地球と世界地図
2. 国際コミュニケーション論の理論的傾向
3. グローバル化とメディア/コミュニケーション
4. フランス革命と情報インフラ
5. カナダのバランス感覚と国際コミュニケーション
6. 映画が創造するコミュニケーション カンヌ映画祭
7. 海を越えるコミュニケーション
8. 国境を越える共通語・感覚の共振
9. ファッションの世界とコミュニケーション
10. 広告・広報活動と国際コミュニケーション
11. CNN と情報 TV の歴史
12. Al Jazeera アラブの声を聴く
13. 成功するプレゼンテーションとは？

履修者へのコメント：

コミュニケーションとは、“『共（友）』になる” ことです。年代を越えて、良きコミュニン（コミュニティ）の仲間になって下さい。

成績評価方法：

受講して下さる皆さんと、相談して決めたいと思います。

質問・相談：

講義中は、タイミングの如何にかかわらず、積極的な質問や意見を歓迎します。

また、講義時間外においては、メール等により、適宜、質問や相談を寄せて下さい。

国際コミュニケーション論 (秋)

異文化を繋ぐコミュニケーション

伊藤 英一

授業科目の内容：

21 世紀はグローバル化、情報化の時代であるとも言われます。同時に、文化や社会の枠を越えた地球規模のコミュニケーションの重要性も指摘されています。

しかし、メディアの高度化・迅速化が、必ずしもコミュニケーションの精度や密度を高める方向に働いているとも言い切れません。

国際コミュニケーションの様々な問題をケース・スタディの題材として取り上げながら、枠に捉われないコミュニケーションの素晴らしさを、諸君と共に、探ってみます。

テキスト：

適宜、案内します。

参考書：

Fred E. Jandt; “An Introduction to Intercultural Communication” (Sage)

授業の計画：

1. コミュニケーションと国際的な価値
2. 異文化コミュニケーション論の潮流
3. 言語力とメディア・コミュニケーション
4. 劇場型のコミュニケーション効果と環境要件
5. 多様な文化とコミュニケーション
6. グローバル化の中のローカル・コミュニケーションと生命線
7. 文化と認識
8. 非言語的コミュニケーション
9. 言語の壁を克服する
10. 異文化の出会い
11. 姿、形のコミュニケーション 外見の重要性
12. 国際コミュニケーションを俯瞰する
13. 異文化コミュニケーションのプロになる

履修者へのコメント：

コミュニケーションとは、“『共（友）』になる” ことです。年代を越えて、良きコミュニン（コミュニティ）の仲間になって下さい。

成績評価方法：

受講して下さる皆さんと、相談して決めたいと思います。

質問・相談：

講義中は、タイミングの如何にかかわらず、積極的な質問や意見を歓迎します。

また、講義時間外においては、メール等により、適宜、質問を寄せて下さい。

メディア社会論 (秋)

メディア・コンテンツへの物語論的接近

藤田 真文

授業科目の内容：

この授業では、物語論という方法を中心にメディア・コンテンツを分析していきます。授業の約 3 分の 2 は、『ギフト』（1997 年放送）というテレビドラマを分析対象にして、物語構造、映像表現、メディア特性、社会的コード、視聴者による読解など多様な観点からテレビ・テキストの分析を試みます。残りの約 3 分の 1 は、ニュースや CM など他のコンテンツに物語分析を応用していきます。

各回の前半に分析方法を解説し、後半にはドラマの映像を見ながら分析を実践していきます。

テキスト：

藤田真文『ギフト、再配達』せりか書房（近刊）

補助的に毎回授業中にプリントを配布します（原則として再配布はしません）。

授業の計画：

1. テレビ・テキストの進行 統辞構造 [構造主義・物語論・記号論]
2. テレビ・テキストの時間 ストーリーとプロット [物語論・文学理論]
3. テレビ・テキストの人物関係 範列構造 [構造主義・物語論・記号論]
4. テレビ・テキストの映像表現 [映像論・映像記号論]
5. テレビ・テキストにおける語りと視点 [映像論・文学理論]
6. テレビ・テキストのメディア特性と相互テキスト性 [メディア論・構造主義]
7. テレビ・テキストと社会的コード ジェンダー/階級 フェミニズム論・社会学・記号論]
8. テレビ・テキストにおける登場人物と役者 [精神分析・身体論・映像論・演劇論]
9. テレビ・テキストと視聴者読解 意味をめぐる相互作用・闘争 [読者論・カルチュラル・スタディーズ]
10. テキストの責任/視聴者の責任 『ギフト事件』をめぐって [作家論/読者論・メディア倫理]
11. 他のテキストへの応用 物語としてのニュース
12. 他のテキストへの応用 物語としてのCM
13. まとめ

履修者へのコメント：

テレビドラマは比較的近いものがある分析対象ですが、この授業によって常識的なテレビドラマ観を超えてメディア・コンテンツについての新たな視点を提供できればと思っています。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価（定期試験期間中に実施。評価の50%）
- ・レポートによる評価（授業の中間で課題を与える。評価の50%）

メディア法制（春）

表現・メディアの自由と民主主義の法理論 佐々木 秀 智

授業科目の内容：

この講義は、メディア（マス・メディアとパーソナル・メディア双方を含む）に関する法の基本構造を概観し、その前提となる憲法上の原理、特に表現・メディアの自由、民主主義の観点からいかに位置づけられるかを考えていきたい。なお、法律学の履修を前提としない。

テキスト：

林紘一郎『情報メディア法』（東大出版会・2005年）

参考書：

松井茂記『マス・メディア法入門（第3版）』（日本評論社・2003年）

授業の計画：

- (1) イントロダクション（1回）
- (2) メディアに関する法の基本構造（3回）
- (3) 表現の自由の諸法理（3回）
- (4) 表現の自由の限界（名誉毀損、プライバシー侵害、著作権侵害など）（3回）
- (5) 民主主義とメディア（情報公開、アクセス権など）（計3回）

履修者へのコメント：

メディア・コミュニケーション研究所の研究生に限らず、テーマに関心のある学生の受講を歓迎する。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

hsasaki@kisc.meiji.ac.jp まで、授業終了後も可

メディア法制（秋）

IT社会における表現・メディアの自由 佐々木 秀 智

授業科目の内容：

この講義は、ITの発達によって、これまでのメディアに関する法構造がいかなる影響をうけたのかを概観し、またIT社会への移行に伴

う法制度の変化における基本的視点をふまえたうえで、特に表現・メディアの自由がIT社会においていかに位置づけられるべきかを考えていきたい。なお、履修するためには、事前に履修することが望ましい。

テキスト：

林紘一郎『情報メディア法』（東大出版会・2005年）

参考書：

松井茂記『マス・メディア法入門（第3版）』（日本評論社・2003年）

授業の計画：

- (1) IT基本法及びその他の新規立法・法改正動向（2回）
- (2) コンテンツ規制のあり方（3回）
- (3) コンデュイト規制のあり方（3回）
- (4) パーソナルメディアに関する法的問題（1回）
- (5) ケーススタディ（プロバイダ責任法、個人情報保護法など）（3回）
- (6) 解釈論と立法論（1回）

履修者へのコメント：

メディア・コミュニケーション研究所の研究生に限らず、テーマに関心のある学生の受講を歓迎する。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

hsasaki@kisc.meiji.ac.jp まで、授業終了後も可

ジャーナリズム論（春）

ジャーナリズムと「表現の自由」 伊藤 高 史

授業科目の内容：

ジャーナリズムが抱えている問題点や課題を、「表現の自由」との関連で解説する。ジャーナリズムについて、一般にどのような問題点が指摘されているのかを整理し、「表現の自由」は今日、どのような状況に置かれているのかを理解させることが目的である。

テキスト：

伊藤高史著『表現の自由の社会学』（八千代出版、近刊）

参考書：

授業中に指示する

授業の計画：

ガイダンス

- 「表現の自由」概論とジャーナリズムの定義、存在意義など（日本国憲法における「表現の自由」の位置づけなど）（3回）
- ジャーナリズムと人権を巡る問題（メディアによる人権侵害、差別表現など）（3回）
- ジャーナリズムの組織に関わる問題（記者クラブ、メディアの経営問題など）（3回）
- 「表現の自由」に関わる法律上の動き（司法判断の流れなど）（3回）

履修者へのコメント：

教科書はもちろんのこと、指定した参考書など、本をよく読んで授業にのぞむこと

成績評価方法：

試験の結果による評価（原則として、試験のみで成績をつける。教科書の持込は可の予定）

質問・相談：

随時受け付けます

ジャーナリズム論（秋）

ジャーナリズム研究と社会理論 伊藤 高 史

授業科目の内容：

ジャーナリズム論の内容を踏まえて、ジャーナリズムを社会学との関連で考える。具体的にどのような報道活動が社会を動かし、そのような報道活動がいかにして生み出されたのかを、実証的かつ理論的に考える力を養成するのが目的。

テキスト：

伊藤高史著『表現の自由の社会学』（八千代出版、近刊）

参考書：

授業中に指示する

授業の計画：

ガイダンス

権力理論とジャーナリズム（2回）

情報操作とジャーナリズム（2回）

ブルデューの社会理論とジャーナリズム（2回）

アジェンダ構築モデルとジャーナリズム（3回）

「表現の自由」とジャーナリズム（3回）

履修者へのコメント：

教科書はもちろんのこと、指定した参考書など、本をよく読んで授業にのぞむこと。

成績評価方法：

試験の結果による評価（原則として、試験のみで成績をつける。教科書の持込は可の予定）

質問・相談：

随時受け付けます

世論（春）

世論の機能と形成メカニズム

小川恒夫

授業科目の内容：

現在民主主義社会において世論に期待される役割と阻害要因を考察しながら、マスコミ報道によって世論がどのように操作的に形成される可能性があるかをマスコミ効果論の立場から理論的に把握できるようにします。

テキスト：

小川浩一編著『マス・コミュニケーションへの接近』八千代出版/2005年/2,700円

参考書：

使用しません/随時授業内で資料を提示します。

授業の計画：

(1) ガイダンス

(2) 理想的世論と現実的世論

(3) 歴史的イベントにおいて世論の果たした役割を概観する

(4) 世論形成の垂直的影響（マスコミ）と水平的影響（口こみ）

(5) 受け手は主体的に世論を形成するという見方

(6) 受け手は常に操作的に世論を形成するという見方

(7) 受け手は主体的にも操作的にも世論を形成するという見方

(8) 受け手の置かれた社会状況と世論形成

(9) 広告論からみた世論形成

(10) 学習・教育論からみた世論形成

(11) 情報処理過程モデルからみた世論形成

(12) マスメディアの社会的責任と世論

(13) 全体のまとめと残された課題

履修者へのコメント：

特に、政治学の視点からマスメディアの機能について関心がある学生の履修を希望します。授業には「教科書」を持参してください。

成績評価方法：

学期末試験の結果による評価。

質問・相談：

授業終了後に受け付けます。

世論（秋）

世論形成の現状と対策を具体的事例から考える

小川恒夫

授業科目の内容：

20世紀後半から近年に至る具体的事例から、どのような性格の争点があるか、誰によって、どのような統制メカニズムが利用されてマスメディアが操作され、なぜ多くの有権者がそれを信じて世論を形成し、どのような社会的問題が発生し、それに対する対策の可能性を、順次一連の課題として見ていきます。この作業を通じて、理想的世論と現実的世論との間の距離を考えます。

テキスト：

使用しません。

参考書：

小川浩一編著『マス・コミュニケーションへの接近』八千代出版/2005年/2,700円

授業の計画：

(14) ガイダンス

(15) 戦争報道と世論

(16) 犯罪報道と世論

(17) 科学報道と世論

(18) 経済報道と世論

(19) 海外報道と世論

(20) 民族間報道と世論

(21) 政治報道と世論

(22) 法的規制の危険性と可能性

(23) ジャーナリスト教育とメディアリテラシー教育の可能性

(24) オンブズマン制度の可能性

(25) 残された課題

(26) 全体のまとめ（質問受付）

履修者へのコメント：

特に、政治学の視点からマスメディアの機能について関心がある学生の履修を希望します。

成績評価方法：

学期末試験の結果による評価

質問・相談：

授業終了後に受け付けます。

情報行動論（春）

ケータイの社会心理学

川浦康至

授業科目の内容：

携帯電話に限定して、パーソナルメディアと対人コミュニケーションのかかわりを考える。

テキスト：

特になし

参考書：

授業中、随時紹介する。

授業の計画：

1. ガイダンス：授業の進め方など

2. ケータイの歴史

3. メールと通話

4. メールアドレス

5. メール文体

6. 対人過程とケータイ

7. 対人関係とケータイ

8. モノとしてのケータイ

9. ケータイのある生活

10. ネットとケータイ

11. ケータイと社会摩擦

12. ケータイライフの今後

13. まとめ

履修者へのコメント：

授業は受講者自身の経験から体験談をまじえながら進めるので、積極的な参加を期待する。授業が自らのケータイライフを相対化する機会になればうれしい。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価（毎回、課題を出すので、その提出状況による）

質問・相談：

講義前後、およびメールでも受け付けます。

授業科目の内容：

異文化との出会いにより、個人は異なる文化的様式（価値観や行動パターン）に接し、それを取り込んだり抵抗しながら自分を新しく作っていく。本授業では、異なる文化における様々なコミュニケーションスタイルの違いに目を向け、そのような異文化に接した時に、どのように心理や行動が変化していくか、異文化接触の具体事例を通して学ぶ。

テキスト：

プリント配布

参考書：

- ・宮原哲「コミュニケーション入門」松拍社
- ・箕浦康子「子どもの異文化体験」思索社

授業の計画：

- (1) 授業内容説明、異文化間コミュニケーションの背景、文化の定義
- (2) コミュニケーションの定義
- (3) 認知と文化
- (4) イメージとステレオタイプ
- (5) ステレオタイプの間関係への影響
- (6) 言語コミュニケーション：自己開示への文化的影響
- (7) 言語コミュニケーション：自己開示動機をめぐる要因
- (8) 非言語コミュニケーション（表情、空間利用、身体接触）
- (9) 異文化適応シミュレーション：Banga, 認知・行動・情動
- (10) 異文化ストラテジー：映画を素材として
- (11) 子どもの異文化体験
- (12) 青年の異文化体験
- (13) 全体のまとめ

履修者へのコメント：

海外経験に関心のある学生、異文化における人間関係に関心のある学生を歓迎します。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度

質問・相談：

講義前後の教室・教員室で質問・相談を受け付けます。メールでも可。

授業科目の内容：

多文化状況が深まる現代社会における、メディア文化の諸問題を検討して、より開かれた社会の構築に向けたメディア文化の役割と可能性を模索する。

テキスト：

詳細は授業時に指示する。

「沖縄に立ちすくむ」(岩淵・多田・田仲編著、せりか書房 2004 年)

参考書：

授業時に指示する

授業の計画：

前期はメディア・文化研究の基本的概念・理論・方法論を学ぶ。「沖縄」に関するメディアテキストの具体的事例から文化と社会における不均衡な力関係について考察する。

- ・イントロダクション（1回）
- ・メディアの表象・生産・消費（6回）
- ・「沖縄」ケーススタディー（4回）
- ・グループプレゼンテーション（1回）
- ・まとめ（1回）

履修者へのコメント：

講義だけでなく、プレゼンテーションや討論を含めた双方向な授業を目指すので積極的な参加を期待する。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価

- ・平常点：出席状況および授業態度による評価
- ・プレゼンテーション・グループプロジェクト

授業科目の内容：

グローバル化が深まる現代社会における、メディアと文化の諸問題を検討して、より開かれた社会の構築に向けたメディア文化の役割と可能性を模索する。

テキスト：

詳細は授業時に指示する。

「トランスナショナル・ジャパン」(岩淵功一、岩波書店 2001 年)

参考書：

授業時に指示する

授業の計画：

後期はグローバル化の中で促進されている資本・情報/イメージ、人間の国境を越えた流れと移動が、どのような新たなつながりと不均衡をもたらしているのかを考察する。

- ・イントロダクション（1回）
- ・文化のグローバル化とローカル化（3回）
- ・メディア・移民・トランス/ナショナルなつながり（3回）
- ・東アジアの越境メディア文化（4回）
- ・グループプレゼンテーション（1回）
- ・まとめ（1回）

履修者へのコメント：

講義だけでなく、プレゼンテーションや討論を含めた双方向な授業を目指すので積極的な参加を期待する。メディア文化論を履習していることが望ましい。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価
- ・プレゼンテーション・グループプロジェクト

授業科目の内容：

前半はメディア産業の市場と組織および政策を理解するために必要な基礎理論、後半は映画を中心とした映像コンテンツ産業の構造と政策を取り上げます。

テキスト：

菅谷実・中村清編『映像コンテンツ産業論』(丸善、2002年)

授業の計画：

本年は以下の予定で講義を進めます。

オリエンテーション(1)

基礎理論(5)

- 1 メディア政策
 - 2 政府規制
 - 3 メディア市場
- 映像コンテンツ産業(6)
- 4 映像コンテンツと映画
 - 5 映画産業の発展
 - 6 映像振興政策(欧州、米国、日本)
- まとめ(1)
- 7 メディア融合とコンテンツ

履修者へのコメント：

コンテンツ産業、映画産業に興味ある学生の履修を歓迎します

成績評価方法：

基礎理論部分の小テストと期末試験で評価する。

質問・相談：

毎回講義終了時に質問、相談を受け付けます

授業科目の内容:

メディア産業に関する政策の動向と今後の課題について日米の比較を行いながら学習していく。

テキスト:

特に指定しない

参考書:

- ・宿南達志郎『情報メディア政策』NTT 出版, 2006 年
- ・鈴木健二『地方テレビ局は生き残れるか』日本評論社, 2004 年
- ・谷脇泰彦『融合するネットワーク』かんき出版, 2005 年

授業の計画:

- (1) オリエンテーション
- (2) 放送メディア政策 (4 回)
 - マスメディア集中排除原則
 - 番組の質と報道の信頼性
 - NHK のあり方
 - 放送のデジタル化
- (3) 通信メディア政策 (3 回)
 - ユニバーサルサービスと競争政策
 - 周波数政策
 - 放送と通信の融合
- (4) コンテンツ政策 (2 回)
 - 著作権保護政策
 - 作り手の育成と国際競争力強化
- (5) 情報メディア政策 (2 回)
 - デジタル・デバイドの解消
 - インターネット・ガバナンス
- (6) まとめ

履修者へのコメント:

情報メディア産業に関心のある学生の履修を歓迎します。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

授業科目の内容:

メディア産業について、産業構造、経営戦略、利便性などの観点から、歴史的経緯や今後の課題などについて概要を学びます。ビデオなどを活用して理解しやすく講義します。

テキスト:

特に指定しない

参考書:

- ・宿南達志郎など著『メディア産業論』有斐閣, 2006 年
- ・電通総研編『情報メディア白書 2005』ダイヤモンド社, 2005 年
- ・総務省編『情報通信白書 平成 17 年版』ぎょうせい, 2005 年

授業の計画:

- (1) オリエンテーション
- (2) メディア産業の歴史 (2 回)
- (3) 各産業分野の現状と将来
 - コンピュータ業界 (2 回)
 - 通信業界 (2 回)
 - 放送業界 (2 回)
 - 新聞業界 (1 回)
 - 出版業界 (1 回)
 - 音楽業界 (1 回)
- (4) まとめ

履修者へのコメント:

情報メディア産業に関する関心がある学生の履修を歓迎します。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

授業科目の内容:

インターネット・ビジネスについて、その特徴や伝統的ビジネスへの影響などを学びます。また、携帯やデジタル放送などを活用した新しいビジネスモデルの可能性についても学びます。

テキスト:

特に指定しない

参考書:

- ・(財)インターネット協会編著『インターネット白書 2005』インプレス社, 2005 年
- ・加藤秀雄『ネットワーク経営情報システム インターネット・ビジネスモデル』共立出版, 2004 年
- ・宿南達志郎『e エコノミー入門』PHP 研究所, 2000 年

授業の計画:

- (1) オリエンテーション
- (2) インターネット・ビジネスの理論的背景 (2 回)
- (3) インターネットによるビジネスモデルの革新 (5 回)
 - 金融業
 - 流通業
 - 製造業
 - 旅行業
 - エンターテインメント産業
- (4) インターネットビジネスの事例研究 (5 回)
 - 楽天
 - アスクル
 - インデックス
 - Amazon
 - Yahoo
- (5) まとめ

履修者へのコメント:

インターネット・ビジネスに関心がある学生の履修を歓迎します。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

授業科目の内容:

本講座は、朝日新聞社の記者やフリーのジャーナリストなど、ジャーナリズムの活動に日々携わっていらっしゃる方々をお招きし、ジャーナリズムと新聞産業に関わる諸問題、およびその時々政治・社会・経済問題などについて講義していただく。

テキスト:

なし

参考書:

授業中に指定する。

授業の計画:

朝日新聞の記者の方など、外部の方々をお招きし、約 1 時間程度講義していただき、その後質疑応答を行う。講師やテーマなど授業計画の詳細は、第 1 回目の授業の際に発表する。なお、平成 18 年度の授業日程は、メディア・コミュニケーション研究所のウェブサイトを参照されたい。

履修者へのコメント:

出席者は、よく新聞を読み、積極的に質問することのほか、頻繁にレポート等の課題が課されていることを覚悟すること。また当然であるが、外部から招いた講師に講義をしていただくため、私語や遅刻など、講師の方々に対して失礼な行為は一切認めない。ただ出席していれば単位が認められるということではない。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

ジャーナリズム総合講座（秋）	荒田茂夫
朝日新聞社寄附講座	萩原滋
	伊藤高史

授業科目の内容：

本講座は、朝日新聞社の記者やフリーのジャーナリストなど、ジャーナリズムの活動に日々携わっていらっしゃる方々をお招きし、ジャーナリズムと新聞産業に関わる諸問題、およびその時々の政治・社会・経済問題などについて講義していただく。

テキスト：

なし

参考書：

授業中に指定する。

授業の計画：

朝日新聞の記者の方など、外部の方々をお招きし、約1時間程度講義していただき、その後質疑応答を行う。講師やテーマなど授業計画の詳細は、第1回目の授業の際に発表する。なお、平成18年度の授業日程は、メディア・コミュニケーション研究所のウェブサイト参照されたい。

履修者へのコメント：

出席者は、よく新聞を読み、積極的に質問することのほか、頻繁にレポート等の課題が課されていることを覚悟すること。また当然であるが、外部から招いた講師に講義をしていただくため、私語や遅刻など、講師の方々に対して失礼な行為は一切認めない。ただ出席していれば単位が認められるということではない。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

マス・コミュニケーション論（日吉）	
マス・コミュニケーションと社会	川端美樹

授業科目の内容：

現在われわれの日常生活に深く関わっているマスメディアがどのようにして誕生し、発達してきたのか。また、社会にどのような影響を与え、その中でどのように機能してきたのか。さらに、マス・コミュニケーションは人間の社会的行動や心理にどのような影響を与えているのか。

本講義の目的は、以上のようなトピックについて学び、理解した上で現在の自分を取り巻く現状を見直し、マス・コミュニケーションをめぐる状況について客観的・批判的に考え、分析することである。

テキスト：

大石裕『コミュニケーション研究（第2版）』慶應義塾大学出版会、2006年

参考書：

授業時に必要に応じて指示する。

授業の計画：

以下のような内容で授業を進めていく予定である。

1. マス・コミュニケーションの基礎的諸概念
2. マス・コミュニケーションの発達と社会
3. マス・コミュニケーションとその影響

履修者へのコメント：

講義で取り上げる内容について興味を持ち、批判的に考える意欲のある学生の受講を期待する。

成績評価方法：

期末試験の結果を総合点の70%とし、授業中の提出物や参加度に対する評価を30%として、全体の成績評価とする。

社会心理学（日吉）	
社会的認知と対人行動	萩原滋

授業科目の内容：

春学期は、自分たちの社会的環境をいかにして把握するかという問題を取り上げる。すなわち「社会的認知」と呼ばれる研究領域を中心に、均衡理論、認知的不協和理論、帰属理論など社会心理学の代表的な理論枠組について概説し、それに依拠して行われた実験など具体的な研究事例を詳しく紹介する。また対人魅力など、対人行動の基礎となる問題も取り上げることとする。

テキスト：

使用しない

参考書：

- ・山本真理子他編（2001）「社会的認知ハンドブック」北大路書房
- ・唐沢稯・池上知子・唐沢かおり・大平英樹（2001）「社会的認知の心理学 社会を描く心のはたらき」ナカニシヤ出版

授業の計画：

ガイダンス（1回）

社会心理学の研究手法（1回）

社会的認知の研究領域概観（1回）

印象形成の古典的実験（1回）

帰属理論と実証的研究（3回）

認知的一貫性の諸理論（1回）

認知的不協和理論と実証的研究（3回）

対人行動の基礎（2回）

履修者へのコメント：

特になし。

成績評価方法：

学期末に筆記試験を行う。

質問・相談：

最初のガイダンスの時に尋ねてください。

社会心理学（日吉）	
メディアとコミュニケーション	萩原滋

授業科目の内容：

春学期は、対人コミュニケーションからマス・コミュニケーションまで幅広く「コミュニケーション」過程に関わる諸問題を取り上げる。対人コミュニケーションに関しては「説得効果」、マス・コミュニケーションに関しては「テレビの社会的機能、对人的影響」に焦点を当てて、新旧取り混ぜて社会心理学的研究の成果を紹介する。

テキスト：

使用しない。

参考書：

- ・萩原滋・国広陽子編（2004）「テレビと外国イメージ メディア・ステレオタイプ研究」頸草書房
- ・萩原滋編著（2001）「変容するメディアとニュース報道 テレビニュースの社会心理学」丸善
- ・田中義久・小川文弥編（2005）「テレビと日本人 「テレビ50年」と生活・文化・意識」法政大学出版局

授業の計画：

対人コミュニケーションとマス・コミュニケーション（1回）

説得的コミュニケーションと態度変容（2回）

説得の技法（1回）

テレビのメディア特性（1回）

日本におけるテレビ放送小史（1回）

テレビの社会的影響概観（1回）

テレビの視聴効果（1）：暴力や反社会的行動への影響（3回）

テレビの視聴効果（2）：現実の社会認識への影響（3回）

履修者へのコメント：

特になし。

成績評価方法：

学期末に筆記試験を行う。

質問・相談：

授業時間中、あるいは授業後にお尋ねください。

【研究会】

研究会(～)(春)(秋)
メディアと社会行動

萩原 滋

授業科目の内容：

本研究会は、2年ないし3年の在籍期間を通じて、各自の関心に基づいて研究活動を積極的に行い、その成果を研究会の場で逐次報告し、最終的には修了論文に結実させることを目的としている。研究テーマは、メディアやコミュニケーションに関連性のあるものであれば、ある程度各自の自由裁量に任されることになるが、単なる感想や思い付きではなく、それを何らかのデータによって裏づける努力をして欲しい。履修者数に応じて運営方法を多少とも調整する必要があるが、本年度も、基本的には従来の個人研究のスタイルを継続するつもりである。

テキスト：

田中義久・小川文弥編「テレビと日本人」(法政大学出版局、2005年、3800円)

授業の計画：

春学期

ガイダンス(1回)

テキスト講読(6回)

個人研究テーマの設定、発表(6回)

(夏合宿にて継続して各自の発表を行う)

秋学期

三田祭論文に向けて(2,3年生の個人研究発表,6回)

修了論文に向けて(4年生の中間報告,3回)

次年度に向けての研究計画発表(2,3年生,4回)

履修者へのコメント：

自分の発表だけでなく、他の人たちの発表にも興味をもって、質問やコメントをしてもらいたい。

成績評価方法：

・平常点：出席状況および授業態度による評価

・三田祭論文、修了論文

質問・相談：

適宜、研究室に来てくだされば、お答えするつもりです。

研究会(～)(春)(秋)
メディア産業論を考える

菅谷 実

授業科目の内容：

放送、新聞に代表されるマスメディアからインターネット、映画などのコンテンツ産業を含むメディア産業全体を対象にその産業構造、ビジネス戦略、メディア規制をテーマとして研究をすすめます。

例年、春学期は、共同研究に関連するテーマに関わる文献レビューを中心とした個人発表、秋学期は、三田祭で発表する共同研究報告書に関わる調査と報告書作成、および4年生の修了論文発表を中心に進めます。(2005年度の共同研究テーマは、東アジアのメディア・コンテンツ流通)

また、夏合宿、OGOB会、異業種交流勉強会なども行っています。ゼミ活動の詳細は研究会ホームページ(<http://mwr.mediacom.keio.ac.jp/sugaya/toppage.htm>)を参照してください。

テキスト：

春学期のはじめに紹介します

参考書：

春学期のはじめに紹介します

授業の計画：

各学期のはじめに詳細なシラバスを配布するが、春学期は、授業でのレポートを中心とし、秋学期は、三田祭に向けた共同研究が中心となる。

履修者へのコメント：

履修者は、授業はもちろんのこと、合宿、論文報告会、その他のゼミイベントにはすべて出席すること

成績評価方法：

授業出席を含めた研究会活動全体に対する参加・貢献度による評価。なお研究会は修了研究の発表および論文による評価。

研究会(～)(春)(秋)

宿南 達志郎

授業科目の内容：

放送メディアのあり方について、マスメディア集中排除原則、民法とNHKの2元体制、NHKの受信料問題、地方局の存在意義などの政策的課題や経営課題を中心として研究を行う予定です。

テキスト：

松田浩『NHK 問われる公共放送』岩波新書、2005年

参考書：

- ・宿南達志郎『情報メディア政策』NTT出版、2006年
 - ・田原茂行『視聴者が動いた 巨大NHKがなくなる』草思社、2005年
 - ・舟田正之・長谷部恭男編『放送制度の現代的展開』有斐閣、2001年
- 授業の計画：

春学期は、教科書や参考書を中心として、放送メディアのあり方について議論を行っていきます。

主なテーマとしては、以下のようなものを考えています。

放送法に規定されている番組調和原則やユニバーサルサービス義務などについて

NHKのあり方について(番組の質、適正な事業規模、受信料問題など)

民法のあり方について(キー局と地方局の関係、BSデジタル放送との関係、広告収入はこれからも確保できるのかなど)

秋学期は、各個人あるいはグループでテーマを設定して研究を行ってもらう予定です。

履修者へのコメント：

放送メディアについて関心のある学生の履修を歓迎する。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

研究会(～)(春)(秋)

身近なメディア・コミュニケーションの現象を研究する

金山 智子

授業科目の内容：

本研究会では、自分たちの興味や関心をもとにメディアに関するテーマを設定し、実際に調査研究することを目的としています。メディアに関しては特定せず、新聞、ラジオ、テレビ、雑誌、インターネットといった一般的な媒体から、ダンス、建物、空間といった媒介にいたるまで、広義の意味でのメディアを対象とします。研究は、文献だけでなく、アンケート、内容分析、インタビュー、そして参与観察といった方法を使って実際に調査を実施し、データを集め、分析を行なっていきます。

テキスト：

特に指定しません。

授業の計画：

個人またはグループでメディア・コミュニケーションに関連する研究を実施してもらいます。一連の研究プロセスは、担当教員との個別コンサルティングを交えながら、ステップ・バイ・ステップで身に付けられるよう指導します。4年生に関しては、修了論文を中心に個別で指導します。

春学期

テーマ設定、文献調査、仮説設定、調査法選定

秋学期

調査実施、データ分析、報告、発表(三田祭)

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

研究会(～)(春)(秋)

グローバルイゼーションと持続可能なメディアのデザイン

小川 葉子

授業科目の内容:

環境と身体をとりまく科学的知識と文化の創発に関するコミュニケーションを考察する。本年度は、プロダクトおよびコンテンツのデザインとファッション・ジャーナリズムにおける知識生産の接点を比較したい。それによって、ウェアラブル・メディアやオンライン・ショッピング等の影響も考えつつ、健康とサステナビリティに基づいたライフスタイルにおける未来のメディア・コミュニケーションのありかたを模索したい。

テキスト:

M.リー著『ファッション中毒』(NHK出版,2004年)その他ハーバード・ビジネススクールにおけるマーケティングのテキスト等を使用予定。

参考書:

M.フェザーソン著,川崎賢一・小川葉子編著『消費文化とポストモダニズム』(上・下巻,恒星社厚生閣,2002年)

授業の計画:

春学期

- (1) ガイドンスおよび導入(2~3回)
- (2) ファッション・ジャーナリズムと科学ジャーナリズム(2~3回)
- (3) デザイン言語とマーケティング戦略(2~3回)
- (4) デザイン・コミュニケーションをめぐる産業と流通の構造プロセス(2~3回)
- (5) グローバルな市場と規制およびNPO等の役割(2~3回)
- (6) 個人(あるいは2~3名)のプロジェクトテーマ(記事タイトル)設定を発表,春学期のまとめ(1~2回)

秋学期

- (1) 秋学期全体のスケジュールと作業プランニング(1~2回)
- (2) 個人(あるいは2~3名)のプロジェクトテーマ(記事タイトル)設定と発表(2回)
- (3) フィールドワーク(2回)
- (4) 個人あるいはグループプロジェクトによる記事および作品の制作(2回)
- (5) (4)のプレゼンテーションおよび専門家によるコメントと相互批評(2回)
- (6) 三田祭発表とフィードバック
- (7) まとめ,未来のデザイン・コミュニケーションとは(1~2回)

履修者へのコメント:

フィールドワークは,経済産業省,環境省のファッションおよび新製品発表イベントへの参加を考えています。日頃から各国のジャーナリズムや映画批評に親しんでおいて下さい。

成績評価方法:

- ・平常点:出席状況および授業態度による評価
 - ・ファッション・ジャーナリズム記事かそれにかかわる作品による評価
- 質問・相談:

授業終了直後,あるいは履修者に指示するオフィス・アワーに受け付けます。

研究会(～)(春)(秋)

情報化と近代化

伊藤 陽一

授業科目の内容:

「情報化」(情報技術が発達し,マス・メディアと教育が一般庶民レベルにまで普及し,情報流通量が增大する現象として定義される)が「近代化」に及ぼした影響とそのメカニズムについて研究する。具体的には,「近代」の特質である民主主義,合理主義,個人主義,資本主義が,「情報化」を通じてどのようにしてもたらされたか,あるいはもたらされつつあるかについて考察・議論する。

テキスト:

・伊藤陽一「メディアの歴史と社会変動」関口一郎(編)『コミュニケーションのしくみと作用』大修館,1999年

・その他講読する論文を授業で配布する。

参考書:

- ・有吉広介(編)『コミュニケーションと社会』芦書房,1990年
- ・津田幸男・浜名恵美(共編)『アメリカナイズーション:静かに進行するアメリカの文化支配』研究社,2004年

授業の計画:

- 第1回 オリエンテーション:研究会の目的,求められる心構え,基礎理論に関する講義等
- 第2回 先学期の学生の期末レポート内容の報告
- 第3回 先学期の学生の期末レポート内容の報告
- 第4回 以降は,指定された論文講読を行う。講読する論文は履修者の関心,専門分野を知った上で決めたい。

履修者へのコメント:

研究会では積極的に発言することが大切です。普段からの勉強と準備が教室での適切な発言を可能にします。歴史や理論に強い人,関心を持っている人を歓迎します。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価(「三田祭参加論文」と期末レポート)
- ・授業における発言の頻度と質は重要です。

質問・相談:

随時受け付けます。

この研究会は2008年3月で終了となりますので2年生は注意して下さい。

研究会(～)(春)(秋)

ジャーナリズムを考える

大石 裕

授業科目の内容:

最初の数回は,ジャーナリズムやマス・コミュニケーションに関する基本的な文献を読み,それ以降は班分けし,新聞の分析などを行う。研究成果は三田祭などで発表する。

テキスト:

大石裕ほか『現代ニュース論』有斐閣

参考書:

田村紀雄ほか編『ジャーナリズムを学ぶ人のために』世界思想社

授業の計画:

[前期]

- 1~2回 基本的な文献の講読。
- 3~13回 2,3年生を中心とした研究発表と討議

[後期]

- 1~10回 2,3年生を中心とした研究発表と討議
- 11~13回 4年生の修了論文発表

履修者へのコメント:

新聞のみならず,ニュース全般に関して積極的に接するように心がけてください。この研究会から「優れた」ジャーナリストが数多く生まれることを目標にしています。

成績評価方法:

平常点による。

研究会(～)(春)(秋)

メディア融合時代のクリエイティブ産業に関する研究

金正勲

授業科目の内容:

クリエイティブ(creative industries)とは,映画,放送,音楽,広告,出版,ゲームなど人間の創造性に基盤をおく産業です。本研究会では,デジタル革命やメディア融合が既存のクリエイティブ産業にもたらす産業的・社会的・政策的インプリケーションについて研究します。

テキスト:

特に指定なし。講義資料プリントを配布する。

参考書:

授業中に適宜指示する。

授業の計画:

- (1)春学期
ガイドンス(計1回)

共通テーマと関連する文献の輪読(計12回)
其々独自の研究テーマを設定の上、夏休み中の合宿での研究発表

(2) 秋学期

毎回数人ずつ研究発表と討論(計11回)

企業訪問(計2回)

履修者へのコメント:

本研究会では、自ら発想し、積極的にディスカッションすることを大事にします。常に自分の視点(perspectives)を持ち、他者とコミュニケーションすることで相互に高め合う、創発的なコミュニティとしての研究会を目指します。社会のネクストステージを自らデザインすることに意欲のある学生を歓迎します。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価。
- ・平常点:出席点および授業態度による評価。

【特殊研究】

放送特殊講義 ・ (春)(秋)

テレビニュースは何が出来るか? 安倍 宏 行

授業科目の内容:

テレビニュースの制作の実際。テレビ報道記者の取材活動とは。テレビニュースの問題点と今後の姿を探る。後期は、ドキュメンタリーや調査報道などニュース以外の制作にも触れます。

テキスト:

特に指定しない

参考書:

特に指定しない

授業の計画:

前期

- 1 ガイダンス
- 2~5 ニュース制作の流れ + 原稿スキル
- 6~10 記者レポート制作
- 11~13 リポート発表

後期

- 1~6 ドキュメンタリー制作・調査報道・企画の作り方
- 7~10 企画制作実践
- 11~13 企画発表

変更の可能性あり

履修者へのコメント:

テレビ局の仕事に興味がある人、テレビジャーナリストになりたい人、ドキュメンタリーや企画を作りたい人を歓迎します。

成績評価方法:

平常点:出席状況および授業態度による評価(クラス参加,リポート,企画などの制作によります。)

質問・相談:

講義用ブログ上にて常時受け付けます。

新聞特殊講義 ・ (春)(秋)

ジャーナリズムとは何か
木村 良一(産経新聞社 編集委員・論説委員)

授業科目の内容:

新聞記者の仕事のおもしろさを私の体験をもとに話しながら、「ジャーナリズムとは何か」をいっしょに考えていきたいと思います。

テキスト:

特に指定しません。資料を配布することもあります。

参考書:

木村良一著「移植医療を築いた二人の男 その光と影」(扶桑社, 2002年, 1400円)

授業の計画:

たとえば、脳死移植の問題、新型インフルエンザ出現の危機、医療過誤といったニュース、それにリクルート事件、日航ジャンボ機

墜落事故など過去の事件・事故も取り上げ、新聞記者がどう取材し、どう書いているかを検証しながら次のテーマを考えます。

- ・ジャーナリズムと社会
- ・伝えることの意味
- ・特ダネとは何か

関係者をゲストに招いて話を聞くことも検討しています。

履修者へのコメント:

ジャーナリストを目指す学生だけでなく、「人間」や「社会」に強い関心のある学生ならどなたでも参加してください。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点:出席状況および授業態度による評価

広告特殊講義 ・ (春)(秋)

広告的な生き方とか 吉田 望

授業科目の内容:

広告・ブランドに関する講義・外部講師の講演・広告実習・課題演習など

参考書:

- ・ブランド ・ブランド (宣伝会議)
- ・会社は誰のものか(新潮社)

授業の計画:

春学期

- 1) ブランドとは何か
- 2) ブランドの歴史
- 3) 広告を見る
- 4) 広告をつくってみる

秋学期

- 1) 広告の歴史
- 2) 広告産業
- 3) 外部講師講演
- 4) 広告をつくってみる

履修者へのコメント:

boldです。よろしくです。

成績評価方法:

- ・平常点:出席状況および授業態度による評価
- ・ブログへのコメント・実習など

メディア特殊講義 (秋)

民放テレビの現状と課題 工藤 卓男

授業科目の内容:

テレビ東京の体験を通じて民放テレビの実態と展望を探る。

テキスト:

特に指定はありません。

参考書:

特に指定はありません。

授業の計画:

全13回を通して民法テレビ局の概略が把握出来るようにしたい。(但、各テーマ変更の場合もある。)

オリエンテーション(1)

総論(1)

各論(10)

- (1) 番組編成のしくみ
- (2) 視聴率
- (3) コンテンツ内容
- (4) 営業現場
- (5) 娯楽番組の制作
- (6) 報道の使命
- (7) スポーツ番組の企画
- (8) メディア開発
- (9) BS, CS, WOWOW
- (10) 著作権

まとめ(1)

履修者へのコメント：

テレビ局に関心のある学生を歓迎します。
セミナー形式で積極的な意見の交換も行いたい。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点

質問・相談：

授業終了後受けます。

メディア特殊講義 (秋)

映像・活字メディアの実践

高 信 彦

授業科目の内容：

毎週発生する事件についてブレーストーミング、討論を行うとともに、実際に映像、活字メディアに関しテーマを掲げて作成してもらう。

テキスト：

毎日の新聞各紙、雑誌、TV ニュース

参考書：

高信彦著「ニュースキャスターたちの24時間」(講談社 文庫)

授業の計画：

- ・2005年秋学期と同様に、活字、映像メディアの実習や現場の見学、現役記者・キャスターなどをゲストに呼んで討論などを行う。
- ・メディア・リテラシー、情報分析、収集の方法論、プレゼン、ブレーストーミング等々を実体験しながら社会教育も学んでもらう。
- ・4~5人のチームに分け、前半は新聞、雑誌の形態でテーマを決めて実際に制作し、その過程で取材、編集、討論を通じ学生同士で刺激になるような授業にしたい。
- ・後半は映像制作。これも各チームがテーマを決めるか、共通テーマで活字とは違った方法論を一緒に学びたい。
- ・詳しく知りたい人は2005年の履修者に聞くとよい。

履修者へのコメント：

- ・チームで動くから履修した以上は欠席しないこと。
- ・エキサイティングに物事を考える方法論を身につけ、人生を考えてほしい。
- ・情報の読み解き方と自己表現力を高める授業にしたい。

成績評価方法：

- ・平常点：出席状況および授業態度による評価
- ・毎週小感想文(葉書き2枚分)を出してもらう

質問・相談：

いつでも応ずる。

特殊研究 (春)(秋)

日本の近代化とマス・メディア

小 川 浩 一

授業科目の内容：

21世紀の日本社会の在り方を、「近代化」と「マス・メディア」をキーワードにして読みとく作業をする。ジャーナリズムが日本社会と如何にかかわったかを考える。

参考書：

- ・マス・コミュニケーションへの接近(八千代出版)
- ・ジャーナリズムの社会学(リベルタ出版)

授業の計画：

春学期

1. 日本社会の現状(階層固定化) 3回
2. 明治以後の近代化 2回
3. 戦後の近代化 2回
4. マス・コミュニケーションとジャーナリズム 4回
5. 近代化とマス・メディア 2回

秋学期

1. ポピュリズムと選挙 2回
2. 政治とマス・メディア 2回
3. 文化とマス・メディア 2回
4. 社会意識とマス・メディア 3回
5. 教育とマス・メディア 3回

6. ジャーナリズムと市民

1回

履修者へのコメント：

現在の日本を考えることは現在、将来の自分を考えることです。過去の歴史の中でジャーナリズムが如何なる状態にあったのかという点も考えて下さい。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点

特殊研究 (春)(秋)

市民とメディア

金 山 智 子

授業科目の内容：

この10年、市民が社会の様々な問題を解決するため、自ら参加し活動していけるようなボランティアな社会が築かれつつあります。その中で、市民グループ、NPO、NGOの活動は中心的な役割を担っています。また、一般企業においても、NPO・NGOとのパートナーシップを通じた社会貢献(CSR)活動が活発になっています。このような活動において、メディアの活用がますます重要になってきています。しかし、こういった活動は社会と深く関わるだけに、常にポジティブではなくネガティブな結果を生むこともあります。市民、NPO、NGOの活動におけるメディア活用について、『ほっとけない貧しさ』キャンペーンなどの最近の事例を交えながら、現状と問題点について考えます。

テキスト：

資料を配布。

参考書：

- ・『NPOのメディア戦略』(金山智子、学文社)
- ・『コミュニケーションするPR』(小倉重男、電通)
- ・『世界の公共広告』(金子秀之、研究社出版)

授業の計画：

春学期は、市民とメディアについての基本的な考え方について学びます。毎回事例を用いながら、ディスカッション形式で進めます。また、NPOやNGO関係者を招き、現場の声を聞きながら、受講生を交えて考える機会をもちます。

秋学期は、実際にメディアを活用している市民グループ、NPO、NGOについて研究し、発表してもらいます。

履修者へのコメント：

常に問題意識をもって、積極的にディスカッションに参加することを期待します。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

メディア産業実習 (春)(秋)

インターンシップ

宿 南 達志郎

金 山 智 子

菅 谷 実

小 川 葉 子

授業科目の内容：

本講義は、研究所主催のインターンシップである。春学期は、講義と討論形式により各産業の歴史、構造、動向およびインターンシップの意義等を学ぶ。

夏休み期間の2週間以上、各企業のインターンシップに参加する。

秋学期には、インターンシップ参加の口頭報告およびレポートを提出する。なお、秋学期については夏休みにおける企業研修参加が単位取得の条件となる。本年度、インターンシップに参加できなかった学生は次年度にメディア産業実習を登録し、インターンシップに参加することができる。

授業の計画：

(1)春学期

オリエンテーション

産業別のレポートと討論(新聞、放送、通信、移動通信、出版、広告、インターネット、通信販売等)

まとめ

(なお、研修先は、7月上旬に決定されるが、研修受け入れ企業数は限られているため履修者全員が研修に参加できるわけではない)
(2)秋学期

夏休み研修期間の実習を10回分の講義と認定し、残りの時間で研修成果の報告と討論を行い秋学期の平常点評価とする。

履修者へのコメント：

履修希望者(前年度にメディア産業実習を履修し本年度を履修する者を含む)は、4月上旬に実施されるオリエンテーションに必ず参加すること。

履修者は夏休み研修参加のための日程をあらかじめ確保しておくこと。

成績評価方法：

- ・春学期：クラスにおけるレポート発表および討論への参加度を含めた平常点による評価。
- ・秋学期：夏休み期間中の企業研修と研修成果の口頭発表およびレポートによる評価。

【基礎演習】

時事英語 ・ (春)(秋)
英文ジャーナリズム入門

高須賀 茂 文

授業科目の内容：

英字新聞や英字週刊誌の記事などを教材に使い、時事英語の読解力を養成します。一年後には、辞書を使わずにTimeやEconomistの大意を理解できるようになるのが目標です。併せて英語でのinterviewや記事の書き方の基礎も学びます。

テキスト：

特に指定しません。講義資料を配布します。

参考書：

The Daily Yomiuri (読売新聞が発行する日刊英字紙)
最新ニュース英語辞典(東京堂出版)

授業の計画：

まず、火事や交通事故など簡単な記事を通して英文ジャーナリズム独特の「決まり事」を勉強することから始めます。後半の授業では、評論や解説など高度な内容の英文記事に挑戦し、国際情勢への理解を深めます。また、座学だけでなく、The Daily Yomiuri編集部の見学や在日外国人特派員へのインタビューなども計画しています。

履修者へのコメント：

堅苦しい講義形式ではなく、できるだけ実践的な授業をやるつもりです。必然的に課題も多くなるので、積極的に学ぶ意欲のある塾生を歓迎します。また、英和、和英辞典はできるだけ本格的なものを用意し、授業には毎回持参して下さい。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

文章作法 ・ (春)(秋)

目から鱗(ウロコ)が落ちる授業です 升 野 龍 男

授業科目の内容：

文章作りは、文章を書くことだけで身に付くものではありません。常日頃の目撃・観察によって情報をとらえる。そこから何故を發し、取材する。そして、何故に対する仮説(ひょっとしたら、こうではないかな?)を提示する。それを検証し、仮説を実証する。実証できねば新たな仮説を提示し、新発見に挑む。目撃・観察・洞察・発見による情報作りとプレゼンテーション。問うて、学ぶ。文字通り「学問」。これが、情報に関する升野流メソッド。この基本が身につけば、その情報を文章化、映像化、音楽化できるわけです。良いインプットがなければ、良いアウトプットもありません。

不器用な人でもこの動作を日常化すれば、文章のうまい器用な人をあつという間に凌駕できるようになります。「面白くなければ授業じゃない」。最高水準の授業を、面白く、分かりやすく展開します。

テキスト：

私の執筆文章を中心に、適切な文章や、文章作法本を適宜使用いたします。毎回、講義資料プリントを配布します。これらを束ねたものが、私のテキスト。時事問題など「旬の材料」も提供します。

参考書：

- ・野口悠紀雄著「超文章法(中公新書)」780円
 - ・鹿島茂著「勝つための論文の書き方(文春新書)」700円
- また授業中にも、講義内容をより深く理解できる参考文献を適宜紹介します。

授業の計画：

春学期

- (1)「ワクワク、どきどき授業」のガイダンス
- (2) 情報を採るために「飢えた情報ハンター化」する段階 = 目撃・観察法の体得。
目撃・観察ノートの作成と記述の日常化。
目撃・観察のための方法論 = オリジナル情報作りのため、目撃・観察対象に関する自分なりのベストポイントとベストタイムを持つ。
- (3) 情報組み立て、表現方法の体得
情報処理は誰でも身に付けられる能力。情報化社会を生き抜くパスポートです。VTR, DVD, 印刷物等、私秘蔵の優良コンテンツを駆使して、情報組み立て、表現方法を体得してもらいます。
毎回課題を出しますが受講生の優秀作品はサンプルとして配布。技術の共有化を図ります。
- (4) 以上を通じて評論、エッセイ作法を体得。テストは60分で書く課題に取り組んでもらいます。

秋学期

- (1)「自己アピール、謎解き授業」のガイダンス
- (2) 最もタフで繊細な情報作りである広告情報の演習 = 利益社会へのデビューにこれは必要不可欠
- (3) 自己プロデュース方法 = 自分の目標宣言と、そのアピール方法の体得
- (4) 洞察力の保有
目撃・観察から「何故」を發する行為の体得 = 取材、一歩踏みこむ
「何故」を解く仮説設定方法の体得 = 「ひょっとすると、こうではないか」という洞察力保有
- (5) 論文の作り方 = 目撃・観察・洞察・発見の重要性と、「謎解き情報設計」の体得
論文作りが難しくなく、この作法を身に付けることが如何に人生に役立つかを具体的に指導します。したがって最後は論文提出です。

履修者へのコメント：

何かを表現する場合、最後は文章力がモノを言います。文章を書くのが苦手な人、大歓迎。もちろん書くのが大好きな人も歓迎。学期終了時に驚くほど情報作りが好きになり、上手くなった自分を發見できるでしょう。講義は一方通行ですが、毎回演習課題を出します。その指導は個別添削。メールでの質問・相談にも応じます。指導コンセプトは「発育」。ひとりひとりに潜んでいる可能性を發見し、その可能性を育む。教育指導は、その手段であると考えます。

成績評価方法：

- ・出席 40%
- ・演習課題 40%
- ・テスト 20%

課題提出が最大の評価ポイント。

質問・相談：

メールで受け付けますが、ウイルス感染防止のため必ず大学から送信してください。それ以外は開封いたしません。

e-mail:tatsuom@mbk.nifty.com

授業科目の内容:

コミュニケーション技術の発展により、誰でも気軽に映像を撮って表現したり、メッセージを発信したりできるようになってきました。また、メディア・メッセージを積極的に読み解くだけでなく、自らがメッセージや情報発信をする力としての「メディア・リテラシー」がますます重要と考えられるようになってきています。本講義では映像制作実践を通じて、よりよいメディア・シチズンとしての基礎的な発想、表現、そして実技能力を身に付けることを目標としています。また、映像制作過程において、いろいろな人たちとかわり、その中で社会や他者に対する理解を深めていくプロセスを大切にしながら、伝えたい人に伝えることの難しさや面白さを体験してほしいと思っています。

授業の計画:

春学期

- (1) 映像撮影や編集機材の使用方法を学ぶ
基本的な機材の使い方や映像制作に必要なテクニックを学びます。
- (2) 映像作品を読みとく
一般市民が制作した“良い作品”を見て、「誰に何をどのように伝えるか」という意味でのメッセージ伝達について考えます。
- (3) 映像コンテンツを制作する
個人またはグループで企画・構成・取材・撮影・編集加工という映像制作過程を体験し、映像コミュニケーションを身に付けてもらいます。

秋学期

ドキュメンタリー作品を制作する。

また、昨年同様、市民メディアグループの放送イベント参加を通して、より規模の大きな映像制作も予定しています。

履修者へのコメント:

映像制作の技術習得ではなく、あくまでも映像を通してのコミュニケーションのあり方を体験的に学習することに主眼を置いています。また、クラス授業時間外での作業(撮影・編集)が必要になります。メディア・コミュニケーション実習はの事前履修が望ましいですが、だけの履修も可能です。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点:出席状況および授業態度による評価
- ・映像作品

映像コンテンツ制作 (春)

映像コンテンツ制作実践に向けた基礎ステップ
映像表現の文法・作法を習得する 金 山 勉

授業科目の内容:

映像コンテンツ流通の重要性が社会的にも大きくとりあげられるようになり、総務省や通産省でもアジア諸国をはじめ、世界に向けた映像コンテンツ流通発信のための対策を検討しています。大学では情報ネットワークの拡張とテクノロジーの統合、ユビキタス環境の導入に伴う映像コンテンツ流通体制充実の必要性も指摘しています。それと同時に望まれるのがこれらの技術や政策を学ぶ学生たちが映像表現方法の基礎的な力をしっかり身に付けることです。映像コンテンツ制作では、映像コンテンツ制作に関わる際の基本的な枠組み作り(プロダクション)の力を確実に身に付けてもらうことを目的としています。

テキスト:

金山勉・金山智子『やさしいマスコミ入門』勁草書房(2005年)

参考書:

授業時に紹介する。

授業の計画:

映像コンテンツ制作では、映像コンテンツ制作のための基礎能力の獲得と初歩的な番組制作実践について学びます。映像表現をす

る際の事前準備の重要性について講義し、企画書、画コンテの作成、さらに屋外(フィールド)での撮影、編集までを個人レベルで取り組んでもらいます。全体の流れは以下の通りです。

映像コンテンツ制作 (春学期)

- ・映像メディア・コミュニケーションへの招待(2回)
- ・映像コンテンツ加工のための機材とその機能を知る(2回)
- ・映像コンテンツ制作のための基礎能力(2回) コンティニューティ、フレーミング
- ・番組企画とは(2回) ミニ企画プロジェクトの実践に向けて
- ・番組制作実践(5回) カメラ取材と編集

履修者へのコメント:

映像コンテンツ制作では受講生の自主性を最大限尊重し、自由な発想や可能性の追求を歓迎します。講義は春学期と秋学期でそれぞれ独立していますが映像コンテンツ制作とを連続して受講することにより、総合的な力を身につけることができるようにプランされていますので両方セットで受講することを希望します。

成績評価方法:

- ・映像コンテンツ制作のプロセスと番組完成度に対する評価 (60パーセント)
- ・出席と平常制作準備活動の評価 (40パーセント)

質問・相談:

授業終了時、および電子メールで受け付けます。

映像コンテンツ制作 (秋)

映像コンテンツ制作実践に向けた応用編
スタジオプロダクションを実体験する 金 山 勉

授業科目の内容:

本講座では映像コンテンツ制作への取り組みを通じて、映像コンテンツ中に含まれる独特の映像作法、メディア環境、さらに映像文化について考察すると共に、スタジオでの映像コンテンツ制作を通じて映像メディア・コミュニケーションの実践プロジェクトに携わることが制作者に感動と興奮を生むことを体験してもらいます。コンテンツ制作の感動を求めるがあまり、制作者が個人の主張や意図を一方的に発信したくなるなど、映像コンテンツ制作の中から生まれるメディアの課題もみずから体験することになると考えます。これらの経験が受講生のメディア・ジャーナリズムへの考察を深化させることにつながることを期待します。

テキスト:

金山勉・金山智子『やさしいマスコミ入門』勁草書房(2005年)

参考書:

授業時に紹介する

授業の計画:

映像コンテンツ制作では編集加工された取材コンテンツ映像(編集VTR)を活用したスタジオの企画番組制作に取り組みます。全体の流れは以下の通りです。

映像コンテンツ制作 (秋学期)

- ・映像メディア・コミュニケーション力のアップに向けて(2回)
- ・フィールドカメラ素材を取り込んだ映像メディアコンテンツ制作(1回)
- ・スタジオカメラを利用した映像メディアコンテンツ制作(2回)
- ・番組企画プロジェクトチームの結成と番組企画の実践(2回)
- ・番組制作実践とプリプロダクション(4回)
- ・番組制作リハーサルと本番収録(2回)
*フィールドカメラによる自主素材を交えた番組制作

履修者へのコメント:

映像コンテンツ制作では、映像コンテンツ制作で蓄積した映像構成の基礎理解や番組企画のノウハウをさらに発展させることを狙っています。講義は春学期と秋学期でそれぞれ独立して完結しますが、映像コンテンツ制作とを連続して受講することを希望します。

成績評価方法:

- ・映像コンテンツ制作のプロセスと番組完成度に対する評価 (60パーセント)
- ・出席と平常制作準備活動の評価 (40パーセント)

質問・相談：

授業終了時、および電子メールで受け付けます。

メディア・ネットワーク実習 ・ (春)(秋)
「放送と通信」融合のしくみ・導入編 田 辺 浩 介

授業科目の内容：

コンピュータ・ネットワーク技術について、解説と基礎的な実習を行います。「放送と通信の融合」に対する技術的な理解を高めることを目標とします。

テキスト：

特に指定しませんが、IT 関連のニュースサイトには目を通しておくようにして下さい。

参考書：

特に指定しませんが、IT 関連のニュースサイトには目を通しておくようにして下さい。

授業の計画：

1. コンピュータの基礎（ハードウェア，ソフトウェア）
2. ネットワークの基礎（IP，DNS，各種プロトコル）
3. Webの基礎（HTML，WEB上のファイル形成）
4. ネットワークの構築（配線，サーバー設定）
5. 音声・映像配信の実践（ライブストリーミング，Podcasting）
6. 動的 Web サイトの構築（CMS）

履修者へのコメント：

- ・実習の多くはMWRのアカウントを利用して行います。
- ・映像制作の講義と同時に受講することをおすすめします。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

随時電子メール、または講義用 Web ページで受け付けます。

電子ネットワーク調査法（秋）（日吉）
ネットワーク上のメディア情報を探索する 菅 谷 実

授業科目の内容：

ネット上には全世界の多様な情報が膨大な数存在していますが、どこにどのような情報が存在しているかを熟知している人は多くありません。ここでは、はじめにメディア、ネットワーク産業、情報通信政策に関わる情報を収集するために必要な探索法とサイトの利用法を紹介します。さらに、受講者の興味に従い特定のテーマで情報を収集し、それをプレゼンする効果的方法を学びます。

テキスト：

特に使用しません

授業の計画：

本年は以下の予定で講義を進めます（カッコ内は授業回数）

オリエンテーション (1)

ネット情報探索法 (8)

インターネットとは

日本のメディア・ネットワーク産業

日本の情報通信政策

海外情報の探索

調査・研究サイト

情報収集実践とプレゼン (3)

受講者のプレゼン

まとめ (1)

履修者へのコメント：

ネットワークの情報検索に興味ある研究生の受講を歓迎します

成績評価方法：

平常点で評価する。

質問・相談：

毎回講義終了時に質問、相談を受け付けます。

時事英語 ・ (春)(秋)(日吉)
英文記事から学ぶ世界情勢 蓮 実 潔

授業科目の内容：

速報を重視する外国通信社や米有力紙の記事を教材に使い時事英語の読解力を養うとともに、世界情勢の現況と背景を学ぶ。

テキスト：

特に指定しない。できるだけ直近の報道をテキストにする

参考書：

特に指定しない

授業の計画：

ガイダンス（1時限）

比較的読みやすい通信社（AP 通信など）の配信記事読解（1時限）

主に米紙の記事を教材とし、米国の政治、議会、司法制度、経済の動向などを学ぶ（5時限）

中国や欧州、中東情勢に関する外国メディアの報道をフォローし、日本メディアとの視点の相違などに注意を払う（4時限）

、 、 ではナマの出来事を追いながら国際情勢の理解に必要な基本認識を深める

主要米紙の論説 (editorial) を読み、「主張するメディア」の在り方を探る（2時限）

後期も ~ のプロセスをほぼ踏襲する

履修者へのコメント：

完全なバイリンガルは別として、いくら英文記事を読めても、それを他人にも分かる滑らかな日本語に「変換」できなければニュースへの理解は浅いものにとどまる。講義中、いくら辞書を引いても構わない。積極的質疑を期待する。

成績評価方法：

レポートによる評価

文章作法 ・ (春)(秋)(日吉) 浜 村 寿 紀

授業科目の内容：

文章作成技術の基本を固める。企業などの競争試験に備えるとともにジャーナリスティックな視点の涵養を図る。

参考書：

随時指定する。

授業の計画：

テーマを提示した作文演習が中心。文章作成の前提となる情報収集（取材）についても実習を含めた技術指導を行う。インターネットエイジのコミュニケーションに関するエクササイズも実施する。

履修者へのコメント：

メディア業界希望者はもちろん他の業種希望者にも役立つ講義にするつもりです。

成績評価方法：

随時提出の作文による評価

質問・相談：

講義時間、および E-mail。受講者の希望があればブログ等も活用する。

体 育 科 目 (三田設置) (体 育 研 究 所)

実施場所・教室変更、休講、授業時間割変更等の連絡事項は、三田設置科目については共通掲示板(西校舎)に、日吉設置科目については、体育科目掲示板(日吉 J11 番教室前)にすべて掲示します。履修者は常に掲示に注意してください。

体育科目(日吉)の時間割、講義要綱・シラバス等は、学事センターで閲覧できます。

体育科目の履修に関して質問のある場合は、学事センターで相談してください。

三田地区の学生は、日吉設置の体育科目を履修することができますが、三田でも、体育実技 A(ウィークリー・スポーツ)が、8科目(テニス、バレーボール、フットサル、合気道、弓術、剣道、柔道、ダンス)開講されています。

履修の方法等については以下のとおりですが、学部により単位の取り扱いが異なります。各自、学部学則をよく読んで履修するようにしてください。

1 体育科目のねらい

体育科目は、「身体」に関わる様々な事象を体験・理解し、社会における自己の存在を見つめ、人間を理解していくことに大きなねらいがあります。特に、言語化された知識を越えて、自己の身体が体現する「身体知」を理解・獲得することで豊かな人間の形成をめざすものです。各開講科目には、このねらいに通ずる様々なアプローチがあり、それぞれに細分化された目標が立てられています。

2 体育科目の構成

体育科目には、「体育学講義」、「体育学演習」、「体育実技 A」、「体育実技 B」の4科目があります。学部、学科によって科目の取扱いや単位認定の上限が異なりますので、所属する学部、学科の学習指導要項をよく読んで履修するようにしてください。各科目の概略は以下のとおりですが、詳しくは、本書とともに日吉の講義要綱・シラバスを参照してください(学事センターで閲覧できます)。

(1) 体育学講義 (2単位).....「身体」「健康」「運動」等に関する講義。

(2) 体育学演習 (1単位)..... 講義+実習による演習形式の授業。

(3) 体育実技 A (1単位).....「身体活動」実技 A~Dの4段階評価。

ウィークリー・スポーツ

シーズン・スポーツ

(4) 体育実技 B (1単位).....「身体活動」実技 P(合)・F(否)(Pass/Fail)の2段階評価。

ウィークリー・スポーツ

シーズン・スポーツ

体育実技には「体育実技 A」と「体育実技 B」がありますが、特に成績評価の方法が異なることに注意してください。なお、「体育実技 A」と「体育実技 B」、ともにウィークリー・スポーツとシーズン・スポーツがあります。その概要は以下のとおりです。

ウィークリー・スポーツ.....週1回半年(春学期または秋学期)の授業。

シーズン・スポーツ.....夏季休業中(7月~9月)または春季休業中(2月)の7日間の授業。ただし、合宿科目は原則として3泊4日。

3 2003年度以前に入学した諸君へ

2004年度より、保健体育科目から体育科目へと名称変更になり、個々の科目名や内容も変更されています。すでに保健体育科目を履修していて、さらに体育科目を履修しようとする場合は、所属する学部、学科の学習指導要項をよく読んで履修するようにしてください。

4 三田設置科目履修申告までの流れ

4月7日(金)

体育科目ガイダンス(三田)

体育科目の履修を希望する場合は、履修案内と時間割を持参のうえ出席してください。
1限および2限 522番教室(いずれの時限も同内容)

4月7日(金)
~20日(木)

定期健康診断を受診(日吉)

実技科目(スポーツクラス)を履修する場合は大学保健管理センターが日吉で実施する定期健康診断を必ず受診してください。(この期間に受診できない場合は、5月に三田で実施する定期健康診断を受診してください。)

実施場所: 日吉記念館

日吉の定期健康診断日程は以下のとおりです。

受付時間		9:00~12:30	14:00~15:30	受付時間		9:00~12:30	14:00~15:30
4月7日	金	女子(10時開始)	男子	4月14日	金	男子	男子
8日	土	男子	男子	15日	土	女子	女子
9日	日			16日	日		
10日	月	女子	男子	17日	月	男子	男子
11日	火	男子	男子	18日	火	男子	女子
12日	水	男子	女子	19日	水	女子	男子
13日	木	男子	女子	20日	木	男子	

現在、運動に制限がある治療中の病気・ケガがある場合は、必ず健康診断受診の際に診断書(制限について記載のあるもの)を持参してください。診断書の持参がない場合、体育実技履修の可否判定ができないことがありますのでご注意ください。

健康診断受診後、学生証裏面に健康診断済証明印を押します。この証明印がないと実技科目(スポーツクラス)の履修はできません。

健康診断の結果、「体育2」、「体育3」と判定された場合は、日吉学事センター総合窓口へ申し出てください。

授業開始時まで健康診断を受診していない場合は、授業担当者に必ず申し出てください。

4月10日(月)
~14日(金)

体育研究所許可証の取得

体育科目時間割に従い、第1週目の授業で体育研究所許可証を発行します。秋学期科目も同授業で発行します。発行数は定員分までです。

第1週目の授業に出席できない者のために、各日12時30分から14時まで、三田綱町グランド武道館玄関にて体育研究所許可証を発行する時間を設けていますが、発行するのはその時点で定員に達していない授業だけです。

第1週目の授業に定員以上の履修希望者が集まった場合は、その場で抽選を行い、定員分の体育研究所許可証取得者を決定します。

4月14日(金) 8:30
~15日(土) 15:00
4月17日(月)
8:30~15:00

Webによる履修申告期間

学事Webシステムによる履修申告が必要です。

履修申告用紙の場合は、必ず申告用紙のコピーを保管しておいてください。

各学部の履修案内をよく読んで正確に履修申告してください。

秋学期科目を履修する場合も必ずこの期間中に履修申告をしてください。

履修者数の調整について

体育研究所許可証を取得した学生は、履修申告すれば、必ずその科目を履修できます。体育研究所許可証を未取得であっても、履修申告はして構いません。ただし、許可証取得者が優先され、それでも定員に不足が生じた場合に限り、未取得者の中で抽選が行われます。

4月22日(土)

履修者数調整結果発表

9時 日吉 第4校舎B棟1階 J11番教室前掲示板

10時30分 三田 西校舎共通掲示板

追加履修を受け付ける、定員に余裕のある科目も同時に発表します。

追加履修は抽選で外れた場合のみ、外れた単位数の範囲で認めます。それ以外の追加は一切認められません。

追加履修のためには、体育研究所許可証の取得と修正申告の手続きが必要です。

三田設置科目の体育研究所許可証は各授業で発行します。各授業で許可証を取得し、定められた期間に学事センターで修正申告を行なってください。

5 日吉設置科目履修申告までの流れ

**4月5日(水)
~7日(金)**

体育科目ガイダンス(日吉)
体育科目の履修を希望する場合は、履修案内、講義要綱・シラバス、体育科目時間割を持参のうえ出席してください。

4月5日 10:45 541・613・623 番教室
6日 10:45 J11・J21・39 番教室
7日 10:45 613・614・623 番教室

**4月7日(金)
~20日(木)**

定期健康診断を受診(日吉)
実技科目(スポーツクラス)を履修する場合は大学保健管理センターが日吉で実施する定期健康診断を必ず受診してください。(この期間に受診できない場合は、5月に三田で実施する定期健康診断を受診してください。)
実施場所: 日吉記念館

現在、運動に制限がある治療中の病気・ケガがある場合は、必ず健康診断受診の際に診断書(制限について記載のあるもの)を持参してください。診断書の持参がない場合、体育実技履修の可否判定ができないことがありますのでご注意ください。

健康診断受診後、学生証裏面に健康診断済証明印を押します。この証明印がないと実技科目(スポーツクラス)の履修はできません。

健康診断の結果、「体育2」、「体育3」と判定された場合は、日吉学事センター総合窓口に出してください。

授業開始時まで健康診断を受診していない場合は、授業担当者に必ず申し出てください。

**4月10日(月)
~14日(金)**



体育科目ガイダンス週間(日吉)
体育科目の時間割どおりに実施します。
ただし、実技科目はこの期間のみ、すべて日吉記念館スタンドで行います(時間割の実施場所ではありません)。
各時限とも同一内容のガイダンスを、前半・後半の2回行います。
シーズン・スポーツの科目は個別のガイダンスはありません。日吉記念館(総合案内)で担当教員の説明を受けてください。

科目ガイダンス	場 所
体育学講義	時間割指定教室
体育学演習	時間割指定教室
ウィークリー・スポーツ(実技A・実技B)	日吉記念館スタンド
シーズン・スポーツ(実技A・実技B)	日吉記念館(総合案内)

レベルの高低や、自己の都合などによる履修の取消、変更はできません。

**4月14日(金) 8:30
~15日(土) 15:00
4月17日(月)
8:30~15:00**

Web による履修申告期間
学事 Web システムによる履修申告が必要です。
履修申告用紙の場合は、必ず申告用紙のコピーを保管しておいてください。
各学部の履修案内をよく読んで正確に履修申告してください。
秋学期科目を履修する場合も必ずこの期間中に履修申告をしてください。

 4月22日(土) 	履修者数調整結果発表 9時 日吉 第4校舎B棟1階 J11番教室前掲示板 10時30分 三田 西校舎共通掲示板
--	--

体育実技 A, 体育実技 B, 体育学演習では, 履修希望者が定員を上回った場合, 抽選による履修者数の調整を行います。履修申告した者は, 履修の可否を必ず確認してください。ただし, 体育学講義は, 抽選による履修者数の調整は行いません。

シーズン・スポーツのアウトドアレクリエーション, 山岳, スキー, スケート, 馬術, ヨット, 水泳(オープンウォータースイミング)の履修者は後述の実技費用納入の手続きを行ってください。

4月24日(月) ~5月10日(水)	追加履修について 履修調整の結果, 定員に余裕のある実技科目・演習科目は追加履修することができます。 追加履修は抽選で外れた場合のみ, 外れた単位数の範囲で認めます。それ以外の追加は一切認められません。
5月8日(月) ~10日(水)	追加履修するためには, 体育研究所許可証の取得と, 修正申告期間中の修正申告の2つの手続きが必要です。 履修調整結果を再確認し, 誤りのないようにしてください。

体育研究所許可証の取得手続き

定員に余裕のある科目について, 以下のとおり申し込み順に受け付けます。定員に達した科目は締め切ります。

受付日時	申込場所
4月24日(月) 9:15~11:30, 12:30~16:00 4月25日(火) 9:15~11:30, 12:30~15:00	体育研究所
4月26日(水)~5月10日(水)(平日のみ) 受付時間 8:45~17:00 (最終日 16:00終了)	日吉学事センター総合窓口

春学期ウィークリースポーツの追加履修を希望する場合は, 必ず24・25両日中に体育研究所許可証を取得してください。26日以降は取得できません。

修正申告の手続き

で受け取った体育研究所許可証を持参し, 定められた期間に学事センターで履修申告を行ってください。

いずれの手続が不足しても追加履修はできません。また, 所属する学部が追加履修を認めていない場合は, 行っても修正申告の手続はできません。

6 シーズン・スポーツ(合宿科目)の実技費用納入について

(1) シーズン・スポーツのうち, 以下の合宿形式7科目については, 指定期間内に実技費用の納入が必要です。

実技費用納入科目 アウトドアレクリエーション・山岳・スキー・スケート・
馬術・ヨット・水泳(オープンウォータースイミング)

実技費用納入日時	受付時間	受付場所
4月24日(月)~4月27日(木)	8:45~17:00	日吉学事センター総合窓口(納入用紙交付)

上記科目は, 履修申告しても費用を納入しなければ参加できません。

費用が納入期間に間に合わない場合は, 総合窓口に申し出てください。申し出なく期間内に納入しなかった場合は, 履修放棄として取り扱います。(DまたはF評価)

(2) 実技費用納入締め切り後, なお人員に余裕がある科目については, 追加履修を受付けます。

体育実技実施要項〔三田設置科目〕

体育実技 A (ウィークリー・スポーツ)

球技

体育実技 A (テニス) 月曜 1 限
(上級)

堀場 雅彦

〔授業の目的〕

テニスの技術習得と体力の向上。

〔実施場所〕

綱町グラウンド テニスコート (屋外)

〔服装・携行品・その他〕

硬式テニスラケット, シューズ (ハードまたはオールコート用)

〔授業の計画〕

1 限 (90 分) の計画

05 準備体操

10 球出しによるウォーミングアップ, フォア・バックハンド
ストローク

30 サービス, シングルス・ダブルスポジションにて

40 ペア・ボレーボレー

50 ダブルスゲーム, MIX・男子・女子

85 総括

半期 13 回の計画

毎週, 毎回上記 1 限計画の流れで基本的に授業を進めるが, 参加者数により, ラリー (クロス・ストレート), シングルスゲームをカリキュラムに採用する場合あり。

ストローク・サービス・ボレーの各ショット別練習中に, 以下ポイントに沿ったアドバイスを個別または全体に与える。

1 ~ 3 週: 腕の振り

4 ~ 6 週: 身体のバランス

7 ~ 10 週: 足捌き (フットワーク)

11 ~ 13 週: 総括および戦術

〔履修者へのコメント〕

テニスはサッカーについて, 全世界 120 以上国以上に普及した国際的スポーツです。また, 国内でも全国市町村に必ずと言っていいほど公営コートが完備されています。全日本大会も, 5 歳刻みで 85 歳までのカテゴリーに分けられ, 腕を競い合っています。正にグローバルゼーション・高齢化に最も適したスポーツと言えましょう。社会に出る前に, 是非手習いをしておきたいスポーツです。

〔成績評価方法〕

平常点: 出席状況および授業態度による評価 (出席・技術・態度・理解の 4 項目を点数化し, その合計点で評価します。4 項目の配点等については科目ガイダンス時に説明します。)

体育実技 A (テニス) 水曜 2 限
(初級)

村松 憲

〔実施場所〕

綱町グラウンド (屋外ハードコート) 三田キャンパス西門から徒歩 3 分程度

〔服装・携行品・その他〕

テニスシューズ, テニスラケット (シューズ, ラケットの貸し出しはありません), 運動に適した服装

〔雨天時の対応〕

室内でボレーの練習等の実技を行います

〔授業の計画〕

以下のような予定ですが, 履修者の技術水準等を考慮して若干変更する場合があります。

1~2 回目 ボールとラケットに親しむための基礎練習

3~6 回目 ボレー, サービス, グラウンドストローク, スマッシュの基礎練習

7 回目以降 クロスコートでのポイント形式練習, ダブルスの試合形式練習

〔履修者へのコメント〕

テニスがかく初めての方でも大丈夫です。また, 少し経験はあるけれども基礎を確認したい, という方も歓迎します。

かなり経験を積んだ方が参加しても構いませんが, あくまで, 初級者にレベルを合わせて授業をすすめますので, あらかじめご理解下さい。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の 4 項目を点数化し, その合計点で評価します。

〔質問・相談〕

村松までメールでご連絡下さい mura@hc.cc.keio.ac.jp

体育実技 A (テニス) 水曜 3 限
(中級)

村松 憲

〔実施場所〕

綱町グラウンド (屋外ハードコート) 三田キャンパス西門から徒歩 3 分程度

〔服装・携行品・その他〕

テニスシューズ, テニスラケット (シューズ, ラケットの貸し出しはありません), 運動に適した服装

〔雨天時の対応〕

室内でボレーの練習等の実技を行います

〔授業の計画〕

以下のような予定ですが, 履修者の技術水準等を考慮して若干変更する場合があります。

1~3 回目 サービス, ボレー, グラウンドストローク, スマッシュ, リターン等, 基礎技術の確認と練習

4~6 回目 回転をかけるサービス, ジャンピングスマッシュなど, 試合を有利にする上で役立つ応用技術の確認と練習

7 回目以降 クロスコートでのサービスからのポイント形式練習, ダブルスの試合形式練習

〔履修者へのコメント〕

このクラス (中級) では, 「技術レベルがどこまで到達したか」(どの程度向上したか, だけでなく) という点も成績評価の対象とします。したがって, 「打ち合いで安定して 10 往復以上続けることができる (相手が打ちやすいボールを出してくれた場合) こと」が難しい方にはおすすりできません。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の 4 項目を点数化し, その合計点で評価します。

〔質問・相談〕

村松までメールでご連絡下さい mura@hc.cc.keio.ac.jp

体育実技 A (テニス) 火曜 1 限
(初中級)

加藤 大雄

〔授業の目的〕

生涯スポーツとしてのテニスの基本的技術と, ルールの習得

〔実施場所〕

綱町グラウンド テニスコート

〔服装・携行品・その他〕

テニスラケット, テニスシューズ, 運動ができるウェア

〔授業の計画〕

2回をセットとして、フォアハンドストローク、バックハンドストローク、サーブ、を技術指導していく。その後は技術の習熟度によって内容を決めていく。比較的自由的な雰囲気です。3回の技術力テストを行う。雨天時は当日の朝、掲示する。

〔履修者へのコメント〕

テニスに意欲のある生徒を望む。

〔成績評価方法〕

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席（60%）、技術（10%）、態度（20%）、理解（10%）の項目を点数化し、その合計点で評価する。）

体育実技A（テニス） 火曜2限
（中上級）

加藤 大雄

〔授業の目的〕

生涯スポーツとしてのテニスの基本的技術と、ルールの習得ならびに、テニスにおける戦術の指導。

〔実施場所〕

綱町グラウンド テニスコート

〔服装・携行品・その他〕

テニスラケット、テニスシューズ、運動ができるウェア

〔授業の計画〕

戦術的な説明をしつつ、フォアハンドストローク、バックハンドストローク、サーブ、ボレー、スマッシュを技術指導していく。その後は技術の習熟度によって内容を決めていく。比較的自由的な雰囲気です。実践的な練習が多い予定。雨天時は当日の朝、掲示する。

〔履修者へのコメント〕

テニスに意欲のある生徒を望む。

〔成績評価方法〕

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席（60%）、技術（10%）、態度（20%）、理解（10%）の項目を点数化し、その合計点で評価する。）

体育実技A（バレーボール） 木曜1限・2限

野口 和行

〔授業の目的〕

チームスポーツであるバレーボールの実践を通して、個々の技術レベルに応じた役割分担をしながら、相互のコミュニケーションを促進する。

〔実施場所〕

綱町グラウンド バレーボールコート

〔服装・携行品・その他〕

運動できる服装・屋外シューズ

〔授業の計画〕

1. 個人の技術レベルの向上（4回）
パス、スパイク、ブロック、サーブ等の個人技能のレベル向上を図る。ラリーを楽しむことを主眼としたゲームの実施。
2. 集団技能の学習とフォーメーションの理解（4回）
サーブレシーブフォーメーション等のフォーメーションの理解。フォーメーションを利用したゲームの実施。
3. リーグ戦形式のゲームの実践
個々の技術レベルに応じてチーム内での役割分担を決め、ゲームを楽しむ。ゲームで利用できるような個人技能のレベルアップ。

〔履修者へのコメント〕

積極的にチームのメンバーとコミュニケーションをとり、技術レベルを問わずバレーボールのゲームを楽しめるような授業にしたいと思っています。

〔成績評価方法〕

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席（60%）、技術（10%）、態度（20%）、理解（10%）の項目を点数化し、その合計点で評価する。）

体育実技A（フットサル） 水曜2限・3限

須田 芳正

〔授業の目的〕

フットサルの技術、戦術を習得し、ゲームの中でフットサルの魅力、楽しさを体験することを目的とする。

〔参考書〕

- フットサル教本（松崎康弘、須田芳正著、大修館書店）
- フットサル攻略マニュアル100（須田芳正著、NHK出版）

〔授業の計画〕

- 1回、ガイダンス（場所は銀座 de フットサル 田町スタジアム）
- 2~4回、技術練習とゲーム形式
テーマ：ボールフィーリング、パス&コントロール、シュート
- 5~8回、戦術練習とゲーム形式
テーマ：4対2、フォーメーショントレーニング
- 9回以降、ゲーム形式
テーマ：チームを固定してのリーグ戦

〔履修者へのコメント〕

積極的に授業へ参加する学生を歓迎します。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等についてはガイダンス時に説明する。

〔質問・相談〕

実施場所は銀座 de フットサル 田町スタジアム
所在地：港区芝5-36-7札の辻パーキング2F
JR 田町駅 三田口 西口、都営地下鉄三田駅より徒歩3分

武道

体育実技A（合気道） 木曜2限

藤平 信一

〔授業の目的〕

合気道の実技を通して、心と身体からだの正しい使い方しんしんどういつ（心身統一）を習得する。
心身統一を日常生活で活用できるように習得する。
大切な場面での心の落ち着きを習得する。危険に対する察知と対応を習得する。

〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館

〔服装・携行品・その他〕

道着は貸与。Tシャツ（女子のみ）・タオル（汗をふくため）・道着を持ち運ぶバッグ等。

〔授業の計画〕

- 半期前半
 - ・合気道基本技
 - ・心が身体を動かす（心身統一）
 - ・正しい姿勢（自然に安定した姿勢）
 - ・安全な受身と間合い
- 半期後半
 - ・合気道応用技
 - ・正しいリラックス（虚脱状態との違い）
 - ・大切な場面での心の落ち着き
 - ・危険に対する察知と対応

春学期と秋学期ではテーマは同じですが、内容は異なります。半期が基本ですが、通年で履修をすると理解がさらに深まります。

〔履修者へのコメント〕

基礎から確実にお伝えしますので、合氣道を初めて学ぶ方でも安心して学べます。

半期で一通りのことを学ぶことが出来ますが、しっかりとした習得には通年での履修をおすすめします。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等については科目ガイダンス時に説明する。）

体育実技A（弓術） 火曜1限・2限 小笠原 清忠

〔授業の目的〕

和弓に親しみながら、的中に興味を持たせる。
弓術を修練することにより礼節を身に付ける。

〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館（正己弓道場）

〔服装・携行品・その他〕

服装は運動の出来る服装（ボタンや胸ポケットのないもの）

〔授業の計画〕

- 1 道場内での礼儀作法。弓具の取り扱い。
- 2 素引き練習
- 3 習熟度合いにより距離を離して行射を行う。
- 4 正規の距離で行射を行う。

〔履修者へのコメント〕

雨天でも授業は行います。靴下又は足袋を必ず持参すること。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等については科目ガイダンス時に説明する。）

体育実技A（剣道） 水曜2限・3限 吉田 泰将

〔授業の目的〕

剣道をはじめて行うものから、有段者まですべてのレベルを対象に、初心者は一級に、有段者はさらにひとつ上の段に挑戦するために、基本的な技術、知識、日本剣道形を学習します。それぞれのレベルの人が協力して、クラス全体の実力アップを図りましょう。そして、生涯を通じて実践できる剣道をしっかりと身につけましょう。

〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館（剣道場）

〔服装・携行品・その他〕

剣道着・袴（運動に相応しい服装も可）・手ぬぐい
剣道具（防具）・竹刀は準備しています。

〔授業の計画〕

- 1 ガイダンス剣道の歴史 礼儀作法 構え方 足さばき 素振りの基礎
- 2 素振りのバリエーション 五行の構え 対人的足さばき
- 3 基本の復習 日本剣道形の導入・1本目
- 4 日本剣道形1~2本目 有効打突の理解 打突部位 基本的な技の打ち方
- 5 日本剣道形1~3本目 基本的な技の打ち方 防具の着け方
- 6 日本剣道形1~4本目 手の内の刃えについて 正中線の意味 切り返し
- 7 日本剣道形1~5本目 一本打ちの技
- 8 日本剣道形1~6本目 連続技(二・三段打ちの技)払い技 捲き技
- 9 日本剣道形1~7本目 応じ技(すり上げ技・返し技)
- 10 日本剣道形1~7本目 応じ技(抜き技・打ち落とし技)
- 11 日本剣道形小太刀1~3本目 出頭技
- 12 日本剣道形復習試合規則の確認 試合形式の実践
- 13 紅白試合まとめ

〔履修者へのコメント〕

剣道を通して、戦う技術はもちろん、対人的な行動のしかたや自分自身の心のコントロールなどを身につけてください。また、日本の伝統文化としての剣道を肌で感じ、国際感覚の向上や異文化コミュニケーションの題材としても活用してほしいものです。

〔成績評価方法〕

出席60%、技術10%、態度20%、理解10%の割合で点数化して評価する。

体育実技A（柔道） 月曜2限・3限 安藤 勝英
(初心者、経験者を問わない~男女共習)

〔授業の目的〕

柔道を通して技術、体力の向上を図り、これから生涯スポーツとして取り組むことの出来るよう行う。中でも礼法、受身、正しい技の掛け方等をより深く解説する。また、見る柔道の立場から、国際、国内ルールを説明する。更に、昇段希望者には、この授業の中で実地指導する。

〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館（柔道場）

〔服装・携行品・その他〕

柔道衣（希望者には貸与する）、タオル、Tシャツ（女子のみ）

〔授業の計画〕

- 1 講道館柔道の歴史とその内容。
- 2 柔道の基本的動作（礼法、受身、体捌き）
- 3 投げ技と受身の反復練習（大外刈、大内刈等）
- 4 投げ技と受身の反復練習（大腰、背負投等）
- 5 投げ技と受身の反復練習（送足払、払釣込足等）と約束稽古。
- 6 約束稽古から正しい乱取稽古への導入。
- 7 乱取稽古
- 8 乱取稽古
- 9 技の連絡変化。
- 10 固め技（抑込技、絞技、関節技）の説明。
- 11 固め技の説明とその稽古方法。
- 12 乱取稽古（立技、寝技）
- 13 試合方法、審判法（国内、国際ルール）の説明。

〔履修者へのコメント〕

この授業を通し、現行の試合を中心にした柔道ではなく、本来の組み方、技の掛け方の中から正しい柔道のあり方を理解して欲しい。
〔成績評価方法〕

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等、詳細については授業の際に説明する。）

個人種目

体育実技A（ダンス） 金曜2限・3限 篠原 しげ子
ボールルームダンス 入門 初級

〔授業の目的〕

種目ごとのリズムの特徴を理解し男女で組んで踊れるようになる。

〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館（剣道場）

〔定員〕

男性10名 女性10名

〔服装・携行品・その他〕

動きやすい服装 綱町道場の剣道場で行うためシューズは着用せず、ソックスを持参

〔授業の計画〕

金曜2時限目
春学期 ラテン入門（ジルバ ルンバ チャチャチャの基礎を4~5週間ずつ行う）

秋学期 スタンダード入門（ブルース タンゴ ワルツの基礎を
4～5週間ずつ行う）

金曜3時限目

春学期 初級・タンゴ

秋学期 初級・ワルツ

それぞれの種目を半期間と押して行う

1～3週 種目の特徴（リズム，姿勢，ホールド）を理解する

4～8週 数種類のフィギュアをつなげて一曲踊りとおせるよう
になる。

9～12週 さらにフィギュアの数を増やすとともに正確な踊りを
目指す

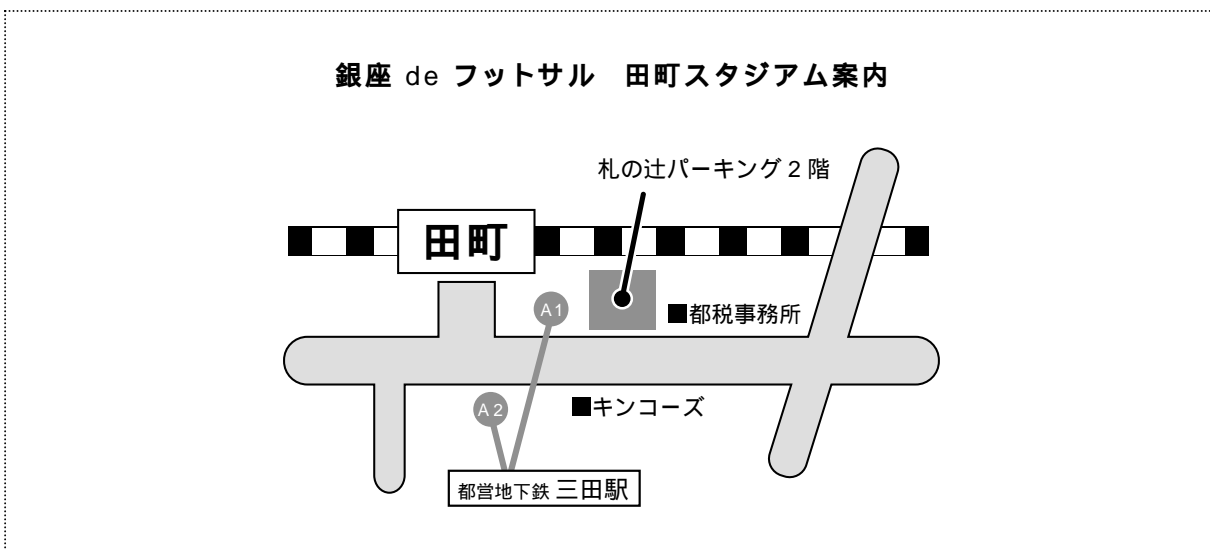
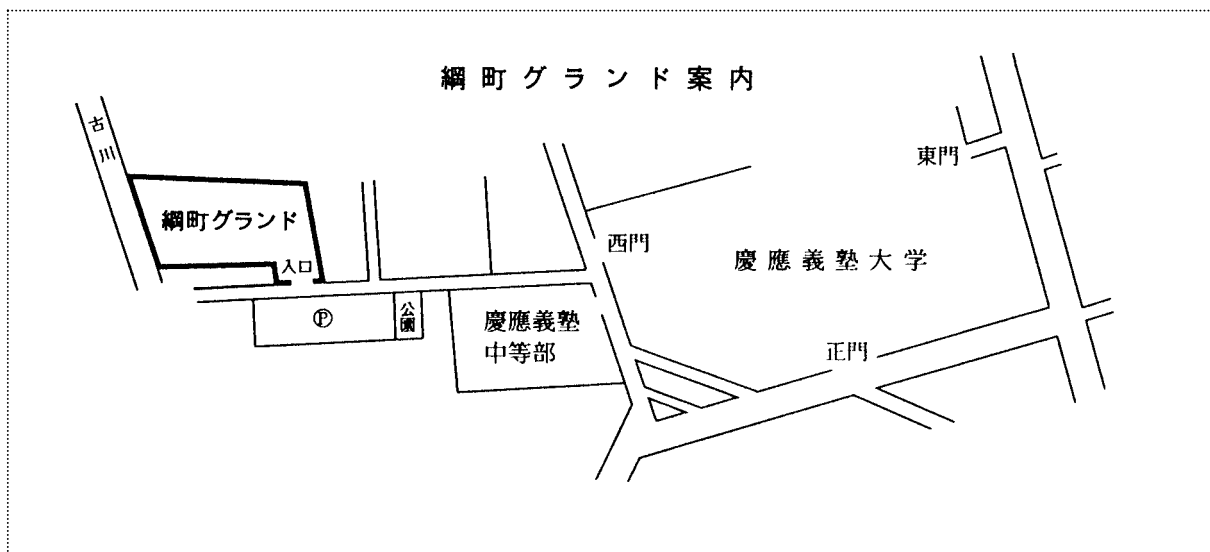
13～ 自分で好きな順番でつなげて踊れるように工夫する

〔履修者へのコメント〕

ガイダンス週間に種目のビデオを見ながら，それぞれの踊りの説
明をします。必ず参加して内容を把握して選択してください。

〔成績評価方法〕

平常点：出席状況および授業態度による評価（各時限に簡単なレ
ポート提出により，理解度 20，授業態度 20，出席状況 60 で採点）



福澤研究センター設置講座

慶應義塾福澤研究センターは、1983年に義塾創立125年を記念して、旧図書館内に設立された研究所です。この研究所の目的は、一つは福澤諭吉および慶應義塾に関する資料の収集・整理・保管ですが、単にそこにとどまるものではありません。同時に、福澤諭吉と慶應義塾を視野においた近代日本の研究も本研究所の重要な役割です。このような研究を目的としているのは、一面では、福澤諭吉や各界で活躍した慶應義塾出身者について研究することが、そのまま日本の近代化について考える大きな鍵となるからです。また他面では近代日本に広く目を配ることなしには、福澤諭吉と慶應義塾の歴史的意義も本当には理解できないからでもあります。

しかも、福澤諭吉に関する研究は、狭く日本の内部にとどまるものではありません。福澤が投げかけた近代化の課題は、19世紀以降の日本を含む世界中の後発国が直面した問題でした。このため、福澤諭吉に取り組むことは、例えばアジアの近代化を考えることに直接的にも間接的にもつながってゆきます。このように、各国にまたがる広い関連性を持った研究に本センターは関わっており、文字通り世界における福澤研究の中心として機能しています。

このような目的をかかげて、これまで福澤研究センターは、学術誌『近代日本研究』・資料集・叢書の刊行や、講演会、セミナー、展覧会などを開催してきました。また、これらの資料整理・研究活動は、23名の所員、11名の顧問、26名の客員所員、7名の事務スタッフ等により支えられています。

本設置講座は、このような活動を続けている福澤研究センターが、提供する大学講座です。講座の目的は、第1には、福澤研究センターを中心として、塾内外の研究者により行われてきた研究の学術的な成果を、講義・演習を通して学生諸君に受け止めてもらうことです。また、第2には、福澤諭吉や慶應義塾を視野においた近代日本史への関心を喚起することです。さらに、第3には、将来福澤諭吉研究者や大学・学校史の研究者に育ちうる人材を教育することがあります。そして、第4には、この講座を通して、21世紀の世界にとって、福澤諭吉の思想と慶應義塾の歴史が、いかなる意味を持っているかを考える機会をつくることを目指しています。

近年、慶應義塾で学びながら、義塾がいかなる歴史を持っていたのかを知らず、また福澤諭吉の著作を読むこともなく卒業する塾生が増えています。多くの学ぶべきことが他にもある現在、それはそれで一つの学生時代の過ごし方であることは確かです。しかし、福澤の著作は、その主張に賛成するものにとっても反発するものにとっても、面白く刺激的です。そのような福澤の著作に触れる機会もなく卒業することは、我々福澤研究センターのスタッフは惜しいことだと考えています。しかも、本設置講座は、文系の多くの学部では卒業単位や進級単位として認められています。

本年度は以下の6講義・演習を開講しますので、諸君の活発な履修を期待しております。

(慶應義塾福澤研究センターのホームページ <http://www.fmc.keio.ac.jp/>)

近代日本研究 (春学期)(2)

『学問のすゝめ』とその時代

法学部教授 岩谷 十郎
経済学部教授 小室 正紀
名誉教授 坂井 達朗
教職課程センター教授 米山 光儀

授業科目の内容:

福澤諭吉の初期の代表作『学問のすゝめ』は、明治5年2月から明治9年11月までの5年間にわたって、17編にわけて逐次刊行された。それは、福澤の生涯の中では、『文明論之概略』に結実する思想の形成期であった。また、この時期は、学制頒布、新橋・横浜間鉄道開通、徴兵令布告、征韓論、明六社結成、地租改正条例公布、民選議院設立の建白書、佐賀の乱、征台の役、立志社設立、江華島事件、萩の乱などの制度改革や事件が陸続する時であり、まさに揺籃期の明治社会にとっては、改革と模索の時期であった。

この講義では、『学問のすゝめ』各編を取り上げて、4人の担当者が分担して講義を行うが、単にその文面から福澤の思想を考えるだけではなく、同書の各編を、福澤の人生と初期明治社会の変動の中に位置付けることを目指したい。またその過程を通して、福澤の思想と近代日本社会形成の間にある緊張関係を考えてみたい。

テキスト:

福澤諭吉『学問のすゝめ』をテキストとするが、同書には様々な版がある。どの版でもかまわないが、受講者は必ず、同書を用意すること。

参考書:

- ・福澤諭吉『福翁自伝』(各種の版があります)
- ・慶應義塾編『福澤諭吉書簡集』第1巻、岩波書店、平成13年。
- ・石河幹明『福沢諭吉伝』岩波書店

授業の計画:

- 第1回 はじめに(小室正紀)
- 第2~4回 『学問のすゝめ』初編~4編
- 第5~7回 『学問のすゝめ』5編~8編
- 第8~10回 『学問のすゝめ』9編~13編
- 第11~13回 『学問のすゝめ』14編~17編

履修者へのコメント:

毎回、講義で取り上げる編をあらかじめ読んでおくこと。

成績評価方法:

レポートによる評価

質問・相談:

授業時間内に受け付けるとともに、コーディネーターの小室正紀のオフィス・アワーに質問を受け付ける。

近代日本研究 (秋学期)(2)

福澤研究センター助教授 西澤 直子

授業科目の内容:

福澤諭吉が近代社会に問いかけた「一身独立」そして「独立自尊」とは何であったのか。まずいくつかのトピックスを中心に生涯を通じて考察し、更に「土族社会」「家族論」をキーワードに再考を試みる。

テキスト:

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

参考書:

- ・『福澤諭吉書簡集』(岩波書店、2001~2003年)
 - ・『福澤諭吉著作集』(慶應義塾大学出版会、2002~2003年)
- 他は適宜授業中に紹介する。

授業の計画:

- 1 序論 授業テーマの説明および「一身独立」「独立自尊」に関する予備的考察
- 2 福澤諭吉の生涯と「一身独立」「独立自尊」
中津の学問的伝統
滞米滞欧体験
著作権確立運動
交詢社の設立
時事新報の創刊

朝鮮留学生

3 福澤諭吉と中津土族社会

「中津留別之書」「旧藩情」「福翁自伝」
中津市学校と土族授産

4 福澤諭吉の家族論

女性論
男性論
家族論

5 まとめ 授業を通して考察したことについての意見交換

履修者へのコメント:

知識を授受するのではなく、授業を通じて共に考えることを目的とする。

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価(論述形式)
- ・平常点:出席状況および授業態度による評価(出欠は取りませんが、積極的な参加は評価に加えたいと思います。)

質問・相談:

授業後。あるいは文書でも受け付けます。

近代日本研究演習 (春学期)(2)

法学部教授 寺崎 修

授業科目の内容:

この演習では福澤諭吉の政治思想を学ぶため、「分権論」、「通俗民権論」、「通俗国権論」などを読む。

テキスト:

『福澤諭吉著作集』第7巻(慶應義塾大学出版会)

参考書:

授業中に適宜紹介する。

授業の計画:

1. 序
2. 「分権論」を読む
3. 「分権論」の意義
4. 「通俗民権論」を読む
5. 「通俗民権論」の意図
6. 「通俗国権論」の読み方
7. 「国会論」を読む

履修者へのコメント:

履修条件は毎時間出席できる者。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点:出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

随時。

近代日本研究演習 (秋学期)(2)

福澤書簡の研究

講師 松崎 欣一

授業科目の内容:

福澤および近代日本研究の基礎史料としての福澤書簡について「授業の計画」に示す視点からの検討を行う。あわせて、写真版等により原書簡の読解演習を実施したい。

テキスト:

『福澤諭吉の手紙』(岩波文庫)

参考書:

- ・『福澤諭吉書簡集』全9巻(岩波書店刊)
- ・『福澤諭吉著作集』全12巻(慶應義塾大学出版会刊)
- ・富田正文『考証福澤諭吉』上・下(岩波書店刊)

授業の計画:

- 1) 福澤書簡概観...『書簡集』編纂の経緯、名宛人、年次別発信数等について。
- 2) 古文書学的視点からの検討...福澤書簡の形状、文体、用字、用語、筆跡等。
- 3) 福澤の伝記史料としての検討...新たな「福澤年譜」編成のための基礎的作業として。

- 4) 近代日本の同時代史的史料としての検討...福澤書簡の名宛人は約 600 人に及ぶ。その多くは、福澤と名宛人相互の私的な通信にとどまらず、周辺の人事やその時々、社会的諸事象に話題が及んでいる。いくつかのテーマを設定して検討する。
- 5) 書簡の読解演習...『福沢諭吉の手紙』(岩波文庫)をテキストとし、また原書簡の写真版等により読解の実習を行う。福澤研究センター所蔵の原書簡に触れる機会も作りたい。

履修者へのコメント：

「授業の計画」の具体的な展開は、受講者の所属、専攻、研究課題等を確認してあらためて考慮したい。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・出席状況による評価

質問・相談：

随時。

明治期日本女性論と福澤諭吉 (春学期)(2)

福澤研究センター助教授 西澤 直子

授業科目の内容：

福澤諭吉の女性論を中心に、明治期日本における女性論の展開を考える。

福澤の女性論・家族論は、同時代のみならず大正期・昭和期に入っても、たとえば与謝野晶子、本間久雄、山高しげりなど多くの人々に高い評価を得ながら、読み継がれてきた。それは福澤の指摘が今日的であり続けたからであり、つまりは近代化の過程において、福澤が提示した課題が克服され得なかったことを示している。近代日本において形成された女性像・家族像は、福澤の構想とは異なるものであった。

この授業では、福澤の著作を読むとともに、同時代の他者による女性論を比較講読しながら、福澤の意図はどこにあったのか、また最終的に社会的規範として受け入れられていった女性論がいかなるものであったのかを考察し、その視点から近代日本について考えたい。

授業は通常講義形式で行い、演習の時間は履修者による意見発表を行う。(履修者は最初の1時間の講義ののち、各自が参加する演習を決定する) では明六社、自由民権運動活動家、福澤諭吉の明治10年代までの女性論を扱う。

テキスト：

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

参考書：

『福澤諭吉著作集』第10巻(慶應義塾大学出版会, 2003年)
他は適宜授業中に紹介する。

授業の計画：

- 1 予備的講義
- 2 明六社の女性論
 - 1) 森有礼「妻妾論」・加藤弘之「夫婦同権ノ流弊論」・津田真道「夫婦同権弁」
 - 2) 福澤諭吉「男女同数論」
 - 3) 演習
- 3 自由民権運動の中の女性論
 - 1) 土居光華『文明論女大学』
 - 2) 岸田俊子「同胞姉妹に告ぐ」・福田英子『妾の半生涯』
 - 3) 植木枝盛『東洋の婦女』
 - 4) 演習
- 4 福澤諭吉の女性論・家族論
 - 1) 「中津留別の書」『学問のすゝめ』
 - 2) 「日本婦人論」『日本婦人論後編』
 - 3) 『男女交際論』『男女交際余論』
 - 4) 演習
- 5 まとめ

履修者へのコメント：

知識を授受するのではなく、授業を通じて共に考えることを目的とする。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価

- ・平常点：出席状況および授業態度による評価(授業中に意見発表の時間があります。)

質問・相談：

授業後。あるいは文書でも受け付けます。

明治期日本女性論と福澤諭吉 (秋学期)(2)

福澤研究センター助教授 西澤 直子

授業科目の内容：

福澤諭吉の女性論を中心に、明治期日本における女性論の展開を考える。明治期日本女性論と福澤諭吉 を参照のこと。

授業は通常講義形式で行い、演習の時間は履修者による意見発表を行う。(履修者は最初の1時間の講義ののち、各自が参加する演習を決定する) では明治20年以降の福澤の論説およびキリスト教主義者、儒教主義者の女性論を扱い、また福澤女性論の系譜について考える。

テキスト：

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

参考書：

『福澤諭吉著作集』第10巻(慶應義塾大学出版会, 2003年)
他は適宜授業中に紹介する。

授業の計画：

- 1 予備的講義
- 2 福澤諭吉の女性論・家族論
 - 1) 『日本男子論』
 - 2) 『女大学評論・新女大学』
 - 3) 演習
- 3 キリスト教主義の女性論
 - 1) 矢島楯子『東京婦人矯風雑誌』『婦人矯風雑誌』より
 - 2) 潮田千勢子『婦人新報』より
 - 3) 演習
- 4 儒教主義の女性論
 - 1) 丹靈源『国母論』・大江スミ子『女房説法鉄砲三ぼう主義』
 - 2) 井上哲次郎ほか『女大学の研究』
 - 3) 演習
- 5 福澤女性論・家族論の系譜
 - 1) 深間内基『男女同権論』・鎌田栄吉『鎌田栄吉全集』より
 - 2) 日原昌造 福澤研究センター所蔵『時事新報』社説原稿より
- 6 まとめ

履修者へのコメント：

知識を授受するのではなく、授業を通じて共に考えることを目的とする。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価(授業中に意見発表の時間があります。)

質問・相談：

授業後。あるいは文書でも受け付けます。

設置講座案内(三田)

外国語教育研究センターでは、英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、インドネシア語、アラビア語、およびイタリア語の9外国語について、「表現技法」をキーワードとし、「聴く」「話す」ことから出発し、「読み」「書き」さらに「発想・思考」にいたる外国語学習本来のプロセスを尊重し、各要素のバランスのとれた外国語コミュニケーション能力が確実に身につくよう、少人数編成のクラスで授業を行います。また、超上級クラス、基礎固めのクラス、各種の検定試験に特化したクラスも用意されています。さらに、これらの設置科目のほかに、学部で開講されている外国語科目の一部が外国語教育研究センターに併設されています。

外国語教育研究センターでは、夏休みに慶應立科山荘で行う外国語集中セミナーや春休みに行う海外短期語学研修、および高校生から大学院生を対象としたアカデミック論文コンテストなどを

企画しています。詳細が決定し次第、外国語教育研究センターのホームページや掲示で広報し、参加者を募る予定です。

以下に本年度開講される外国語教育研究センター設置科目の一覧を掲載します。ガイダンス、履修の手続き、および各科目の詳細な講義内容ならびに併設科目については、別途配布の『外国語教育研究センター 履修案内・講義要綱』を参照してください。

なお、『外国語教育研究センター 履修案内・講義要綱』は4月6日(木)に行われるガイダンスおよび外国語教育研究センター事務室でも配布します。

ガイダンス日程：4月6日(木) 12:30 ~ 531 番教室

各科目の履修希望者が定員を超えた場合は抽選あるいは選考となります。なお、外国語教育研究センターが履修を許可した科目は、必ず履修申告しなければなりません。

外国語教育研究センター設置科目一覧(三田)

*科目名に(a)(b)と表記されている科目は春(a)・秋(b)をセットで履修することが義務付けられている科目です。

*科目名に()と表記されている科目は春()と秋()どちらかひとつの履修あるいは両方の履修が可能です。

語 種	科 目 名	担当講師名	設置学期		曜日・時限	定員	形態	単位数
			春	秋				
英 語	英語最上級 アドバンスト英語(a)	横川 真理子	春		水・3	25	半期	1
	英語最上級 アドバンスト英語(b)		秋	半期			1	
	英語最上級 アドバンスト英語		春 秋	通年			2	
	英語翻訳(a)	アーマー, アンドルー J.	春		火・2	15	半期	1
	英語翻訳(b)		秋	半期			1	
	英語翻訳		春 秋	通年			2	
	英語テスト対策 TOEFL()	中村 優治	春		水・2	30	半期	1
	英語テスト対策 TOEFL()		秋	半期			1	
	英語テスト対策 TOEIC()	バロウス, リチャード	春		火・5	30	半期	1
	英語テスト対策 TOEIC()		秋	半期			1	
	英語テスト対策 TOEIC()	和田 朋子	春		火・2	30	半期	1
	英語テスト対策 TOEIC()		秋	半期			1	
	英語テスト対策 TOEIC()	横川 真理子	春		水・4	30	半期	1
	英語テスト対策 TOEIC()		秋	半期			1	
	英語テスト対策 TOEIC()	狩野 みき	春		月・4	30	半期	1
	英語テスト対策 TOEIC()		秋	半期			1	
	英語経済・金融()	日向 清人	春		月・3	30	半期	1
	英語経済・金融()		秋	半期			1	
	英語法律・法務()	日向 清人	春		月・4	30	半期	1
	英語法律・法務()		秋	半期			1	
英語オーラル・プレゼンテーション()(初級)	ファロン, ルース	春		月・3	20	半期	1	
英語オーラル・プレゼンテーション()(初級)		秋	半期			1		
英語アカデミック・ライティング()	和田 朋子	春		火・1	25	半期	1	
英語アカデミック・ライティング()		秋	半期			1		

語種	科目名	担当講師名	設置学期		曜日・時限	定員	形態	単位数
ドイツ語	ドイツ語表現技法 4(a) (中・上級聴解・口頭表現)	三瓶 慎一	春		月・3	25	半期	1
	ドイツ語表現技法 4(b) (中・上級聴解・口頭表現)			秋			半期	1
	ドイツ語表現技法 4 (中・上級聴解・口頭表現)		春	秋			通年	2
	ドイツ語表現技法 5(a) (中・上級文章表現法)	ドゥッペル=タカヤマ, メヒティルド	春		火・4	25	半期	1
	ドイツ語表現技法 5(b) (中・上級文章表現法)			秋			半期	1
	ドイツ語表現技法 5 (中・上級文章表現法)		春	秋			通年	2
フランス語	フランス語表現技法 ㄨ (DELF 第1段階対応クラス)	ルカルヴェ, クリステル	春		月・3	20	半期	1
	フランス語表現技法 ㄨ (DELF 第1段階対応クラス)			秋			半期	1
	フランス語表現技法 ㄨ (DELF 第2段階対応クラス)	ルカルヴェ, クリステル	春		月・4	20	半期	1
	フランス語表現技法 ㄨ (DELF 第2段階対応クラス)			秋			半期	1
	フランス語表現技法 ㄨ (DALF 対応クラス)	ペリセロ, クリスティアン・アンドレ	春		木・1	20	半期	1
	フランス語表現技法 ㄨ (DALF 対応クラス)			秋			半期	1
ロシア語	ロシア語表現技法 1() (映画とドラマでロシア語を学ぼう)	熊野谷 葉子	春		金・3	25	半期	1
	ロシア語表現技法 1() (映画とドラマでロシア語を学ぼう)			秋			半期	1
	ロシア語表現技法 ㄨ (ロシア語で発信しよう)	宮澤 淳一	春		水・3	25	半期	1
	ロシア語表現技法 ㄨ (ロシア語で発信しよう)			秋			半期	1
中国語	中国語聴解 ㄨ(最上級) (時事中国語)	山下 輝彦	春	秋	水・2	25	通年	1
	中国語表現技法 ㄨ(最上級) (作文と翻訳)	蔣 文明	春	秋	月・5	25	通年	1
スペイン語	スペイン語表現技法 ㄨ(上級)	安藤 万奈	春		金・4	25	半期	1
	スペイン語表現技法 ㄨ(上級)			秋			半期	1
インドネシア語	インドネシア語ベーシック ㄨ(a)	野村 亨 トトク, スハルディアント	春		月・4 金・2	30	半期	2
	インドネシア語ベーシック ㄨ(b)			秋			半期	2
	インドネシア語ベーシック 2		春	秋			通年	4

2006 年度 外国語教育研究センター設置科目（三田）春学期時間割

時限 曜日	第 1 時限 9 : 00 ~ 10 : 30	第 2 時限 10 : 45 ~ 12 : 15	第 3 時限 13 : 00 ~ 14 : 30	第 4 時限 14 : 45 ~ 16 : 15	第 5 時限 16 : 30 ~ 18 : 00			
月			英語経済・金融 () ドイツ語表現技法 4(a) ドイツ語表現技法 4 フランス語 表現技法 2() 英語オーラル プレゼンテーション() (初級)	日向 三瓶 ルカルヴェ ファロン	英語テスト対策 TOEIC() 英語法律・法務 () フランス語 表現技法 3() インドネシア語 ベーシック 2(a) インドネシア語 ベーシック 2	狩野 日向 ルカルヴェ 野村	中国語表現技法 2() (最上級)	蔣
火	英語アカデミック・ ライティング()	和田	英語翻訳(a) 英語翻訳 英語テスト対策 TOEIC()	アーマー 和田	ドイツ語表現技法 5(a) ドイツ語表現技法 5	ドゥッセル =タカヤマ	英語テスト対策 TOEIC()	バロウス
水			英語テスト対策 TOEFL() 中国語聴解 2() (最上級)	中村 山下	英語最上級 アドバンスト英語(a) 英語最上級 アドバンスト英語 ロシア語 表現技法 2()	横川 宮澤	英語テスト対策 TOEIC()	横川
木	フランス語 表現技法 4()	ベリセロ						
金			インドネシア語 ベーシック 2(a) インドネシア語 ベーシック 2	トトク	ロシア語 表現技法 1()	熊野谷	スペイン語表現技法 3 (Ⅸ 上級)	安藤
土								

2006 年度 外国語教育研究センター設置科目（三田）秋学期時間割

時限 曜日	第 1 時限 9 : 00 ~ 10 : 30	第 2 時限 10 : 45 ~ 12 : 15	第 3 時限 13 : 00 ~ 14 : 30	第 4 時限 14 : 45 ~ 16 : 15	第 5 時限 16 : 30 ~ 18 : 00			
月			英語経済・金融 () ドイツ語表現技法 4(b) ドイツ語表現技法 4 フランス語 表現技法 2() 英語オーラル プレゼンテーション() (初級)	日向 三瓶 ルカルヴェ ファロン	英語テスト対策 TOEIC() 英語法律・法務 () フランス語 表現技法 3() インドネシア語 ベーシック 2(b) インドネシア語 ベーシック 2	狩野 日向 ルカルヴェ 野村	中国語表現技法 2 (Ⅸ 最上級)	蔣
火	英語アカデミック・ ライティング()	和田	英語翻訳(b) 英語翻訳 英語テスト対策 TOEIC()	アーマー 和田	ドイツ語 表現技法 5(b) 表現技法 5	ドゥッセル =タカヤマ	英語テスト対策 TOEIC()	バロウス
水			英語テスト対策 TOEFL() 中国語聴解 2() (最上級)	中村 山下	英語最上級 アドバンスト英語(b) 英語最上級 アドバンスト英語 ロシア語 表現技法 2()	横川 宮澤	英語テスト対策 TOEIC()	横川
木	フランス語 表現技法 4()	ベリセロ						
金			インドネシア語 ベーシック 2(b) インドネシア語 ベーシック 2	トトク	ロシア語 表現技法 1()	熊野谷	スペイン語表現技法 3 (Ⅸ 上級)	安藤
土								

慶應義塾大学国際センター 在外研修プログラム

全学部および研究科に在籍している学生を対象に、夏季および春季休業中に海外で在外研修プログラムを開講しています。

これは、外国語による講義およびディスカッションのほか、大学内の寮生活などを初めとする多彩な諸活動を通して、さまざまな異文化交流を体験することで、国際性豊かな学生を育成することを目的としています。

短期間に質の高い充実した内容が盛り込まれていますので、海外生活体験をしたい方、外国語によるコミュニケーション能力向上を期待する方、将来長期の留学を考えている方などにとって、ふさわしい講座といえるでしょう。

形態は原則として、往復とも大学手配の航空便による団体旅行形式で、本学の教職員が同行する講座もあります。

また、現地への出発前には事前研修を実施します。(事後研修を実施する場合もあります。)

なお、プログラムは、自然災害、戦争、航空機等交通機関にかかわる事故並びに前記以外の人為的、不慮不可抗力による事故などのために中止する可能性があることをあらかじめご了承ください。

問合せ先 三田国際センター

URL: <http://www.ic.keio.ac.jp/j-index.html> 詳細や変更は、随時ホームページ等で発表します。

ガイダンス 4月4日(火) 藤沢 12教室 16:10~17:40 4月6日(木) 矢上 14-201教室 13:00~14:30
4月5日(水) 三田 519教室 13:00~14:30 4月6日(木) 日吉 J11教室 17:00~18:30

夏季講座募集期間: 4月12日(水), 13日(木) 一次合格発表: 4月20日(木)

面接審査: 4月22日(土) 夏季講座選考結果発表: 4月28日(金)(予定)

慶應義塾大学 ケンブリッジ大学ダウニングコレッジ夏季講座

ケンブリッジ大学は、オックスフォード大学と並ぶ英国の名門校で、美しいキャンパスは勉学に最適な環境にあります。

授業は英語による講義、ケンブリッジ大学在籍生を交えてのディスカッション、エッセイの作成・提出を中心としており、ケンブリッジ大学の教員が指導にあたります。

〔現地研修期間〕

2006年8月7日(月)~9月6日(水)(予定) 5月~7月に三田キャンパスにて事前研修を2回程度行います。

〔開講予定科目〕 6科目の中から3科目を選択して履修。

English Literature, History of Art, Ancient Greece and Western Civilization, Astronomy: Unveiling the Universe, The Science of Chaos, Evolution and Behavior (Zoology).

〔研修内容〕

講義(午前)、ケンブリッジ大生(TA: Teaching Assistant)を交えてのディスカッション(午後)、エッセイ作成・提出(週末)

〔単位数〕

4単位 本講座の科目は、卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは各学部・研究科によって異なりますので各自確認をしてください。

〔募集人数〕 60名

慶應義塾大学 ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座

ウィリアム・アンド・メアリー大学は、米国東海岸ヴァージニア州ウィリアムズバーグにあり、教育・研究で高い評価を得ている州立大学です。創立は1693年で、アメリカではハーバード大学について古い歴史を誇っています。

本講座は、毎年定められるテーマに沿った英語による講義、グループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーション等で構成されています。また、大学内での寮生活や、講演会、ワシントンDC近郊の家庭でのホームステイ等を通じ、さまざまな異文化交流を体験することができます。

〔現地研修期間〕

2006年7月28日(金)~8月15日(火)(予定) 4月下旬より事前研修(6回程度)、帰国後には事後研修(2回程度)を行います。

〔研修内容〕

ウィリアム・アンド・メアリー大学の教員による講義および質疑応答、ダイアログクラス、ウィリアム・アンド・メアリー大生をまじえてのグループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーション、ワシントンDC近郊の家庭でのホームステイなど。

〔単位数〕

4単位 本講座の科目は、卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは各学部・研究科によって異なりますので各自確認をしてください。

〔募集人数〕 40名

慶應義塾大学 ワシントン大学夏季講座

ワシントン大学はアメリカ北西部ワシントン州シアトルにある 1861 年に創立した歴史のある学校で、ワシントン州最大の大学です。豊かな自然に恵まれたキャンパスはとてんで大きく美しく、緑が多い環境の中で落ちついて学業に専念することができます。

「環境」を多面的な視点から学ぶ講義・ワークショップとディスカッションのほか、フィールドトリップ、ワシントン大学の学外施設を利用した実地自然体験宿泊旅行などをバランスよく配置しています。

なお、この講座には APRU (Association of Pacific Rim Universities, 環太平洋大学協会) 加盟大学から数名が参加する予定です。

〔現地研修期間〕

2006 年 8 月 19 日～9 月 9 日(予定) 5 月～7 月に事前研修を 2 回程度行います。

〔研修内容〕

講義/ワークショップ, ディスカッション, フィールドワーク, プレゼンテーション

体験宿泊旅行: レーニア山, エコロジーウォーク(森林学), フライデー・ハーバー・ラボ(海洋学)

〔開講科目例(2005年度実績)〕

Urban issues and environmental concerns, Marine Conservation, fisheries, aquaculture, Biodiversity and the Urban Populace

〔単位数〕

4 単位 本講座の科目は、卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは各学部・研究科によって異なりますので各自確認をしてください。

〔募集人数〕30 名

慶應義塾大学 パリ政治学院春季講座

パリ政治学院は、フランスのエリート養成機関『グランゼコール』の 1 つで、フランス現大統領のシラク氏をはじめ、歴代の政界・財界の著名人の母校として大変有名です。

本講座は、加盟国の増大により拡大する EU の政治・社会・財政・文化の問題のみならず、EU 対アジアや EU 対米国の関係など、様々なテーマを取り扱う非常に中身の濃いプログラムになっています。

プログラム期間中に、各自が決めた研究テーマに沿ってエッセイを書き、プログラム修了時には、パリ政治学院からディプロマが授与されます。また、最終週にはベルギーの首都ブリュッセルにある EU の諸機関を実際に訪問し、EU の組織に対する理解を深める機会が設けられています。

講義はすべて英語で行われますが、午後にはフランス語の授業もありますので、2 カ国語を同時にマスターできるのもこの講座の魅力となっています。

プログラムの詳細は、11 月ごろ国際センターホームページで発表します。

〔現地研修 2005年度参考〕 2006 年 2 月 19 日(パリ)～2006 年 3 月 18 日

〔講義内容 2005年度参考〕

1. "The History of Europe: Once upon a time..."
2. "An introduction to European Institutions"*
3. "European public Space and Democracy"*
4. "National political parties and Europe: are they European?"
5. "The values of the European(s)"
6. "The latest EU enlargement: transition processes and successes of the integraion of formerly Socialist countries"
7. "The Challenges of a Common Immigration Policy"*
8. "Joining the EU: is Turkey specific?"
9. "European welfare states"
10. "Is there a European capitalism?"
11. "The growth performances of European economies"
12. "Monetary governance in Europe"
13. "Fiscal governance in Europe"
14. "Public services in Europe"
15. "US/EU conflicts of values and/or conflicts of interest"*
16. "The challenges of a European security policy"*
17. "Europe and the Middle East Conflict"*
18. "Ageing and generational equality in Europe"

単位取得: 4 単位(卒業に必要な単位として認められることがあります。ただし、次年度春学期設置科目として認定の為、参加時に最終学年の場合は対象外となります。)

定員: 30 名(うち 10 名は上智大学生)

国際センター設置講座

国際研究講座ならびに日本研究講座受講希望者へ

国際センターでは、外国および日本の文化や社会、国際関係を理解するための英語による講座を開講しています。本年度国際研究講座で取り扱う国/地域は、米国、カナダ、オーストラリア、アジア、ラテンアメリカにおよび、EU関係の講座も開講します。一方日本研究講座では、政治、経済、産業、文学、芸術、思想など幅広い側面から日本を探究します。

海外からの外国人留学生と共に英語で学ぶ授業としてユニークなものであり、学問を通しての国際交流の場として日本人学生の積極的な参加を歓迎します。

なお、本講座の履修単位の取り扱いは各学部・研究科により異なりますので、所属する学部・研究科の履修案内に従ってください。

1. 対象 大学学部生，大学院生，ならびに別科生（原則として新入生を除く）
2. 単位 各科目2単位
（なお，医学部・医学研究科および法務研究科ではすべての授業科目が履修の対象となりません）
3. 手続方法
履修申告をしてください。国際センターに出向く必要はありません。
学部・大学院が設置主体の科目については，学部・大学院の登録番号を使用してください。

所属する学部・研究科で履修対象とならない場合は，三田，日吉の国際センターで相談してください。
4. 受講料 無料
5. 掲示 休講などの連絡事項は，三田の国際センター掲示板に掲示されます。

Sub Title:

Understanding Contemporary & Historical Aspects

Course Description:

In this class, students are exposed to contemporary as well as historical aspect of Southeast Asia. The information acquired in this lecture will surely be quite useful for those who want to be engaged in business in this fast-developing region.

Text Books:

None. Handouts will be given from time to time.

Reference Books:

Several books will be suggested during the class.

Class Schedule per week:

1. Orientation
2. What is SEA ?
3. SEA & Japan
4. SEA & European Power
5. Nature and Climate of SEA
6. Languages of SEA
7. Music of SEA
8. Politics of SEA
9. Other aspects of SEA

Please note that above order may change with short notice. For further information, please ask the professor directly.

Message to those taking this Course:

Students are recommended to bring along a map of Asia and / or Southeast Asia in every session.

Classroom rules will be indicated at the first session.

Grading Methods:

In class Exams, Attendance, Participation

Questions, Requests:

Should be forwarded to : nomura@sfc.keio.ac.jp

No petition on scores will be acceptable.

Sub Title:

Looking for the hidden roots of cultural difference

Course Description:

Culture has two sides, a visible side — food, clothing, architecture — and a hidden side of unconscious beliefs, values and assumptions. In this course we will learn the story of the discovery of hidden culture. We will explore culture's unconscious influence over us, and see how hidden cultural difference creates conflict in relationships and communication. This will involve learning hidden patterns of cultural difference related to things like: time, personal space, cooperation, independence, fairness, equality, emotion. Students will discuss their intercultural experiences, share their opinions and give presentations. The ultimate goal of this course is a deeper self-understanding.

Text Books:

Handouts to be supplied by the teacher.

Reference Books:

- 1) Different Realities — Adventures in intercultural communication, by Shaules & Abe, published by Nan'un-do.
- 2) Riding the Waves of Culture, by Trompenaars and Hampden-Turner, published by McGraw Hill

Class Schedule per week:

1. Class introduction
2. The discovery of hidden culture — Mead, Sapir & Whorf, Hall
3. A model of hidden culture — The onion model.

4. Student presentations
5. Cultural in human relations — independence and cooperation
6. Culture, emotion and self-expression — How we show feelings
7. Culture and status — Who is important and why ?
8. Student presentations
9. Culture and gender — Gender separate vs. gender similar
10. Different modes of time — polychronic and monochronic
11. Student presentations
12. Final class

Message to those taking this Course:

This course is designed for students who have an interest in understanding people. An important part of our identity and values comes from how we were raised — in particular, the hidden values and assumptions of our culture. To understand this hidden side of ourselves, we must examine not only cultural difference, but our own personality. There will be lectures, discussion, and students presentations.

Grading:

Grades will be based on attendance, in-class presentations and a short final exam.

オーストラリア政治の今日の問題

(春学期)(Spring)

CURRENT ISSUES IN AUSTRALIAN POLITICS

テリー , レス

国際センター講師 (ビクトリア工科大学文学部助教授)

Leslie Terry

Lecturer International Center (Senior Lecturer, Faculty of Arts, School of Social Sciences, Victoria University of Technology)

Course Description:

This offering will explore the changing face of government in contemporary Australia. Students will be introduced to the basic structures and workings of this country's political culture, the nature of its political parties and lobby groups, as well as the key debates in current government policy. A major focus of this unit will be to highlight the impact of the recent shift from post-1945 social-welfare policies to market-driven forms of governance in the 1990s. Central to the course will be a discussion of the 'public' versus the 'private' forms of citizenship in Australia. Students will be introduced to a range of current debates around multiculturalism, innovations in education and changing industrial relations. The course will use a variety of sources including current material from the media to provide students with the opportunity to compare issues of governance in Australia and Japan.

Class Schedule per week:

- Week 1 Lecture and discussion: Introduction <Articles>
- Week 2 Lecture and discussion: Key issues in Australian government <Articles, charts demographic material>
- Week 3 Video: *The Castles* or *The Bootman*: The Australian state in transition <Video>
- Week 4 Lecture/presentation: Governing the Australian citizen 1 (Social democracy) <Articles>
- Week 5 Lecture/presentation: Governing the Australian citizen 2 (Liberalism and Neo-Liberalism) <Readings, articles>
- Week 6 Lecture/presentation: Oppositional Social Movements and political parties <Readings, articles>
- Week 7 Film: *Looking for Alibrandi*: Governing Cultural identities and ethnic difference <Readings, articles>
- Week 8 Lecture/presentation: Multiculturalism and its future <Readings, articles>
- Week 9 Lecture/presentation: Managing the population: debates on the immigration (refugees, ageing population) <Articles, readings>
- Week 10 Lecture/presentation: Shaping the citizen: debates in education <Articles, readings>
- Week 11 Lecture/presentation: Changing working life in Australia <Readings, articles>
- Week 12 Lecture and discussion: Overview of the issues <Notes and readings>
- Week 13 Test and Evaluation

Grading Methods:

Exam, Report, Attendance, Participation, Other

世界政治におけるラテンアメリカ

(春学期)(Spring)

LATIN AMERICA IN WORLD POLITICS

アントリネス , マリオ

国際センター講師

Mario Antolinez

Lecturer, International Center

Course Description:

The countries of Latin America and the Caribbean form a vast and complex part of the Western Hemisphere. Although the strategic geopolitical relevance of the region has been recognized, Latin American values and attitudes regarding politics, business and life in general remain profoundly misunderstood, if not totally unknown by many. Not surprisingly, what people think they know about the region is based on unfair stereotypes and generalizations generated by some dramatic event covered by the world media.

Thus, the main objective of this course is to foster a greater understanding of the region's realities. The course is designed as a multidisciplinary study focusing on Latin American politics, economics and foreign policy, and it is divided in two parts. Part I deals with the main features of Latin America as a region, while Part II consists mainly of a country-by-country approach.

Text Books:

Hillman Richard, "Understanding Contemporary Latin America". Lynne Rienner Publishers, 2001.

Reference Books:

Atkins Pope, "Latin America in the International Political System". Westview Press, 1995.

Black Knippers Jan, "Latin America: Its Problems and Its Promise". Westview Press, 1998.

Calvert Peter, "The International Politics of Latin America". Manchester University Press, 1994.

Cortes Roberto, "The Latin American Economies". Holmes & Meir, 1985.

Child Jack, "Geopolitics and Conflict in South America". Praeger, 1985.

Lael Richard, "Arrogant Diplomacy". Scholarly Resources, 1987.

Levine Donrel, "Religion and Politics in Latin America". Princeton University Press, 1981.

Lowenthal Abraham, "Partners in Conflict: The United States and Latin America". Johns Hopkins University Press, 1990.

Molineu Harold, "U.S Policy toward Latin America: From Regionalism to Globalism", Westview Press, 1990.

Peeler John, "Latin American Democracies". University of North Carolina Press, 1983.

Rosenberg Mark, "Americas: An Anthology". Oxford University Press, 1992.

Smith Peter, "Modern Latin America". Oxford University Press, 1997.

Tokatlian Juan, "Teoria y Practica de la Politica Exterior Latinoamericana", 1983.

Wesson Robert, "U.S. Influence in Latin American in the 1980's. Praeger.

Class Schedule per week:

PART I

Session 1: Introduction

Session 2: The Actors

Session 3: The Inter-American System

Session 4: Latin American Integration and Association

Session 5: Economic Outlook

Session 6: International Relations

Session 7: Latin America and the United States

PART II

Session 8: Mexico and Brazil: The Regional Giants

Session 9: Cuba: The Socialist Way

Session 10: The Andean Region: Breakdown and Recovery

Session 11: The Southern Cone: Authoritarianism and Democracy

Session 12: Central America: Dictatorship and Revolution

The Caribbean: Colonies and Micro-states

Session 13: Final Exam

Grading:

The course is organized as a combination of lecture and seminar, and will be conducted in English. Performance will be evaluated on the basis of attendance (30%), class participation (20%), oral presentation (20%) and a final exam (30%).

現代の国際問題と国連の役割

(春学期)(Spring)

CONTEMPORARY GLOBAL ISSUES AND THE ROLE OF THE UNITED NATIONS

マリク ,ラビンダー 国際センター講師 (元国連大学学長室長)

Rabinder N. Malik Lecturer, International Center (Former Executive Officer, Office of the Rector, United Nations University)

Sub-title:

Multi-disciplinary approach to the study of major global issues that confront the world community in the 21st century, and the role of the United Nations and International Organizations in addressing these issues.

Course Description:

A critical review and assessment will be undertaken of the origin and present condition of the major global issues and problems and how these are being addressed by the national governments and the international community. Special attention will be paid to the role of the United Nations and other International Organizations as a tool of global governance in addressing these issues. We shall also explore ideas and concepts of peace and security, human rights, coexistence among peoples of different cultures and other critical global issues such as poverty eradication, environmental degradation, aging society and gender issues.

The objective of the course, which is suitable for students from all faculties, is to enable the students to gain a better understanding of the world around them and about the role of the United Nations so that they are able to evaluate current and future international trends and to formulate their own well thought-out opinions based on facts. It should help enhance their trans-cultural literacy and competence and enable

them to interact with confidence with peoples of different cultural backgrounds and orientations in an interdependent and interlinked world. Group discussions will be an important part of the course, which will be conducted in English.

Text Books:

No specific text books. Photocopied handouts will be distributed as appropriate and relevant. Students will be encouraged to get into the habit of reading a daily newspaper or a weekly magazine and catch the news on radio and television so that they can participate actively and meaningfully in the discussion of contemporary issues. Group discussions and assignments will rely heavily on material obtained from such sources.

Reference Books:

- (1) Charter of the United Nations, UN, New York
 - (2) UN Millennium Declaration, Resolution 55/2, UN General Assembly, 55th Session, Sept. 2000
 - (3) A More Secure World: Our Shared Responsibility; Report of the High-Level Panel on Threats, Challenges and Change, UN, December 2004
 - (4) In Larger Freedom: Towards Development, Security and Human Rights for All, UN Secretary-General, April 2005
 - (5) Relevant publications, reports and documents issued by the United Nations and United Nations University
 - (6) Newspaper articles and journals related to the topics covered by the course
- (Some of the above documents can be accessed through the website <http://www.un.org>)

Class Schedule per week:

- Week 1:* INTRODUCTION TO THE COURSE AND OVERVIEW OF THE CURRENT GLOBAL SCENARIO
Week 2: GLOBAL INTERCONNECTEDNESS AND NEED FOR INTERNATIONAL COOPERATION
Week 3: THE UNITED NATIONS AND ITS ORGANS (UNITED NATIONS CHARTER)
Week 4: THE UNITED NATIONS AND ITS ORGANS (Continued)
Week 5: OTHER INTERNATIONAL AND REGIONAL ORGANIZATIONS
Week 6: INTERNATIONAL PEACE AND SECURITY
Week 7: SOCIAL AND ECONOMIC DEVELOPMENT (MILLENNIUM DEVELOPMENT GOALS)
Week 8: GLOBAL ENVIRONMENTAL SUSTAINABILITY
Week 9: HUMAN RIGHTS (UNIVERSAL DECLARATION OF HUMAN RIGHTS)
Week 10: WOMEN AND DEVELOPMENT
Week 11: AGING SOCIETY
Week 12: REFUGEES AND MIGRATION
Week 13: FINAL REPORTS AND EVALUATION

Message to those taking this Course:

This course is good for those who wish to improve their ability to communicate in English and be able to discuss about international issues with confidence. Regular attendance and active participation in the class discussions will be important. Students should do some prior reading or internet search on the topics under discussion as I would expect students to make comments, ask questions and speak freely in the class.

Grading Method:

- (1) There will be no examination but all students will be expected to write a final report based on readings, lectures and discussions covered during the period.
- (2) Participation in group discussions and individual assignments will also be considered in grading.
- (3) Attendance will be an important part of the consideration for grading.

Requests, Questions:

If students have any questions or problems in the course, they should feel free to talk to me before or after the class or send me an email at: rabindermalik@hotmail.com

I look forward to working with you this semester!

国際人権法

(春学期)(Spring)

INTERNATIONAL HUMAN RIGHTS LAW

細谷明子

国際センター講師

Akiko Hosotani

Lecturer, International Center

Sub Title:

Issues, procedures, and advocacy strategies regarding the promotion and protection of human rights worldwide

Subject of the class:

Students will study five different aspects of international human rights including:

- (1) Procedures for implementing international human rights involving state reporting to treaty bodies; individual complaints; thematic, country rapporteurs, and other U.N. emergency procedures for dealing with gross violations; humanitarian intervention; criminal prosecution and procedures for compensating victims; diplomatic intervention; state v. state complaints; litigation in domestic courts; the work of nongovernmental organizations; etc.
- (2) Major international institutions including the human rights treaty bodies; the U.N. Commission on Human Rights and its Sub-Commission on the Promotion and Protection of Human Rights; the U.N. Security Council; international criminal tribunals; the International Criminal Court; U.N. field operations authorized by the U.N. Security Council or under the authority of the U.N. High Commissioner for Human

- Rights; the Inter-American Commission on and Court of Human Rights; the European Court of Human Rights and other parts of the European human rights system; the U.N. High Commissioner for Refugees; and the International Labor Organization
- (3) Human rights situations in various countries such as South Africa, Iran, Myanmar, East Timor, Kosovo, Cambodia, former Yugoslavia, the Democratic Republic of Congo, Japan, the United States, Europe, Sudan, Ghana, and India
 - (4) Substantive human rights problems related to the rights of the child, economic rights, the right to development, torture and other ill-treatment, minority rights, the right to a free and fair election, human rights in armed conflict, crimes against humanity, arbitrary killing, indigenous rights, self-determination, discrimination against women, the rights of refugees, etc.
 - (5) Learning methods such as advising a client, role-playing, the dialogue methods, drafting, and advocacy in litigation

The principal book:

David Weissbrodt, Joan Fitzpatrick, and Frank Newman, International Human Rights: Law, Policy and Process (3rd ed. 2001) and supplement Selected International Human Rights Instruments and Bibliography for Research on International Human Rights Law

Assignments:

Assignments are listed below as to each class session:

- Apr. 12: Preface and Chapter 1: Introduction to International Human Rights Law and Drafting Human Rights Treaties
- Apr. 19: Chapter 4: Ratification and Implementation of Treaties; the Covenant on Economic, Social, and Cultural Rights
- Apr. 26: Chapter 5: State Reporting under International Human Rights Treaties; Cultural Relativism
- May 10: Chapter 6: What U.N. Charter-Based Procedures are Available for Violation of Human Rights ?
- May 17: Chapter 7: Humanitarian Intervention
- May 24: Chapter 8: Can Human Rights Violation Be Held Accountable ?; Guest speaker, or; Documentary, Long Night's Journey into Day (South African Truth Commission)
- May 31: Chapter 9: International Human Rights Fact-Finding
Fact-Finding role play, or Guest Speaker to be announced
- Jun. 7: Chapter 10: How Can the Government Influence Respect for Human Rights in Other Countries ?
- Jun. 14: Chapter 11: Inter-American Human Rights System; the Organization of African Unity
- Jun. 21: Chapter 12: European Human Rights System
- Jun. 28: Chapter 13: Domestic Remedies for Human Rights Violations; Enforcing International Human Rights in Japan's Courts, Legislature and Administration
- Jul. 5: Chapter 15: Refugee and Asylum Law; Jurisprudence of Human Rights; Cultural Relativism
- Jul.12: Questions & Answers for reviewing the exam

Comment on the Class:

The class encourages students to analyze case situation and to evaluate the most effective methods to prevent human rights violations. Because of the evolving nature of the laws and issues in this field, students can participate as strategists and investigators.

Grading Policy:

Students will receive their grade for the course based on (1) class attendance (10%), (2) significant contribution to class discussion (10%), (3) an essay (30%), and (4) a final Exam (50%).

Office Hours:

Wednesday, 1-3 p.m. or by appointment

アフリカン イシューズ : アフリカにおける近代と危機の意味

(春学期)(Spring)

AFRICAN ISSUES

近藤英俊

国際センター講師 (関西外国語大学助教授)

Hidetoshi Kondo

Lecturer, International Center (Associate Professor, Kansai Gaidai University)

Sub Title:

The Challenge of Communities — Beyond Postcolonial Situation

Course Description:

Children, who are emaciated with protruding bellies and fly-infested faces, are crying for food, or worse, already motionless in their mothers' arms. For many, such a shocking scene is typically associated with Africa. This popular imagery has its origin in mass media that are often sensationalistic as to African coverage. The truth is that Africa is the continent of wonderfully rich and diverse cultures, where people live their vibrant everyday life. Yet, from this, it does not immediately follow that Africa is a trouble-free region. Just as Japan and other industrial countries have many social problems, Africa does have critical issues to be pursued.

This course is intended to explore some of the major problems that Africa is currently facing. This year we will focus on problems and possibilities associated with communities in contemporary Africa. From political conflicts to development projects, many of social issues seem to have increasingly been revolving around communities in Africa over the last few decades. The saliency of communities seems to have much to do with so called postcolonial situation in which the decline of state power has contributed to the activation of various communal ties and there exists complex flow of plural cultures and identities. But communities here does not necessarily subscribe to the conventional view of closed social groups. They harbour contradictory features: some are fluid, ephemeral and borderless while others are exclusive, sustainable and concerned with boundary.

Using wide range of academic disciplines, we will examine: (1) theoretical issues on communities, (2) the features of communities and their changes in the light of postcolonial situation in Africa, (3) relationships between conflicts and communities, and (4) relationships between development and communities. The course attempts to highlight not only despair but also hope that African communities promise.

Text Books:

Texts will be distributed in due course.

Reference Books:

References will be suggested in due course. However the following will be included:

1. Trager, L. 2001 *Yoruba Hometowns*. Linne Tienner
2. 野元美佐 2005 『アフリカ都市の民族誌』 明石書店
3. 松田素二 1996 『都市を飼ひ慣らす』 河出書房新社
4. Kondo, H. 2003. 'Illness in Between'. *Japanese Review of Cultural Anthropology* 4

Class Schedule:

- I. Introduction: Communities in Postcolonial Africa (1 session)
- II. The Making and Unmaking of Communities (4 sessions)
 1. Communities without Boundary
 2. Invention of Kingdom
 3. Plural and Shifting Identities
- III. Conflicts, Identity Politics and Communities (4 sessions)
 1. Instrumental Ethnicity vs Cultural Tradition
 2. Politics over Autochthony
 3. Religious Fundamentalism and the Youth
 4. Crises of Trust and Identities
- IV. Development and Communities (4 sessions)
 1. Voluntary and Saving Associations
 2. Elite and Local Development
 3. International Organizations, State and Communities in the arena of Development

Message to those taking this Course:

The course comprises lectures and class works. For class works, students are required to read and summarise a part of books or articles (minimum 30 pages per week) before attending the class. In the class, students will discuss their readings in a small group and then present it in front of all the rest. This is by no means an easy course!

Grading Methods:

Assessment is based on active participation in class works and an essay (3000 words) submitted at the end of the term.

グローバルビジネスにおける革新と戦略

(春学期)(Spring)

INNOVATION AND STRATEGY IN GLOBAL BUSINESS

トビン , ロバート I. 商学部教授

Robert I. Tobin Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

This course examines successful innovations in global organizations-including market-changing products, inventive approaches to leadership and work, synergy between technology and product development, and the crafting, implementing and executing of business strategy. Ideas, customers, leadership, technology, markets, and talent are all part of the mix when companies innovate and craft business strategy—and will be examined in this course.

Students will develop the skills and tools that are critical for inventing and utilizing new business concepts, re-inventing old ones, and making innovation part of their lives.

The course will be conducted seminar -style with lecture-discussions, student group presentations, case studies, video segments, experiential class activities, and research assignments.

Text Books:

- Leading the Revolution by Gary Hamel
- Supplementary Reading Materials and Case Studies
- Additional Book To Be Assigned

Reference Books:

Students are encouraged to read related materials in The Asian Wall Street Journal, Business Week, and Fast Company and to watch related business television broadcasts.

Class Schedule per week:

- List of Topics:
 - Introduction: Time of Change & Innovation
 - Trends In International Business Leadership /and Strategy

- Encouraging Ideas / Innovation
- What to Do About Decaying Strategy
- How to Become A Global Innovator
- New Market Expansion and Entry
- U.S. ,China, Thailand, Japan
- Global Leaders/Global Partnerships
- A look at Global Leaders
- Global Companies/Working Overseas
- Impact and Meaning of Anti-Globalization Forces
- Creativity in Leadership
- Future of International Business

Additional information about this course available at www.tobinkeio.com

Message to those taking this Course:

A challenging, innovative course designed to encourage you to think in new, innovative ways. Be prepared for a challenging, rigorous course. This course attracts a large number of Keio's top students from every faculty and exchange students from around the world. No business background is necessary. There is substantial opportunity for student interaction and collaboration.

When students have questions, they can contact the instructor before or after class.

Grading:

Evaluation based on successful completion of assignments and projects, participation and on-time attendance, and an examination. In the event of unavoidable absence, please contact another student for assignments and be prepared for the next class. All assignments must be typed and no late papers are accepted.

Questions, Requests:

When students have questions, they can contact the instructor before or after class.

Open to enrolled undergraduate and graduate students only.

現代ロシア研究

(春学期)(Spring)

UNDERSTANDING RUSSIA

ナコルチェフスキー , アンドリイ

文学部助教授

Andrei Nakortchevski

Associate Professor, Faculty of Letters

Course Description:

The main purpose of this course is an attempt to understand contemporary Russia, to understand people who live in this still somewhat enigmatic land in the context of its own history of contacts with other nations. This course will not be a standard course in history and culture. We will talk more about things which usually remain unsaid in academic papers — about how average Russians live, what they like and dislike, what they value and what they hate. We will try to comprehend a legendary “enigmatic soul” of Russians, to enter their inner world and look at it from within. We will also discuss general features of unique Russian civilization developed geographically and culturally between East and West. We will try to understand Russia escaping any distortions as best we can, using a lot of video materials as illustrations and sometimes as a base for discussion.

What does it mean to be a Russian ? This will be the main question to which we will try to find an answer during these classes.

Class Schedule:

1. Introduction
2. The starting point of Russian history: the problem of Kievan Rus heritage
3. Orthodox Christianity: its origin and role in Russian history
4. Traditional Moscovia and imperial Russia: choices of Alexander Nevski and Peter The Great
5. Russia and Europe: Slaphophiles and Westernisers
6. Ukraine: the alternative model of development
7. Russian classical literature: main features and ideas
8. Russian Idea: utopia or self-indulgence
9. 19th century failed modernization and 1917 Revolution
10. New empire: the socialist experiment
11. Perestroika: new possibilities or disaster ?
12. Future of Russia in a geopolitical perspective

Grading Methods:

Presentation and participation

AMERICAN STUDIES

ウィリアムス, ムケーシュ 国際センター講師

Mukesh K. Williams Lecturer International Center

Sub Title:

American History, Culture and Foreign Policy

Course Description:

Rationale: After the collapse of the Soviet Union in 1991 the United States emerged as the most important nation in the world. Every nation has some kind of relationship with the United States, which is either profitable or unprofitable. No nation can ignore the United States or fail to understand American history, culture and foreign policy. Most nations therefore include American Studies within their academic, bureaucratic and administrative orientation. Since the nineteenth century nation states especially America have tried to define key words and ideas relating to freedom, welfare, civil rights, sovereignty, representation, democracy and religion to create a composite intellectual and political culture. The American Studies Program will introduce students to the inter-disciplinary study of American history, culture and foreign policy and help them to understand how Americans and non-Americans think about America.

Course Outline: The course will introduce 4 modules, each module containing a big idea namely:

1. Nation and Narration: constructs the Pocahontas story/myth; human arrival in North America; Native American life; the Americas, West Africa and Europe on the eve of contact; American industrial heritage; the work of Samuel Slater in the late eighteenth and early nineteenth centuries in Pawtucket in constructing industrial America.
2. Immigration and Cultural Change: 'Old' and 'New' immigration; the world of the immigrants; a new working class; the limits of mobility and ethnic diversity; the Chinese Exclusion Act; new forms of leisure and mass entertainment; the American Dream; 1965 Immigration Policy; multiculturalism and identity politics.
3. National and International Identities: Reconstructing World War II, American neutrality and the road to war; post-war economic boom, the rise of consumer society; the crabgrass frontier; the Baby Boom; the birth of television and the influence of advertising; roles of women and *The Feminine Mystique*; the Korean War; the arms race; the Red Scare and McCarthyism; the early civil rights movement; teen rebellion and rock'n roll; the media and Vietnam War; rise of CNN.
4. American Foreign Policy—Neutrality to Involvement (1865-1917); Early American isolationism, moral foreign policy; postwar naval/air supremacy (1920-2004), manifest destiny, American unilateralism, America as the policeman of the world, clash of civilization and war on terror.

The course will help students to confront the contradictions and inherent tensions in the American narrative without the false hope of an easy solution. We will not fail to discuss democratic aspirations, concepts of justice, American solidarity/Christian and Islamic divide and evolving notions of national identity. Along the way we would also question the methods and perspectives by which we study our subject by asking some of the following questions:

- a) How do Americans think of themselves as a nation and the rest of the world? And how do people from other nations think about America? (Samuel Huntington, *The Clash of Civilization*; radical evil/Christian good; liberal/democratic frameworks—Richard Bernstein, *Radical Evil*)
- b) How is space constructed in the lives of individuals in America? How changes brought in by pre-industrial, industrial and post-industrial societies reconstituted the lives of people in the U.S.? (Vertical/horizontal expansion; notions of bigness/assertion; David Reisman, *The Lonely Crowd*; national parks—European signatures/Native American erasures—Yosemite and Yellowstone National Park)
- c) What are the popular methods of understanding the culture and society of America? (Clifford Geertz and others)
- d) How do we imagine the past and its effects on social and cultural representation? (Hayden White, Stuart Hall and David Hollinger)
- e) How do the concepts of American unilateralism and manifest destiny define American foreign policy?
- f) Is the rise of the modern West a pure or impure concept? (Chris Bayly and Bernal)

Aims: The students will get an opportunity to:

1. acquire presentation and negotiation skills
2. learn new concepts, methods and vocabulary
3. understand stereotypes of knowledge, reason/critical thinking, culture, gender and politics (bias, manipulation, prejudice, discrimination and hegemony)
4. synthesize diverse opinions and perspectives from within and outside America
5. develop skills to write/think purposefully and strategically
6. acquire the habit to pursue knowledge independently and scientifically

Text Books:

<TEXTBOOK> Howard Zinn, *A People's History of the United States 1492-Present (Perennial Classics)*, (New York: Harper Perennial, 2003); Price 12.89 USD.

<REFERENCE BOOK> David Colbert ed., *Eyewitness o America: 500 Years of American History in the Words of Those Who Saw it Happen*, (New York: Vintage, 1998); Price 12.21 USD.

Reference Book:

Short selections from the following books and essays:

Richard J. Bernstein, *Radical Evil: A Philosophical Interrogation*, (Cambridge: Polity Press, 2002)

The New Constellation: Ethical-Political Horizons of Modernity/Postmodernity, rpt., 1998; (Cambridge, Massachusetts: The MIT Press, 1992).

Julia Kristeva, *Nations Without Nationalism*, (New York: Columbia University Press, 1993)

Samuel Huntington, *The Clash of Civilization and the Remaking of World Order*, (New York: Touchstone, 1997).

Clifford Geertz, *The Interpretation of Culture*, (New York: Basic Books: 1973).

Available Light: Anthropological Reflections on Philosophical Topics, (Princeton: Princeton University Press, 2000).

Todd Gitlin, *The Twilight of Common Dreams: Why America is Wracked By Culture Wars*, New York: Henry Holt & Company, 1995).

David A. Hollinger, *Postethnic America*, (New York: Basic Books, 1995).

Giles Gunn, "Introduction: Globalizing Literary Studies," *The Modern Language Association of America*, 2001, pp. 16-31.

Rober Young, *White Mythologies: Writing History and the West*, rpt 2003; (London: Routledge, 1990).

Tzvetan Todorov, *The Conquest of America: The Question of the Other*, (Norman: The University of Oklahoma Press, 1999).

Stuart Hall, *Representation: Cultural Representations and Signifying Practices*, (London: Sage, 1997).

David Reisman, *The Lonely Crowd*, (New Haven: Yale University Press, 2001).

Werner Sollors ed., *Theories of Ethnicity: A Classical Reader*, (London: Macmillan Press, Ltd., 1996).

Charles Taylor, *Multiculturalism: Examining the Politics of Recognition*, (Princeton: Princeton University Press, 1994).

Class Schedule per week:

1st Week: Shopping

2nd Week: Introduction to the course, handouts, a short reading list; Imagining the nation—European and Native American ideas. Extract from Todorov's *The Conquest of America*; Sollors, *Theories of Ethnicity*; de Tocqueville, *Democracy in America*,

3rd Week: 3 Worlds Meet—Europe, West Africa and Native Indian—Video Script. Disney imagining Pocahontas—multicultural, racial (anti-British and anti-Indian) and feminist issues

4th Week: Immigration and Cultural Change, video; OMD Directive 15. Immigrant writers such as Saul Bellow/Malamud Isaac Singer/Anzia Yezeriska, Toshio Mori, Hisaye Yamamoto, John Okada, Jhumpa Lahiri, Amy Tan et. al. Handout: Giles Gunn, "Globalizing Literary Studies."

5th Week: A brief discussion of topics of presentation such as European pioneers, Native American concept of land/music/family life/politics, immigrants/ multiculturalism/working class life in big cities (Reisman, *The Lonely Crowd*); personal is political, civil rights movement—Malcolm X/Martin Luther King/FBI; Japanese Americans/Internment camps/loyalties etc. Choose topics for presentation.

6th Week: Make small groups (about 2/3 students) to discuss presentation topics followed by question-and-answer discussion session. Summing up—representation of social and political reality. Create a format for presentation/outline.

7th Week: World Wars I and II/Postwar America. Extracts from Gitlin and Hollinger; Show all three videos (if time permits).

8th Week: Readings from speeches of Malcolm X and Martin Luther King Jr., A discussion of Harlem and the First Abyssinian Church, New York; Handout from Stuart Hall, *Representation*; Taylor and Appiah, *Multiculturalism*.

9th Week: American Foreign Policy: Show video US and the World (1865-1917); extract from Huntington's *The Clash of Civilization*.

10th Week: Henry Kissinger and others on American Foreign Policy

11th Week: End-Semester Presentation and 4-page final report

12th Week: End-Semester Presentation and 4-page final report

13th Week: End-Semester Presentation for latecomers/course evaluation

Message to those taking this Course:

Please read the handouts and textual material at home so that you are better prepared to discuss topics in class more enthusiastically and creatively.

Grading Methods:

1. End-Semester Class research-based presentation in class (60% credit)
2. End-semester 4-page report on the topic chosen for presentation (20 % credit), homework based on the text/supplementary material (10% credit)
3. Attendance, Participation 10 % credit

現代中国社会

(春学期) (Spring)

CONTEMPORARY CHINESE SOCIETY

ファーラー , グラシア

国際センター講師

Gracia Liu Farrer

Lecturer, International Center

Course Description:

This course surveys the post-1978 Chinese society, focusing on social issues under the market reform and conditions of increasingly globalized economy. China's transition to a market-oriented society has effected fundamental changes in the lives of its citizens. This class covers topics such as regional economic disparities, changing patterns of employment and unemployment, gender inequality, and both internal

and international migration. We will ask: How are women and men faring differently in China's new labor market and workplaces? Are rural peasants and the emerging underclass of urban laid-off workers being left behind by market transition? How are minorities faring in China's transition? How does the emerging digital divide play into the dichotomies of east-west and urban-rural in China? What is the plight of millions of "floaters" migrating into China's cities, with minimal legal rights and protections? How has the one-child policy affected women, children, and society in China? The objectives of the course are 1) to offer exposure to a broad overview of social issues in contemporary China, and 2) to familiarize students with available resources for learning about Chinese society. The class will combine lectures, academic readings, narrative accounts, films, and discussions.

Text Books:

Wenfang Tang and William L. Parish.2000. *Chinese Urban Life under Reform: The Changing Social Contract*. University of California Press.

Deborah Davis.2002. *The Consumer Revolution in Urban China*. University of California Press.

Electronic copies of *China Quarterly*, *Journal of Contemporary China*, and other social science journals that would be sent to student via email.

Reference Books:

Solinger, Dorothy J. 1999. *Contesting Citizenship in Urban China: Peasant Migrants, the State, and the Logic of the Market*. Berkeley: University of California Press.

Class Schedule per week:

Week 1. Class Orientation

1. Introduction of the course
2. Collect topics of interests
3. Brief introduction of pre-1949 Chinese history

Week 2. Mao, social movements and the transformation of Chinese society- overview of China between 1949-1978

1. Brief review of the political campaigns and social changes that transformed the Chinese society in the 1950s,1960s and 1970s
2. The rural and urban divide
3. Social mobility

Week 3/4. The State and Society in Post-Reform China

1. The changing social structure: 1978 to present
2. The work-unit system and the organized dependency
3. The rise of the individual and the decline of collectivism

Week 5/6. Reforms and Urban Social Change

1. The impacts of market economy on urban space
2. Growth and unemployment
3. Changing patterns of consumption

Week 7. Mid-term

Week 8. The plight of Rural Population

1. Economic restructuring and rural poverty
2. The development of rural economy
3. The problem of social welfare

Week 9. The Internal Rural Urban Migration

1. The floating population and the social problems

Week 10. Women in Post-reform China

1. Women and Urban Socio-Economic Change
2. Women in Rural Development

Week 11. Family Planning and One Child Policy

Week 12. The Changing Popular Culture

Week 13. Out-migration and Transnationalism

Grading Methods:

1. Exam: One mid-term exam 25% and one final exam 25%
2. Reports: One 10-page research paper on one specific issue area covered in the course. 25%
3. Class Participation : 25%

ドイツ文化と社会

(秋学期)(Fall)

GERMAN CULTURE AND SOCIETY

ワニェク, ヤクリーン

国際センター講師

Jacqueline Waniek

Lecturer International Center

Sub Title:

Introduction to German culture, educational and political system, and historical challenges

Course Description:

The objective of this course is an introduction to the history, social, political and educational systems of Germany. Emphasis will be placed on

contemporary public issues such as the German reunification, Germany's role in the international community and Germany's aging society. By means of discussions, lectures, reading, writing and class presentations, students will reflect the German national character with that of contemporary Japanese.

Text Books:

O'Dochartaigh, P. (2004). *Germany Since 1945 (Studies in Contemporary History)*. New York: Palgrave Macmillan.
<http://www.deutschland.de/home.php>

Reference Books:

Flippo, H. (2002). *When in Germany, Do as the Germans Do*. McGraw-Hill

Class Schedule per week:

1. Introduction
 2. Demographic data, geography, climate
 3. History of Germany
 4. Challenges through German reunification
 5. Germany and Europe
 6. Social structure
 7. Demographic changes
 8. Political System
 9. Educational System
 10. Science and Technology
 11. Culture and Traditions 1
 12. Culture and Traditions 2
- Final class

Message to those taking this Course:

Students are strongly encouraged to contribute to the class by active participation in group work, and discussions.

Grading Methods:

1. Exam (Final Exam 30%)
2. Reports (none)
3. Attendance, Participation (regular attendance 50%)
4. Other (group project presentation 20%)

比較映画論:映画における歴史の表象

(秋学期)(Fall)

VISIONS OF THE PAST: REPRESENTING HISTORY ON FILM

エインジ, マイケル W.

経済学部助教授

Michael W. Ainge

Associate Professor, Faculty of Economics

Course Description:

Films about the past are often dismissed by historians as trifles. In this course, we will consider the conventions of various styles of representing history on film, including American forms such as Hollywood Historical Drama and Documentary, as well as other styles from other countries. Close readings of historical texts and of the filmed versions of those events will provide a window into the strengths and limitations of both media. We will consider whether representing the historical past on film necessitates simplification, distortion and/or falsification of the facts? How about the case of post-colonial societies struggling to retrieve lost or obscured histories? How does film effect memory, both collective and personal? These and other questions will constitute the core of our discussions.

Text Books:

Readings on the periods and/or episodes depicted in the films, as well as on the historical film. Copies will be distributed in class

Class Schedule per week:

Unit & Dates	Topic(s)Film Title	Readings
1. Sept.25	Introduction: Representing History in Text and on Film	
2. Oct.2-16	Hollywood Styles I: The Documentary	<i>Hearts & Minds</i> (ハーツ・アンド・マインズ)(USA, 1975)
3. Oct.23-30	Hollywood Styles II: The Historical Drama	<i>The Last Samurai</i> (ラスト・サムライ)(USA, 2003)
4. Nov.6-13	Non-Hollywood Styles I: Tropicalism	<i>Quilombo</i> (キロンボ)(Brazil, 1984)
5. Nov.27-Dec.4	Non-Hollywood Styles II: Griot	<i>Ceddo</i> (チェド)(Senegal, 1978)
6. Dec.11-18	Anti-Hollywood Styles I: Post-modernism	<i>Walker</i> (ウォーカー)(UK, 1987)
7. Jan.8-15	Anti-Hollywood Styles II: Personal Essay	<i>Sans Soleil</i> (サン・ソレイユ)(France, 1982)

Grading Methods:

1. Reports (**Short essays, 10%; Final Paper 50%**)
2. Attendance, Participation (**40%**)

Course Description:

[HTTP:// WWW.SFC.KEIO.AC.JP/SOUTHAFRICA/](http://www.sfc.keio.ac.jp/southafrica/)

In an increasingly connected world, there are no specialty areas. Integration into a growing global economy encompasses both economic and trans-economic issues. At the Davos World Economic Forum 2001, the term “culturnomics” was coined to define how various intellectual disciplines need to combine in order to offer a fuller world view. This is course will be an introduction for students interested in issues affecting global governance and Africa. Through a series of lectures offered by ambassadors and embassy officials from the S.A.D.C. group, (<http://www.mbendi.co.za/orsadc.htm>) students will explore the variety of links diplomatic, educational, economic and cultural that tie Japan to contemporary Africa.

The course will focus the geo-political area of southern Africa, and the issues that such regions face as they plan seek to integrate their local economies and to connect to the “global village.” Speakers from the various embassies of the S.A.D.C. group will be invited to speak on the theme of global economy, culture and change and the impact of Japanese policies within the region.

As the countries of sub-Saharan Africa attempt to formulate policies in areas such as HIV care and education, sustainable development, conflict management and the growth of open societies, these policies connect with similar policies and issues around the world. Japan has made aid for African nations and support for the New Partnership for Africa's Development a major part of its international policy. Two years ago at the third Tokyo International Conference on African Development Japanese Prime Minister Junichiro Koizumi pledged \$1 billion for education and health care in Africa making Japan one of the major aid donors for Africa. This government interest has led to a variety of efforts to make the connections between southern Africa and Japan more multi-dimensional, and include both large-scale and small scale investment, tourism and educational connections and N.G.O. endeavors. (http://www.ajf.gr.jp/old/english/ajf_update.htm)

Each student will be expected to join a study group that will focus one of the African countries represented by the speakers. The groups will research and present on the ties and programs between their focus country and Japan. As a final project, each group will present a tentative plan to further develop the connections between Japan and their research country.

Class schedule per week:

- Class 1: Introduction and Organization (all students planning to register must choose a study group on this day.)
- Class 2: A Short History of Africa / form country research groups
- Class 3: The economic consequences of Colonialism in Africa
- Class 4: TICAD / Japanese aid and large-scale investment projects – their value and impact in S.A.D.C.
- Class 5: Japan/ Africa tourism eco and main-stream / cultural and economic impact
- Class 6: mid-term, project check
- Class 7: Alternative models of small-scale investment (crafts and culture as export items)
- Class 8: N.G.O.s / education and other “cultural” contacts as components of Japan / Africa economic ties
- Class 9: Symposium prep
- Class 10: Evaluation of the symposium and some thoughts for the future
- Class 11-13 student presentations and final paper

Grading:

As this is a lecture class attendance will be an important part of the grade. If a student is absent for 3 classes without an official excuse his/her grade will be lowered one level. If more than 4 class are missed, the student cannot pass the class. Along with the group work and presentation, each student will be expected to hand in a 3-4 page paper (single space, 12pt font separate bibliography) on the last day of class. The paper will focus on one aspect of Japan/Africa relations covered in the course.

Resources:

Although there is no text, the following sites are required “surfing” for all students

<http://www.gca-cma.org/>

<http://www.southafrica.info/>

<http://allafrica.com/>

<http://www.mbendi.co.za/orsadc.htm> * this site is required viewing before the second meeting!

African Health Resources

<http://www.sul.stanford.edu/depts/ssrg/africa/health.html>

[HTTP://WWW.LOVELIFE.CH/STOPAIDS.PHP](http://WWW.LOVELIFE.CH/STOPAIDS.PHP)

[HTTP://WWW.MALIDOMA.COM/MALIDOMA/](http://WWW.MALIDOMA.COM/MALIDOMA/)

SADC Symposium 2005

<http://sadcsympo.sfc.keio.ac.jp/>

Note:

The exact schedule of speakers and participating embassies will be announced at the first class.

カナダという国とカナダの国際的な役割

(秋学期)(Fall)

CANADA AND ITS INTERNATIONAL ROLE

イエローリーズ, ジェームズ

国際センター講師 (カナダ日本連盟日本代表)

James Yellowlees

Lecturer, International Center (Director-Japan, Canadian Education Alliance)

Sub Title:

Canada's Vast Potential

Course Description:

We will learn about the various key aspects of Canada as a nation, including the history, economy, society and international role of Canada. It is an interactive class so participants will be expected to contribute each class.

Text Books:

None, will be using handouts

Reference Books:

None, will be using handouts

Class Schedule per week:

1. Introduction to Canada/What are Your Impressions of Canada ?
2. Canada's International Reputation and Role
3. Canadian Politics
4. Decentralized Canada
5. Canadian History
6. Contemporary Canada
7. The Canadian Economy
8. Canadian Business
9. Canadian Society
10. Comparisons Between Canada, Japan and America
11. About First Nations/Inuit People
12. About Canadian Culture- Multi-culturalism
13. Quebec
14. Prepare for Reports

Message to those taking this Course:

Canada is a very interesting nation that has a lot of potential. If you are interested in learning more about Canada, please consider taking this course.

Grading Methods:

1. Reports (A five page written Report on one aspect of Canadian Politics, Economy, Society or Cultures)
2. Attendance, Participation

文化・文化適応とアイデンティティ

(秋学期)(Fall)

CULTURE, CULTURAL ADJUSTMENT, AND IDENTITY

横川真理子

国際センター講師

Mariko Muro Yokokawa

Lecturer, International Center

Sub Title:

文化がコミュニケーションと相互理解に与える影響

How communication and understanding are affected by culture

Course Description:

This course examines the impact of cultural values and beliefs, the process of cultural adjustment, the formation of cultural identity, and the relationship between language and culture. Third Culture Kids (Global Nomads) and returnees will be studied along with other topics related to culture, cultural adjustment, and communication across cultures.

In addition to the readings, students will be given opportunities to discuss critical incidents on instances of cultural misunderstanding, do role plays, as well as do presentations on ethnographic studies of their choice. The instructor will provide basic guidelines on how to conduct ethnographic (observational) research.

Text Books:

Text to be announced . Other materials to be handed out in class.

Reference Books:

- Faith Edise and Nina Sichel (Eds.). *Unrooted Childhoods: Memoirs of Growing up Global*. Intercultural Press, 2004.
 Richard Brislin and Tomoko Yoshida. *Intercultural Communication Training: An Introduction*. Sage Publications, Inc., 1994.
 Ruth Van Reken and David Pollock. *The Third Culture Kid Experience*. Intercultural Press, 2001.

Class Schedule per week:

1. Introduction: What is culture? Cultures, subcultures, values, and culture learning
2. Truth or belief? Beliefs, faiths, and differences in values
3. What's happening to me?—Models of cultural adjustment
4. How do I deal with this?—Culture shock and coping
5. Who am I? Where do I come from? Culture and Identity. TCK and Global Nomad Identity (2 sessions)
6. Is this really home? Re-entry, re-learning culture, and re-defining identity (Case of returnees)
7. Am I what I speak? Language, culture, and identity (Sapir/Whorf; BICS/CALP hypotheses)
8. Presentations on ethnographic studies (3-4 sessions depending on enrollment)
9. Analysis of critical incidents and role plays

Message to those taking this Course:

Japanese returnees and international students are both welcome. The instructor is herself a returnee and Global Nomad educated at international schools in Afghanistan and Egypt, and has done her doctoral research on Japanese children abroad. Active participation and contribution by the students is crucial.

Grading Methods:

1. Reports (Ethnographic Study)
2. Attendance, Participation (Prompt arrival, full attendance, and active participation obligatory)
3. Other (Presentations and comments on presentations)

Questions, Requests:

Students are encouraged to ask questions during class, as this generates good discussions.

国際関係

(秋学期) (Fall)

INTERNATIONAL RELATIONS

セット, アフターブ

Aftab Seth

慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所教授

Professor, Keio University Global Security Research Center

Sub Title:

Public Speaking / Debate / Art of Conversation, etc.

Course Description:

The course will seek to expose students to the multidimensional nature of international interaction – including debate and literature

1. The course will focus on the importance of communication in the conduct of international relations at all levels; governments, NGOs, Multi-National Corporations, multilateral organizations and at the level of artists, journalists and academicians.
2. The course will include the art of public speaking, social intercourse, the technique of debate, the appreciation of poetry and literature and the importance of a multicultural approach to international affairs.
3. The course will be designed as an interactive one with students, encouraged to actively participating in all the activities described in the preceding paragraph.

Text Books:

None

Reference Books:

None

Class Schedule per week:

1. Communication in its various aspects – an overview
2. The art of conversation
3. Negotiation – its techniques and strategies
4. Debate – its forms and techniques
5. Drama as a vehicle of views
6. Music as communication
7. Art as a universal communicator
8. Poetry – appreciation, recitation, as communication
9. Silence – its uses as communication
10. Inter-cultural communication – the pitfalls and rewards
11. A diplomat as a communicator
12. A politician as a communicator
13. Examination

Message to those taking this Course:

Those interested in learning about communication may attend.

Grading Methods:

1. Exam(in class exam)
2. Attendance, Participasion

開発と社会変容

(秋学期)(Fall)

DEVELOPMENT AND SOCIAL CHANGE

倉沢 愛子

経済学部教授

Aiko Kurasawa

Professor, Faculty of Economics

Sub Title:

Effect of Development Policy and Social Change at Grass-roots Community in Indonesia

Course Description:

I will describe social changes brought by rapid and heavy development policy, taking a case of Indonesia. My analysis is based on field research in two sites (one urban and another rural) where I have been watching since 1996. I will focus on changes on such aspects as human relations within the community, flow of information and changes in communication mode, religious piety, life-style etc. I will show you video which I recorded at the research sites.

Through this course first of all I want you to get clear image on people's life in a relatively "unknown" world, and so doing, to reconsider such questions as what is "development" and what is "prosperity. Does economic development really bring you prosperity and happiness ? Critical analysis and evaluation are most welcome.

Text Books:

give you hand-out

Reference Books:

倉沢愛子 『ジャカルタ路地裏フィールドノート』中央公論新社 2001年

Class Schedule per week:

- (1) Introduction on Indonesia
- (2) Suharto's development policy and foreign aid (national level analysis)
- (3) Development policy in economic sector
- (4) Development policy in health sector (2 times)
- (5) Development policy in education
- (6) Neighborhood Association and Control of people
- (7) Increased flow of Information
- (8) Strengthening of Muslim belief (2 times)
- (9) Emergence of new urban middle class
- (10) Globalization and flow of pop culture
- (11) Definition of "prosperity"

Message to those taking this Course:

Read several books on developing countries in Southeast Asia

Grading Methods:

Reports (4-5 pages (A4) of essay), Attendance,Participasion (requires 70% attendance)

アジア諸国におけるビジネスマネジメント

(秋学期)(Fall)

BUSINESS MANAGEMENT IN ASIAN COUNTRIES

トビン , ロバート I.

商学部教授

Robert I. Tobin

Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

This course focuses on strengthening your understanding of the major issues and challenges involved in the leadership of businesses in Asia. There will be a special focus on business strategy and the styles of management of firms headquartered in Japan, North America and Europe.

Among the topics will be the unique political, economic, social and cultural influences on managing Asian operations, issues related to corporate governance and ownership, entrepreneurship and strategy.

The course will be conducted seminar-style with presentations and discussions based on assigned readings, case studies, video segments, projects, experiential class activities, case studies and research assignments.

Text Books:

Text TBA

Additional assigned articles, case studies and supplementary readings

Reference Books:

Students are encouraged to read related materials in The Wall Street Journal, Business Week, and The Economist and to watch related television broadcasts.

Class Schedule per week:

Introduction
 How to Succeed in Asian Markets
 Asian Market Leaders
 Hybrid Management Styles
 Leading Foreign Firms Successfully
 Local Company and Country Trends
 Country Information Presentations
 Pan-Asia Strategy
 Case Studies: Challenges of Joint Ventures and Blending Style
 Political and Economic Risks in Asia
 Executive Development and HR
 Challenges in Asia
 Competition with Family Businesses
 Business in Frontier Markets
 Company Presentations
 Additional information about this course available at www.tobinkeio.com

Message to those taking this Course:

A challenging, innovative course that examines the business approaches of countries in this region. Students call this an eye-opening course. Be prepared for a challenging, rigorous course. This course attracts a large number of Keio's top students from every faculty and exchange students from around the world. No background in business is required. There is substantial opportunity for student interaction and collaboration.

Evaluations:

Evaluation based on successful completion of assignments and projects, participation and on-time attendance, and an examination. In the event of unavoidable absence, please contact another student for assignments and be prepared for the next class. All assignments must be typed and no late papers are accepted.

Questions, Requests:

When students have questions, they can contact the instructor before or after class.
 Open to enrolled undergraduate and graduate students only.

 国際開発協力論

(秋学期)(Fall)

INTERNATIONAL DEVELOPMENT COOPERATION

後藤一美

国際センター講師 (法政大学教授)

Kazumi Goto

Lecturer, International Center, (Professor of International Cooperation, Faculty of Law, Hosei University)

Course description:

The twenty-first century is an era of global governance. The realm of contemporary international relations has seen the commencement of new political attempts to gradually reform existing systems in complex governance with different players and multi-tiered networks for the creation of a convivial global society, in which the common values of peace, prosperity and stability are pluralistically shared, overcoming the risks of asymmetry and tit-for-tat sequences. In this new political initiative towards an unknown world, there are some critical challenges, including the pursuit of public goals in the international community and of effective measures to reach them. In the new world of international development cooperation, aid donors and aid recipients have different dreams yet lie in the same bed with a dynamic and tense relationship. By reviewing frontline efforts in international development cooperation with a view towards sustainable growth and poverty reduction from the perspective of cooperation policies, this course is intended to provide some basic foundations and applications for the management of international development cooperation with students that are interested in the main issues of poverty and development in the developing regions, and that wish to be involved in the world of international development cooperation in the future. Several guest speakers shall be invited from international aid agencies.

Text Books:

Textbook is not used in particular. Resume and list of reading materials will be available during the course and via e-mail.

Reference Books:

- David Arase, Japan's Development Aid: An International Comparison (Contemporary Japan), Routledge, 2005.
 - David Arase (ed.), Japan's Foreign Aid: Old Continuities and New Directions, Routledge, 2005.
 - Ramesh Thakur, Andrew F. Cooper, John English (eds.), International Commissions and the Power of Ideas, United Nations University Press, 2005.
- Anthony Payne, Global Politics Of Unequal Development, Palgrave Macmillan, 2005.
- Jeffrey D. Sachs, The End Of Poverty: Economic Possibilities for Our time, The Earth Institute: Columbia University, 2005.

- Report of the UN Secretary-General, In Larger Freedom: Towards Development, Security and Human Rights for All, United Nations, 2005. <<http://www.un.org/largerfreedom/>>
- Report of the UN Millennium Project (Jeffrey D. Sachs, Director), Investing in Development: A Practical Plan to Achieve the Millennium Development Goals, United Nations, 2005. <<http://www.unmillenniumproject.org/>>
- Report of the Secretary-General's High-level Panel, A More Secure World: Our Shared Responsibility, Department of Public Information, United Nations, 2004. <<http://www.un.org/secureworld/>>
- Margaret P. Karns, Karen A. Mingst, International Organizations: The Politics and Processes of Global Governance, Lynne Rienner Pub, 2004.
- Michael Edwards, Future Positive: International Cooperation in the 21st Century, Stylus Pub Llc, 2004.
- John Keane, Global Civil Society ?, Cambridge University Press, 2003.
- Akitoshi Miyashita, Limits to Power: Asymmetric Dependence and Japanese Foreign Aid Policy, Rowman & Littlefield Pub Inc, 2003.
- John Degenbol-Martinussen and Poul Engberg-Pedersen, Aid: Understanding International Development Cooperation, Palgrave-Macmillan, 2003.
- Finn Tarp, Foreign Aid and Development: Lessons Learned and Directions for the Future (Routledge Studies in Development Economics), Routledge, 2000.
- 後藤一美・大野泉・渡辺利夫 (編著) 『日本の国際開発協力』 <シリーズ国際開発: 第4巻> 日本評論社, 2005年。
- 後藤一美 (監修) 『国際協力用語集』 <第3版>, 国際開発ジャーナル社, 2004年。

Class Schedule per week:

- 第1回: Orientation
- 第2回~第3回: Introduction to international development cooperation
- 第4回~第6回: Major issues (Part 1: Theory)
- 第7回~第9回: Major issues (Part 2: Practice)
- 第10回~第12回: Major issues (Part 3: Actor)
- 第13回: Prospects of international development cooperation

Message to those taking this Course:

Active participation in class discussions is required.

Grading Methods:

Some short essays are requested to be submitted during the course. Evaluation will be made, based on the final report (five pages of A4 size) submitted at the end of the course, with the following criteria: originality; logic; and persuasiveness.

Questions, Requests:

Should you have any inquiries, feel free to contact with the following address:<k-goto@i.hosei.ac.jp>

現代インド事情
INDIA TODAY

西村祐子
Yuko Nishimura
セツ, アフターブ
Aftab Seth

国際センター講師 (駒澤大学教授)
Lecturer, International Center (Professor, Komazawa University)
慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所教授
Professor, Keio University Global Security Research Center

(秋学期)(Fall)

Sub Title:

The Indian Middle Class : Where are they from and where are they going ?

Course Description:

This course is aimed at describing India through the eye of 'the middle class': In this course, participants will learn where India's new middle class come from, how they are different from the 'traditional middle class'. How globalization influences Indian new middle class, etc. We will study caste, class, kinship, and gender from the post-modern perspective. We will learn the cultural difference between the North and the South, similarities and differences between Indian middle class and other Asian counterparts. We will also cover issues surrounding 'dowry' problems in India. We will discuss these issues in the class and students are encouraged to study issues from cross-cultural perspective. Essay writing and discussion will also focus on understanding the modernity and Asia.

Textbooks:

- Appadurai, A. 1996 Modernity at Large, Univ. of Minnesota Press.
- Das, G. 2002 India Unbound, Oxford Univ. Press. (In the class, a few websites will be also suggested).

Reference Books:

- J. Nehru 1946 The Discovery of India, Oxford Univ. Press.
- Varma, P. 1996 The Great Indian Middle Class, Penguin Books.
- Y. Nishimura 1998 Gender, Kinship, and Womanhood in South India, Oxford Univ. Press.
- Breckenridge, C. 1995 Consuming Modernity, Univ. of Minnesota.
- Robinson, R. & Goodman, D. 1996 The New Rich in Asia, Routledge.

Class Schedule per week (The order of topics may change):

Each class will have 60-minute-lecture and 30-minute-discussion.

1. Introduction to India Today: What is Modernity ?
2. British Raj and the appearance of India's middle class.
3. Brahma Samaj and Arya Samaj: the West and the Other
4. Emergence of the Independence Movement and the Middle Class: What is the Congress ?
5. The Middle Class in Power: Industrialization and India
6. Kinship and Marriage: What is Kulinism ? Emergence of 'Dowry'
7. Family Law and Gender : Property Rights, Dowry, and Marriage in Post colonial India
8. Shar Bano and Nisha Sharma : Women, property rights, Marriage, and Divorce.
9. Migrating Indians: Case Study of Kerala.
10. Economic Liberation and the 'New Middle class' : who are they ?
11. The Middle Class women vs. Working Class Women: what is the difference ?
12. Modernity and the New Middle Class in Asia: People and Migration.
13. Epilogue: Globalization and the Indians : Can the New Middle Class save India ?

Message to those taking this Course:

You will be asked to do three short reports during the session (about 1000 words each), and a 3000 word final report at the end of the course. You may participate in a trip to South India in mid Feb. for 2 weeks (this is not part of the course work and is completely optional).

Grading Methods:

Reports (60%)

Attendance, Participasion (40%)

Questions, Requests:

Please ask questions during the discussion. Or if you have further questions, you may email: yukon@b1b2.org (you must mention your name and student ID in the subject column. Otherwise, my 'spam' filter may delete your message before I see it).

EU - JAPAN ECONOMIC RELATIONS

(秋学期)(Fall)

嘉治 佐保子

経済学部教授

Kaji, Sahoko

Professor, Faculty of Economics

林 秀毅

経済学部非常勤講師

Hayashi, Hideki

Part-time Lecturer, Faculty of Economics

Course Description:

This course is offered in English. The goal is to broaden and deepen students' knowledge in EU-Japan relations, with emphasis on the economic aspects. Each lecture will be based on different chapters of Gilson (2000) and additional materials as necessary. Powerpoint will be used for exposition. Students are expected to participate actively with questions and comments.

At the end of each lecture, the topic to be discussed the following week will be announced. A set of questions related to that topic will also be given out. Students must write a report on one of the questions and submit it at the beginning of the next lecture. By writing this weekly report, students are to familiarise themselves with the next topic before coming to the lecture.

Text Books:

Julie Gilson, (2000) 'Japan and the European Union. A Partnership for the Twenty-First Century', Palgrave Macmillan, 2000. (Several Copies of the text are on reserve at the library.)

For lighter reading, students can turn to Kaji, Hama and Rice (1999) "The Xenophobe's Guide to the Japanese," Oval Books.

References:

Kaji, Hama and Rice, "The Xenophobe's Guide to the Japanese," Oval Books, 1999.

Class Schedule (Subject to change):

- Chapter 1 Introduction: Assessing Bilateral Relations (1)
- Chapter 2 Developing Cooperation 1950s - 80s (2)
- Chapter 3 Japan and its Changing Views of Japan (3, 4)
- Chapter 4 European Integration and Changing Views of Japan (5, 6)
- Chapter 5 The 1990s and a New Era in Japan-EU Relations (7, 8)
- Chapter 6 Cooperation in Regional Forums (9, 10)
- Chapter 7 Addressing Global Agendas (11, 12)
- Chapter 8 Conclusions: A partnership for the Twenty-first Century (13)

Message to Those Taking This Course:

Knowledge of other European languages is welcome, but not essential.

Evaluation:

End-of-term essay (on any related topic), weekly reports, class participation.

Questions and consultation:

Anytime during the class, also by e-mail.

Course Description:

This course investigates the aims, effectiveness and unexpected consequences of science and technology policies around the world. It focuses the roles of the states, in promoting and regulating scientific research and technological development.

In previous years I have talked in Japanese for the first half of each class and English for the second half, but will adjust this to fit students preferences.

Reference Books:

- Mani, S. (2002). Government, innovation, and technology policy: an international comparative analysis. Cheltenham, UK; Northampton, MA, Edward Elger Pub.
- Rogers, E. M. (2003). Diffusion of innovations. New York, Free Press.
- Neufeld, M. J. (1995). The rocket and the reich; Peenemünde and the coming of the ballistic missile era. New York, Free Press.
- Dyson, G. (2001). Project Orion: the true story of the atomic spaceship. New York, Henry Holt and Co.
- McCurdy, H. E. (1990). The space station decision: incremental politics and technological choice. Baltimore, Johns Hopkins University Press.
- Broad, W. J. (1997). The universe below: discovering the secrets of the deep sea. New York, Simon & Schuster.
- 加藤弘一 著 『電腦社会の日本語』文春新書，2000
- Lessig, L. (2004). Free culture: how big media uses technology and the law to lock down culture and control creativity. New York, Penguin Press.
- Weber, S. (2004). The success of open source. Cambridge, MA, Harvard University Press.
- Thomas, D. (2002). Hacker culture. Minneapolis, University of Minnesota Press.
- Etzkowitz, H. (2002). MIT and the rise of entrepreneurial science. London; New York, Routledge.

Class Schedule per week:

1. オリエンテーション
2. 技術政策の概要
3. イノベーションと技術普及論
4. 宇宙ロケットの開発史
5. プロジェクト・オライオン（原子力ロケット）
6. 国際宇宙ステーション
7. 海洋研究
8. 規格の役割。文字コードを例に
9. 著作権制度
10. オープン・ソース・ソフトウェア
11. コンピュータセキュリティ
12. 科学技術政策と大学
13. まとめ

Evaluation:

授業内試験の結果による評価 (in-class examination)

Inquiries:

jonathan_lewis@mac.com

日本研究講座 (Japanese Studies)

異文化コミュニケーション1 日本のコミュニケーションパターンから見た場合

(春学期)(Spring)

INTERCULTURAL COMMUNICATION 1

手塚千鶴子

国際センター教授

Chizuko Tezuka

Professor, International Center

Sub title:

Seen from Japanese communication patterns

Course Description:

This course has three interrelated purposes. The first is to help students learn some essential elements of Japanese psychology and culture, and their implications for communication patterns of Japanese people both among themselves and in intercultural settings. The second is to help students to examine both difficulties/challenges and excitements/joys of intercultural communication by learning key concepts and issues of intercultural communication. The third is to facilitate both Japanese and international students' on-going intercultural communication both by increasing self-awareness of how their respective cultures affect their communication patterns and by arranging them to learn to work together successfully on group projects which will serve as testing grounds for their intercultural communication.

Text Books:

No designated textbook and handouts will be distributed.

Recommended Readings:

Japanese culture and behavior: selected readings by Takie Lebra & William Lebra

Japanese patterns of behavior by Takie Sugiyama Leba

An introduction to intercultural communication by John C. Condon & Fathi Yousef

Intercultural communication :a reader (6th edition) by L.A.Samovar & R.E.Peter

Class Schedule:

1. Orientation and quiz on the impact of globalization on Japan
2. Conformity pressure vs. individualism in Japanese culture: a case study of Toko Shinoda, a female artist
3. What puzzles you about Japanese culture and society ? and Orientation to Group Projects
4. Understanding Japanese culture through examining mother-child relationship pictures and How to have good intercultural communication in class
5. Culture as mental software, functions of culture, and culture and communication
6. Amae psychology: prototype of Amae and definition of Amae
7. How Amae psychology and an emphasis on Wa gets translated into Japanese communication patterns: Sasshi, Enryo and Honne vs. Tatemaie
8. How to overcome difficulties in intercultural communication: attribution, empathy and ethnocentrism
9. Preparation for Group Project
10. The Concept of Sunao and its implications for Japanese communication patterns: conflict avoidance, readiness to compliance ?, and open-mind
11. Comparing concepts of self between individualistic cultures and collectivistic cultures and its implications for intercultural communication between the two
12. Group project presentation 1
13. Group project presentation 2 and Wrap-up

Message to Those Taking This Course:

You are strongly encouraged to do risk-taking by sharing your opinions and feelings. Thus contributing to class by active participation in pair-work, group work and class discussion is a must, as the instructor believes that students learn a great deal from their classmates. As group projects, a major source for students' satisfaction, take so much time and energy in and outside of class, students' commitment is essential here. And your input to make this class better and interesting is always welcome by the instructor.

Evaluation:

To be based on the combination of Reports and Attendance and Class participation including oral presentation.

Questions and Requests:

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at ctezuka@ic.keio.ac.jp.

英国と米国のマスコミに描かれた日本

(春学期)(Spring)

JAPAN IN THE FOREIGN IMAGINATION

キンモンズ, アール H.

国際センター講師(大正大学教授)

Earl H. Kinmonth

Lecturer, International Center (Professor, Taisho University)

Description:

This course examines foreign (primarily Anglo-American) views of Japan, both contemporary and historical. Materials used and discussed range from Hollywood films to academic works by Ivy League professors. Knowing the common and often highly distorted images of Japan and

the Japanese, both positive and negative, presented in foreign mass media and popular culture is important to both Japanese and foreign students. These images have been and continue to be significant in Japan's diplomatic and economic relations with other countries. Moreover, the mechanisms that distort the foreign view of Japan also work to distort the Japanese view of foreign countries. Teaching students how to recognize distorted images of foreign countries and peoples is a major goal of this course.

Format:

Lectures supplemented by visual materials including extracts from Hollywood films and contemporary television news coverage. Students who are unsure of their English comprehension should feel free to record the lectures or ask questions in Japanese.

Readings:

No textbook is used. A general bibliography of influential foreign writing on Japan will be distributed. Significant writing pertaining to each topic will be introduced and discussed in the lectures.

Lecture Topics:

Because the instructor encourages student comment and discussion and because topics of special interest may appear in the foreign media during the term, the number of sessions and the specific topic for each session may vary somewhat from the list below.

- 1 Japan ? Who's Japan ? When ? Where ?
- 2 Cool Japan(1) - Japanese Pop Culture in Europe and America
- 3 Cool Japan(2) - Japanese Pop Culture in Europe and America
- 4 Cruel Japan(1) - The Legacy of War in America and Asia
- 5 Cruel Japan(2) -The Legacy of War in America and Asia
- 6 Sick Japan -Japanese Social Problems Seen from Afar
- 7 Concrete Japan - The Japanese Natural Environment
- 8 Gung Ho Japan - Japan as Number One
- 9 Frightening Japan -The Rising Sun Threatens America
- 10 Sexy Japan - Japanese Women and Sex in the Foreign Imagination
- 11 Sneaky Japan(1) - Pearl Harbor and Its Legacy
- 12 Sneaky Japan(2) -Pearl Harbor and Its Legacy
- 13 Japan ? - Where is the Real Japan ?

Grading and Required Work:

Students will be expected to write one short paper on some aspect the foreign image of Japan or the Japanese image of something foreign. There will be a final examination for the course based on the lectures. In principle the paper (report) and final examination are each weighted fifty percent but in the case of students who miss lectures because of job hunting or those with special language problems, a different weighting may be agreed upon in consultation with the instructor. The examination will be based on the lectures, video materials, and handouts. Students will be free to consult their notes or copies of the handouts during the examination. Electronic and paper dictionaries are also permitted.

Course home page:

<http://www2.gol.com/users/ehk/keio>

Email for the instructor:

ehk@gol.com or e_kinmonth@mail.tais.ac.jp

源氏物語への道

(春学期)(Spring)

THE TRAIL OF GENJI

アーマー , アンドルー

文学部教授

Andrew Armour

Professor, Faculty of Letters

Course Description:

Written a thousand years ago, *The Tale of Genji* has won international fame as "the world's first novel". Partly because of this distinction, it is apt to be viewed as an isolated phenomenon, almost an aberration. In an attempt to correct such a perspective, this course will trace the roots of this Heian masterpiece, introducing the major extant works that preceded it. The focus is on literature, but political and cultural developments will also be covered in order to throw light on the historical background and mental atmosphere of the period.

Text Books:

Instructions and materials are provided on the class website (www.armour.cc/genji.htm).

Recommended Readings:

A list of reference works and useful links are available on-line.

Class Schedule (Subject to change):

A detailed list of the works covered in this course is available on the class website.

On completion of this lecture course, students should:

1. Be familiar with the major works of poetry, prose and drama in the period covered;
2. Comprehend the major literary currents in the period covered and be able to identify the importance of the major works in the development of these currents;
3. Be familiar with the major figures in Japanese literary history (including commentators and critics) and their achievements;

4. Appreciate the cultural background (including religious aspects) of the works covered and, where necessary, the political events that form a backdrop to the literature;
5. Be familiar with the reception of Japanese literature in the West.

In the last few weeks of the course, those students requiring a grade will have an opportunity to report on a reading and research project of their own choosing.

Message to Those Taking This Course:

The course assumes that the student has a working knowledge of English. Prior knowledge of Japanese literature is not required, though it is desirable. Naturally some familiarity with the Japanese language, spoken and written, is an advantage.

Evaluation:

Grading is primarily based on the student's research project, presented to the class (using PowerPoint) according to a published schedule; a Q&A session will follow each presentation and a student's responses are taken into consideration in the grading process. Overseas students who want their credits to be transferred to their home university are advised to present their research results in the form of an academic paper, complete with notes and bibliography. Naturally, regular attendance is important in order to receive a passing grade; the International Center requires that a record be kept.

日本の経営

(春学期)(Spring)

JAPANESE SOCIETY AND BUSINESS

梅津光弘

商学部助教授

Mitsuhiro Umezu

Associate Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

Goal:

In this course, we will analyse contemporary Japanese society and business from an ethical perspective.

Through lecture and case discussion, I would like to find a balancing point of culturally contextualized management and globally acceptable norms for future international business. Also, I would like to discuss the strong points of Japanese Style Management which could be transferable to other cultures, and the weak points which would be universally unacceptable.

Method:

First, I will highlight the historical and theoretical aspects fundamental to analyzing Japanese society and business from an ethical perspective. Then I will assign you to read short cases which describe recent incidents that have caused public controversy both in Japan and elsewhere.

Texts:

Reischauer, E.O. The Japanese Today: Change and Continuity. The Belknap Press of Harvard University Press, 1988.

Handouts

Recommended Reading:

TBA

Class Schedule (Subject to change):

1. Introduction: Geography, Climate and Demography of Japan
2. Historical Orientation of Japan.
3. Interpretation of Contemporary Japanese Society 1
4. Interpretations of Contemporary Japanese Society 2
5. Interpretations of Contemporary Japanese Society 3
6. Midterm Exam.
7. Government and Business Interface
8. Japanese Corporate Governance
9. Ethical Issues in Japanese Workplace 1
10. Ethical Issues in Japanese Workplace 2
11. Japanese Business in Transition 1: Community
12. Japanese Business in Transition 2: Environment
13. Final Exam.

Message to Those Taking This Course:

This is a course for international students who want to learn about the fundamentals of Japanese society and business. It is necessary for you to have advanced-level English discussion skills. Through this discussion, I hope you will deepen your understanding of Japanese society and business, and develop cultural insights that help in dealing with practical issues in an international setting.

Evaluation:

Mid-Term Examination (TBA) 30%, Final Exam/ Project (TBA) 40%, Class Participation 20%, Home work 10%

手塚千鶴子
Chizuko Tezuka

国際センター教授
Professor, International Center

Sub title:

Conflict Management

Course Description:

This course is designed to explore how Japanese manage interpersonal conflict both among themselves as well as in interaction with foreigners, and its implications for Japanese society which is becoming more multicultural in this accelerated globalization age. Though a Western notion of conflict claims that conflict is inevitable yet not necessarily bad, the Japanese society has been described to believe in its self-image as a conflict-free society and to abhor and avoid interpersonal conflicts as any cost. With this apparent contrast in mind, students will learn characteristics of Japanese conflict management strategies, their cultural and social psychological background, and the challenges for both Japanese and foreigners in trying to creatively deal with intercultural conflicts. And students will be asked to take some psychological measures related to conflict for self-understanding.

Text Book:

No designated textbook and handouts will be distributed.

References:

Conflict in Japan edited by Ellis Krauss, Thomas Rohren, and Patricia G. Steinhoff, University of Hawaii Press, 1990.

Japanese Culture and Society: model of interpretation edited by Kreiner and Olscheleger, Monographien 12, Deutschen Institute fur Japanstudien der Philipp-Franz-von-Siebold-Stiftung, 1996.

Das Wesen von Naikan: the essence of NAIKAN 内観の本質 edited by Prof. Akira Ishii/Shaku Yoko JOseh Hartl (Hrsg.), altes Wissen, neue Wege, 2000. (a book in German, English and Japanese)

Class schedule:

1. Orientation and test-taking on conflict management style
2. Harmony Model vs. Conflict Model of Japanese Society and orientation to writing conflict episode journal
3. Non-confrontational Strategies of Conflict Management: Bullying in Japanese Schools 1
4. Non-confrontational Strategies of Conflict Management: Bullying in Japanese Schools 2
5. Non-confrontational Strategies of Conflict Management: *Karoushi* and *Gaman*
6. Japanese cultural values underlying non-confrontational strategies
7. How Japanese express anger
8. Cross cultural comparison of conflict management between U.S.A. and Japan
9. A case study of intercultural conflict around the *Ehimemaru* incident
10. Intercultural conflicts between Japanese teachers and int'l students
11. Japanese conflict management seen from a perspective of a bicultural writer, Kyouko Mori.
12. How to make use of anger creatively
13. Wrap-up session

Messages to those students taking this course:

Students who are willing to participate actively in class are most welcome. Students are strongly encouraged to engage actively in pair work, a small group discussion and class discussion. Students are expected to complete reading assignment before coming to class.

Evaluation:

To be based on the combination of reports, attendance, and participation.

Questions and Requests:

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at ctezuka@ic.keio.ac.jp

ドーシー, ジェームス
James Dorsey

国際センター講師(ダートマス大学助教授)
Lecturer, International Center (Associate Professor, Dartmouth College)

Sub Title:

Japanese Writers, Poets, Artists, Filmmakers and Cartoonists Under the Wartime State

Course Description:

The course will examine a variety of cultural artefacts (essays, short stories, novels, films, comics, etc) produced in Japan during the 1930s and 1940s and related, either directly or indirectly to the wars first in China and later in the Pacific. The course will focus on discovering the workings of, and relationship between, propaganda, nationalism, imperialism, colonialism, censorship, interpretive strategies, and the creative imagination.

Text Books:

- John W. Dower, *War Without Mercy: Race & Power in the Pacific War* (New York: Pantheon Books, 1986), 2000円.
- Samuel Hideo Yamashita, *Leaves from an Autumn of Emergencies: Selections from the Wartime Diaries of Ordinary Japanese* (Honolulu: University of Hawaii Press, 2005), 2500円.
- Ishikawa Tatsuz, *Soldiers Alive*, trans by Zeljko Cipris (Honolulu: University of Hawaii Press, 2003), 2500円.
- Handouts

Class Schedule per week:

- COURSE INTRODUCTION
Instructor & student introductions, course expectations, grading policy, etc.
FIRST IMPRESSIONS
Students react to painting by Fujita Tsugeharu, poem by Takamura Kotaro, short story excerpt from Dazai Osamu
- THE LIBERAL ROOTS OF THE RADICAL RIGHT (1920s)
Students read Nakano Shigeharu, "The House in the Village"
Lecture on Kobayashi Takiji, Hayashi Fusao, and the "tenko" (conversion) movement.
- "HOME IS WHERE THE HEART IS" (1930s)
Students read Kobayashi Hideo, "Literature of the Lost Home"
Lecture on the "furusato" boom and reactions to modernity in the works of Kawabata Yasunari and Sakaguchi Ango
- THE DELICATE DANCE OF WRITERS AND THE STATE (2 sessions)
Students read Ishikawa Tatsuzo, *Soldiers Alive*
Lecture on censorship and comparison with Hino Ashihei's "Soldier Trilogy"
- "THE EMPIRE IS MUSIC TO MY EARS": A GRAMMAR OF *GUNKA*
Students read Ishikawa Jun, "Mars' Song"
In class we listen to various *gunka* (military songs); lecture on the role of music and composers in representing the state.
- "PURE AND SIMPLE": PROPAGANDA THEMES AND VENUES (2 sessions)
Students read John Dower, *War Without Mercy*
Lecture on themes in, and function of propaganda; comparison with Barak Kushner, *The Thought War: Japanese Imperial Propaganda*.
- "THIS IS NO LAUGHING MATTER--OR IS IT?": CARTOONISTS AND THE WAR
Students read Sodei Rinjiro, "The Double Conversion of a Cartoonist: The Case of Kato Etsuro"
Lecture on the evolution of Tagawa Suiho, *Stray Blackie* (田河水泡 / 「のらくろ」) and the role of manga in normalizing the war.
- THE EVERYDAY AND THE EXTRAORDINARY: WARTIME DIARIES
Students read Yamashita, *An Autumn of Emergencies*
Lecture on everyday life in wartime Japan, comparison of writer and average citizen diaries
- RECYCLED HEROES
Students read excerpts from Yoshikawa Eiji, *Miyamoto Musashi*
In class watch clips of wartime film version of Mizoguchi's *Genroku Chushingura*; lecture on the heroes appearing in wartime propaganda.
- THE "NINE GODS OF WAR" IN FICTION, FILM, AND JOURNALISM
Students read Sakaguchi Ango, "Pearls" and Dorsey, "Literary Tropes, Rhetorical Looping, and the Nine Gods of War: 'Fascist Proclivities' Made Real"
In class watch clips from Tasaka Tomosaka, *The Navy*; lecture on the Nine Gods of War phenomenon.
- SUMMARY: CREATIVITY IN A TIME OF WAR

Message to those taking this Course:

War, suicide bombers, propaganda, surprise attacks, nationalism, the West vs. the non-West. These are all very much a part of our world today, and they were very much a part of it in the 1930s and 1940s. All students willing to explore and discuss these issues in the context of Japan's modern history are welcome. A field trip to the Yasukuni Shrine and museum will be part of the course.

Grading Methods:

1. Reports (2 two-page responses for 25%; 1 eight-page essay for 40%)
2. Attendance, Participation 35%

 近代日本の対外交流史

(秋学期) (Fall)

MODERN HISTORY OF DIPLOMATIC AND CULTURAL RELATIONS BETWEEN JAPAN AND THE WORLD

太田昭子

法学部教授

Akiko Ohta

Professor, Faculty of Law

Course Description:

The course aims to provide an introductory and comprehensive view of the history of diplomatic and cultural relations between Japan and the World in the latter half of the nineteenth century and early twentieth century. A basic knowledge of Japanese history is desirable, but no previous knowledge of this particular subject will be assumed. A small amount of reading will be expected each week.

Textbooks:

No specific textbook will be used.

Recommended Readings:

The reading list will be given at the beginning of the term.

Class Schedule (Subject to change):

1. Japan and the World before the Opening of Japan (2 lectures): General introduction and the reappraisal of the Seclusion Policy
2. The Opening of Japan and international society in the 1850s and 1860s
3. The First Treaty with the West and the subsequent treaties(2 lectures): the analysis of the U.S.-Japanese Treaty of Peace and Amity will be included
4. Japanese Visits Abroad (2 lectures): the evaluation of the cultural and diplomatic significance of the Japanese visits abroad (official missions / official students / stowaways and castaways)
5. Japanese perception of the West, changing attitudes and feelings in the 1860s (1 lecture)
6. Western perception of Japan in the 1850s and 1860s (1 lecture)
7. The significance of the Iwakura Mission (1 ~ 2 lectures)
8. Development of Japanese Nationalism in the Meiji Era (2 lectures): comparative analysis of several primary sources
Optional excursion to the Yokohama Archives of History may be included in the programme.

Evaluation:

Students are expected to make a short report on a research project of their own choosing and hand in a term paper of about 3,000 words (about five pages, A4, double space) by the end of the term, and take the final examination.

Volunteers for a mini-presentation (about 10-15 minutes) on the topics related to the lecture are most welcome. (Details will be explained in class.)

異文化コミュニケーション2 異文化接触における日本人のアイデンティティ

(秋学期)(Fall)

INTERCULTURAL COMMUNICATION 2

手塚千鶴子

国際センター教授

Chizuko Tezuka

Professor, International Center

Sub title:

Identity of Japanese Sojourners

Course Description:

The first purpose is to help students learn how Japanese people have been experiencing exciting as well as confusing encounters with cultures different from their own and how such cross cultural encounters in and outside of Japan have been affecting their sense of identity and communication styles as an individual (and as people) from the times of Japan's First Opening to the world in the late Edo Period up to the present from the three perspectives: history, cultural adjustment, and intercultural communication, utilizing case studies. The second purpose is to help both Japanese and international students who are brought together to Mita campus by the globalization and internationalization to make best use of this class to communicate effectively through discussion and other student-centered activities.

Text Books:

No designated textbook and handouts will be distributed.

References:

- Tsuda Umeko and Women's Education in Japan* by Barbara Ross, Yale Univ Press, 1992.
The White Plum: a biography of Ume Tsuda by Yoshiko Furuki, Weatherhiesel, 1991.
Intercultural Communication: reader 5th ed., Larry Samovar and Richard E Porter, Wadsworth Publishing Company, 1989.
Japanese Culture and Behavior (revised edition) ed.by Takie Sugiyama Lebra and William Lebra, Univ. of Hawaii Press, 1986.
Japanese Patterns of behavior ed by Takie Sugiyama Lebra, Univ. of Hawaii Press, 1976.
Exploring Japaneseness: on Japanese Enactments of Culture and Consciousness ed by Ray

Course schedule:

1. Orientation to the course
2. A brief historical review of Japan's encounter with the outside world as an island nation up to the late Edo Period
3. Japan's attitude towards the West after the First Opening of Japan with an emphasis on absorbing the Western civilization
4. Japan's endeavor to modernize herself in comparison with Korea and China
5. A case study of Umeko Tsuda 1: a successful sojourn in America
6. A case study of Umeko Tsuda 2: many years of struggle adjusting back to Japan
7. Cross cultural adjustment1: culture as mental software, stages of cross cultural adjustment, and facilitating factors of cross cultural adjustment
8. A case study of Paris Syndrome or Double Suicide in Los Angeles: overadjustment and challenges for Japanese sojourners
9. A case study of a Malaysian woman married to a Japanese: cultural identity
10. Identity: ego identity, personal identity, and social identity, process of identity formation, and issues of identity fluctuation in cross cultural adjustment
11. A case of Jiro, a Japanese returnee who spent 6 years in U.S.A.: formulation and transformation of cultural identity and adjustment issue

back in Japan

12. A case study of Masao Miyamoto adjusting back to Japan in the Showa Period in comparison with Umeko Tsuda in the Meiji Period:
13. Wrap-up: Challenge for both Japanese and non-Japanese in the globalizing world

Messages to students:

Those students who are willing to participate actively in class are most welcome. Students are strongly encouraged to engage actively in pair work, a small group discussion and class discussion.

Evaluation:

To be based on combination of Reports and Attendance and Class Participation.

Questions and Requests:

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at ctezuka@ic.keio.ac.jp

日本キリスト教史

(秋学期)(Fall)

CHRISTIANITY IN JAPANESE HISTORY

ポールハチエット , ヘレン 経済学部教授

Helen Ballhatchet Professor, Faculty of Economics

Sub Title:

A case study of cross-cultural contact

Course Description:

Christianity in Japan presents us with a number of paradoxes. For example, although the majority of Japanese today choose Christian-style weddings, the actual number of Christians amounts to less than one per cent of the total population (as opposed to 25 per cent in its close cultural neighbour, South Korea). This 'failure' contrasts with the relatively greater growth of Christianity in the late sixteenth and early seventeenth centuries, even though the total number of missionaries was much smaller and the linguistic and logistical barriers greater. Perhaps the greatest paradox occurred after Christianity was virtually eliminated through an increasingly severe campaign of persecution from 1614 onwards. Small groups in isolated communities succeeded in preserving recognisably Christian beliefs and practices. However, many of these groups refused to accept the authority of Roman Catholic missionaries when they returned to Japan in the second half of the nineteenth century.

In the course we will consider these and other issues, using a combination of primary and secondary materials. By studying the activities and ideas of missionaries, Japanese Christians, and Japanese who did not become Christian, student will gain general understanding of the dynamics of cross-cultural contact. They will also learn about the nature of history through interpreting primary materials and studying different approaches to the history of Christianity in Japan.

Recommended Reading:

There will be a selection of assigned readings for each class. Students will find it useful to start the course with a basic knowledge of Japanese history, Japanese religion, and Christianity. All suggestions for reading will be displayed on my web site (<http://web.hc.keio.ac.jp/~hjb/>).

Class Schedule (Subject to change) :

1. Orientation and overview: Religion and history
2. The view from the present: Religion in Japan and images of Christianity
3. From Xavier to Hideyoshi (1549-1598): (1) The background and the initial encounter
4. From Xavier to Hideyoshi (1549-1598): (2) Missionary approaches to the Japanese
5. From Xavier to Hideyoshi (1549-1598): (3) Japanese approaches to Christianity
6. Tokugawa Japan (1600-1868): (1) Government policies towards Christianity
7. Tokugawa Japan (1600-1868): (2) Christianity underground
8. Early Meiji Japan (1868-1888): Christianity and Western civilization
9. From mid-Meiji to the end of World War II (1889-1945): (1) Christianity and the dilemma of patriotism
10. From mid-Meiji to the end of World War II (1889-1945): (2) Christianity in a Japanese context
11. The second half of the twentieth century: (1) Christianity and Japanese democracy
12. The second half of the twentieth century: (2) Christianity in a Japanese context
13. Concluding remarks: Religion and history revisited

Message to those taking this Course:

I hope to attract students from a variety of backgrounds. This is because the course will gain from the combined viewpoints of people from areas which have sent Christianity missionaries to Japan, such as Portugal and the United States, and of people from areas which have played host to Christian missionaries, both in Asia (including Japan itself) and elsewhere.

I will expect students to attend all classes, on time, to do the assigned readings, and to participate in class presentations and discussions. Sessions will be organised into a combination of formal lectures and interactive seminars.

Grading Methods:

1. Oral presentations (30%)
2. Reports (At least one short and one long) (50%)
3. Attendance and Participation (20%)

Questions, Requests:

Students wishing to ask a question or arrange an appointment should talk to me before or after classes, or send an e-mail. My e-mail address is given on my web site (<http://web.hc.keio.ac.jp/~hjb/>).

多民族社会としての日本

(秋学期)(Fall)

MULTIETHNIC JAPAN

柏崎千佳子

経済学部助教授

Chikako Kashiwazaki

Associate Professor, Faculty of Economics

Course Description:

This course introduces students to 'multiethnic Japan'. Although Japanese society is often portrayed as ethnically homogeneous, its members include diverse groups of people such as the Ainu, Okinawans, *zainichi* Koreans, and various 'newcomer' foreign residents. In this course, students will learn about minority groups in Japan and their relations with the majority 'Japanese' population. The goal of this course is to acquire basic knowledge and analytic tools to discuss issues concerning ethnic relations in Japan and elsewhere.

Texts:

Reading materials consist of excerpts from a variety of sources and will be provided by the instructor.

Class Schedule (Subject to change):

1. Introduction
2. Is Japan ethnically/culturally homogeneous ?
3. Theories of ethnic relations
4. Zainichi Koreans: past and present
5. Zainichi Koreans: identity formation
6. Nikkei-Brazilians
7. Visa overstayers
8. "Foreign brides"
9. People from buraku
10. The Ainu
11. Okinawans
12. Presentations on the final project
13. Summary — Rethinking Japanese society

Message to Those Taking This Course:

The class is conducted entirely in English. Much of class activity is devoted to oral presentations and discussion. Students are expected to read the assigned materials beforehand and to participate actively in the class.

Evaluation:

Evaluation will be based on participation in classroom discussion (20%), presentations (20%), and reading/writing assignments including a short essay and a term paper of 1,800+words (60%).

政策決定，歴史的記憶，人種から見る明治期日本外交

(秋学期)(Fall)

JAPANESE DIPLOMACY IN THE MEIJI ERA:DECISION-MAKING, HISTORICAL MEMORY AND RACE

飯倉 章

国際センター講師 (城西国際大学教授)

Akira Iikura

Lecturer, International Center(Professor, Josai International University)

Sub Title:

Decision-making, historical memory and race

Course Description:

This course aims to examine Japanese diplomacy in the Meiji era from diverse angles and provide students with some new perspectives on the historical events in the period such as the triple intervention, the Anglo-Japanese alliance, and the Russo-Japanese War. Students will gain an understanding of Japanese diplomacy in the Meiji era and learn how to analyze historical events through decision-making theories, historical memory, and the concept of race.

Text Books:

No textbook will be used. Handouts will be given as reading assignments.

Reference Books:

Recommended readings will be suggested in the course of the lecture.

Class Schedule per week:

1. Introduction to the course and decision-makers in the Meiji era
2. The trauma of Japanese diplomacy: unequal treaties, the triple intervention and the Portsmouth treaty
3. The Yellow Peril and its influence on Japanese foreign relations

4. The Anglo-Japanese alliance and the question of race
5. The lessons of the Anglo-Japanese alliance: Is an alliance with an “Anglo-Saxon” state reliable ?
6. Was the war evadable or inevitable?: perception and misperception of Japanese decision-makers before the Russo-Japanese war
7. The Russo-Japanese war as an icon in historical memory
8. Wrong lessons from the “success” of the war and the “defeat” in diplomacy
9. Explaining the Russo-Japanese war through the application of Graham Allison’s decision-making theories
10. The changing views of Japan during the Russo-Japanese war: Japan from protégé to world power
11. The wars and leaders in the Meiji era that live in Japanese culture

Message to those taking this Course:

The lecturer will put special emphasis on the Russo-Japanese war of 1904–05 by showing some new scholarly works, popular history and commemorative articles on the war that appear mainly during the years 2004 and 2005, the hundredth anniversary of the war. The lecturer will illustrate the lecture by using slides and videotapes.

Grading Methods:

A short term paper on one of designated questions and a final essay will be assigned. Attendance and class participation will be particularly important.

日本の文学

(秋学期)(Fall)

JAPANESE LITERATURE

アーマー , アンドルー

文学部教授

Andrew Armour

Professor, Faculty of Letters

Course Description:

This course is intended to cover the history of Japanese literature from earliest times up to the modern era. Starting with the writing system, we will trace the conspicuous developments in poetry, prose and drama through the Nara, Heian, Kamakura, Muromachi and Edo periods.

Included are such works as the *Manyōshū*, *Genji monogatari*, *Heike monogatari*, *Oku-no-hosomichi* and *Sonezaki shinjū*.

Texts:

Instructions and materials are provided on the class website (www.armour.cc/jlit.htm).

References:

A list of reference works and useful links are available on-line.

Class Schedule (Subject to change):

A detailed list of the works covered in this course is available on the class website.

On completion of this lecture course, students should:

1. Understand how the Japanese writing system developed, how it came to be used to compose works of literature, the problems it poses, and how the modern reader can decipher a manuscript such as that of *Genji monogatari*;
2. Be familiar with the major works of poetry, prose and drama in the period covered;
3. Comprehend the major literary currents in the period covered and be able to identify the importance of the major works in the development of these currents;
4. Be familiar with the major figures in Japanese literary history (including commentators and critics) and their achievements;
5. Appreciate the cultural background (including religious aspects) of the works covered and, where necessary, the political events that form a backdrop to the literature;
6. Be familiar with the reception of Japanese literature in the West.

In the last few weeks of the course, those students requiring a grade will have an opportunity to report on a reading and research project of their own choosing.

Messages to Those Taking This Course:

The course assumes that the student has a working knowledge of English. Prior knowledge of Japanese literature is not required, though it is desirable. Naturally some familiarity with the Japanese language, spoken and written, is an advantage.

Evaluation:

Grading is primarily based on the student’s research project, presented to the class (using PowerPoint) according to a published schedule; a Q&A session will follow each presentation and a student’s responses are taken into consideration in the grading process. Overseas students who want their credits to be transferred to their home university are advised to present their research results in the form of an academic paper, complete with notes and bibliography. Naturally, regular attendance is important in order to receive a passing grade; the International Center requires that a record be kept.

TWENTIETH-CENTURY JAPANESE AND WESTERN SHORT FICTION: COMPARATIVE READINGS

レイサイド , ジェイムス 法学部教授

James Raeside Professor, Faculty of Law

Course Description:

In these classes we will attempt to elucidate something of the distinctive nature of Japanese fiction writing by comparative close reading of Japanese texts with those by Western (European and American) writers. Evidence of influence and assimilation may be observable from West to East, particularly in the early years of the 20th century, but in all cases we will attempt to identify both what is distinctive, and what the different literary traditions have in common. By close reading and comparative analysis we should be afforded some useful insights into Japanese prose fiction writing—particularly that of the short story—and perhaps into literature as a whole.

Each class will focus on a pair of texts: one by a Japanese and one by a Western writer. The texts chosen will be relatively short, wherever possible complete short stories. All texts will be discussed on the basis of their English language translation, although students who are able to read the originals are welcome to add this knowledge to the discussion. In any case, it is imperative to the functioning of the class that all participants make time to read the set texts beforehand. Only those who have made this effort will be able to participate usefully in the discussion. Those who do not feel their English ability is adequate to reading several pages of English each week should not take this class.

The texts will be read in roughly chronological order, starting the first decade of the 20th century and ending with the last.

Text Books:

Since the texts will be taken from various sources **photocopies** will be used. However, given the likely volume of paper, students may be charged at 10 yen per page.

Reference Books:

The Oxford Book of Japanese Short Stories. Ed. Theodore Goossen.

The Showa Anthology: Modern Japanese Short Stories, 1961-1984. Ed Van C Gessel & Tomone Matsumoto.

Weekly Class Schedule:

The following list should be considered provisional, and students are welcome to request inclusion of other authors in whom they are particularly interested. Japanese names are given without macrons.

- Week One: Orientation
- Week Two: Mori Ogai
- Week Three: Nagai Kafu
- Week Four: Muro Saisei
- Week Five: Hayashi Fumiko
- Week Six: Noma Hiroshi
- Week Seven: Ibuse Masuji
- Week Eight: Kawabata Yasunari
- Week Nine: Mishima Yuko
- Week Ten: Tanizaki Junichiro
- Week Eleven: Tsushima Yuko
- Week Twelve: Oe Kenzaburo
- Week Thirteen: Murakami Haruki

Instructors Comments for Prospective Students:

Please take to heart the final comments in the course description regarding the need to read texts in advance.

Grading Method:

Class Participation (Including Attendance) 50%

Final Report (3,000—3,500 words) 50%

THE FAMILY IN HISTORICAL PERSPECTIVE

ノッター , デビッド 経済学部助教授

David Notter Associate Professor, Faculty of Economics

Course Description:

In this course we will examine the family in historical and sociological perspective. The emphasis will be on “modern” family arrangements in nineteenth- and twentieth-century America, but some consideration will also be given to the family in Japan and Europe, and modern family arrangements will also be compared and contrasted with traditional family arrangements. The course will be organized thematically in accordance with the stages of the life course: childhood; adolescence; marriage; and old age.

Text Books:

Family: The Making of an Idea, an Institution, and a Controversy in American Culture by Betty G. Farrell

Class Schedule per week:

- Class 1: The Emergence of the Modern Family, Part
- Class 2: The Emergence of the Modern Family, Part
- Class 3: Class Discussion: Childhood
- Class 4: The "Invention" of Childhood
- Class 5: Childhood and Parenthood in American History
- Class 6: Class Discussion: Adolescence and Sexuality
- Class 7: Adolescence in Historical Perspective
- Class 8: Sexuality and the Family: 1600-1900
- Class 9: Class Discussion: Marriage
- Class 10: Modern Courtship and the Ideology of Romantic Love
- Class 11: Marriage and Divorce
- Class 12: Class Discussion: Old Age and Generational Relations
- Class 13: The Collapse of the Modern Family

Grading Method:

Evaluation will be based on attendance, participation in formal class discussions, and essays.

国際経営比較：日米企業を中心に

(秋学期) (Fall)

INTERNATIONAL COMPARISON OF MANAGEMENT SYSTEMS

吉田文一

国際センター講師 (産能大学教授)

Fumikazu Yoshida

Lecturer, International Center (Professor, Sanno University)

Sub Title:

Pros and Cons of Japanese and American Management Systems

Course Description:

This course aims to clarify the differences between the Japanese management system and the American system. Over the last two decades, the appraisal of Japanese management has fallen sharply from a high level during the 1980s, while the evaluation of American management has risen equally sharply. In particular, in the "post-bubble" period in Japan, there is a strong tendency to criticise the domestic management system, and praise American-style management nationwide. This raises a major question: how can the appraisal of a well-established management system change so uncritically in a stable and peaceful society? We will discuss this issue in order to understand the significance of management systems. Based on this understanding, we examine the current issues that both systems face today.

Text Books:

No particular textbook will be used.

Reference Books:

Appropriate readings will be suggested in conjunction with the lectures.

Class Schedule per week (Subject to change):

1. Introduction to the course
2. Multinational Corporations, the main subject of the course
3. Preconditions for Japanese management system
4. Lifetime employment system (1) advantages and disadvantages
5. Lifetime employment system (2) subsystems and international comparison
6. Seniority system
7. Top management and Decision making process
8. Case study of a Japanese company in the USA (video)
9. Discussion based on the above video
10. Corporate philosophy and underlying strategy
11. Current issues of Japanese and American systems (1) employment system
12. Current issues of Japanese and American systems (2) organisation
13. Concluding remarks

Message to those taking this Course:

Students are strongly encouraged to contribute to the class by actively participating in class discussions.

Based upon the lecturer's international management experience, including 12 years of overseas assignments, many cases of international transactions and negotiations will be provided to make this course more realistic, and to broaden students' understanding of global business.

Grading Methods:

Grading will be based on attendance, class participation, and a short term paper.

Course Description :

This course aims to help participants to understand the Japanese economic system with its heavy Government involvement, specific company customs (which seemed to have worked fine during the high growth era), vested interests and social norms/behaviours. The sessions will (A) cover parts of the text book, *'Arthritic Japan'* which is useful in explaining the postwar Japanese economic system and the problems and some changes the Japanese have been facing recently, (B) involve students with some group discussions/presentations on some themes with additional journal articles, (C) show several illustrative videos and (D) have at least two special one-off guest speakers who will talk about their experiences in dealing with the Japanese bureaucratic approach/regulations/other barriers in the Japanese trade environment (all speeches will be given in English). The lecturer may sometimes explain several concepts/theories from the microeconomics' point of view whenever necessary to make it easy for the non-economics based student to understand the textbook and articles. The articles used in the sessions are most likely to be from *The Economist*, *The Japan Times* and *Japan Spotlight*.

Text Books :

- * some chapters from Edward, J. Lincoln, *Arthritic Japan: the slow pace of economic reform*, Brookings, 2001. (distributed by the lecturer)
(Now available in Japanese translation (translated by the lecturer herself) (Nippon-hyoron-sha, 2004) with the title "*Soredemo-Nippon-wa-Kawarenai*")
- * some parts from David Flath, *The Japanese Economy*, Oxford University Press, 2000.

Reference material :

Additional materials (journal articles) will be provided and documentary videos will be shown and discussed.

Class Schedule per week :

These are indicative, and may be changed dependent on (A) the availability of guest-speakers and their proposed subject matter and (B) matters of current Japanese and international interest:

1. overview and announcements (video session included)
2. introduction to the postwar system (video session and summary of chapter 2 of *Arthritic Japan*)
3. horizontal Keiretsu and corporate governance issues (presentation/discussion or a guest speaker)
4. vertical Keiretsu and other forms of vertical controls (presentation/discussion included)
5. labour markets (presentation/discussion included)
6. video session on a typical "Japanese corporate culture"
7. education issues (video and/or discussion)
8. 'industrial policy' and protectionism (discussion included)
9. a guest speaker on Japanese regulations/government interventions
10. Japanese government (both central and local and the relationship between them)
11. rent-seeking mechanisms and political overview (video included)
12. a guest speaker on the subject of entering the Japanese market
13. pressure for changes and current structural reform topics

Message to those taking this Course :

The students who will attend this course do not need to have more than a basic knowledge of economics, but they are expected to have a general interest in the Japanese economy in all its aspects. Quite often the lecturer will give the students copies of journal articles as supplementary materials. The students will discuss these during the sessions. Sometimes the lecturer will ask the students to submit specific essays based on some of these articles or the videos shown in the lectures. There will be an end-of-term essay to submit.

Grading Methods :

1. Reports (essays)
2. student presentations
3. attendance (minimum requirement for attending at least 8 sessions)

Questions, Requests :

Lecturer's email : noriko @fbc.keio.ac.jp

Sub title:

'Amae' Reconsidered

Course description:

This course is designed to reconsider comprehensively the concept of 'Amae' which was first introduced as a key concept for understanding Japanese psychology by Dr. Doi, as the Japanese society itself has undergone a considerable change under the influence of the globalization since then, and because there has been the accumulated theoretical, speculative or empirical research including cross cultural one which shows the existence of *Amae* outside of Japan. Therefore, this course will explore answers to the following questions: 1) is *Amae* still a key concept for understanding Japanese psychology ?, 2) how the expression and satisfaction of *Amae needs* is transformed in contemporary Japan, 3) to what extent and in what form *Amae* is found among people across cultures, and 4) what kind of challenges and/or benefits this Japanese concept can give to those people who do not find the exact equivalent in their mother tongues.

Text Books:

No designated textbook and handouts will be distributed.

References:

The Anatomy of Dependence by Takeo Doi, Kodansha International, .1973.

The Anatomy of Self by Takeo Doi, Kodansha International, 1986.

Dependency and Japanese Socialization by Frank A. Johnson, New York University Press, 1993.

Course schedule:

1. Orientation to the course and the drawing task of "my relationship with my mother in my childhood"
2. Multiple definitions of *Amae*
3. Understanding *Amae* through visual images: comparison of 'Peanuts' and 'Doraemon'
4. Healthy *Amae* Interaction: mutuality and reciprocity in Japanese social relationships
5. Transformation of *Amae* in contemporary Japanese companies
6. Transformation of *Amae* in contemporary Japanese families seen through empirical research
7. Transformation of *Amae* in contemporary Japanese families seen through children's drawings of meals and HTP test
8. Cross cultural empirical research on *Amae*
9. An American expatriate's response to *Amae* interaction in Japan
10. *Amae* in cross cultural counseling cases in Japan ..
11. Functions of healthy *Amae*: social support ?
12. *Amae* and Aggression from cross cultural perspectives
13. What do foreigners gain by learning about the concept of *Amae* contribute to peoples and wrap-up session.

Messages to those students taking this course:

Students who are willing to participate actively in class are most welcome. Students are strongly encouraged to engage actively in pair work, a small group discussion and class discussion. Students are expected to complete reading assignment before coming to class.

Grading methods:

To be based on the combination of reports, attendance, and participation

Questions and Requests:

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at ctezuka@ic.keio.ac.jp.

美術を「よむ」 日本美術史入門

(秋学期)(Fall)

INTRODUCTION TO THE ARTS OF JAPAN

河合正朝

文学部教授

Masatomo Kawai

Professor, Faculty of Letters

村井則子

国際センター講師

Noriko Murai

Lecturer, International Center

Sub Title:

Introduction to Modern Japanese Art and Visual Culture

Course Description:

This course explores the history of Japanese art from the mid-nineteenth century to the present. Visual culture has played a central role in providing the modern Japan with a cultural, social, and psychological identity. We will study the significance of modernity and modernism in different media including painting, sculpture, photography, and architecture. We will also consider issues related to gender, imperialism, and commodity consumption in the context of visual representation.

Readings:

There are no textbooks for the course. A *Source Book* containing all required readings for the course will be available for purchase.

Course Schedule:

1. Introduction: Overview of the Course
2. Constructing "Japanese Art"
READING: Christine Guth, "From Temple to Tearoom," in *Art, Tea, and Industry* (1993).
3. From Edo to Meiji

READING: Ellen Conant, "Tradition in Transition, 1868-1890," in *Nihonga* (1995).

4. Okakura Kakuzō and the Aesthetic Ideology of Asia

READING: Excerpts from Okakura Kakuzō, *The Ideals of the East* (1903)

5. Body and the Nude

READING: Norman Bryson, "Westernizing Bodies: Women, Art, and Power in Meiji *Yōga*," in *Gender and Power* (2003).

6. Urban Spectacle and the Modernist Vision

READING: Miriam Silverberg, "The Modern Girls as Militant," in *Recreating Japanese Women* (1991).

7. The Colonial Gaze: Representing Otherness in Imperial Japan

READING: Kim Hyeshin, "Images of Women in National Art Exhibitions during the Korean Colonial Period," in *Gender and Power* (2003)

8. Visual Culture of Wartime and Occupied Japan

9. Action and Expression: the Gutai Association

READING: Sinichiro Osaki, "Body and Place: Action in Postwar Art in Japan," in *Out of Actions* (1998).

10. "Anti-Art" in the 60s

READING: Alexandra Munroe, "Morphology of Revenge: The Yomiuri Independent Artists and Social Protest Tendencies in the 1960s," in *Japanese Art After 1945* (1994).

11. The Postwar Unconscious: Performance and Photography

READING: Susan Klein, "The Butō Aesthetic and a Selection of Techniques," in *Ankoku Butō* (1988).

12. Architecture and the Public Space

READING: Kenneth Frampton, "Twilight Gloom to Self-Enclosed Modernity: Five Japanese Architects," in *Tokyo: Form and Spirit* (1986).

13. Image in the Age of Digital Manipulation: the 90s and beyond

READING: Norman Bryson, "Morimura: 3 READINGS," in *Morimura Yasumasa* (1996)

Bibliography:

Bibliography will be distributed on the first day of instruction.

Requirements:

1. Two short papers (4-5 double-spaced pages) based on museum visits
2. One group field trip to a museum in the area to take place on the weekend
3. Regular attendance and active participation in class discussion

Grading Methods:

The student's performance in the course will be evaluated primarily based on the two short paper assignments. Regular attendance is also mandatory, and active participation in class discussion will also be reflected in the final grade.

日本の宗教：救済の探求

(秋学期)(Fall)

RELIGIONS IN JAPAN: IN SEARCH OF SALVATION

ナコルチェフスキー , アンドロイ 文学部助教授

Andrei Nakortchevski Associate Professor, Faculty of Letters

Course Description:

In this course I would like to introduce main religious teachings existed in Japan from old times and up to our days. For the reason the name of the course is specified purposely as "Religions in Japan" and not as "Japanese Religions." Otherwise we have to limit our discourse to the only genuine Japanese religion — Shinto and maybe some eclectic so called "new religions", and forget about Buddhism or Christianity.

Each of these religions will be presented in three aspects: dogmatic (the only exception will be done for Christianity and I will accent the peculiarity of a perception of this religion in Japan), historical and cultural. Dogmatic aspect means an introduction to the core postulates and their transformation over time. Historical aspect allows us to trace a destiny of a religious teaching in Japanese history, and cultural aspect implies a study of influences to and interactions with other spheres of cultural activities — art, literature, science, etc.

Besides the above mentioned aspects, the fourth theme, namely religion's promise to solve the individual's existential and social problems, will be constantly touched on in this course. From these theme derives the subtitle — "In Search of Salvation." Especially this aspect becomes important when we deliberate "new religions", including the notorious Aum Shinrikyo in particular.

About half of the lectures will be devoted to Buddhism as the most philosophically profound and variable teaching, but I would like to introduce not only institutionalized religion as Buddhism, Shinto, Christianity, as well as Taoism and Confucianism to some extension, but also the most interesting so called folk religions, for example, tradition of shugendou (mountain asceticism), different variants of shamanic practices, etc.

Class Schedule:

1. Introduction
2. Shinto
3. Visiting a Shinto shrine
4. Buddhism in general
5. Heian Buddhism: Tendai and Shingon Schools
6. Visiting a Shinto school temple
7. Kamakura Buddhism: Zen and Pure Land Schools

8. Visiting a Pure Land school temple
9. Tokugawa period: Confucianism and formation of the national religion
10. Visiting a Confucian shrine
11. New Religions
12. Visiting a shrine

Grading methods:

Report and participation

日本経済の展望

(秋学期) (Fall)

ECONOMIC SURVEY OF CONTEMPORARY JAPAN

市川博也

国際センター講師 (上智大学教授)

Hiroya Ichikawa

Lecturer, International Center (Professor, Sophia University)

Course Description:

An advanced applied course of economics concerning the contemporary Japanese economy. The course will examine the roots of the instability of the present financial system and critically examine the Japan Model, which once was used to explain the success of the Japanese economy in the postwar period. This examination includes discussion of the legacy of wartime control and debates over the East Asia Miracle. Problems related to the aging population, social security, the burden of government debt, competition policy, deregulation (including the financial big bang), corporate governance, government-business relations, trade disputes, foreign direct investment, ODA policy, environmental issues, and the role of Japan in the world will be discussed. Students are required to read economic and financial news every day for class discussion.

Text Books:

Takafusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy" University of Tokyo Press, 1995

Class Schedule per week:

1. Introduction
Identify major economic problems facing Japanese economy.
2. Discuss Paul Krugman "The Myth of Asia's Miracle" *Foreign Affairs*, November/December 1994.
3. Discuss Takafusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy," chapter 2. "Reform and Reconstruction" University of Tokyo Press. 1995.
4. Discuss chapter 3 "Rapid Growth" in Takafusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy"
5. Discuss "The Mechanism and Policies of Growth"
See Nakamura chapter 4.
6. Discuss the dual structure: Labor, Small Business, and Agriculture" Richard Katz, "Japanese Phoenix-the long road to economic Revival", M.E. Sharp. 2003.
chapter 3 "Overcoming the dual economy — backward sectors are the key to Japan's revival".
chapter 4 "Overcoming Anorexia — the labours Sisyphus —"
See Nakamura chapter 5.
7. Discuss "The End of Rapid Growth" See Nakamura Chapter 6.
8. Discuss Japanese Economy and International Environment
Richard Katz, chapter 9 "Globalization — the Linchpin of Reform-"
chapter 11 "Foreign Direct Investment — A Sea Change —".
See Nakamura chapter 7.
9. Discuss "The Collapse of the Bubble Economy" Thomas F. Cargill, Michael M. Hutchinson, Takatoshi Ito, "The political Economy of Japanese monetary Policy,"
chapter 5 "The Bubble Economy and its Collapse"
chapter 6 "Asset-Price Deflation: Nonperforming Loans, Usen Companies, and Regulatory Inertia." The MIT Press. 1997
Richard Katz, chapter 12. "Financial integration — The Iceberg Cracks —".
See also Nakamura chapter 8.
10. Restoring Japan's Economic Growth
chapter 1 "Diagnosis: Macroeconomic Mistakes, Not Structural Stagnation"
chapter 2 "Fiscal Policy Works When it is tried".
chapter 3 "The Short and Long of Fiscal Policy" in Adam S. Posen, Restoring Japan's Economic Growth, Institute for International Economics, 1998.
Richard Katz, chapter 6 "Fiscal dilemmas," chapter 7 "Monetary magic bullets are blanks", chapter 8 "Japan cannot export its way out".
Richard Katz, chapter 13 "What is structural reform?" chapter 14 "Financial reform" chapter 15 "Corporate Reform-No competitiveness without more competition".
11. Discuss Financial and International Risks and Inflation Target.
Chapter 4. "Mounting Downside Risks: Financial and International"
Chapter 6. Recognizing a mistake, not blaming a model" in Adam S Posen.

12. Can Japan Compete ?
 Chapter 2. "Challenging the Japanese Government Model"
 Chapter 3. " Rethinking Japanese Management",
 Chapter 5. " How Japan can Move Forward: The Agenda for Government"
 Chapter 6. "Transforming the Japanese Company" Michael E. Porter, Hirotaka Takeuchi & Mariko Sakakibara, "Can Japan Compete ?"
 Macmillan Press Ltd. 2000
 Richard Katz, chapter 16 "Competition policy — Not enough competition, even less policy".
13. Deregulation and state enterprises, Tax reform Richard Katz, chapter 18 "deregulation and state enterprises — The Moment is Clear, the destination is not."
 Chapter 19. "Tax Reform — Don't Exacerbate Anorexia".

Message to Those Taking This Course:

Basic knowledge of Microeconomics & Macroeconomics prerequisite.
 High proficiency in English required: TOEFL (PB) 550+ (CB) 213+

Evaluation:

Class Participation (Active Discussion) + Essay + Term Examination

ジャパニーズ・エコノミー

(春学期)(Spring)

JAPANESE ECONOMY

小島 明

商学研究科教授

Akira Kojima

Professor, Graduate School of Business and Commerce

Course Description:

Japan's Economic Performance and policy debate in post war period up to now is covered with global economy perspective. Issues such as management practices, financial big-bang, foreign direct investment (FDI), bad loan problems, exchange rate, demographic change, system reforms are all discussed with preferably active participation of students. Students can have real exposure to the most current policy debate amongst specialist through Video and Tapes etc.

Text Books:

METI "White Paper on International Trade," 2004, 2005

Recommended Readings:

"Japan's Policy Trap Dollars, Deflation and the Crisis of Japanese Finance", by Akio Mikuni and R. Taggart Murphy. (Brookings Institution Press, 2002)

"Balance Sheet Recession Japan's Struggle with Uncharted Economics and its global implications", by Richard C. Koo, 2003 John Wiley & Sons Pte Ltd.

Various reports, working papers by Government, International organizations (IMF, OECD etc.) and by scholars are recommended as needed.

Message to Those Taking This Course:

Active participation by students strongly desired.

Evaluation:

Report and in-class exam

Term report and occasional reports

Active participation to discussion

情報処理教育室

情報処理教育室では、情報処理に関する講座を開講しています。

情報処理に関する知識・技術を持つことは、学生諸君にとって今や必須のこととなっています。各学部専門課程での学習・研究活動に役立つだけでなく、日常の学習・学内の諸活動に大変有効です。なるべく多くの皆さんが履修しておくことを勧めます。

1 ガイダンス

4月3日(月) 2時限目(10:45~12:15) 516番教室

2 受講申込み手続き

受講する科目が決まったら、証紙券売機で受講料分の証紙を購入し、申込み用紙に貼付して窓口へ提出してください。その際、学生証を提示してください。各講座とも定員になり次第締め切ります。

日 時：4月10日(月) 9:00~16:00

4月11日(火) 9:00~16:00

4月12日(水) 9:00~16:00

場 所：三田学事センター

3 履修上の注意

情報処理教育室に申込みを行った科目については、必ず各学部の履修案内にしたがって各自で履修申告をしてください。履修申告を行わないと単位は与えられませんので特に注意してください。また、受講申込みをしないで履修申告をしても単位は認められません。

履修申告により単位がどのように与えられるかは学部によって異なります。学部の履修案内を熟読して間違いのないようにしてください。

4 問合せ先

情報処理教育室(日吉学事センター内) 045-566-1015

5 平成18年度開講科目及び受講料

設置講座は受講料が必要です。

平成18年度 情報処理教育室設置講座(三田)

講座名	クラス	担当者	時期	定員	受講料	単位	
情報処理概論	JAVA	12 A	藤村 光	通 年	50	12,000 円	4
情報処理応用	統計解析	32 A	鴻巣 努	春学期	30	5,000 円	2

開講曜日・時限は学部の時間割の巻末に記載されます。

授業は学部授業と同様4月8日(土)から開始されます。

参考：平成18年度 情報処理教育室設置講座(日吉)

講座名	クラス	担当者	時期	定員	受講料	単位	
情報処理概論	C言語によるプログラミング入門	11 A	通 年	100	12,000 円	4	
	11 B	恩田 憲一 斎藤 博昭					
情報処理概論	パソコンによる情報整理学	13 A	河内谷幸子	46			
情報処理概論	JAVA	12 D	藤村 光	春学期	50	6,000 円	2
情報処理応用	JAVA	12 E	藤村 光	秋学期	50	6,000 円	2
情報処理応用	コンピュータグラフィックス	31 A	大野 義夫	春学期	50	5,000 円	2

開講曜日・時限は学部の時間割の巻末に記載されます。

授業は学部授業と同様4月8日(土)から開始されます。

授業科目の内容：

Java 言語を用いてコンピュータを動かす方法、および基本的な考え方を紹介します。

問題をコンピュータで処理できるように分析し、処理を組み立て、プログラムを作成し、結果を検証するという手順で、プログラムを作成する際に必要となる一般的な知識を習得するのが目的です。

Java 言語の中核とツールキットの一部を用いて、例題の提示、演習を行います。

テキスト：

Webサイト <http://web.hc.keio.ac.jp/~fujimura/> で公開。適宜更新します。

参考書：

講義の展開と個人の進捗にあわせて適宜紹介します。

授業の計画：

1. ガイダンス
2. ウィンドウの表示
3. コンパイルと実行
4. ボタン、レイアウト、イベントの処理(計3回)
5. クラス変数
6. 四則演算(計2回)
7. 式、演算子、カウンタ、合計計算、最大値・最小値(計2回)
8. 配列
9. 春学期演習
10. 秋学期のウォーミングアップ
11. 整列、検索
12. テキスト・ファイルの読み込みと例外処理(計3回)
13. マルチスレッドと描画(計4回)
14. 再帰構造と再帰プログラミング(計2回)
15. 最終演習(計2回)

履修者へのコメント：

自分なりに「こんなことができるようになりたい」という目標を持って参加して下さい。

ワープロや表計算はできるがコンピュータ言語は初めてという人と、他のコンピュータ言語を習得済みの人では、到達目標が異なるのが普通です。春学期の前半に各人の目標を設定しましょう。

成績評価方法：

レポートによる評価

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

fujimura-report@hc.cc.keio.ac.jp までどうぞ。48時間以内に返事がない場合は、同一メールを再送してください。

授業科目の内容：

データサイエンスの知識は、外国語や情報処理能力と並び、研究やビジネスに不可欠なツールである。本講義では、調査や実験により得られたデータを統計的に分析し、その持つ意味をいかに引き出すかを学習する。統計解析に関する基礎的内容から出発し、多変量解析の基礎に至るまでを講義内容とする。数学的背景よりも、こうした手法を研究やビジネスのための「ツール」として、利用できるようになることを重視する。統計およびコンピュータに関する予備知識は特に求めない。

参考書：

- ・東京大学教養学部統計学教室編「統計学入門」東京大学出版会
- ・田中豊・脇本和昌「多変量統計解析法」現代数学社
- ・室淳子、石村貞夫「SPSS でやさしく学ぶ多変量解析」東京図書

授業の計画：

- 第1回 統計的手法とは
- 第2回 統計パッケージ (SPSS, SAS, JUSE, EXCEL, S)
- 第3回 SPSS によるデータ処理
- 第4回 SPSS によるデータの視覚化
- 第5回 代表値と確率分布
- 第6回 散布図と相関係数
- 第7回 区間推定
- 第8回 平均値の差の検定、ノンパラメトリック検定
- 第9回 多変量解析の基礎
- 第10回 回帰分析、重回帰分析
- 第11回 主成分分析
- 第12回 因子分析
- 第13回 判別分析

履修者へのコメント：

数学やコンピュータに関する予備知識は特に求めないが、次のような学生の参加を期待する。

- ・卒業論文を書くにあたり、科学的手法を探している。
- ・統計学の基礎は学んだが、それを運用できるまでに至っていない。
- ・多変量解析に興味があるが、どのようなデータにどの手法を使えばよいかかわからない。
- ・数学には自信がないが、データを分析することは嫌いではない。

成績評価方法：

平常点および期末レポートによって評価する。

知的資産センター設置講座（平成18年度開講）

1．知的資産センター設置講座にあたり

慶應義塾大学では、研究成果の社会への還元を、教育・研究と並ぶ大学の使命と考えています。そして、「慶應義塾で生れた研究成果は義塾にとって貴重な知的資産であり、大学はこれら知的資産の保護と活用を積極的に促進・支援する」という理念を公表しています。

こうした方針に基づき、知的資産センターは慶應義塾で生れた研究成果を社会へ還元するために、慶應義塾大学の技術移転機関として1998年11月に設立されました。技術に関するものだけでなく、電子メディアを始めとし広汎な研究成果を対象とするとともに、新しい事業の創出に資するという意味をこめて「知的資産センター」と名付けられました。

知的資産センターの事業は、研究成果に対する特許保護から始め、技術の移転、起業の支援と段階的に拡充していく計画です。そして、教職員の熱意と高いポテンシャルをもった研究成果に支えられ、既に数多くの慶應義塾の特許出願が生まれ、技術移転も活発化してきました。

また、知的資産センターは技術移転に密接に関係する知的財産に関する教育・研究も任務としています。

情報技術の劇的な革新に伴い電子メディア、ビジネスモデル特許に代表されるように、知的財産は社会のあらゆる分野に密接に関係してきました。こうした時代の変化に対応していくためには、専攻分野に係わらず知的財産に関する幅広い知識と理解が求められています。

そこで、知的財産に関する教育の一環として、全学部の学生を対象として知的財産全般について基本的な事項の理解を図るため、設置講座を開講しました。

2．設置科目、履修上の取扱いについて

今年度は「知的資産概論」の1科目を、春学期 三田キャンパスで開講します。

授業時間は水曜日 18:10～19:40、単位は2単位です。その他授業に関する情報は、三田掲示板、<http://www.ipc.keio.ac.jp> でお知らせします。

受講を希望する場合は、履修の取扱いについて各学部、研究科の履修案内で確認の上、履修申告をしてください。

3．講義要綱

知的資産概論 知的財産の保護と活用をめぐる課題（ナテグリニド特別講座）（春学期）

コーディネーター 知的資産センター所長（商学部教授） 清水 啓 助

授業科目の内容：

研究活動や創造活動の成果を知的財産として、戦略的に保護・活用し、我が国産業の国際競争力を強化するという国家戦略が策定され、知的財産に対する関心は高まっています。知的財産には、技術（特許）、デザイン（意匠）、ブランド（商標）、音楽・映画のコンテンツ（著作権）といったものがあり、権利の内容や活用法はそれぞれ固有な特色があります。

本講義では、代表的な知的財産の権利保護・活用における現状と課題についての理解を深め、知的財産に関する幅広い知識を得ることを目標とします。

教科書：

講義資料を配布します。

参考書：

「知的創造時代の知的財産」清水啓助他著，慶應義塾大学出版会

「特許がわかる12章」竹田著，ダイヤモンド社

「著作権の考え方」岡本著，岩波新書

授業計画の内容：

1. 知的財産の新たな時代
2. 特許の仕組み
3. 著作権の仕組み
4. 商標ブランドの価値
5. マルチメディアに関する知的財産
6. キャラクタービジネス
7. 音楽に関する著作権問題
8. 企業における知的財産戦略
9. 知的財産に関する世界の動向
10. 知的財産の紛争処理
11. ベンチャー・起業の仕組み
12. 知的財産ビジネス
13. 技術の移転

なお、講義は外部講師を含め、オムニバス形式で行います。

担当教員から履修者へのコメント：

積極的に学ぶ意欲を持つ学生を歓迎します。

単位の取扱については、学部により異なりますので注意してください。

成績評価方法：

平常点およびレポートによる評価

質問・相談：

授業の最後に質問の時間を設けます。

日本語・日本文化教育センター設置講座

日本語教育学講座

外国人に対する日本語教育が一つの専門分野として確立されている現在、日本語教育に携わる者には、言語教育に関する専門的かつ体系的な知識ならびに教授法上の技能が要求されています。また、今後はさらに本塾内外における国際交流が活性化し、外国人留学生に対する日本語教育プログラムの必要性は高まることが予想され、それに伴い優れた日本語教員を養成することが本センターの重要な使命となってきます。本講座は、かかる時代の要請に応えるべく設置されています。

学部学生は、所定の条件を満たした場合、本講座の基礎科目（全6科目）を受講することができます。受講資格、選考試験、受講料、単位等についての詳細は以下のとおりです。また、本講座の募集要項を本センター事務室で配布しています。（募集要項の内容は、<http://www.ic.keio.ac.jp/nncenter/jp/tjf/index.html>でも公開しています。）

受講資格

慶應義塾大学学部在籍学生で、文学部設置科目「日本語学」または「日本語学」から1科目、および「日本語教授法」または「日本語教授法」から1科目の合計2科目を履修し、単位を修得した者。かつ、日本語・日本文化教育センターが実施する所定の選考試験に合格した者。

募集人員

若干名

ガイダンス

新規出願者は、所定のガイダンス（2006年度は4月7日（金）16:30～ 教室は後日掲示）に必ず参加してください。参加できない場合は、事前に日本語・日本文化教育センターに必ず連絡をしてください。

手続方法

所定の選考試験を受けて合格した場合、受講が認められます。

履修申告以外の諸手続は、全て日本語・日本文化教育センター事務室にて行ってください。

- ・ 出願手続：2006年4月8日（土）9:00～16:00 日本語・日本文化教育センターにて
必要書類および審査料
 - ・ 志願書（所定用紙）
 - ・ 履歴書（用紙は任意。カラー写真1枚を必ず貼付のこと。）
 - ・ 成績証明書（最新のもの）
 - ・ 審査料 3,000円
- ・ 選考試験：2006年4月8日（土）14:45～ 教室は日本語・日本文化教育センター掲示板で発表
- ・ 合格者発表：2006年4月10日（月）午後 日本語・日本文化教育センター掲示板
- ・ 受講手続：2006年4月18日（火）9:00～16:30 日本語・日本文化教育センター
「履修届（所定用紙）」および受講料（1単位15,000円）が必要。
- ・ 履修申告：以上の手続を終えた後に、学事センターにて必ず履修申告を行ってください（履修申告期間に注意）。
なお、履修登録番号は、合格発表時にお知らせします。
履修申告にあたっては、春学期開講科目だけでなく、秋学期開講科目についても行ってください。

単位の取り扱い（文学部生）

文学部において、本講座基礎科目の単位は、「専門教育科目（選択科目）」の単位として取り扱われます。必ず学事センターで履修申告をしてください。

受講方法

基礎科目はどの科目から受講しても構いません。専門科目は、学部学生は受講できません。

受講料 (2006年度)

受講料 (1単位) 15,000円 (1科目 30,000円)

2006年度 日本語教育学講座時間割

	科目名	単位	担当者名	開講学期	曜日・時限	教室
基礎科目	日本語教育学 1	2	野澤 素子	春	火・5	131B
	日本語教育学 2	2	市川 保子	春	月・5	131F
	日本語教育学 3	2	田中 妙子	秋	水・5	452A
	日本語教育学 4	2	松岡 弘	秋	火・5	452A
	日本語教育学 5	2	松岡 弘	春	木・5	131C
	日本語教育学 6	2	松岡 弘	秋	木・5	131C

問い合わせ先

慶應義塾大学

日本語・日本文化教育センター (国際センター内)

〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45

TEL : 03-5427-1614

FAX : 03-5427-1638

URL : http://www.ic.keio.ac.jp/nncenter/j_index.html

日本語教育学 1 日本語の音声

野澤 素子 国際センター教授

授業科目の内容 :

本講義では、日本語学習者の音声における誤りの発見と適切な矯正を行なうため、日本語教師に求められる日本語の音声の知識と技能について、演習を交えながら概観する。

教科書 : 担当者作成

参考書 : 『日本語の音声』窪園晴夫著 岩波書店

『日本語概説』加藤彰彦他編 おうふう

授業の計画 : 1. ガイダンス (1回)

2. 日本語音声の基礎知識

2-1 音声学の専門用語 (計2回)

2-2 音声記号 (計2回)

2-3 実音声の記号化 (計2回)

2-4 日本語の韻律 (アクセント・イントネーション) (計2回)

3. 音声教育の基本技能

3-1 学習者の音声の諸問題 (1回)

3-2 学習者の音声における音素・異音等の指摘 (1回)

4. 音声教育の実践

4-1 教材作成演習 (1回)

5. 最終発表とレポート提出 (1回)

以上計 13回の予定

担当教員から履修者へのコメント :

なるべく遅刻・欠席のないようにしてください。4回以上欠席した場合は、単位を出さない可能性があります。

成績評価方法 : 平常点 (出席と参加度), 期間中の課題提出, 最終発表および最終レポートによる総合評価

質問・相談 : オフィスアワー (授業中に指示) に受け付けます。

日本語教育学 2 日本語教育のための日本語文法について

市川 保子 日本語・日本文化教育センター非常勤講師

授業科目の内容 :

- ・「外国人に対する日本語教育のための日本語文法」とは何か、どうあるべきかについて実例を通して学びます。
- ・日本語文法の体系的なとらえ方とともに、個別の文法項目についても学習します。
- ・日本語文法に対する理解を深めるとともに、日本語教育の指導に結び付けていくための、基本的な力を身に付けることが本講義の目標です。

教科書：『初級日本語文法と教え方のポイント』市川保子著 スリーエーネットワーク 2,100円（税込）

教科書は各自購入し、必ず初回授業に持参すること。

参考書：『日本語誤用例文小辞典』凡人社

日本語教育指導参考書 22 『日本語教育のための文法用語』国立国語研究所

授業の計画：次の講義計画で講義を行います。

1. ガイダンス、日本語のとらえ方・文（名詞文・形容詞文・動詞文）について
2. 助詞
 - 2.1 格助詞について
 - 2.2 取り立て助詞・「は」と「が」・その他の助詞について
3. 動詞
 - 3.1 活用
 - 3.2 動詞のいろいろ
4. 「い形容詞」「な形容詞」
5. テンス・アスペクト
 - 5.1 ~た・~ている
 - 5.2 時を表すその他の形式
6. ヴォイス（可能形、受身形、使役形、使役受身、使役やりもらい）
 - 6.1 可能形・受身形
 - 6.2 使役形・使役やりもらい
7. ムード（モダリティ）
 - 7.1 ~（し）よう・~たい等
 - 7.2 ~そうだ・~ようだ・~らしい等

担当教員から履修者へのコメント：問題意識を持って、積極的に学ぶ学生を歓迎します。

成績評価方法：・平常点：出席状況および授業態度による評価（授業における積極的な発言を評価します。）

・その他（授業での課題の発表、及び、作成レジュメを評価します。）

質問・相談：ホームページを通じて適宜行います。

「日本語レッスン」 <http://homepage3.nifty.com/i-yasu/index.htm>

日本語教育学 3 日本語教育における会話の指導方法

田中 妙子 国際センター助教授

授業科目の内容：

日本語の会話に関する諸問題を概観した上で、日本語教育における会話能力の育成について、特に初級段階での指導内容・指導方法の検討、教材の分析等を行う。また、実習として会話指導のための教材を作成する。さらに、待遇表現についての基礎的知識、指導上の問題点についても触れる。

教科書：『初級日本語』東京外国語大学日本語教育センター編 凡人社

担当者作成教材

参考書：開講時に指示

授業の計画：次の内容について講義・実習を行う。

- 1 会話研究の概要
- 2 待遇表現
- 3 表現意図から見た会話
- 4 初級段階における会話の指導
- 5 会話指導のための教材作成

担当教員から履修者へのコメント：

「日本語教育学5」を履修していることが望ましい。

授業中に様々な作業・活動を行うため、出席を重視する。

成績評価方法：・レポートによる評価

・平常点：出席状況および授業態度による評価

・その他（実習）

質問・相談：授業の際に受け付ける。

日本語教育学 4

松岡 弘 国際センター教授

授業科目の内容：

本講義は、実際に日本語教育にたずさわるに際して求められる、基本的な知識を包括的に提供することを目的とする。ここでは日本語教育の内容に加えて、教師論、教育方法論、教授過程論、教材教具論、さらには言語政策論・日本語教育の歴史などを、理論面と実践面の双方から考察する。非常に具体的な内容のものとしては、初級・中級教材の基本構成とそのつくり方、4技能（読解、作文、会話、聴解）習得のための指導方法、漢字教育、語彙教育の方法などが含まれるだろう。また日本語教育にだけに限定せず、例えば、西欧の言語教育において絵教材がどのように教科書に取り入れられ、クラスで用いられてきたかといった事柄や、現代のように学習者が多様化した多文化社会での学習目的別や専門分野別の教材のあり方・作り方などについてもとりあげることにしたい。

教科書：『ここからはじまる日本語教育』ひつじ書房

『開かれた日本語教育の扉』スリーエーネットワーク

参考書：随時授業のなかで紹介する。

授業の計画：開講時に受講者の既習知識や意見を聞き、それらを参考にして最終的に決定する。

成績評価方法：1. レポートによる評価

2. 平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：授業終了時に受け付ける。

日本語教育学 5

松岡 弘 国際センター教授

授業科目の内容：

直接日本語教授法の実践的能力の養成を目標とする。大学レベルの学習者を対象とする初級教材の分析を通じて、言語要素の構築方法ならびに当該レベルの指導上の問題点を概観する。また、教案作成を行うことによって、文型教育を柱とした授業の方法、教材・教具の扱い方を学ぶ。この科目では、初級レベルの前半段階（第1課～第12課あたりまで）に焦点を当てる。

教科書：『初級日本語』東京外国語大学日本語教育センター編 凡人社

参考書：『ここからはじまる日本語教育』ひつじ書房

授業の計画：次の講義計画で授業を進めます。

初回 ガイダンス、直接日本語教授法について

2回目以降の授業では、テキストの課にそって担当者が教案を1課ずつ作成し、それに対して学習項目の確認を行うと同時に、指導上の問題点を取り上げ、解説を行う。

担当教員から履修者へのコメント：毎回の出席を求めます。また、継続して秋学期の日本語教育学6を履修するようにしてください。

成績評価方法：・平常点（出席状況および授業態度による評価）

・学期末レポートによる評価

質問・相談：授業終了後に受け付ける。

日本語教育学 6

松岡 弘 国際センター教授

授業科目の内容：

日本語教育学5の内容を踏まえた上で、初級後半レベルの教材分析を行い、言語要素の体系的な構築方法ならびに直接教授法の指導上の問題点を概観する。また、教案作成を通じて、文型教育を柱とした授業の展開方法、教材・教具の扱い方を学ぶと同時に、中・上級レベルへとつながる問題点を考える。この科目では、初級レベルの後半段階（第13課～第28課）に焦点を当てる。

教科書：『初級日本語』東京外国語大学日本語教育センター編 凡人社

参考書：『ここからはじまる日本語教育』ひつじ書房

授業の計画：次の講義計画で授業を進めます。

初回 序 学習段階別の到達目標の明確化と授業方法の段階的な変化について

2回目以降は、日本語教育学5に引き続き、テキストの課にそって担当者に教案を2課ずつ作成してもらい、その文型項目についての検討を中心に、当該学習段階における指導上の問題点を取り上げ、解説を行う。

担当教員から履修者へのコメント：毎回の出席を求めます。この科目は原則として日本語教育学5を修了した者を対象とします。

成績評価方法：・平常点（出席状況および授業態度による評価）

・学期末レポートによる評価

質問・相談：授業終了後に受け付ける。